Syllabus2025

シラバス（教授要目）

北陸学院大学

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

2025年度学事暦

	日	月	火	水	木	金	土
3月	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29
4月	3/30	3/31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	1	2	3
5月	4	5	6	7	8 火	9	10
	11	12	13	14 月	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
6月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
7月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
8月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
9月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20

	日	月	火	水	木	金	土
9月	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
10月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15 月	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
11月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	1	2	3	4	5	6
12月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
1月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
2月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	4/1	4/2	4/3	4/4

3月21日（金）～27日（木） 3月31日（月）・4月3（木）・4日（金）	2・3・4年生前期履修登録期間 オリエンテーション期間
3月31日（月）～4月3日（木） 4月2日（水）	新1年生前期履修登録期間 入学礼拝（入学式）〔午前：3学部合同〕
4月4日（金） 4月7日（月）	健康診断（在学生・新入生） 前期授業開始
4月16日（水）～18日（金） 5月8日（木）	前期履修登録変更期間 火曜代替講義日
5月14日（水） 5月16日（金）～17日（土）	月曜代替 講義日フレッシュマン・セミナー（1年）
5月16日（金） 7月25日（金）	2～4年休講 前期授業終了
7月26日（土） 7月28日（月）～8月1日（金）	全学休校予備日 前期定期試験期間
8月2日（土）～9月20日（土） 8月4日（月）～8日（金）	夏期休業（補講・集中講義・学外実習） 追試験期間
9月4日（木）～10日（水） 9月9日（火）	後期履修登録期間 北陸学院創立記念日
9月22日（月） 10月1日（水）～3日（金）	後期授業開始 後期履修登録変更期間
10月15日（水） 10月23日（木）	月曜代替講義日 大学祭準備
10月24日（金）～25日（土） 11月1日（土）	大学祭 全学休校予備日
11月3日（月） 11月11日（火）～12日（水）	通常授業日 オータム・セミナー（1・2年生）
11月12日（水） 11月11日（火）～12日（水）	キャリアガイダンス 3・4年生休講
11月26日（火）	クリスマス・ツリー点灯式（5限振替）
12月13日（土） 12月23日（火）	全学休校予備日 クリスマス礼拝
12月24日（水）～1月5日（月） 1月24日（土）	冬期休業 全学休校予備日
1月28日（水） 2月2日（月）～6日（金）	後期授業終了 後期定期試験期間
2月9日（月）～10日（火）・12日（木）～13日（金）	追試験期間
2月7日（土）～3月31日（火）	春期休業（補講・集中・学外実習）
2月12日（木）～13日（金） 2月16日（月）～19日（木）	就職活動集中セミナー（3年） 春期短期集中講座
3月6日（金） 3月17日（火）	卒業者発表 卒業礼拝（卒業式）

授業　補講日　曜日振替

定期試験　追試験　全学休校予備日

人間総合学部　子ども教育学科　科目見取表
3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践															
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養を身につけている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育及び初等・中等教育において、保育者・教育者の役割や職務内容をよく理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、幼・小・中・高の教育連携、自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観ならびに保育観、子ども観を自分の言葉で語り、実践できる。
LE165U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA	※	1	選択	演習				○		○	○			○				○				○	○	○	○		○		○			
LE170U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB	※	2	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○		○		○	○	○			○		○			
LE175U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○				
EK305U	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習							○	○		○						○			○	○				○	○	○	○	○	○
EK360U	卒業研究	4	4	選択	演習							○	○		○						○			○	○				○	○	○	○	○	○
EE238U	教育課程編成論（特別活動を含む）（小中高）	3	2	※	講義		○					○								○		○	○		○							○	○
EE243U	生徒・進路指導論（小中高）	3	2	※	講義		○			○		○						○		○			○		○								○
EK350U	キリスト教と教育	4	2	必修	講義	○	○		○			○	○		○			○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
EE363U	教育相談（小中高）	4	2	※	講義							○	○		○						○		○	○								○	○	○
EC238U	教育の方法・技術（総合的な学習の時間の対応を含む）（幼小中高）	3	2	※	講義		○			○					○					○			○		○					○			
EC345U	幼児理解	4	2	※	演習		○	○			○	○	○					○	○				○	○	○					○	○	○	○
EN331U	子育てと支援	4	2	選択	演習		○					○	○					○	○			○	○		○	○	○					○	○
ED341U	選択音楽	4	1	必選	演習				○		○	○						○							○		○						○
ED361U	比較教育学	4	2	必選	講義			○		○		○			○						○		○	○	○	○	○			○		○	○	○
ED396U	教育実践研究B	4	2	必選	講義	○		○					○		○	○			○				○	○	○		○			○	○	○	○	○
ET316U	教育実習Ⅱ（小）	4	2	選択	実習	○		○	○									○	○				○		○		○					○	○	○
ET371U	教育実習Ⅱ（中高）	4	2	選択	実習	○		○					○						○				○	○	○							○	○	○
ET386U	教職実践演習（幼小中高・保）	4	2	選択	演習	○	○	○				○	○		○								○	○	○							○	○	○
ET340U	介護等体験	4	2	選択	演習	○	○					○							○		○		○		○							○		

人間総合学部　社会学科 科目見取表
3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																	
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②全学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探究することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
LE165U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA	※	1	選択	集中				○		○	○			○								○	○	○		○			○				
LE170U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭB	※	2	選択	集中	○		○			○	○	○		○				○		○		○	○	○				○					
LE175U	ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC	※	3	選択	集中				○						○				○				○	○	○		○			○				
SK305U	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習																		○	○	○					○	○	○	○	○
SK310U	卒業研究	4	4	選択	演習																		○	○	○					○	○	○	○	○
SC200U	宗教と社会	3・4	2	選択	講義			○											○		○	○		○	○		○	○	○		○			
SC315U	社会病理学	3・4	2	選択	講義		○	○	○										○			○									○			
SC320U	メディア文化論	3・4	2	選択	講義				○				○						○						○					○		○		
SL225U	経済学Ⅰ	3・4	2	選択	講義								○								○				○				○	○	○	○		
SL230U	経済学Ⅱ	3・4	2	選択	講義								○								○				○				○	○	○	○		
SL340U	経済学Ⅲ	3・4	2	選択	講義								○								○				○				○	○	○	○		
SL345U	経済学Ⅳ	3・4	2	選択	講義								○								○				○				○	○	○	○		
SL310U	法律学	3・4	2	選択	講義			○	○							○				○		○										○		
SL315U	政治学	3・4	2	選択	講義		○	○	○											○		○	○		○					○	○	○	○	
SL320U	地域社会政策論	3・4	2	選択	講義		○					○								○		○	○		○							○		
SL235U	環境と開発	3・4	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
SL335U	マーケティング論	3・4	2	選択	講義															○		○			○							○		
SS310U	スクールソーシャルワーク演習	4	1	選択	演習		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○							○		
SS315U	スクールソーシャルワーク実習指導	4	1	選択	演習		○				○	○											○	○	○							○	○	○
SS320U	スクールソーシャルワーク実習	4	2	選択	実習	○													○				○		○		○					○	○	○
SB340U	図書館実習	4	1	選択	実習														○				○		○								○	○
ST400U	心理実習	4	2	選択	実習	○		○											○								○					○	○	○

教育学部　幼児教育学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																	
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育において、保育者・教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子ども一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導と養育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの保育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○			○	○	○					
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○				○	○	○				
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
GE100	郷土の文学	1	2	必選	講義			○				○			○						○		○		○			○	○	○				
GE110	日本国憲法	1	2	必修	講義				○											○		○	○						○					
GE120	青年の心理	1	2	必選	講義		○				○	○	○							○			○		○				○					
GE130	食と健康	1	2	必選	講義		○					○											○		○				○					
GE140	政治学	1	2	必選	講義		○		○											○		○							○					
LJ090	日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○						○			
LE090	英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○		○		○			
LE150	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE155	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE140	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE145	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE130	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE135	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE120	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE125	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE110	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE115	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE100	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE105	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE160	アクティブ・イングリッシュA	※	1	選択	演習				○		○	○			○				○				○	○	○		○		○		○			
LE165	アクティブ・イングリッシュB	※	2	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○		○		○	○	○						○			
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
PE100	生涯スポーツA	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○					
PE110	生涯スポーツB	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○					
PE120	健康科学	1	2	必修	講義		○													○	○		○						○					
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習					○					○							○	○		○					○				
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習					○					○							○	○		○					○				
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○			○			○								○		○							○				
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習		○			○			○								○		○							○				
EB100	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○		○		○	○	○			○					○	○	○	○	○				○				
EB200	データ分析と教育	2	1	必修	演習		○	○	○	○		○	○								○										○			
EB105	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習		○					○	○								○		○					○		○	○			
EB110	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習	○	○					○	○								○		○		○		○	○		○	○			
EB205	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習	○		○				○	○						○		○		○		○			○	○	○	○			
EB210	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○						○		○	○	○			○	○	○	○	○		
EB300	キャリアデザインⅤ	3	1	必修	演習	○	○				○	○	○		○			○					○	○	○		○	○		○	○	○		
EB215	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
EB220	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			

教育学部　幼児教育学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																		
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育において、保育者・教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子ども一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導と養育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの保育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
EB305	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習							○	○		○								○	○	○					○	○		○		○
EB115	地域社会と子ども	1	2	必修	講義	○	○	○			○	○									○		○		○					○		○	○		○
EB120	教育学概論	1	2	必修	講義		○	○		○										○			○		○							○	○		○
EB225	教職論	2	2	必修	講義		○				○	○									○		○		○							○	○		○
EB125	特別支援教育論	1	2	必修	講義		○	○			○									○			○		○							○	○		○
EL100	コミュニケーション・イングリッシュ	1	2	必修	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○						○			
EL110	キッズ・イングリッシュA	1	2	必修	演習		○	○		○	○	○						○		○		○	○	○	○					○	○		○		○
EL115	キッズ・イングリッシュB	1	2	選択	演習		○	○		○	○	○						○		○		○	○	○	○					○	○		○		○
EL120	シンプル・イングリッシュA	1	2	必修	演習		○	○			○	○						○		○		○	○	○	○					○	○		○		○
EL200	スピーチ＆ドラマ	2	2	選択	演習						○	○	○		○			○						○	○		○				○		○		
EL210	トラベル・イングリッシュA	2	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○		○	○								○		
EL215	トラベル・イングリッシュB	2	2	選択	演習			○	○		○	○			○			○				○		○	○								○		
EL220	プレゼンテーション	2	2	選択	演習		○				○	○			○							○	○	○	○					○	○		○		
EL300	ムービー・イングリッシュA	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○		
EL305	ムービー・イングリッシュB	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○		
EL320	インテンシブ・リーディング	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○	○								○		
EL325	エッセイ・ライティング	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○	○								○		
EA300	教育史	3	2	必選	講義		○		○												○		○		○										○
EA305	教育学文献講読A1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○			○		○
EA315	教育学文献講読B1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○			○		○
EA325	教育実践研究（小中高）	3	2	必選	講義	○		○					○		○	○			○				○	○	○		○			○	○	○	○		○
CB200	発達心理学	2	2	必修	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○		○
CB205	教育心理学	2	2	必選	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○		○
CB300	教育社会学	3	2	必修	講義															○					○								○		
CB210	教育課程論	2	2	必修	講義			○				○	○		○							○	○		○		○						○	○	
CB215	保育内容総論	2	1	必修	演習			○				○	○		○	○							○		○		○						○	○	
CB100	保育内容・環境指導法	1	2	必修	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○								○		○
CB220	保育内容・健康指導法	2	2	必修	演習		○	○			○	○	○					○			○		○	○	○							○	○		○
CB105	保育内容・言葉指導法	1	2	必修	演習		○	○			○	○	○					○				○	○	○	○		○					○	○		○
CB225	保育内容・人間関係指導法	2	2	必修	演習		○	○				○	○					○				○	○	○	○		○					○	○		○
CB230	保育内容・表現指導法	2	2	必修	演習			○			○	○	○										○		○		○					○	○		○
CB305	環境	3	2	必修	講義	○	○	○				○	○						○			○	○	○	○							○	○	○	○
CB310	健康活動	3	2	必修	講義		○	○			○	○	○		○			○			○		○	○	○							○	○	○	○
CB315	言葉	3	2	必修	講義		○	○			○	○	○					○			○		○	○	○		○					○	○	○	○
CB320	人間関係	3	2	必修	講義	○	○	○			○	○	○					○				○	○	○	○								○	○	
CB325	表現	3	2	必修	講義	○		○			○	○	○					○					○	○	○							○	○	○	○
CB110	図画工作	1	2	必修	演習							○		○						○					○		○							○	○
CB235	異文化間コミュニケーション論	2	2	選択	講義				○			○	○		○								○	○	○							○			
CB330	児童文学	3	2	必修	講義			○	○						○						○			○	○							○			
CB115	音楽表現Ⅰ	1	1	選択	演習		○		○		○	○						○				○	○				○						○		
CB120	音楽表現Ⅱ	1	1	選択	演習		○		○		○	○						○				○	○				○						○		
CK300	教育・方法の技術（幼栄）	3	2	必修	講義		○			○					○					○			○		○					○				
CK200	国語	2	2	必修	演習	○			○			○			○			○		○			○		○								○	○	
CK205	算数	2	2	必選	演習		○					○									○	○	○										○	○	
CK100	生活	1	2	必修	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○									○	○
CK210	音楽	2	2	必選	演習		○		○		○	○						○				○	○		○								○	○	
CK215	英語	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○									○	○
CK220	教育実習指導Ⅰ（幼）	2	1	選択	演習	○	○	○				○	○		○			○	○				○	○	○		○			○			○	○	○
CK305	教育実習指導Ⅱ（幼）	2・3	1	選択	演習	○	○	○			○	○	○		○			○	○				○	○	○		○						○	○	○

教育学部　幼児教育学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相				成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤幼児教育において、保育者・教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子ども一人一人の個性を認め、個に応じた専門的指導と養育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの保育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
CK225	教育実習Ⅰ（幼）	3	2	選択	実習	○	○	○					○					○	○				○		○		○				○		○	○	○
CK310	教育実習Ⅱ（幼）	2・3	2	選択	実習	○	○	○					○						○				○		○		○				○		○	○
CN200	保育者論	2	2	選択	講義			○	○	○			○					○			○		○		○	○	○					○	○	○
CN100	保育原理	1	2	選択	講義			○		○			○								○		○		○	○	○					○	○	○
CN300	子どもの理解と援助	3	1	選択	演習			○				○						○					○		○	○	○						○	○
CN205	子ども家庭福祉論Ⅰ	2	2	選択	講義		○	○				○	○					○				○	○	○	○							○	○	○
CN305	子ども家庭福祉論Ⅱ	3	2	選択	講義	○	○				○	○	○					○			○	○	○	○	○								○	○
CN105	社会福祉	1	2	選択	講義		○																○		○							○	○	○
CN310	家庭支援の心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○					○			○			○	○								○	○
CN210	社会的養護	2	2	選択	講義		○					○						○			○	○			○						○		○	○	○
CN215	社会的養護内容	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○	○		○			○	○	○	○	○	○	○				○		○	○	○
CN220	子どもの保健	2	2	選択	講義				○		○	○	○							○		○	○		○						○			○	
CN315	子どもの健康と安全	3	2	選択	演習							○	○										○	○			○						○	○
CN320	子どもの食と栄養	3	2	選択	演習			○	○			○			○					○	○	○	○	○	○								○	○
CN325	家庭支援論	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○		○			○				○	○	○	○		○						○	○
CN225	乳児保育Ⅰ	2	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○						○		○	○	○
CN330	乳児保育Ⅱ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○					○			○	○	○						○		○	○	○
CN230	障がい児保育	2	2	選択	演習			○	○		○	○	○		○					○			○	○	○						○			○	
CN090	器楽入門	1	1	自由	演習							○													○		○							○	
CN110	器楽Ⅰ	1	1	選択	演習							○													○		○						○	○	
CN235	器楽Ⅱ	2	1	選択	演習							○													○		○						○	○	
CN335	身体表現	3	1	選択	演習			○			○	○	○					○			○		○	○	○							○	○	○	○
CN240	児童文化	2	2	選択	演習		○					○			○					○			○	○	○							○		○	
CN340	絵本論	3	2	選択	講義		○					○	○		○						○		○	○	○							○		○	
CN245	保育実習指導Ⅰ（施設）	3	1	選択	演習	○		○				○			○				○				○	○	○		○					○	○	○	○
CN250	保育実習Ⅰ（施設）	3	2	選択	実習	○																	○	○	○		○					○	○	○	○
CN345	保育実習指導Ⅰ（保育所）	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○				○	○	○							○	○	○	○
CN350	保育実習Ⅰ（保育所）	3	2	選択	実習	○		○											○				○	○	○		○					○	○	○	○
CN355	保育実習指導Ⅱ（保育所）	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○				○	○	○							○	○	○	○
CN360	保育実習Ⅱ（保育所）	3	2	選択	実習	○		○											○				○	○	○		○					○	○	○	○
CN365	保育実習指導Ⅲ（施設）	3	1	選択	演習	○		○			○	○	○		○								○	○	○							○	○	○	○
CN370	保育実習Ⅲ（施設）	3	2	選択	実習	○																	○	○	○							○	○	○	○

教育学部　初等中等教育学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																	
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤初等中等教育において、教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、小・中・高の教育連携を意識した教育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○	○								○		○			○	○	○					
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○	○								○		○				○	○	○				
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義			○											○		○	○		○	○		○	○	○					
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義			○											○		○	○		○	○		○	○	○					
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○											○		○	○		○	○		○	○						
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○											○		○	○		○	○		○	○						
GE100	郷土の文学	1	2	必選	講義			○				○				○				○		○		○			○	○	○					
GE110	日本国憲法	1	2	必修	講義				○										○		○	○						○						
GE120	青年の心理	1	2	必選	講義		○				○	○	○						○			○		○				○						
GE130	食と健康	1	2	必選	講義		○					○										○		○				○						
GE140	政治学	1	2	必選	講義		○		○										○		○							○	○		○	○		
LJ090	日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○					○				
LE090	英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○		○					
LE150	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE155	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE140	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE145	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE130	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE135	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE120	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE125	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE110	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE115	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE100	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE105	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE160	アクティブ・イングリッシュA	※	1	選択	演習				○		○	○			○				○				○	○	○		○		○					
LE165	アクティブ・イングリッシュB	※	2	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○		○		○	○	○							○	○	
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○					
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
PE100	生涯スポーツA	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○				○	○	○	
PE110	生涯スポーツB	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○				○	○		
PE120	健康科学	1	2	必修	講義		○													○	○		○						○			○	○	
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習					○					○							○	○		○						○			
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習					○					○							○	○		○						○			
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○			○			○								○		○								○			
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習		○			○			○								○		○								○			
EB100	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○		○		○	○	○			○					○	○	○	○	○					○			
EB200	データ分析と教育	2	1	必修	演習		○	○	○	○		○	○								○									○				
EB105	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習		○					○	○								○		○					○		○	○			
EB110	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習	○	○					○	○								○		○		○		○	○		○	○			
EB205	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習	○		○				○	○						○		○		○		○			○	○	○	○			
EB210	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習	○	○	○				○	○		○				○		○		○		○			○	○	○				
EB300	キャリアデザインⅤ	3	1	必修	演習	○	○				○	○	○		○			○					○	○	○		○	○		○	○	○		
EB215	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
EB220	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○		○						○			○	○	○				○	○			
EB305	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習							○	○		○								○	○	○				○	○		○		○

教育学部　初等中等教育学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー		
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤初等中等教育において、教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、小・中・高の教育連携を意識した教育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
EB115	地域社会と子ども	1	2	必修	講義	○	○	○			○	○									○		○		○					○		○	○	○
EB120	教育学概論	1	2	必修	講義		○	○		○										○			○		○							○	○	○
EB225	教職論	2	2	必修	講義		○				○	○								○			○		○							○	○	○
EB125	特別支援教育論	1	2	必修	講義		○	○			○									○			○		○							○	○	○
EL100	コミュニケーション・イングリッシュ	1	2	必修	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○						○			
EL110	キッズ・イングリッシュA	1	2	必修	演習		○	○		○	○	○						○		○		○	○	○	○						○	○	○	○
EL115	キッズ・イングリッシュB	1	2	選択	演習		○	○		○	○	○						○		○		○	○	○	○						○	○	○	○
EL120	シンプル・イングリッシュA	1	2	選択	演習		○	○			○	○						○		○		○	○	○	○						○	○	○	○
EL200	スピーチ&ドラマ	2	2	必修	演習						○	○	○		○			○						○	○		○				○	○		
EL210	トラベル・イングリッシュA	2	2	選択	演習		○				○	○			○			○				○	○	○	○								○	
EL215	トラベル・イングリッシュB	2	2	選択	演習		○				○	○			○			○				○	○	○	○								○	
EL220	プレゼンテーション	2	2	必修	演習		○				○	○	○		○							○	○	○	○						○	○		
EL300	ムービー・イングリッシュA	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
EL305	ムービー・イングリッシュB	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
EL320	インテンシブ・リーディング	3	2	必修	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○	○								○	
EL325	エッセイ・ライティング	3	2	必修	演習		○	○			○	○	○		○							○	○	○	○								○	
EA300	教育史	3	2	必選	講義		○		○												○		○		○									○
EA305	教育学文献講読A1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○			○	○
EA315	教育学文献講読B1	3	2	必選	演習								○		○								○	○	○					○			○	○
EA325	教育実践研究（小中高）	3	2	必選	講義	○		○					○		○	○			○				○	○	○		○			○	○	○	○	○
TB200	英語学概論	2	2	必修	講義				○											○					○									
TB205	発達心理学	2	2	選択	講義			○	○	○										○			○		○					○		○	○	○
TB210	教育心理学	2	2	必修	講義			○	○	○										○			○		○					○		○	○	○
TB300	教育社会学	3	2	必修	講義				○				◯							○					○					◯		○		
TB305	総合的な学習の時間の指導法	3	1	必修	講義		○			○					○					○			○		○					○				
TB310	教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）	3	2	必修	講義		○			○					○					○			○		○					○				
TB315	道徳教育指導論	3	2	必修	講義		○			○		○								○		○	○		○									○
TB320	教育課程編成論	3	2	必修	講義		○					○								○		○	○		○								○	○
TB325	特別活動の理論と方法	3	1	必修	講義		○					○								○		○	○		○								○	○
TB330	生徒指導論	3	1	必修	講義		○			○		○						○		○			○		○									○
TB335	進路指導論	3	1	必修	講義		○			○		○						○		○			○		○									○
TB340	英語科指導法	3	2	必修	講義			○			○	○	○	○				○				○	○	○	○	○						○	○	
TB345	介護等体験	3	2	選択	実習	○	○					○							○		○		○		○								○	
TB215	異文化間コミュニケーション論	2	2	選択	講義				○			○	○		○								○	○	○					○			○	
TB350	児童文学	3	2	選択	講義			○	○						○						○			○	○					○			○	
TE200	国語	2	2	必修	演習	○			○			○			○			○		○			○		○								○	○
TE205	社会	2	2	必選	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○								○	○
TE210	算数	2	2	必選	演習		○					○									○	○	○										○	○
TE215	理科	2	2	必選	演習		○					○									○	○	○										○	○
TE100	生活	1	2	必修	演習	○	○		○		○	○	○					○			○		○		○								○	○
TE220	音楽	2	2	必選	演習		○		○		○	○						○				○	○		○								○	
TE105	図画工作	1	2	必修	演習							○		○						○					○		○						○	○
TE225	家庭	2	2	必選	演習			○			○	○			○					○			○		○		○						○	
TE300	体育	3	2	必選	演習						○	○													○		○						○	○
TE230	英語	2	2	必修	演習			○			○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	○
TE305	国語科指導法（書写を含む）	3	2	選択	講義		○	○		○	○	○	○	○	○			○					○	○	○					○	○		○	○
TE310	社会科指導法	3	2	選択	講義				○			○	○						○		○		○	○	○								○	
TE235	算数科指導法	2	2	選択	講義		○					○	○		○							○	○	○									○	○
TE240	理科指導法	2	2	選択	講義		○					○	○		○							○	○	○									○	○
TE245	生活科指導法	2	2	選択	講義				○			○	○						○		○		○	○	○								○	○
TE250	音楽科指導法	2	2	選択	講義		○		○		○	○	○		○			○					○	○	○		○						○	○
TE255	図画工作指導法	2	2	選択	講義			○				○			○					○					○								○	○

教育学部　初等中等教育学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																			
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤初等中等教育において、教育者の役割や職務内容を良く理解している。	⑥子どもの育ちや発達、英語・英語教育に関する専門的知識に基づき、小・中・高の教育連携を意識した教育が実践できる。	⑦子どもの育ちや発達に関する専門的知識に基づき、子どもや保護者に寄り添って自らの教育観、子ども観を自分の言葉で語ることができる。
TE260	家庭科指導法	2	2	選択	講義		○	○				○	○		○				○	○			○				○					○	○	
TE315	体育科指導法	3	2	選択	講義			○			○	○	○					○			○		○	○	○					○		○	○	○	○
TE320	教育実習指導（小）	3	1	選択	演習	○					○	○	○					○	○				○		○							○	○	○
TE325	教育実習Ⅰ（小）	3	4	選択	実習	○		○	○									○	○				○		○		○					○	○	○
TS200	英語学	2	2	選択	講義			○				○								○		○			○					○			○		
TS100	英語音声学Ⅰ	1	2	選択	演習			○			○							○		○		○	○	○	○		○						○	○
TS105	英語音声学Ⅱ	1	2	選択	演習			○			○							○		○		○	○	○	○		○						○	○
TS110	言語教育のための英文法Ⅰ	1	2	選択	演習			○			○		○		○					○		○			○								○	○
TS115	言語教育のための英文法Ⅱ	1	2	選択	演習			○			○		○		○					○		○			○								○	○
TS300	英語文学Ⅰ	3	2	選択	講義		○	○												○		○	○		○				○					
TS305	英語文学Ⅱ	3	2	選択	講義		○				○	○	○	○						○		○	○	○	○				○					
TS310	英語圏の児童文学	3	2	選択	講義			○				○			○						○	○	○		○								○	○
TS205	コミュニカティブ・イングリッシュA	2	2	選択	演習			○			○	○	○		○			○				○	○	○	○								○	
TS210	コミュニカティブ・イングリッシュB	2	2	選択	演習			○			○	○	○		○	○		○		○			○	○	○							○		○	○
TS215	英語科教育法Ⅰ	2	2	選択	演習			○				○	○	○	○					○		○	○	○	○							○	○	○
TS220	英語科教育法Ⅱ	2	2	選択	演習			○				○	○	○	○			○				○	○	○	○							○	○	○
TS315	英語科教育法Ⅲ	3	2	選択	演習			○			○	○	○	○	○							○	○	○	○							○	○	
TS320	英語科教育法Ⅳ	3	2	選択	演習			○	○			○	○		○			○				○	○	○	○							○	○	
TS325	教育実習指導（中高）	3	1	選択	演習			○					○	○	○			○					○	○	○							○	○	○
TS330	教育実習Ⅰ（中高）	3	4	選択	実習	○		○					○						○				○	○	○							○	○	○

社会学部　社会学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相				成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー				
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践														
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○	○							○		○		○			○	○	○				
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○	○									○		○			○	○	○				
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
GE100	郷土の文学	1	2	必選	講義			○				○			○						○		○		○			○	○	○				
GE110	日本国憲法	1	2	必修	講義				○											○		○	○						○					
GE120	青年の心理	1	2	必選	講義		○				○	○	○							○			○		○				○					
GE130	食と健康	1	2	必選	講義		○					○											○		○				○					
GE140	政治学	1	2	必選	講義		○		○											○		○							○	○		○	○	
LJ090	日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○				○		○			
LE090	英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○		○					
LE150	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE155	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE140	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE145	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○					
LE130	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE135	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE120	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE125	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE110	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE115	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE100	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE105	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○					
LE160	アクティブ・イングリッシュA	※	1	選択	演習				○		○	○			○				○				○	○	○		○		○					
LE165	アクティブ・イングリッシュB	※	2	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○		○		○	○	○				○					
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○					
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
PE100	生涯スポーツA	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
PE110	生涯スポーツB	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
PE120	健康科学	1	2	必修	講義		○													○	○		○		○				○	○				
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習					○					○								○	○	○				○		○			
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習				○	○		○		○	○								○	○	○	○			○		○			
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○	○		○	○	○	○		○								○	○	○						○			
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習					○			○		○								○	○	○				○	○	○	○	○	
SO300	キリスト教と社会	3	2	必修	講義			○							○					○		○	○		○	○		○						
SO100	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○		○		○	○	○			○					○	○	○	○	○			○					
SO105	統計データの読み方	1	2	選択	講義		○	○	○												○	○	○		○					○		○	○	○
SO110	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○					○	○		○	
SO115	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習		○	○		○	○	○	○		○								○	○	○					○	○			
SO200	キャリアデザインⅢ	2	1	必修	演習			○				○	○		○								○	○	○					○	○		○	
SO205	キャリアデザインⅣ	2	1	必修	演習	○	○	○	○		○	○	○		○				○		○	○	○	○	○					○	○		○	
SO305	キャリアデザインⅤ	3	1	選択	演習																									○				
SO310	キャリアデザインⅥ	3	1	選択	演習																									○				

社会学部　社会学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの									ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																	
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
SO210	プロゼミA	2	2	必修	演習							○	○	○						○		○		○						○	○		
SO215	プロゼミB	2	2	必修	演習							○	○	○						○				○	○					○	○		
SO315	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習																								○	○				
SO120	ソーシャルサイエンス概説	1	2	必修	講義					○												○		○					○	○	○	○		
SO125	社会学概論A	1	2	必修	講義				○	○										○												○	○	
SO130	社会学概論B	1	2	選択	講義		○	○	○											○		○										○		
SO135	社会調査論	1	2	必修	講義		○													○		○										○		
SO140	社会調査法	1	2	選択	講義		○													○		○										○		
SO220	質的研究法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○									○	○										○		○
SK200	データ処理基礎	2	2	選択	演習		○	○	○			○			○						○	○		○	○					○		○	○	○
SK205	心理学統計法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		○
SK210	社会学理論	2	2	選択	講義				○												○	○			○							○		
SK215	家族社会学	2	2	選択	講義								○		○					○			○	○								○		
SK220	都市社会学	2	2	選択	講義		○						○								○		○									○		
SK225	環境社会学	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
SK100	現代社会と福祉Ⅰ	1	2	選択	講義		○	○			○	○								○			○		○							○		
SK105	現代社会と福祉Ⅱ	1	2	選択	講義		○	○			○	○								○			○		○							○		
SK110	心理学概論A	1	2	選択	講義		○	○		○											○				○							○		
SK115	心理学概論B	1	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○									○		
SK300	教育社会学	3	2	選択	講義				○					○						○					○					○		○		
SK230	グローバル社会論	2	2	選択	講義		○					○			○	○					○	○	○	○	○					○			○	
SL300	応用心理社会統計法	3	2	選択	講義		○										○			○			○									○		
SL305	社会調査実習	3	4	選択	実習																													○
SC210	観光と社会	2	2	選択	講義		○		○			○	○								○		○		○							○		
SC300	地域と観光	3	2	選択	演習	○	○						○		○								○	○	○					○				
SC215	ホテルサービス論	2	2	選択	講義		○	○		○	○	○	○		○						○		○	○	○					○	○		○	
SC220	インバウンドツーリズム	2	2	選択	講義						○	○			○						○		○	○	○					○	○		○	
SL200	多文化共生論	2	2	選択	講義		○						○								○		○									○		
SL205	社会病理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○									○		
SL310	メディア文化論	3	2	選択	講義				○				○							○					○					○		○	○	
SL315	地方行政入門	3	2	選択	演習																									○				
SL320	政治行動論	3	2	選択	講義																									○				
SL210	経済学Ⅰ	2	2	選択	講義								○									○			○				○	○	○	○		
SL215	経済学Ⅱ	2	2	選択	講義								○									○			○				○	○	○	○		
SL325	経済学Ⅲ	3	2	選択	講義								○									○			○				○	○	○	○		
SL330	経済学Ⅳ	3	2	選択	講義								○									○			○				○	○	○	○		
SL335	法律学	3	2	選択	講義			○	○							○				○		○									○			
SL220	地域社会政策論	2	2	選択	講義		○					○								○		○	○		○							○		
SC100	経営学入門	1	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC305	マーケティング論	3	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC225	財務諸表の読み方	2	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC230	経営組織論	2	2	選択	講義				○												○		○		○							○		
SC310	経営戦略論	3	2	選択	講義				○												○		○		○					○		○		
SC235	簿記A	2	1	選択	演習															○		○							○					
SC240	簿記B	2	1	選択	演習															○		○							○					
SL225	社会貢献論	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
SL340	社会貢献実習	3	2	選択	実習	○						○	○		○								○									○		
SL230	環境と開発	2	2	選択	講義		○		○			○								○		○	○		○							○		
SL345	地域環境マネジメント論	3	2	選択	演習	○	○						○		○					○		○	○									○		
SL235	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	2	選択	講義		○		○				○		○					○		○	○	○	○							○	○	

社会学部　社会学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
SL350	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	3	2	選択	講義		○		○				○							○		○	○									○		
SL100	児童福祉論	1	2	選択	講義		○	○	○				○			○					○	○	○		○							○		
SL240	高齢者福祉論	2	2	選択	講義		○	○			○	○								○			○		○							○		
SL105	障害者福祉論	1	2	選択	講義			○														○	○		○	○						○		
SL245	社会保障論	2	2	選択	講義			○												○					○							○		
SL355	権利擁護を支える法制度	3	2	選択	講義															○		○								○		○		
SL360	刑事司法と福祉	3	2	選択	講義															○		○								○		○		
SB200	図書館概論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		
SB205	情報技術論	2	2	選択	講義							○		○	○						○	○	○		○	○						○		
SC315	データベース演習	3	2	選択	演習																									○				
SC245	プログラミング入門	2	2	選択	演習			○															○		○					○				
SP100	臨床心理学概論	1	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○		○	○	
SP200	心理学実験Ⅰ	2	2	選択	実習						○	○											○		○							○		○
SP205	心理学実験Ⅱ	2	2	選択	実習																		○		○							○		○
SP210	心理学研究法	2	2	選択	講義		○	○	○		○	○									○	○	○									○		○
SP215	心理的アセスメント	2	2	選択	講義						○	○						○			○		○		○					○	○	○	○	○
SP220	発達心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	
SP225	教育心理学	2	2	選択	講義		○	○	○											○			○		○					○		○	○	
SP230	人格心理学（感情・人格心理学A）	2	2	選択	講義		○	○	○		○										○		○		○					○		○	○	
SP300	社会・集団・家族心理学	3	2	選択	講義			○	○		○	○								○			○							○		○		
SP305	産業・組織心理学	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○								○			○							○		○		
SP310	知覚・認知心理学	3	2	選択	講義			○	○											○			○							○		○		
SP315	感情心理学（感情・人格心理学B）	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○	○							○					○					○		○		
SP320	障害者・障害児心理学	3	2	選択	講義																									○		○		
SP325	心理学的支援法	3	2	選択	講義															○										○		○		
SP330	学校心理学（教育・学校心理学）	3	2	選択	講義		○				○	○	○								○		○	○	○					○		○		
SP335	心理演習	3	2	自由	演習		○	○			○	○	○					○			○				○					○		○		
SW200	ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○		
SW205	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○		
SW210	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	2	選択	講義						○	○	○		○							○	○		○							○		
SW300	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○							○		
SW305	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○							○			○		○							○		
SW310	福祉サービスの組織と経営	3	2	選択	講義			○				○									○	○	○		○							○		
SW315	公的扶助論	3	2	選択	講義						○	○	○							○		○	○	○	○							○		
SW320	保健医療サービス	3	2	選択	講義																											○		
SW215	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○					○		○			○	○	○							○		○
SW220	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○					○		○			○	○	○							○		○
SW325	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○				○	○	○	○							○		○
SW330	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○				○	○	○	○							○		○
SW335	ソーシャルワーク演習Ⅴ	3	2	選択	演習		○				○	○	○		○		○	○		○			○	○	○							○		○
SW225	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	選択	演習		○	○			○	○	○					○					○	○	○							○	○	○
SW340	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○								○	○	○							○	○	○
SW350	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	2	選択	演習		○	○			○	○	○		○								○	○	○							○	○	○
SW230	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	1	選択	実習	○													○				○	○	○		○					○	○	○
SW345	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	選択	実習	○													○				○	○	○		○					○	○	○
SS300	精神保健学	3	2	選択	講義		○	○														○	○		○	○						○		
SS305	スクールソーシャルワーク論	3	2	選択	講義		○	○														○	○		○	○						○		
SB100	生涯学習概論	1	2	選択	講義			○			○	○	○		○				○		○		○	○	○						○		○		
SB210	図書館サービス概論	2	2	選択	講義																○		○		○							○		
SB215	情報サービス論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		

社会学部　社会学科 科目見取表
1・2・3年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相								Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー						
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習			Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤現代社会が直面する問題を、社会学を中心に心理学・社会福祉学などのその他関連領域の理論と実証的データに基づいて理解できる。	⑥現代社会が直面する問題の解決のために、自ら設定した課題を探求し、貢献できる。	⑦現代社会が直面する問題の解明のために、実験・社会調査・フィールドワークができる。
SB300	児童サービス論	3	2	選択	講義			○				○								○			○		○							○		
SB220	情報資源組織論	2	2	選択	講義															○		○			○							○		
SB305	図書館制度・経営論	2	2	選択	講義			○												○			○		○						○			
SB310	情報サービス演習Ⅰ	3	1	選択	演習																		○		○						○			
SB315	情報サービス演習Ⅱ	3	1	選択	演習		○								○								○		○						○			
SB320	情報資源組織演習Ⅰ	3	1	選択	演習																		○		○						○			
SB325	情報資源組織演習Ⅱ	3	1	選択	演習		○																○		○						○			
SB330	図書館情報資源概論	2	2	選択	講義															○					○						○			
ST100	公認心理師の職責	1	2	自由	講義		○		○				○		○					○			○		○							○		
ST200	学習・言語心理学	2	2	選択	講義			○				○	○								○		○									○		
ST205	神経・生理心理学	2	2	選択	講義		○	○												○		○	○									○		
ST210	人体の構造と機能及び疾病	2	2	選択	講義		○	○			○			○						○					○							○		
ST300	福祉心理学	3	2	選択	講義		○	○			○	○	○					○				○	○		○							○		
ST305	司法・犯罪心理学	3	2	自由	講義							○	○		○						○		○	○	○							○		
ST310	精神疾患とその治療	3	2	選択	講義		○	○	○		○	○	○					○			○	○	○		○							○		
ST315	健康・医療心理学	3	2	選択	講義		○	○												○			○									○		
ST320	関係行政論	3	2	自由	講義			○				○										○			○							○		

健康科学部　栄養学科 科目見取表
1・2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー				
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観・自然観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤栄養と健康において、管理栄養士の役割や職務内容を良く理解している。	⑥現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。	⑦栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。
HG100	北陸学院セミナーⅠ	1	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○			○	○	○				
HG200	北陸学院セミナーⅡ	2	1	必修	演習		○	○				○	○		○								○		○				○	○	○				
HG110	キリスト教概論Ⅰ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG120	キリスト教概論Ⅱ	1	1	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○	○	○				
HG130	キリスト教人間論Ⅰ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
HG140	キリスト教人間論Ⅱ	2	1	必修	講義	○		○												○		○	○		○	○		○	○					
GE100	郷土の文学	1	2	必選	講義			○				○			○						○		○		○			○	○	○				
GE110	日本国憲法	1	2	必修	講義				○											○		○	○						○					
GE120	青年の心理	1	2	必選	講義		○				○	○	○							○			○		○				○					
GE140	政治学	1	2	必選	講義			○		○											○		○						○	○				
LJ090	日本語基礎	1	1	自由	演習		○	○	○		○	○	○		○			○		○	○		○	○	○				○		○			
LE090	英語基礎	1	1	自由	演習			○			○	○			○							○		○	○		○		○		○			
LE150	英語AⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE155	英語AⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE140	英語BⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE145	英語BⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○	○		○					○		○		○	○		○		○		○			
LE130	英語CⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE135	英語CⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE120	英語DⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE125	英語DⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE110	英語EⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE115	英語EⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE100	英語FⅠ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE105	英語FⅡ	1	1	必選	演習			○			○	○			○					○		○		○	○		○		○		○			
LE160	アクティブ・イングリッシュA	※	1	選択	演習				○		○	○			○				○				○	○	○		○		○		○			
LE165	アクティブ・イングリッシュB	※	2	選択	演習	○		○			○	○	○		○				○		○		○	○	○				○		○			
LE170	アクティブ・イングリッシュC	※	3	選択	演習				○						○				○				○	○	○		○		○		○			
LC100	中国語Ⅰ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LC110	中国語Ⅱ	2	1	必選	演習			○			○	○						○		○		○	○	○	○				○					
LF100	フランス語Ⅰ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LF110	フランス語Ⅱ	2	1	必選	演習		○				○	○			○			○		○				○	○				○					
LK100	韓国語Ⅰ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
LK110	韓国語Ⅱ	2	1	必選	演習															○	○		○		○				○					
PE100	生涯スポーツA	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
PE110	生涯スポーツB	1	1	必修	実技						○	○						○				○	○		○		○		○	○				
FE100	情報機器演習A	1	1	必修	演習		○			○												○	○		○				○		○			
FE110	情報機器演習B	1	1	必修	演習					○	○				○								○	○	○				○		○			
FE120	基礎ゼミⅠ	1	2	必修	演習		○					○	○		○						○		○	○	○	○			○					
FE130	基礎ゼミⅡ	1	2	必修	演習		○					○	○		○						○		○	○	○	○			○					
NK400	キリスト教といのち	4	2	必修	講義			○												○		○	○		○	○		○						
NK215	データサイエンス入門	1	2	必修	講義			○		○		○	○	○			○					○	○	○	○	○			○					
NK105	キャリアデザインⅠ	1	1	必修	演習		○	○		○	○	○	○			○	○				○	○	○		○		○		○	○	○			
NK110	キャリアデザインⅡ	1	1	必修	演習		○	○		○	○	○	○			○	○				○	○	○		○		○		○	○	○			
NK220	キャリアデザインⅣ	2	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○	○			
NK300	キャリアデザインⅤ	3	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○	○			
NK305	キャリアデザインⅥ	3	1	選択	演習		○	○		○		○	○			○					○	○	○		○		○		○	○	○			
NK205	プロゼミA	2	2	必修	演習	○									○						○		○		○	○				○	○	○	○	○
NK210	プロゼミB	2	2	必修	演習	○									○						○		○		○	○				○	○	○	○	○
NK310	専門ゼミⅠ	3	4	必修	演習	○							○		○				○		○		○		○	○				○	○	○	○	○
NK405	専門ゼミⅡ	4	4	必修	演習	○							○		○				○		○		○		○	○				○	○	○	○	○
NK410	卒業研究	4	4	選択	演習	○							○		○				○					○						○	○	○	○	○
NG110	管理栄養士への道Ⅰ	1	1	必修	演習			○			○				○						○		○		○					○		○	○	○
NG115	管理栄養士への道Ⅱ	1	1	必修	演習			○				○			○						○				○					○		○	○	○

健康科学部　栄養学科 科目見取表
1・2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー		
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践															
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観・自然観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤栄養と健康において、管理栄養士の役割や職務内容を良く理解している。	⑥現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。	⑦栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。
NF100	分析化学	1	2	必修	講義							○	○		○					○			○								○	○	○
NG105	食事計画論	1	1	必修	実習			○			○				○						○		○		○					○		○	○	○
NH100	健康管理概論	1	2	必修	講義			○												○		○	○							○		○	○	○
NH200	公衆衛生学	2	2	必修	講義															○		○	○		○					○		○	○	○
NM100	生化学Ⅰ	1	2	必修	講義		○													○			○		○							○	○	○
NM200	解剖生理学Ⅰ	2	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NM210	医学一般Ⅰ	2	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NF120	食品学Ⅰ	1	2	必修	講義							○	○		○					○			○									○	○	○
NF215	食品衛生学	2	2	必修	講義															○		○										○	○	○
NF105	調理学	1	2	必修	講義			○												○		○	○									○	○	○
ND100	基礎栄養学	1	2	必修	講義			○												○		○	○									○	○	○
ND200	応用栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義	○	○													○	○	○	○		○							○	○	○
NP200	栄養教育論Ⅰ	2	2	必修	講義		○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○							○	○	○
NC200	臨床栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NP210	公衆栄養学Ⅰ	2	2	必修	講義															○			○		○							○	○	○
NL100	給食経営管理論Ⅰ	1	2	必修	講義				○											○		○	○									○	○	○
NH205	公衆衛生学実験	2	1	必修	実験		○					○								○			○									○	○	○
NH105	社会福祉概論	1	2	必修	講義															○					○							○	○	○
NM105	生化学Ⅱ	1	2	必修	講義		○													○			○		○							○	○	○
NM110	生化学実験	1	1	必修	実験							○	○							○			○									○	○	○
NM300	解剖生理学Ⅱ	3	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NM205	解剖生理学実験	2	1	必修	実験		○													○		○										○	○	○
NM305	医学一般Ⅱ	3	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NM310	医学一般Ⅲ	3	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NF200	食品学Ⅱ	2	2	必修	講義							○	○		○					○			○									○	○	○
NF220	食品機能学	2	2	選択	講義							○	○		○					○			○									○	○	○
NF315	食品分析学	3	2	選択	講義		○														○		○		○							○	○	○
NF300	食品加工学	3	2	必修	講義							○	○		○					○			○									○	○	○
NF110	分析化学実験	1	1	必修	実験	○	○					○								○			○		○							○	○	○
NF205	食品学実験	2	1	必修	実験															○												○	○	○
NF310	食品加工学実習	3	1	必修	実習								○							○			○									○	○	○
NF305	食品衛生学実験	3	1	必修	実験							○								○			○									○	○	○
NF115	調理学実習Ⅰ	1	1	必修	実習	○	○					○								○			○		○							○	○	○
NF125	調理学実習Ⅱ	1	1	必修	実習	○	○					○								○			○		○							○	○	○
NF210	調理学実習Ⅲ	2	1	必修	実習	○	○					○								○			○		○							○	○	○
ND205	基礎栄養学実験	2	1	必修	実験																											○	○	○
ND210	応用栄養学Ⅱ	2	2	必修	講義	○	○													○	○	○	○		○							○	○	○
ND300	応用栄養学Ⅲ	3	2	必修	講義	○	○													○	○	○	○		○							○	○	○
ND305	応用栄養学実習Ⅰ	3	1	必修	実習	○	○													○	○	○	○		○							○	○	○
ND310	応用栄養学実習Ⅱ	3	1	必修	実習	○	○													○	○	○	○		○							○	○	○
NP205	栄養教育論Ⅱ	2	2	必修	講義		○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○							○	○	○
NP300	栄養教育論Ⅲ	3	2	必修	講義		○	○	○	○	○	○	○		○					○	○	○	○	○	○							○	○	○
NP305	栄養教育論実習Ⅰ	3	1	必修	実習		○	○	○	○	○	○	○		○			○			○	○	○	○	○							○	○	○
NP310	栄養教育論実習Ⅱ	3	1	必修	実習		○	○	○	○	○	○	○		○			○			○	○	○	○	○							○	○	○
NC205	臨床栄養学Ⅱ	2	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NC300	臨床栄養学Ⅲ	3	2	必修	講義			○												○		○										○	○	○
NC210	臨床栄養学演習	2	2	必修	演習		○	○	○		○								○	○			○		○							○	○	○
NC305	臨床栄養学実習Ⅰ	3	1	必修	実習		○	○	○		○	○	○						○	○			○	○	○							○	○	○
NC310	臨床栄養学実習Ⅱ	3	1	必修	実習		○	○	○		○	○	○						○	○			○	○	○							○	○	○
NP315	公衆栄養学Ⅱ	3	2	必修	講義															○			○		○							○	○	○
NP320	公衆栄養学実習	3	1	必修	実習		○	○	○		○	○	○		○				○				○		○							○	○	○
NL200	給食経営管理論Ⅱ	2	2	必修	講義			○	○											○		○	○									○	○	○
NL205	給食経営管理実習Ⅰ	2	1	必修	実習		○	○	○											○			○									○	○	○

健康科学部　栄養学科 科目見取表
1・2・3・4年

科目概要						Input 知識・技術を吸収する・獲得する・定着させる位相									Output 知識・技術を加工する・発信する・活用する・行動する位相					成績評価の対象となるもの								ディプロマポリシー							
						Reflexive 学生個人による内省的学習			Interactive 教員との双方向学習		Peer 学生間の深化型学習				Exercise 演習			Practice 現場実践																		
科目ナンバリング	科目名	標準履修年次	単位数	必修・必選・選択・自由	講義形式	体験型フィールドワーク	ワークシート	振り返りシート	コミュニケーションシート	ICT等を用いた双方向型講義	ペアワーク（二人一組）	グループワーク（三人以上一組）	ディスカッション	LITE（Learning in teaching）	プレゼンテーション	ディベート	反転授業	ロールプレイ	実践型フィールドワーク	①期末試験（16回目試験）	②期末レポート	③小テスト	④課題レポート・提出物	⑤口頭発表・ロールプレイング	⑥授業への積極性、態度	⑦ルーブリック	⑧その他	①キリスト教的人間観・自然観を理解し、生涯にわたって、自分に与えられた使命（Mission）を発見し、実現しようとする力が身についている。	②大学共通科目の履修を通して幅広い知識と教養が身についている。	③学科での学びを通して、自ら課題を設定して探求することができる。	④4年間での学びを通して、自らの考えを口頭や文章によって的確に他者に伝えることができる。	⑤栄養と健康において、管理栄養士の役割や職務内容を良く理解している。	⑥現代社会及び地域社会における栄養と健康に関する課題を、専門的知識に基づき理解し、問題の解決のために、意欲的に関わり貢献できる。	⑦栄養と健康に関する専門的知識及び実践力に基づき、「食」を通して地域社会や他者に寄り添い自らの使命観に基づき行動できる。
NL300	給食経営管理実習Ⅱ	3	1	必修	実習		○	○	○											○			○								○	○	○	○	○
NG300	総合演習Ⅰ	3	2	必修	演習		○					○	○		○								○								○	○	○	○	○
NG400	総合演習Ⅱ	4	2	必修	演習		○					○	○		○								○								○	○	○	○	○
NL305	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	3	1	必修	実習		○								○								○								○	○	○	○	○
NL310	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）	3	1	必選	実習		○								○								○			○					○	○	○	○	○
NC315	臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）	3	1	必選	実習		○								○								○			○					○	○	○	○	○
NC400	臨地実習ⅢB（臨床栄養学分野）	4	2	必選	実習		○								○								○			○					○	○	○	○	○
NG100	地域の食と健康・環境Ⅰ	1	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG200	地域の食と健康・環境Ⅱ	2	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG305	地域の食と健康・環境Ⅲ	3	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG405	健康・栄養総合演習Ⅰ	4	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NG410	健康・栄養総合演習Ⅱ	4	1	必修	演習			○				○	○								○		○		○						○		○	○	○
NT100	教育学概論	1	2	自由	講義		○	○		○										○			○		○						○				
NT200	教職論	2	2	自由	講義		○				○	○								○			○		○						○				
NT315	特別活動の理論と方法	3	1	自由	講義		○					○								○		○	○		○						○				
NT320	道徳教育指導論	3	2	自由	講義		○			○		○								○		○	○		○						○				
NT325	教育課程編成論	3	2	自由	講義		○					○								○		○	○		○						○				
NT300	教育社会学	3	2	自由	講義			○					○							○					○						○				
NT205	発達心理学	2	2	自由	講義		○	○	○											○			○		○						○				
NT105	特別支援教育論	1	2	自由	講義		○	○		○										○			○		○						○				
NT305	教育の方法・技術（幼栄）	3	2	自由	講義		○			○					○					○			○		○						○				
NT330	総合的な学習の時間の指導法	3	1	自由	講義		○			○					○					○			○		○						○				
NT310	生徒指導論	3	1	自由	講義		○			○		○						○		○			○		○						○				
NT210	学校栄養指導論Ⅰ	2	2	自由	講義		○	○	○		○	○			○					○			○		○						○		○	○	○
NT335	学校栄養指導論Ⅱ	3	2	自由	講義	○	○										○			○	○	○	○		○						○		○	○	○

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【人間総合学部　子ども教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
植田　峰悠	・公認心理師・臨床心理士 ・小学校、中学校、高等学校のスクールカウンセラーとして12年勤務 ・大学における学生相談業務に18年間従事 ・石川県スクールカウンセラースーパーヴァイザー（2024年度）	教育相談（小中高）	2	学校および教育領域での実務経験を活かし、現代の児童生徒が直面する様々な心理的課題について、架空事例をとりあげてわかりやすく解説する。また、それらの問題の背後にある現代社会の特徴や多様な価値観にも理解を深め、チーム学校の一員として自分に何ができるかを考えるきっかけとしたい。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として15年間勤務	幼児理解	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	スクールカウンセラーの経験をもとに、チーム学校や多職種連携として求められる力や課題について、事例などを通して考える機会を設けている。
谷　昌代	幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。 ・こども家庭庁　子ども・子育て支援調査研究委員2023年度より。	幼児理解	2	子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ。実際の子どもの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	乳幼児を取り巻く環境、子育て支援等保育、教育についての諸問題に学生自身が課題意識を持ち、仲間との活動や討議を重ね学びを深めていく機会を提供する。その中で多様な考えに触れ、自身の子ども観や保育観への気付きとなることに期待したい。
中島　賢介	・高等学校で国語科教諭として5年間勤務 ・北陸学院小学校校長として3年間勤務	キリスト教と教育	2	小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。
福江　厚啓	・公立小学校教諭9年間、国立幼稚園教諭9年間の実務経験 ・3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任（知障・自情）、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当、副教務、情報教育主担等	教職実践演習（幼小中高・保）	2	幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをおこなっている。
虫明　淑子	・幼稚園教諭、副園長として20年間勤務 ・石川県内の幼児教育機関で外部講師として5年間務める（北陸学院扇が丘幼稚園での保育指導を含む）	教育実践研究B	2	幼稚園教諭、副園長としての経験などに基づき、実践的な講義・演習を行う。
		教職実践演習（幼小中高・保）	2	幼稚園教諭、副園長としての経験等に基づき、実践的な演習を行う。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教職実践演習（幼小中高・保）	2	・教師として必要な資質・能力について石川県教育委員会や富山県教育委員会が求める教師像をもとに伝え、意識できるようにしている。 ・学生が本学入学時から4年次までをカリキュラムマップで振り返りながら、自分に身に付いた資質・能力、まだ身に付いていない資質・能力を意識させている。
		介護等体験	2	特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行とともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解させている。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【人間総合学部　社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
井上　克洋	公益社団法人 日本監査役協会に8年勤務	経済学Ⅰ	2	経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。
		経済学Ⅱ	2	経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　幼児教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
葦名　理恵	企業（ブライダルプロデュース会社：9年、旅行会社：15年）において勤務	異文化間コミュニケーション論	2	観光業経験から得た世界各地の価値観や慣習の違いを俯瞰的に見る視点を取り入れて講義を行う。
上田　ますみ	国立大学附属幼稚園の教諭及び管理職として31年間、公立小学校教員として7年間勤務	表現	2	幼稚園及び小学校での実践経験を活かし、具体的な実践事例や保育観察参観等を通して、表現の視点から子どもの姿や学び、教師の役割を考える授業を行う。
宇根本　聡	カウンセラーとして20年以上勤務	青年の心理	2	青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
岡田　文貴	社会福祉事業に35年以上勤務し、その中で障害児の相談援助や直接支援に5年勤務	社会福祉	2	社会福祉事業における勤務経験を活かし、社会福祉従事者に必要な価値観・態度・知識・情報・技術などについて説明し、これらの知識は保育分野でも有効であることを伝えている。
川真田　早苗	・小学校教諭として33年勤務	算数	2	小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。
桑田　千代	厚生労働省認定・Happy&Smileカレッジ・医療的ケア等教員講習会・医療的ケア等講習会講師 現在、医療的ケア児のための保育・療育通所施設代表管理者 保育教諭として12年、看護師（小児、救命救急）として11年勤務	健康活動	2	看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。
		保育内容・健康指導法	2	看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として15年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。
		家庭支援の心理学	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。
谷　昌代	・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。 ・こども家庭庁　子ども・子育て支援調査研究委員2023年度より。	キャリアデザインⅡ	1	子どもに関わるイベント運営に向けて学生たちが個々の能力を発揮しつつ、グループでの協働の体験を積む。保育者、教育者を目指す者として、子どもとの関わりから様々に感じ、身に付けたい力に気付いていく機会としたい。
		特別支援教育論	2	保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、支援について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。
		保育内容・人間関係指導法	2	幼稚園教諭、保育教諭の経験をもとに、学生たちが模擬保育（保育者・子ども）を通して体験していることを、実際の保育場面における子どもの姿と照らし合わせながら、実践後の講義の中で紹介している。
		乳児保育Ⅰ	2	保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割について現代の課題と共に歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオ映像や保育事例を通して伝えながら、乳児期における適切な環境のあり方と人との関わりの質について考えていく。
		障がい児保育	2	保育の現場で関わってきた障がいのある子どもたちの姿や当該児を含むクラスの子どもたちとの事例を提示し、多様な子どもたちの立場で感じたり考えたりする機会を大切にしている。インクルーシブ保育の実現に向け、支援の在り方を考え、当該児や保護者のよき理解者となれるよう学び合っていく。
		人間関係	2	ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録、保育場面のビデオ分析等を中心に捉えて話し合う。また、個・集団・仲間などの捉え方を実際の遊びや体験を通して感じる機会となるよう提供している。
中島　賢介	・高等学校で国語科教諭として5年間勤務 ・北陸学院小学校校長として3年間勤務	教職論	2	高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。
		郷土の文学	2	高等学校教諭時代における読書教育の実践を生かして、より身近により当事者性の高い作品や話題を提供している。
		国語	2	小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。
福江　厚啓	・公立小学校教諭9年間、国立幼稚園教諭9年間の実務経験 ・3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任（知障・自情）、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当、副教務、情報教育主担等	地域社会と子ども	2	幼稚園・小学校の勤務経験から、幼児・児童の発達段階や参観の視点、参与観察の仕方等について実践的な指導・助言を行う。
		キャリアデザインⅡ	1	市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。
		生活	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。
		キャリアデザインⅢ	1	地域におけるイベント運営を経験させることで、学生自身が自らの選択に応じ、子どもにかかわる専門職のみならず一般職に広く必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。
		キャリアデザインⅣ	1	幼稚園・小学校の勤務経験をもとに、学校現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示しながら，授業を行う。
		教育実践研究（小中高）	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　幼児教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
虫明　淑子	・幼稚園教諭、副園長として20年間勤務 ・石川県内の幼児教育機関で外部講師として5年間務める（北陸学院扇が丘幼稚園での保育指導を含む）	保育内容・環境指導法	2	幼稚園教諭、副園長、園内研修の外部講師としての経験を活かし、幼稚園、保育所、こども園で指導助言者として介入した実践や、幼稚園において幼児、保育者、保護者、地域と共に創出した様々な事例を基に展開する。
		環境	2	幼稚園教諭、副園長、園内研修の外部講師としての経験を活かし、幼稚園、保育所、こども園で指導助言者として介入した実践や、幼稚園において幼児、保育者、保護者、地域と共に創出した様々な事例を基に展開する。
		教職論	2	幼稚園教諭、副園長としての経験等に基づき、実践的な講義を行う。
		教育課程論	2	幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を通じて、様々な視点から蓄積した保育実践の事例や写真、映像記録を活用し、解説を行っている。
		保育内容総論	1	副園長や外部講師としての経験を活かし、幼児教育現場での実践や、園内で子ども、保育者、保護者、地域と共に創出した様々な事例を基に、写真や映像を活用して展開する。
		教育実習指導Ⅰ（幼）	1	幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を活かし、蓄積した保育実践の事例、写真、映像記録、その他の資料を活用して、多面的に展開する。
		教育実習指導Ⅱ（幼）	1	幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を活かし、蓄積した保育実践の事例、写真、映像記録、その他の資料を活用して、多面的に展開する。
		教育学文献講読A1	2	副園長としての経験を活かし、幼稚園現場における自らの実践や保育者への指導（保育内容や保育者としての姿勢など）の事例を基に、事実に基づいた様々な事例を挙げながら展開する。
		教育学文献講読B1	2	副園長としての経験を活かし、幼稚園現場における自らの実践や保育者への指導（保育内容や保育者としての姿勢など）の事例を基に、事実に基づいた様々な事例を挙げながら展開する。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育学概論	2	・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。
		データ分析と教育	1	石川県教育委員会が実施する小中学生対象の「基礎学力調査」において、児童生徒の「意識調査」のデータ分析を担当した。このときのデータを示しながら、教育におけるデータ分析の必要性について理解することができる授業を行う。
		教育の方法・技術（幼栄）	2	幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。
山本　良一	公立・国立・私立の学校（主として高校）に41年間勤務	教育実践研究（小中高）	2	中学校・高等学校での経験をもとに、学級経営の要点や事例を紹介している。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　初等中等教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
葦名　理恵	企業（ブライダルプロデュース会社：9年、旅行会社：15年）において勤務	異文化間コミュニケーション論	2	観光業経験から得た世界各地の価値観や慣習の違いを俯瞰的に見る視点を取り入れて講義を行う。
石上　佐知子	公立小・中学校の教諭及び管理職として18年間勤務（小学校教諭として8年間、中学校教諭（国語科）として6年間、小学校教頭として2年間、中学校教頭として2年間勤務）	教育実践研究（小中高）	2	公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実践を具体的かつ俯瞰的に示しながら学級経営に関する授業を展開する。
		生徒指導論	1	公立小中学校において教諭及び管理職の立場から、「チーム学校」として生徒指導・支援に取り組んだ経験を生かし、学校現場における課題や実践事例を交えて授業を行う
		国語	2	公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、国語科の本質について問いをもちながら、小学校国語科の内容について実践的に授業を行う。
		国語科指導法（書写を含む）	2	公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、学びの連続性を踏まえた授業内容を構成する。また理論と実践の両輪からなる初等国語科教育について、言語活動を交えながら実践的に授業を展開する。
		教育実習指導（小）	1	公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実習に関わる実践事例を示しながら授業を展開する。
宇根本　聡	カウンセラーとして20年以上勤務	青年の心理	2	青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
川真田　早苗	・小学校教諭として33年勤務 ・ソニー科学教育研究会(SSTA)では10年間企画研修委員として理科授業の改善に取り組んだ。現在も、関わり活動している。 ・全国学力・学習状況調査問題作成·分析委員会（小学校理科）の委員として平成25年度の報告書及び調査結果資料を分担執筆した。 ・学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者として、小学校学習指導要領（平成29年告示）理科編を分担執筆した。	理科	2	小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。
		算数科指導法	2	小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。
		理科指導法	2	小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。
		算数	2	小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。
		教育課程編成論	2	小学校での研修主任の経験をもとに、教育課程編成の意義や方法及び江戸後期からこれまでの日本の教育及び学習指導要領の変遷について説明し、平成29年学習指導要領のねらいを実現するためにはどのような教育課程を編成するかについてディスカッションを行っている。
		教育実習指導（小）	1	・小学校教諭としての経験をもとに、児童の発達段階に応じた教員の支援について具体的に説明 している。 ・小学校での教育実習生受け入れ教員としての経験をもとに、教育実習生としての心構え・実習での態度及び教員・児童・保護者に対する対応について具体的に説明している。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として15年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。
谷　昌代	・幼稚園、幼保連携型認定こども園、保育所等乳幼児教育保育施設にて約14年間勤務。 ・金沢市教育プラザ統合保育巡回指導員を2018年度より担当。 ・保育士等キャリアアップ研修講師を2019年度より担当。 ・こども家庭庁　子ども・子育て支援調査研究委員　2023年度より。	キャリアデザインⅡ	1	子どもに関わるイベント運営に向けて学生たちが個々の能力を発揮しつつ、グループでの協働の体験を積む。保育者、教育者を目指す者として、子どもとの関わりから様々に感じ、身に付けたい力に気付いていく機会としたい。
		特別支援教育論	2	保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、支援について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。
中島　賢介	・高等学校で国語科教諭として5年間勤務 ・北陸学院小学校校長として3年間勤務	教職論	2	高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。
		郷土の文学	2	高等学校教諭時代における読書教育の実践を生かして、より身近により当事者性の高い作品や話題を提供している。
福江　厚啓	・公立小学校教諭9年間、国立幼稚園教諭9年間の実務経験 ・3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任（知障・自情）、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当、副教務、情報教育主担等	地域社会と子ども	2	幼稚園・小学校の勤務経験から、幼児・児童の発達段階や参観の視点、参与観察の仕方等について実践的な指導・助言を行う。
		キャリアデザインⅡ	1	市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。
		生活	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。
		キャリアデザインⅢ	1	地域におけるイベント運営を経験させることで、学生自身が自らの選択に応じ、子どもにかかわる専門職のみならず一般職に広く必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。
		キャリアデザインⅣ	1	幼稚園・小学校の勤務経験をもとに、学校現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示しながら，授業を行う。
		生活科指導法	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【教育学部　初等中等教育学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
福江　厚啓	・公立小学校教諭9年間、国立幼稚園教諭9年間の実務経験 ・3歳～12歳までの担任および特別支援学級担任（知障・自情）、特別支援教育コーディネーター、就学指導担当、副教務、情報教育主担等	社会	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。
		社会科指導法	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。
		教育実習指導（小）	1	・小学校教諭としての経験をもとに、小学校における実践（保幼小連携、特別支援等）を紹介し、グループ討議等に利用。 ・授業記録の取り方や研究協議会の持ち方など、現場における授業研究で即戦力となる技術を伝達している。
		教育実践研究（小中高）	2	小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。
虫明　淑子	・幼稚園教諭、副園長として20年間勤務 ・石川県内の幼児教育機関で外部講師として5年間務める（北陸学院扇が丘幼稚園での保育指導を含む）	教職論	2	幼稚園教諭、副園長としての経験等に基づき、実践的な講義を行う。
		教育学文献講読A1	2	副園長としての経験を活かし、幼稚園現場における自らの実践や保育者への指導（保育内容や保育者としての姿勢など）の事例を基に、事実に基づいた様々な事例を挙げながら展開する。
		教育学文献講読B1	2	副園長としての経験を活かし、幼稚園現場における自らの実践や保育者への指導（保育内容や保育者としての姿勢など）の事例を基に、事実に基づいた様々な事例を挙げながら展開する。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育学概論	2	・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。
		データ分析と教育	1	石川県教育委員会が実施する小中学生対象の「基礎学力調査」において、児童生徒の「意識調査」のデータ分析を担当した。このときのデータを示しながら、教育におけるデータ分析の必要性について理解することができる授業を行う。
		教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）	2	小学校、中学校、高等学校の教育方法（ICT活用を含む）について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。
		道徳教育指導論	2	小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。
		教育課程編成論	2	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		進路指導論	1	小学校、中学校、高等学校における教育アドバイザーを経験している。その際に入手した各学校の「管理運営計画」を基に学習資料を作成し授業で配付して、学生の理解度を高めている。
		総合的な学習の時間の指導法	1	総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。
		特別活動の理論と方法	1	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		教育史	2	教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。
		教育実習指導（小）	1	小学校における児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。
		介護等体験	2	特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行うとともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解させている。
		家庭	2	小学校教師として第5学年、第6学年の家庭科を担当した。この経験をもとに教える立場としての苦労や喜びを履修生に伝える。
山本　良一	公立・国立・私立の学校（主として高校）に41年間勤務	地域社会と子ども	2	中学校・高等学校の教員としての経験をもとに、現場で起きた問題をテーマにしたグループ調査・ディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。
		言語教育のための英文法Ⅰ	2	中学校・高等学校の教員としての経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心がけている。
		言語教育のための英文法Ⅱ	2	中学校・高等学校の教員としての経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生が自身の文法力をメタ認知できるように心がけている。
		アクティブ・イングリッシュB	2	国際理解教育担当の経験を生かして、コミュニケーションの必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活（約2週間）を実現するための一助としている。
		英語	2	中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、幼・保～高等学校における外国語活動・外国語の授業をするために必要な「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身につけるための指導をしている。
		教育実践研究（小中高）	2	中学校・高等学校での経験をもとに、学級経営の要点や事例を紹介している。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学部　社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
葦名　理恵	企業（ブライダルプロデュース会社：9年、旅行会社：15年）において勤務	グローバル社会論	2	観光業経験から得た世界各地の価値観や慣習の違いを俯瞰的に見る視点を取り入れて講義を行う。
		ホテルサービス論	2	ツアーコンダクターの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。
		インバウンドツーリズム	2	着地型観光商品の造成、営業販売、ガイドの経験から総合的に地域にとってのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。
井上　克洋	公益社団法人 日本監査役協会に8年勤務	経済学Ⅰ	2	経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。
		経済学Ⅱ	2	経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。
植田　峰悠	・公認心理師・臨床心理士 ・心療内科クリニックに5年間勤務 ・小学校、中学校、高等学校のスクールカウンセラーとして12年勤務 ・大学における学生相談業務に18年間従事 ・石川県スクールカウンセラースーパーヴァイザー（2024年度）	臨床心理学概論	2	これまでの実務経験に基づいて、それぞれの理論や実際の支援内容がイメージしやすくなるような具体例等を適宜紹介しつつ講義を行う。
		心理学実験Ⅰ	2	それぞれの実験課題が公認心理師としての職務にどのように活かされるのかについて、実務経験に基づいて適宜解説を加える。
		心理的アセスメント	2	実施や解釈の手順にとどまらない、支援の一環としてのアセスメントが学べるよう、演習を通して実務経験に基づく臨床的な視点が学べるよう指導する。
		心理演習	2	これまでの実務経験をふまえ、特に臨床を行う上で重要な視点については多側面から繰り返し取り上げつつ、授業で取り上げた内容がどのように臨床現場で活かされるのか具体的にイメージできるよう演習を行う。
		公認心理師の職責	2	単なる職務内容の紹介にとどまらないよう、なぜそうすべきであるのか、どのように行うのかについて実務経験をふまえ解説を行う。
		心理実習	2	実習生としての心構えやふるまい方、注意点、必要な知識、具体的な活動などについて、実務経験に基づく実践的な指導を行う。
宇根本　聡	カウンセラーとして20年以上勤務	青年の心理	2	青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
		学校心理学(教育・学校心理学)	2	スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
大矢　正則	小学校・中学校・高等学校の校長として勤務、児童相談所や、市区の子ども家庭支援センターの職員等と連携・協同して、困難な状況下におかれた子どもたちの安全・安心の確保に努めている。 その間、病院倫理委員として終末期医療を受ける高齢者および家族に対する職員の倫理に関して、心理学的観点から意見を発信している。 特定非営利法人ストレス対処法研究所にて、監事を務めている。監事となる前はカウンセラーとして若者の就労支援にあたっていた。また路上生活者支援を教育活動にも携わっている。	福祉心理学	2	小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。 自身の経験を踏まえ、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかをペア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として15年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
		教育心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。
		心理演習	2	心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。
高橋　律子	学芸員として20年間勤務	生涯学習概論	2	学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。
前川　直樹	社会福祉法人職員として15年以上勤務	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
真砂　良則	福祉施設において16年間勤務	現代社会と福祉Ⅰ	2	社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。
		現代社会と福祉Ⅱ	2	
		高齢者福祉論	2	高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。
		ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。
		ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	ネットワークやカンファレンス等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	社会資源の活用･調整･開発等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【社会学部　社会学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
松多　岳史	医療機関において20年以上勤務	保健医療サービス	2	実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。
三田村　悦子	公立図書館に正規職員（司書）として勤務（23年半） 公立図書館長として勤務（10年）	児童サービス論	2	子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。
		図書館制度・経営論	2	館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【健康科学部　栄養学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
中川　明彦	医療機関における管理栄養士として約40年勤務	臨床栄養学Ⅰ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。
		臨床栄養学Ⅱ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。
		臨床栄養学Ⅲ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することを理解し、チーム医療のスタッフとの連携を計るために必要な食事・栄養管理の評価、計画、栄養教育などの知識、実際の医療施設のマニュアル用いて、管理栄養士の業務について総合的に学習し、実習に繋げる。
		臨床栄養学演習	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）が確認できるまでの、実務の基本を演習を通して、学習する。
		臨床栄養学実習Ⅰ	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。
		臨床栄養学実習Ⅱ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。
		臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。
		臨地実習ⅢB（臨床栄養学分野）	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。
		総合演習Ⅰ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療機関における各疾患における各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討する。管理栄養士の業務の基本であり、栄養素の過不足が検査データに反映されるため、栄養算出は大切なであることを理解する。
		総合演習Ⅱ	2	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討し、食事摂取基準（2025年版 ）と比較し場合、過不足について、統計処理し、その有意差の有無を統計的に評価する作業能力を身に付けることにより、研究、調査が進展する。
		健康・栄養総合演習Ⅰ	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定、国民健康・栄養調査結果により管理栄養士はどのように啓発が必要なのかを理解する。健康になる栄養管理ができる方と栄養教育を受けていない一般の方とは、食習慣や食事バランス（1日に摂取する栄養素）の違いを評価、調査依頼する。 食事調査を行い、摂取するエネルギー量、各栄養素量の過不足を評価する。
		健康・栄養総合演習Ⅱ	1	医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定について、国民健康・栄養調査結果、国立がん研究センター、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所による日本の健康・栄養、各学会のガイドラインなどから、日本人に必要な栄養管理と運動指針を集約し、評価することにより、日本人の総合的な健康・栄養指針を検討する。さらに健康度は、個人差があるが、個人の遺伝子検査結果に基づく、疾患のリスク、栄養管理リスクなどを認識 することにできるようになった。 新しい栄養管理については、教科書には反映されていないが、個人レベルの検査として、通販の検査で容易にでき、検査結果は医学的に確立されている。このように常に最先端の栄養管理について、個人へのエイジングケアに移行している背景を学習し、管理栄養士の視野を広げる。
齊藤　英俊	公認心理師・臨床心理士、非常勤のカウンセラー（主にスクールカウンセラー・学生相談員）として15年間勤務	発達心理学	2	スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。
宇根本　聡	カウンセラーとして20年以上勤務	青年の心理	2	青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。
村井　万寿夫	・小学校教員として26年間勤務。 ・現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員（日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー）として小中高等学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。	教育学概論	2	・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。
		教育の方法・技術（幼栄）	2	幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。
		特別活動の理論と方法	1	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		道徳教育指導論	2	小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。
		教育課程編成論	2	小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
		総合的な学習の時間の指導法	1	総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。
畑山　千春	石川県内小中学校にて、学校栄養職員、栄養教諭として40年以上勤務 （石川県教育委員会指導主事として7年間勤務）	学校栄養指導論Ⅰ	2	教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。

2025年度　実務経験のある教員による授業科目一覧

【健康科学部　栄養学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要
長井　直子	金沢市職員として40年以上勤務（公衆栄養業務等）	公衆栄養学Ⅰ	2	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。
		公衆栄養学Ⅱ	2	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。
		公衆栄養学実習	1	自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。（長井）

SDGs の 17 の目標

目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる【国地総:全般】

目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する【経安、国地総:全般】

目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

目標 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う

目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

目標 9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

目標 10. 各国内及び各国間の不平等を是正する

目標 11. 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する

目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する

目標 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる*【国地気候:全般】
*国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が、気候変動への世界的対応について交渉を行う基本的な国際的、政府間対話の場であると認識している。

目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標 15. 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目標 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（人間総合学科社会学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
中野　修	関係行政論	3	「関係行政論」では、保健医療・教育・福祉・司法・産業の5領域における法律・制度を学ぶ。専門職である公認心理師として、法律・制度を通して、将来的にあらゆる年齢のクライエントの健康的な生活を確保し、福祉を促進するための力を養い・知識を得ることを目標としている。
松多　岳史	保健医療サービス	1、3、10、11	保健医療サービスでは医療が必要になった患者・家族の、経済的問題、介護の問題、療養方法の問題などを解決するために、関係するステークホルダーと多機関・多職種連携を行うことを講義します。

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（教育、社会、健康科学部共通科目）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
土屋仁美	日本国憲法	1～17	日本国憲法は人権保障を目的としている。また、17 の持続可能な開発のための目標（SDGs）と、169 のターゲットも、「すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女児の能力強化を達成することを目指す」ものである(「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」)。
矢澤励太	北陸学院セミナーⅠ	3、12、13	フレッシュマン・セミナー主題講演の中でSDGsの概要に触れ、「つくる責任、つかう責任」（12）や「気候変動の現状と対策」（13）を扱い、「すべての人に健康と福祉を」（3）実現する社会のためにどのような働き手となりたいか、どのような学びを本学で進めていきたいかを話し合う機会を設ける。
	北陸学院セミナーⅡ	3	オータム・セミナー、バイブル・セミナーにおいて「すべての人に健康と福祉を」（3）実現する社会のためにどのような働き手となりたいか、どのような学びを本学で進めていきたいかを話し合う機会を設ける。

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（教育学部幼児教育学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
北川　節子	子どもの健康と安全	3	乳幼児の健康を維持・増進させるための生活の支援や感染症対策、事故の防止、健康管理の方法を学ぶ。
谷　昌代	乳児保育Ⅰ	3、4	日本の少子化が継続した先の社会を支える構造を考え、3.「すべての人々の健康な生活」の確保と福祉を考える視点を持ち、乳幼児、子育て世代が安心できる環境を目指し問い続ける。さらに、全ての子どもたちが4.「質の高い乳幼児の発達・ケア及び就学前教育へのアクセス」として、人間形成の土台となる乳幼児期における保育の質と関連して考えてきたい。
	人間関係	11	本科目では、様々な体験により安心、安定した人間関係の構築について考えていく。 11の目標の中、「女性、子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共のスペース」への保障を掲げ、人々が出会う場が減少しつつある現代において、環境の質と人との関わりの相互作用を考え続けていく。
	特別支援教育論	3、4	本科目は、インクルーシブ保育、教育について、多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを享受するものとしての理解を目指す。4.の目標の中で「障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセス」と掲げられるように全てに等しく共にあることの意味を保育・教育現場と家庭、地域と包括的に考えていく。
	障がい児保育	4、10	本科目では全ての人々が共生するインクルーシブ社会の実現を目指し、保育の中でも多様な子どもたち一人ひとりの育ちを大切にした援助を学ぶ。4「全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」、10「各国内及び各国間の不平等を是正する」障害の有無に関係なく、その子（人）らしく生活できる社会の在りようも考えていきたい。
	キャリアデザインⅡ	4、17	自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高める。教育学部であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、地域社会における協働の経験を通し、社会から求められる事柄が何であるのかを実感する。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。
福江　厚啓	生活	4	幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について実感を通して理解を深め、非認知能力を育むことや、誰も取り残されない豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。
	キャリアデザインⅢ	4、17	自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高める。「運営スタッフ活動」を経験することで運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会で協働する一員としてどのようなことが求められ、自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。
	キャリアデザインⅡ	4、17	自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高める。教育学部であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、地域社会における協働の経験を通し、社会から求められる事柄が何であるのかを実感する。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。
丸井　一誠	身体表現	4、5	本科目は男女問わず、すべての人類に身体や表現について学び続けるための資質・能力を育み、次世代に向けて生涯学習の機会を促進する科目である。
山本　良一	地域社会と子ども	4	小学校・中学校・高等学校の英語教育において行われている英語教育を参観することを通して、全ての児童生徒が適正に英語教育を受け生涯学習につながっていることに気づくよう指導している。

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（教育学部初等中等教育学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
荒井　紀子	家庭科指導法	1、2、3、4、5、6、11、12、13	本科目は、家庭や生活を取り巻く問題への理解を深め、より良い生活を営むための実践力を育む小学校家庭科の教授法を学ぶ科目である。学習内容は、衣食住や家族、経済、環境、消費などを含み、SDGの各ゴールと親和性が高い。具体的には、1「貧困」、2「飢餓」、3「健康・福祉」、4「質の高い教育」、5「ジェンダー平等」、6「水・衛生」、11「人間居住」、12「生産消費形態」、13「気候変動の軽減」と関連性がある。
石上　佐知子	国語科指導法（書写を含む）	4	言葉の学びを通して、質の高い教育の実現(4.1)、および読み書き能力の獲得(4.6)、日本の言語文化の理解(4.7)を図るとともに、それらを通して質の高い教員の育成(4.c)に取り組む。これらの取組により、SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の達成へ向け貢献する。
	国語	4	言葉の学びを通して、質の高い教育の実現(4.1)、および読み書き能力の獲得(4.6)、日本の言語文化の理解(4.7)を図る。これらの取組により、SDGsの目標5「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の達成へ向け貢献する。
谷　昌代	特別支援教育論	3、4	本科目は、インクルーシブ保育、教育について、多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを享受するものとしての理解を目指す。4.の目標の中で「障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセス」と掲げられるように全てに等しく共にあることの意味を保育・教育現場と家庭、地域と包括的に考えていく。
	キャリアデザインⅡ	4、17	自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高める。教育学部であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、地域社会における協働の経験を通し、社会から求められる事柄が何であるのかを実感する。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。
福江厚啓	キャリアデザインⅡ	4、17	自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高める。教育学部であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、地域社会における協働の経験を通し、社会から求められる事柄が何であるのかを実感する。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。
	キャリアデザインⅢ	4、17	自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高める。「運営スタッフ活動」を経験することで運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会で協働する一員としてどのようなことが求められ、自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。
	社会	4	小学校社会科における「当事者性」を育む授業内容について、実践的に理解を深める。その際、SDGs並びにESDといった持続可能な社会づくりやその担い手の育成の必要性について実感を通して理解し、授業づくりへの関心・意欲を高めるようにしたい。
	生活	4	幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について実感を通して理解を深め、非認知能力を育むことや、誰も取り残されない豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。
丸井　一誠	体育科指導法	4、5	本科目は男女問わず、すべての人類に体育や運動について学び続けるための資質・能力を育み、次世代に向けて生涯学習の機会を促進する科目である。
山本 良一	英語科指導法	4	小学校の英語教育において、全ての児童が適正に英語教育を受け、目標としている英語力を習得することを保証し、この先の英語学習にもつながるよう、指導している。
	英語科教育法Ⅱ	4	中学校・高等学校の英語教育において、全ての生徒が適正に英語教育を受け、目標としている英語力を習得することを保証し、この先の英語学習にもつながるよう、指導している。
	英語科教育法Ⅲ	4	中学校・高等学校の英語教育において、全ての生徒が適正に英語教育を受け、目標としている英語力を習得することを保証し、この先の英語学習にもつながるよう、指導している。
	地域社会と子ども	4	小学校・中学校・高等学校の英語教育において行われている英語教育を参観することを通して、全ての児童生徒が適正に英語教育を受け生涯学習につながっていることに気づくよう指導している。

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（社会学部社会学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
赤羽　由起夫	権利擁護を支える法制度	3	授業内で権利と法の関連を学ぶことで、福祉のあり方を学ぶ。
	刑事司法と福祉	3、16	授業内で福祉と司法の関連を説明し、その制度のあり方を学ぶ。
	社会病理学	1、4、5、8、10	授業内で社会病理と貧困、教育、ジェンダー、労働、格差との関連を説明し、その現状や対策を学ぶ。
	社会学概論B	1、3、4、5、8、10	授業内で貧困、福祉、教育、ジェンダー、労働、格差をあつかい、その現状や対策を学ぶ。
曺　由寛	精神疾患とその治療	3	目標3は「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」です。 本授業では、精神疾患や心理的問題を扱うこと、リエゾン、多職種協働、医療連携を学びます。 これらのことが、健康的な生活の確保や福祉をすすめる目標に繋がると考えられます。
	精神疾患とその治療	5	目標5は「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」です。 本授業では、ジェンダー及び女性における心理的問題について扱う章があります。女性における精神的、心理的知識の習得により、女性に対する理解の促進に繋がります。また、LGBTQのメンタルヘルスも含まれており、ジェンダー平等に貢献しうると考えられます。
	精神疾患とその治療	8	8は「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」です。 本授業では、働く上で精神疾患に繋がるケース等、学ぶことによって、間接的にどのように働くか、人間らしく働くこととはどのようなことであるかを考え、学びに繋がると考えられます。
	精神疾患とその治療	10	10は「各国内及び各国間の不平等を是正する」です。 本授業では、様々な精神疾患や発達症等について学びますが、社会的問題について触れることも少なくありません。精神疾患への社会的な差別や不平等さも内容に含まれていたり、間接的な学びに繋がると考えられます。
高橋　律子	生涯学習概論	4	生涯学習は、すべての人が平等に学び続ける機会を持てる社会を目指します。特に、社会的に弱い立場にある人々への教育機会の提供や、デジタル技術を活用した遠隔教育の普及が重要です。これにより、教育の公平性が高まり、持続可能な社会の実現に寄与します。
陳　萍	社会保障論	1、3	目標1「貧困をなくそう」においては、「各国において最低限の基準を含む適切な社会保護制度及び対策を実施し、2030年までに貧困層及び脆弱層に対し十分な保護を達成する。」とされている。 社会保障は貧困の未然防止（防貧）と貧困からの救済（救貧）の両面から、貧困の社会的責任に対応しており、貧困の克服において重要な役割を果たしている。社会保障は防貧・救貧の基本的制度と言える。本科目である社会保障論は貧困の克服について考える機会になる。 目標3「すべての人に健康と福祉を」においては、「全ての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を達成する。」とされている。 日本政府はすべての国民が健康的・文化的な最低限度の生活を営む権利を保護するため、社会保険、社会福祉、公的扶助、公衆衛生との社会保障制度を制定している。社会保障制度は国家責任による国民生活の基盤と言える。本科目である社会保障論は生活者の視点から現代生活をめぐる諸問題や、尊厳ある生活の実現のための対策について考える機会になる。
堂田　俊樹	公的扶助論	1	貧困の防止、貧困救済、セィフティネット
平岩　英治	マーケティング論	1、2、3、14	マーケティング論では、ソーシャル・マーケティングについて解説を行う回がある。ここでは、社会的なマーケティングについて解説する予定であり、貧困などに対してはフェア・トレード、災害や環境問題への対応のための寄付などに対してはコーズ・リレーテッド・マーケティングなどの解説を行う予定である。
	経営学入門	1、2、3、14	経営学入門では、戦略について解説を行う回がある。ここでは、CSR、CSVについて解説する予定であり、貧困などに対してはフェア・トレード、災害や環境問題への対応のための寄付などに対してはコーズ・リレーテッド・マーケティングなどの解説を行う予定である。
	経営戦略論	1、2、3、14	経営戦略では、戦略の社会的側面について解説を行う回がある。ここでは、CSRやCSVについて解説する予定であり、貧困などに対してはフェア・トレード、災害や環境問題への対応のための寄付などに対してはコーズ・リレーテッド・マーケティングなどの解説を行う予定である。
宮城　徹	司法・犯罪心理学	3、5、11、16	本科目は、日本の司法制度の下で、福祉、ジェンダー平等、社会の安寧、平和といった課題に主に心理学的視点からいかに取り組むかを学ぶ。

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（社会学部社会学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
矢澤　励太	キリスト教と社会	8、10、16	不平等を是正し、社会正義を実現すること、働きがいのあるミッションフィールドを人生に見出すことを、科目の学びを通して考えるきっかけとする。

2025年度 SDGs17の目標と科目の関連性（健康科学部栄養学科）

教員名	科目名	目標番号	科目と目標の関連性
笠原　賀子	栄養教育論Ⅰ	3、4	栄養教育は、生涯にわたり、人々の健康の増進、QOLの向上を目的とするものであり、目標3・4と深く関係する。
	栄養教育論Ⅱ	3、4	栄養教育は、生涯にわたり、人々の健康の増進、QOLの向上を目的とするものであり、目標3・4と深く関係する。
	栄養教育論Ⅲ	3、4	栄養教育は、生涯にわたり、人々の健康の増進、QOLの向上を目的とするものであり、目標3・4と深く関係する。
	栄養教育論実習Ⅰ	3、4	栄養教育は、生涯にわたり、人々の健康の増進、QOLの向上を目的とするものであり、目標3・4と深く関係する。
	栄養教育論実習Ⅱ	3、4	栄養教育は、生涯にわたり、人々の健康の増進、QOLの向上を目的とするものであり、目標3・4と深く関係する。
田中　弘美	給食経営管理論Ⅰ	12	円滑な給食経営のためには給食に関わる組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力が求められる。食材料管理について購買管理やロス管理は、目標12と深く関係する。
	給食経営管理論Ⅱ	4、12	円滑な給食経営のためには、給食に関わる組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力が求められる。社会貢献という側面からも、目標4、12と深く関係する。
	給食経営管理実習Ⅰ	12	栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを必要とする給食管理は、作業工程において、効率的な業務プロセスや環境を考えることが必要である。食品ロスの削減は、目標12と深く関係する。
	給食経営管理実習Ⅱ	12	栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを必要とする給食管理は、作業工程において、効率的な業務プロセスや環境を考えることが必要である。食品ロスの削減は、目標12と深く関係する。
谷　昌代	特別支援教育論	3、4	本科目は、インクルーシブ保育、教育について、多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを享受するものとしての理解を目指す。4.の目標の中で「障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセス」と掲げられるように全てに等しく共にあることの意味を保育・教育現場と家庭、地域と包括的に考えていく。
林　宏一	公衆衛生学実験	3	公衆衛生学はすべての人々の健康を目指すものである。本科目では、保健統計の利活用や環境問題の学習をとおして、この目標に直接関わっている。
	公衆衛生学実験	6	安全な水の供給、確保は公衆衛生学に課された重要なテーマである。本科目では、生活者が利用する水の分析をとおして水質基準の学習を行い、この目標に直接関わっている。
矢澤　励太	キリスト教といのち	2、3、12	飢餓をなくし、持続可能な消費生活とすべての人に健康と健やかな生活を保証する社会実現のために、自分に何ができるかを考え実践してみる課題に取り組んでみる。

授業科目名	LE165U ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭA			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、8月中旬4日間のBritish Hills(福島県)研修では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)

授業の到達目標

①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。
②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。
③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。
④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。
⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。
⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。
⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。

教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。	
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。	
4	British Hills（以下BH）(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。	
5	BH(2)　Team Challenge（Intermediate)：英語のさまざまなゲームをチーム対抗で競い合うことで、チームメンバーについて知り、協力関係を築きつつ、英語発話を自然に行えるようにする。	
6	BH(3)　Interview & Orienteering:BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。	
7	BH(4) Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。	
8	BH(5)　British Wedding：イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。	
9	BH(6)　World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。	
10	BH(7)　Travel in UK：英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。	
11	BH(8)　Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。	
12	BH(9)　Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。	
13	BH(10)　Group presentation 3:　最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。	
14	BH(11)　Group presentation 4:　最終プレゼンテーション　自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。	
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身につける。 ③英語運用力測定。	BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分]
②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分]
③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

随時行う。

受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	LE170U アクティブ・イングリッシュB			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一・葦名　理恵　（代表教員　山本　良一）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は，大学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。
2025年8月下旬から9月上旬にに16日間の予定でオーストラリア、パース市の西オーストラリア大学(The University of Western Australia)での語学研修・地域での国際交流活動・ホームステイを通して、オーストラリアの文化と社会について学びます。
事前学習では海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学びながら準備を整え、海外研修中は毎日、英文日誌をつけます。帰国後には事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会では英語でプレゼンテーションを行う。

授業の到達目標

①海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。
②英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。
③異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介できるようになる。
④ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。
⑤語学研修・国際交流活動を通じて、オーストラリアの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。
⑥語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告できるようになる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する（している）ことが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	山本・葦名
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。教科書の自己紹介スクリプトを参考にプレゼンの準備をし、プレゼン用ソフトを用いて英語で自己紹介を行う。	山本・葦名
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。日本文化についてのトピックを一つ設定し、外国人に説明するためのプレゼンを行い、事後学習（発表会）の練習をする。	山本・葦名
4	西オーストラリア大学での英語研修・自己紹介を含む、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
5	西オーストラリア大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
6	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
7	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
8	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
9	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
10	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
11	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
12	西オーストラリア大学での英語研修、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
13	西オーストラリア大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
14	西オーストラリア大学での英語研修・修了式、国際交流活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動	葦名
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュB」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。	山本・葦名

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、聞き手に分かりやすく発表する。 ②事前にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト）を受験し英語力の伸長を測定・評価する。	オーストラリア研修参加態度	60	①オーストラリア、西オーストラリア大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 ②多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。
英文日誌と事後レポート	20	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	10	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト）を受験し英語力の伸長を測定・評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分]
②どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分]
③集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

随時行う。

受講生に望むこと	①渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ②どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。 ③集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentations』　Akira Morita他著　成美堂　2018年　ISBN: 978-4791934249
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	①履修登録者が12名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ②事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ③事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 ④事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。 ⑤対面授業（事前・事後）ができない場合はClassroomを用いて課題を提示することがある。 ⑥事前授業の際はchromebookを持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	LE175U ｱｸﾃｨﾌﾞ・ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭC			開講学科	人間総合	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。
本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。

授業の到達目標

・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。
・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。
・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。
・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）

留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	EK305U 専門ｾﾞﾐⅡ			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	武田　恵美・村井　万寿夫・石上　佐知子・永山　亮一・ポーター　倫子・宮浦　国江・虫明　淑子・福江　厚啓・谷　昌代・松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「基礎ゼミ」・「プロゼミ」・「専門ゼミⅠ」での学修及び研究方法を土台として、各自の関心のある研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員の指導のもとで学修及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに基づき、専門分野に関する文献講読とディスカッションを中心に行い、理解を深める。 その後、ゼミ担当教員の指導のもと、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査やデータ収集等を行い、卒業研究・ゼミレポート（該当年度の1月締切）の完成を目指す。	① ゼミプランに基づき、専門分野に関する多くの文献に触れる。 ②各自が設定した研究テーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集等を行うことができる。 ③レポートの作成を通して、研究テーマをより深く考察し、文章化できる。 ④グループディスカッションを通して、教員やゼミ内の学生の考えを理解し、多様な視点を取り入れることができる。 ⑤「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」にて研究成果を発表するとともに、他の学生（含他学年）と意見交換できる。

教授方法	ゼミごとに担当教員の指示のもと演習形式で行う。
履修条件	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「プロゼミA・B」、「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）ゼミプランに基づきオリエンテーションを行い、年間の見通しを持つ。 （後半）３年次の専門ゼミレポート内容を確認しながら4年次の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	各担当教員
2	各自のテーマと研究計画についてゼミ内でディスカッションし、研究テーマの方向性を決める。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
7	これまでの研究進捗をゼミ内でディスカッションする。 調査などを含め、前期中にどこまで研究を進めるかを担当教員とディスカッションし、共有する。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
14	前期までの研究を各自でまとめ（結果の考察、データ処理、文書作成など）、ゼミ内で共有する。	各担当教員
15	前期の進捗状況（中間報告など）を行うとともに、各自が後期への見通しを持つ。	各担当教員
16	前期の最終ゼミで確認したことをもとに、卒業研究・専門ゼミⅡレポート作成への見通しを持つ。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
23	卒業研究・ゼミレポートの進捗状況を共有する。 今後の進め方についてディスカッションを行い、ゼミ内で共有する。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。	各担当教員
28	卒業研究・専門ゼミⅡレポートを仕上げる。印刷して自己チェックを行い、提出に向けてまとめる。 各自の作成した卒業研究・専門ゼミⅡレポートについて、ゼミ内でディスカッションし、共有する。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」に向けた準備（発表順や役割分担）、リハーサルを行う。	各担当教員
30	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」に向けた準備（発表順や役割分担）、リハーサルを行う。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	50	①ディスカッションへ積極的に参加をしている。 ②文献等の調査を積極的に行っている。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしている。	卒業研究または専門ゼミⅡレポート	50	①指定された文字数、書式等が守られている。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切に記述されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。［60分］ 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	①「専門ゼミⅡ・卒業研究概要についての資料」と「専門ゼミⅡ・卒業研究様式資料」を熟読すること。 ②研究テーマに主体的に取り組んでほしい。 ③Google classroom等を通して専門ゼミⅡに関する情報や資料を配信するので、確認すること。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	EK360U 卒業研究			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・石上　佐知子・永山　亮一・ポーター　倫子・宮浦　国江・虫明　淑子・福江　厚啓・谷　昌代・松本　理沙・村井　万寿夫・齊藤　英俊　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
４年間の学びの集大成として、「基礎ゼミ」・「プロゼミ」・「専門ゼミⅠ」での基礎知識・専門知識の学修及び研究方法を土台として、各自の関心のある研究テーマをより深く考察するために、ゼミ担当教員の指導のもとで、学修及び研究を進める。 研究を進める際には、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査やデータ収集等を行い、学修内容を論理的・体系的にまとめ、考察する。また、自身の研究を省察し、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。 研究の手順としては、各ゼミプランと個別の研究計画をもとに遂行し、担当教員による個別指導に加え、ゼミ内ディスカッションを行う。そして、卒業研究としてまとめ、研究の成果を発表する（24,000字以上）。卒業制作を行う場合は、作品の製作とその内容を説明し、補強する副研究を作成して研究の成果を発表する（16,000字以上）。	①各自が設定した研究テーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集等を行うことができる。 ②卒業研究や卒業製作（作品と副研究）を通して、設定した研究テーマをより深く考察し、文章化できる。 ③卒業研究を通して、洞察力・分析力・考察力・省察力などを身につける。 ④学修内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表できる。 ⑤「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」にて研究成果を発表するとともに、他の学生（含他学年）と意見交換できる。

教授方法	ゼミごとに担当教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる。
履修条件	「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「プロゼミA・B」、「専門ゼミⅠ」を履修し、単位を修得していること。３年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）ゼミプランに基づきオリエンテーションを行い、年間の見通しを持つ。 （後半）３年次の専門ゼミレポート内容を確認しながら4年次の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。	各担当教員
2	各自のテーマと研究計画についてゼミ内で共有し、互いの研究方法についてディスカッションする。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
7	これまでの研究進捗をゼミ内でディスカッションする。 調査などを含め、前期中にどこまで研究を進めるかを担当教員とディスカッションし、共有する。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
14	前期までの研究を各自でまとめ（結果の考察、データ処理、文書作成など）、ゼミ内で共有する。	各担当教員
15	前期の進捗状況（中間報告など）を行うとともに、各自が後期への見通しを持つ。	各担当教員
16	前期の最終ゼミで確認したことをもとに、卒業研究作成への見通しを持つ。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
23	卒業研究の進捗状況を共有する。 今後の進め方についてディスカッションを行い、ゼミ内で共有する。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導・助言をもとに研究を進める。	各担当教員
27	指定された書式に従って、卒業研究要旨の作成を行う。	各担当教員
28	卒業研究を仕上げる。印刷して自己チェックを行い、提出に向けてまとめる。 各自の作成した卒業研究について、ゼミ内でディスカッションし、共有する。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」に向けた準備（発表順や役割分担）、リハーサルを行う。	各担当教員
30	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」で発表を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識している。	卒業研究の作成	70	①指定された文字数、書式等が守られている。 ②定められた期日を守って提出している。 ③内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切に記述されている。
卒業研究の発表	20	「卒業研究・専門ゼミⅡレポート 発表会」において、研究の内容を効果的に発表している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
研究テーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で、調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解するように努めること。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	・4年間の学びの集大成であるため、主体的に取り組み、納得のいく卒業研究を作成すること。 ・卒業研究に取り組む者として、研究上のルール（アンケートの取り方、出典の明示、引用の仕方等）を守ること。 ・担当教員の指導助言に真摯に耳を傾け、学ぶ姿勢で取り組むこと。 ・「卒業研究概要についての資料」と「卒業研究報告書様式資料」を熟読すること。 ・Google classroom等を通して卒業研究に関する情報や資料を配信するので、確認すること。	**教科書・テキスト**	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	**その他・特記事項**	・「専門ゼミⅡ」とともに「卒業研究」を履修した場合は、卒業研究の作成により、専門ゼミⅡレポートの作成は不要とする。 ・不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	EK350U キリスト教と教育（Aコース）			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・ポーター　倫子　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち返り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、体験学習を通して理解する。	①保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。 ②保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。 ③キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、また集団形成の視点を知る。 ④キリスト教保育・教育の中で行われていることを体験的に学ぶ。 ⑤子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の重要性と課題を知る。 ⑥幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、体験学習。
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目の履修済が望ましい（単位未修得も可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の概要説明、進め方、スケジュールを確認する。 講義編１　：キリスト教保育とは何かを「新・キリスト教保育指針」を通して理解する。	中島
2	講義編２　：教育の基礎を築いた先人たち（海外）について理解を深める。	ポーター
3	講義編３　：教育の基礎を築いた先人たち（国内）について理解を深める。	ポーター
4	講義編４　：聖書の中で子どもがどのように描かれているかを学び、キリスト教における子ども観を理解する。	ポーター
5	講演と交流１　：シンポジウム「キリスト教保育の喜び」 キリスト教保育の実際について、現場の保育者の話を通して保育実践から、キリスト教と保育の関係を理解する。 その後、講師と交流し、保育の喜びと課題を分かち合う。	中島
6	講義編５　：前回の授業内容を復習し、幼保小連携について、キリスト教学校教育同盟の冊子を通して理解を深める。	中島
7	講演と交流２　：「キリスト教小学校教育の喜び」 キリスト教初等教育の実際について、北陸学院小学校教諭から、という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と初等教育の関係を理解する。その後、交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。	中島
8	演習編１　：保育・教育の場としての礼拝について理解する。 キリスト教園において実際の保育の礼拝の場面を視聴し、グループごとに検討する。	ポーター
9	演習編２　：キリスト教保育・教育特有の行事について理解する。 園や学校ではどのような行事を展開されているかを視聴し、グループごとに検討する。	ポーター
10	演習編３　：子どもと一緒に歌う讃美歌について理解する。 キリスト教園で歌われている讃美歌を紹介し、グループごとにメロディーと歌詞について検討する。	中島
11	演習編４　：聖書のお話（聖話）を作成する。印象に残っている聖書箇所とその内容についてグループごとに検討する。	中島
12	演習編５　：聖劇を作成する。幼稚園の降誕劇を視聴し、グループで聖劇の特徴について検討する。その後、印象に残っている聖書箇所を題材にして聖劇の台本を作成する。	中島
13	実習編１　：保育・教育の環境としての自然の重要性に触れる。自然と接し、行動してみる。	中島
14	実習編２　：自然環境を保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。	中島
15	キリスト教保育・教育についての小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめを行い、最終課題に取り組む。	中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表、お祈りなどの積極性	提出物	30	評価基準:　祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄え
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度	最終課題	25	キリスト教保育・教育についての理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。［15分］ ②提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する。［60分］ ③祈りの作成など、授業に臨む準備をする。［30分］	毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること。 ②聖書、賛美歌を持参すること。 ③遅刻や欠席をせず、グループによる、お話しや劇の作成作業に進んで参加すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳聖書』日本聖書協会　2018年 『讃美歌21』日本基督教団出版局　1997年 『愛と祈りで子どもは育つ』渡辺和子　2017年 ISBN：978-4‐569-76767-３
指定図書／参考書等	なし／『キリスト教保育』2007年　聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年　キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌　キリスト教保育連盟、各種絵本など。	その他・特記事項	①通常授業時間以外に、野外実践を２コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること。 ②北陸学院第一幼稚園など、キリスト教園の保育や礼拝に自主的に参加し、キリスト教保育の実際に触れることが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

中島：小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。

授業科目名	EK350U ｷﾘｽﾄ教と教育（B・Cコース）			開講学科	子ども教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・ポーター　倫子　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち返り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、体験学習を通して理解する。	①保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。 ②保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。 ③キリスト教保育・教育の実際に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、また集団形成の視点を知る。 ④礼拝のお話を作り、子どもに語ること、子どもとともに祈ること、幼児賛美歌・こども賛美歌を理解して歌い、伴奏すること、聖劇を作り演じること、神の創造の業である自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解する。 ⑤子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の重要性と課題を知る。 ⑥幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、体験学習。
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目の履修済が望ましい（単位未修得も可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の概要説明、進め方、スケジュールを確認する。 講義編１　：キリスト教保育・教育とは何かを「新・キリスト教保育指針」やキリスト教学校教育同盟の冊子を通して理解する。	中島
2	講義編２　：教育の基礎を築いた先人たち（海外）について理解を深める。	ポーター
3	講義編３　：教育の基礎を築いた先人たち（国内）について理解を深める。	ポーター
4	講義編４　：聖書の中で子どもがどのように描かれているかを学び、キリスト教における子ども観を理解する。	ポーター
5	講演と交流１　：「キリスト教小学校教育の喜び」 キリスト教初等教育の実際について、北陸学院小学校教諭から、という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と初等教育の関係を理解する。	中島
6	講義編５　：前回の授業内容を復習し、幼保小連携について、キリスト教学校教育同盟の冊子を通して理解を深める	中島
7	講演と交流２　：「キリスト教中等教育の喜び」 キリスト教初等教育の実際について、北陸学院中学高等学校の元教諭から、「キリスト教教育の喜び」という主題で話を聞く。その教育実践から、キリスト教と中等教育の関係を理解する。その後、交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。	中島・キリスト教中学高等学校元教諭
8	演習編１　：保育・教育の場としての礼拝について理解する。 キリスト教園において実際の保育の礼拝の場面を視聴し、グループごとに検討する。	ポーター
9	演習編２　：キリスト教保育・教育特有の行事について理解する。 園や学校ではどのような行事を展開されているかを視聴し、グループごとに検討する。	ポーター
10	演習編３　：子どもと一緒に歌う讃美歌について理解する。 キリスト教園で歌われている讃美歌を紹介し、グループごとにメロディーと歌詞について検討する。	中島
11	演習編４　：聖書のお話（聖話）を作成する。印象に残っている聖書箇所とその内容についてグループごとに検討する。	中島
12	演習編５　：聖劇を作成する。幼稚園の降誕劇を視聴し、グループで聖劇の特徴について検討する。その後、印象に残っている聖書箇所を題材にして聖劇の台本を作成する。	中島
13	キリスト教教育にとって、自然は神が創造し、人間に与えられた重要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。	中島
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。	中島
15	キリスト教保育・教育についての小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめを行い、最終課題に取り組む。	中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表、お祈りなどの積極性	提出物	30	評価基準:　祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄え
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度	最終課題	25	キリスト教保育・教育についての理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。［15分］ ②提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する。［60分］ ③祈りの作成など、授業に臨む準備をする。［30分］	毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。

受講生に望むこと	①受け身ではなく、主体的に授業に参加すること。 ②聖書、賛美歌を持参すること。 ③遅刻や欠席をせず、グループによる、お話しや劇の作成作業に進んで参加すること。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳聖書』日本聖書協会　2018年 『讃美歌21』日本基督教団出版局　1997年 『愛と祈りで子どもは育つ』渡辺和子　2017年 ISBN：978-4‐569-76767-３
指定図書／参考書等	なし／『キリスト教保育』2007年　聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年　キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌　キリスト教保育連盟、各種絵本など。	その他・特記事項	①通常授業時間以外に、野外実践を２コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること。 ②北陸学院幼稚園や小学校などのキリスト教園の活動に自主的に参加し、キリスト教保育・教育の実際に触れることが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

中島：小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教育の経験を授業内で紹介し、協議する。

授業科目名	EE238U 教育課程編成論(特別活動を含む)(小中高)	開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	川真田　早苗・村井　万寿夫　(代表教員　川真田　早苗)				
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちに何を教え、子どもたちは何を学ぶのか。この「何を」に当たるものが小学校、中学校、高等学校の教育課程（カリキュラム）である。そこで、本科目においては、教育課程の概念と構造、学習指導要領の歴史的変遷と教育課程、教育課程編成の方法、小学校、中学校、高等学校それぞれの教育課程編成の実際、教科と教科外活動の教育課程、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価などについて学ぶ。これらを通して小学校、中学校、高等学校の教育課程についての理解を深める。	①教育課程：教育課程の概念と構造や学習指導要領をもとに、小学校、中学校、高等学校の教育課程について理解することができる。 ②学習指導要領の変遷：我が国最初の学習指導要領から最新の学習指導要領の変遷を概観し、現在の「令和の日本型教育」が目指す教育について知る。 ③教育課程の編成：小学校、中学校、高等学校における教育課程編成の方法と実際について理解することができる。 ④教育課程のマネジメント：カリキュラム・マネジメントの理論と実際及びカリキュラム評価について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業計画と評価の方法について知る）／教育課程（教育課程（カリキュラム）について知り、カリキュラムの構造と類型について理解する。）	村井、川真田
2	教育課程行政（教育課程行政の構造や法体系及び教育の目的について理解する。）	川真田
3	学習指導要領の歴史的変遷１（我が国最初の学習指導要領と戦後教育について教科課程と教育課程の面から理解する。）	川真田
4	学習指導要領の歴史的変遷２（学習指導要領の改訂と戦後教育の見直しについて教育内容の現代化から理解する。）	川真田
5	学習指導要領の歴史的変遷３（「新しい学力観」「生きる力」「ゆとり教育」をもとに平成時代の教育課程について理解する。）	川真田
6	学習指導要領の歴史的変遷４（「ゆとり教育」から「確かな学力」へと移った経緯について知り、「令和の日本型教育」を目指していることを理解する。）【レポートA】	川真田
7	教育課程編成の方法（教育課程の意義と教育課程編成の原則及び教育課程編成の手順について理解する。）	川真田
8	学校におけるカリキュラム開発（学校や地域の実態を踏まえたカリキュラム開発の必要性、学習指導要領の記述に見るカリキュラム開発の留意点について理解する。）	村井
9	小学校の教育課程（小学校の教育課程の過去から現在まで通観し、現在の教育課程の内容と特徴について理解する。）	村井
10	中学校・高等学校の教育課程（学校教育法体制下の中学校と高等学校の歩みを通観し、新学習指導要領による中学校と高等学校の教育課程について理解する。）	村井
11	教科と教科外活動の教育課程（教科と教科外の教育課程の特徴をつかみ、教科外の教育課程の内容について理解する。）	村井
12	地域と連携した教育課程編成（従前の学習指導要領をもとに学校と家庭・地域社会の連携による教育課程の重要性について理解する。）【レポートB】	村井
13	カリキュラム・マネジメントの理論（カリキュラム・マネジメントが生まれた背景を知り、カリキュラム・マネジメントの可能性と課題について理解する。）	村井
14	カリキュラム・マネジメントの実際（小学校と中学校における地域連携カリキュラムの取り組みや高等学校における中高一貫教育の取り組みを知る。）	村井
15	カリキュラム評価（カリキュラム評価の意義、対象、方法について理解する。）	村井

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の到達目標（①～④）を達成している（達成状況：「十分達成している」「概ね達成している」「努力を要する」）。	レポート	30	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。
授業態度	20	積極的に授業に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について参考図書等を読んで予習する。(40分) 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校における教科等の学習指導は、各学校において編成する教育課程によって行われていたことについて認識する機会としてほしい。	教科書・テキスト	『教育課程編成論』改訂版、森山賢一編著、学文社、2021年、ISBN978-4-7620-3073-4
指定図書／参考書等	なし／小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	EE243U 生徒・進路指導論（小中高）			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	村井　万寿夫・石上　佐知子　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、学校種に応じた生徒指導を教師間で進めていくことが求められている。また、学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つ。進路指導は、自分の将来の生き方への関心を高め、将来の展望を持たせる教育活動であり、社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な自己実現能力の伸長を目指すものである。そのためには、キャリア教育の観点から小中高校を通じた教育活動が重要である。本科目ではこのようなことを学び、自己の教育者としての考え方を深める。

授業の到達目標

①生徒指導の意義、役割、目的、機能について理解している。
②集団指導と個別指導の方法原理について理解している。
③生徒指導上の今日的課題について考えることができる。
④進路指導とキャリア教育の位置付けについて理解している。
⑤教育課程と進路指導・キャリア教育について理解している。
⑥進路決定・キャリア形成の支援について理解している。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者で受講までにプレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を通観し評価方法について理解する）／生徒指導の意義と役割（生徒指導の意義や役割、目的、生徒指導の３機能について知り、教育相談との関係を理解する。）	石上
2	教育課程と生徒指導（生徒指導は各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、高校においては総合的な探究の時間、特別活動、すべての教育課程において機能することが求められることを理解する。）	石上
3	生徒指導の方法（集団指導と個別指導の方法原理について「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」から理解し、学級担任・教科担任の役割や教師間の連携について考える。）	石上
4	いじめ問題と生徒指導（いじめ問題と生徒指導：いじめの定義と認知件数について知り、社会に影響を与えたいくつかのいじめ事件をもとにケース分類し、ケースごとの対応について考える。）	石上
5	不登校問題と生徒指導（登校問題と生徒指導：不登校の概念とその変遷について知り、不登校になるきっかけをいくつかに分類し、きっかけの種類ごとの対応について考える。）	石上
6	インターネット社会における生徒指導（インターネット普及に伴う小中高校生のスマートフォン所持率及びSNS利用の実態や性被害について知るとともに、よりよい対応について考える。）	石上
7	生徒指導と法（校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒、高等学校においては停学・退学などの内容について理解するとともに、生徒指導における法の扱いの難しさを知る。）	石上
8	・「学級王国」と「学級崩壊」を関連付けて考えながらチームで取り組む生徒指導の重要性について知り、「連携」をキーワードにレポートを作成する。 ・後半の進路指導論のオリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する）	石上、村井
9	進路指導・キャリア教育（進路指導は入学期から卒業期までの教育活動であること。生徒指導はキャリア教育の中に位置付くこと。キャリア教育は小学校から行われていることを理解する。）	村井
10	教育課程と進路指導・キャリア教育（「基礎的・汎用的能力」における「４領域・８能力」を知り、これがどのような教育活動の中で計画・推進されているか小中学校の事例をもとに考える。）	村井
11	体験活動を通じた進路指導・キャリア教育（中学校における職場体験が進路指導・キャリア教育であることを知り、自己の経験を振り返りながら、その後の自己実現について考える。）	村井
12	職業教育（職業教育の定義や職業教育導入の経緯を理解するとともに、職業教育の方法を義務教育と専門高校における教育について俯瞰し、自己の高校選択、大学選択を振り返る。）	村井
13	進路決定・キャリア形成の支援（進路決定やキャリア形成について「基礎的・汎用的能力」の観点から再整理し、教育活動全体で取り組むキャリア教育の重要性について理解する。）	村井
14	進路決定・キャリア形成の具体（小学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援、中学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援について具体例をもとに考える。）	村井
15	学習のまとめとレポート作成（進路指導・キャリア教育の要点を整理し、レポートを作成する。）	村井

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	15	積極的に参加したり、議論の深まりに寄与したりしている。	小レポート	20	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。
授業態度	15	授業に積極的に参加している。振り返りシートに考えを書いている。	テスト	50	生徒指導・進路指導（含キャリア教育）についての知識・理解を有している。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分]
②授業の「振り返り」を記入し提出する。[10分]
③学修のPDCAサイクルを踏まえたノートテイクや記録作成[20分]
④「生徒指導提要」を読む。[30分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

①レポートの観点や質問に応じる。
②グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。
③レポート作成の観点を示す。

受講生に望むこと	①毎回の授業における学びの記録を、自分なりのノートテイクを通して主体的に作成してほしい。 ②毎回の授業で学ぶ内容について、自分が教師だったらという視点で考えるようにしてほしい。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし/「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）※授業内でQRコードを提示します。	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	EE363U 教育相談（小中高）			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。	1)教育現場で遭遇する問題を理解すること。 2)基本的な相談技術を理解すること。 3)多職種の連携・協働を理解すること。 4)科学研究の知識を修得すること。 5)科学研究の技術を修得すること。

教授方法	演習、講義、ディスカッション。
履修条件	教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える。	
2	現代社会と子どもたち：子どもの貧困や、子どもを取り巻く社会状況について理解を深める。	
3	自閉スペクトラム症：自閉スペクトラム症（ASD）の特徴と支援について理解を深める。	
4	その他の発達障害：限局性学習症（LD）や注意欠如多動症（AD/HD）などの特徴と支援について理解を深める。	
5	不登校：不登校とその支援について理解を深める。	
6	いじめ：いじめとその支援について理解を深める。	
7	非行：非行とその支援について理解を深める。	
8	虐待：虐待とその支援について理解を深める。	
9	自殺：自殺とその予防、支援について理解を深める。	
10	統合失調症：統合失調症の特徴および支援について理解を深める。	
11	抑うつ障害：うつ病の特徴と支援について理解を深める。	
12	カウンセリングの理論と態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する。	
13	カウンセリングの実践：教育相談においてカウンセリングをどのように実践するかについて理解する。	
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める。	
15	総括：教育相談の目的、意義、方法について改めて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	各回の学びを通じ、教員として修得することが推奨される科学研究の知識と技術を身に着けることを目指す。毎回相当量の予習と講義における他者との協働が不可欠である。	教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ　発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。

実務経験を活かした授業の概要

学校および教育領域での実務経験を活かし、現代の児童生徒が直面する様々な心理的課題について、架空事例をとりあげてわかりやすく解説する。また、それらの問題の背後にある現代社会の特徴や多様な価値観にも理解を深め、チーム学校の一員として自分に何ができるかを考えるきっかけとしたい。

授業科目名	EC238U 教育の方法・技術(総合的な学習の時間の対応を含む)(幼小中高)			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきており、評価の方法も多様になっている。この授業観を具体化するためには教育の方法と技術について検討しなければならない。自ら考え判断し表現する授業とはどういったものなのか、理論や具体的な事例をもとに学んでいく。さらに、様々な情報機器を振り返ったのちに最新の情報機器の活用について検討する。そして、教科や総合的な学習（探究）の時間における授業を構想し、そのための教材を自作する。	①教育方法の歴史的概観をもとにその基礎を整理するとともに実践について理解している。 ②子ども・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的要件を理解している。 ③情報機器を活用した教科・総合的な学習（探究）の時間の授業計画を立てることができる。 ④アプリケーションソフトを用いて教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)のいずれか取得希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育方法の歴史的概観（ソクラテスやコメニウスなど７人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。）	
2	現代における教育方法（デューイ、ブルーナーなど６人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。）	
3	教育方法の基本原理（系統学習と問題解決学習を比較し、基本的原理について考察する。）	
4	授業理論（直接的な教育手段と間接的な教育手段について理解し、総合的な学習（探究）の時間はどれに当てはまるか考える。）	
5	授業とは何か（ガイスラ―の理論をもとに授業の「相互往還作用」について理解し、自分の考えを持つ。）	
6	授業と評価（見える学力と見えない学力について理解するとともに、総合的な学習（探究）の時間はどちらの学力か考える。）	
7	授業と視聴覚機器（視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。）	
8	視聴覚機器の教育活用の方法（学校でのコンピュータ等の情報機器を活用した教育の方法を調べる。）	
9	放送教育の授業への適用（放送教育の役割を捉え、NHKのWebサイトで総合的な学習（探究）の時間などの教材を閲覧する。）	
10	教材・教具・教科書・教材研究（教材・教具とは何か、また、教科書とは何かについて考え、教材研究について理解する。）	
11	情報機器を活用した授業（デジタルコンテンツと教育での活用例を知り、自作教材の構想を練る。）	
12	教材の構想と作成（教育で情報機器を活用するための計画を立て、そのためのフラッシュ型教材の作成に取りかかる。）	
13	教材の完成と相互評価（授業計画に基づき構想したフラッシュ型教材を完成させ、お互いに見合う。）	
14	教育方法と施設・設備（教育方法の多様化と学校の施設・設備などの変化について知り、教育の環境について考える。）	
15	学習のまとめと定期試験に向けて（これまで学んだ内容の要点を整理する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	20	教育の方法や技術について理解している。	教材作成	15	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。
定期試験	50	教育の方法や技術及び総合的な学習（探究）についての知識を有し、自分なりの考えを持っている。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③小中学校の教育方法に関しインターネット検索して調べる。［20分以上］	①小レポートについての質問に応じる。 ②自作したフラッシュ型教材を「作成要件」の観点から講評する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『教育方法論　改訂版』，谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編著，一藝社，2015年出版，ISBN9784863590984
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	EC345U 幼児理解			開講学科	子ども教育	必修・選択	コースによる
担当教員名	谷　昌代・齊藤　英俊・松本　理沙　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼児一人ひとりは異なった発達の姿を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。そこで保育者は、幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。 本授業では、これから教育・保育の場に向かうための、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指すとともに幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学ぶ。	①幼児理解の視点を理解している。 ②子どもの姿の事例（ビデオを含む）から客観的に読み取ったり、実際に子どもと関わったりすることで、幼児の動線や心が動くポイントを捉えることができる。 ③幼児理解の方法（アセスメント）を捉えることができる。 ④幼児の保育・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）を身に付ける。 ⑤「保育を評価する」とはどういうことかを理解している。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 幼児理解の視点について理解する。環境を通して行う教育、発達や学びの連続性の確保、保育を評価するとはどういうことかを捉え、その意義について考える。	谷
2	自身の保育・教育実践のエピソードより考察する。 生活・遊びの実践を通しての幼児理解①：子どもの生活・遊びの姿の事例から子どもの内面を読み取るとともに、遊びの動線や幼児の心が動く場面について考える。	谷
3	生活・遊びの実践を通しての幼児理解②：子どもの生活・遊びの姿の事例から、個と集団の育ちについて考え、生活を支える援助について考える。	谷
4	子ども主体の保育実践に向けて：安全管理・衛生管理を徹底して守られた環境の中で、子どもたちの主体性はいかに発揮されるのか。保育者の思いと子どもの思いのズレについて考える。	谷
5	障がいのある幼児等の実態に応じた合理的配慮、及び合理的配慮を含む必要なアセスメントについて学ぶ。	松本
6	一人ひとりの幼児の背景を理解した関わりを目指し、保育・教育におけるソーシャルワークの視点について考える。	松本
7	乳幼児、児童を取り巻く環境の諸問題に目を向け、子育てにおける保護者の相談事を知る。 子育て支援の在り方と今日的課題について学ぶ。	松本
8	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について学ぶ。	齊藤
9	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。	齊藤
10	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。	齊藤
11	観察法・評定法・面接法・事例研究法など子どもを理解する上での研究法について、事例などを通して実際的に学ぶ。	齊藤
12	配慮の必要な子どもや気になる子どもの保育について考える。 どの子にもやさしい保育となる実践に向けて、読み取りから援助、指導計画の立案について学ぶ。	谷
13	幼児理解の方法①：保育記録の作成において必要な視点、記録の種類、方法を知る。 記録から援助の方法を探り、子どもと共に創る保育への展開を考える。	谷
14	幼児理解の方法②：保育記録・省察・保育計画について 指導要録や保育の評価及び就学に向けての連携について理解する。	谷
15	『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』につながる子どもたちの姿と保育の可能性を考える。 子どもたちとの関わりから保育者、教育者、支援者として、自身に育ってほしい、資質・能力について考える。	谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業への積極的な参加、意欲的な取り組みができている。	課題レポート	60	授業内に提示される課題について、適切な資料等を調べ、分かりやすくまとめられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキスト等を事前に読んで、課題レポートの作成の参考にする。[50分] ②実習ファイル等でこれまでのエピソードを検証し、改めて自分なりの読み取りを見直しておく。[60分] ③幼児の保育・教育相談（カウンセリングに関する基礎的事項を含む）の理論及び方法について学びの振り返りを行う。[50分]	課題については、担当教員からそれぞれ提示するので、指定日までにその都度指示された方法で提出する。 提出された課題レポートのやり取りを通して、内容についてその都度振り返りを行い、自分の学びを積み重ねていく。

受講生に望むこと	保育や教育現場で働くという自覚を持ち、意欲的に授業や課題に取り組み、積極的に意見交換をしてほしい。
教科書・テキスト	『幼児理解に基づいた評価』文部科学省　チャイルド本社　2019年 ISBN:4805402830 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／ 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編　ミネルヴァ書房　2011年　ISBN:9784623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編　みらい　2008年　ISBN:978-4860151430
その他・特記事項	課題や授業に関する補足、連絡等がある場合には、Google Classroomを通じて提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

谷：子どもを様々な側面から理解するということを事例を通して学ぶ。実際の子どもの関わり場面（実際の保育現場ビデオ）から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。
齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。

授業科目名	EN331U 子育てと支援			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
他の先進国と比較すると、日本の母親は子育てに対する自己評価が低く、育児不安を抱えることが多いと指摘されている。さらに、経済的困難、ひとり親家庭の増加、待機児童の問題、児童虐待の増加といった社会的課題により、支援を必要とする保護者がますます増えている。 本講義では、保育者が専門性を活かして子育て支援を行うために必要となる基礎的な知識や考え方を学ぶ。また、実際に子育てをしている親の話を聞いたり、子育て支援活動に参加したりすることで、現場の視点を理解し、実践的な学びを深める。	① 保育者が子ども・家庭支援を行う理由と意義を理解し、保育の専門性を活かした子育て支援の基礎を身につける。 ② 子育て支援の基本的な展開方法を学び、個々のケースに応じた適切な対応ができる技能を習得する。 ③ 具体的な事例を通じて、多様な支援ニーズを持つ子どもや家庭への支援内容、方法、技術について理解を深める。

教授方法	講義、グループワーク、討議、ロールプレイ
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション。本授業の目的や進め方を理解し、子育て支援に対する自身の考えや思いを共有する。	
2	子育て支援の重要性とその社会的背景について理解し、保育者としての役割を考える。	
3	子育て支援における基本的な価値観や倫理的視点を学び、支援者としての姿勢や責任について理解を深める。	
4	子育て支援を行う際に求められる基本的な姿勢を理解する。	
5	子育て支援を実践する上で必要となる基本的な技術を学び、保護者や子どもへの適切な関わり方や支援の方法を理解する。	
6	実際に子育てをしている保護者の話を聞き、子育ての実態や支援の必要性について理解を深める。また、対話を通じて多様な視点を学び、支援者としての姿勢を考える。	
7	保育施設内外の連携の重要性を理解し、地域の社会資源を活用した子育て支援の方法について学ぶ。	
8	保護者との信頼関係を築くために、日常会話を活用した子育て支援の方法を学ぶ。	
9	保護者支援の一環として、ワークショップの企画・実演を行う。参加者のニーズに応じた内容を考え、効果的な進行方法やファシリテーション技術を実践的に学ぶ。その1	
10	保護者支援の一環として、ワークショップの企画・実演を行う。参加者のニーズに応じた内容を考え、効果的な進行方法やファシリテーション技術を実践的に学ぶ。その2	
11	保護者との円滑なコミュニケーションを図るために、文書を活用した子育て支援の方法を学ぶ。	
12	日本語を母国語としない保護者が直面する課題を理解し、言語や文化の違いに配慮した子育て支援の方法を学ぶ。多文化共生の視点を持ち、効果的なコミュニケーションの工夫や支援のあり方を考える。	
13	到達度試験	
14	地域の子育て支援拠点の役割や機能を理解し、保護者や子どもへの具体的な支援の方法を学ぶ。	
15	これまでの学びを振り返り、子育て支援の基本的な知識や技術の習得状況を確認する。また、今後の課題を明確にし、支援者としてのさらなる成長に向けた展望を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	25	平常点（学習意欲、履修態度、予習復習状況）	到達度試験	30	授業内容がどれだけ理解されているかを評価
ワークショップ	20	子育て中の親を対象としたワークショップを計画、実演。	レポート	25	ルーブリックを用いて、評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前に、教科書を予習する［30分］。②各章のチェックリスト及び授業内で解けなかった演習問題を行う［30分］。	すべての提出物は、締切から１～２週間内にフィードバックをつけて返却する。試験は、１週間以内に採点する。

受講生に望むこと	必ず教科書を持参すること。教室内での私語は避けること。課題におけるAIをに使用については、担当教員の指示に従うこと。	教科書・テキスト	二宮 祐子（2018）『子育て支援：15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林 ISBN：978-4-89347-284-7
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	受講生の興味・理解度に沿って、内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

保育者として保護者と関わった経験などを紹介する。

授業科目名	ED341U 選択音楽			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「音楽表現Ⅰ・Ⅱ」及び「音楽」で身につけた知識や技術をさらに高めることを目的とした授業である。歌唱や器楽の土台となる音楽理論や指揮法、様々な楽器の奏法について学び、合唱や器楽アンサンブルの実践を行う。グループ演習を基本として、音楽のよさについて共に学び、考えを深める。また、保育・教育現場の表現活動や初等音楽科で取り扱う歌唱教材について、弾き歌いや伴奏法をより深く学び、実践的な知識と技能を身につける。	①様々な楽器の取り扱いや奏法について理解を深め、適切に演奏できるようになる。 ②基礎的な音楽理論の理解を深め、演奏に生かせるようになる。 ③様々な奏法に習熟し、豊かな表現で演奏できるようになる。 ④様々な演奏形態のアンサンブルを指導できるようになる。 ⑤音楽のよさについて自らの考えを持ち、他者と共有できるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽表現Ⅰ・Ⅱ」「器楽Ⅰ」「音楽科指導法」または「保育内容・表現指導法」を履修していることが望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。 歌唱Ⅰ：保育・教育現場で歌われる様々な楽曲について、実践を通して理解する。様々な合唱曲を鑑賞する。	
2	歌唱Ⅱ：様々な歌唱の演奏形態について学び、実践する。器楽Ⅰ：自分の身体の様々な部位を打ち、音を探す。クラッピングによる音楽を実践する。音楽理論Ⅰ：音符と休符の種類について理解を深める。	
3	歌唱Ⅲ：合唱曲を読譜し、パート練習する。器楽Ⅱ：ボディー・パーカッションを実践する。音楽理論Ⅱ：拍子とリズムについて理解を深める。	
4	歌唱Ⅳ：合唱曲のパート練習及び合唱の練習方法について考える。器楽Ⅲ：クラッピングとボディー・パーカッション曲のよさや面白さに気付き、奏法を工夫する。音楽理論Ⅲ：強弱記号について理解を深める。	
5	歌唱Ⅴ：合唱曲について、曲のよさや面白さについて考えを共有し、表現を深める。器楽Ⅳ：無音程打楽器の取り扱い及び奏法を確認し、実践する。音楽理論Ⅳ：指揮法について学び、実践する。	
6	歌唱Ⅵ：合唱曲を仕上げ、発表する。器楽Ⅴ：有音程打楽器の取り扱い及び奏法を確認し、実践する。音楽理論Ⅴ：音名について理解を深める。	
7	歌唱Ⅶ：アカペラ曲に取り組み、伴奏なしで歌うための練習について考える。器楽Ⅵ：器楽合奏曲を読譜し、パート練習を行う。音楽理論Ⅵ：奏法に関する記号について理解を深める。	
8	歌唱Ⅷ：伴奏なしで歌うための練習を実践し、アカペラ曲を練習する。互いの歌声を聴き合い、音程を合わせて歌う技能について考える。器楽Ⅶ：器楽合奏曲のパート練習及び合奏の練習方法について考える。音楽理論Ⅶ：調性について理解を深める。	
9	歌唱Ⅸ：アカペラ曲について、曲想や曲の特徴を捉え、よさや美しさ等を生かす表現の工夫について考える。器楽Ⅷ：様々な楽器の音色や響きを聴き分ける技能や全体の響きを聴いてバランスを整える技能を、実践を通して習得する。	
10	歌唱Ⅹ：アカペラ曲を仕上げる。器楽Ⅸ：器楽合奏を指揮し、指導法について考える。	
11	歌唱Ⅺ：アカペラ曲を発表する。器楽Ⅹ：器楽合奏曲を発表する。アンサンブルⅠ：取り組む作品について話し合い、選曲する。	
12	アンサンブルⅡ：発表に向けて、練習計画を立てる。楽曲分析して、練習する①。器楽Ⅺ：イングリッシュ・ハンドベルの取り扱い及び奏法を学び、実践する。	
13	アンサンブルⅢ：アンサンブル曲の練習②。器楽Ⅻ：イングリッシュハンドベルの音色や響きを聴き合い、音を合わせる方法について考える。イングリッシュ・ハンドベル曲を練習する。	
14	アンサンブルⅣ：アンサンブル曲の練習③。器楽ⅩⅢ：イングリッシュ・ハンドベル曲を発表する。	
15	アンサンブルⅤ：アンサンブル曲を仕上げ、発表する。発表までの過程を振り返り、保育・教育現場での指導について考える。授業での様々な経験を踏まえ、音楽のよさについて意見を共有し、自らの考えを深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	授業への取り組み姿勢。	課題	40	課題への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。[10分] ②授業内で習得することができなかった内容について各自練習し、次回授業までに習得すること。[20分] ③歌唱技術、ピアノ演奏技術、弾き歌い技術を高めるために練習すること。[60分]	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるため、グループで行う課題については協力して取り組むこと。 ③ピアノ、歌唱や様々な楽器の練習を継続して行うこと。	教科書・テキスト	『うたうソルフェージュ』木許隆監修、主文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、主文社、2017、ISBN978-4-87446-067-2.『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、主文社、2017、ISBN978-4-87446-064-1.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、主文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、主文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ED361U 比較教育学			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、海外の教育・保育・子育て事情について学ぶ。特に異文化間の比較を通して、日本の保育・教育・子育てについて批判的に検討する。また世界の共通課題である多様性、教育格差、教育のIT化、教育の質向上について理解を深める。	①多様性について理解する。 ②世界の特徴的な教育や保育に興味・関心をもつ。 ③国際的な視点から、日本の教育や保育、子育てについて考える視点をもつ。 ④世界共通課題である教育格差と教育の質の向上について説明できる。

教授方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション、ICTを用いた双方向型授業
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、なぜ比較教育学について学ぶのか。	
2	多様性（ダイバーシティー）について理解する。	
3	多様性（ダイバーシティー）を重視した教育・保育実践について学ぶ。	
4	OECD報告書、PISA調査結果を読み解く。	
5	ギフテッド教育、能力主義、教育における平等性について考える。	
6	日本や世界のAIを活用した学習が、今後のグローバル化に与える影響について考える。	
7	日米の子育ての文化差について学ぶ。	
8	世界の教育事情について学ぶ：米国	
9	世界の教育事情について学ぶ：フィンランド	
10	世界の教育事情について学ぶ：韓国	
11	世界の教育事情について学ぶ：中国	
12	到達度試験	
13	海外の教育や保育の評価について学ぶ。	
14	教育の質と教育格差、レジリエンスについて理解を深める。	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	25	授業の参加態度、振り返りシートなど	レポート	25	異文化を知るイベント、異文化を学ぶ体験などに参加し、レポートを書く。他国の教育・保育・子育て実践のビデオを視聴し、レポートを書く。
プレゼンテーション	25	8-11回の「世界の教育」では、受講生が海外の教育・保育について、プレゼンテーションをする。	到達度試験	25	授業の内容を理解して、自分なりに考察しているかを評価するために試験を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前：授業プリントをよく読んでおく（30分）、事後：普段から諸外国や異文化について関心をもち、書籍、新聞、インターネットなどから知識や情報を得る（30分）	提出締切後、１週間内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	教室内の私語、スマートホンの使用を避けること。授業課題におけるAIの利用については、教員の指示に従うこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	レポート等の遅れは、原則として１日につき１０％減点とする。締切日より１週間以上遅れた場合は、採点しない。病気などのやむを得ない理由がある場合は、締切日前に担当教員に連絡すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ED396U 教育実践研究B			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	ポーター　倫子・虫明　淑子　（代表教員　ポーター　倫子）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は、日本の幼児教育の質向上を目指し、将来、各現場で研究的実践者として必要となる知識や技能の習得を目的とする。前半では、国内外の幼児教育の質向上に関する英語および日本語の論文や資料を精読する。後半では、前半で得た知識や幼児教育の質向上に関する理解をもとに、各自が問いを立て、現場での観察や自らの実践を通じて実証的な研究を行い、その成果をまとめる。授業の終了時には、幼児教育の質の向上に貢献するための知識と実践力が身につくことを目指す。	①国内外の論文や資料を精読し、幼児教育における質の課題についての認識を深める。 ②海外の優れた保育実践を記録したビデオや、日本の優れた保育実践を海外向けに紹介したビデオを観察し、日本の実践との相違点や、日本の保育が海外に誇れる点について考察する。 ③実践現場での観察および自らの実践を省察することなどを通じ、幼児教育の質向上に関する問いを立てる。 ④実証的研究としてまとめ、実践力の向上を目指す。

教授方法	講義、演習、グループワーク
履修条件	将来、保育の現場に携わり、幼児教育・保育の質向上に貢献することを目指す者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要説明	ポーター
2	OECD（Organisation for Economic Co-operation and Development）（経済協力開発機構）の資料を通して、保育の質や日本の幼児教育の特徴について学ぶ	ポーター
3	NAEYC（National Association for the Education of Young Children）（全米幼児教育協会）のDAP（Developmentally Appropriate Practice）（発達に応じた実践）の「立場表明」を熟読する。：　その１	ポーター
4	NAEYC（National Association for the Education of Young Children）（全米幼児教育協会）のDAP（Developmentally Appropriate Practice）（発達に応じた実践）の「立場表明」を熟読する。：　その２	ポーター
5	米国の保育ビデオ（ヘッドスタート、ハイスコープなど）を視聴し、日本との違いについて検討する。	ポーター
6	外国人向けに紹介した日本の保育実践ビデオを視聴し、なぜこの実践が世界的に注目されるべきなのかを検討する。	ポーター
7	日本の暗黙的な保育実践を紹介した英語論文を読み、なぜ日本の実践が世界的に注目されるべきなのかを検討する。	ポーター
8	北陸学院の幼稚園の保育理論及び実践を紹介した英語論文を読み、なぜこの保育実践が世界的に評価されたのかを検討する。	ポーター
9	日本の文献や資料を通して幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」及び教育課程に基づく指導計画に基づく環境構成及び援助について再考し、幼児教育の質向上に関する課題を把握する。	虫明
10	幼児教育現場における観察を通して子どもの発達や実態に基づく指導計画を構想し、日案作成および環境を準備する①	虫明
11	幼児教育現場における観察を通して子どもの発達や実態基づく指導計画を構想し、日案作成および環境を準備する②	虫明
12	自ら作成した計画（日案）に基づき幼稚園現場において実践を行い、事例作成を通して自らの実践を反省的に振り返る①	虫明
13	自ら作成した計画（日案）に基づき幼稚園現場において実践を行い、事例作成を通して自らの実践を反省的に振り返る②	虫明
14	自ら作成した計画（日案）に基づき幼稚園現場において実践を行い、事例作成を通して自らの実践を反省的に振り返る③	虫明
15	幼児教育の質向上に関する問いを設定し、その改善に向けた具体的方法について実証的に考察する。	虫明

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	授業の出欠状況、参加態度、および振り返りシートを用いて評価する。	英語資料のレポート	30	英語資料を読み、内容を理解した上で自分の意見をまとめ、日米の幼児教育の違いについて検討したかを評価する。
実践研究・発表	20	幼児教育の質を問う内容になっているか、また実践力の向上が期待される考察となっているかを評価する。	研究準備・計画	20	研究テーマの着眼点、目的、方法の立案、研究準備の過程、観察の視点、取り組み方を総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関する事柄を事前に調査し、英語資料を読んで準備する（2～3時間）。また、資料や授業ノートの内容を復習する（1時間）。	課題締切後、基本的に1週間以内にフィードバックを付して返却する

受講生に望むこと	これまでの幼児教育の学びをさらに発展させる高度な内容を提示し、学生には積極的かつ謙虚な姿勢で学ぶことを求める。教室内の私語、スマートホンの使用を避けること。授業課題におけるAIの利用については、教員の指示に従うこと。	教科書・テキスト	第１，２回授業時に提示する。
指定図書／参考書等	なし/文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』フレーベル館．ISBN: 978-4-577-81447-5.	その他・特記事項	受講者の関心や理解度、園見学や調査等の事情により、授業内容や日程を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

虫明：幼稚園教諭、副園長としての経験などに基づき、実践的な講義・演習を行う。

授業科目名	ET316U 教育実習Ⅱ(小)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・村井　万寿夫・石上　佐知子　(代表教員　福江　厚啓)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校等において実施するものとする。 前年度の中学校あるいは高等学校における教育実習を「基礎実習」と位置づけ、小学校におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深める「応用実習」とする。	①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。

教授方法	実習　参観　研究授業　教材研究　個別指導
履修条件	教育実習指導(小) を履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。	
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。	
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。	
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。	
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。	
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）	
	研究授業を実施する。	
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。	
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。	
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。	
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。	
	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。	
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。	
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。	
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
コミュニケーション能力	50	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか(※各実習校による評価を元に)。	研究授業	20	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。	実習での反省や改善のための指導は、実習指導における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。

受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。他校種志望であっても小学校実習への熱意を充分にもち、実習生も子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019　ISBN 978-4-89347-352-3 ※教育実習指導（小）の教科書・テキストと兼ねる。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ET371U 教育実習Ⅱ(中高)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一・宮浦　国江　(代表教員　山本　良一)						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習指導(中高）で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。	①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。

教授方法	９月に２週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。
履修条件	教育実習指導（中高）を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。	
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。	
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。	
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。	
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。	
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。	
	中学・高等学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。	
	英語の授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。	教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。

受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示）解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ET386U 教職実践演習(幼小中高・保)			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊・谷　昌代・福江　厚啓・虫明　淑子・村井　万寿夫・山本　良一　(代表教員　齊藤　英俊)						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
１年次から学修してきた「幼児・子ども教育」についての総括的な科目が本科目である。特に、保育・教育実習を終えることにより、保育の現場・幼稚園・小学校・中学校・高校の教職課程の全課程（本科目を除く）を履修したことになる。そのため、これまで（３年半）の学修で保育士・教育者としての力がどの程度身に付いたかを演習によって確かめる。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていく。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていく。このように、保育士・教育者として必要な力について継続的、かつ、実践的に取り組む。	①保育実習・教育実習を振り返りながら、自己のどのような力が発揮できたか明確にすることができる。 ②保育の現場・幼稚園・小学校・中学校・高校の教職課程における学びを履修カルテによって振り返ることができる。 ③自己が身に付けるべき力についてボランティア活動や学校訪問などを通して実践的に取り組んでいくことができる。 ④必要な力（幼児・子ども理解力、環境構成力、対人関係能力、学習指導力、自己啓発力など）をどのように高めていくかについて考えることができる。 ⑤保育者・教育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるか知る。

教授方法	演習
履修条件	保育士資格取得・教員免許状取得に必要な教育実習を含む全科目（本科目を除く）の単位を修得し、保育士資格取得・教員免許状取得見込みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要・目的・評価方法を知る／教育実習の振り返り：保育実習・教育実習ノートをもとに、必要だと感じた保育士・教師としての資質を考えてみる。	全員
2	実習ノートをもとに実習中に発揮できた力を洗い出し、その到達度について考えてみる。	全員
3	保育者・教育者を目指す上で求められる力にはどんなものがあるか、その力をどのように高めていくかについてレポート（レポート①）を作成する。	全員
4	作成したレポートをもとに、保育士・教師としての資質・到達度・課題と解決方法について、グループ別に発表する。	全員
5	カリキュラムマップの計画と作成：履歴カルテによる学びのふり返りとカリキュラムマップ作成の見通しを持つ。そして、どのように構造的に表すか計画し、作成する。	全員
6	カリキュラムマップの完成と発表：おおかた作成してあるカリキュラムマップに「自己の課題」を補足して完成させる。そして、グループ内でお互いに発表し、相互評価する。	全員
7	自己の課題の達成状況：カリキュラムマップをもとに「自己の課題」についての達成状況をレポートするためのルーブリックを参照しつつ、レポート（レポート②）を作成する。	全員
8	全体学修：作成したレポート①または②の内容についての発表会（代表学生）。	全員
9	教育現場への参加：保育の現場・幼稚園、小学校、中学校・高校における今日的課題について各自で整理する。※ボランティア活動や学習サポーター活動に代替することも可。	全員
10	今日的課題の探究１：深めたい今日的課題：前回整理した内容を紹介しながら、今後、討論を深めていきたいことを明確にし各自で調べてレポート（レポート③）を作成する。	全員
11	今日的課題の探究２：前時に各自で調べたことをもとに校種別グループで討論する。校種混合による新たなグループをつくり、レポート内容を紹介し合う。	全員
12	教育実習の経験やカリキュラムマップや今日的課題とその解決方法をもとに、「つけたい力」を考えてみる。	全員
13	4年間の集大成として、過去のレポートをもとに、「つけたい力」をまとめレポート（レポート④）を作成する。	全員
14	作成したレポートをもとに、グループ別に発表する。	全員
15	全体学修：作成したレポート③または④の内容についての発表会（代表学生）。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート①②③④の4回分	60	課題に即して書いている。	全体学修メモ（2回分）	20	発表者の内容を理解している。
授業態度	20	ディスカッション等に積極的に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各年次の「履修カルテ」に必要事項を記入し、自己の課題を見出す。［30分］ ②「実習ファイル」（保・幼・小・中・高）の記入内容を確認し、「できたこと」「できなかったこと」を明確にする。［30分］ ③カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。［60分］ ④学外学習（保・幼・小・中・高訪問など）には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題整理する。［60分］	各担当の教員が講義中に指示する「レポート①②③④」に取り組み、期限までに担当教員に提出する。※「カリキュラムマップ」は栄光祭の際、子ども教育学科ブースで展示する可能性がある。

受講生に望むこと	教育者を目指して最後まで意欲的、主体的に授業に臨むことを期待する。	教科書・テキスト	なし（資料は適宜配付する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・「実習ファイル」（保・幼・小・中），「履修カルテ」、『学生要覧2022』を携行して臨んでください。 ・レポート課題はClassroomに投稿・提出してもらうことがある。

実務経験を活かした授業の概要

齊藤：スクールカウンセラーの経験をもとに、チーム学校や多職種連携として求められる力や課題について、事例などを通して考える機会を設けている。
谷：乳幼児を取り巻く環境、子育てと保育保育、教育についての諸問題に学生自身が課題意識を持ち、仲間との活動や討議を重ね学びを深めていく機会を提供する。その中で多様な考えに触れ、自身の子ども観や保育観への気付きとなることに期待したい。
福江：幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをおこなっている。
虫明：幼稚園教諭、副園長としての経験等に基づき、実践的な演習を行う。
村井：教師として必要な資質・能力について石川県教育委員会や富山県教育委員会が求める教師像をもとに伝え、意識できるようにしている。
・学生が本学入学時から４年次までをカリキュラムマップで振り返りながら、自分に身に付いた資質・能力、また身に付いていない資質・能力を意識させている。

授業科目名	ET340U 介護等体験			開講学科	子ども教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
県内の高齢者施設や児童施設などの社会福祉施設において５日間、特別支援学校において２日間の介護等体験活動を行う。体験に入る前に事前指導を行い、体験後には事後指導に行う。このように、［事前指導］＋［7日間の介護体験］＋［事後指導］のセットによる授業が本科目の概要である。事前指導には、介護等体験に係る書類等の説明と作成を含む。書類は大学が一括して石川県社会福祉協議会や石川県教育委員会に提出する。なお、５日間体験、2日間体験、いずれも実施日は受講生の希望をもとに県が調整・決定する。	①教職を目指す学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解している。 ②ノーマライゼーションの理念について理解している。 ③高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考えながら体験することができる。 ④体験によって何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書くことができる。

教授方法	講義（事前・事後）、体験（5日間＋2日間）
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望し、前年度までに必要な教員免許状取得のための科目を履修している者。教育実習については、今年度に予定されている、または、前年度に行っている者。※次年度に教育実習を行う場合には本科目の履修も次年度になります。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業概要をもとに学びの見通しを持つとともに介護等体験の意義と手続きについて理解する。	
2	人間の障がいの理解：ノーマライゼーションの理念について理解するとともに介護等体験で出会う障がいについて知る。	
3	社会福祉についての理解：社会福祉の理念（基本的人権と社会福祉）や内容（児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉）について理解する。	
4	特別支援教育についての理解：特別支援教育の基本的な考え方（インクルーシブ教育）や教育内容（教育課程など）について理解する。	
5	体験活動の実際①：福祉施設における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
6	福祉施設での介護等体験①：施設利用者の１日の生活に寄り添う。【体験１日目】	
7	福祉施設での介護等体験②：施設利用者に必要で、自己ができる介護、援助、補助などを見つける。【体験２日目】	
8	福祉施設での介護等体験③：自己ができる介護、援助、補助などを行う。【体験３日目】	
9	福祉施設での介護等体験④：自己ができる介護、援助、補助などを繰り返したり、新たに見つける意識をもって臨む。【体験４日目】	
10	福祉施設での介護等体験⑤：自己の経験や学びをもとに感謝の気持ちを持って施設利用者と会話するようにする。【体験５日目】	
11	福祉施設での介護等体験の振り返り：５日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートAの作成と提出）	
12	体験活動の実際②：特別支援学校における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
13	特別支援学校での体験①：児童生徒の１日の学校生活に寄り添い、自分がどんな支援・援助ができるか考えながら接する。【体験１日目】	
14	特別支援学校での体験②：１日目の体験で気付いたり考えたりしたことをもとに、２日目はどのように関わっていくか考えて接する。【体験２日目】	
15	特別支援学校での介護等体験の振り返り：２日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートBの作成と提出）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
介護等体験日誌（7日間）	40	福祉施設及び特別支援学校での体験内容を丁寧に記載するとともに、どのような学びがあったのかを明確に書いている。	介護等体験レポートAB	30	福祉施設及び特別支援学校の体験終了後、規定の書式でレポートを書いている。
小レポート	20	福祉施設や特別支援学校の事前調査結果及び講義内容の感想を分かりやすく書いている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①第１回目の授業後に課す「ノーマライゼーションとは何か」について自己で調べて第２回目に授業に臨む。（事前学習） ②第３回目の授業後に課す「インクルーシブ教育と何か」について自己で調べて第４回の授業に臨む。（事前学習） ③７日間の体験中、その日の体験が終わったら毎回、『介護等体験日誌』を書く。（事後学習） ④体験終了後１週間以内に介護等体験レポートABを提出する。（事後学習） ⑤『介護等体験日誌』を学内の「教材室」に提出する。（事後学習）	①小レポート課題の取り組みについてコメントする。 ②福祉施設及び特別支援学校での介護等体験レポートABにコメントする。

受講生に望むこと	①教職を目指す学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解した上で実際の体験に臨むようにしてほしい。 ②高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考え、機会があるときには積極的に交流できるようにしてほしい。 ③ノーマライゼーションの考え方を理解し、今後の生き方の中でそれを大切にしていこうとする意識を持つようにしてほしい。	教科書・テキスト	『介護等体験安心ハンドブック』，庄司和史著，学事出版，2018年版，ISBN978-4-7619-2477-5
指定図書／参考書等	『介護等体験ハンドブック』，現代教師養成研究会編，大修館書店，2014年版，ISBN4-469-26534-9，『介護等体験ガイドブック　フィリア』，全国特別支援学校校長会編著，2014年版，ジ アース教育新社，ISBN978-4-86371-522-6／なし	その他・特記事項	介護等体験レポートABはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行うとともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解させている。

授業科目名	SK305U 専門ｾﾞﾐⅡ			開講学科	社会	必修・選択	必修
担当教員名	赤羽　由起夫・井上　克洋・内田　啓太郎・加藤　仁・田中　純一・田引　俊和・俵　希實・真砂　良則・松尾　藍・若杉　亮平・若山　将実　（代表教員　赤羽　由起夫）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「専門ゼミⅠ」で学んだ研究方法を土台に、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究レポートを作成する。具体的には、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導く。この過程をゼミ担当教員の指導の下で行う。レポートを作成するとともに、その成果を卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で報告する。	①各自の問題関心を深めて研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②設定した研究テーマについて、レポートを作成することができるようになる。 ③レポートの内容について、プレゼンテーションを通して効果的な報告を行うことができるようになる。 ④専門分野について自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できるようになる。

教授方法	演習
履修条件	「専門ゼミⅠ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の目的、流れ、方針と評価方法等について説明する。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告。	全教員
30	全体のふりかえり。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	①授業にまじめに取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	20	①レポートの内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
レポートの作成および報告会の準備は、ほぼ授業外で行う。［120分以上］	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。

受講生に望むこと	レポートの作成は、早目に着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SK310U 卒業研究			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫・井上　克洋・内田　啓太郎・加藤　仁・田中　純一・田引　俊和・俵　希實・真砂　良則・松尾　藍・若杉　亮平・若山　将実　（代表教員　赤羽　由起夫）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学での学びの集大成として、これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会で研究成果を報告する。	①現代社会が抱える様々な問題に対しての関心を高め、研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。	全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	①研究にまじめに取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業論文の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
卒業論文の作成および卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備は、ほぼ授業外で行う。［120分以上］	卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会において行う。

受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。	その他・特記事項	不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせること。 履修条件についての詳細は、『学生要覧』の「卒業研究履修条件」を参照のこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SC200U 宗教と社会			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、その影響は世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、歴史上の人物や映画作品を通じて、キリスト教信仰が社会に与えるインパクトの諸相を探究する。	・宗教が単に、個人に安心立命を与えるだけではなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解し、複数の社会科学方法論の特徴と方向性を比較し、複数の視点を持つことができる。 ・歴史上の人物や映画作品を通じて、キリスト教信仰が社会に与えるインパクトの諸相を探究する中で、自分自身の生き方について学びとったことを自分の言葉で表現できるようになる。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義。
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の履修済が望ましい（単位未修得も可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要、課題、スケジュール等を詳細シラバスに拠って紹介する。	
2	・大塚久雄と社会科学：社会経済学者大塚久雄の著作を通して、信仰と社会との関係に係るアプローチの方法を探究する。 ・小テスト①準備	
3	宗教と科学技術　宗教は非科学的か。聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学史的に概観し、科学技術成立に対する宗教の影響と役割を確認する。宗教と科学技術との基本的な関係を把握する。	
4	・キリスト教信仰と共同体形成：旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを理解する。	
5	・宗教改革と職業理解の展開：宗教改革による職業観の転換の例としてマルティン・ルターの職業理解とその意義を考察する。 ・小テスト①実施	
6	キリスト教と日本社会：明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命Missionについて考える。近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える。	
7	キリスト教信仰と社会正義：杉原千畝①　杉原千畝の生涯を辿りつつ、自己の生きる時代状況の中でキリスト教信仰をもって生きることがどんな変化をもたらすのか考察する。	
8	キリスト教信仰と社会正義：杉原千畝②　杉原千畝の生涯を辿りつつ、自己の生きる時代状況の中でキリスト教信仰をもって生きることがどんな変化をもたらすのか考察する。 小テスト②準備	
9	キリスト教信仰と社会正義：キング牧師①　信仰における行動が社会のあり方に大きなインパクトを与えた実例を、キング牧師の人種差別との闘いから学ぶ。	
10	キリスト教信仰と社会正義：キング牧師②　信仰における行動が社会のあり方に大きなインパクトを与えた実例を、キング牧師の人種差別との闘いから学ぶ。	
11	キリスト教信仰と結婚・家庭：ファイアーストーム①　結婚と家庭形性におけるキリスト教信仰、特に契約の意義について、自分にあてはめつつ考察する。 小テスト②実施	
12	キリスト教信仰と結婚・家庭：ファイアーストーム②　結婚と家庭形性におけるキリスト教信仰、特に契約の意義について、自分にあてはめつつ考察する。	
13	キリスト教信仰とコミュニティ形成：フェイシング・ザ・ジャイアント①　キリスト教信仰において自己のアイデンティティーを形づくる時、それはコミュニティーとチームを刷新する力を持つことを発見する。	
14	キリスト教信仰とコミュニティ形成：フェイシング・ザ・ジャイアント②　キリスト教信仰において自己のアイデンティティーを形づくる時、それはコミュニティーとチームを刷新する力を持つことを発見する。	
15	まとめと期末試験準備、授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
興味・関心・態度	20	授業に出席し、積極的に発言し、振り返りシートを毎回提出する。	教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、授業のテーマとの関連で説教内容を考察したレポートを提出する。
小テスト	20	キリスト教史に関わる重要人物に関する小テストを２回に分けて実施する。	期末試験	40	学期末に、この科目を通して自分の生き方との関わりで学んだことを表現する記述試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への積極的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、本学のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④神に感謝し、献金先の活動を理解しつつ、礼拝献金に加わる。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	聖書
指定図書／参考書等	なし／授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書ならびに Chromebook を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・視聴覚教材も積極的に導入する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SC315U 社会病理学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、社会病理学の理論と現代社会における社会病理の実態について解説する。これを通じて、社会病理学の考え方や現代社会の社会病理の実態についての正確な知識を学び、社会病理の事例を社会学的に説明できる力を身につける。	①社会病理に対する社会学的な考え方を身につける。 ②現代社会の社会病理の実態についての正確な知識を身につける。 ③現代社会の社会病理の事例について、その実態を社会学的に説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	逸脱行動の社会学①　逸脱とは何か：逸脱の定義、逸脱化・非逸脱化、犯罪化・医療化といった点などについて理解する。	
3	逸脱行動の社会学②　逸脱行動論：逸脱行動を説明する理論である緊張理論、学習理論、統制理論について理解する。	
4	社会問題の社会学①　機能主義：社会問題を説明する理論である機能主義について理解する。	
5	社会問題の社会学②　構築主義：社会問題を説明する理論である構築主義について理解する。	
6	社会病理と統計：社会病理の統計を理解するために必要な基礎知識を理解する。	
7	薬物犯罪：薬物犯罪の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
8	殺人：殺人の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
9	暴力団：暴力団の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
10	いじめ：いじめの言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
11	少年犯罪：少年犯罪の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
12	自殺：自殺の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
13	不登校：不登校の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
14	児童虐待：児童虐待の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
15	ひきこもり：ひきこもりの言説と実態について社会病理学的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションシート	30	授業の内容をふまえて自分の考えを記述できるかを評価する。	期末試験	70	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①社会病理に関する情報を普段からニュースなどを通じて入手し、その内容や背景を知るようにする。［45分］ ②授業の内容を復習することで社会病理学の考え方を身につけるとともに、ニュースなどで入手した社会病理の内容や背景について社会病理学的に考える。［60分］	リアクションシートでの質問について毎授業時の最初に解説する。

受講生に望むこと	この授業を通じて、「個人環境にかんする私的問題」と「社会構造にかんする公的問題」とを関連づけて考えることができる「社会学的想像力」（Mills 1959=1965）を身につけ、社会病理を社会学的に考えられるようになってください。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配布する）
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SC320U ﾒﾃﾞｨｱ文化論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「授業の到達目標」で示した目的を達成するために情報社会学と関連領域（メディア論、コミュニケーション論、理論社会学、文化社会学など）における基本概念（専門用語・学術語）や言説（すでにある研究成果）を解説します。また授業では内容への理解をスムーズにするためできる限り最新の事情を取り上げてケーススタディを行います。	現代社会においてインターネット、特にソーシャルメディアは情報が生産される場所であり、生産された情報が拡散、共有される場所である。同時にソーシャルメディアが情報の生産、拡散、共有を通じて人びとが相互につながり、集団を作り上げていく手段としても利用されている。したがって本授業の目標は、ソーシャルメディアを対象とした社会学の理論と方法について先行研究をふまえて学び、社会学の視点からソーシャルメディアのあり方とそこで生じる多様な社会現象を理解する力を修得することである。

教授方法	講義
履修条件	無し

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【イントロダクション】 教科書序章「今、ソーシャルメディアを論じることについて」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
2	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（1）】 教科書第1章「ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
3	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（2）】 教科書第2章「動画視聴は自由な意思でなされているのか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
4	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（3）】 教科書第3章「小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
5	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（4）】 教科書第4章「ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな『場所』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
6	【ソーシャルメディアと文化（1）】 教科書第5章「インターネットは音楽から何を奪ったか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
7	【ソーシャルメディアと文化（2）】 教科書第6章「ソーシャルゲームというメディア」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
8	【ソーシャルメディアと文化（3）】 教科書第7章「アニメ・マンガのソーシャルな体験」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
9	【ソーシャルメディアと文化（4）】 教科書第9章「YouTubeにおけるリアクターとエモ消費」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
10	【ソーシャルメディアと政治・経済（1）】 教科書第10章「プラットフォーム経済」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
11	【ソーシャルメディアと政治・経済（2）】 教科書第11章「ネット炎上の政治学」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
12	【ソーシャルメディアと政治・経済（3）】 教科書第12章「ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの『波』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
13	【ソーシャルメディア研究法入門】 指定図書の「はじめてのソーシャルメディア研究（飯田豊）」章の内容をふまえ、ソーシャルメディアで生じた社会現象やソーシャルメディアそのものを対象とする研究を行ううえで必要な概念となる「マスメディアとの共振作用」について社会学および社会心理学の知見より解説する。	
14	【ソーシャルメディアと「地域」】 教科書でも言及されている「プロト・ソーシャルメディア」概念をふまえ、ソーシャルメディアを含むインターネットによる地域社会／コミュニティの変容について、授業担当者が過去に実施したフィールドワークの成果をもとに解説する。	
15	【今学期のまとめ】 第14回の授業までに学んだ内容をふりかえり「いま・ここで」ソーシャルメディアを対象とした社会学を学ぶ意味を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布する資料を事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて現代社会におけるソーシャルメディアのあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加してください。	教科書・テキスト	松井広志・岡本健（編著）2021年『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版（ISBN：9784779306617）
指定図書／参考書等	指定図書：浪田陽子・福間良明（編）2021年『はじめてのメディア研究〔第２版〕』世界思想社（ISBN：9784790717478） 参考書：授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料はオンラインで公開する予定です。資料の閲覧、ノートテイキングのため、Chromebook、タブレットPC、ノートPCを持参することを推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL225U 経済学Ⅰ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、経済学に関する基本的な知識やお金の流れ、そして社会経済の仕組について分かりやすく解説していく。内容的には経済学入門であり、高校で経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく予定である。時々意見交換も行う。	経済学に関する基本的な知識を習得し、新聞や雑誌記事で語られている経済的な事象や議論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	経済学とは：経済と生活の繋がりを学ぶ	
2	市場の原理とは：需要と供給、競争、独占について学ぶ	
3	経済成長とは：国富、GDP、豊かさと何かを学ぶ	
4	市場の失敗と政府の役割：市場万能主義の問題点を学ぶ	
5	景気循環とは：景気循環の仕組とその社会・生活への影響を学ぶ	
6	景気のコントロール：ケインズ経済学を学ぶ	
7	不景気の意味：イノベーションとシュンペーターを学ぶ	
8	小テスト	
9	政治と経済：政官財¯鉄のトライアングルについて学ぶ	
10	鉄のトライアングル　VTR鑑賞	
11	日本の財政：歳入と歳出、財政問題、上げ潮派、均衡財政派について学ぶ	
12	日本銀行の役割：物価のコントロールについて学ぶ	
13	日本の経済政策１：日本列島改造論から小泉改革までの流れを学ぶ	
14	日本の経済政策２：アベノミクスについて学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	80	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	20	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	小テスト後において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

授業科目名	SL230U 経済学Ⅱ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、前半は経済学Ⅰの知識をベースに国際経済に関する基本的な制度やその変遷を学び、後半は現代の経済学を支える主要な理論を学ぶ。時々意見交換も行う。	国際経済学に関する基本的な知識を習得し、現代の経済学を支える主要な理論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	経済学Ⅰの受講後に履修することが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	IMF・GATT体制：戦後の国際経済システムを学ぶ	
2	金本位制と変動相場制：ニクソンショックの影響について学ぶ	
3	外国為替と国際貿易：為替レートの決定要因と国際貿易の功罪を考える	
4	株式市場・債券市場・外為市場：金融市場を学ぶ	
5	ニューエコノミーと米国経済：米国経済の日本への影響を学ぶ①	
6	民主党と共和党の経済政策：米国経済の日本への影響を学ぶ②	
7	小テスト	
8	マルクス主義：資本主義の興隆と崩壊についての理論を学ぶ	
9	世界システム論：マルクス主義の展開について学ぶ	
10	マネタリズム：貨幣供給量による経済のコントロールについて学ぶ	
11	ゲーム理論：新しい経済学について学ぶ①	
12	行動経済：新しい経済学について学ぶ②	
13	MMT現代貨幣理論：国債はいくらでも発行可能か？考える	
14	21世紀の資本：格差社会の歴史的背景について学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	10	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	小テスト後において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

授業科目名	SL340U 経済学Ⅲ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、資本主義社会が最初に誕生したイギリスを中心に、１６世紀から現代に至るまで西洋の人々の生活が具体的にどのように発展していったのか、そしてその背後にある社会の力関係や仕組の変化を経済の歴史を通して学んでいく。内容的には西洋経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明してくため、これまでに経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく。時々に応じて意見交換も行う。	資本主義社会がどういう条件の下で誕生し、それがどのように世界に広がっていったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、南北問題や地域格差などの現代の社会経済問題を分析把握できるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	工業化前のイギリス社会①：農村の経済を学ぶ	
2	工業化前のイギリス社会②：都市の経済を学ぶ	
3	工業化前のイギリス社会③：都市と農村との経済的関係について学ぶ	
4	工業化前のイギリス社会④：工業化前の社会保障制度を学ぶ	
5	プロト工業化：農村における手工業生産の拡大について学ぶ	
6	工業化①～毛織物と綿産業の興隆を学ぶ	
7	工業化②～帝国主義について学ぶ	
8	小テスト	
9	イギリスの工業化の波及：ベルギー・フランス・ドイツの工業化を学ぶ	
10	工業化の新たな段階：電気・化学・輸送・コミュニケーションについて学ぶ	
11	2つの世界大戦と国際経済：グローバリゼーションの時代を学ぶ	
12	戦後復興：復興から米ソ冷戦への流れを学ぶ	
13	EU：欧州経済の統合とユーロの誕生について学ぶ	
14	現在における国際経済の諸問題：環境、移民、租税回避について考える	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	与えられた問題にどれだけ正確にこたえられているか。	受講態度	10	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に関わったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	小テスト後において、総評と個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL345U 経済学Ⅳ			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、明治以降の日本が西欧諸国をモデルに工業化を達成し経済大国といわれるまでに至った過程を理解し、加えて日本人の価値観、背後にある国際情勢、社会の力関係や仕組の変化を経済の歴史を通して学んでいく。取り扱う内容としては日本経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明してくため、これまでに経済に関する科目履修や知識がなくても理解できるように講義を進めていく。	日本における工業化がどのような時代的背景や条件の下で誕生していったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、財政や移民・グローバル化などの現代日本の社会経済問題を分析把握できるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	江戸の社会と経済：都市と農村を学ぶ	
2	幕末と開港：幕末の経済発展とグローバル化について学ぶ	
3	明治維新：中央集権国家の経済的側面について学ぶ	
4	日本資本主義の確立①：日本の産業革命について学ぶ	
5	日本資本主義の確立②：明治期の社会構造について学ぶ	
6	帝国主義の経済構造：日露戦争、第一次大戦そして太平洋戦争を学ぶ	
7	小テスト	
8	戦後経済改革と復興：戦後改革、傾斜生産方式、朝鮮戦争について学ぶ	
9	高度経済成長（1954-1973年）①：消費社会の到来について学ぶ	
10	高度経済成長（1954-1973年）②：総中流化社会について学ぶ	
11	オイルショックと安定成長：経済大国日本と貿易摩擦について学ぶ	
12	バブル経済とその崩壊：プラザ合意、円高、複合不況について学ぶ	
13	失われた30年：小泉改革からアベノミクスまでの流れを学ぶ	
14	日米関係：戦後の日米関係について学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	与えられた問題にどれだけ正確にこたえられているか。	受講態度	10	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に関わったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、その背景にある経済的事象について考察してみる。	小テスト後において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL310U 法律学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	名古　道功						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
法律は、社会生活を営む上で常に関わりを持つものである。 本講義では、法律が現実社会の中でどのような役割を果たしているのかを学生に身近な法律問題を通じて学び、法律の重要性を理解する。さらに、法的思考を身につけることによって、法学の視点で様々な社会問題について、各自が思考できることをめざす。	①法律問題の解決方法を自ら考える法的思考力を養成するとともに、直面した場合の対応方法を習得する。 ②各テーマのルールを理解し、社会生活で活かして法的紛争防止に役立てる。

教授方法	主として講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・法の意義と役割と役割を理解する。　①授業の概要・方法等を説明する。②最近の事例を素材にして、法の意義　と役割を理解する。	
2	契約・成人年齢の引下げ　契約の意義や成人年齢18歳引下げの影響・留意点を理解する。	
3	消費者保護と法　消費者契約法などの規制と仕組みを学び、消費者保護の必要性・制度を理解する。	
4	クレジット契約・通販と法　クレジット契約や通販の規制と仕組みを学び、利用における留意点を習得する。	
5	ハラスメントと法　セクハラやパワハラの事例を取り上げ、法的対応を理解する。	
6	カスタマーハラスメント　店員等が顧客から受ける暴言や暴行の実情と法的対応を考える。	
7	交通事故と法①　交通事故の現状、影響、法的責任などを取り上げ、交通事故の重大性を学ぶ。	
8	交通事故と法②　交通事故の法的責任や自賠責保険などを取り上げ、不法行為や損害賠償の内容を理解する。	
9	アルバイトと法　アルバイトで直面する法律問題を取り上げる。いくつかの事例の考察を通じて、解決策と対応を学ぶ。	
10	少年犯罪と法　少年犯罪の実情と背景、「厳罰化」の議論などを通じて、少年犯罪への考え方や刑法の意義・機能を学ぶ。	
11	アパートの賃貸借　アパートの賃借で生じる法律問題を考える。契約内容（約款）、更新、現状回復義務、賃貸借期間などを理解する。	
12	家族と法　子供の養育、結婚、相続のほか、虐待に対する法的対応を学ぶ。	
13	食品製造販売と法　食品ロスや食品衛生法などの規制を理解する。	
14	社会保険と生活保護　労働者・家族の生活保障に不可欠の医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険を学ぶ。生活保護のあり方も考える。	
15	法律紛争解決システム　法律紛争の相談機関（消費者センター、弁護士など）や解決機関（裁判所、調停機関等）の状況と対応方法を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。	小テスト	30	設問に正確に答えているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①次回講義のレジュメを配布するので、予習する（1時間）。 ②復習は必ず行う（1時間）。 ③新聞などを通じて、関連する社会問題の知識を増やす（30分）。	①講義内容理解向上をめざして小テストを適宜実施し、採点して返却する。 ②講義内容の理解度を知るため、毎回、ミニッツペーパーの提出を求め、わからない点などがあれば、補充説明を行う。

受講生に望むこと	社会問題に関心を持ってほしい。 予習・復習を欠かさず行う。	教科書・テキスト	なし　毎回、レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL315U 政治学			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。 まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。	①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。

教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	全学部履修可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）	
2	民主主義とは何か：民主主義について、選挙との関連から考察します。特に、シュンペーターの民主主義理論から現代日本の民主主義の実際について考えます。（民主主義の理論と実際を理解する。）	
3	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか。この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）	
4	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）	
5	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）	
6	政党：現代民主主義に欠かすことのできない政党について考察します。そして選挙制度が政党の数や行動に与える影響について考察します。（日本の政党政治の特徴や問題点について理解する。）	
7	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）	
8	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、岸田首相の政権運営が最近の首相とどのように違うのかについてなど。）	
9	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）	
10	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）	
11	利益誘導政治：民主主義国家で見られる利益誘導政治について、その特徴、要因、そして影響について検討します。（道路、橋、新幹線、そして原子力発電所などの建設に政治がどのように関わっているかを理解する。）	
12	マスメディア：民主主義国家において、政治家と有権者を繋ぐ媒体としてメディアの果たす役割について政治学の理論から事例を交えつつ検討します。（メディアが政治にどのような影響を与えるのかを理解する。）	
13	政治腐敗：民主主義国家において政治が腐敗すると、社会にどのような影響があるでしょうか。日本における近年の政治腐敗とされる事例について検討することで考えます。（政治腐敗はなぜ起きるのかを理解する。）	
14	災害と政治：第13回までの授業内容をふまえながら、2024年1月1日の能登半島地震に対する政府や自治体による復興対応を事例に、災害が起きた際に有権者は政治や政治家にどのような期待や要望を持ち、それに対してどのように政府や政治家は対応しているのかを学術的に考察していきます。	
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、2020年以降のコロナ禍や2024年1月の能登半島地震などを受けて、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	論述形式や穴埋め問題など、様々な形式を用いた試験を予定している。政治学の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。	毎回の課題・リアクションシート	40	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらうことを検討しています。[60分]	毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。

受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回直接、またはGoogle Classroomを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし。／『政治行動論〔新版〕：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著　有斐閣　2025年　ISBN:978-4-641-15136-9.『政治学（New Liberal Arts Selection）』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真渕 勝共著　補訂版　有斐閣　2011年　ISBN-13: 978-4641053779.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL320U 地域社会政策論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では自然災害で被災した住民生活の復旧・復興過程で生じるさまざまな課題を取り上げつつ、課題の発生原因と制度的課題を法制面、政策面から検討し、必要な施策について考える。	①被害の不平等性概念について理解する。 ②被災者支援に係る法律、条令等について内容を理解する。 ③「人間の復興」という考え方について理解する。

教授方法	講義、テーマに基づくディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	我が国の社会変動の特質と課題：超少子高齢社会の特徴、課題について理解する。	
3	超少子高齢社会の特質と社会政策①：人口政策、財政政策について理解する。	
4	超少子高齢社会の特質と社会政策②：社会保障政策、セーフティ・ネットについて理解する。	
5	過疎を生きる：過疎集落の住民の暮らしを捉えた映像資料を参照しつつ、集落の維持、住民生活の持続に必要な視点について理解する。	
6	映像研究①　映像資料から過疎集落の暮らしの課題と改善策を考える。	
7	内発的発展とは何か：内発的発展論の主要理論と今日的意義について理解する。	
8	グループワーク①　与えらえたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
9	グループワーク②　与えられたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
10	災害と避難行動：災害発生時の避難行動の特徴について理解する。	
11	過疎地における自然災害の発生と復旧・復興の課題：能登半島地震を事例に住宅政策、生活再建制度の課題について理解する。	
12	地区防災計画：地区防災計画の考え方、計画づくりに必要な視点について理解する。	
13	映像研究②　映像資料を参考に住民主体の復興まちづくりに必要な視点について理解する。	
14	個別避難計画：住民一人ひとりに寄り添った避難支援の考え方と計画づくりに必要な視点について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義内容の理解度
レポート	25	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	期末試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①配布された資料は、講義前に目を通し内容を理解する[30分以上] ②講義で学んだことはその日のうちに復習するとともに、わからなかった点や関心を持った内容について、他の文献等を参照しながら内容の理解に努めること[30分以上] ③適宜小テストを実施するので、テスト範囲の学習に取り組むこと[30分以上]	講義時間内に小テストを複数回実施し、答え合わせ・解説する。

受講生に望むこと	時事問題に関心を持ち、積極的に情報収集する。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	第8～9回は連続開講予定（振替対応）。グループワークについては、状況により進め方を変更することがある（講義内で説明する）。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL235U 環境と開発			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、国内外で発生する開発問題、環境問題について問題発生の要因を探るだけでなく、問題の背後にある経済社会システムの限界について批判的に検討する。	①エンパワメント、内発的発展、人間開発概念など、講義で取り上げる重要概念について説明できる。 ②基本的人権について理解を深め、人権を通して社会的諸問題を捉える視点を持つ。 ③「開発」について自分のことばで説明できる。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション、グループワーク
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	貧困とは　　DAC指標などを通し貧困概念にについて理解する。	
3	豊かさとは　　消費社会における豊かさ、絶対的貧困、相対的貧困について理解しつつ、豊かさの意味について考える。	
4	人間の潜在能力と開発　　アマルティア・セン「人間の潜在能力」概念について理解する。	
5	グローバル化と不平等　途上国の現状を理解し不平等の構造について理解する。	
6	開発と人権（1）世界人権宣言を中心に人権概念について理解する。	
7	開発と人権（2）日本国憲法を中心に基本的人権について理解する。	
8	近代化と開発　従属理論、世界システム論について理解する。	
9	映像研究①　開発問題をテーマにした映像資料から、グローバルな開発問題の解決策について考える。	
10	相対的剥奪とは　　各種指標を用いて、格差及び貧困が生み出される社会経済構造について理解する。	
11	ウェルビーイングとは　　GNH（Gross National Happiness）概念を通して、豊かな暮らし、well-being概念について理解する。	
12	持続可能な社会とは　SDG's概念の基本的な考え方を踏まえつつ、持続可能性を批判的に検討する。	
13	映像研究②　環境・人権問題をテーマにした映像資料から、グローバルな環境問題の現状を捉えつつ、解決策について考える。	
14	公正な貿易とは　　フェアトレードの考え方、社会的意義と限界について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義内容の理解度
レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	講義で学んだことの理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので内容を復習する［30分以上］ ③講義で紹介した書籍等について、目を通し内容を理解する［30分以上］	講義時間内に小テストを複数回実施する。

受講生に望むこと	環境問題、開発問題に関連した新聞記事やニュースを関心をもって見る。あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SL335U ﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ論			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、マーケティングとは何かについて、組織（企業）活動における役割の点から学んでいきます。主に、STP（Segmentation, Targeting, Positioning）やマーケティングの4P（Product, Price, Place, Promotion）について、マネジメントの観点から考察します。また、商学関連の基礎となるものであり、各論の流通やサービスなどにおいて理解を深めることができるよう、総括的に講義を進めます。 ※SDGs目標番号1～3、14関連科目	主要なマーケティングの考え方や分析の枠組みを理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・マーケティング論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	マーケティングの概念：　マーケティングの考え方や体系、マーケティングの4Pの概要などについて考察していきます。	
3	事業機会の選択：　市場需要の創造、開拓、拡大や、成長ベクトル、事業戦略のポートフォリオなどについて考察していきます。	
4	事業領域の選択：　事業領域（ドメイン）、事業の多角化、組織（企業）アイデンティティ、組織（企業）イメージ、組織（企業）戦略とマーケティングなどについて考察していきます。	
5	標的市場の選択：　標的市場の選択における市場細分化の考え方や基本軸、体系、採用の手続きなどについて考察していきます。	
6	製品対応：　マーケティングにおける製品、新製品開発、製品ライフサイクル、ブランド・マネジメントなどについて考察していきます。	
7	価格対応：　価格設定の基本的な考え方、新製品や製品ミックス、心理面などを考慮した価格対応、割引による価格対応、需要の弾力性などについて考察していきます。	
8	チャネル対応：　チャネルの体系やチャネルの選択、チャネルの管理などについて考察していきます。	
9	プロモーション対応：　マーケティングにおけるコミュニケーションとその領域、コミュニケーション・ミックス、広告、セールス・プロモーションなどについて考察していきます。	
10	競争分析、競争対応：　組織（企業）を取り巻く競争要因、業界の競争構造や競争戦略の分析、変化する競争構造などや、競争における枠組みと対応などについて考察していきます。	
11	サービス・マーケティング、消費者行動：　サービスそのものや商品などに付随する機能としてのサービスに関するマーケティング、消費者行動における分析方法、新製品の普及過程、準拠集団、新しい消費者行動分析などについて考察していきます。	
12	ソーシャル・マーケティング、関係性マーケティング：　社会的な問題の解決や社会的な組織におけるマーケティング、顧客との関係性の構築と維持を目指して展開されるマーケティングについて考察していきます。	
13	デジタル・マーケティング、市場データ分析：　情報やネットなどのデジタルのマーケティング、市場におけるデータ分析の基本的な考え方について考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだマーケティングの考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	【参考書等】 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2022）『マーケティング戦略〔第6版〕（有斐閣アルマ）』有斐閣. ISBN：978-4641221833 ＊その他の文献は、適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SS310U スクールソーシャルワーク演習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
スクール（学校）ソーシャルワーカーに必要な視点、および援助技術について、援助場面を想定した具体的な事例を用い考察を深め、理解する。また、個別性・共通性の理解とともに子どもを取り巻く環境との関係性、および学校教育現場の特性、当該地域の特性についても理解を深め、必要かつ適切な能力を習得する。 スクール（学校）ソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した内容を展開する。	1．個別事例へのアセスメントのみでなく、ソーシャルワーカーとして、教育行政や学校の動き、地域を把握し、地域アセスメント、学校（地域機関）アセスメントができる力をつける。 2．スクール（学校）ソーシャルワーク実践、特にメゾ・マクロプラクティスについて実際に体験的に習得する。 3．記録化する手法を持たない学校のなかで、記録化するだけでなく、校内で記録用紙を創造し、蓄積していく力をつける。

教授方法	演習
履修条件	「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの価値、福祉の価値、ミッションとは	
2	子どもを取り巻く地域の状況、インフォーマルな機関を含めた地域機関、教育委員会、学校の状況の把握、地域アセスメント、学校アセスメント	
3	ミクロプラクティス（具体的な問題解決能力、アウトリーチ）	
4	メゾプラクティス（チームアプローチ、マネジメント）	
5	メゾプラクティス（ケース会議、教育行政との協働）	
6	マクロプラクティス（市町村子ども家庭相談体制の位置づけ、福祉・教育協働の相談体制作り）	
7	マクロプラクティス（地域に根ざした活動展開、開発機能の意義と実践）	
8	記録、スーパービジョン、評価（スクール（学校）ソーシャルワークを維持発展させる力、実証的にソーシャルワーク行為を示す力）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	レポート・授業内確認テスト等	50	レポート・ワークシート・小テストの記載内容、授業内容の理解

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布します。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SS315U スクールソーシャルワーク実習指導			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
スクール（学校）ソーシャルワーク実習にかかる個別指導、並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。また、具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化、理論化し、体系立てていくことができる能力を養う。	1．スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2．学校現場等を知り、学校組織を体験的に学ぶ。 3．教育の場において社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4．用意された現場ではなく社会福祉が展開されるべく新しい現場に入るという意味を十分理解し、開拓の視点を養う。

教授方法	演習
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	スクール（学校）ソーシャルワーク実習の意義、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解	
2	実習先で必要とされる相談援助（子ども、家族、教員対象）に係る知識と技術に関する理解、実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解	
3	実習先の自治体等の子ども相談体制についての理解、現場体験学習（個別面接、ケース会議、連携会議など）、見学実習、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解	
4	実習記録ノートへの記録内容、及び記録方法に関する理解	
5	実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
6	巡回指導	
7	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール（学校）ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	
8	実習の評価全体総括会（報告会）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	レポート・授業内確認テスト等	50	レポート・ワークシートの記載内容、授業内容の理解

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会の事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布します。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SS320U スクールソーシャルワーク実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
規定時間数のスクール（学校）ソーシャルワーク実習を通して、日々子どもたちが過ごす学校現場等を知り、学校組織を体験的に学び、理解を深める。併せて、ソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。	1．スクール（学校）ソーシャルワーカーとして求められる資質、技能、倫理から、福祉が一次分野でない教育現場における課題を見つけられる力を養う。 2．教職員、他との連携のあり方、及びその具体的内容を実践的に理解する。 3．子どもや家族、教職員から自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教授方法	実習
履修条件	「スクール（学校）ソーシャルワーク演習」、「スクール（学校）ソーシャルワーク実習指導」の単位修得済みの者、または同時履修の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもたち、教職員、教育委員会、事例や学校に関する関係者との基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	
2	子ども・家族の理解、学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解、そしてそのニーズ把握と支援計画の作成	
3	子ども・家族、そして学校、教育委員会などとの援助関係の形成、子ども・家族への権利擁護、そして学校、教育委員会など含めての支援（エンパワーメント含む）とその評価	
4	校内におけるケース会議や学年会議でのケース検討における進め方の実際	
5	校内や関係機関を含めた多職種によるチームアプローチの実際	
6	社会福祉士としての職業倫理、教員など学校関係者の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解	
7	学校運営、学校組織、教育委員会組織の実際	
8	市町村の子ども相談体制についての理解、学校がどのようにつながっているのか具体的なネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習指導者による評価	60	実習態度、専門的知識・技術の習得の状況	担当教員による評価	40	実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．実習前においては、事前学習、実習計画、実習プログラムを確認する。［30分］ 2．実習後は、実習計画・課題に対する振り返りや自己評価を行い、有意義な学びにつながるように努める。［30分］	実習記録等については、指導者から適宜指導・助言を受ける。また、担当教員も巡回指導時に同様に適宜指導・助言を行う。

受講生に望むこと	1．子ども（家族含め）の権利を守る専門職として常に自覚しながら、謙虚で真摯な態度で実習に臨んでください。 2．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 3．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会の事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を授業内で配布します。	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SB335U 図書・図書館史			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。	①各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 ②世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 ③図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	メディアと図書館の歴史とは	
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア	
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史、印刷の発明	
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類、大量印刷の時代	
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史、近代のマスメディア	
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化、新しいメディアの出現	
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命	
8	図書館史（世界）2：中世の図書館、近世の図書館の歩み	
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立	
10	図書館史（世界）4：近代の図書館	
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館、近代図書館の誕生	
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館、戦争と図書館	
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義	
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策、住民と図書館の関係	
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	授業内課題	30	授業中・授業後に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見が論理的に記述されているかなどを評価する。
期末課題	50	図書・図書館史に関連したテーマでレポートが課される。適切な引用などを行い、自らの意見がまとめられているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	レポート評価後に電子的な添削・コメントを付与して返却する。その他、必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチである。歴史的な事柄にも注意を払うようにすること。	教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著. 日本図書館協会, 2013. （JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	SB340U 図書館実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の選択科目である。図書館に関する科目で得た知識・技術を基にして、事前・事後の指導を受けつつ図書館業務を経験し、図書館業務全般に対する理解を深めることを目的とする。	①図書館実習事前準備を通じて、実習先の図書館業務について理解を深める。 ②図書館実習を通じて図書館業務全般を経験することでその理解を深める。 ③図書館実習事後レポートをまとめることにより、その成果を確認する。

教授方法	実習、学内での事前指導及び事後指導と図書館においての1週間の実習を行う
履修条件	「北陸学院大学　図書館実習実施規程」における実習参加資格を有するものに限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館実習の概要	
2	図書館実習事前準備レポートの作成指導	
3	図書館実習事前準備レポートの提出・評価	
4	図書館実習直前指導	
5	公共図書館実習（原則として 7 日間、ただし実習受入館で特に指定がある場合はその日程で実施する）	
6	公共図書館実習	
7	公共図書館実習	
8	公共図書館実習	
9	公共図書館実習	
10	公共図書館実習	
11	公共図書館実習	
12	公共図書館実習	
13	公共図書館実習	
14	公共図書館実習	
15	図書館実習事後レポートの提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
図書館実習	70	図書館実習に参加し、受入館側の評価を考慮しつつ総合的に判断する。	図書館実習事前課題レポート	15	図書館実習受入館について、事前に調査を行いレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は図書館実習参加を認めない。
図書館実習事後レポート	15	図書館実習後に、実習内容及び実習で学んだことについてレポートとしてまとめる。なお、このレポートの未提出者、不合格者は単位修得できない。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
司書課程における科目を必ず復習すること。あらかじめ利用者として実習先の公共図書館を訪れて利用すること。 学外での実習であり、十分な準備を行った上で参加すること。（60分）	事前レポートは添削の上で評価を直接学生に伝達する。事後レポート及び図書館側の評価は希望に応じて個別に伝達する。

受講生に望むこと	司書資格取得を希望する学生のみを対象とする。図書館実習は公共図書館という学外において、公共図書館職員に準じる立場でさまざまな規程に基づいて実習にあたることになる。法令・規程を遵守するとともに、実習受入館に迷惑がかかることが無いように注意すること。また原則として実習中の遅刻・早退・欠席は認められない（事故・体調不良等を除く）。	教科書・テキスト	なし、授業時に随時配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	復習のためには、これまでの司書科目の教科書を参照すること。実習中図書館への自家用車利用は認められない。詳細な実習内容は実習先図書館によって異なる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ST400U 心理実習			開講学科	社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・齊藤　英俊・松尾　藍・植田　峰悠　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
実習施設において、実習生が心理の支援を要する者及びその関係者に対して、実際に面接や検査を実施する、あるいは見学することを通じて、心理状態の観察及び分析並びに必要な支援（法第２条第１号から第３号までに規定する行為に相当するもの）を行う。また、実習担当教員や指導者が実習の前後に実習生に対して指導を行う。	1）心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析を説明できること。 2）心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助を説明できること。 3）心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助を説明できること。 4）心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を説明できること。

教授方法	実習施設の指導者による指導、実習担当教員の巡回指導。
履修条件	3年次までの公認心理師科目の単位を全て修得した者のうち、心理学教員が履修を認めた者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	事前指導：実習における注意点、実習に必要な知識を学ぶ。	
	実習：各施設において公認心理師の業務を体験的に学ぶ。	
	事後指導：各施設における実習の振り返り。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設における評価	50	実習施設の指導者による評定を基に評価する。	実習ノート	50	実践に繋がる学びを得たか、実習指導者の指示に従い実習したかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習施設の指導者に従った課題をこなす。[90分]	実習指導者あるいは実習担当教員が適宜行う。

受講生に望むこと	臨床現場に出て体験的に心理師の仕事を学ぶ。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。予防接種など実習施設に指定された準備は自己負担である。	教科書・テキスト	テキストは担当教員から配付する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修者数に制限のある科目である。心理学教員が認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。

実務経験を活かした授業の概要

植田：実習生としての心構えやふるまい方、注意点、必要な知識、具体的な活動などについて、実務経験に基づく実践的な指導を行う。

授業科目名	北陸学院セミナーⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、フレッシュマン・セミナー、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。 フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3、12、13関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよび「キリスト教概論Ⅰ」で礼拝への参加方法を学び、セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上、礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金：礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：６月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．フレッシュマン・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。	
	3．各学部で実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	50	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。オータム・セミナーにおいては上級生としてセミナー運営にかかわることで、調整力と実行力を身につける。セミナー活動を通じて自己と他者の違いを尊重する心をはぐくみ、キリスト教精神についての学びを深める。またセミナーと礼拝以外に実施される大学礼拝と諸行事への参加を求める。 ※SDGs目標番号3関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝および秋のセミナーへの参加
履修条件	「北陸学院セミナーⅠ」を修得済であること。「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金: 礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：6月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．オータム・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	50	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日のグローバル・スタンダードの多くは、キリスト教の背景を持つ。本講義では、世界や人間存在の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、その概要を学び、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、代表的な主イエス・キリストのたとえ話に触れる。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：自己紹介、本コースの概要説明、評価の仕方、使用テキストの説明。 ・礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方、教会礼拝出席の姿勢について知る。	
2	・キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教をはじめとする世界の宗教状況について、基本知識を身につける。 ・自分自身の宗教観について改めて振り返ってみる。	
3	・世界宗教と呼ばれる諸宗教の中心的な教え（教理）を概観する。 ・マインドコントロールと信仰との違いについて考察する。	
4	・北陸学院の形成者たちと出会う。小テスト①準備。 ・史料編纂室特別講義	
5	・小テスト①：北陸学院の形成者 ・聖書という書物：聖書の描き出す神の大いなる物語（グランド・ストーリー）の大きな枠組みを理解し、それぞれの構成やジャンルを理解する。	
6	・小テスト②準備 ・主イエスのたとえ①：憐れみ深いサマリア人のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	・小テスト②：使徒信条 ・主イエスのたとえ②：放蕩息子を迎える父のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「北陸学院の形成者」②「主の祈り」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回、聖書並びに Chromebook を持参する。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準（グローバル・スタンダード）の多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はキリスト教の信仰と生活の基準であり、現在もっとも広く読まれているベストセラーでもある。本講義では、「キリスト教概論Ⅰ」の内容を前提として、聖書の大きなストーリーラインを学ぶ。旧約聖書の描き出す神の民の歴史から新約聖書の証しするイエス・キリストの出来事、創造から終末に至る聖書のグランド・ストーリーが自己の人生観・世界観にもたらすインパクトを探る。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：担当教員自己紹介、本授業の概要、評価の仕方の説明。	
2	創造物語：この世界は神が造られた被造世界であり、神と人間が関わり合う舞台として形づくられたものであるという聖書の世界観を発見する。	
3	アブラハムの旅立ち：神の約束に信頼して旅立ったアブラハムの信仰物語を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
4	小テスト①準備 モーセの召命：モーセの物語を通じて、神に呼ばれその務めに立てられ、使命に生きるという人生観を発見する。	
5	小テスト①：十戒 出エジプト：神が苦しみ悩む者を解放し導く主であることを見出し、それが自らの人生に示唆するインパクトを探究する。	
6	小テスト②準備 イエス・キリストの誕生、その教えとわざ：イエス・キリストの生涯と働きを知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	小テスト②：使徒信条 十字架と復活：イエス・キリストの死と復活、そこから始まっていった教会の伝道のわざについて知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「十戒」②「使徒信条」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[30分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「定期試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）（日本聖書協会）
指定図書／参考書等	なし／授業の中で別途紹介する。	その他・特記事項	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	山田　和人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論ⅠおよびⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。	このコースの履修後に学生は・・・ ①北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明（内容、目標、予定、課題、成績評価方法、参考図書の説明）	
2	「イエス・キリストとの出会い」 シモン・ペトロをはじめ、特定の人物に焦点を当て、福音書におけるイエスとの出会いの証言に耳を傾ける。	
3	・「主の祈り」（マタイ6：5-15）：「礼拝」が神と人間との対話・交わりであることを発見する。「祈る」ことを知り、主イエス自らが教えてくださった「主の祈り」を理解し、祈り始める。 ・人の罪意識についての考察と探求。	
4	・小テスト①：「主の祈り」 ・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて理解し実践できるようになる。花の日献金準備。	
5	聖書の内容に親しむ①　聖書の物語と自身の物語（経験したこと）をつなぐ接点を見出し、その解釈を試みる。 「徴税人ザアカイ」（ルカ19：1－10）	
6	聖書の内容に親しむ②　聖書の物語と自身の物語（経験したこと）をつなぐ接点を見出し、その解釈を試みる。 「放蕩息子の帰郷」（ルカ15：11－32） ヘンリ・ナウエン著『放蕩息子の帰郷』を手掛かりに、「失われた者の回復」について共同探求する。	
7	「十戒」について学び、その今日的な意味について共同探求する。	
8	・小テスト②：「十戒」 ・学期末レポートについて ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。	礼拝出席レポート	20	教会の主日礼拝に２回出席し、説教内容や礼拝で経験したことについての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中2回（①「主の祈り」②「十戒」）、それぞれの内容について基本的な理解度を小テストで評価。	学期末レポート	40	課題についてのレポート作成と提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④花の日礼拝にあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をClassroom、もしくはメソフィアで告知する。

受講生に望むこと	主体的な参加。共同探求への志を持つこと。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）
指定図書／参考書等	なし／その都度指示する。	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	山田　和人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。	このコースの履修後に学生は、 ①北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を学び、会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明（内容、目標、予定、課題、成績評価方法、参考図書の説明）	
2	病いの癒し～イエスの宣教と癒しの働きを学ぶ～	
3	「使徒信条」について学ぶ	
4	・小テスト「使徒信条」 ・命の尊厳について～エリザベス・キューブラー・ロスの実践に学ぶ～	
5	ヴィクトール・フランクルの生涯に学ぶ ～ホロコーストを生き抜いた心理学者の体験とその後～	
6	医療・福祉の現場におけるキリスト教の役割について ～病院チャプレンの働きの実際～	
7	スピリチュアリティと「わたし」～人間の尊厳とのかかわりにおいて～	
8	・まとめ ・学期末レポートについて ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。	礼拝出席レポート	20	教会の主日礼拝に２回出席し、説教内容や礼拝で経験したことについての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中１回　「使徒信条」の内容について基本的な理解度を小テストで評価。	学期末レポート	40	課題についてのレポート作成と提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④クリスマス礼拝にあたり、神に感謝し、諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をClassroom、もしくはメソフィアで告知する。

受講生に望むこと	主体的な参加。共同探求への志を持つこと。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）
指定図書／参考書等	なし／その都度指示する。	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	郷土の文学			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。 ※SDGs目標番号4関連科目	①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、研究発表会
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。	
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。	
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勧進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。	
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
14	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。	
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	課題提出状況、グループディスカッションへの参加。	課題	30	授業を理解した上で適切に記述されているか。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。［30分］ 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。［180分～240分］	毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。

受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。 フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。	教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア　石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編　能登印刷出版　2001年　ISBN：978-4890103898『文学への旅　金沢・名作の舞台』「文学への旅　金沢・名作の舞台』編集委員会　2000年　ISBN4－89010－335-XC0095	その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」（https://www.aozora.gr.jp）でも読むことができる。

実務経験を活かした授業の概要

高等学校教諭時代における読書教育の実践を生かして、より身近により当事者性の高い作品や話題を提供している。

授業科目名	日本国憲法			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることで良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。 ※SDGs目標番号1～17関連科目	①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	憲法と経済の関係は？：職業選択の自由について学びます。（職業選択の自由、規制目的と審査基準について理解する。）	
13	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	
15	基本的人権をまもるために:統治機構について学びます。（権力分立と立法、行政、司法の役割について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト／確認テスト	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8回)。
期末テスト	25	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］ 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの答え合わせは次回の講義時に掲載・解説します。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』第7版,棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著,有斐閣,2024年,ISBN978-4-641-28155-4
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	青年の心理			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
青年心理学は、青年期の心理や行動を研究対象とする発達心理学の一領域であり、この領域の知見によって青年が自分自身の心理や行動を振り返り、より良く生きるきっかけをつかむことができる。この授業では、生涯発達の途上にある青年期の心理と行動について解説するとともに、青年期の心理臨床や援助について講義する。	①青年期の心理と行動について理解する。 ②青年の心理や行動を青年心理学の知見で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を、青年心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、グループワークやディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	青年期とは：青年期の成立過程と時代的変化を理解する。	
2	前青年期とは：青年期の入口としての前青年期の心理や行動を理解する。	
3	青年期の発達課題：アイデンティティとセルフエスティームについて知り、青年期の発達課題を理解する。	
4	青年期の認知の発達：人間の情報処理能力の獲得と思考の発達について知り、青年期の認知発達を理解する。	
5	青年期と家族：親からの分離個体化にかかわる心理や行動について知り、青年と家族のありようを理解する。	
6	青年期と学校・地域：青年が学校で学び、地域にかかわることの実際について知り、青年と学校・地域との関係性を理解する。	
7	青年期と友人：グループの発達的変化といじめにかかわる心理や行動を理解する。	
8	青年期の身体の変化とジェンダー・アイデンティティ：二次性徴の発現による性的成熟に伴う心理や行動と社会・文化的な性（ジェンダー）について理解する。	
9	青年期の恋愛と結婚：恋愛と結婚にかかわる心理や行動を理解する。	
10	青年期の臨床①精神疾患：青年期発症の精神疾患のある青年の心理や行動を理解する。	
11	青年期の臨床②非行：非行の実態を知り、非行にかかわる青年の心理や行動を理解する。	
12	青年期の臨床③発達障害：発達障害のある青年の心理や行動を理解する。	
13	青年期の臨床④ひきこもり・ゲーム依存：ひきこもり・ゲーム依存の実態を知り、その状態にある青年の心理や行動を理解する。	
14	青年期への支援とリソース：青年への支援サービスについて理解する。	
15	青年の就職と労働：青年期のキャリア発達にかかわる心理や行動を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解の程度を評価する。	提出物	50	授業中指示の提出物により評価する。
授業への参加態度	10	授業中のワーク、ディスカッションへの参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する［60分/回］	提出された課題は、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	①授業内容と、自身の日常の生活とのつながりを意識し、自分自身の心理と行動に興味を持ち、積極的に参加してほしい。 ②ワークやディスカッションは、真剣に自身の心理や行動を振り返りながら行なってほしい。	教科書・テキスト	『授業で使える青年心理学ワークブック』安立奈歩・河野伸子・大谷真弓著　北樹出版　2013　ISBN:978-4779303685
指定図書／参考書等	なし/『よくわかる青年心理学［第2版］』　白井利明編　ミネルヴァ書房　2015　ISBN: 978-4623072491	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	食と健康			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は一般教養科目として開講する。食事には、単に空腹を満たすだけではなく、生命維持や健康増進、活動のエネルギー源になることをはじめ、生活リズムの形成、人間関係やコミュニケーションの形成、食文化の継承など様々な役割がある。本科目では食事の栄養的側面や食事と健康との関わりを中心に学ぶ。また文化としての食事や生活を豊かにする食事について知り、理解を深める。他に、食品ロスや食の安全安心など食をとりまく今日的な課題についても知り、興味関心を高める。これらの学びを通して、自分自身の「健やかな食生活」について考える。	①食事の栄養的側面や食事と健康との関わりについて理解している。 ②食事の様々な役割や、食をとりまく課題について知り、興味関心が高まっている。 ③①②を踏まえ自分自身の「健やかな食生活」について考え、実践のきっかけを持つ。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法等について理解している。） 食生活の変遷（戦前から現代までの日本人の食生活の変遷について理解している。）	
2	何をどのくらい食べたらよいか①：自分の食事を振り返る（食事記録や写真から自分の食べたものを整理することができる。）	
3	何をどのくらい食べたらよいか②：「食事バランスガイド」とその活用法（「食事バランスガイド」の活用法を理解し、自分の食事をセルフチェックできる。）	
4	何をどのくらいいつ食べたらよいか：時間栄養学（時間栄養学の視点から、主に朝食摂取の利点について理解している。）	
5	食べたものがはたらくしくみ①：三大栄養素の吸収、代謝（三大栄養素の消化吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
6	食べたものがはたらくしくみ②：ビタミン、ミネラルの消化吸収、代謝（ビタミン、ミネラルの吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
7	日常生活と栄養（生活活動・運動と栄養の関わり、ストレスと食欲や栄養との関わりについて理解している。）	
8	生活習慣病と栄養（生活習慣病とその予防につながる食生活について理解している。）	
9	日本の伝統的な食文化「和食」（和食文化について知る。）	
10	金沢の食文化（金沢の伝統食や食文化について知る。）	
11	食品ロス（食品ロスについて理解し、自分の身の周りの食品ロスとその削減を考えるきっかけを持っている。）	
12	食の安全安心（食中毒、食品添加物、食品表示などの知識を習得し、安全で安心な食生活について考えることができる。）	
13	食情報とのつきあい方（氾濫する食情報の取捨選択の方法を理解し、つきあい方を考えることができる。）	
14	食生活の多様化と共食（食生活の多様化と共食やこ食について理解し、共食の意義について考えることができる。）	
15	まとめ：健やかな食生活とは（これまで学んできたことを踏まえ、自分自身の「健やかな食生活」について考えている。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	授業内容の把握とそれらに対しての自分の考えを適切にまとめている	授業参加状況	10	積極的に参加している
課題	30	食事記録とセルフチェックに取り組み、期限までに提出している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に資料が配布された場合、授業内で内容に関連する資料等が紹介された場合は目を通す。	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	授業をきっかけに食生活と健康の関わりについて興味関心を持ち、望ましい食生活に向けて行動してみて下さい。	教科書・テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	政治学			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。 まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。	①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。

教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）	
2	民主主義とは何か：民主主義について、選挙との関連から考察します。特に、シュンペーターの民主主義理論から現代日本の民主主義の実際について考えます。（民主主義の理論と実際を理解する。）	
3	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか。この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）	
4	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）	
5	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）	
6	政党：現代民主主義に欠かすことのできない政党について考察します。そして選挙制度が政党の数や行動に与える影響について考察します。（日本の政党政治の特徴や問題点について理解する。）	
7	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）	
8	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、岸田首相の政権運営が最近の首相とどのように違うのかについてなど。）	
9	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）	
10	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）	
11	利益誘導政治：民主主義国家で見られる利益誘導政治について、その特徴、要因、そして影響について検討します。（道路、橋、新幹線、そして原子力発電所などの建設に政治がどのように関わっているかを理解する。）	
12	マスメディア：民主主義国家において、政治家と有権者を繋ぐ媒体としてメディアの果たす役割について政治学の理論から事例を交えつつ検討します。（メディアが政治にどのような影響を与えるのかを理解する。）	
13	政治腐敗：民主主義国家において政治が腐敗すると、社会にどのような影響があるでしょうか。日本における近年の政治腐敗とされる事例について検討することで考えます。（政治腐敗はなぜ起きるのかを理解する。）	
14	災害と政治：第13回までの授業内容をふまえながら、2024年1月1日の能登半島地震に対する政府や自治体による復興対応を事例に、災害が起きた際に有権者は政治や政治家にどのような期待や要望を持ち、それに対してどのように政府や政治家は対応しているのかを学術的に考察していきます。	
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、2020年以降のコロナ禍や2024年1月の能登半島地震などを受けて、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	論述形式や穴埋め問題など、様々な形式を用いた試験を予定している。政治学の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。	毎回の課題・リアクションシート	40	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらうことを検討しています。[60分]	毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。

受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回直接、またはGoogle Classroomを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし。／『政治行動論〔新版〕：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著　有斐閣　2025年　ISBN:978-4-641-15136-9.『政治学（New Liberal Arts Selection）』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真渕 勝共著　補訂版　有斐閣　2011年　ISBN-13: 978-4641053779.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	日本語基礎			開講学科	教育学部	必修・選択	自由
担当教員名	清水　實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。	①辞書に親しみ、使いこなすことができる。 ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる。 ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ。

教授方法	演習と講義。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどういうものかを理解する。「自己紹介文」を書く。	
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）	
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）	
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）	
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）	
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く）②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）	
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読）②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）	
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読）　②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して）　④到達確認テスト	
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）	
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）	
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）	
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）	
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）	
14	①文章表現の実践（小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）	
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期テスト（16 回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解している。	到達確認テスト（8 回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解している。
各回の課題提出	20	定められた書式・時間に従って提出している。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現している。	授業参加態度	10	課題に取り組み、弱点を克服している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと。［40分］	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。	教科書・テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語基礎			開講学科	教育学部	必修・選択	自由
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストで履修が必要とされた学生を対象として開講する。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。	・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。 ・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。 ・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。

教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。	
2	Lesson 1: This is my everyday life.一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ	
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。	
4	Lesson 2: Do you keep a diary?一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。	
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。	
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。	
7	Lesson 5: We love our town,Sakura-Yokocho.　場所の表現　基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。	
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現　時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。	
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival?　進行形　進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。	
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞　面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。	
11	Lesson 9:　What does he look like?　Wh-疑問文　wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。	
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert?　基本動詞 get, have, come,　go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う	
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞　put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。	
14	Lesson 12: Let's take a trip.英語で自分を表現するために　英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。	
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができている。 ②質問して分かったことがノートにメモされている。 ③復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。［40分］不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。［20分］ ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。	随時行う。

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社. 2007年. ISBN978-4-384-33378-7 C1082
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語ＦＩ」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得ができなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、ＣＥＦＲＢ２＋～Ｃ１の能力を有すると判断された者、また英語BI, BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてデータを用いて意見を発表する。	
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてデータを用いて意見を発表する。	
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてデータを用いて意見を発表する。	
8	Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてデータを用いて意見を発表する。	
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてデータを用いて意見を発表する。	
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについてデータを用いて意見を発表する。	
14	Unit 7 Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＡⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFRのB2+～C1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション Unit 8（1）Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
2	Unit 8（2） Preparing for Emergenciesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
3	Unit 9（1）Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Ukraine and Afghanistanについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
5	Unit 10（1）Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Digital Societyについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
7	Unit 11（1）Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
8	Unit 11（2） Climate and Infectious Diseasesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
9	Unit 12（1） Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
10	Unit 12（2） Overtourism and Undertourismについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
11	Unit 13 Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解市、自分の意見をまとめる。	
12	Unit 14 Changing Africaについて内容を理解した後、データを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
13	Unit 15 Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。	
14	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Good Health and Well-beingをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
3	Unit 1 (2)　Good Health and Well-beingについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
4	Unit 2 (1) Life on Landをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
5	Unit 2 (2) Life on Landについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
6	Unit 3 (1) Reduced Inequalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
7	Unit 3 (2) Reduced Inequalityについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
8	Unit 4 (1) Climate Actionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
9	Unit 4 (2) Climate Actionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
10	Unit 5 (1) Sustainable Cities and Communitiesをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
11	Unit 5 (2) Sustainable Cities and Communitiesについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフライティンを行う。	
12	Unit 6　Gender Equalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、テーマについてデータも用いて意見交換する。	
13	Unit 7　Quality Educationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。	
14	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Unit 1～Unit 7これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins･小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＢⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く)の向上を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＢⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Responsible Consumption and Productionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
2	Unit 8 (2)　Responsible Consumption and Productionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
3	Unit 9 (1) Life Below Waterをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
4	Unit 9 (2) Life Below Waterについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
5	Unit 10 (1) Decent Work and Economic Growthをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
6	Unit 10 (2) Decent Work and Economic Growthについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
7	Unit 11 (1) No Povertyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
8	Unit 11 (2) No Povertyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
9	Unit 12 (1) Affordable and Clean Energyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
10	Unit 12 (2) Affordable and Clean Energyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
11	Unit 13 (1) Clean Water and Sanitationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
12	Unit 13 (2) Clean Water and Sanitationについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
13	Unit 14 Industry, Innovation and Infrastructureをテーマにビデオ視聴、リーディング、リスニング活動を通じて内容理解し、それについての意見交換を行う。	
14	Units 8-14からテーマを各自一つ選びスピーチ/プレゼンテーションをする。Peer reviewを行う。	
15	Unit 8～Unit 14の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR B1～ B2の能力を有すると判断された者、また英語　ＤＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1（1）Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1（2）OccupationsについてDear Future Selfと題した手紙を書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
4	Unit 2（1）At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 can/could/mightなどの法助動詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2（2）At the Dinner Tableついてレストランでの会話を完成させ､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
6	Unit 3（1)Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3（2)Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
8	Unit 1 ～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1) Unit 4（1）Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。	
9	Unit 4（2）　Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
10	Unit 5（1）Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。	
11	Unit 5（2）Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像してライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	Unit 6（1）At the Moviesについてリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。	
13	Unit 6（2）At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。	
14	Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。 Unit 1～Unit 6で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末ト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＣⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B1～B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＣⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　Unit 7 (1) Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SVOOとSVO　+ Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7 (2) Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
3	Unit 8 (1) Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8 (2)　Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
5	Unit 9 (1) Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9 (2) Looking on the Bright Sideのついて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
7	Unit 10 (1) Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。	
8	Unit 10 (2) Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
9	Unit 7 ～ Unit 10の復習、到達度確認テスト(1)。 Unit 7 ～ Unit 10で学んだテーマから1つを選び、ショートスピーチをおこなう。	
10	Unit 11 (1) Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。	
11	Unit 11 (2) Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	Unit 12 (1)The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。	
13	Unit 12 (2) The Power of Wordsについてriddlesについて理解し、自分でもriddleを作り、発表し合う。	
14	Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。 Unit 7～Unit 12で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Review (Unit 7 - Unit 12)に取り組む。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン・山本　良一　（代表教員　エリック　モーニン）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当する者、CEFR A2+ ～ B1の能力を有すると判断された者、また英語ＥＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(助業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Unique Travel Experiences　旅行について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Unique Travel Experienceについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
4	Unit 2 (1) Our Future Under Water? 気候変動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) Our Future Under Water?について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
6	Unit 3 (1) A DIY-Sushi Party with Friends 和食について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) A DIY-Sushi Party with Friendsについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
8	Unit 1～Unit 3の中から1つのテーマを選びショートスピーチを行う Unit 4 (1) Australia's Cockatoos ペットについての質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Australia's Cockatoosついてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。 Unit 5 (1) How to Become a Good Journalist 報道について質問に答えた後でビデオ視聴する。	
10	Unit 5 (2) How to Become a Good Journalistについてリーディング、要約で理解を深め、職業について自分の意見をまとめる。	
11	Unit 6 (1) Universal Credit 貧困問題について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 6 (2) Universal Creditについてビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 7 Cooling is Heating? エネルギー問題についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity　Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン・山本　良一　（代表教員　エリック　モーニン）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語DIを学修した者を対象に開講する。またCEFR A2+～B1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＤⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）Fashion's Resale Revolution ファッションに関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
2	Unit 8（2）Fashion's Resale Revolutionについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9（1）Finding Treasures in the Trash リサイクルについて質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Finding Treasures in the Trashについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
5	Unit 10（1）Climate Protesters 社会運動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Climate Protestersについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
7	Unit 8～Unit 10の中から1つのテーマを選び、ショートスピーチを行う。 Unit 11（1)The Changing Meaning of "Home" 家庭について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
8	Unit 11（2）The Changing Meaning of "Home" 家庭について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
9	Unit 12（1）Women Still Dying in Pregnancy 発展途上国に関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
10	Unit 12（2）Women Still Dying in Pregnancyについてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
11	Unit 13（1）Struggling to Gain the Right to Vote　参政権について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 13（2）Struggling to Gain the Right to Vote　ビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 14　Feeling Alive throughout Life 長寿についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 8～Unit 14で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	後期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥＩ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・細川　真衣　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR A2程度の能力を有すると判断された者、また英語　ＦＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Module 1 人物紹介 Unit 1 Match,Scan,Focus,Listenの活動で紹介の仕方を学び、自己紹介の準備をする。	
3	Module 1 人物紹介　 Unit 1 Communicateの活動で実践。Unit 2 Readの活動で自己紹介文を理解する。	
4	Module 1 人物紹介 Unit 2　Readの内容確認、Writeの活動のあと、3段落の自己紹介を書く。	
5	Module 1 人物紹介 Unit 2　Writeで書いた自己紹介を修正し、Vocabulary、言語形式を確認する。	
6	Module 2 ファッション　Unit 3 Match,Scan,Focus,Listenの活動でファッションについての表現を学ぶ。	
7	Module 2 ファッション　Unit 3 Listen, Communicationの活動でファッションについてペア活動をする。	
8	Module 2 ファッション　Unit 4 Readの活動で内容を確認し、Writeの活動の後、自分のファションスタイルについて書く。	
9	Module 2 ファッション　Unit 4　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Modules 1-2 Unit 5 Review Project A(自己紹介)のquestionsを考え、インタビューし、結果をまとめる。	
11	Module 3 食べ物 Unit 6 Match,Scan,Focus,Listenの活動で外国の料理について学ぶ。	
12	ModModule 3 食べ物 Unit 6 Listen, Communicationの活動で食べ物についての好みについて､及びCommunication Bの追加質問を用いて世界の料理についてペア活動をする。	
13	Module 3 食べ物 Unit 7 Readでレストランについての文章を理解し、Writeの活動の後、お気に入りのレストランについて英文を書く。	
14	Module 3 食べ物 Unit 7　お気に入りのレストランについての英文を修正して口頭発表する。Vocabulary、言語形式の確認をする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・細川　真衣　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＥⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A2程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り等 Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Match, Scanの活動でライフスタイルについての表現を学ぶ。	
2	Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Focus, Listenの活動でライフスタイルについての表現を学美、ペア活動をする。	
3	Module 4 ライフスタイル　Unit 9 Readの内容確認、Writeの活動の後、自分のライフスタイルについて書く。	
4	Module 4 ライフスタイル　Unit 9　英文修正の後、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
5	Modules 3-4,Unit 10 Review Project C(食習慣)/Project D(健康)を行い、その結果をまとめ、発表する。	
6	Module 5 旅行　Unit 11 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界の観光地について学ぶ。	
7	Module 5 旅行　Unit 11 Listenの活動を参考に自分の意見をまとめ、Communicateでグループ活動を行う。	
8	Module 5 旅行　Unit 12 Readで旅行についての文章を理解し、Writeの活動の後、旅行について3段落の英文を書く。	
9	Module 5 旅行　Unit 12 Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Module 6 規則　Unit 13 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界のさまざまな規則について学ぶ。	
11	Module 6 規則　Unit 13 Communicateで規則についてのペア活動を行う。 Module 6 規則　Unit 14 Readで高校・大学の規則について読み、Writeの活動の後、高校・大学の規則について英文を書く。	
12	Module 6 規則　Unit 14　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
13	Unit 15 Review(Modules 5-6)　Project E(日本の観光地)/Project F(大学の規則)をグループワークで行いその結果をまとめる。	
14	Unit 15 Review(Modules 5-6)　Project E/Fについて各グループがグループ・プレゼンテーションを行う。Peer reviewをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子・山本　良一　（代表教員　本間　千重子）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話すくやり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自己紹介など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できるようになる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) 動詞の現在時制(be動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝の日課の表現を学ぶ。	
3	Unit 1 (2) 人物紹介の英文を理解し､自己紹介と朝の日課についてのライティングと発表を行う。	
4	Unit 2 (1) 動詞の現在時制(一般動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝食についての表現を学ぶ。	
5	Unit 2 (2) 朝食について述べる英文を理解し､朝食についてのライティングと発表を行う。	
6	Unit 3 (1) 名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて通学準備についての表現を学ぶ。	
7	Unit 3 (2) 通学準備について述べる英文を理解し､自分の通学準備についてのライティングと発表を行う。 Unit 1 ～ Unit 3の振り返り、到達度確認テスト	
8	Unit 4 (1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて大学の授業についての表現を学ぶ。	
9	Unit 4 (2) アメリカの大学授業について述べる英文を理解し､自分の大学の授業についてのライティングと発表を行う。	
10	Unit 5 (1) 前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて昼食についての表現を学ぶ。	
11	Unit 5 (2) アメリカの大学での昼食について述べる英文を理解し、自分の大学での昼食についてライティングを行う。 Unit 6 (1) Wh-疑問文の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてショッピングについての表現を学び、ライティングを行う。	
12	Unit 6 (2) 様々な活動を通じてさらにショッピングについての表現を学び、ライティングの発表を行う。 Unit 7 (1) 過去時制の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングを行う。	
13	Unit 7 (2)様々な活動を通じてさらに街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングの発表を行う。	
14	Unit 4 ～ Unit 7の振り返り、到達度確認テスト。 Unit 1～Unit 7で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチ/プレゼンテーションを行う。Peer review を行う。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)､振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子・山本　良一　（代表教員　本間　千重子）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＦⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自由時間の過ごし方など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できるようになる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）現在進行形/過去進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて美術/芸術についての表現を学ぶ。	
2	Unit 8（2）美術/芸術について述べる英文を理解し、自分の趣味についてライティングと発表を行う。	
3	Unit 9（1）未来表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてカフェについて述べる。	
4	Unit 9（2）アメリカのカフェについて述べる英文を理解し、レストラン/カフェについてのライティングと発表を行う。	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてアルバイトについて述べる表現を学ぶ。	
6	Unit 10（2）アメリカのアルバイトについて説明する英文を理解し、自分の経験についてライティングと発表を行う。	
7	Unit 11（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて趣味についての表現を学ぶ。	
8	Unit 11（2）様々な活動を通じて自由時間についての表現を学び、自分ことについてのライティングと発表を行う。 Unit 8～Unit 11の復習、振り返り。　到達度確認テスト	
9	Unit 12（1)不定詞と動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて家事についての表現を学ぶ。	
10	Unit 12（2）家事について述べる英文を理解し、自分のことについて発表を行う。 Unit 13(1）比較級と最上級の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自宅での自由時間について説明する表現を学ぶ。	
11	Unit 13（2）リーディング活動の後、自宅での自由時間について発表を行う。 Unit 14（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて余暇についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
12	Unit 14（2）余暇についての英文を理解し、ライティングの発表を行う。 Unit 15（1）受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて運動についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
13	Unit 15（2）運動について　ライティングを行い、お互いに発表し合う。	
14	Unit 12 ～ Unit 15の振り返り、到達度確認テスト。 これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし。	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュA			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2・3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、8月中旬4日間のBritish Hills(福島県)研修では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)

授業の到達目標

①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。
②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。
③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。
④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。
⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。
⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。
⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。

教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。	
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。	
4	British Hills（以下BH）(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。	
5	BH(2)　Team Challenge（Intermediate)：英語のさまざまなゲームをチーム対抗で競い合うことで、チームメンバーについて知り、協力関係を築きつつ、英語発話を自然に行えるようにする。	
6	BH(3)　Interview & Orienteering:BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。	
7	BH(4) Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。	
8	BH(5)　British Wedding：イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。	
9	BH(6)　World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。	
10	BH(7)　Travel in UK：英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。	
11	BH(8)　Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。	
12	BH(9)　Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。	
13	BH(10)　Group presentation 3:　最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。	
14	BH(11)　Group presentation 4:　最終プレゼンテーション　自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。	
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身につける。 ③英語運用力測定。	BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分]
②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分]
③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

随時行う。

受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュC			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2・3年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、単母音の発音と声調（音の高低）を習得する。	
2	単母音と声調を復習後、複母音の発音を習得する。	
3	すべての子音を習得し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。	
4	鼻音と軽声、声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。	
5	鼻音・軽声などを復習後、簡単な日常会話を習得する。 自分の名前を中国語で言えるようになる。	
6	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)	
7	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。)	
8	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」(相手の希望の尋ね方や質問を返す表現を身につける。)	
9	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)	
10	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして他己紹介ができるようになる。	
11	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、時間詞を用いた表現を身につける。)	
12	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。)	
13	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)	
14	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 前期に学んだ学習内容をもとに、自己紹介文を作成する。	
15	期末試験に備えて、前期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自己紹介文の完成度（第14回）	10	前期に習得した文法を用いて自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『≪新版≫できる・つたわるコミュニケーション中国語』　岩井伸子・胡興智 著　白水社　2023年　ISBN 9784560069431
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、前期学習内容を復習する。 第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)	
2	第8課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。	
3	第9課「出来事を尋ねる①」(完了形の言い方、「～しに行く、しに来る」という連動文の表現を身につける。)	
4	第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」(「～するのが…だ」という様態補語の表現を習得する。)	
5	第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」(相手の希望の尋ね方、前置詞を用いて「どこで～する」の表現を身につける。)	
6	第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」(道の尋ね方、選択疑問文を習得する。)	
7	第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」(経験の有無の言い方を習得する。)	
8	第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして文法知識の定着を図る。	
9	第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。)	
10	第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」(比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。)	
11	第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」(２点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。)	
12	第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」(進行表現、結果補語を習得する。)	
13	第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」(義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。)	
14	第18課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 前期と後期の学習内容をもとに、自由なテーマで長文を作成する。	
15	期末試験に備えて、後期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自由テーマ文の完成度（第14回）	10	習得した文法を用いてテーマを自由に文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。 あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『≪新版≫できる・つたわるコミュニケーション中国語』　岩井伸子・胡興智 著　白水社　2023年　ISBN 9784560069431
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目はフランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説する。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化ついて、様々な角度から知り、体験していく。言葉としてのフランス語を通してフランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拡がることであり、フランス語という言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)(s)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　Je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『アンコール　サリュ１』田辺 保子 著，西部 由里子 著，駿河台出版社,2024年，ISBN978-4-411-01144-2
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　Il est en face de la maison.　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　命令形／il faut… Allez tout droit.　Il faut travailler.　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu.	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quad ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『アンコール　サリュ１』田辺 保子 著，西部 由里子 著，駿河台出版社,2024年，ISBN978-4-411-01144-2
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅰ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、ハングルの読み方や書き方、発音の基礎などを中心に、文法表現など一通りを学ぶ。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。前期では１課から６課を中心に文字の練習を重点的に行う。各単語に付けられているイラストによって楽しく反復学習ができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	ハングルの子音と母音の読み書きができると共に簡単な単語の構成について理解ができる。言語学的に日本語や英語との共通点と違いを理解する。２１個の母音と１９個の子音の組み合わせによる文字としての表現の学習力を高めて後期から始める会話学習に備えることができる。自分の名前や簡単な単語の表現ができるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ハングルとは何?/ハングルの基本構成を理解して日本語との共通点と違いを理解する。	
2	ハングルの基本母音について/基本母音を理解し、読み書きができる。	
3	ハングルの母音の活用について/母音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
4	ハングルの基本子音について/基本子音を理解し、読み書きができる。	
5	ハングルの子音の活用について/子音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
6	子音と母音の組み合わせについて/子音と母音を組み合わせて自分の名前や家族の名前が書ける。	
7	子音と母音の復習/子音と母音を理解し、読み書きができる確認をする。	
8	パッチムとは?/日本語にはないパッチムの構造を理解する。	
9	パッチムの役割について/単語の練習を通じてパッチムの役割が理解できる。	
10	簡単な単語の練習/教科書を中心にグループ別に書く練習をする。	
11	ハングルキ-ボ-ドの打ち方/携帯電話やパソコンを用いてハングルキ-ボ-ドの打ち方ができる。	
12	韓国の文化について①/韓国の食文化や地域の特徴について理解する。	
13	韓国の文化について②/韓国の社会や教育、大学の文化を理解する。	
14	前期の復習①/前期の全般的な内容を理解する。	
15	前期の復習②/前期の全般的な内容についてグループ別に理解度を確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の意見として作成する。
試験	50	ハングルの読み書きに対する理解を基準とする。 １６回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として予習と復習を前提とする。[30分] ハングルは漢字を使わ ないので英文字やひらがなのように基礎の段階では書く練習に基づく事前学習が必要である。[60分]	レポートは子音と母音に対する理解を確認する内容や単語の書く練習を兼ねたことが主になる。試験はハングルの音読みを基本として子音、母音、パッチムの理解を確認する。

受講生に望むこと	ハングルは基本子音と母音が理解できれば一年ほどで簡単な日記を書くことや基本会話ができる言語で、初めての言葉に対する難しそうという先入観を捨てることが大事である。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅱ			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語として開講される。前期の韓国語Ⅰを学んだ学生を対象に、口頭表現の発展を目指す。日常的に用いられるハングル文字の読み方や書き方を中心として、簡単な会話ができることをめざす。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。後期では７課から１８課までに至る日常会話を中心とする授業になる。自己紹介から趣味などの多様な会話を身に付けることができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	個性的な自己紹介ができる。簡単な買い物ができる会話力を身につける。学校生活や週末、日常日課のことが表現できる。食べものの選び方や家族の呼び名、旅行時の簡単な会話ができる。交通手段の利用方法、約束のやり方、自分の能力の表現ができる。様々な趣味のことや自分のことが言えるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	「韓国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の全般的な復習/ハングルの基礎について理解している。	
2	自己紹介/みんなの前で自己紹介ができる。	
3	ショッピングのやり方/自分でショッピングができる。	
4	学校生活について/学校内にある色々な場所が言える。	
5	週末の時間過ごしの表現/週末の過ごし方が表現できる。	
6	一日の日課の表現/自分の日課の表現ができる。	
7	食べ物について/韓国の食べ物を言えることや味の表現ができる。	
8	家族の呼び名/自分の家族関係や数字が言える。	
9	旅行関係の表現/旅行時の簡単な会話ができる。	
10	交通便について/交通手段による乗り方ができる。	
11	約束の仕方/約束する時の表現ができる。	
12	自分の能力を表現する/自分ができることの能力について言える。	
13	趣味に対する表現/自分の趣味について言える。	
14	後期の復習①/後期に学習した会話の全般的なことが分かる。	
15	後期の復習②/後期に学習した会話をグループ別の理解度として確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の会話力を活用して作成する。
試験	50	聞き取りと会話力を基準とする。16回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として基本会話の予習と復習を徹底して行う。[30分] 映画やドラマ、ネットなどを通じて聞き取りを反復して練習する。[30分] 授業時の会話文は次の時間まで覚えて置くこと。[30分]	レポートは自分と関わりを持つ内容として会話文を作成する。 試験は会話テストとして口述試験を行う。

受講生に望むこと	ハングルの語順は日本語と同じなので、単語力と助詞の活用法が分かれば簡単な日常会話を身に付けることができる。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ゴルフ）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。
ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。

授業の到達目標

① ゴルフの競技特性を理解する。
② ゴルフの基本的技術を習得する。
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	
5	ショットの基本①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしフルショットまでの技術を習得する。	
6	ショットの基本②：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる９種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	
7	ショットの基本③：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。	
8	ショットの基本④：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。	
9	ショットの基本⑤：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	
11	ショットの基本⑥：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	
12	ターゲットバードゴルフ①：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	
13	ターゲットバードゴルフ②：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。また、一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	
14	ショートゲームテストとまとめ	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目であるため、出席し、実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主にグランドで実技を行うので、外履きの運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ダンス）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・木藤　由麻　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ダンスの特性を理解する。 ② ダンスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。	木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。	木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。	木藤
4	基本のステップ 1 ：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。	木藤
5	基本のステップ 2 ：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。	木藤
6	基本のステップ 3 ：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。	木藤
7	簡易創作 1 ：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。	木藤
8	基本のステップ 4 ：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。	木藤
9	簡易創作 2 ：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。	木藤
10	講義：ダンスの歴史を理解する。	木藤
11	創作活動 1 ：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。	木藤
12	作品発表 1 ：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。	木藤
13	創作活動 2 ：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。	木藤
14	作品発表 2 ：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。	木藤
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	木藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。［準備運動を含め 60分程度］ ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主に体育館で実技を行うので、内履きの運動靴を用意する。また、必要に応じてタオルなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（テニス）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・熊谷　史佳　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	対面授業によるスポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	熊谷
2	グリッピング、ラケットワーク	熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。	熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	熊谷
11	ゲーム 1 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	熊谷
12	ゲーム 2 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	熊谷
13	ゲーム 3 ：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	熊谷
14	ゲーム 4 ：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	熊谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。［準備体操を含め 60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動ができる服装で参加する。 主に屋外テニスコートで実技を行う。外履き用の運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子など用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って　若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。
ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。
ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。

なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）

授業の到達目標

① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。
② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッヂビーなどのゲームを楽しむ。。	
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとして スポーツに親しむ礎とする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目であるため、出席し実技に参加することを原則とする。運動のできる服装で参加する。主に体育館にて行うので、内履きの運動靴を用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出てること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB（集中講義：ゴルフセミナー）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられており、この野外活動プログラムは 4 日間にわたる集中講義にて行う。
ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーフィーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。
なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー（本科）」の他に「後期開講の授業」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）
※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。
※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。

授業の到達目標

① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。
② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。
③ グリップ、ポスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。
④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。
⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。
⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。
⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。

教授方法	ゴルフ実技　（大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習）
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握／用具の準備。	
2	【実習　1 日目　午前Ⅰ】　開講式／レッスン①：スタンスの確認（グリップ、ポスチャー、エイミング） ショートスイング　～　スリークォータースイング（ 9Ⅰ）	
3	【実習　1 日目　午前Ⅱ】　レッスン②：スリークォータースイング　～　ハーフスイング（ 9Ⅰ）	
4	【実習　1 日目　午後Ⅰ】　レッスン③：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ）	
5	【実習　1 日目　午後Ⅱ】　レッスン④：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰ）	
6	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑤： 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。 また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。／VTR 撮影	
7	【実習　2 日目　午前Ⅱ】　レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び 弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。／ VTR撮影	
8	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング（ゴルフ練習場）。	
9	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。	
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑨：VTR によるフィードバック／クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。	
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習／グルーピング／打ち込み。	
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑪：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。	
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑫：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。 ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。	
14	【実習　4 日目　午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。	
15	【実習　4 日目　午後】 ラウンド実習：本コース 9ホールのハーフラウンド体験を行う。／閉講式	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。〔1回60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 4日間の集中講義になるので体調を整えて参加する。 詳しくは事前オリエンテーションにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。場合によっては実習への参加を認めない場合がある。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康科学（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。	① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。	
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。	
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。	
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。	
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。	
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。	
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。	
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。	
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」	
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」	
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。	
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。	
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方① ：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。	
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。	
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させている。	学期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎とする。	教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。
指定図書／参考書等	参考書：「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著　北國新聞社　2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ａ（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第２は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。	①学内の情報環境を知り、Windows PCとChromebookの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Word（Googleドキュメント）の基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。 ⑤Excel（Googleスプレッドシート）の基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。

教授方法	演習形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学内の情報環境を知る。Windows10の基礎操作を習得する。Chromebookの操作に慣れる。 さまざまな文字の入力方法と添付ファイル付きでの電子メールの送受信の正しい知識を身につける。 情報倫理に関する理解を深める。	
2	Google Workspaceの一連の操作ができる。 いくつかのGoogleアプリが使える。	
3	Googleドキュメントで文章を作成し、Google Classroomに提出する。 Googleドライブの共有範囲（stdアカウント同士のみ可能である）を説明する。	
4	Wordの基本操作を習得する。	
5	Word基本操作（基礎）：文字入力・文章入力の基本を理解する	
6	Wordによる文章作成(中級)：レイアウト、書式の設定、ファイルの保存等を理解する。	
7	Wordによる文章作成(応用1)：表を活用した文章の作成。	
8	Wordによる文章作成(応用2)：画像や図形を活用した文章の作成。	
9	Excel基本操作：表集計ソフトの基本を知る	
10	Excelによる表作成（基本）	
11	Excelによる表作成（中級）：簡単な関数の利用	
12	Excelによる表作成（応用）：グラフ作成	
13	Googleスプレッドシート操作方法を習得する	
14	総合課題①：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。	
15	総合課題②：レポートを完成させ、提出する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
情報倫理とメール作法の理解度	10	授業で学んだ知識を習得しているか。	Excel関数小テスト／課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%)／適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。	授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取組むこと。 上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。	原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『30時間でマスター　Office2019』　実教出版株式会社　2019年　ISBN978-4-407-34835-4 『情報倫理ハンドブック 改訂版』 noa出版　2023年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ｂ（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションや画像・音声・動画編集加工ソフトの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。	①Googleスライドの基本操作を習得する。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤簡単なマルチメディア作品の制作ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Googleスライドの基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
2	Googleスライド文書作成：機能を使って複数枚のスライドを作成する技術を修得する。	
3	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
4	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。	
5	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。	
6	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。	
7	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。	
8	PowerPoint描画：図形描画を使い、簡単な絵を掛けるようになる。 前半の振り返りとして到達確認試験を行う。	
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価③：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
12	スライドショーを利用した作品の制作①資料を分析して、内容を整理する。	
13	スライドショーを利用した作品の制作②：オリジナルのテーマを設定し、資料の読み込みと追加資料の検索及びテーマの確定を行う。	
14	スライドショーを利用した作品の制作③：スライドの完成度を上げる工夫をする。	
15	スライドショーを利用した作品の相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
達成度試験	10	授業中に学習した技術を用いて、指示に従いスライドの作成が自分だけでできる。	プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
最終課題	25	テーマに沿った作品であるか。画像・動画ファイルの切替えのタイミングに適切か。	演習問題	30	授業中に複数回、演習問題を課す。設問に沿って作業がなされているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①練習問題について、教員の指示なしでも完成できるようにする。 ②スライドのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。 ③スライドショーを利用した作品が、教員の指導なしに作成できる。 ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のための練習を行う。 これら①～④について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。	原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『30時間でマスター Office2019』実教出版　2019年 ISBN978-4-407-34835-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅠ（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	川真田　早苗・武田　恵美・永山　亮一・山本　良一　（代表教員　川真田　早苗）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミⅠでは、大学で学びを進めていくに当たり必要となる大学生としての基礎的な学びの姿勢及び技能を身につけることを目的としている。具体的には、どのような学びの姿勢が大学生に求められているのか、文献ファイル作成方法とその意義、要約技能の習得・レポート構成の理解等の内容について演習を通して学修する。また、ディスカッションを通じて、コミュニケーション方法も学ぶ。	①大学での学び方について理解する。 ②図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を理解し、文献ファイルを作成する。 ③要約することができる。 ④レポートの構成について理解する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）合同で授業の進め方の説明及び履修登録の確認を行う。【合同】 （後半）各ゼミの担当教員の指導にしたがう。ゼミごとに自己紹介を行い、係を決める。	全員
2	（前半）図書館利用オリエンテーションに参加し､図書館での情報収集の仕方を具体的に学ぶ。【合同】（テキスト第５章に該当） （後半）図書館で紹介文を書くための本を借りる。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
3	図書館で借りた絵本の紹介文を書く。（テキスト第8章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	スタディ・スキルズとは？：自己の目標設定、大学での学びについて考える。（テキスト第１章に該当） ノートテイキングのスキル：ノートテイキングの方法について学び、理解する。（テキスト第２章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	レポートと感想文の違いについて、具体的な文章を比較し、両者の違いについて理解する。（テキスト第８章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	フレッシュマン・セミナーに向けた学部における事前準備をする。【合同】	全員
7	テキストを読み、要約の方法について理解する。（テキスト第３章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	テキストを読み、要約の技能を活用し要約する。（テキスト第３章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	テキストを読み、要約する。授業内課題に取り組む。（テキスト第４章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、文献ファイルを作成する。（テキスト第６、７章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	提示された文章を読み要約する。（テキスト第４章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	レポートの構成を理解する。（テキスト第８章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	レポートの作成方法を理解する。（テキスト第８章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	プログテストアセスメントをする。	全員
15	（前半）後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。【合同】 （後半）各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない5点を基準とする。	授業内課題	30	基礎ゼミⅠ第9回の学修において、学修した要約の技能を活用し要約ができたか。
要約	40	学修した要約の技能を活用し、適切に要約ができたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①主体的な学びの姿勢を身に付けるために、各教員から提示される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネット等を利用し複数の情報を収集し､整理しまとめるとともに､自分の考えをもつこと。［60分］ ②授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、各ゼミの担当教員の指導にしたがい、ゼミに臨むこと。［20分］	①質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 ②毎回授業の初めに、前時の授業における振り返りを行い、質問や意見に対するコメントを行う。

受講生に望むこと	授業には遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ学修内容の習得に努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	なし／日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。 毎時間chromebookを活用するので持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅡ（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	川真田　早苗・武田　恵美・永山　亮一・山本　良一　（代表教員　川真田　早苗）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミⅡでは、基礎ゼミⅠで会得した主体的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学修し、次の3点の理解を図る。 ①レポートの作成（基礎ゼミⅠからの継続と発展）方法を理解する。 ②検索した文献・データを整理・活用しレポートを作成する。 ③ディスカッションの方法を身に付ける。	① レポートの書き方を理解し、レポートを作成することができるようになる。 ②図書館や論文検索サイトで研究のための文献や資料を収集・整理・活用し、それらを引用して、レポートを作成することができる。 ③ゼミ内のレポート発表において、積極的にディスカッションすることができる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半）本授業の概要及び進め方について理解する。【合同】 （後半）　ゼミ代表の選出、自己紹介などを行う。各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
2	プログ解説会を行う。【合同】	全員
3	レポートの構成及び作成方法について学修する。（テキスト第8章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	接続語を使って論理的な文章を書く。（テキスト第8章、第3章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	帰納的展開､演繹的展開を使って論理的な文章を書く。（テキスト第8章、第3章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	引用の仕方を理解する。（テキスト第8章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	パラグラフライティングを理解する。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。（テキスト第8章に該当）	各担当教員
8	「問い」の種類と立て方を理解する。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	「問い」を立てレポートを作成する。（テキスト第8章に該当） 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	オータム・セミナーに向けた学部における事前準備をする。【合同】 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
11	ゼミ内におけるレポート発表（1）質疑応答を含む。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	ゼミ内におけるレポート発表（2）質疑応答を含む。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	ゼミ内におけるレポート発表（3）質疑応答を含む。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	ゼミ内におけるレポート発表（4）質疑応答を含む。 各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	（前半）２年次コース履修に関する説明を基に、学修計画を立てる。【合同】 （後半）各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない5点を基準とする。	レポート発表	30	①から④の視点でレポートを作成し発表できたか。 ①問いと結論が対応しているか。 ②適切に引用ができているか。 ③事実と意見を区別して書けているか。 ④参考文献が3本以上示されているか。
レポート修正	40	発表したレポートを①から④の視点で修正できたか。 ①問いと結論が対応しているか。 ②適切に引用ができているか。 ③事実と意見を区別して書けているか。 ④参考文献が3本以上示されているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各自で問いを立て、レポートの作成を目的としているので、授業外において積極的に図書館や論文検索サイトを利用し、問いに関する先行研究を収集する。［各30分］ ②レポート作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。［120分］ ③学内の環境（ILCやLLCなど）を有効に活用し、レポートを作成する。［60分］	レポートについては、以下の4点について指導する。 ①問いと結論が対応しているか。 ②適切に引用ができているか。 ③事実と意見を区別して書いているか。 ④参考文献が3本以上示されているか。

受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。授業中は、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1 （※基礎ゼミⅠから引き続き使用）
指定図書／参考書等	なし／日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。 chromebookは授業で活用するので持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データサイエンス入門			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学部共通科目として開講する。我々が生活する社会には多くの情報やデータが存在する。これからの社会はデータを正しく取り扱い、適切に分析し、価値のある情報を見出すことが求められていく。本科目では1年前期の「情報機器演習A」を受け、ICT機器の取扱について一定の知識を得たことを前提に、AI利活用に関わる理解、データを扱うための知識、統計的な考え方と、統計解析の手法を学ぶ。これらを学ぶことにより、データサイエンス時代に対応できる知識と技術を身につける。 学習効果を高めるため、適宜反転学習や、グループディスカッション、Google Workspaceを活用する。	データサイエンスの時代とも言える21世紀を生きるうえで必要な、社会におけるデータ・AIの利活用について正しい知識を得て、説明できるようになる。 データリテラシーを身につけ、データの読み方、データの特徴抽出、データ分析を行ない、分析した内容について説明できるようになる。 データ・AI利活用における留意事項について理解し、説明できるようになる。

教授方法	テキスト・スライドを用いた講義形式で実施する。Google スプレッドシートを用いてデータ加工について学修する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【導入・社会で起きている変化】現代社会はSociety5.0とも呼ばれ、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の両立が求められている。社会に起きている変化について具体的内容について学ぶとともに、「データサイエンス入門」の概要について説明する。	
2	【社会で活用されているデータ】社会で活用されているデータの種類、データごとの取得方法、所有者について学習する。またデータを扱う上での注意点についても学習する。	
3	【データサイエンスにおける心得−１】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。AIを使うことによるメリットも大きいが、倫理面の問題などについて正しく扱う必要もある。	
4	【データサイエンスにおける心得−２】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。データ・AI活用における負の事例を紹介し、データを守るための留意事項について学ぶ。	
5	【データとAIの活用領域】事業活動と、活用目的ごとにデータ・AI活用の広がりについて学習する。反転授業（LITE)を行う。 【中間レポート１】反転授業を受けてレポートを作成する。	
6	【データ・AI利活用のための技術−１】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特にデータ解析の方法と、それにまつわる話題について触れる。 【振り返り小テスト１】５回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
7	【データ・AI利活用のための技術−２】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に画像や音などの非構造化データ処理、グラフ作成などによるデータ可視化、画像処理などで用いられるパターン認識技術について触れる。	
8	【データ・AI利活用のための技術−３】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に人工知能について扱う。今のAIで出来ること、出来ないことなどについても触れる。	
9	【データ・AI活用の現場】データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかについて考える。	
10	【データ・AI利活用の最新動向】AIを活用した新しいビジネスモデルを紹介する。そして、今後ビジネスなどにも広く活用されるであろうAIに関する最新技術を紹介する。	
11	【データを守る上での留意事項】セキュリティ・プライバシーを守ることと、社会でデータを活用することの両立について学習する。反転学習を行う。 【中間レポート２】反転授業を受けてレポートを作成する。 【振り返り小テスト２】６～１０回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
12	【データリテラシー−１】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。今回は「データを読む」ための基本事項について説明する。	
13	【データリテラシー−２】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に調査などに用いられる方法について説明する。	
14	【データリテラシー−３】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に図解などを用いて判りやすく説明するデータ表現の方法について説明する。	
15	【データリテラシー−４】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に表計算ソフトをデータ解析ツールとして扱う方法について説明する。 【振り返り小テスト３】全15回を通した学習内容についての振り返り小テストを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り小テスト	30	節末の練習問題から出題する3回の小テストによって理解度を評価する。	レポート	40	学期内に二度課す。設定されたテーマに沿ってレポートを作成する。これにより理解度を評価する。
課題学習	10	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	授業への積極的関与	20	反転授業・反転学習でのグループワークにおいて、積極的に関与していることを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：予告した箇所について通読する。[30分]反転学習として指示があった場合は、その指示に従い準備をする。[60分] 事後学修：指示された振り返り課題に取り組む。[30分]	授業時間内の振り返りと、Google Classroomを通じてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	Society5.0とも呼ばれる情報化社会でこれからの時代を担う人材となるべく、データサイエンスに関する知識を正しく身につけられるよう、興味を持って取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』北川源四郎・竹村彰通編,講談社,2024年,ISBN978-4-06-537939-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レジュメはGoogle Classroomから配信する。 毎回行う振り返りもGoogle Classroom経由で実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データ分析と教育			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
GIGAスクール構想によって1人1台端末が実現され、小・中・高の学校段階や、使用するサービス・ソフト等に関わらず、学習等の記録をデジタルで記録することが可能となり、児童生徒自らのふり返り等に活用したり、教員が学習等の記録を活用することで、個別最適な学習指導や生徒指導（生活指導を含む）ができるようになっている。このような状況から本科目では教育にデータを利活用する意義や目的と教育データの種類及びその活用方法について演習をもとに実践知が得られるように授業を進める。	①教育にデータを利活用する意義や目的について知る。 ②教育データの種類とその活用方法について理解する。 ③これまで教育におけるデータ分析について体験的に知る。 ④教育データのアナログ的分析とデジタル的分析について体験し、実用性を考えることができる。 ⑤本科目で学修したことを今後に生かそうとしている。

教授方法	講義・演習
履修条件	小中高校の教員免許取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育データとは：教育にデータを利活用する意義や目的について理解する。	
2	教育データの種類と活用方法：教育データの種類とその活用方法について理解する。	
3	データ分析１：これまで教育のどのようなデータがどのように分析（活用）されていたのか、経験を思い出しながら整理し、その長短について考える。	
4	データ分析２：教育データの分析方法について、アナログ（カード法）の面から体験的に行い、その実用性について考える。	
5	データ分析３：教育データの分析方法について、デジタル（テキストマイニング法）の面から体験的に行い、その実用性について考える。	
6	データ活用の実際１：GIGAスクール構想が実現し、1人1台端末環境下において、どのようなデータ活用が行われているか、事例をもとに知る。	
7	データ活用の実際２：学習指導だけでなく、健康面や生活面からもデータ活用が行われていることを事例をもとに知る。	
8	学習のまとめ：これまでの学習内容を振り返るとともに、プロゼミB（後期）の探究学習においてどのようなデータを集め、どのように分析していきたいか展望する。（プロゼミBMyビジョン「私の探究活動におけるデータ活用」）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習態度	32	毎回の授業における学び方（意欲、関心、態度）を評価する。（4点×8回）	授業感想	28	１～７回の授業終末に書く「ミニッツコメント」を評価する。（4点×7回）
グループワーク	20	自分の考えを伝えたり、他者の考えを肯定的に聞いたりしているか。（グループワーク時に配付するリーブリックをもとに行う自己評価を含む。）	期末レポート	20	第8回授業時に作成する「プロゼミⅡMyビジョン：私の探究活動におけるデータ活用」を評価する。（観点：探究中のデータ収集と整理・分析について構想できているか。）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教育だけでなく私生活や社会生活の中にあるデータにアンテナを張り、気づいたことをgoogleドキュメントにメモする。（60分）	毎回の授業時「ミニッツコメント」に教員コメントを書いて次回返却する。（これを繰り返します。）

受講生に望むこと	教育だけでなく私生活や社会生活の中にあるデータにアンテナを張るようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし。毎回資料を準備・配付する。
指定図書／参考書等	1年次必修科目「データサイエンス入門」のテキスト「教養としてのデータサイエンス」を参考書とするので、持参すること。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

石川県教育委員会が実施する小中学生対象の「基礎学力調査」において、児童生徒の「意識調査」のデータ分析を担当した。このときのデータを示しながら、教育におけるデータ分析の必要性について理解することができる授業を行う。

授業科目名	キャリアデザインⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、大学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。	①自己理解：自分の能力・性格に気づく。 ②課題対応能力・対人対応能力：社会の中で人と関わる力・社会で必要となる力に気づく。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、授業外における学習など	
2	キャリアデザイン(1)　これまでの自分を振り返る	
3	キャリアデザイン(2)　人生における自分の役割	
4	キャリアデザイン(3)　未来の自分（ライフイベント・人生の転機）	
5	社会を知る(1)　社会と自分のキャリアの関連性	
6	社会を知る(2)　働くとは何か	
7	社会におけるルールを知る	
8	学童保育とは：放課後児童クラブで児童と関わる方から学ぶ	
9	社会人基礎力について	
10	大学生活の目標設定	
11	情報との付き合い方を知る	
12	世の中を多角的に見る	
13	コミュニケーションの基本	
14	組織マネジメントの理解とチームワークの醸成	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	授業中の課題への取り組み方や積極性を重視する	レポート	30	・期限内に提出しているか ・指定された分量が書かれているか ・課題に即した内容となっているか ・自身の振り返りができているか（考察） ・振り返りを今後につなげようとしているか
提出物	40	・期限内に提出しているか ・指定された分量が書かれているか ・課題に即した内容となっているか ・自身の振り返りができているか（考察）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容から自身の知的好奇心を促進したものについての自己分析を行う。	①他の学生と課題を見せ合い、他者から学ぶ。 ②課題によっては教員からコメントする。

受講生に望むこと	①キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目であり自分自身と真摯に向き合うことが望まれる。 ②理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習がある。積極的に取り組むことが望まれる。	教科書・テキスト	『大学生のキャリアデザイントレーニング第2版』稲本恵子編他　晃洋書房　2023年　ISBN:9784771037061
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	必要に応じて、資料を配付する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅡ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・谷　昌代　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部共通科目のうち、基幹科目「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインⅠに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高めたい。 教育学部であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、地域社会における協働の経験を通し、社会から求められる事柄が何であるのかを実感する。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめていってほしい。 ※SDGs目標番号4、17関連科目	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。

教授方法	講義、演習、体験学習
履修条件	なし。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。	全員
2	キャリアデザインと職場理解：キャリア考察「今の自分、これからの自分」	全員
3	春季放課後児童クラブ(学童保育）体験について概要を理解し、計画を立てる。	全員
4	春季放課後児童クラブ(学童保育）体験について計画を立て、準備を進める。	全員
5	「キャリア体験学習」の説明とワークショップ(ブース/プレゼント）内容決定、予算計画等	全員
6	「キャリア体験学習」の役割分担、連絡方法の確認、ワークショップ準備、続・予算計画等	全員
7	「キャリア体験学習」の第1回事前学習（準備）　※美術室、みっしょん工房等使用可能予定	全員
8	「キャリア体験学習」の第2回事前学習（準備）　※美術室、みっしょん工房等使用可能予定	全員
9	「キャリア体験学習」の第３回事前学習（ブースのリハーサル実施と反省）※体育館使用	全員
10	「キャリア体験学習」の第４回事前学習（反省を活かし修正）※美術室、みっしょん工房等使用可能予定	全員
11	「キャリア体験学習」の第5回事前学習（最終準備と打合せ）プレゼント梱包、搬出準備など	全員
12	「キャリア体験学習」（公民館イベント）①	全員
13	「キャリア体験学習」（公民館イベント）②	全員
14	「キャリア体験学習」の事後学習(個人まとめと報告書・引継書（ポスター型）作成）	全員
15	「キャリア体験学習」の事後学習（報告会）、みっしょん工房等の後始末	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	40	①講義内容についての理解ができている ②自己への問題提起が身についている ③新しい発見ができている ※代替授業時の提出課題を含む	最終レポート	30	「これが私の進む道」 学びを踏まえ、今後の自己課題を明確に。 （体験学習の報告、発表の反省を含むこと）
ミニレポート	30	「キャリア体験学習」の準備作業記録と事後レポート			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
専門的な職業能力に直結する「キャリア体験学習」に取り組む。その体験学習に際しては事前の入念な準備と事後の振り返りが大切であり、それに要する時間は延べ6時間以上が目安となる。 単に時間を要する、ということよりも、目的を共有するチームとしての報告・連絡・相談、役割分担や連携が大切である。欠席時には、担当教員だけでなくチームの仲間への連絡も必要となる日程があることを肝に銘じてほしい。	グループごとに事業計画を立て、役割分担、調査研究や準備を行い、記録することで自己フィードバックする。 最終レポートは、評価が終わり次第返却する。

受講生に望むこと	①積極的に参加すること。 ②理論だけでなく、実際に行動すること。 ③グループにより、準備等のスケジュールは異なるので各自が手帳等を準備し、自己管理すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	「キャリア体験学習」は12月(土。日付未定)公民館イベント運営を以て2コマに充てる。 （地域の要請により日程等には毎年変化があるため、代休講2回、授業日の日程等、詳細については開講時に改めて説明する）

実務経験を活かした授業の概要

谷：子どもに関わるイベント運営に向けて学生たちが個々の能力を発揮しつつ、グループでの協働の体験を積む。保育者、教育者を目指す者として、子どもとの関わりから様々に感じ、身に付けたい力に気付いていく機会としたい。
福江：市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。

授業科目名	キャリアデザインⅢ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・松本　理沙　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部共通科目のうち、学部の基幹科目に位置付く。キャリアデザインⅡに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する当事者としての力を高めたい。 具体的には地域団体主催イベントのスタッフ活動を全員参加で経験する。また、様々な事業から自己決定し3回の「運営スタッフ活動」を経験する。運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会で協働する一員としてどのようなことが求められ、自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。 ※SDGs目標番4、17関連科目	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力 （または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解・自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。

教授方法	講義、演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。	全員
2	プレ実習を活用したキャリア考察について（※春季学童保育体験振り返り）	全員
3	「運営スタッフ活動」（選択）予定の立案を行う。「地域団体主催イベント」の役割を確認する。	全員
4	地域団体主催イベントスタッフ活動①（一斉）	全員
5	地域団体主催イベントスタッフ活動②（一斉）	全員
6	地域団体主催イベントスタッフ活動についての振り返り	全員
7	「運営スタッフ活動」①に向けての事前学習	全員
8	「運営スタッフ活動」①（選択）	全員
9	「運営スタッフ活動」①の振り返りと②に向けての事前学習	全員
10	「運営スタッフ活動」②（選択）	全員
11	「運営スタッフ活動」②の振り返りと③に向けての事前学習	全員
12	「運営スタッフ活動」③（選択）	全員
13	「運営スタッフ活動」③の振り返り。発表のきまりについて理解し、準備を行う。	全員
14	発表に向けて準備、打合せを進める。	全員
15	まとめ：「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」に関する発表。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	40	「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」をテーマにしたレポートを作成することができているか(1600字)。	PDCAシート	30	①学びや自己課題の分析が行われているか。 ②学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。（10×3回）
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に運営スタッフ活動に参加できたか。	社会的態度	10	講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自分で選択した「運営スタッフ活動」に関し、PDCAシートを用いて自己分析を行う。[60分] ②本科目も含め、前期期間の予定を適切に管理する[30分]	課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価ののちすみやかに返却する。

受講生に望むこと	将来の社会参加を念頭に、一つひとつの活動に目当てをもって取り組んでほしい。 また、社会の一端を担うものとしての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談の在り方を実践的に学んでほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	指定日に行う「地域団体主催イベント」を以て講義2コマ分に充てる。 また、各自が選択した「運営スタッフ活動」を以て講義3コマ分に充てる。

実務経験を活かした授業の概要

福江：地域におけるイベント運営を経験させることで、学生自身が自らの選択に応じ、子どもにかかわる専門職のみならず一般職に広く必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。

授業科目名	キャリアデザインⅣ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	武田　恵美・福江　厚啓　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部の基幹科目に位置付く。キャリアデザインⅢの学外での「運営スタッフ活動」に引き続き、キャリアデザインⅣでは学内外での主体的活動を通して、さらに構想・設計・実現する力を高めたい。具体的には、社会人インタビューを学生自ら主催し、その企画運営の過程の中で、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることを目指す。延いては、教育職・保育職としての専門的な職業能力についても身につける。	①「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 ②教師・保育者としての専門的な職業能力（または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力） ③自己理解、自己管理能力 ④課題対応能力、対人対応能力 ⑤プレゼンテーション能力 以上5点の資質・能力を活動を通じて総合的に高め、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）を身につけることができる。

教授方法	講義・演習・体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、到達目標、成績評価の方法等の説明。 担当教員から卒業生へのインタビューやプレゼンテーションの目標について伝える。チーム決めを行い、メンバーを知り合う。	全員
2	2年次前期までに経験したチーム活動からの課題を明確にし、自身のキャリアデザインのために2年次中にすべきことを考える。 これからの大学生活をより充実させるため、これからの人生をより充実させるための講座（外部講師）	外部講師
3	挨拶、服装と身だしなみ、話し方、電話応対のマナー講座 社会人（卒業生）へインタビューする際の身だしなみ、話し方、話の聴き方などのマナーを学び理解する。（外部講師）	外部講師
4	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習① インタビュー対象者（卒業生）の職業や在学中の学びの過程などについて調べてきたことをチームに報告する。アポイントの取り方の確認をする。	全員
5	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習② 進捗状況の確認。インタビューの事前準備について知り、質問項目をまとめる。インタビュー当日のタイムスケジュール（案）を作成する。	全員
6	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習③ 進捗状況の確認。依頼状の作成とチームの役割分担を行い、各自が行うことを確認する。インタビュー会場の環境の設定を確認する。	全員
7	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習④ 進捗状況の確認。タイムスケジュール（案）や質問項目などを再確認し、修正を行う。	全員
8	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのための事前学習⑤ 進捗状況の確認。最終確認をする。	全員
9	時間やスケジュール管理の大切さを知るための講座（外部講師）	外部講師
10	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューを実施する。①	全員
11	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューを実施する。②	全員
12	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのプレゼンテーションを準備する。	全員
13	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）インタビューのプレゼンテーションのリハーサルを行う。	全員
14	【チームによる企画・運営】社会人（卒業生）へのインタビュー内容をまとめ，プレゼンテーション（報告）する。 報告から、様々な職業の魅力とやりがい、働き方、大学生活の過ごし方についての学びをまとめる。	全員
15	【全体のまとめ】社会人（卒業生）へのインタビューの企画・運営・報告を通して学んだこと「～なんのために学び、なんのためにその職業を目指すのか～」についてまとめ、発表する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	①学びを振り返り、自己課題の分析や、それを踏まえたPDCAを構築しようとする態度で「振り返り」を行っている。②チーム活動に主体的・協働的に取り組んだかという視点をもち「振り返り」を行っている。	プレゼンテーション	30	①課題に即した内容になっている。 ②指定された時間を守っている。 ③スライドの内容がわかりやすくまとめられている。 ④質問に対して、的確に答えている。
最終レポート	30	①課題に即した内容になっている。 ②指定された分量で記載されている。 ③学びや気づきが具体的に記載されており、振り返りができている。 ④わかりやすい文書になっている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・2年次前期までに経験したチーム活動からの課題（自らの強みと弱み）について、具体的にまとめておく。【30分】 ・職業調べ【60分】 ・プレゼンテーションの準備を進める。【60分】	必要に応じて都度フィードバックする。

受講生に望むこと	・前期科目「キャリアデザインⅢ」での学びの成果を今後の活動に活かしてほしい。また、前期に引き続いて社会の一端を担うものとしての自覚をもち続け、日頃から報告・連絡・相談をその場に応じて臨機応変にできるように期待する。 ・チームでの活動においては、各学生が積極的かつ主体的に活動することを希望する。また、チームのメンバーと協働しながら取り組んでほしい。	教科書・テキスト	随時資料を配布する
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	・外部講師や社会人（卒業生）の都合により、日程の変更がある可能性がある。 ・社会人（卒業生）へのインタビューは通常時限ではなく、土曜日開講を予定する。日程は事前にお知らせする。

実務経験を活かした授業の概要

福江：幼稚園・小学校の勤務経験をもとに、学校現場の現状や課題、やりがいなどについて具体例を示しながら，授業を行う。

授業科目名	キャリアデザインV			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は、学部の基幹科目に位置付けられている。保育・教育、行政機関及び一般企業への就職活動の取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析する必要がある。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握し設定した上でこれらの活動に参加する	①PROGによる自己分析から長所を伸ばすための体験学習に取り組む。 ②インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度を理解している。 ③体験学習やインターンシップなどから得た学びを自分の言葉で表現できる。

教授方法	講義、インターンシップなどの体験学習、学習者による口頭発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これまでの学びを整理する。これからの授業計画を理解する。	
2	就職活動に関する準備：就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録	
3	就職活動に関する書類作成①：履歴書の作成、採用試験模擬問題	
4	就職活動に関する書類作成②：履歴書の添削指導、採用試験模擬問題	
5	就職活動に関する書類作成③：履歴書の添削指導、採用試験模擬問題	
6	インターンシップ説明会	
7	インターンシップへの参加（1回目）	
8	インターンシップへの参加（2回目）	
9	インターンシップへの参加（3回目）	
10	インターンシップへの参加（4回目）	
11	インターンシップへの参加（5回目）	
12	インターンシップへの参加（6回目）	
13	インターンシップへの参加（7回目）	
14	インターンシップの振り返り	
15	授業のまとめ：就職活動の準備を体験して	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業に積極的に参加している。	体験学習参加状況	60	体験学習に自己課題をもって取り組んでいる。
事後レポート	20	今後の課題を明確に示している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
体験学習の事前事後学習（各60分）	適宜該当学生にフィードバックする。

受講生に望むこと	自己課題を明確にして取り組んでほしい。	教科書・テキスト	北陸学院大学就活navi
指定図書／参考書等	特になし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミA（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プロゼミは、3年次より始まる専門ゼミの前段階として位置づけられる。前期プロゼミAでは、基礎ゼミで培った文献講読やレポート作成、ディスカッションの経験を生かして調査研究を進め、それらを深めていく。その中で、諸々のアカデミック・スキルを磨き、より専門性に根ざしたアプローチを目指す。	①ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。 ②専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文献を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。

教授方法	各ゼミによる演習
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済の者または「基礎ゼミ」履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：（合同）オリエンテーション①ゼミの位置付け ②授業概要 後半：（各ゼミ）発表分担等を設定、自己紹介、ゼミ代表の選出など	全員
2	前1/3:（各ゼミ）プロゼミで研究したい内容の共有 後2/3:（合同）文献の収集について ※図書館	全員
3	レポート、レジュメの書き方について理解する。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	ゼミ内における発表Ⅰ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅱ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅲ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅳ：各ゼミ内で学生が発表を行う。	全員
15	前半：2年次後期の履修登録等についての説明（合同）　後半：各ゼミのまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない5点を基準とする。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聴き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	要点をおさえて、概要と意見を分けた文になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など［90分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。［60分］	テーマ設定やレポート作成についての質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢を持って参加すること。	教科書・テキスト	ゼミ担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	ゼミ担当教員の指示に従う。／ゼミ担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点はゼミ担当教員に問い合わせること。 課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミB（教育学部）			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・松本　理沙・谷　昌代　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持ち、自分の興味関心のある分野に関する調査研究を進めていく。その中で、ディスカッションを通して専門ゼミで深めたいテーマに関する問いの質を高め、アプローチの仕方を絞りこめるよう、専門性を追究していく。	①ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 ②専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。

教授方法	各ゼミごとによる演習
履修条件	「プロゼミA」を履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：（合同）オリエンテーション①ゼミの位置付け ②授業概要 後半：（各ゼミ）発表分担等を設定、自己紹介、ゼミ代表の選出など	全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	オータム・セミナーの事前準備を行う。	全員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	来年度所属を希望する専門ゼミの担当教員を訪問し、専門ゼミ選択に見通しをもつことができるようにする。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	ゼミ内における発表Ⅰ	各担当教員
13	ゼミ内における発表Ⅱ	各担当教員
14	ゼミ内における発表Ⅲ	各担当教員
15	3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究発表会参加および専門ゼミ選択について理解し、学科の仲間と共に履修計画を立てる。（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ②ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べることができる。	レポート	40	①文章構成が適切か。 ②事実と自分の考えをと区別して書いているか。 ③意見の根拠が明示されているか。 ④分かりやすい文章であるか。
レジュメの作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 ②時間内で聞き手に分かりやすく発表している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。［60分］ ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。［60分］	テーマ設定やレポート作成等についての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。	教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。
指定図書／参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。／各ゼミごとに教員の指示に従うこと。	その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。 課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・中島　賢介・永山　亮一・福江　厚啓・ポーター　倫子・松本　理沙・宮浦　国江・虫明　淑子・石上　佐知子・山本　良一・川真田　早苗・齊藤　英俊・武田　恵美　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
基礎ゼミ・プロゼミでの学修及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで学修及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献講読、ディスカッションを中心に理解に努める。 その後、ゼミ担当教員のもとで、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート（8000字程度：該当年度の１月下旬締切）の完成を目指す。	①ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 ②各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。 ③ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。 ④グループディスカッションを通して、教員やゼミ内の学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。

教授方法	ゼミごとに担当教員の指示のもと演習形式で行う。
履修条件	基礎ゼミⅠ・Ⅱ、プロゼミA・Bを履修し、単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	専門ゼミⅠの概要や到達目標の説明を聴く。 各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方、ゼミプラン等の説明を聴き見通しを持つ。	各担当教員
2	個別の関心テーマについてディスカッションする。	各担当教員
3	第2回でディスカッションしたことをもとに関心事を絞り、調べ活動に入る。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	これまでの研究進捗をゼミ内でディスカッションする。	各担当教員
13	前期期間内にどこまで研究を進めるか、担当教員とディスカッションする。	各担当教員
14	PROGアセスメントを実施する。（リテラシー・コンピテンシーアセスメント）	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。後期における研究へ進め方を確認する。	各担当教員
16	前期の後半においてゼミで確認したことをもとに、専門ゼミⅠレポート作成の見通しを持つ。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	第14回のPROGアセスメントの結果をもとに、自分自身の現在の状況や能力を客観的に理解する。 （リテラシー・コンピテンシーアセスメント解説会）	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	これまでの進捗をゼミ内でディスカッションする。	各担当教員
28	今後の進め方についてゼミ教員とディスカッションする。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	専門ゼミⅠレポート内容を最終確認し、印刷する。（各ゼミ担当教員にレポートを提出する。）	各担当教員
30	専門ゼミⅠの活動総括を行う。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	50	①ディスカッションへ積極的に参加している。 ②文献等の調査を積極的に行っている。 ③意欲的に研究テーマ等に取り組み学ぼうとしている。	レポート	50	①指定された文字数、書式等が守られている。 ②内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切に記述されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。［60分］ 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。	ゼミごとに随時行う。

受講生に望むこと	①「専門ゼミⅠ概要についての資料」と「専門ゼミⅠレポート様式資料」を熟読すること。 ②研究テーマに主体的に取り組んでほしい。 ③Google classroom等を通して専門ゼミⅠに関する情報や資料を配信するので、確認すること。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。	その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域社会と子ども			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓・山本　良一・虫明　淑子・川真田　早苗　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学科必修の科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身につけるために、地域の子どもとのかかわりを体験する。幼児教育学科は、認定こども園を含む保育所参観・幼稚園参観、小学校参観を行う。初等中等教育学科は、認定こども園を含む幼稚園参観、小学校参観、中学高校参観を行う。 学生には、課題意識をもって事前・事後のレポート課題に取り組むことを希望する。そして、作成したレポートに基づいた発表を聞き合うことによって、他者の気づきから自己の学びを深める。 ※SDGs目標番号4関連科目	①講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。 ②参観した内容を客観的に記録し、そこから見えてくるものを順序立てて記述することができる。 ③それぞれの発達段階に応じた子ども理解の講義を通して、自分なりの考えをまとめ、レポートを作成することができる。 ④ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養う。 ⑤それぞれの発達段階の全体発表を聞いて、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。

教授方法	講義、参観、ディスカッション、発表
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【合同】オリエンテーション：シラバス説明に基づき、本科目を学ぶ意義、到達目標、学外体験活動時の諸注意、参観マナー等について理解する。	全員
2	【合同】 児童期の子ども理解： 児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、小学校教諭と児童との関わり方を考える。事前レポートを作成する。	全員
3	【合同】 学外活動体験①　小学校参観：各自のねらいに沿って参観を行う。	全員
4	【合同】 学外活動体験②　小学校参観：各自のねらいに沿って参観を行う。事後レポートを作成する。	全員
5	【合同】 グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校や児童期の特徴、気づきについて話し合う。	全員
6	【合同】 幼児期の子ども理解： 幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。授業参観の説明・打合せを行う。事前レポートを作成する。	全員
7	【合同】 学外活動体験①　認定こども園含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って参観を行う。	全員
8	【合同】 学外活動体験②　認定こども園含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って参観を行う。事後レポートを作成する。	全員
9	【合同】 グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。	全員
10	【合同】 中・高等学校の生徒理解： 中・高等学校の生徒の発達理解と中・高等学校の果たす役割について理解する。事前レポートを作成する。	全員
11	【合同】 乳幼児期の子ども理解 乳幼児期の子どもの発達理解と保育施設（保育所・こども園）の果たす役割について理解する。事前レポートを作成する。	全員
12	【初等中等】学外活動体験①　北陸学院中学校・北陸学院高等学校参観：各自のねらいに沿って参観を行う。 【幼児教育】学外活動体験①　認定こども園含む保育所参観：各自のねらいに沿って指定の園の参観を行う。	全員
13	【初等中等】学外活動体験②　北陸学院中学校・北陸学院高等学校参観：各自のねらいに沿って参観を行う。事後レポートを作成する。 【幼児教育】学外活動体験②　認定こども園含む保育所参観：各自のねらいに沿って参観を行う。事後レポートを作成する。	全員
14	【初等中等】グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の学校や児童期の特徴、気づきについて話し合う。 【幼児教育】グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校や児童期の特徴、気づきについて話し合う。	全員
15	【合同】 授業参観（幼稚園、保育所、中学校、高等学校）についてグループ協議　レポート発表形式15回の学びのまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	40	①講義において、積極的、意欲的に授業に参加し、ねらいをもって参観に臨んでいる。 ②ディスカッションに積極的、意欲的に参加している。	事前事後を含む課題レポート	40	①各課題レポート：4回（※各体験の課題レポート３回＋最終回レポート1回） ②指定の様式で作成している。 ③自分の気づき、考えを記述している。
最終レポート	20	全体発表を聞いて、他者の気づきから自己の学びを深めて記述している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義終了後、それぞれ指定された期日までに事前及び事後レポートを作成する。［60分×４］ ②課題レポートの見直し改善を行い、学びを深める。［60分×４］	①事後レポートを基にグループ内で振り返る。 ②課題レポートの見直し改善を行う。 ③レポート発表、グループ協議を通して、最終レポートを作成する。

受講生に望むこと	・積極的、意欲的に授業に参加する。 ・保育参観、授業参観には、その場にふさわしい服装で望むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／ 『小学校学習指導要領』文部科学省　東洋館出版社　2018年　ISBN:9784491034607 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499	その他・特記事項	課題レポートは、期日までに指定された方法で提出すること。

実務経験を活かした授業の概要

福江：幼稚園・小学校の勤務経験から、幼児・児童の発達段階や参観の視点、参与観察の仕方等について実践的な指導・助言を行う。
山本：中学校・高等学校の教員としての経験をもとに、現場で起きた問題をテーマにしたグループ調査・ディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。

授業科目名	教育学概論			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育学について基礎的な事柄を理解するため、教育の理念、歴史、思想をテーマとする。そして、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか西洋、中国、日本の教育史を概観し、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて学ぶ。SDGsの観点からは、過去に義務教育の無償制が唱えられ、現在においては公立の高等学校においても無償となっていることを学ぶ。	①教育学とは何か：教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子ども・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。 ②教育の歴史と制度：学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解している。 ③現代の教育課題：現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ④教育の思想：家庭や子どもに関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。 ⑤我が国における教育の無償化の歴史的背景を理解し、現代の教育について考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子ども観の類型を知る。）	
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）	
3	教育を成り立たせる要素①：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）	
4	教育を成り立たせる要素②：社会と人間（教育の場）（子どもの発達に伴う教育の場としての家庭、学校、地域とそれらの関係について理解する。）	
5	教育を成り立たせる要素③：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）	
6	教育の歴史①：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）	
7	教育の歴史②：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。）	
8	教育の歴史③：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）	
9	教育の歴史④：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。）	
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。）	
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。）	
12	教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子どもの成長と教育について考える。）	
13	教育の思想①：市民の育成と平和の創造（世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。）	
14	教育の思想②：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。）	
15	学習のまとめ：期末レポート作成（テーマと作成の留意点をもとに作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	教育学の歴史（西洋、中国、日本）に関して理解している。	授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。
定期試験	50	教育学についての知識・理解を有している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業後に指示する「ミニッツコメント」にコメントする。［20分］ ③教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	『教育学概論 第2版（教師教育テキストシリーズ）』, 三輪定宣著, 学文社, 2019年出版, ISBN978-4-7620-2878-6
指定図書／参考書等	『保育所保育指針』, 厚生労働省, 2017年告示, 『幼稚園教育要領』, 文部科学省, 2017年告示, 『小学校学習指導要領』, 文部科学省, 2017年告示, 『中学校学習指導要領』, 文部科学省, 2017年告示／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』, 内閣府・文部科学省・厚生労働省, 2017年告示	その他・特記事項	ミニッツコメントはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

”・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。
・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。”

授業科目名	教職論			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介・虫明　淑子　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭及び栄養教諭の免許状取得に関わる科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意義を自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本科目では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携のあり方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐことなどについて考える。	1 幼・小・中・高・栄の校種を超えて教職の意義と専門性いついて理解する。 2 教員の職務と服務について理解する。 3 教師をめぐる現状と課題について知る。 4 教師の求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。

教授方法	講義とワークを組み合わせた方法を採用する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これからの時代を生きる子どもにとっての教師のあり方についてについて理解する。	虫明
2	子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。	虫明
3	教育の専門職としての社会的意義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。	虫明
4	教員としての職務の全体像、校務分掌上の職務の全容と各人が分担する分掌を理解する	中島
5	現代の教育に求められる「資質・能力」とは何かについて幼小接続の観点から理解する。	虫明
6	幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか、その理由について考える。	虫明
7	研修の必要性と教員研修制度　研修の意義や重要性等を法規定を通して理解する。	中島
8	教員の義務と身分保障　服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。	中島
9	チーム学校の組織と指導体制　共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。	中島
10	公教育の理念と学習指導要領　公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。	中島
11	教育制度関係法規の理解　教育法規の記載を通して、我が国の教育制度を理解する。	中島
12	我が国の教育制度と課題　現代教育制度が抱える課題を知り、その改善方針を理解する。	中島
13	地域連携と特色ある学校づくり　地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。	中島
14	学校の危機管理と安全教育　安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。	中島
15	これまでの学びを踏まえて、改めて教師の使命について考える。	中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度・授業参加状況	50	将来教職に就こうとする者としてふさわしい姿勢で授業に臨んでいる。	課題レポート	50	授業における気付き・発見・学びや討議のまとめと考察（授業内のワーク、自分に対する省察を含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。［30分から60分］ ②園行事や学校公開週間など、保育者・教育者の姿を見ることができる機会を逃さない。［適宜］	当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。

受講生に望むこと	取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境に興味を持つこと。夏休みや春休みの現場体験（幼稚園・放課後等児童クラブその他）を経験していることが望ましい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『教職論　（ミネルヴァ教職専門シリーズ３）』津田徹・広岡義之　ミネルヴァ書房　2021年 ISBN：9784623089567
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　総則編』『中学校学習指導要領解説　総則編』『高等学校学習指導要領解説　総則編』	その他・特記事項	各回の授業回に幼児期を中心に虫明、義務教育及び高等学校を中心に石上、中島が担当する。

実務経験を活かした授業の概要

中島：高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。
虫明：幼稚園教諭、副園長としての経験等に基づき、実践的な講義を行う。

授業科目名	特別支援教育論			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代・ポーター　倫子・田中　早苗　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、個々の成長過程やボランティア活動での体験、またはビデオ映像を通じて、「なぜ？」という問いを積み重ねながら、障害について深く理解することを目指す。特に、異なる人を受け入れる寛容さを養い、子どもたちから学ぼうとする姿勢が、支援方法を見つける手立てとなることを知る。また、保育者や教師が陥りがちな障害に対する誤解や不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性についても学ぶ。「その人理解」を深めるためには、乳幼児期から成人までの長期的な視点と、集団生活や家庭といった環境の総合的な視点が重要であることを理解する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	①通常学級にも在籍している特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。②発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今日的状況を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。④合理的配慮の概念について理解し、自閉症スペクトラム障害・注意欠如多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考えることができる。⑤特別な支援を必要とする児・者と共に生活する親や家族、更に保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家庭支援やピアサポートについて理解している。⑥特別支援教育の制度の実際を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えた理解につなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。⑦障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 視覚障害・聴覚障害・病弱等を含む様々な障害や発達障害等、見えにくい障害に起因する生き辛さ、困難さについて事例から考える。発達障害の特性の一つである感覚過敏を知り、保育、教育現場における実際の支援（「食」に関することを含む生活場面等）の在り方を考える。	谷
2	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校（保育者・教員・栄養教諭・養護教諭等職員）と家庭との連携の意味を考える。	谷
3	特別支援に関する教育課程の枠組みを踏まえ、発達障害児等の事例を分析し、個別指導計画及び支援計画について考える。	谷
4	学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間連携について考える。	谷
5	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。	谷
6	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。	谷
7	自閉症スペクトラム障害①：コミュニケーションの障害とは何か、語用論について考える。	ポーター
8	自閉症スペクトラム障害②：興味の偏りと発達の凸凹がもたらす困難について考える。	ポーター
9	注意欠如多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。	田中
10	「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか、大人にとって「都合がいい」ことを目標にしていないだろうか、考える。	田中
11	学習障害：生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。通級による指導及び自立活動に向けた指導と関連付けて考える。	田中
12	二次障害：過剰適応からのウツと不登校問題を中心に考える。さらに、当事者の自立支援について考えていく。	田中
13	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。	ポーター
14	障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。	ポーター
15	インクルーシブ教育は、障害をもつ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人々が享受する教育理念であることを理解する。	谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	40	①用語・基本的概念の理解 ②事例・エピソードからの読み取り 配慮・支援についての理解	ミニレポート課題	30	①課題レポートは適切な資料によって調べられている。②背景や理由を考え、自分なりに理解につなげている。
授業内ワーク（授業参加態度）	30	応答シートに授業への関心、質問、深まり等、自分なりの考えを記している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①障害、発達、言葉、コミュニケーションに関する用語、基本概念について調べる。［30～60分程度］ ②支援に関わる法律や制度について調べる。［30～40分程度］ ③配布資料から障害をめぐる諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。［30～60分程度］	①課題が提示された場合、適切な参考資料に基づいて作成し、丁寧に仕上げること。 ②返却されたミニレポートは授業で得る理解を受けて適宜補完し、自身の理解の深まりに反映させること。 ミニレポートや授業内ワークに記された関心・質問については、次回以降の授業内容にて対応する。

受講生に望むこと	障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意する。	教科書・テキスト	授業内にて適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし　/　『特別支援教育』松浪健四郎　藤田主一　三好仁司　監修 齊藤雅英　宇部弘子　他編集　2021年　中山書店 ISBN978-4-521-74890‐0C3037 『よくわかる障害児保育』尾崎康子・小林真　他編　2010年　ミネルヴァ書房 ISBN978- 4-623-05703-0C3336 他	その他・特記事項	①授業外課題であるミニレポート及び授業内配布資料、ワークシート等は、各自ファイル等に綴り管理すること。欠席時の配布物等を取りに来て、自己学習することを勧める。 ②授業または課題をclassroomに投稿し、参加、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、支援について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。

授業科目名	コミュニケーション・イングリッシュ			開講学科	教育学部	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will study English while focusing on the daily life of a Japanese student in the USA. 2. We will practice English by communicating about various topics. 3. We will practice English through everyday conversations.	The goals of this course are as follows: 1. Gain confidence in everyday communication in English. 2. Become more familiar about life in another country.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	none

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction to Communication English	
2	Unit 1: Welcome to L. A.	
3	Unit 2: I love Fruit!	
4	Unit 3: Campus Life	
5	Unit 4: Lunchtime	
6	Unit 5: First Date	
7	Unit 6: Where's Linda?	
8	Unit 7: Andy's News	
9	Unit 8: Shopping in Santa Monica	
10	Unit 9: Moving Day	
11	Unit 10: A Beautiful View	
12	Unit 11: Sunday Fun	
13	Unit 12: Seeing Stars	
14	Unit 13: Buying Food for a BBQ	
15	今まで学んだことを活かして自分のことについてプレゼンテーションを行う	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	授業中のListening, Reading, Speaking等の活動に積極的に取り組んでいる	毎回の課題	30	毎回学んだ内容や文法に基づくWritingの課題を指定日までに仕上げて提出できている
プレゼンテーション	10	学んだことを活用して自分のことについてプレゼンテーションができる	テスト	30	授業で学んだ日常生活の様々な場面での会話内容や英語表現を理解し、使うことができる

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回授業で取り上げる日常生活の場面での英語表現についての予習[30分] ②毎回指定のWriting課題を仕上げて指定日までに提出する[30分] ③プレゼンテーションの回は各自原稿、スライドを準備し、練習する[60分]	毎回のWriting課題については添削して次回授業時に返却。 プレゼンテーションについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。

受講生に望むこと	海外での日常の様子を映像を見ながら知り、日常英会話を身につけていこう。授業中は目と耳から情報を吸収し、自分でも声に出してみよう。英語の文のなり立ちの基本を確認しつつ自分のことについて発信することを積み重ねていこう。	教科書・テキスト	Robert Hickling・臼倉美里.『We Love L. A.!/LAイングリッシュライフ』2018年 金星堂　ISBN:9784764740495
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	・英和/和英辞書、英英辞書を必ず持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キッズ・イングリッシュA			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	細川　真衣						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニカティブなかたちで英会話力の養成を図り、英語を第一言語とする子どもが入園・入学した場合に子どもや保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。	・具体的に幼稚園や小学校の子どもたちに英語を使う場面を想定し、それに対処できる基本的語彙(numbers, colors, body parts, things around us, the alphabet等々)を英語らしい発音で使える。 ・英語を用いて子どもや保護者とコミュニケーションを図るさまざまな場面を想定し、それに対処できる英語表現をスムーズに使用できる。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。

教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション & Self introduction	
2	U1 The School Year Begins（新学期・園の人々・園舎）	
3	U2 Arrival（登園・家族）	
4	U3 Playtime in the Classroom（室内あそび・欠席の連絡）	
5	U4 In the Sandbox（外あそび・遊具）	
6	U5 In the Playground（園庭・けんか）	
7	U1-5 小テストと復習	
8	U6 Lunchtime（昼食・献立表）	
9	U7 Changing Clothes and Story Time（着替え・おはなし）	
10	U8 Nap Time（トイレ・お昼寝）	
11	U9 Blowing Bubbles（生き物・身体の名称）	
12	U10 A Sick Child(感情表現・緊急連絡)	
13	U6-10 小テストと復習	
14	Grammar 1 一般動詞・be動詞	
15	Grammar 2　疑問文・否定文・命令文	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	①教員が指示する練習問題に取り組んでいる。 ②授業に積極的に参加している。	課題	20	練習問題、レポートなど、授業中に指示する。
小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワーク、グループワークなど積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年　三修社 ISBN:978-4384333992
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キッズ・イングリッシュB			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	細川　真衣						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「キッズ・イングリッシュA」に引き続き、幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニカティブなかたちで英会話力の養成を図り、英語を第一言語とする子どもが入園・入学した場合に子どもや保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにＣＤを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。	・「キッズ・イングリッシュA」で学んだ子どもたちの基本的語彙（numbers, colors, body parts, things around us, animals, family, the alphabet等々）をさらに増やし、英語らしい発音で使える。 ・英語を用いて子どもや保護者とコミュニケーションを図るさまざまな場面を想定し、それに対処できる英語表現をスムーズに使用できる。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。

教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	U11 Preparation for the Sports Day （行事の案内状・電話連絡）	
2	U12 The Sports Day （運動会・動作）	
3	U13 Going for a Walk （散歩（１）・地図）	
4	U14 Discovering Autumn （散歩（２）・交通）	
5	U15 Drawing & Letter Writing （お絵かき・お手紙書き）	
6	U11-15 小テストと復習	
7	U16 Lunchtime （雪の日・工作）	
8	U17 Leaving for Home （降園・お知らせ）	
9	U18 School Diary （連絡帳・乳児室）	
10	U19 Bean-Throwing Day （家庭調査書・園行事（１））	
11	U20 With Thanks for a Wonderful School Year （園だより・園行事（２））	
12	映画・動画から海外の文化、子育て事情を知る	
13	U16-20 小テストと復習	
14	Grammar 3　前置詞	
15	Grammar 4　疑問詞を使った疑問文	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	30	①教員が指示する練習問題に取り組んでいる。 ②授業に積極的に参加している。	課題	20	練習問題、レポートなど、授業中に指示する。
小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] ②復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]	課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。

受講生に望むこと	①ペアワーク、グループワークなど積極的に授業に参加すること。 ②課題の提出期限を守ること。	教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年　三修社 ISBN:978-4384333992
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	シンプル・イングリッシュA			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は子どもの保育・教育に関わる際、日英2言語で臆することなくコミュニケーションがとれるようになることを目的としている。英語学習の4つのスキル(読む・聞く・書く・話す)の学習を通し英語の基礎力をつけていく。リーディングに重点をおきながら、英語でストーリーを読むこと、聞くこと、語い力の強化、基礎文法の確認、短文を書くこと、話すことで日英表現力をつけていく。	①英文を読む、聞く、書く、話す学習を通して平易な英語で表現できるようになる。 ②英語の音やリズムに慣れる、さらに英語の感覚に慣れていくようになる。 ③日英各々の言語による発想の違いや共通点に気づくことができるようになる。

教授方法	教科書各単元を学習、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイ、発表を取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。 Self Introduction： Let me introduce myself.	
2	Unit 1 The Cherry Blossom in Japan: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（現在時制）・Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
3	Unit 2 Travel Treasures: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（代名詞）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
4	Unit 3 Lucky Discoveries: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（過去時制）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
5	Unit 4 Saving Our Precious Water: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（名詞）・ Useful Words & Phrases（表現フレーズを確認する） 小テスト①（Unit 1～Unit 3）	
6	Unit 5 Festival Fun and Games: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する）Grammar Review（前置詞）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
7	Unit 6 Work Pre-and Post-COVID 19: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（進行形）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
8	Unit 7 Online Social Gaming: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する）、 Grammar Review（不定詞と動名詞）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する） 小テスト②（Unit 4～Unit 6）	
9	Unit 8 Women's Social Advancement ： Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（現在完了形）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
10	Unit 9 Music Makers ： Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（WH疑問文）・ Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
11	Unit 10 Risks and Rewards of Online Tasks ： Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する）Grammar Review（比較級と最上級）・Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
12	Unit 11 Getting Around in the Future: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（未来時制）・Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する） 小テスト③（Unit 7～Unit 10 ）	
13	Unit 12 Virtual Reality is Really Here: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（助動詞）・Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
14	Unit 13 Pet Adoption: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（接続詞）・Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する）	
15	Unit 14 Mobile Supermarkets to the Rescue: Reading Starter（語い、リスニング、内容を理解する） Grammar Review（受動態）・Useful Words & Phrases（表現フレースを確認する） 小テスト④（Unit 11～Unit 14）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	20	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	20	教科書学習内容確認小テストを行う。
発表・表現	30	教科書reading partを英語で音読する。関心をもった英語のストーリーやできごと又は絵本などのお話しを読み、その感想を書いて発表する。	期末テスト	30	教科書学習内容再確認テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の各授業単元の学習内容（語い）に目を通しておく。（20分） ②毎時学習した内容の復習及び音読練習をする。(20分) ③英語のストーリー、絵本、関心あるものを適宜選んでみる。(20分)	①小テストは、実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ②発表・表現は指定日に実施後クラスコメントをまとめ提示する。

受講生に望むこと	①授業を通して再度英語の基礎学習をする。 ②教科書各単元で学習する語いや表現を記すノート作成を行う。 ③毎時授業内での学習を通して英語を読む・聞く・書く・話すことに慣れていく。	教科書・テキスト	『Reading Leader』基本文法から始める初級リーディングRobert Hickling著 金星堂 2024年 ISBN978-4-7647-4188-1
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	スピーチ&ドラマ			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	アンソニー　ダガン						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、人前で英語を話せるようになるためのスキルを学ぶ。テキストのToday's Menu, Warm-Up, Presentation Skills, Language focus, Practice Activitiesのタスクをしながら、各Unitの終わりのProjectで少しずつ人前での発表に備えていき、第8回、第14・15回にはクラスの前でのパワーポイントを使用した発表を行う。このように実際に使いながら確かな英語力を育てていく。	・人前で自分の考えや調べたことを英語でもはっきりと伝えようとする。 ・相手に伝えるための英語表現だけでなく、視線、ジェスチャなどノンバーバルな要素にも気を配ることができる。 ・課題のスピーチやミニドラマなどを個人で、またクラスメートと協力して準備し、発表をする。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラス・イントロダクション(概要、授業の進め方、クラスルール、自己紹介など)	
2	Unit 1: Getting Started さまざまな活動の後、自己紹介をする	
3	Unit 2: Voice　活動を通して、聞き手に伝わりやすい声の出し方を学ぶ	
4	Unit 3: Gestures 活動を通して、ジェスチャーの効果的な使い方を学ぶ	
5	Unit 4: Q & A Skills 人前で話した後の質疑応答について学ぶ	
6	Unit 5: Visualsと並行して、有名なスピーチなどを視聴し、感想を述べ合う	
7	Unit 6: Rehearsalこれまで学んだことを振り返りながら、スピーチの練習をする	
8	Unit 7: On Stage スピーチと相互評価	
9	Extra Skill Unit 1: Group Brainstorming ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容について	
10	Extra Skill Unit 2: Group Outline, Phrases ミニドラマ発表に向けてグループ活動 流れ、表現など	
11	Extra Skill Unit 3: Group Script　ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容の確定	
12	Extra Skill Unit 4: Group Practice ミニドラマ発表に向けてグループ活動 練習	
13	Extra Skill Unit 5: Group Rehearsal ミニドラマ発表に向けてグループ活動 リハーサル	
14	Group Mini-Drama　グループ・ミニドラマ発表	
15	Group Mini-Drama　グループ・ミニドラマ発表予備日、振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	・毎回の授業に予習して臨んでいるか ・授業のさまざまな活動に積極的に取り組んでいるか	グループ・ミニドラマ	40	・グループで協力してミニドラマを準備、練習、発表したか ・ミニドラマの内容・発表・相互評価
スピーチ	30	・スピーチに向けての準備、練習に自主的に取り組んだか ・スピーチの内容・発表・相互評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・次回授業に向けて予習、発言準備など[40分] ・スピーチに向けての準備、原稿、発音練習など[60分] ・グループでのミニドラマに向けての準備、原稿、練習など[70分]	随時

受講生に望むこと	・毎回、次回のための課題が出るので準備して授業の臨む。 ・恥ずかしがらずに、元気に取り組み、大きな声ではっきりと英語を話そう。	教科書・テキスト	Tomoko Sugihashi, Mark Christianson & Kota Ohata. Effective Presentation Skills for Beginners. 2015年.朝日出版社. ISBN: 9784255155661 他に必要な教材は適宜配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	スピーチ、ミニドラマの形態や内容については教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	トラベル・イングリッシュA			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は国内外の観光地について地理、交通、名物料理、旅行全般に関する観光英語の基礎を習得する。毎時一つのテーマ（国・都市）を扱い、英語での読み取り、聞き取りを主にした学習を行う。国内外の旅行で遭遇する事柄や英語表現を学ぶとともに、日本の観光地や世界の国々の文化事情、旅行業務（inboundとoutbound)の実際について考察する。	①観光英語の語いや基礎知識を習得する。 ②英文の聞き取りや英文の理解力を強化し、英語での応答力を習得する。 ③興味がある国や都市の観光地についてリサーチを行うことで旅の醍醐味を体感できるようになる。

教授方法	教科書各単元そ学習の上、ロールプレイ、プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業内容、進め方、成績評価について説明する。 興味がある国々や都市をとりあげながら、旅と英語（他言語）の関わりについて考察する。(異文化に関心をもち英語の必要性を理解する)	
2	Unit 1 Hokkaido, Japan：英日・日英語いチェック、英文パンフレットの内容を確認する。(key wordを聞き取る練習を行う)	
3	Unit 2 Kyoto, Japan：e-mail文の内容を読み取る。(寺院・神社など日本文化事象に関する英語表現を学ぶ)	
4	Unit 3 Yufuin, Japan：e-mailで返事を出す英語表現を学ぶ。(英文e-mailの形式と英文表現を練習する)	
5	Unit 4 Okinawa, Japan：レストランの案内を読み内容を理解する。(郷土料理について英語で紹介する)	
6	Unit 5 Singapore：ホームページの空港ガイド、英語案内を読む。(スリーレターコード、出入国カードの記入を練習する) ロールプレイ（inbound)	
7	Unit 6 Bali, Indonesia：ツアーパンフレットを読み。エコツーリズムについて学ぶ。(英語パンフレットを読む練習をする)	
8	Unit 7　Sydney, Australia：クルーズの広告内容を読み、主な見どころを知る。(南半球の地と事象について学ぶ)	
9	Unit 8 Hawaii, the U.S.A.：”Aloha State” ハワイの紹介文を聞き取る。(火山など自然に関する語いを学ぶ)	
10	Unit 9 London, the UK：公共交通機関について簡単な紹介を聞き取る。(英文レジュメの書き方を学ぶ)	
11	Unit 10 France：クレイムの内容を読み取る。(フランスの地方文化について知る。旅行中に遭遇するクレイム事例を知る) Unit 11 Museum in Europe：世界有数の美術館や博物館についてリサーチする。(有名な作品や展示物、作家について学ぶ)	
12	Unit 12 New York, the USA　Broadwayミュージカルについての英文を聞き取る。 Unit 13 Boston, the USA：ボストンの歴史・見所について知る。(日英・英日大きな数字の聞き取りと書き取りを練習する)	
13	プレゼンテーション：inbound又はoutboundいずれかオリジナルツアーを企画し発表する。(旅行企画にチャレンジする)	
14	プレゼンテーションのフィードバックを行う。 Unit 14 Canada：宿泊施設について学習する。(ゲストハウスの宿泊者向けハンドブックとガイドラインを読む)	
15	Unit 15 Rio de Janeiro, Brazil：ツアーパンフレットを読む。(受動態表現を用いた婉曲的表現を練習する)　総まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	30	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	20	英語で発信する適応力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと（20分） ②英語科目や多言語科目の学びやメディア媒体を利用し、世界情勢・観光情報などの知識を得ること（20分） ③学習内容の英語表現を復習する（10分）	①課題は、授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は実施後内容について意見交換したことをまとめ提示する。

受講生に望むこと	旅に関する知識や情報を得るために、国内外の情勢に関心をもつようにする。	教科書・テキスト	『English for Tourism 101 一から学ぶ観光英語の基礎〜日本から世界へ〜』津田昌子他著 南雲堂 2014年 ISBN 978-4-523-17760-9
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	トラベル・イングリッシュB			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は海外旅行(outbound)へのアプローチとして主に聞き取りを中心に英語運用能力の習得を目指す。この授業の目的は、実際の場面を想定し、旅行する際に役に立つと思われる一連の場面を想定した実用英語表現を学習する。(1)旅行英語にふれる。(2)ケーススタディ(旅行業務の実際)について学習する。	①海外旅行をする際に想定される旅行英語及び英語表現を習得する。 ②聞き取りを強化し、日英二か国語が瞬時にinputからoutoputできるようになる。

教授方法	教科書各単元を学習の上、ロールプレイ、プレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業内容、進め方、成績評価について説明する。	
2	Unit 1 In-Flight Announcement ：機内で用いる用語を学ぶ。(機内で使用する語いを覚える)	
3	Unit 2 At Immigration and Customes：入国審査と税関で係とのやりとりを聞き取る。(入国時の動作をシュミレーションする)	
4	Unit 3 Getting to a Hotel：到着空港より宿泊ホテルへ移動する際の生き方や手段についての表現を学ぶ。(交通アクセスについて尋ねる表現を練習する) Unit 4 Getting into a Hotel：宿泊ホテルでのチェックイン及び部屋のタイプを聞き取る。(ホテルの案内を読む練習をする)	
5	Unit 5 Check in without a Reservation：事前予約なしでホテル宿泊の交渉をする内容を聞き取る。(シンプル英語で表現する方法を学ぶ)	
6	Unit 6 At a Restaurant：レストランの予約・メニューのオーダーについて聞き取る。(料理法・食材についての語いを学ぶ)	
7	Unit 7 Taking the Subway：公共交通機関を利用して目的地へ行く方法を聞き取る。(英語版地下鉄マップを読む練習をする)	
8	Unit 8 At a Fast-Food Restaurant：ファストフード店で注文する内容を聞き取る。(ハンバーガーショップでの会話を練習する)	
9	Unit 9 Hotel Service：ホテルでハウスキーピングを利用する表現を学ぶ。(コンシェルジュなどを利用する際の表現を練習する)	
10	Unit 10 Booking a Tour：現地で観光ツアーを申し込む表現を聞き取る。(英文パンフレットを読む練習をする)	
11	Unit 11 Health Care：薬局、病院など医療機関での表現を聞き取る。(医療に関連した語いを学ぶ)	
12	Unit 12 Shopping：靴屋、デパートで好みのものお勧めのものを尋ねる表現を聞き取る。(買物に関連した表現を学ぶ) Unit 13 Complaints：ホテル、レストランのサービスについての表現を聞き取る。(クレイムを伝える表現を練習する)	
13	プレゼンテーション：デスティネーション研究（海外旅行の目的地についてリサーチと発表を行う）	
14	プレゼンテーションのフィードバックを行う。 Unit 14 Dealing with Problems：旅行中に想定されるトラブルについて学習する。(空港、ホテルなどで遭遇するトラブルについて知る)	
15	Unit 15 At the Airport ：海外の空港でのチェックインについて学習する。(搭乗予定便の遅延アナウンスなど変更に対応する方法を知る)　総まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業中積極的に取り組む姿勢。	小テスト	30	教科書学習内容確認小テストを行う。
課題	20	毎回の授業予習指定項目の確認を行う。	発表	20	英語で発信する運用力がついているか評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前に調べておくこと（20分） ②英語科目や他言語科目の学びやメディア媒介を利用し世界情勢、観光情報など知識を得ること。(20分) ③学習内容の英語表現を復習する。(10分)	①課題は授業内で口頭でコメントする。 ②小テストは実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ③発表は実施後内容について意見交換したことをまとめ提示する。

受講生に望むこと	観光に関する知識や情報を得るため、国内外の情勢に積極的に関心をもつようにする。	教科書・テキスト	『Travel English at Your Fingertips Revised Edition 実用観光英語 改定新版』島田拓司・Bill Benfield著 成美堂 2020年 ISBN 978-4-7919-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プレゼンテーション			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	本間　千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目はアカデミック、ビジネスなどの分野で必要とされるプレゼンテーションの基本を学ぶ。(1)プレゼンテーションの定義、構造、必要なスキル(2)情報型4つのタイプと説得提案型4つのタイプ別プレゼンテーションの方法を具体例と共に学習する。さらに学んだことを活かしながら実際にテーマを考えプレゼンテーションを行い相互評価することで客観的視点を養う。	①効果的なプレゼンテーションとその基本構造を理解する。 ②テーマや目的に沿ってより効果的なプレゼンテーションのタイプを選択することができるようになる。 ③自分の考えやリサーチした内容を英語で聴衆に伝えられるようになる。 ④ライティング、スピーキング、表現力を高めることができるようになる。

教授方法	教科書各単元を学習の上、スピーチ及びプレゼンテーションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：教科書、授業概要、ねらい、進め方、成績評価について説明する。 Part Ⅰ： Basic Knowledge for Presentation（Unit 1～Unit 4 概要を紹介する）	
2	Unit 1 Presentation Structure：プレゼンテーションの基本構造を学ぶ。（プレゼンテーションとは何かを考える）	
3	Unit 2 Presentation Skills：話の展開を明確にするポイントを学ぶ。（Body Languageについて考える） Unit 3 Preparing for Your Presentation：情報収集と情報倫理について知る。（参考文献リストのスタイルについて紹介する）	
4	Unit 4 How to Arrange a Presentation Setting 視覚情報の提示について確認する。（プレゼンテーションのタイプと備品について考える）Unit 1～Unit 3 まとめと発表①事前準備を行う。	
5	発表① スピーチを実施する。（スピーチの構造を鑑みショートスピーチを試みる）	
6	発表① フィードバックを行う。 Part Ⅱ： Informative Presentations（Unit 5～Unit 8 概要を紹介する）	
7	Unit 5 Type 1 Listing：列挙型プレゼンテーションについて学ぶ。（テーマに該当する事柄を順序立てて説明する） Unit 6 Type 2 Classification：分類型プレゼンテーションについて学ぶ。（共通点を整理し分かりやすく提示する）	
8	Unit 7 Type 3 Process：プロセス型プレゼンテーションについて学ぶ。（手順に沿って説明する） Unit 8 Type 4 Investigation：調査型プレゼンテーションについて学ぶ。（調査研究の成果を分かりやすく伝える） Unit 5～Unit 8 まとめと発表 ②事前準備を行う。	
9	発表② Unit 9 Giving Your Presentation 報告型のプレゼンテーションの実践（Type 1～Type 4のまとめを行う）	
10	発表② フィードバックを行う。 Part Ⅲ： Persuasive Presentations（Unit 10～Unit 13 概要を紹介する）	
11	Unit 10 Type 5 Persuasion：説得型プレゼンテーションについて学ぶ。（企画案や提案をわかりやすく伝える） Unit 11 Type 6 Problem and Solution：問題解決型プレゼンテーションについて学ぶ。（問題に対する解決策を論理的に説明する）	
12	Unit 12 Type 7 Cause and Effect：原因・結果型プレゼンテーションについて学ぶ。（物事の因果関係を説明する） Unit 13 Type 8 Comparison and Contrast：比較対照型プレゼンテーションについて学ぶ。（類似する物事の共通点と相違点及び利点と欠点を述べる）	
13	発表③ Unit 14 Giving Your Presentation 説得・提案型のプレゼンテーションの実践（Type 5～Type 8のまとめを行う）	
14	発表③ フィードバックを行う。 Part Ⅰ～ Part Ⅲ Review Unit ：プレゼンテーション8つのタイプを確認（Type 1～Type 8のフィードバックを行う）	
15	総まとめを行う。（プレゼンテーション実践レビューを行う）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習と準備して臨み授業中積極的に取り組む姿勢を評価する。	小テスト3回	30	教科書学習内容確認小テストを行う。
プレゼンテーション	30	プレゼンテーションの基本・構成を習得した上で発表内容と準備を整え、聴衆に伝えるプレゼンテーションを行う。	相互評価	10	聴き手としてクラスメンバーのプレゼンテーションを指定項目に従い評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の各単元び学習内容に目を通しておくこと。指定された項目について事前にリサーチしておくこと(20分) ②プレゼンテーション課題のリサーチ、資料収集、英文原稿作成、ビジュアルエイド作成(90分)	①小テストは実施後回収採点した上でコメントし返却する。 ②プレゼンテーション実施後口頭でコメントしクラスコメント（相互評価）をまとめた上で提示する。

受講生に望むこと	①授業を通してプレゼンテーションの基本を学習する。 ②発表までの作業過程を一つずつ積み重ねていき、自信をもち発表できる力をつけていくよう心がける。 ③教科書提示Web動画及び音声をストリーミング再生可能であるので積極的に利用する。	教科書・テキスト	『 Winning Presentations 8 Types of Successful Presentation 』Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN 978-4-7919-3424-9
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ムービー・イングリッシュA			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	セナン　フォックス						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will practice listening, speaking, reading, and writing in English by studying the movies "Gone with the Wind"（風と共に去りぬ）and "Little Women"（若草物語）. 2. We will practice short dialogues from the movies. 3. We will practice English by communicating about the content of the movies.	The goals of the course are as follows: 1. Gain ability in the four language skills through communicating about the movies. 2. Learn through dialogues and acquire a wide range of English vocabulary and phrases. 3. Gain an understanding of American culture and speech patterns by studying scenes from the movies.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	A desire to learn English

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction: Understand the culture of America, and background to the two movies.	
2	Gone With the Wind – Unit 1 – Introduce Characters and Consider Characters' Personalities by Discussion	
3	Gone With the Wind – Unit 2 – Understand the American Civil War and Powerful Language of Wartime by Listening	
4	Gone With the Wind – Unit 3 – Visual Study of the Setting by Discussion, Listen to Dialogue	
5	Gone With the Wind – Unit 4 – Focus on Listening and Discussing Casual English Phrases	
6	Gone With the Wind – Unit 4 – Further study of the Ending. Additionally, Study of the Author and Excerpt from the Novel	
7	Gone With the Wind – Units 1 – 4 Review – Group Discussions of the Characters, Plot, Setting, and Language Used in the Movie, Review Difficult English and Grammar Constructions	
8	Little Women – Unit 5 – Introduce Characters and Consider Characters' Personalities by Discussion	
9	Little Women – Unit 6 – Learn the Differences of Setting Between the Two Movies by Discussion	
10	Little Women – Unit 7 – Listening Practice and Discussion of Women during Wartime	
11	Little Women – Unit 8 – Compare and Contrast the Endings of the Two Movies by Discussion	
12	Little Women – Unit 8 – Further Study of the Ending. Additionally, Study of the Author and Excerpt from the Novel	
13	Little Women – Units 5 – 8 – Group Discussions of the Characters, Plot, Setting, and Language Used in the Movie, Review Difficult English and Grammar Constructions	
14	Students will work in Pairs and Present their Project	
15	"Gone With the Wind" and "Little Women" – Units 1 – 8 – Review Information, Compare Movies, and Prepare for the Final Exam	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly Assignments	30	Weekly assignments and Quizzes based on movie dialogues and content	Effort and Attendance	20	Effort in classroom activities and class attendance
Presentations	10	Students will work together to Present their Project	Final Exam	40	This will be based on the content and language of the movie.

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following assignments.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	American Spirits in Movies［名作映画で学ぶアメリカの心］ 石塚　美佳 / 小林　めぐみ / メイス　みよ子 / 長崎　睦子 著 SEIBIDO 2010　ISBN: 9784791931194
指定図書／参考書等	This will be made known in class.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ムービー・イングリッシュB			開講学科	教育学部	必修・選択	選択
担当教員名	セナン　フォックス						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
In this course: 1. We will practice listening, speaking, reading, and writing in English by studying the movies "The Wizard of Oz" and "To Kill a Mockingbird" 2. We will practice short dialogues from the movies. 3. We will practice English by communicating about the content of the movies.	The goals of the course are as follows: 1. Gain ability in the four language skills through communicating about the movies. 2. Learn through dialogues and acquire a wide range of English vocabulary and phrases. 3. Gain an understanding of American culture and speech patterns by studying scenes from the movies.

教授方法	Pair work, individual assignments
履修条件	A desire to learn English

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Introduction to the Two Movies and Movie English B	
2	The Wizard of Oz – Unit 9 – Introduce Characters and Consider Characters' Personalities by Discussion	
3	The Wizard of Oz – Unit 10 – Discuss the Setting and Consider the Oddities of this Fantasy World	
4	The Wizard of Oz – Unit 11 – Watch and Listen to the Movie, Guess about the Characters and Plot	
5	The Wizard of Oz – Unit 12 – Watch and Listen to the Ending of the Movie, Discuss Together the Meanings and Impressions	
6	The Wizard of Oz – Unit 12 – Additionally, Study of the Author and Read an Excerpt from the Novel	
7	The Wizard of Oz – Units 9 – 12 – Review of the Movie, Discuss Questions, and Opinions of the Movie	
8	To Kill a Mockingbird – Unit 13 – Introduce Characters and Consider Characters' Personalities by Discussion	
9	To Kill a Mockingbird – Unit 14 – Watch and Listen to Movie Scenes, Discuss the Complexities and Injustices of the American South	
10	To Kill a Mockingbird – Unit 15 – Watch and Listen to the Scenes, Comparison with other American "Lawyer Shows," Gain an Understanding of Language used in the American Legal System	
11	To Kill a Mockingbird – Unit 16 – Watch and Listen to the Ending of the Movie, Discuss the Movie	
12	To Kill a Mockingbird – Unit 16 – Further Discussion of the Movie. Additionally, Study of the Author and Read an Excerpt from the Novel	
13	To Kill a Mockingbird – Units 13 – 16 – Review of the Movie, Discuss Questions, and Opinions of the Movie	
14	Students Present their Project in Pairs	
15	Review all Vocabulary, Grammar, and Content of the Movies. Prepare for the Final Exam.	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Weekly Assignments	30	Students will complete Weekly Assignments and Quizzes based on the content of the movie	Effort and Attendance	20	Effort in Class Activities and Class Attendance
Presentations	10	Students will present their project in pairs	Final Exam	40	Based on the language learned and content of the movies

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1. Review material each week from the previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)	Feedback will be given as needed following assignments.

受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English	教科書・テキスト	American Spirits in Movies［名作映画で学ぶアメリカの心］ 石塚　美佳 / 小林　めぐみ / メイス　みよ子 / 長崎　睦子 著 SEIBIDO 2010　ISBN: 9784791931194
指定図書／参考書等	This will be made known in class.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	インテンシブ・リーディング			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	セナン　フォックス						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
重要な英文法のポイントを含む英文の解釈に丁寧に取り組み、英文の「分析力」を向上させ、正確な読解力を鍛えることを目的とする。演習に基づいた反復トレーニングを通して、知識を確かなものにすることを目指す。	①英文読解に必要な英文法の知識を身に着ける。 ②精読により正確に長文を理解できる。 ③繰り返し学習で知識を定着させる。

教授方法	演習・講義
履修条件	英語力がSTEP２級以上であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、授業の進め方の説明（解説担当表の作成）	
2	第１章　主語と動詞の把握（１） 第１回講義「名詞」	
3	第１章　主語と動詞の把握（２） 第２回講義「動詞」	
4	第２章　準動詞（１） 第３回講義「形容詞」	
5	第２章　準動詞（２） 第４回講義「副詞」	
6	第３章　関係詞（１） 第５回講義「主語」	
7	第３章　関係詞（２） 第６回講義「動詞と文型」	
8	前半の振り返り、復習テスト	
9	第４章　接続詞（１） 第７回講義「目的語」	
10	第４章　接続詞（２） 第８回講義「補語」	
11	第５章　比較（１） 第９回講義「前置詞　名詞」	
12	第５章　比較（２） 第１０回講義「句と節・句と節の働き」	
13	第６章　その他の重要項目（１） 第１１回講義「助動詞」	
14	第６章　その他の重要項目（２） 第１２回講義「to不定詞」	
15	後半の振り返り、復習テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	意欲的に参加・発言　30点 概ね参加　15点 無関心・意欲がない　5点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	課題	40	予習として教科書の課題に取り組み、答え合わせをして解説を熟読する。解説担当のときは文法のポイントと文の構造の分析について分かりやすく説明する。
復習テスト	30	学習内容に関する復習の小テストを行う。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習として、教員が指定する教科書の演習に取り組み、答え合わせをして解説を熟読する。（60分） ②復習として、授業で取り組んだ演習を正確に読解できるまで取り組む。（40分）	課題に取り組んだ際の疑問点について授業中に解説する。

受講生に望むこと	①予習と復習が非常に大切になるので、基礎力強化のため、しっかりと取り組んでほしい。 ②解説担当になったときは、文法のポイントと文の構造の分析について分かりやすく説明してほしい。	教科書・テキスト	『入門英文問題精講』（４訂版）竹岡広信著　旺文社　2019年　ISBN978-4010345719
指定図書／参考書等	なし／『大学受験のための英文熟考　上』（改訂版）竹岡広信著　旺文社　2023年　ISBN978-4010351253	その他・特記事項	・Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	エッセイ・ライティング			開講学科	教育学部	必修・選択	学科による
担当教員名	セナン　フォックス						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「つなぎ言葉」の習得を通じて、まとまったパラグラフが書けるようになることを目指す。ライフスタイル、コミック、科学技術、自然、スポーツなどの幅広いトピックを扱うモデル文を読みながら、状況に応じたつなぎ言葉の使い方やパラグラフの構成を身に付ける。	①ライティング演習により、効果的に伝わるパラグラフの組み立て方を理解する。 ②４技能を使った練習を通して、正しい英文、つながりのあるパラグラフを書くことができる。 ③さまざまなテーマについて、適切なつなぎ言葉を使った複数のパラグラフで自分の考えを表現することができる。 ④与えられたテーマで、パラグラフを書き、他者からの助言や、自発的な見直しによって、より良いものに仕上げることができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	英語力が、STEP準２級以上であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Chapter 1　The Midnight Sun Baseball Game：白夜の野球試合 つなぎ言葉：ADDITION	
2	Chapter 2　Comic Heroes for the Modern Times：現代のコミックヒーローズ つなぎ言葉：EXAMPLES	
3	Chapter 3　Permafrost　永久凍土が溶けてゆく つなぎ言葉：CONSEQUENCE	
4	Chapter 4　Indoor Gardening with Hydroponics：インドアガーデニングしませんか つなぎ言葉：SEQUENCE	
5	Chapter 5　The Tiny House Movement：持続可能な暮らし方 つなぎ言葉：SUMMARY	
6	Chapter 6　Pervious Concrete：水はけのよいコンクリート つなぎ言葉：CONTRAST	
7	Chapter 7　Melt in Your Mouth!：アメリカの伝統的なお菓子 つなぎ言葉：EMPHASIS	
8	Chapter 8　The Story of Peaunuts：チャーリー・ブラウンと仲間たち つなぎ言葉：CONCESSION	
9	Chapter 9　The Sport of Horse Dancing-Dressage：馬術というスポーツ つなぎ言葉：GENERALIZING	
10	Chapter 10　The Great American Road Trip：車で旅するアメリカ大発見 つなぎ言葉：LOGICAL RELATIONSHIP	
11	Chapter 11　Writing a Strong Main Character：ソーシャルメディアに投稿する つなぎ言葉：PREPARATION	
12	Chapter 12　Effective Email Writing Standards：効果的なメールを書く つなぎ言葉：DETAILS	
13	Chapter 13　Skills for Job-Hunting：就活に必要なスキルを身につける つなぎ言葉：RESTATEMENT	
14	Chapter 14　How to Prepare for a Speech：人前でうまく話すには つなぎ言葉：SIMILARITY	
15	Chapter 15　Review of Paragraph Writing：パラグラフライティングのおさらいをする つなぎ言葉：EXCEPTION	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	意欲的に参加・発言　20点 概ね参加　15点 無関心・意欲がない　5点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。	課題	30	正しい英文を書くための基礎力強化問題集に取り組む。範囲は授業内に指示する。
小テスト	20	授業での学習内容に関する復習の小テストを実施する。	作文	30	指示したテーマについてエッセイを書く。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習として、教科書を読み、教員が指定する問題を解いておく。（60分） ②復習として、授業で学んだことを参考にしながら課題に取り組む（40分）	課題に取り組んだ際の疑問点について授業中に解説する。

受講生に望むこと	①予習と復習が非常に大切になるので、基礎力強化のため、しっかりと取り組んでほしい。 ②客観的に見直しをすることで、正しく表現力豊かな英文がかけるようになってほしい。	教科書・テキスト	『Tell Your Story!-Using Transition Words in English Writing-』（初版）中川　準治 / Joe Alloway / Ayden Harris 共著　成美堂　2024年　ISBN：978-4791972920
指定図書／参考書等	なし／『決定版 竹岡広信の 英作文が面白いほど書ける本』竹岡広信著　KADOKAWA/中経出版　2009年　ISBN：978-4046025265	その他・特記事項	・Classroomを用いて課題等を提示することがある。 ・ライティング演習のためにルーズリーフノートを準備する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育史			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格					

授業の概要	授業の到達目標
教育の歴史を通して過去の様々な思想や出来事について知るとともに、現代の教育にどのように反映されているか考える。このことは未来の教育について考えることにもつながる。本科目はこのような視点で、先に西洋における教育史について学ぶ。次に日本における教育史について学ぶ。これによって、日本の教育はヨーロッパやアメリカの影響を受けながら現代に至っていることが分かる。さらに、AI時代における子どもの非認知能力の高め方について考える。	①西洋の教育史：古代ギリシャから現代までの西洋の教育史について理解している。 ②日本の教育史①：江戸期から大正期までの日本の教育史について理解している。 ③日本の教育史②：現代の日本の教育の現状をもとに未来の教育について自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）／古代ギリシャ・ルネサンス期の教育者（ソクラテスやコメニウスの教育思想について知る。）	
2	近代国家の形成と教育学（ロックの紳士教育論やルソーの消極教育について知る。）	
3	近代教育学の確立（ペスタロッチのメトーデ、ヘルバルトの四段階教授、フレーベルの恩物について知る。）	
4	社会と教育／労働と教育（デュルケームの「社会科学育」を中心に考える。／ケルシェンシュタイナーの労作学校、クルプスカヤの総合技術教育について考える）	
5	新教育運動の成立と展開①（エレン・ケイの児童の世紀、デューイの経験主義教育論について考える。）	
6	新教育運動の成立と展開②（モンテッソーリの感覚教育について考える。）／精神科学的教育学の潮流（ボルノウの実存哲学について考える。）	
7	現代における教育の思想（ブルーナーの動機付け、イリイチの脱学校論などについて知る。）	
8	日本の社会の成り立ちと人間形成（日本における近世社会の成り立ちと多様化する教育機関について知る。）	
9	日本の近世の教育思想と教育家（貝原益軒のメディア活用、広瀬淡窓のの能力主義、吉田松陰の情熱と感化の教育思想について知る。）	
10	明治期の教育思想（明治期の福沢諭吉の教育思想について知るとともに「学問のすゝめ」の意義について考える。）	
11	国民教育制度と国家主義路線（明治期の国民教育制度や教育における国家主義について考える。）	
12	大正新教育の思想と実践①（及川平治の教授法改革、木下竹次の学習原理の探究について知る。）	
13	大正新教育の思想と実践②（沢柳政太郎の実際的教育学、小原国芳の全人教育論について知る。）	
14	現代の教育（無着成恭の山びこ学校、中曽根康弘の臨時教育審議会答申内容から現代の教育について考える。）	
15	学習のまとめ（西洋教育史に登場した人物、日本教育史に登場した人物を各複数選んでその関係を含めて説明するとともに自分の考えを入れて期末レポートを作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート（含発表）	25	西洋教育史または日本教育史に登場する人物あるいは事柄についてまとめ、発表する。	学修成果物	40	西洋教育史と日本教育史の人物年表を丁寧に整理して書いてある。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	期末レポート	20	レポートの要件に基づいて作成してある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②事前に読んだ範囲の人物の教育における業績などをまとめておく（小レポート）。［30分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②人物年表の整理の仕方について例示して解説する。 ③第15回授業時にそれまでの授業の取り組みについて評価する。

受講生に望むこと	過去の教育史が現在の教育につながっていることを意識して受講してほしい。	教科書・テキスト	『教育の歴史と思想』石村華代・軽部勝一郎編著、2013年、ミネルヴァ書房、ISBN978-4-623-06584-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

教育史に見られる教育方法の不易なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。

授業科目名	教育学文献講読Ａ１			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格					

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、幼稚園教育要領、学習指導要領の改訂、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂、さらには架け橋カリキュラムへの推進など、日本の教育の質向上に大きな影響を与え続けている無藤隆氏の2009年の著書を講読する。授業を通じて、著者が一貫して伝えようとしてきた幼児教育の不変の原則について深く考察する。	①文献の内容を通じて、著者の考えや伝えようとしている意図を深く理解する。 ②レジュメを作成し、他者と共有し議論することで、自らの考えをさらに深める。 ③保育者としての資質向上や保育実践の質を高めるために、自ら問いを立て、それについて論じる力を養う。

教授方法	演習・講義
履修条件	幼児教育を専門的に学びたい人を対象とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容の説明／幼児教育の４原則について	
2	第１章「園では一体子どもの何を伸ばせばよいのか」について考える。	
3	第１章「園の空間・時間という場及び園の環境の意義」について考える。	
4	第２章「フィールドベースのプロジェクト活動」について考える。	
5	第３章「保育内容・健康のとらえ方」について考える。	
6	第４章「保育内容・人間関係」について考える。	
7	第５章「保育内容・環境とは」について考える。	
8	第６章「保育内容・言葉のとらえ方」について考える。	
9	第７章「保育内容・表現とは」について考える。	
10	第８章「幼小連携のあり方」について考える。（１）	
11	第８章「幼小連携のあり方」について考える。（２）	
12	第９章「幼保の合同のあり方」について考える。	
13	第10章「保育者としての成長過程」について考える。	
14	第11章「実践的研究者のあり方」について考える。	
15	最終発表および授業の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢やディスカッションに対する積極的な態度を評価する。	レジュメの作成と発表	40	授業内容の理解度、提出状況、取り組み姿勢、発表内容を総合的に評価する。
最終課題	30	授業内容の要点についての認識が深まっているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
文献を読み、準備をする〔180分〕 担当範囲の要約〔180分〕 授業内容の復習〔60分〕 教科書以外の関連資料を収集し、読む〔90分〕	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問するなど積極的な姿勢で受講し、実践力の向上を図ってほしい。	教科書・テキスト	『幼児教育の原則ー保育内容を徹底的に考える』無藤隆　ミネルヴァ書房　2009年　ISBN：　978-4623055388
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の理解度、質問・疑問・興味・関心に沿って、授業形式や内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

副園長としての経験を活かし、幼稚園現場における自らの実践や保育者への指導（保育内容や保育者としての姿勢など）の事例を基に、事実に基づいた様々な事例を挙げながら展開する。

授業科目名	教育学文献講読Ｂ１			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格					

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、『幼児教育の原則ー保育内容を徹底的に考える』（教育学文献講読A1で使用）の５年後、同著者である無藤隆氏が出版した『幼児教育のデザインー保育の生態学』を購読する。日常の保育の営みとして「子どもが環境の意味を汲み出し」「保育者は見つつ、働きかけ、環境側の構成を作り替えていく」とはどのようなことかについてなど幼児教育を深く考察し、よりよい実践を探求することを目指す。	①文献内容を通じて、著者の考えや伝えようとしている意図を深く理解する。 ②レジュメを作成し、他者と共有し検討することで、自らの考えをさらに深める。 ③保育者としての資質向上や保育実践の質を高めるために、自ら問いを立て、それについて論じる力を養う。

教授方法	演習・講義
履修条件	保育内容科目を履修している（履修中を含む）ことが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の説明	
2	第１章「遊びとは何か」について考える（1）	
3	第１章「遊びとは何か」について考える（2）	
4	第２章「園の環境デザイン」について考える（1）	
5	第２章「園の環境デザイン」について考える（2）	
6	第３章「園における音環境と表現」について考える。	
7	第４章「身体の動き」について考える。	
8	第５章「積み木と組み立て遊び」について考える。	
9	第６章「ごっこ遊びの分析」について考える。	
10	第７章「造形活動とは」について考える。	
11	第８章「協同性を育てる」について考える（1）	
12	第８章「協同性を育てる」について考える（2）	
13	第９章「美への感性を育てる」について考える。	
14	第10章「感情の場としての園環境」について考える。	
15	最終課題および授業の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢やディスカッションに対する積極的な態度を評価する。	レジュメの作成と発表	40	授業内容の理解度、提出状況、取り組み姿勢、発表内容を総合的に評価する。
最終課題	30	授業内容の要点についての認識が深まっているかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
文献を読み、準備をする〔180分〕 担当範囲の要約〔180分〕 授業内容の復習〔60分〕 教科書以外の関連資料を収集し、読む〔90分〕	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問などがある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問するなど積極的な姿勢で受講し、実践力の向上を図ってほしい。	教科書・テキスト	『幼児教育のデザイン　保育の生態学』無藤隆　東京大学出版会　2013年　ISBN：978-4-13-052080-5
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の関心や理解度、質問、疑問、興味、関心に沿って、授業形式や内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

副園長としての経験を活かし、幼稚園現場における自らの実践や保育者への指導（保育内容や保育者としての姿勢など）の事例を基に、事実に基づいた様々な事例を挙げながら展開する。

授業科目名	教育実践研究（小中高）			開講学科	教育学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	石上　佐知子・福江　厚啓・山本　良一　（代表教員　石上　佐知子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格					

授業の概要	授業の到達目標
小学校の学級担任教師には、学級における個を育成する力とともに、学級成員同士が関わり合いながら目標に向けて取り組んでいくよう導く力、すなわち学級経営力が必要となる。そこで本授業では、小学校の教師経験をもつ教員がそれぞれの視点から授業を展開するほか、理論に関する講義を通して、学級経営の実践と理論及び今日的課題について理解を図る。また学級経営を考える視点について学ぶ。	① 学級集団・学級経営の特性について知る。 ② 各回の授業内容をもとに学級経営を考える視点について理解し、自分なりの考えをもつことができる。 ③ 現代の学級経営に関する課題について理解し、自分なりの考えをもつことができる。 ④ 視点を明確にしながら自らが目指す学級経営について創造的に考え、他者に伝わるように「学級経営」案を作成することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校一種免許状を取得予定で小学校教員を志望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業内容を概観し、評価方法等について理解する。）、学級経営の特性①（学級経営とは）	石上
2	学級経営の特性②（学級の制度と歴史、学習指導要領の変遷等から、学級集団・学級経営の特性について学ぶ。）	石上
3	思いを出せる学級(子どもが安心して思いを出せる学級づくりについて考える。）	福江
4	話を聞ける学級(子どもが互いに聞き合いのできる学級づくりについて考える。）	福江
5	深く考える学級(子どもが物事を深く考える学級づくりについて考える。）	福江
6	第３回～５回の学修を踏まえたワークショップ（主体的、対話的で深い学びを通した学級経営について考える。）	福江
7	学級経営の危機管理１(子どもたちが言うことをきかないとき：通常のクラスでの子どもの課題について考える。）	山本
8	学級経営の危機管理２(クラスでイジメが発生したとき：特別な場合の子どもの課題について考える －1－。）	山本
9	学級経営の危機管理３(子どもが不登校になったとき：特別な場合の子どもの課題について考える －2－。）	山本
10	学級経営の危機管理４(モンスターペアレントに出会ったとき：保護者対応での課題について考える。）	山本
11	集団の教育力を生かした学級経営①（グループアプローチの考えを取り入れた実践と理論、学級活動の充実について学ぶ。）	石上
12	集団の教育力を生かした学級経営②（インクルージョンの視点を取り入れた実践と理論、学習指導や生徒指導とのつながりについて学ぶ。）	石上
13	現代の学級経営の課題と教師の在り方（カリキュラムマネジメントの視点を踏まえて考える。）	石上
14	自らが目指す学級経営（意見を出し合い、視点を整理し、創造的に考える。）	石上
15	学修のまとめ(「私の『学級経営』案」を発表する。）	石上

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学級経営案の発表	20	視点を明確にしながら目指す学級経営について創造的に考えているか、それを他者に伝わるように「学級経営」案にまとめている。	最終・振り返りレポート	20	学修を振り返り、印象に残った授業を挙げながら、学級経営について得た視点について考えを書き表している。
小レポート	60	各授業内で出された課題について小レポートを提出する。理解した内容と自身の考えを適切にまとめている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
学校ボランティア等で小学校に行った際、配属学級の学級経営について観察するようにする。また、「私の学級経営案」の発表へ向け、毎回の授業内容及び考えたこと等を各自が主体的に記録し整理する。	各教員から適宜レポートを課す。

受講生に望むこと	・各回の授業を受けながら「自分だったら」と考えることができるようにする。 ・各回の授業における学びや思考を自分なりに工夫して記録し、最終の「学級経営案」発表および振り返りレポートに統合的に表現する。	教科書・テキスト	・『日本の学級集団と学級経営』河村茂雄著、2010年出版、厚徳社 ISBN 978-4810005608 ・その他(各回適宜資料を配付する。）
指定図書／参考書等	なし／『学級経営の教科書』白松賢著、2017年出版、東洋館出版社、ISBN 978-4491033419、『子どもの力を引き出す学級担任 クラスをきちんとまとめるコ ツ！』寶迫芳人著、2012年出版、ナツメ社、ISBN 978-4-8163-5184-6 『教師の資質』諸富祥彦著、2013年出版 朝日新書 ISBN 978-4-02273518-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

石上：公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実践を具体的かつ俯瞰的に示しながら学級経営に関する授業を展開する。
福江：小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。
山本：中学校・高等学校での経験をもとに、学級経営の要点や事例を紹介している。

授業科目名	発達心理学			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創 ・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成(2010)．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編(2013)．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房 2013年　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編(2011)．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育心理学			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	服部環・外山美樹編（2022）．『スタンダード教育心理学　第2版』　サイエンス社　ISBN: 978-4781915340
指定図書／参考書等	なし/石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．『教育・学校心理学』 サイエンス社 ISBN: 978-4781915272、大村彰道編(1996)．『教育心理学Ⅰ』 東京大学出版会 ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編(1998)．『教育心理学Ⅱ』 東京大学出版会 ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．『絶対役立つ教育心理学 第２版』ミネルヴァ書房 ISBN :978-4623091638 、水野治久・串崎真志編(2019)．『教育・学校心理学』 ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623086078、橋本創一・三浦巧也・ 渡邉貴裕・ 尾高邦生・堂山亞希・熊谷宍・田口敏子・大伴潔編(2020)．『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』 福村出版 ISBN:978-4571121401	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育社会学			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む。［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持つ。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望む。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	（参考書）相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育課程論			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
教育課程には２つの役割がある。１つは、教育の目的や目標を達成するために「いつ、何を、どのように」学ぶかを示す役割、もう１つは、幼児の姿、発達過程、園や地域の実態等に基づき計画、実践し、さらに、個人だけでなく園組織として評価し、園の保育の改善を図る「カリキュラム・マネジメント」の役割である。本講義では、教育課程に関するこれらの２つの役割への認識を深めつつ検討する。	①教育課程は幼児教育の基本や園の教育目標の実現のために作成されるが、幼児の生活する姿を捉えることと密接に関連していることを理解する。 ②長期指導計画および短期指導計画の考え方や作成手順について理解する。 ③日々の記録とその振り返りを通じて次の計画につなげるPDCAサイクルの重要性を理解する。 ④カリキュラム・マネジメントの意味や意義について理解する。

教授方法	講義
履修条件	教育実習指導Ⅰ（幼）を履修中であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：幼児教育の基本と計画の考え方および教育課程の意義について理解する。	
2	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力について理解する。	
3	公教育を担う立場として、幼児教育における教育課程の役割について理解する。	
4	幼児教育における教育課程編成の基本的事項について理解する。	
5	教育課程編成の留意事項のポイントと具体的なねらいと内容の組織について理解する。	
6	長期指導計画および短期指導計画作成の基本的な考え方について理解する。	
7	指導計画の作成において、幼児の生活する姿をどのように捉えるかについて考える。	
8	指導計画の作成において、具体的なねらいや内容の設定について考える（1）	
9	指導計画の作成において、具体的なねらいや内容の設定について考える（2）	
10	指導計画の作成における具体的な手順とポイントについて理解する（1）	
11	指導計画の作成における具体的な手順とポイントについて理解する（2）	
12	幼児理解に基づく評価の実施方法や意義について考える。	
13	カリキュラム・マネジメントの実際について、全体像と評価の意義を理解する。	
14	幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続方法について考える。	
15	授業内試験：授業内容の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	10	授業への積極的な参加態度や学習に対する意欲を基に評価する。	課題（小テスト）	25	授業内容に関する理解度や課題への取り組み姿勢に基づいて評価する。
ワーク	25	積極的かつ協力的にグループ協議を進める姿勢、取り組み内容に基づき評価する。	授業内試験	40	授業内容全体の理解度を総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前に教科書の範囲を予習する［60分］ 前回までの授業内容の復習［30分］	授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応し、授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

受講生に望むこと	教育課程は最初は難しく感じるかもしれませんが、理解が進むにつれて、教育課程なしでの指導はあり得ないと感じられるようになるでしょう。分からない点があれば、質問するなど積極的に取り組んでください。	教科書・テキスト	『「育みたい資質・能力」につながるカリキュラムに焦点を当てて』神長美津子、津金美智子、河合優子、塩谷香＝編著　中央法規出版　2025年3月発行予定　ISBN:978-4-8243-0195-6（授業内で案内） 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年　ISBN:9784805402993
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499	その他・特記事項	受講者の理解度や興味・関心に応じて、授業形式や内容を変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を通じて、様々な視点から蓄積した保育実践の事例や写真、映像記録を活用し、解説を行っている。

授業科目名	保育内容総論			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼児教育とは、子どもの主体的な活動としての遊びを通して、人格形成の基礎を培う総合的な指導であり、それらが小学校以降の学校教育の学びの土台となる。本授業では、様々な事例を通じて、「環境を通して行う教育」としての幼児教育の基本についての理解を深めるとともに、遊びがなぜ学びになるのか、学びに向かう遊びの特徴は何か、良質な実践を生み出すために保育者がどのように援助すべきかについて具体的に検討する。	①「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」「子どもの主体性を尊重する保育」など、保育内容の本質についての理解を深める。 ②子どもの実態を踏まえ、子ども主体の遊びを生み出す重要性について理解する。 ③「遊び」がどのように「学び」につながるのか、また幼児教育がなぜ小学校教育の学びの土台や人格形成の基礎となる理由を説明できるようになる。 ④保育内容を総合的に捉え、よりよい保育実践を探究できるようになる。

教授方法	演習・講義
履修条件	保育内容科目、教育課程論、教育実習Ⅰ（幼）を履修している（履修中を含む、単位修得は問わない）ことを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「環境を通して行う教育」について考える。	
2	保育の基本と保育内容及び幼児教育における見方・考え方や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、具体的事例に基づき考える。	
3	子どもの主体性を尊重する保育とはどのような意味があるのかについて様々な事例から考える。	
4	生活や遊びを通しての総合的な指導について５領域の視点から理解する。	
5	５歳児の保育内容と小学校教育とのよりよい接続について、具体的な事例を通して検討する。	
6	家庭との連携や地域の資源を活用した保育のあり方について考察する。	
7	子どもの姿を見取り、「モノ」「人」「こと」との関わりを生み出すための教材の工夫や援助のあり方について考える。	
8	行事の意味や園行事の望ましい進め方について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢に基づき、積極的な参加態度や学習に対する意欲について評価する。	ワーク	20	積極的かつ協力的にグループ協議を進める姿勢、発表内容などに基づき評価する。
課題	20	授業内容の理解度、提出状況、および取り組み姿勢に基づき評価する。	最終課題	40	授業内容の要点を理解しているかどうかを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に予習・必要な準備を行って授業に臨む。［120分］ 事後に復習する。［60分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問し、実践力の向上を目指して意欲的に受講してほしい。	教科書・テキスト	汐見稔幸（監修）大豆生田啓友（監修・編著）北野幸子・砂上史子（編著）『保育内容総論』（2025年3月刊行予定）
指定図書／参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講者の理解度や質問・疑問・興味・関心に応じて、授業形式や内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

副園長や外部講師としての経験を活かし、幼児教育現場での実践や、園内で子ども、保育者、保護者、地域と共に創出した様々な事例を基に、写真や映像を活用して展開する。

授業科目名	保育内容・環境指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、幼児教育の根幹を成す「環境を通して行う教育」と領域「環境」の概念を適切に理解することを目指す。受講生はまず、幼稚園の園庭の環境を活用し、身近な自然との関わりを通じて遊ぶ体験から学ぶ。その後、その経験を基に、幼児の心情や意欲、発達に適した環境構成とその援助に関する実践的な感覚を養う。これを通じて、最終的には領域「環境」のねらいや内容、さらにその指導に必要な知識・技能の基礎を身に付けることを目的とする。	①「環境を通して行う」とは何か、また、領域「環境」において「身近な環境」がなぜ重視されているのかを理解できるようになる。 ②幼児になって遊ぶ経験を基に、幼児の心情や意欲、発達を考慮した指導方法を構想し、指導案を作成する。 ③領域「環境」のねらいや内容を理解し、それに基づく環境構成や教材研究に取り組む姿勢を身に付ける。

教授方法	講義、演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：幼稚園教育の基本である「環境を通して行う教育」および領域「環境」についての説明	
2	園の環境を活用し、身近な環境との関わりを通して遊ぶ経験を基に、幼児期にふさわしい環境を構想する（1）	
3	園の環境を活用し、身近な環境との関わりを通して遊ぶ経験を基に、幼児期にふさわしい環境を構想する（2）	
4	園の環境を活用し、身近な環境との関わりを通して遊ぶ経験を基に、幼児期にふさわしい環境を構想する（3）	
5	園の環境を活用し、身近な環境との関わりを通して遊ぶ経験を基に、幼児期にふさわしい環境を構想する（4）	
6	身近な環境との関わりを通した遊びの経験に基づき、幼児の発達や心の動きを考慮した指導案を作成する。	
7	作成した指導案を基に、予想される子どもの姿に沿った教材研究および環境構成を行い、実践的な感覚を養う（1）	
8	作成した指導案を基に、予想される子どもの姿に沿った教材研究および環境構成を行い、実践的な感覚を養う（2）	
9	作成した指導案を基に、予想される子どもの姿に沿った教材研究および環境構成を行い、実践的な感覚を養う（3）	
10	指導案を改善を図ることを通じて、幼児にとって望ましい環境について考察を行う。	
11	身近な自然物や素材を活用した保育の展開を構想し、教材研究を行う（1）	
12	身近な自然物や素材を活用した保育の展開を構想し、教材研究を行う（2）	
13	身近な自然物や素材を活用した保育の展開を、幼児の発達に即して整理し、総合的に考察する。	
14	幼児教育の基本および領域「環境」のねらいや内容、さらにそれらの展開に関する事例を考察する。	
15	最終課題：授業の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	20	授業への積極的参加姿勢や学習に対する意欲について評価する。	ワーク	30	フィールドワークやグループ活動において、積極的に他者と協力しているかどうか、また教材準備や発表の内容および取り組み方に基づき評価する。
課題	20	提出状況、授業内容の理解度、および取り組み方に基づいて評価する。	最終課題	30	授業内容の要点を理解しているかどうかを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業の振り返りと予習を行う。［60分］ 次の授業までに各自およびグループで必要な準備（記録、素材収集、発表、計画など）を行う。［120分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問し、実践力の向上を目指して意欲的に受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN:9784577814475
指定図書／参考書等	『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講生の質問や興味・関心、理解度などに応じて、授業形式や内容を変更して行う。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、副園長、園内研修の外部講師としての経験を活かし、幼稚園、保育所、こども園で指導助言者として介入した実践や、幼稚園において幼児、保育者、保護者、地域と共に創出した様々な事例を基に展開する。

授業科目名	保育内容・健康指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	桑田　千代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。具体的には子どもにとっての心身の健康とはどのような状態を指すのか、その特徴と意義を理解する。 また、身体的・精神的・運動的側面の発達過程や基本的な生活習慣の特徴について大人との相違点を踏まえながら、その違いが指導法にも関連していることを理解する。	幼稚園教育要領　領域「健康」のねらいと内容について理解を深めることを到達目標とする。幼児の健康に関する知識を習得し理解を深めるとともに、事例を活用しながら一人ひとりの個別性を考慮した上で、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義、模擬授業、グループディスカッション、グループワーク、個人によるワーク、課題
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。	
2	子どもの身体の特徴と生理的機能の特徴について理解する。	
3	子どもの発達の概要とその援助について理解する。	
4	子どもの運動発達・体力とその援助について理解する。	
5	乳幼児期の病気やけがの特徴とその予防について理解する	
6	乳幼児期に日々の遊びを通して健康習慣を身につける方法について理解する	
7	子どもの運動（身体的特徴）について理解する	
8	基本的生活習慣とその指導について理解する（睡眠）	
9	基本的生活習慣とその指導について理解する（食事）	
10	基本的生活習慣とその指導について理解する（排泄・衣服の着脱）	
11	基本的生活習慣とその指導について理解する（清潔）	
12	実際の子ども達の映像から子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的生活習慣に関する指導案を作成する。	
13	基本的生活習慣に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の基本的生活習慣の指導について考える。	
14	幼児の特性と起こりやすい事故について理解する。	
15	保育現場における安全管理と安全対策の実際について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	20	基本的な内容を理解しているか。	レポート	20	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて考えを述べているか。
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	30	①健康に関する基本的理解がされているか。 ②模擬授業に向けた丁寧な準備がされていたか。 ③正しい知識が子どもたちに伝えられているか。 ④具体的な子どもの姿を想定しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書を読み授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し理解を深める[60分]	課題及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を必要に応じて行う。

受講生に望むこと	子ども達が様々な活動に自ら積極的に取り組み、楽しむためには健康であることが重要です。子ども達の心身の健康に関する基本的な知識を学び理解するとともに、一人ひとりが違う環境で育っていることを念頭に置いた上で、自分が子ども達の前に立った時「自分ならどうするか」を常に考えながら受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814499 演習　保育内容健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点、井狩芳子著、萌文書林、2018年、ISBN：9784893472755
指定図書／参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリントを配布する。	その他・特記事項	健康とは「病気でないこと」ではなく、心も身体も満たされている状態であることを理解してもらう。

実務経験を活かした授業の概要

看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。

授業科目名	保育内容・言葉指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。	1. 子どもの言葉の育ちに関心を持つ。 2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解している。 3. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。 4. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解している。

教授方法	講義と演習（ペアワーク・ディスカッション・絵本の読み合いの実演）
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要等の説明（シラバス） 言語機能と領域「言葉」のねらいについて理解する。	
2	幼児期（乳児期を含む）における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。	
3	領域「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。	
4	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉　0歳児の事例から0歳児の言葉の発達と保育者の関わりを理解する。	
5	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が出始めたら　1歳児の事例から 1 歳児の言葉の発達と関わりを理解する。	
6	言葉の獲得と保育者の関わり：2歳児の事例から2歳児の言葉の発達と保育者の関わりを理解する。	
7	言葉の獲得と保育者の関わり：3歳児の事例から3歳児の言葉の発達と関わりを理解する。	
8	言葉の獲得と保育者の関わり：4.5歳児の事例から4.5歳児の言葉の発達と保育者の関わりを理解する。	
9	児童文化財の実践的理解（種類とはたらきなど）	
10	絵本の読み聞かせ（読み合い）の指導案を立案する①：指導計画の立て方について学ぶ。	
11	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉の内にある子どもの思いを考える。現代的課題から小学校への接続について理解する。	
12	絵本の読み聞かせ（読み合い）の指導案を立案する②：子どもの姿を予想し、言葉の表現を育む援助や配慮を理解する。指導計画立案に関する疑問点を出し合い、共に考える。	
13	視聴覚教材（絵本の読み聞かせ・読み合い）を使用しての模擬保育を行う。（事後レポートの作成）	
14	模擬保育の反省・評価等を踏まえて学び合う： 事後レポートをもとに、幼児への絵本の読み聞かせにおける保育者の援助や関わりに関して深く理解する。	
15	試験 「言葉」の総合的理解（今までの振り返り）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	30	授業への取り組み態度（ペアワーク・ディスカッション等に積極的に参加している）	指導案の立案と実演・事後レポート	40	指導案の内容と提出状況、実演の様子、事後レポートの内容
試験（第15回）	15	授業内容を理解できている。	課題レポート（第1.2.3回分）	15	複数の文献を読んだ上で、自分なりに考察されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①　毎回、授業後に復習を行う［30分］ ②　子どもの言葉に関する複数の文献を読む［60分×３］ ③「絵本の読み合い」の実践から振り返りを行い、レポートにまとめる［30分］	提出されたレポートや課題を授業内で反映する。 必要に応じて他の学生と課題を見せ合い、他者から学ぶ。

受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講すること。また、本授業は演習科目であるため、積極的な態度を望む。	教科書・テキスト	『保育内容「言葉」と指導法』中央法規出版株式会社2023年　ISBN：978-4-8058-8813-1 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814482
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育内容・人間関係指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「領域　人間関係」は非認知能力として注目される内容が多く含まれ、幼稚園教育要領の「幼児期に育ってほしい姿」にも具体的な姿が多く示される領域である。本科目では、模擬保育でのロールプレイを通じて「領域・人間関係」に関わる子どもの心の動き、保育者の心の動きを疑似体験し、「領域　人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、保育者の協働を体験する。振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気付き、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚を掴む。更に振り返りで深めた体験から子ども一人一人の姿を予想する力、指導を構想する力を養う。	①幼児の興味、考え方、行動、言葉を丁寧に見て、その意味を考え、指導計画につなげようとする。 ②模擬保育とその振り返りを通して「領域　人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。 ③模擬保育とその振り返りを通して「領域　人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。 ④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。 ⑤乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達のポイントを理解している。 ⑥乳幼児をめぐる今日的環境が潜む危険性について理解している。

教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「領域　人間関係」の概説。教材準備と指導計画作成を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。[模擬保育担当グループの決定]	
2	子どもになって遊ぶ①：自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」	
3	子どもになって遊ぶ②：2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶ等、状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える　キーワード：「友達」「自己発揮」	
4	模擬保育①：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。	
5	模擬保育②：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。	
6	模擬保育③：「伝える・気づく」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。	
7	模擬保育④：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。	
8	模擬保育⑤：「よいことや悪いことがあることに気づく」遊び。異なる視点について考える。	
9	模擬保育⑥：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。	
10	模擬保育⑦：「ルールをつくる」遊び。道徳性・規範意識について考える。	
11	模擬保育⑧：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。	
12	社会生活における人々との多彩な出会いが地域の幅広い人々に対する「親しみ」をもつようになる活動を指導計画として立案する。乳幼児と地域とのつながりについて考える。	
13	異年齢との関わりが深まる活動を指導計画として立案する。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。	
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。	
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。 まとめ　[授業内　小テスト]	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	40	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開	小テスト	30	「領域　人間関係」キーワードと関連する基礎的概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成
課題	30	エピソードの内容・エピソードの記述記載方法・収集した資料の整理の仕方（丁寧にまとめられている）・適切な資料を基に調べたり、自身の考えをまとめられている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること[40分程度] ・模擬保育の実践に向けて計画、教材作り等グループでの事前準備［時間をかけて取り組む］ ・模擬保育の実践後の記録・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[60分程度] ・エピソードの収集[適宜]	提出されたレポート内容や模擬保育の指導案について、次回（以降）の授業においてに反映させる。

受講生に望むこと	・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。
教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482
指定図書／参考書等	なし／　『遊びづくりの達人になろう！子どもが夢中になってグーンと成長できる　※歳児の遊び55』（5歳児・4歳児・3歳児の全巻） 竹井　史　編著　明治図書出版　2011年
その他・特記事項	・授業内容及び課題等をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、保育教諭の経験をもとに、学生たちが模擬保育（保育者・子ども）を通して体験していることを、実際の保育場面における子どもの姿と照らし合わせながら、実践後の講義の中で紹介している。

授業科目名	保育内容・表現指導法			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	武田　恵美・鷲山　靖　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。身体表現、音楽表現、造形表現に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法を学び、具体的な指導場面を想定して、保育を構想する力を身につける。また、情報機器及び教材の活用方法を理解し、それらを保育の実践に生かすことについても学ぶ。	幼稚園教育要領の領域「表現」のねらいと内容について理解する。 幼児の表現に関する知識を習得し、理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

教授方法	対面授業による講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イメージと動き、音との関係を理解し、それらの関連について考える。身体表現と音楽表現について、領域「表現」との関連を踏まえて理解する。	武田
2	身体表現における動きとリズムの関係を理解し、ピアノの演奏リズムを生かした表現活動の実践方法を考える。	武田
3	身体表現の創作活動を通して、身体の動きと表現の関係を理解し、保育現場での表現活動に生かす方法を考える。	武田
4	身体表現活動における音や音楽の効果と可能性について考察し、実践を通して理解を深める。	武田
5	身体表現と音楽表現の相乗効果や融合について、作品発表を通して検討する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	武田
6	身の回りの音の面白さに気づき、音に対するイメージを膨らませ、協働して造形表現を通して音を表現する。	武田
7	音楽表現活動における指導案の構造と作成方法について理解を深める。	武田
8	音楽表現に関する模擬保育を実践し、その振り返りを通して改善について考える。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	武田
9	改善した指導案を作成し、模擬保育を実践する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）これまでの音楽表現の実践を振り返り、保育現場における表現活動の指導法について考える。	武田
10	音楽表現活動の指導におけるピアノの役割について理解を深め、音を通じた多様な表現の可能性を考察する。多様な音の表現を生かして、子どものうたを発表する。	武田
11	造形活動の指導について、開発主義と注入主義の比較，演習（造形活動）により理解する。	鷲山
12	造形活動の指導について、領域「表現」と学習モデル，演習（造形活動）により理解する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	鷲山
13	造形活動の指導について、フレーベル・モンテッソーリ・シュタイナーの思想比較、演習（造形活動）により理解する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	鷲山
14	造形活動の指導について、レッジョ・エミリア教育と演習（造形活動）により理解する。（タブレット等の情報機器の活用を含む）	鷲山
15	造形活動の指導について、授業の振り返りと小課題により、その理念・歴史・方法の理解を深める。	鷲山

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢	授業で出される課題や発表	50	取り組む姿勢と内容
レポート	20	・毎授業におけるコミュニケーションシートへの取り組み（武田） ・造形活動の指導について、その理念・理論・歴史に関するレポート（鷲山）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる[60分] ②次回授業のための課題について準備する[60分]	・コメント又は個別指導をする。

受講生に望むこと	この授業は2名の教員が担当するオムニバス科目である。また、演習科目で系統的に授業が展開する。積極的な授業参加を望む。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499 『うたうソルフェージュ』木許隆監修、主文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1. 『コードネームとリズムによるＢａｓｉｃ　ａｎｄ　Ｖａｒｉａｔｉｏｎｓ』、木許隆，武田恵美，長井典子編著、主文社、2022年、ISBN9784874460917
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	環境			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
砂場遊びは領域「環境」にとどまらず、他の領域にも広がる資質・能力の育成に寄与する重要な遊びの１つである。しかし、前年度「保育内容総論」の授業では、受講生の砂場遊びの実体験が少ない現状が共有された。そこで、本授業ではまず実際に園の砂場で体験を行い、その経験を基に他の遊び環境へと発展させ、「環境を通して行う教育」や領域「環境」のねらいおよび内容が示す意義を深く考察する。これにより、幼児が身近な環境に対して心を動かし、主体的に関わることを促進させるための知識・技能を習得し、実践力の向上を目指す。	①砂場遊びの体験を通じて、幼児の発達に沿った望ましい環境構成や援助について実践的に考察する。 ②砂場遊びやその他の遊びの環境構成において、幼児の発達の視点を考慮した適切な教材の研究を行う。 ③幼児の心の動きから主体的な活動へと発展させる環境構成や援助の方法および工夫点についての理解を深める。 ④①②③を通じて、「環境を通して行う教育」および領域「環境」を考察し、実践力を身に付ける。

教授方法	講義、演習
履修条件	「保育内容・環境指導法」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：幼児を取り巻く環境の変化の変化と幼児教育における「環境」に関する課題についての説明	
2	砂場遊びを通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（1）	
3	砂場遊びを通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（2）	
4	砂場遊びを通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（3）	
5	砂場遊びを通して、幼児の学びを促すための環境づくりについて実践的に考える（4）	
6	砂場遊びを通して学んだことを「幼稚園教育における育みたい資質・能力」および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と関連づけて理解する。	
7	３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（1）	
8	３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（2）	
9	３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（3）	
10	３・４・５歳児の発達の違いを考慮し、ねらいを達成させるための遊びの環境構成について考察する（4）	
11	3・４・５歳児の発達の違いを踏まえ、ねらいを達成するための遊びの環境について、領域「環境」に示される内容と関連づけて理解する。	
12	「環境を通して行う教育」を実現するための遊び環境モデル（３・４・５歳児）を開発し、教材研究を踏まえて実践的に考察する（1）	
13	「環境を通して行う教育」を実現するための遊び環境モデル（３・４・５歳児）を開発し、教材研究を踏まえて実践的に考察する（2）	
14	幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」と「身近な環境との関わりに関する領域「環境」」の意義と課題について考察する。	
15	最終課題：授業の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への積極的参加姿勢や学習に対する意欲について評価する。	ワーク	30	フィールドワークやグループ活動において、積極的に他者と協力しているかどうか、また教材準備や発表の内容および取り組み方に基づき評価する。
課題	20	提出状況、授業内容の理解度、および取り組み方に基づいて評価する。	最終課題	30	授業内容の要点を理解しているかどうかを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業の振り返りと予習を行う。［60分］ 次の授業までに各自およびグループで必要な準備（記録、教材、発表、計画など）を行う。［120分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	分からないことや疑問があればすぐに質問し、実践力の向上を目指して意欲的に受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475
指定図書／参考書等	『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	受講生の質問や興味・関心、理解度などに応じて、授業形式や内容を変更して行う。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、副園長、園内研修の外部講師としての経験を活かし、幼稚園、保育所、こども園で指導助言者として介入した実践や、幼稚園において幼児、保育者、保護者、地域と共に創出した様々な事例を基に展開する。

授業科目名	健康活動			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	桑田　千代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康指導法」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。	①乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。 ②保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。

教授方法	対面授業による講義、プレゼンテーション、模擬授業、グループディスカッション、個人によるワーク
履修条件	「保育内容・健康指導法」の単位を修得済みであることが望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食事と睡眠に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
2	排泄に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
3	清潔に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
4	衣服の着脱に関する基本的生活習慣とその指導について理解する。	
5	子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的生活習慣に関する指導案を作成する。	
6	基本的生活習慣に関する模擬保育を行う。	
7	模擬保育における気づきとディスカッションを通して基本的生活習慣に関する保育者の支援、家庭との連携について考える。	
8	子どもの様々な遊びと健康について理解する。	
9	子どもの運動遊びと健康・安全・応急処置について理解する。	
10	実際の子ども達の映像から、子どもの運動遊びの実際と指導について理解するとともに、具体的に想定した運動遊びに関する指導案を作成する。	
11	子どもの運動遊びに関する模擬保育（模擬保育にはデジタルビデオ等を使用する）。振り返りと評価を踏まえた学びあいから、子どもの運動遊びについて考える。また、保育者の役割や家庭との連携についても考える。	
12	保育における安全教育について理解する。	
13	具体的な子どもの姿を想定し、教材やデジタル教材を用いた安全教育に関する指導案を作成する。	
14	安全教育に関する模擬保育、振り返りと評価を踏まえた学びから、幼児の安全教育について考える。	
15	子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに、現代社会における今日の課題を理解し、保育者の役割と家庭との連携や支援、幼小連携について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	20	①内容を理解しているか ②子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか ③子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか	レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
課題	20	基本的な内容を理解しているか	授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書を読み、授業に備える[20分] ②授業で配布した資料を読む[20分] ③子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]	課題及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を行う。

受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことである。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたい。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただき授業内容の理解を深めてほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499 『演習保育内容　健康―大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子　著、萌文書林、2018年、ISBN978-4-89347-275-5
指定図書／参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。	その他・特記事項	子どもにとっての心身の健康とはどのような状態を指すのか理解できるような講義を展開する。

実務経験を活かした授業の概要

看護師として、養護教諭として、保育士として、幼稚園教諭として、また教育者としての経験を活かし、福祉事業の現場で起こっている現状を事例も交えながら実践的な授業を行う。

授業科目名	言葉			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
保育内容・言葉指導法の内容を土台としながら、言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考慮し、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊びの実際を通して言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。また、子どもの言葉の発達について保育者の援助・保育教材の実演や環境構成等の視点から学んでいく。	1.言葉の現代的課題を理解し、今日必要とされる保育者の役割と援助を知る。 2.子どもの言葉を育む保育教材について理解し、保育への活用方法を考えることができる。 3.教材実演を通して子どもの言葉を引き出す表現・技術を身につける。

教授方法	講義と演習（グループワーク・視聴覚教材の実演・ディスカッション）
履修条件	「保育内容・言葉指導法」を履修済みであることが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明　子どもの言葉に関する現代的課題について理解する。（保育内容・言葉指導法の復習）	
2	児童文化財が子どもに与える効果について理解する。（絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート・エプロンシアター）	
3	幼児の思考能力の拡大と物語の成立過程について理解する。 発達段階に応じた児童文化財（教材）選びのポイントを理解する（0歳児～5歳児までの年齢ごとの教材選択）	
4	発達段階に応じた児童文化財とは、どのような題材・素材・色合い等であるかを理解し、作成する。①　※ここから視聴覚教材の作成になっているが、第１回以降から教材の選択や題材の選択について検討しておくこと。	
5	児童文化財の指導案作成の際のポイントについて理解する。 自身が作成している視聴覚教材の指導案を立案する①　言葉を育む環境構成や援助・配慮等を多角的に捉える。	
6	遊びや生活を通して育つ子どもの言葉と保育者の関わり：子どもの言葉を豊かにする保育者の言葉について理解する。	
7	発達段階に応じた教材を作成する。（視聴覚教材の作成②と指導案立案②） 子どもの言葉を引き出す保育者の表現技術について理解する。	
8	身近な人（他者）との語り合いを通して：自身の言葉に関するエピソード（実体験）を挙げ、自身の経験を語る。 ・会話、対話とはどういった行為であるかを理解する。 ・他者の語り（言語・非言語）から言葉の力を理解する。	
9	感じたことを文字や記号や絵で表す：文字を使うことの喜びと保育者の関わりについて理解する。	
10	子どもが感情を表現するための保育者の役割：各実習での自身の経験をもとに、言葉の今日的課題（言葉の育ちに関わる諸問題を）を考える。①	
11	子どもが感情を表現するための保育者の役割：各実習での自身の経験をもとに、言葉の今日的課題（言葉の育ちに関わる諸問題を）を考える。②（発表）	
12	発達段階に応じた児童文化財（教材）を作成する。（視聴覚教材の作成③と指導案立案③） ※9～12月までに行った教材作成時間としてカウントする。	
13	児童文化財を用いた模擬授業を行う。	
14	児童文化財を用いた模擬保育（実演）を終えて：児童文化財の実演からの反省・評価について理解する。	
15	振り返りとまとめ：領域「言葉」の現代的課題と動向について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業に積極的に参加している。 自分なりの考えを持ち発言する。	指導案立案と実演	30	立案した指導案を基に児童文化財の模擬保育（実演）を行う中で子どもの姿を理解しようとし、子どもの目線に合わせた保育活動の工夫が見られる。
課題レポート	25	課題の内容、提出状況から評価する。	教材作成	15	作成した教材の出来具合を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①子どもの言葉に関する文献を読む［60分］ ②「言葉」が育つことに関する遊びの場面の指導案を立案する［60分］ ③視聴覚教材の作成［180分］	・提出されたレポート課題や応答シートを授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。

受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での一人一人の言葉という表現を大切に受け止める姿勢を持って受講してほしい。また、積極的な態度で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN：9784577814482 『保育内容「言葉」と指導法』中央法規出版株式会社2023年　ISBN：978-4-8058-8813-1
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	人間関係			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域　人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。 ①保育実践例（エピソード・クラス便り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。②遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気付き、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。③遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学ぶ。④『森の幼稚園・こども園』や地域の子育て支援の場に参加し子どもの姿からを子どもの思いを捉える。また、保護者の思いに触れ、子育て支援の在り方を考える。 ※SDGs目標番号11関連科目	①保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。 ②遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。 ③「領域　人間関係」に関わるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。 ④子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、他機関との連携の持ち方を知る。

教授方法	講義・保育資料を用いた事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験活動
履修条件	「保育内容・人間関係指導法」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代の人間関係に関わる諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係に関わるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。	
2	乳児期の人との関わりの発達について（1）：「愛着形成」を中心に考える。	
3	乳児期の人との関わりの発達について（2）：「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。	
4	幼児期前期の人との関わりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める	
5	乳幼児のモノ・ヒト・環境との出会い、関わり方を捉える。	
6	コミュニケーションについて考える。	
7	ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。［体験］	
8	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。	
9	幼児期後期の人との関わりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。	
10	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子ども同士の「関係性」を読み取る。	
11	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える（1）：自然体験活動等、参加体験（可能であれば）	
12	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える（2）：保育室、戸外遊びにおける環境の違いから	
13	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（1）：生活・自由遊びを中心に考え	
14	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」（2）：設定による活動を中心に考える。	
15	領域「人間関係」：地域社会・小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。 ［授業内　小テスト］	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	①授業内で行われる遊びやゲーム、その他体験活動に対して真剣に準備し取り組んでいる。 ②毎回、討議時間を設けるので、積極的に参加している。	課題	30	①提出状況　②与えられたテーマに沿って学習が進められ、適切にまとめられている。
小テスト	30	様々な人間関係に関わる出来事の対応を基本事項、発達に基づいて考えることができる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習を含む資料や自身の体験から、人間関係に関わるエピソードを収集しておくこと。［30～60分程度］ ②「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「人間関係」項目について読み、用語の確認をしておくこと。［30～60分程度］ 期間中出題される2つの課題について資料等を参考にしながらレポートを作成する。（調べる、まとめる、長時間かけて取り組む）［60～120分程度］	・授業内の討議の中でコメントする。

受講生に望むこと	・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。	教科書・テキスト	・『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2008年 ＩＳＢＮ978―4―577―81245―7 ・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館 2008年ＩＳＢＮ978－4－577－81242－6 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2015年ＩＳＢＮ978－4－577－81373－7
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて資料等配布する	その他・特記事項	・個人情報を含む資料を用いるため、充分取り扱い、行動に注意すること。（学外での参加体験等含む） ・一部学外体験の可能性があり、日程調整のため学習内容の順序変動があることを理解いただきたい。 ・課題をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録、保育場面のビデオ分析等を中心に捉えて話し合う。また、個・集団・仲間などの捉え方を実際の遊びや体験を通して感じる機会となるよう提供している。

授業科目名	表現			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	上田　ますみ						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
『保育内容・表現指導法』の学びを踏まえ、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における領域「表現」のねらい及び内容についての理解を深め、子どもの感性や表現する姿、教師の役割等について学ぶ。事例や実際の保育を観察参観、グループワーク等を通して、子どもの表現する姿を見とり、その姿を支え育む保育について考え、実践につなげる基礎を築く。	①領域「表現」のねらい及び内容を理解し、子どもの表現を育む環境や教師の援助について具体的に考えることができる。 ②子どもの具体的な姿を領域「表現」の視点から捉え、子どもの表現を受容したり、共感したりすることができる。 ③表現することの楽しさを実感すると共に、他者の表現を受け入れ、より豊かな表現につなげていくことができる。

教授方法	講義・グループワーク・保育観察参観
履修条件	『保育内容・表現指導法』の履修済が望ましい（単位未習得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：今後の授業の流れ、受講方法等を知る。 領域「表現」について、これまでの学びを振り返る。	
2	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における、領域「表現」のねらい及び内容の全体構造を理解する。	
3	事例（5歳児）から、領域「表現」を視点に子どもの姿・学び、教師の役割を考える。	
4	事例（3歳児）から、領域「表現」を視点に子どもの姿・学び、教師の役割を考える。	
5	領域「表現」の視点から、実際の保育（したい遊びの場面）を観察参観する。	
6	領域「表現」の視点から、実際の保育（クラス活動の場面）を観察参観する。	
7	グループワーク（劇づくり）の計画を立てる。	
8	グループワーク（ストーリーづくり、劇の練習）を行う。	
9	グループワーク（小物づくり、劇の練習）を行う。	
10	グループワークの成果を発表し、学びを共有する。	
11	領域「表現」と行事について考える。	
12	行事「表現会」に取り組む子どもの姿（4歳児、5歳児）、教師の役割を観察参観する。	
13	行事「表現会」に取り組む子どもの姿（満3歳児、3歳児）、教師の役割を観察参観する。	
14	観察参観した場面を元に、行事「表現会」について考える。	
15	前回参観時との変容に注目しながら、行事「表現会」に取り組む子どもの姿、教師の役割を観察参観する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢、態度、課題への取り組み方や積極性を重視する。	振返りシート	40	授業内容を理解し、自分なりの考えを記しているか。
グループワーク	40	グループワークに積極的に取り組んでいるか。 協同的にグループワークに参加しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業後に自分で振返り、課題を見つける。【30分】 ②次時の授業の課題について、自分なりに考えて準備をする。【30分】	毎回の授業における振返りシートにコメントをつけ、次回の授業に返却する予定である。

受講生に望むこと	ディスカッションやグループワーク等に積極的に参加したり、自分の課題を見つけたり等、主体的に取り組んで欲しい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』　厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	使用施設の関係により、人数制限を設ける場合がある。 授業内容及び日程については変更の場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園及び小学校での実践経験を活かし、具体的な実践事例や保育観察参観等を通して、表現の視点から子どもの姿や学び、教師の役割を考える授業を行う。

授業科目名	図画工作			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	鷲山　靖						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
1．カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作科教育法」に連接する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2．授業のねらい ①造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 ②造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。 3．授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。	①基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 ②基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 ③自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 ④造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 ⑤図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。

教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動__えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。	
2	つくって遊ぶ活動__つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。	
3	絵に表す活動A__オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。	
4	絵に表す活動B__絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。	
5	絵に表す活動C__版画の基礎知識・技能を学ぶ。	
6	絵に表す活動D__発想の能力を育成するイラスト作品制作とその作品の相互評価を楽しむ。	
7	絵・工作に表す活動A-1__発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
8	絵・工作に表す活動A-2__発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
9	立体・工作に表す活動A-1__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
10	立体・工作に表す活動A-2__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
11	立体・工作に表す活動A-3__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
12	立体・工作に表す活動B-1__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
13	立体・工作に表す活動B-2__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
14	立体・工作に表す活動B-3__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
15	立体・工作に表す活動B-4__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	30	①指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。 ②美術室の清掃・整備に取り組んでいる。 ③授業に集中している。	作品の制作状況	30	①課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 ②課題作品は作品条件を満たしている。
作品の機能	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験を行い評価する。レベル１（9%），レベル２（20%），レベル３（11%）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。［10分］ ②指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。［30分］	①作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 ②期末試験時間の前半に作品の合否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。

受講生に望むこと	①身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみる。 ②身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しむ。	教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罫」ミドリ
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する	その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	異文化間コミュニケーション論			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「異文化」という言葉からは日本と海外の国々との間の「あたりまえ」の差異、異なった文化や価値観を想像するかもしれない。しかし現代はそれだけでなく貧富やジェンダー、移民など様々な要素も加味して問題を捉える必要がある。この授業では異文化を理解し、コミュニケーションを取るための基礎力、現場での応用力を身に付け、アンコンシャス・バイアスを客観的に捉えられることを目的とする。	・異文化理解の意義と重要性を理解する ・言語・非言語によるコミュニケーションのあり方を理解し、実践できる ・マイクロアグレッション、アンコンシャス・バイアスについて理解する

教授方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・第1章：他者との出あい～異文化コミュニケーションを学ぶ意義を理解する	
2	第2章：「ふさわしさ」をめぐるコミュニケーション～コミュニケーションの意味を理解する	
3	第3章：ことばというシンボル～ことばの道具性を理解する	
4	第4章：ことばにできないメッセージ～言語・非言語のメッセージについて理解する	
5	第5章：グローバル化とメディア～スマホがつなぐ社会を考える	
6	「第1部」振り返り	
7	第6章：コミュニケーションの〈想像/創造する力〉～他者からの記憶の継承について理解する	
8	第7章：英語という言語選択～外国語を学ぶ意味を考える	
9	第8章：異文化交流の意味～海外からみた日本文化のイメージを知る	
10	第9章：多国籍チームにみる組織内コミュニケーション～差異とアイデンティティを認知する	
11	第10章：スペクテーター・スポーツの異文化論～分かりやすい「日本人」の姿を理解する	
12	第11章：移民・難民問題から考える多文化社会～ドイツの事例から日本における多文化社会を考える	
13	第12章：異文化としての「スピーチ」～公の場で語ることの意味を考える	
14	第13章：越境・架橋するプロセス～みえない境界線を認識する	
15	最終課題プレゼンテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシート	30	授業のディスカッション内容と自身の意見をまとめて毎授業ごとに提出する。期限の厳守と内容を評価する。	授業参加態度	30	学習態度、グループワークへの積極性や貢献度を評価する。
最終課題	40	課題の提出期限厳守と内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に指定されたテキストを読み、（担当回はレジュメ等、プレゼン資料を作成する）予習が必須である。	提出されたワークシートは次回以降の授業内に返却する。

受講生に望むこと	本授業は毎回、担当を決めてテキストを要約・プレゼンを順に行い、その内容についてディスカッションを行う。そのため、毎週の予習が必須であることを念頭に置き、受講すること。 毎回、自身が発表担当などの役割、グループワークがあるので、安易に欠席しないこと。	教科書・テキスト	「グローバル社会における異文化コミュニケーション論」ー身近な「異」から考える 編著者：池田理知子/塙幸枝 株式会社三修社　2023年4月 ISBN978-4-384-05937-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

観光業経験から得た世界各地の価値観や慣習の違いを俯瞰的に見る視点を取り入れて講義を行う。

授業科目名	児童文学			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。	①明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。 ②児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。 ③児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる、を掲げる。

教授方法	講義、ディスカッション、研究発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、序章　児童文学の定義について理解する。	
2	子どもの本の分類について、形式別、対象年齢別、ジャンル別に理解する。	
3	英米の子どもの本の歴史について、当時の時代背景や「子ども観」を中心に理解する。	
4	日本の子どもの本の歴史について、特に明治以降の子どもの本の歴史を概観する。	
5	伝承から子どものための物語への変遷について理解する。神話・伝説・昔話それぞれの特徴を把握する。	
6	ファンタジー（空想と魔法、架空の世界）について、ファンタジーの描かれ方の違いについて理解する。	
7	児童文学のリアリズム（日常、家族、学校、友情、人生）について理解する。	
8	冒険物語（探索、試練、挑戦、救出、サバイバル）について理解する。	
9	歴史物語（歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とした作品）について理解する。	
10	ノンフィクション（事実に基づいた作品）を概観し、分野別に理解する。	
11	子どものための詩（わらべうたから現代詩）について理解する。	
12	読んでおきたい古典を読み、保育者・教育者が読むことの意義を理解する。 欧米以外の世界の児童文学について理解する。	
13	児童文学が戦争と平和をどのように描いているかを理解する。	
14	幼年文学とYA文学について、作品の特徴と内容について理解する。	
15	まとめ：各自が研究した内容について発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢と態度	レポート	50	毎回の授業に関する考察が文章で表現しているか。
研究発表	30	自分で選んだ作品作家について研究した内容を口頭で表現しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の課題作成【30分】 研究発表の準備と振り返り【120分】	個別の質問やコメントについては個別に回答し、全体で共有すべき内容については授業の中で触れる。

受講生に望むこと	この授業を児童文学作品を読み、子どもと物語世界に親しんでほしい。	教科書・テキスト	「児童文学の教科書　改訂新版」川端有子　玉川大学出版部　2025年　（ISBN：9784472406430）
指定図書／参考書等	なし／「今こそ読みたい児童文学100」赤木かん子　ちくまプリマー新書214　2014年　（ISBN:4480689176）、「アプローチ児童文学」関口安義編　2008年　（ISBN:4877372571）	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	音楽表現Ⅰ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもたちが、発達段階に応じて音や音楽に親しみ、関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活やあそびと密接に関わる歌やリズムあそびを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。様々な楽器に触れて演奏する他に鑑賞を通して豊かな感性を養う。	①楽譜を見て歌うことができるようになる。 ②範唱ができるようになる。 ③「表現する」ということについて理解する。 ④乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 ⑤音楽と身体表現について実践を通して理解する。 ⑥課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。子どものうたⅠ：「季節」に関する子どものうたを知り、習得する。	武田
2	「表現」とは何かについて、意見を共有し合い考える。子どものうたⅡ：「行事」に関する子どものうたを知り、習得する。	武田
3	「音楽表現」とは何かについて、意見を共有し合い考える。子どものうたⅢ：「生活」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニング　Ⅰ：子どものうたを用いて、楽譜の読み方についての基礎的な知識を習得する①。	武田
4	「音」について、音探しの実践を通して考える。子どものうたⅣ：「動物・植物」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニング　Ⅱ：子どものうたを用いて、楽譜の読み方についての基礎的な知識を習得する②。	武田
5	「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷から、領域（表現）について考える。子どものうたⅤ：「あそび」に関する子どものうたを知り、習得する。読譜トレーニング　Ⅲ：音符と休符について理解する。	武田
6	「幼児教育において育みたい資質・能力」について理解する。子どものうたⅥ：「子どものうた」を発表する。読譜トレーニングⅣ：ト音譜表とヘ音譜表の読み方について学ぶ。	武田
7	領域「表現」の「ねらい」、「内容」、「内容の取扱い」（音楽に関する項目）について理解する。子どものうたⅦ：弾き歌いの方法及び範唱時の留意点について学ぶ。読譜トレーニングⅤ：「ロンドン橋」を読譜し、うたとピアノ伴奏を練習する。	武田
8	子どもの５つの音楽的表現活動から「うたう活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅧ：「ロンドン橋」の弾き歌いを練習する。 読譜トレーニングⅥ：器楽合奏の楽譜を読譜し、リズムアンサンブルを実践する。	武田
9	歌うことを中心とした音楽活動Ⅰ：歌うための準備体操、正しい姿勢、呼吸法について実践を通して学ぶ。	福田
10	歌うことを中心とした音楽活動Ⅱ：語感を生かす発音と発声について実践を通して学ぶ。喉声の矯正方法について学ぶ。	福田
11	歌うことを中心とした音楽活動Ⅲ：正しい音程で歌うための練習方法を学ぶ。四部合唱の実践を通して、声によるハーモニーを感じ取る。子どものうたの発表。	福田
12	子どもの５つの音楽的表現活動から「きく活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅨ：「ロンドン橋」の弾き歌いを発表する。楽器を用いた表現活動Ⅰ：リズム楽器の取り扱いと奏法について知り、実践を通して習得する。	武田
13	子どもの５つの音楽的表現活動から「ひく活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅩ：「グーチョキパーでなにつくろう」のうたとピアノ伴奏を練習する。楽器を用いた表現活動Ⅱ：リズム楽器を用いた合奏のパート練習の方法について、実践を通して学ぶ。	武田
14	子どもの５つの音楽的表現活動から「うごく活動」、「つくる活動」について、子どもの発達段階と共に理解する。子どものうたⅪ：「グーチョキパーでなにつくろう 」の弾き歌いを練習する。楽器を用いた表現活動Ⅲ：リズム楽器を用いた合奏の全体練習の方法について、実践を通して学ぶ。	武田
15	子どものうたⅫ：「グーチョキパーでなにつくろう 」の弾き歌いを発表する。楽器を用いた表現活動Ⅳ：リズム楽器を用いた合奏を発表し、振り返りを行う。	武田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	課題	40	各回の講義・演習内容について理解し、必要な技術を習得しているか。課題の内容、形態等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①授業内容について振り返りができているか。②授業のポイントを理解してまとめられているか。　感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点について調べること。[30分] ②次回授業のための課題を準備すること。[30分] ③ピアノの基礎的な演奏技術および弾き歌い習得のために練習すること。[30分]	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②グループワークは協力して課題に取り組むこと。 ③僅かな空き時間を有効活用するなどの工夫をして、ピアノと歌唱の練習を継続して行うこと。	教科書・テキスト	『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017、ISBN978-4-87446-067-2.『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017、ISBN978-4-87446-064-1.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	音楽表現Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「音楽表現Ⅰ」での学びをさらに深め、日本の幼児音楽教育の歴史と変遷を理解するとともに、歌唱や楽器を用いた多様な表現技能を身につける。特に、子どもたちが体験したことを音楽で表現したいという思いに寄り添い、保育活動において音楽表現をあそびや発表に効果的に生かす力を養う。また、音を通じた多様な表現方法を学び、子どもたちの表現をより引き出すための実践的な工夫を探る。	①読譜力を習得し、楽譜を正しく読み取って歌うことができるようになる。 ②子どもの発達段階に応じた範唱ができるようになる。 ③歌唱表現活動や楽器を用いた表現活動の方法を理解する。 ④歌唱表現活動や楽器表現演奏のための、様々な表現技術を習得する。 ⑤課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備を計画的に行うことができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽表現Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。「音楽表現Ⅰ」の学びを振り返る。あそびうたⅠ：手あそび・指あそびの実践①。	武田
2	子どもにとっての「あそび」について考える。様々なあそびと子どもの育ちについて理解する。あそびうたⅡ：手あそび・指あそびの実践②。	武田
3	日本の幼児音楽教育の歴史と変遷について理解する。あそびうたⅢ：手あそび・指あそびを発表する。楽器を用いた表現活動Ⅰ：無音程打楽器の奏法について学ぶ。	武田
4	子どもの歌唱表現について理解する。わらべうたあそびについて考える。あそびうたⅣ：わらべうたの実践①。	武田
5	手あそび・指あそびの必要性について考える。あそびうたⅤ：わらべうたの実践②。楽器を用いた表現活動Ⅱ：無音程打楽器の奏法を確認し、実践する。	武田
6	保育者に必要とされる歌唱表現力について考える。あそびうたⅥ：身体を使ったあそびうたの実践。楽器を用いた表現活動Ⅲ：有音程打楽器の奏法について学び、実践する。	武田
7	音楽表現活動Ⅰ：歌唱表現活動の「ねらい」、「活動の内容」、「環境設定」等について理解する。あそびうたⅦ：「あそびうた」を発表する。	武田
8	音楽表現活動Ⅱ：保育の場におけるピアノの役割について考える。表現活動の指導案について学ぶ。楽器を用いた表現活動Ⅳ：ハンドベルの奏法について学び、実践する。	武田
9	歌うことを中心とした表現活動Ⅰ：鼻腔共鳴について実践を通して理解する。高音のスムーズな出し方について実践を通して学ぶ。	福田
10	歌うことを中心とした表現活動Ⅱ：歌声と話し声の違いについて理解し、声の響きの作り方や声を前へ飛ばす方法について実践を通して学ぶ。	福田
11	歌うことを中心とした表現活動Ⅲ：子どものうたの発表と指導。様々な子どものうたを習得する。	福田
12	音楽表現活動Ⅲ：歌唱表現活動のモデル指導案を基に実践をイメージし、保育者の援助について考える。楽器を用いた表現活動Ⅴ：指揮法を学び実践する。ハンドベル演奏を発表する。	武田
13	音楽表現活動Ⅳ：歌唱表現活動を実践するために、指導案をグループで作成する。	武田
14	音楽表現活動Ⅴ：歌唱表現活動を指導案に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する①。	武田
15	音楽表現活動Ⅵ：歌唱表現活動を指導案に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する②。模擬保育の実践を通して、保育者の援助について考える。	武田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	課題	40	各回の講義・演習内容について理解し、必要な技術を習得しているか。課題の内容、形態等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①授業内容について振り返りができているか。②授業のポイントを理解してまとめられているか。　感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点について調べること。[30分] ②次回授業のための課題を準備すること。[30分] ③ピアノの基礎的な演奏技術および弾き歌い習得のために練習すること。[30分]	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②グループワークは協力して課題に取り組むこと。 ③僅かな空き時間を有効活用するなどの工夫をして、ピアノと歌唱の練習を継続して行うこと。	教科書・テキスト	『楽しい音楽表現』高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著、圭文社、2017、ISBN978-4-87446-067-2.『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017、ISBN978-4-87446-064-1.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆，武田恵美，長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育の方法・技術（幼栄）			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
「子どもは環境で育つ」と言われます。そして、環境はヒト・モノ・コトに大別することができます。これらは子どもの育てるための方法、すなわち、教育の方法にもなります。そこで、幼児や児童に対する教育方法について、物的環境、人的環境、社会的環境、さらにICT環境から学びます。。履修生は幼稚園教諭、栄養教諭の免許状取得を希望する学生なので、幼稚園や小学校の子どもたちの教育の方法や技術について理論だけでなく、実際に教材を作ってみましょう。とりわけ、幼稚園や小学校ではICTを活用した教育の方法も見られるので、履修生自らがICTを使って教材を作ることにもチャレンジしてみましょう。	①子どもの学びの場の始まりとしての幼稚園の教育方法の基礎理論や歴史について理解している。 ②子どもの育ちにはさまざまな環境が影響することを理解している。 ③「生きる力」「主体的・対話的で深い学び」について理解している。 ④アフォーダンスやシグニファイアの理論を用いて手作り教材を考えることができる。 ⑤ICTを活用した幼児教育、食に関する教育の教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	幼稚園教諭一種免許状の取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、到達目標、授業計画、評価計画、使用テキスト）／２つの学科が一緒に学ぶ理由（本科目では、幼児期と児童期の子どもを対象とする。子どもの育ちには「幼児教育」とともに「食に関する教育」も重要である。これらのことを共通理解する。）	
2	幼稚園の目的（現代的な幼児教育を作り出したことで有名なフレーベルの教育思想と教育方法について学び、フレーベルが使った幼稚園の目的について理解する。）	
3	幼稚園教育の方法（日本における幼稚園教育の方法である「環境を通して行う教育」の考え方について理解する。）	
4	子どもとモノとの関係（子どもが周囲のさまざまなモノと適切に関われるよう、子どもとモノlとの関係に焦点化して考える。）	
5	「環境」とは何か（子どもの経験を理解するためのアフォーダンス、環境との関わり方を示すためのシグニファイアについて知り、手作りのアフォーダンス教材、シグニファイア教材を考える。）	
6	手作り教材の作成と紹介（前時で考えたアフォーダンス教材、または、シグニファイア教材を作成し、お互いに見合う。）	
7	子どもの育ちと社会的環境（子どもの周囲にある社会的環境に着目し、地域社会を中心とした子どもの育ちについて考える。）	
8	「生きる力」とカリキュラム・マネジメント（幼稚園教育と「生きる力」、食に関する指導と「生きる力」について考え、そのための方法としてのカリキュラム・マネジメントについて知る。）	
9	「主体的・対話的で深い学び」（幼稚園教育における「主体的・対話的で深い学び」、食に関する指導における「主体的・対話的で深い学び」について考える。）	
10	ICTの活用（幼稚園や小学校におけるICT活用の意義について考える。）	
11	情報活用能力の必要性（情報社会の進展に主体的に対応できる子どもを育むためのあり方について考える。）	
12	教材の計画（ICTを活用した幼児教育、食に関する授業のための教材をフラッシュ型教材の観点から計画する。）	
13	教材の作成（計画に基づきフラッシュ型教材を作成し、完成させる。）	
14	教材発表会（フラッシュ型教材を完成させ、お互いに見合う。）	
15	学習のまとめとレポート（これまで学んだ内容の要点を整理し、レポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	教育の方法や技術について理解している。	教材作成A	20	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。
教材作成B	30	教育の方法や技術についての知識を有し、自分なりの考えを持っている。	授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②幼稚園や小学校の教育方法に関しインターネット等で調べる。［30分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②作成した教材について講評する。

受講生に望むこと	幼稚園、小学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼児教育・保育のための教育方法論』，垂見直樹・池田竜介編著，ミネルヴァ書房，2021年出版，ISBN978-4-623-09091-4
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省2018年，ISBN978-4-577-81447-5、『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

授業科目名	国語			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	石上　佐知子・中島　賢介　（代表教員　石上　佐知子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。 ※SDGs目標番号4関連科目	①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。 ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 ④小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。

教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク
履修条件	幼稚園教諭の教職課程登録者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。	全員
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。	全員
3	「話すこと・聞くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	全員
4	「話すこと・聞くこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	全員
5	「話すこと・聞くこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	全員
6	「書くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	全員
7	「書くこと」領域について　（2）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	全員
8	「書くこと」領域について　（3）指導事項について解説などを参考に理解する。	全員
9	「読むこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	全員
10	「読むこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	全員
11	「読むこと」領域について　（3）言語活動例について、図書館の持つ機能などを深く理解する。	全員
12	我が国の言語文化について　（1）映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。	全員
13	我が国の言語文化について　（2）書写や読書に関して、体験的に理解を深める。	全員
14	我が国の言語文化について　（3）俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。	全員
15	我が国の言語文化について　（4）創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで披露し互いに批評する機会を持つ。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。	事前事後レポート	30	事前にこれから学ぶ事項を整理している。 事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。
授業参加態度	20	授業内容をもとに言語を運用し、言語感覚を磨く態度で振り返りを書いている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前課題として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポートにまとめる。[90分] 上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動を伴う準備が主となる。[30分]	事前授業課題については、提出前に評価のポイントをコメントする。 課題に関する質問には随時回答する。

受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってこそ、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、学習した内容を小学校や幼稚園でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省　東洋館出版社　2018　ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018　ISBN978-4577814475
指定図書／参考書等	なし／『小学校新学習指導要領ポイント総整理　国語』吉田裕久、水戸部修治編　東洋館出版社　2017　ISBN978-4491033976	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

石上：公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、国語科の本質について問いをもちながら、小学校国語科の内容について実践的に授業を行う。
中島：小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	算数			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性、評価方法について理解する。	1）小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。 2）算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3）算数科の学習評価の考え方を理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	算数科指導法（後期）を受講する学生が望ましい。高等学校の数学Ⅰ及び中学校の数学を復習して受講すること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	算数を学ぶ意義を考えるとともに、本授業の到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。	
2	算数の目標及び内容構成について理解する。	
3	数と計算領域（１）数の概念と表記、自然数などについて理解する。	
4	数と計算領域（２）数の把握、数の表記について理解する。	
5	数と計算領域（３）たし算、ひき算、かけ算、わり算について理解する。	
6	数と計算領域（４）小数、分数について理解する。	
7	図形領域（１）基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係について理解する。	
8	図形領域（２）面積・体積とその公式について理解する。	
9	測定領域（１）量の概念について理解する。	
10	測定領域（２）量の測定について理解する。	
11	変化と関係領域（１）異種の量の割合について理解する。	
12	変化と関係領域（２）関数の考えについて理解する。	
13	データの活用領域（１）統計と確率について理解する。	
14	文章題、問題解決について理解する。	
15	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	授業内小テスト	20	第14回の授業において、小テストを行い評価する。
期末レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。［40分］ レポート作成のため、授業内容を復習する。［50分］	レポートや小テストの評価及び解説は授業時に行う。

受講生に望むこと	算数科の学修内容は全て理解できていることが基本である。また、教育現場で児童に算数科を指導する責任を自覚して、主体的に学修してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105
指定図書／参考書等	なし／なし 授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	生活			開講学科	幼児教育	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、誰も取り残されない豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。 ※SDGs目標番号4関連科目	①幼児～初期学童期の子どもにとって、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解している。 ②生活科の特性・目標・内容等について理解している。 ③体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解している。

教授方法	講義・演習、グループ協議
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。	
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。	
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」①：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。	
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」②：繰り返し活動することの意義を考えよう。	
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」③：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。	
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」④：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。	
8	生活科の実践から①：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例	
9	生活科の実践から②：学校生活に関する実践例	
10	生活科の実践から③：地域生活に関する実践例	
11	生活科の実践から④：飼育・栽培・いのちに関する実践例	
12	生活科の実践から⑤：自分の成長に関する実践例	
13	体験編「自分物語を創ろう」①：自分自身を見つめ、物語を作ろう。	
14	体験編「自分物語を創ろう」②：互いの物語から学ぼう。	
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。	自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、自分らしい表現を選択して簡潔に表すことができる。
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①家族から自分の幼少期の話を聞くなどして、これまでの人生を振り返る。［60分］ ②子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍等で学ぶ。［20分］ ③多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。［20分］ ④三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。［20分］	対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も含め、成績評価後速やかに返却する。

受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切にする学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、ISBN:978-4491034645
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題は必要に応じてClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。

授業科目名	音楽			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識と技術を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュを学ぶ。初等音楽の教科書から様々な楽曲を取り上げ、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材について理解を深める。また、様々な表現形態について学ぶことで、豊かな感性を育む。	①小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解する。 ②音楽科の指導内容について理解する。 ③正しい発声法を理解し、歌うことができるようになる。 ④打楽器・鍵盤楽器・ソプラノリコーダー・和楽器の演奏法、取り扱いについて理解し、演奏できるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「音楽表現Ⅰ」「音楽表現Ⅱ」「器楽Ⅰ」の履修済が望ましい（単位未修得可）／ピアノの両手奏の技術を習得済の者、または習得中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽理論Ⅰ：拍、拍子とリズムについて理解する。低学年Ⅰ：低学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践する。	
2	音楽理論Ⅱ：五線、譜表、音部記号について理解する。低学年Ⅱ：低学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅰ：小学校学習指導要領（音楽）の、各学年の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」について学ぶ。「音楽の仕組み」について理解する（反復①）。	
3	音楽理論Ⅲ：音名について理解する。低学年Ⅲ：低学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅱ：「音楽の仕組み」について理解する（反復②）。	
4	音楽理論Ⅳ：変化記号について理解する。低学年Ⅳ：低学年の鑑賞教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅲ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ①）。	
5	音楽理論Ⅴ：音符と休符について理解する。中学年Ⅰ：中学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅳ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ②）。	
6	音楽理論Ⅵ：音程について理解する。中学年Ⅱ：中学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅴ：「音楽の仕組み」について理解する（変化）。	
7	音楽理論Ⅶ：速度記号について理解する。中学年Ⅲ：ソプラノリコーダーの取り扱い、奏法及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅵ：「音楽の仕組み」について理解する（反復と変化）。	
8	音楽理論Ⅷ：強弱記号について理解する。中学年Ⅳ：中学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅶ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係①）。	
9	音楽理論Ⅸ：奏法に関する記号について理解する。中学年Ⅴ：中学年の鑑賞教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅷ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係②）。	
10	音楽理論Ⅹ：反復記号について理解する。高学年Ⅰ：高学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅸ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係　）。	
11	音楽理論Ⅺ：長調と短調について理解する。高学年Ⅱ：高学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅹ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係①）。	
12	音楽理論Ⅻ：和音について理解する。高学年Ⅲ：高学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅺ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係②）。	
13	高学年Ⅳ：高学年の鑑賞教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅻ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係　）。	
14	和楽器（和太鼓）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	
15	和楽器（箏）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	課題	30	課題に対しての取り組みと内容。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①授業内容について振り返りができているか。②授業のポイントを理解してまとめられているか。　感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題に積極的に取り組むこと。［40分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。［20分］ ③次回授業のための課題に取り組み、準備すること。［30分］	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるため、グループで行う課題については協力して取り組むこと。	教科書・テキスト	『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018、ISBN978-4-49103-465-2.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力を、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景的な知識の具体例を教科書や発表活動から学ぶ。	①英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 ②第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。 ③児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。 ④異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。

教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）のうち、いずれかの資格・免許を取得予定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を説明する。 Unit 1　ALT's First Visit to Minami Elementary School　初対面の人とのやりとりの仕方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためやりとりをする方法を知る。	
2	Unit 2　Getting to Know Each Other　相手をより知るための話の進め方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを準備する。	
3	Unit 3　School Lunch　相手を歓迎会にお誘いする話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを練習する。	
4	Unit 4　Play Time　休み時間の遊びについての話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを発表する。（発表①）	
5	Unit 5　The First English Class　最初の Team Teaching の授業の始め方を学ぶ。 発展活動：TT で ALT 紹介をする方法を知る。	
6	Unit 6　Teaching Numbers 1　TTの授業の始めから活動に入る所までの進め方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を準備する。	
7	Unit 7　Teaching Numbers 2　TTで活動を進める方法を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。	
8	Unit 8　Reflection　授業の最後に行う振り返りの仕方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。（発表②）	
9	Unit 9　Activities at a Kindergarten　ゲストとして訪問する幼稚園での活動についての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる方法を知る。	
10	Unit 10　Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（理科の観察） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる準備をする。	
11	Unit 11　Making Onigiri and Curry　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（家庭科の調理実習） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる練習をする。	
12	Unit 12　Making a Town Map　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（者s開花の地域の地図作成） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる発表をする。（発表③）	
13	Unit 13　Introducing Japanese Culture　国際交流に向けての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TT で skit を行うための準備をする。	
14	Unit 14　Evacuation Drills　避難訓練についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で skit を行うための練習をする。	
15	Unit 15　Graduation　卒業に向けて行われる活動についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で skit を発表をする。（発表④）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	英語の語彙、文構造、文法、発音、正書法などを身に付けているか。	発表 ①②③④の4回分	40	英語の自己紹介・歌指導、スキット等を相手を意識しながら発表できているか。
授業への参加態度と発表準備	20	授業に熱心に参加しているか。他者の発表に対する評価が適切にできるか。発表のための協力度。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の小テストの準備を十分にすること。[30分] 英語で発表するために、教室で児童生徒の前で実践するときのように自信をもってできるまで練習すること。[60分]	①小テストについては、次時に返却する際にコメントする。 ②パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。

受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということを体感してほしい。	教科書・テキスト	『Hello, English ―English for Teachers of Children』相羽千州子・藤原真知子・Brian Byrd・Jason Barrows 著　成美堂　2024　ISBN:9784791947973
指定図書／参考書等	なし／『小学校英語内容論入門』樋口忠彦他編著　研究社　2019 ISBN: 978-43274100995	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、小中高における外国語活動・外国語の授業をするために必要な「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身につけるための指導をしている。

授業科目名	教育実習指導Ⅰ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、幼稚園教諭一種免許状取得のための「教育実習Ⅰ（幼）」に関連する事前・事後指導を行い、同期間内に実施する「教育実習Ⅱ（幼）」に関する指導も併せて行う。事前指導では、両実習を通じて、幼稚園教師として求められる姿勢や必要な知識・技能の習得を目指す。事後指導では、教育実習全体を振り返り、自身の課題を明確化する。	①教育実習の意義と目的を理解する。 ②園の教育理念や方針を理解し、実習生としての心構えを身に付ける。 ③幼児の姿に基づく観察と記録方法を理解する。 ④実習の手順と計画および「実習指導案（部分）」の作成について理解を深める。 ⑤実習園との必要な連絡や協議を適切に行うことができる。 ⑥記録を通じて省察し、課題の改善に努める。

教授方法	講義・演習
履修条件	保育原理・教育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：教育実習の意義と目的、および実習全体の流れについて理解する。	
2	実習生としての心構えについて理解する。	
3	３・4・5歳児の発達について理解する。	
4	幼稚園の１日の生活の流れを理解する。	
5	幼児への関わり方の基本、安全に関する配慮、保護者への対応などの重要事項を理解する。	
6	事前訪問や実習に向けて、必要な準備や進め方を理解する。	
7	事前訪問とプレ実習を各自で行う。	
8	幼児の遊びの観察と記録方法について理解する。	
9	実習日誌の書き方について理解する。	
10	エピソード記録について理解する。	
11	実習の手順と計画を理解し、「実習指導案（部分）」を作成する。	
12	実習直前指導：実習園と大学への提出物の内容や期限を確認し、自身の実習の具体的な流れを理解して進める。	
13	事後指導：自己評価、お礼状の作成を行う。	
14	事後指導：実習全体で得た学びを個人およびグループで振り返る。	
15	事後指導：実習全体で得た学びと今後の課題を報告会で共有する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	授業への積極的な参加態度や学習に対する意欲を基に評価する。	課題	30	提出状況、内容、理解度、疑問点の克服、工夫点などを基に、取り組み姿勢を評価する。
ワーク	30	グループ活動に対する積極的かつ協力的な姿勢や取り組み内容を基に評価する。	事後課題	30	自己課題を明確にし、改善のための振り返りができているかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・観察記録［120分］ ・教材研究［120分］ ・指導計画「実習指導案（部分）の作成［90分］ ・指導計画および教材の修正［90分］ ・実習園訪問［60分］ ・報告会準備［60分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	幼稚園教師に求められるふさわしい服装、話し方、姿勢を身に付け、積極的かつ協力的に取り組むことを心がける。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年　ISBN:9784805402993 ／適宜紹介する。	その他・特記事項	授業回については日時や内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を活かし、蓄積した保育実践の事例、写真、映像記録、その他の資料を活用して、多面的に展開する。

授業科目名	教育実習指導Ⅱ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、幼稚園教諭一種免許状取得のための「教育実習Ⅱ（幼）」に関連する事前・事後指導を行う。事前指導では「教育実習Ⅰ（幼）」で得た学びをを基盤に、指導計画の作成に基づく実践や教材研究を行う。実習終了後は実習全体の振り返りを行う。さらに自身の課題を明確にし、他者と協議しながら、それらを改善するための具体的な取り組みを進めていく。	①幼稚園教育の意義や幼児の内面や発達に応じた環境構成および援助方法について、理解を深める。 ②予想される幼児の姿に基づき、具体的なねらいと内容を設定できる。 ③設定したねらいに基づいて、指導計画を作成する。 ④作成した「実習指導案（半日・全日）」を基に模擬実践を行い、その評価を行った上で、必要に応じて修正を加える。 ⑤自身の課題を明確にし、それらを改善するための具体的な取り組みを見出す。

教授方法	講義・演習
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	幼稚園教育の意義ついて理解する。	
2	実習園について理解を深める。	
3	3・4・5歳児の発達の違いについて理解し、整理する。	
4	実習時期に適した遊びや活動について学び、整理する。	
5	3・4・5歳児の発達に応じた指導計画を実習時期に適した形で作成する方法について具体的に考える。	
6	「実習指導案（部分・半日・全日）」の作成方法について理解する。	
7	事前訪問とプレ実習を各自で行う。	
8	事前訪問での観察を基に指導計画を作成し、ぞの計画に基づいて実践を行う（1）	
9	事前訪問での観察を基に指導計画を作成し、ぞの計画に基づいて実践を行う（2）	
10	教材研究および指導案の修正を行う（1）	
11	教材研究および指導案の修正を行う（2）	
12	実習直前指導：事前課題について確認を行う。	
13	事後指導：自己評価および事後レポートの作成を行う。	
14	事後指導：自身の課題を明確にし、それを改善するための具体的な取り組みをグループで共有する。	
15	事後指導：実習全体で得た学びと今後の課題を報告会で共有する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	10	授業への積極的な参加態度や学習に対する意欲を基に評価する。	課題	30	提出状況、内容、理解度、疑問点の克服、工夫点などを基に、取り組み姿勢を評価する。
ワーク	30	模擬実践やグループ活動に対する積極的かつ協力的な姿勢や取り組み内容に基づいて評価する。	事後課題	30	実習全体を通じて得た学びを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・観察記録［120分］ ・教材研究［120分］ ・指導計画「実習指導案（半日・全日）」の作成［120分］ ・指導計画および教材の修正［90分］ ・実習園訪問［120分］ ・報告会準備［90分］ ・事後レポートの作成［120分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	幼稚園教師に求められるふさわしい服装、話し方、姿勢を身に付け、積極的かつ協力的に取り組むことを心がける。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年　ISBN：9784805402993 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／適宜紹介する。	その他・特記事項	授業回については日時や内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を活かし、蓄積した保育実践の事例、写真、映像記録、その他の資料を活用して、多面的に展開する。

授業科目名	教育実習指導Ⅱ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、幼稚園教諭一種免許状取得のための「教育実習Ⅱ（幼）」に関連する事前・事後指導を行う。事前指導では「教育実習Ⅰ（幼）」で得た知識・技能を基盤に、幼児の内面を読み取る力を養う。その後、実習において予想される幼児の姿の想定し、それに基づいた指導計画を作成し、必要な教材を準備して実践に取り組む。実習終了後は自身の課題を明確にし、他者と協議しながら、それらを改善するための具体的な取り組みを進めていく。	①保育観察を通して、幼児の内面を深く理解する。 ②予想される幼児の姿に基づき、適切なねらいを設定できる。 ③設定したねらいに基づいて、指導計画を作成できる。 ④作成した指導計画に基づいて模擬実践を行い、必要に応じて修正を行う。 ⑤自身の課題を明確にし、それらを改善するための具体的な取り組みを見出す。

教授方法	講義・演習
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：前年度の「教育実習Ⅰ（幼）」を振り返り、そこで得た学びと課題を踏まえて、次の実習に向けた準備を行う。	
2	事前訪問や保育観察、プレ実習に向けた準備を行い、各自で進める。	
3	実習期間について確認し、実習日誌の記入方法や「実習指導案（部分・半日・全日）」の作成方法について具体的に確認する。	
4	実習時期に適した3・4・5歳児の発達に応じた教材研究と指導計画の作成を行う。	
5	実習時期に適した3・4・5歳児の発達に応じた教材研究と指導計画を全体で共有する。	
6	前年度の実習経験や保育観察を基に指導計画を作成し、その計画に基づいて実践を行う（1）	
7	前年度の実習経験や保育観察を基に指導計画を作成し、その計画に基づいて実践を行う（2）	
8	教材研究および「実習指導案（部分・半日・全日）」の修正を行う（1）	
9	教材研究および「実習指導案（部分・半日・全日）」の修正を行う（2）	
10	実習直前指導：実習に臨むための心構えと、事前課題や必要書類の確認を行う。	
11	事後指導：自己評価、事後レポートの作成、お礼状の作成を行う。	
12	事後指導：実習の振り返り（個人、グループ）を行う。	
13	事後指導：自身の課題を明確にし、それを改善するための具体的な取り組みをグループで共有する。	
14	実習報告会：実習全体で得た学びと今後の課題を報告会で共有する。	
15	まとめ：自己の課題を明確にし、それらを改善するための具体的な取り組みを見出す。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業 参加態度	10	授業への積極的な参加態度や学習に対する意欲を基に評価する。	課題	30	提出状況、内容、理解度、疑問点の克服、工夫点などを基に、取り組み姿勢を評価する。
ワーク	30	模擬実践やグループ活動に対する積極的かつ協力的な姿勢や取り組み内容に基づいて評価する。	事後課題	20	実習全体を通じて得た学びを総合的に評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・観察記録［120分］ ・教材研究［120分］ ・指導計画「実習指導案（半日・全日）」の作成［120分］ ・指導計画および教材の修正［90分］ ・実習園訪問［120分］ ・報告会準備［90分］ ・事後レポートの作成［120分］	授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応する。

受講生に望むこと	幼稚園教師に求められるふさわしい服装、話し方、姿勢を身に付け、積極的かつ協力的に取り組むことを心がける。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018年 ISBN：9784577814475 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』文部科学省　チャイルド本社　2021年　ISBN：9784805402993 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／適宜紹介する。	その他・特記事項	授業回については日時や内容を変更して行う場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園教諭、副園長、外部講師としての経験を活かし、蓄積した保育実践の事例、写真、映像記録、その他の資料を活用して、多面的に展開する。

授業科目名	教育実習Ⅰ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、幼稚園教員免許取得に向けた教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づく教育実習である。「教育実習Ⅰ（幼）」と「教育実習Ⅱ（幼）」はそれぞれ10日間、原則として北陸３県の同一幼稚園で連続して実施される。この実習を通じて、幼稚園教師に求められる資質や知識、技能を習得し、実践力向上のための課題を明確にすることを目的とする。	①実習園の教育理念を理解し、それに基づいて実習に臨むことができる。 ②保育観察を通じて得た気付きを具体的に記録することができる。 ③園の教師の動きから次の展開を予測し、臨機応変に対応することができる。 ⑤実習を通して教師に求められる姿勢を意識し、実際に行動に移せるようになる。

教授方法	実習を通じて、実習園および担当教諭から学ぶ。
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	実習園の教育理念を理解する。	
	幼児の発達や遊びの姿についての理解を深める。	
	園の生活の流れや幼児、教師の姿を観察し、意図的に関わり、その内容を具体的に記録する。	
	担当教諭との実習協議において、一日の保育の中で疑問に思ったことなどを率直に話し、対話を通じて学びを深める。	
	日々の記録を通じてその日の保育の振り返り、翌日の保育の改善に努める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習園による評価	60	実習園が評定した評価項目を、科目の基準に基づいて数値化する。	実習ファイル	40	①適切に記述されているか。 ②振り返りを通じて改善が図られているか。 ③必要書類が整っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・幼児の観察に基づく記録の作成〔120分〕 ・指導計画と教材の研究〔120分〕	「教育実習指導Ⅰ（幼）」の事後指導を通じて行う。

受講生に望むこと	①体調管理には責任をもつこと。 ②必要に応じて、実習園、担当教諭、大学の実習担当者、大学事務所への連絡と報告を、速やかかつ適切に行うこと。 ③実習中に知り得た情報の取り扱いには十分注意すること。 ④記録と指導計画の参考として『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	無断欠席や遅刻、早退等が多い場合、または記録や指導計画の未提出や遅延がある場合には、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅱ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、幼稚園教員免許取得に向けた教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づく教育実習である。「教育実習Ⅰ（幼）」と「教育実習Ⅱ（幼）」はそれぞれ10日間、原則として北陸３県の同一幼稚園で連続して実施される。この実習を通じて、幼稚園教師に求められる資質や知識、技能を習得し、実践力向上のための課題を明確にすることを目的とする。	①実習園の教育方針や保育内容を理解する。 ②実習前に準備した指導計画や教材を、実習中に見直し改善を図る。 ③実習園の教職員の一員として状況を的確に把握し、適宜報告・連絡・相談を行い、臨機応変に行動する。 ④一人一人の幼児の姿の観察し、それに基づいて意図的に関わる。 ⑤実践を反省的に省察し、次に生かす。 ⑥全日実習に関する指導計画を実習園の担当教諭と協議して作成し、実践後の評価を基に改善に努める。

教授方法	実習を通じて、実習園および担当教諭から学ぶ。
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」を履修中であること。「教育実習指導Ⅱ（幼）」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	実習園の教育方針や保育内容を理解し、一人一人の幼児の姿の観察しながら意図的に関わり、学びを深める。	
	幼児の発達や学級の実態、幼児の遊びの姿を踏まえて、教材研究を行う。	
	担当教諭との保育記録のやりとりや実習協議を通じて、自己課題を明確にする。	
	幼児の姿や教師の姿勢、自らの省察を通じて学び、実践力を向上させる。	
	「実習指導案（全日・半日）」を作成し、実践後の評価を基に改善に努める。	
	幼稚園実習を通じて、幼稚園教師として、また社会人としての自分を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習園による評価	60	実習園が評定した評価項目を、科目の基準に基づいて数値化する。	実習ファイル	40	①適切に記述されているか。 ②指導案の立案、実践、評価、改善の循環が記録に見られるか。 ③必要書類が整っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・幼児の観察に基づく記録の作成［120分］ ・指導計画の立案［120分］ ・指導計画の補完と教材研究［120分］ ・事後レポートの作成［90分］	「教育実習指導Ⅱ（幼）」の事後指導を通じて行う。

受講生に望むこと	①体調管理には責任をもつこと。 ②必要に応じて、実習園、担当教諭、大学の実習担当者、大学事務所への連絡と報告を、速やかかつ適切に行うこと。 ③実習中に知り得た情報の取り扱いには十分注意すること。 ④記録と指導計画の参考として『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。 ⑤実習時間外の課題については、翌日の実習に支障がないように時間管理を工夫すること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	無断欠席や遅刻、早退等が多い場合、または記録や指導計画の未提出や遅延がある場合には、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅱ（幼）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虫明　淑子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	幼一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、幼稚園教員免許取得に向けた教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づく教育実習である。「教育実習Ⅰ（幼）」（10日間）と「教育実習Ⅱ（幼）」（10日間）に分かれ、原則として北陸３県の同一幼稚園で実施される。「教育実習Ⅰ（幼）」で得た知識や技能を活用し、予想される幼児の姿をイメージして指導計画を作成する。その後、発達に即した教材を準備し、実践を行う。実習を通じて、幼稚園教師として求められる資質や実践力を向上させ、幼児教育への理解と関心を深めることを目指す。	①実習園の保育内容を理解し、それに基づいて実習に必要な準備を行う。 ②実習前に準備した指導計画や教材は実習中に見直し、修正を行う。 ③実習園の教師として、教職員の動きを読み取りながら臨機応変に行動し、必要に応じて教職員に報告、連絡、相談を行う。 ④一人一人の幼児の内面を読み取り、その理解に基づいて意図的に関わる。 ⑤毎日の実習記録では、ねらいや観点に沿った記述を行う。 ⑥全日実習に関する指導計画を実習園の担当教諭と協議して作成し、実践後の評価を基に改善に努める。

教授方法	実習を通じて、実習園および担当教諭から学ぶ。
履修条件	「教育実習指導Ⅰ（幼）」、「教育実習Ⅰ（幼）」の単位を修得済みであること。「教育実習指導Ⅱ（幼）」を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	実習園の教育方針を理解し、保育を通じて幼児の内面を読み取り、意図的に関わることで学びを深める。	
	幼児の発達や学級の実態、幼児の遊びの姿を踏まえて、教材研究を行う。	
	担当教諭との保育記録のやりとりや実習協議を通じて、自己課題を明確にし、改善に努める。	
	幼児の姿や教師の姿勢、自らの省察を通じて学び、実践力を向上させる。	
	「実習指導案（全日・半日）」を作成し、実践後の評価を基に改善に努める。	
	幼稚園実習を通じて、幼稚園教師として、また社会人としての自分を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習園による評価	60	実習園が評定した評価項目を、科目の基準に基づいて数値化する。	実習ファイル	40	①適切に記述されているか。 ②指導案の立案、実践、評価、改善の循環が記録に見られるか。 ③必要書類が整っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・幼児の観察に基づく記録の作成［120分］ ・指導計画の立案［120分］ ・指導計画の補完と教材研究［120分］ ・事後レポートの作成［90分］	教育実習指導Ⅱ（幼）の事後指導を通じて行う。

受講生に望むこと	①体調管理には責任をもつこと。 ②必要に応じて、実習園、担当教諭、大学の実習担当者、大学事務所への連絡と報告を、速やかかつ適切に行うこと。 ③実習中に知り得た情報の取り扱いには十分注意すること。 ④記録と指導計画の参考として『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。 ⑤実習時間外の課題については、翌日の実習に支障がないように時間管理を工夫すること。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814499
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	無断欠席や遅刻、早退等が多い場合、または記録や指導計画の未提出や遅延がある場合には、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育者論			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、保育職の意義や保育者の役割・資質・能力・職務内容についての基礎知識を習得する。また、新たな保育の動向を視野に入れ、現代の保育事情に対応できる保育者の育成を目的とする。さらに、保育者という職業を選択した場合に、自らの専門性をどのように高め、問題解決の方法を探求していくべきかについて学べるように進めていく。	① 保育者としての役割や責務を理解する。 ② 現代の保育や社会の変化に対応した保育者像を理解する。 ③ 今後の保育者のあるべき姿を考察し、自らの保育者としての使命を意識する。

教授方法	講義、討議、シミュレーション、ICTを活用した双方向型授業
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、保育者とはどのような職業か考える	
2	変わりゆく、変わらない保育者の役割について知る	
3	保育者の制度的な位置づけと倫理について学ぶ	
4	保育者の資質について考える	
5	遊びにおける保育者の役割について学ぶ	
6	計画的な環境構成について学ぶ	
7	保育における評価、PDCAサイクルについて学ぶ	
8	保育の質について理解を深める	
9	保育者の専門性向上について学ぶ	
10	到達的試験	
11	保育者の協同と連帯について学ぶ	
12	世界の保育に学ぶ	
13	多文化保育について学ぶ	
14	気になる子どもの援助について学ぶ	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	20	出席、授業の参加態度、振り返りシートなど	期末レポート	30	ルーブリックに基づいて評価
到達度試験	30	授業内容を十分に理解できるのかを確認するために、授業の後半回で実施	ミニレポート	20	ルーブリックに基づいて評価

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 前もって、その日の該当箇所の教科書を読み、パワーポイントを印刷しておく（30分） ② 授業中に終了できなかった課題などを仕上げる（30分）	レポートなどは、１週間以内にフィードバックをつけて返却する。

受講生に望むこと	教室内での私語は避けること。課題のAI使用については、教員の指示に従うこと。	教科書・テキスト	『子どもと共に育ちあう エピソード保育者論』第2版 2020年　井上 孝之、山崎 敦子　みらい ISBN：978-4-86015-497-4
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	受講生の興味・理解度に応じて内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育原理			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、保育の基盤となる理念や概念について学ぶ。特に、保育の原点である「子どもを見る目」を養うことに重点を置く。また、保育における「指導」とは何かについて、遊びを通じた総合的な指導や、環境を通して行う保育の視点から考察する。さらに、欧米および日本における保育の思想や歴史を学び、現代の保育の現状と課題について理解を深める。	①保育の意義や目的、および保育に関する法令や制度について理解する。 ②乳幼児の特性について、教材やドキュメンテーションを通じて学ぶ。 ③保育における指導の概念とその役割について理解する。 ④保育の思想や歴史を学び、現代の保育の現状と課題について理解を深める。

教授方法	講義、討議、グループワーク、ICTを用いた授業
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーションを通じて、本授業の目的や進め方を理解する。保育の理念や基本的な概念について学び、その重要性を理解する。	
2	保育の対象としての子どもの発達や特性について理解する。	
3	幼稚園、保育所、認定こども園の概要を理解する。各施設の役割や特徴、制度の違いについて学ぶ。	
4	乳幼児の発達過程を理解し、それに応じた保育のあり方を学ぶ。	
5	保育のねらいとその意義を理解する。また保育の内容や具体的な実践方法について学ぶ。	
6	保育における遊びの意義や役割を理解する。	
7	環境を通して行う保育について理解する。	
8	保育実践の計画、実践、記録の意義と重要性を理解する。	
9	世界における保育の思想の変遷を理解する。	
10	日本における保育の思想の変遷について学ぶ。	
11	日本における保育の制度の変遷について学ぶ。	
12	到達度試験	
13	保育における地域連携と子育て支援について理解する。	
14	保育者の職務の全体像を理解する。自身が目指す保育者像について考え、将来のビジョンを描く。	
15	まとめ。これからの保育の課題と展望について理解し、考察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業参加状況（出席、授業の受講姿勢、リフレクションペーパーなど）	到達度試験	30	授業内容を十分に理解できているかを確認するために、授業の後半回で行う。
課題	25	ルーブリックを用いて評価する。	期末レポート	25	ルーブリックを用いて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前：事前に教科書を読み、関連する内容を理解しておく。授業で使用するPowerPointを印刷し、持参する。（30分） 事後：自分のノートを整理し、重要なポイントを確認する。指定された課題を仕上げる。（30分）	課題については、締切から１週間以内にフィードバックをつけて返却する。

受講生に望むこと	ノートと教科書を必ず持参する。	教科書・テキスト	池田 隆英、上田 敏丈、楠本 恭之、中原 朋生（編著）(2018)『改訂 なぜからはじめる保育原理 第2版』建帛社　ISBN: 978-4-7679-5071-6
指定図書／参考書等	参考図書:『幼稚園教育要領解説』（文部科学省，2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省，2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府，文部科学省，厚生労働省，2018）	その他・特記事項	その週に担当する授業内容については、学生の学びの様子をみながら、変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの理解と援助			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	ポーター　倫子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども理解は、保育の基本となるものである。本講義では、子ども理解の意義を理解し、それに基づいてどのように子どもの発達や学びを支えるのか、そのための環境構成や援助方法について修得できるように進めていく。また子ども理解の基礎的な方法（観察、記録、ドキュメンテーション、ポートフォリオ）についても学ぶ。さらに、環境の移行への援助、配慮を要する子どもへの援助について学ぶ。	①子ども理解を土台として援助を展開する保育者の基本的姿勢とその意義を理解する。②観察や記録、ドキュメンテーションなどの子ども理解の方法を習得する。③かかわりの難しい子どもや状況への対応、援助方法について理解する。

教授方法	講義、グループワーク、ロールプレイ
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、保育における子ども理解の意義を知る。	
2	子どもに対する共感的理解について学ぶ。	
3	子どもを理解する視点について学ぶ　その１　子どもの葛藤への援助	
4	子どもを理解する視点について学ぶ　その２　環境の変化や移行への援助	
5	子どもを理解する視点について学ぶ　その３　特別なニーズのある子どもへの援助	
6	子どもを理解する方法を学ぶ　その１　観察と記録	
7	子どもを理解する方法を学ぶ　その２　ドキュメンテーション	
8	ポートフォリオを通して、子どもへの理解を深め、保育力を向上させる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	30	授業参加状況（出席、授業時の受講姿勢、毎回の振り返りシートなど）	レポート	30	ルーブリックで評価
ポートフォリオ	40	ルーブリックで評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の授業後にはポートフォリオの用紙を渡すので、仕上げておくこと（６０分）、授業ノートやプリントは整理し、ファイルしておくこと（３０分）	課題締切後、一週間以内にフィードバックを添えて、返却する。

受講生に望むこと	教室内の私語、スマートホンの使用を避けること。授業課題におけるAIの利用については、教員の指示に従うこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	受講生の興味・理解度に沿って、内容を変更する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子ども家庭福祉論Ⅰ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども家庭福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する。家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し、家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。	①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 ②子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 ③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 ④子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 ⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭福祉の理念と概念	
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向	
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	
4	子ども家庭福祉の施設と専門職	
5	少子化対策と子育て支援	
6	母子保健と子どもの健全育成	
7	多様な保育ニーズへの対応	
8	学齢期の子どもの教育と福祉	
9	障害のある子どもとその家庭の背景と支援	
10	子ども虐待の背景と支援	
11	貧困家庭の子どもの背景と支援	
12	ひとり親家庭の背景と支援	
13	社会的養護	
14	非行少年の背景と支援	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容を理解している。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
子ども家庭福祉に関する文献やメディア報道などを調べ、その要因・課題について意見をまとめる。	必要に応じて、リアクションペーパーに対して教員からコメントする。

受講生に望むこと	本科目は、子ども家庭福祉の基本となる内容で、保育・教育において根幹をなす。「保育実習指導Ⅰ（施設）」の内容とも関連づけて理解する必要がある。	教科書・テキスト	『子ども家庭福祉　子ども・家族・社会をどうとらえるか』　垣内国光・岩田美香・板倉香子・新藤こずえ編　生活書院　2020年　ISBN：9784865001211
指定図書／参考書等	なし／『新版　よくわかる子ども家庭福祉　第2版』吉田幸恵・山形文治編著　ミネルヴァ書房　2023年　ISBN:9784623095131	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子ども家庭福祉論Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
近年、ヤングケアラーが社会問題として取り上げられている。ヤングケアラーとは、「家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子ども」とされる。本講義では、ヤングケアラー支援の現状と課題について、特に事例検討を通して理解を深めていく。	①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者及び支援者による支援のあり方について理解する。

教授方法	配付資料を用いる。演習の要素を取り入れた講義となる。
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭福祉におけるヤングケアラーの位置づけ、「ケア」の捉え方	
2	日本及び世界におけるヤングケアラー支援の現状と課題	
3	ヤングケアラーに関する事例検討①難病の親をケアする子ども	
4	ヤングケアラーに関する事例検討②統合失調症の親をケアする子ども	
5	ヤングケアラーに関する事例検討③うつの親をケアする子ども	
6	ヤングケアラーに関する事例検討④アルコール依存症の親をケアする子ども	
7	ヤングケアラーに関する事例検討⑤若年性認知症の親をケアする子ども	
8	ヤングケアラーに関する事例検討⑥聞こえない親をケアする聞こえる子ども	
9	ヤングケアラーに関する事例検討⑦外国籍の親をケアする子ども	
10	ヤングケアラーに関する事例検討⑧認知症の祖父母をケアする子ども	
11	ヤングケアラーに関する事例検討⑨障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（1）	
12	ヤングケアラーに関する事例検討⑩障害のある兄弟姉妹をケアする子ども（きょうだい児・きょうだい）（2）	
13	当事者による支援のあり方について考える①セルフヘルプ、ピアサポート	
14	当事者による支援のあり方について考える②当事者研究	
15	ヤングケアラー支援の実践・啓発のあり方について考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
最終レポート	60	講義内容の全体像がまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の振り返りを行う。 ②ヤングケアラーに関するメディア報道等があれば都度確認し、その内容に対する自分の意見をまとめる。	最終レポートやリアクションペーパーに対して、可能な限りコメントする。

受講生に望むこと	①ヤングケアラー支援の現状と課題について理解する。 ②事例検討を通して、ヤングケアラーの子どもが置かれた状況を理解する。 ③当事者及び支援者による支援のあり方について理解する。	教科書・テキスト	『子ども・若者ケアラーの声からはじまる　ヤングケアラー支援の課題』斎藤真緒・濱島淑恵・松本理沙・京都市ユースサービス協会編　クリエイツかもがわ　2022年 ISBN:9784863423251
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会福祉			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	岡田　文貴						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育所に限らず、児童養護施設や児童相談所、あるいは障害児施設などの児童福祉施設など、保育士の勤務先は多様に存在します。また児童福祉制度は、社会福祉制度の１つとして位置づけられています。保育士は、障害福祉領域や公的扶助の領域との連携が必要となる可能性もあります。幅広い知識は、保育士としての仕事を質的に向上させます。この科目では、保育者に必要な社会福祉の基礎知識を学習します。	①保育の知識が、保育所以外の児童福祉分野の仕事に役立てることができることを理解します。 ②子育ての悩みや深刻な事情などで、児童に対し必要な保護及び援助が確保されていない場合、社会福祉制度を活用することが有効であることを理解します。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会福祉の理念と歴史的変遷：社会福祉とは何か、そしてそれがどのような理念で実践され、人々の生活や生命への介入を果たしているかを学びます。	
2	子ども家庭支援と社会福祉：家庭を支援していくことの重要性について学び、実際の仕事を通して子ども家庭支援について考えます。	
3	社会福祉の制度と体系：日本の社会福祉法制度の体系を整理し、制度・法律の種類について基礎知識を身につけ、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉制度・法律のポイントを理解します。	
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等：福祉事務所や児童相談所などの相談機関、社会福祉の財政、社会福祉施設など、行政機関がどのような制度を整備しているのかを理解します。	
5	社会福祉の専門職：社会福祉の資格の定義や役割・機能等を、根拠となる法律から理解します。そして、地域における多職種および地域住民との連携・協働の動向について理解します。	
6	社会保障制度及び関連制度の概要：誰を「対象」とし、どのような「分野」があり、いかなる「方法」で私たちの暮らしを守っているのか。そして「子育て世帯」がなぜ貧困に陥ってしまうのか、その背景を考えます。	
7	相談援助の理論：保育士が子どもの家族とかかわる際に用いる相談援助の理論について、①その成り立ち　②理論の発展過程 ③現場実践での留意点、そして人の行動や取り巻く環境の多様性について理解します。	
8	相談援助の意義と機能：専門的な意味での「相談援助」とは何か、その意義と機能から理解を深めます。	
9	相談援助の対象と過程：①子ども、保護者、地域といった対象に応じた関わり。②相談援助の課程について段階を追って解説。 ③援助者としての態度、そして援助者として意識していきたい視点について理解します。	
10	相談援助の方法と技術：①相談援助の視点、②人と環境との接点、環境や社会資源へのはたらきかけ、③保育現場において保育者が相談援助の方法と技術を用いた支援を行うことの強みなどについて考えます。	
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ：利用者保護にかかわる制度に関して、その背景や法的根拠等を学ぶとともに、実際のしくみについて学びます。	
12	少子高齢化社会における子育て支援：少子化の現状を確認したうえで、これまでの少子化対策の展開と少子化対策における保育所の役割について学びます。	
13	共生社会の実現と障害者施策：①障害のとらえ方と障害者の現状、②共生社会の実現に向けた障害者施策、③「インクルージョン」とそのなかで保育士に期待される役割について学びます。	
14	在宅福祉・地域福祉の推進：①地域福祉という考え方やその実践方法を学ぶ、②子ども、保護者や地域住民、隣接諸領域の専門職に対する保育士の関わり方を理解します。	
15	諸外国の社会福祉の動向：福祉国家としての先進諸国がどのような現状にあるのかを学びます。そのために、福祉国家とは何かについても理解します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシートの取り組み状況	60	ワークシート未提出の欠席は、－８点。遅刻・早退は－３点。提出物の遅れは減点。欠席してもワークシートは提出してください。	レポート	40	レポートの内容が、テキストや講義資料の内容を理解した上で作成されているかどうかで評価します。５回実施します。8点満点。但し遅れたレポートは5点未満としてす。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・２回目以降の授業に関しては、前もってワークシート及び資料を渡します。資料は縮小コピーしてあるものもあります。資料の出典は示してありますので、厚生労働省や石川県等のホームページで確認してください。[60分] ・１回の授業で１つの講を終了する予定です。テキストとワークシートに取り組み、資料を読み、自己学習に取り組んでください。[60分]	レポートは5回実施します。8点満点で評価し、返却します。返却する日の授業で、簡単にフィードバックします。

受講生に望むこと	①授業の前にテキストを読み、ワークシートに取り組み、前もって渡す資料を読んでください。 ②理解できない社会福祉の専門用語に関しては、社会福祉用語辞典等で理解するように努めてください。	教科書・テキスト	『新基本保育シリーズ④　社会福祉』松原康雄 圷　洋一　金子　充　編集　中央法規 2019年初版発行。2023年1月1日第2版発行 ISBN：978－4－8058－8787－5
指定図書／参考書等	授業の中で提示します。	その他・特記事項	授業中は他者と会話などせず、静かに座っていてください。①授業の前にテキストを読み、ワークシートに取り組み、前もって渡す資料を読んでください。 ②理解できない社会福祉の専門用語に関しては、社会福祉用語辞典等で理解するように努めてください 課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ レポートのフィードバックは、授業においてよく書けたレポートを参考にして解説します。

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉事業における勤務経験を活かし、社会福祉従事者に必要な価値観・態度・知識・情報・技術などについて説明し、これらの知識は保育分野でも有効であることを伝えている。

授業科目名	家庭支援の心理学			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
生涯発達に関する知識を習得し、人の発達を捉える視点を身につける。また、発達初期の経験の重要性、発達の各時期における家族・家庭の意義や機能について理解を深め、子育て家庭の社会的状況やその課題、子どもの精神保健の現状とその課題について学ぶ。	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について理解する。 ②子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ③家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもを包括的に捉える視点を習得する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。

教授方法	講義を中心にワークやディスカッションなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	生涯発達①：生涯発達とは何かについて理解する。	
	生涯発達②：乳児期から学童期前期の発達について理解する。	
	生涯発達③：学童後期から青年期の発達の特徴について理解する。	
	生涯発達④：成人期・老年期における発達の特徴を理解する。	
	子育て①：子育てを取り巻く社会的状況を理解する。	
	子育て②：子育ての経験と親としての育ちについて理解する。	
	家族・家庭①：家族・家庭の意義とその機能について、家族システムや家族の発達から理解する。	
	家族・家庭②：家族の問題について家族システムから理解し、支援の方法を考える。	
	家族・家庭③：多様な家庭形態について把握し、援助の方法を考える。	
	家族・家庭④：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える①：虐待などにおけるトラウマケアについて。	
	家族・家庭⑤：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える②：保育者・支援者としての傾聴について。	
	家族・家庭⑥：特別な配慮を必要とする家庭への支援を考える③：配慮・支援をする際に必要なことについて。	
	子どもの精神保健①：子どもの心の健康への支援について、精神分析の視点から考える。	
	子どもの精神保健②：子どもの心の健康への支援について、認知行動療法の視点から考える。	
	子どもの精神保健③：子どもの心の健康への支援について、ストレスマネジメントの視点から考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	家族、家庭支援に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
最終レポート	50	「家庭支援の心理学」の基礎知識が獲得されている。「家庭支援の心理学」のテーマについて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、家族心理学など家庭支援の心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②課題レポートや最終レポートについては、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	青木久代編(2019)．『子ども家庭支援の心理学』　みらい　ISBN:978-4860154820
指定図書／参考書等	なし/本郷一夫・神谷哲司編（2019）．『子ども家庭支援の心理学』　建帛社　ISBN:978-4767950921、沼山博・三浦主博編(2020)．『子どもとかかわる人のための心理学』　萌文書林　ISBN:978-4893473691、中釜洋子・ 野末武義・布柴靖枝 ・ 無藤清子編(2019)．『家族心理学　第2版』　有斐閣　ISBN:978-4641184466、中釜洋子（2001）．『いま家族援助が求められるとき 』垣内出版　ISBN: 978-4773401431、団士郎(2013)．『対人援助職のための家族理解入門』　中央法規出版　ISBN:978-4805838600、柏木恵子・平木典子（2009）．『家族の心はいま』　東京大学出版会　ISBN:978-4130111249	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して家族の理解や家族支援について心理的視点から説明している。

授業科目名	社会的養護			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜　和昭						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
家族の機能低下が顕著になっている現代社会において、家庭を支えるさまざまな制度政策が展開されている。その中でも家庭養護を社会的に担う「社会的養護」の制度政策・機能を学ぶ。各種「児童福祉施設」の実践内容や「里親制度」のあり方、方向性などを理解する。また「子どもの権利擁護」や「自立支援」「児童指導員及び保育士」の専門性を理解する。	1　現代社会における社会的養護の意義と歴史 2　子どもの権利の理解とその支援のあり方 3　現代社会の家庭で起きる子どもの問題 4　社会的養護の制度と体系 5　施設養護と家庭養護の役割と目的 6　社会的養護制度及び課題と展望

教授方法	「講義」及び「ケース研究」をはじめとするグループディスカッションなども取り入れる。
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会的養護の大枠を理解し、各施設で暮らす子どもの思いや願いを理解する。	
2	施設養護の特性及びその実際を学び、養育理論の系譜と現代の児童養護の課題を検証する。	
3	社会的養護の歴史・系譜、特に先駆者である「石井十次」、「留岡幸助」の実践を通じて理念や具体的養育を学ぶ。	
4	「乳児院」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
5	「児童養護施設」の実践事例(1)から、その課題とあり方について学ぶ。	
6	「児童養護施設」の実践事例(2)から、その課題とあり方について学ぶ。	
7	「児童自立支援施設」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
8	「児童心理治療施設」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
9	「母子生活支援施設」の実践事例から、その課題とあり方について学ぶ。	
10	「児童養護施設」の心理担当職員の実践から、社会的養護と心理治療の関係、その具体的実施などについて学ぶ。	
11	各児童福祉施設などの業務及び施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。	
12	「児童養護施設」の実践事例から、リービングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。	
13	「里親家庭」や「里親ファミリーホーム」の実践事例から、今日的課題を学び、施設養護との対比、特徴や里親独自の課題などを学ぶ。	
14	「被措置児童等虐待（施設内虐待）」の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。	
15	「自立支援計画」とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述、理解している。	リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について「社会福祉」「子ども家庭福祉論Ⅰ」で学んだ内容を整理しておくこと。[30分] ②授業における演習内容からの学びについて、具体的な展開を考察する［40分］	期末レポートの講評、評価視点などについて、Google Classroomなどを用いて総括を行う。

受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。	教科書・テキスト	教科書は特に使用しない。毎回の講義時に配布する資料により授業を行なう。
指定図書／参考書等	なし／『児童養護施設と被虐待児』　森田喜治著　創元社　2009 年 ISBN　4-422-11380-1	その他・特記事項	講義科目であるが演習的要素を取り入れ、積極的な発言など講義への前向きな参加姿勢が望まれる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会的養護内容			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設等における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての子ども虐待や家族問題の背景に焦点をあて、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点から「家族再統合」（家庭復帰や家族関係の再構築）のあり方等について理解する。	①社会的養護における子どもの権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 ②施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 ③個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 ⑤社会的養護を通して家庭支援、子ども家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。

教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」及び「社会的養護」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会的養護の機能と枠組み	
2	社会的養護の課題	
3	社会的養護を利用する子どもの権利擁護	
4	社会的養護にかかわる保育士の倫理および責務	
5	社会的養護における支援の計画と記録および評価	
6	施設入所と個別支援計画（アドミッションケア）	
7	社会的養護施設による日常生活支援（インケア）	
8	障害児入所施設における日常生活（インケア）	
9	自立支援と退所後の支援（リービングケア・アフターケア）	
10	基本的生活習慣にかかわる専門的技術	
11	学習・学校にかかわる専門的技術	
12	対人関係・社会生活にかかわる専門的技術	
13	家庭支援のためのソーシャルワーク	
14	里親委託児童の支援	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容を理解している。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」で学んだ内容を整理し、授業に備える。 ②授業内容の振り返りを行う。	必要に応じて、リアクションペーパーやレポートにコメントする。

受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を望む。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを期待する。	教科書・テキスト	『社会的養護演習』安藤和彦・石田慎二・山川宏和編　建帛社　2020年　ISBN：9784767951232
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの保健			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	津田　朗子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することは、保育専門職の重要な役割である。子どもの保健では、子どもの発達の特徴や現代社会における課題をふまえ、乳幼児期に多く見られる健康問題や子どもを取り巻く環境について考え、その健全な発達が保障されるよう、健康問題の予防・早期発見や子ども・家族への支援方法、他職種との連携・協働など、保育専門職としての適切な対応について学ぶ。	①子どもの身体発育や生理機能の特徴を理解している。 ②子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 ③子どもの精神保健とその課題等について理解している。 ④子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。 ⑤保育現場における事故防止、安全対策・危機管理と、組織的対応について理解している。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの健康 オリエンテーション、近年の子どもを取り巻く環境の変化をふまえ、子どもの発達保障における課題について考える	
2	子どもの健康と保健の意義、地域における保健活動	
3	子どもの発達・発育と保健①：発達の原則と特徴　アタッチメントとこころの発達	
4	子どもの発達・発育と保健②：身体発育の評価　運動機能の発達と評価	
5	子どもの発達・発育と保健③：生理機能の特徴（呼吸・循環・体温調節） 子どもの生体リズム発達とと生活習慣	
6	子どもの発達・発育と保健④：摂食・消化機能、排せつ、水分代謝、免疫など 子どもの栄養と食習慣の確立（授乳・離乳）、歯と口の健康（むし歯）	
7	アレルギーのある子どもとその対応	
8	感染症とその予防、予防接種	
9	その他の子どもの病気（先天性疾患含む）	
10	子どもの病気と健康状態の観察（アセスメント）、体調不良時の対応	
11	小児救急、事故予防	
12	発育・発達の把握と健診（発達診断とアセスメント）、保護者との情報共有と親支援（GW）	
13	障害のある子どもへの理解と対応	
14	子ども虐待とその予防：虐待の現状、虐待が子どもに与える影響、虐待予防と子育て支援	
15	まとめ：子どもの健やかな育ちを保障するために（多様な支援の展開と関連機関との連携・協働）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	50	期間内に複数回実施。講義内容の理解度を確認する。	定期試験	50	学期末に実施。基礎的知識の理解度を確認する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。	課題は理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。

受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと	教科書・テキスト	「子どもの保健　第1版」 遠藤郁夫編　株式会社学建書院　2021年 (ISBN: 978-4-7624-0889-2)
指定図書／参考書等	『子どもって・・ね』木村留美子著　エイデル研究所　ISBN4-87168-393-1／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの健康と安全			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	北川　節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育においては園児の健康を保持・増進し安全を守ることが基本とされている。保育所など子どもの生活を支援する施設においては、子どもが健康で安全に過ごすことができる環境が重要である。そのため保育士等は、健康と安全に対する理解を深め、確かな知識と技術をもって保育をする必要がある。ここでは２年次に学んだ「子どもの保健」やその他の授業を基に、保育所等における健康・安全の重要性と方法、実際の活動や管理について具体的に学ぶ。 ※SDGs目標番号3関連科目	①保育における保健的観点を踏まえた保育環境や生活支援について理解する。 ②保育における衛生管理、事故対策、災害対策の方法を具体的に理解する。 ③子どもの体調不良時の対応について理解する。 ④保育における感染症対策について具体的に理解する。 ⑤子どもの健康や安全の管理にかかわる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価について理解する。

教授方法	講義　演習
履修条件	「子どもの保健」が履修済み、又は履修中であること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育における健康と安全の位置づけを理解する。 保育施設における保健的環境の現状と課題を理解する。 健康の保持・増進を目的とした保育の環境を理解する。	
2	発達と安全確保の観点から、子どもへの生活支援について理解する。	
3	保育施設における乳幼児の健康管理の方法を理解する。 乳幼児の身体計測の方法を習得する。（実習）	
4	保育施設における衛生管理の方法を具体的に学ぶ。 保育施設における消毒方法を理解する。	
5	保育施設における健康観察の重要性と方法を理解する。 体調不良の子どもへの適切な対応方法を理解する。	
6	保育施設における与薬について理解する。 乳幼児の体温、脈拍、呼吸の測定方法を習得する。（実習）	
7	乳幼児に起こりやすい病気やけがなどに対する応急処置の方法を具体的に学ぶ。	
8	乳幼児の心肺蘇生と異物除去の方法を習得する。（実習）	日赤指導員
9	園児の保健的対応を発達段階別に考える。 保育施設における個別の配慮が必要な子への保健的対応を考える。	
10	保育施設における健康・安全を守るための職員間の連携・協働、地域や家庭との連携を考える。 保健安全計画を考え、計画の必要性と保育計画との関連を理解する。	
11	保育施設における事故発生の現状と、事故防止の方法を学ぶ。 保育施設において発生した重大事故事例を分析し、事故発生の要因を考える。	
12	保育施設における事故発生時の対応を学ぶ。 事故事例をもとに事故発生直後の対応を検討し、対応方法や職員間の連携について学ぶ。	
13	保育施設における危機管理の重要性を学ぶ。 保育施設における災害の備えについて理解する。	
14	保育施設における感染症対策の具体的な方法を理解する。 病児保育の現状と課題を知る。	
15	正しい手洗いの方法を習得する。（実習） 保育施設における、おう吐時の対応について具体的に学ぶ。（実習）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
予習レポート	40	教科書・資料等を読み、的確に解答しているか。	課題レポート	60	課題について正確に書かれているか。授業内容を踏まえてているか、さらに深められているか。日本語が適切に使われ、誤字・脱字がないか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①予習レポート：教科書、資料の指定された範囲を読み解答する。（30分） ②課題レポート：課題について考えたり、問題の解答をする。（30～90分） ③レポートの提出先はgoogle classroom。締め切りまでに提出できない場合は0点となる。	課題に対してはgoogle classroomから個別にフィードバックする。

受講生に望むこと	①予習や課題レポートが毎回あるが、これらを通して授業内容の理解が深まる。毎回、丁寧に取り組むことを期待する。 ②演習は実際の場面を想定して行う。積極的に取り組んでほしい。	教科書・テキスト	①「子どもの健康と安全」遠藤郁夫／三宅捷太編　学建書院　2021年５月第１版第2刷　ISBN:978-4-7624-0890-8 ②「保育所保育指針解説」フレーベル館　2018年 ISBN:978-4-577-81448-2
指定図書／参考書等	なし／ ①「保育所における感染症対策ガイドライン　2018年改訂版」　厚生労働省　2022（令和4）年10月一部改訂 ②「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」【事故防止のための取組み】～施設・事業者向け～　平成28年3月 ③「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」【事故発生時の対応】～施設・事業者、地方自治体共通～　平成28年3月	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	子どもの食と栄養			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	三田　陽子・俵　万里子　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの食生活は、生涯にわたる心身の健康と生活の基礎となる。保育所は通う子どもが一日の大半を過ごす場である。毎日の食事や食育活動を通して、子どもの健やかな成長を助け、食への興味関心を高めるために重要な役割を担っている。本授業では、保育所等における食生活支援に必要な食に関する基礎知識、食育、食物アレルギー対応について講義と実習を通して学ぶ。	1.健康と食生活のかかわりから望ましい食生活の意義を理解している。特に小児期の食事が生涯にわたる健康につながることを理解している。 2.栄養に関する基本的知識を得ている。 3.乳幼児期の食事について、望ましい形態や量、取り扱い上の留意点を理解している。 4.食物アレルギーへの対応の要点を理解している。 5.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。 6.保育所における食育の意義及び計画・評価の方法を理解している。

教授方法	講義、実習
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子どもの健康と食生活の意義①：食生活と健康のかかわりや子どもの心身の発育・発達と栄養について学習する。（子どもの食生活が成長や健康に大きく関わることを理解する。）	三田
2	子どもの健康と食生活の意義②：子どもの食生活の現状と課題について学習する。（子どもの食生活について問題意識を持てるようになる。）	三田
3	実習①調乳：調乳の操作（無菌操作法）の要点を学習する。（調乳の操作及び冷凍母乳の扱い方を理解する。）	俵
4	実習②離乳食の進め方：離乳初期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳初期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
5	栄養に関する基礎知識①：栄養の概念と栄養素の消化・吸収のしくみについて学習する。（食事と栄養素の関係を理解している。食べたものが体の中にどのように取り込まれ、どのようにはたらくのかを理解する。）	三田
6	栄養に関する基礎知識②：栄養素とそのはたらきについて学習する。（食品に含まれる主な栄養素とそのはたらきを理解する。）	三田
7	実習③離乳食の進め方：離乳中期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳中期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
8	実習④離乳食の進め方：離乳後期の調理形態や食事量の目安、調理や取り扱う上での留意点を学習する。（離乳後期の調理形態や食事量の目安を理解する。出来上がった離乳食を適切に扱うことができるようになる。）	俵
9	栄養に関する基礎知識③：栄養に関する様々な制度のうち、献立作成に関わる制度や基準について学習する。（栄養管理は『日本人の食事摂取基準』に準ずることをはじめ調理法や衛生管理など、献立作成には様々な工夫が必要であることを理解する。）	三田
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養：家庭、児童福祉施設それぞれの食事と栄養について学習し、配慮や支援の方法を理解する。（それぞれの食事と栄養について理解する。配慮や支援の方法にどのようなものがあるか理解する。）	三田
11	実習⑤幼児期の食事：幼児期の咀嚼や食べ方の機能の発達について学習し、食事の形態や食環境への配慮について考える。（幼児期に適した食事の形態や食環境などの配慮と支援方法を理解する。）	俵
12	実習⑥幼児期の食事：幼児期の食事や間食などの適量、組み合わせ、与え方を学習する。（幼児期の正しい食生活のあり方を理解する。）	俵
13	食育の基本と内容①：食育の意義、保育所における食育の位置づけについて学習する。（食育の意義を理解する。保育所の食育に関する指針や目標を理解する。）	三田
14	食育の基本と内容②：食育の計画や評価、環境づくり、保護者支援・地域支援について学習する。（食育の計画と評価の方法を理解する。子どものみならず保護者や地域に向けた食育の必要性について理解する。）	三田
15	実習⑦食物アレルギーへの対応：食物アレルギーの子どもに対し安全に食事を提供するために必要な食品の選択や提供方法について理解する。（食物アレルギーの子どもに対し、安全に食事を提供するための要点を理解する。）	俵

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート（講義）	40	指定の書式を用い、期日までに提出する。要点を理解しているかを評価する。	レポート（実習）	50	指定の書式を用い、調理のポイント、盛り付け図、振り返り、感想を記載する。期日までに提出する。
授業参加状況	10	必要なものを準備し、クラスルールやマナーを守って積極的に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
（講義）シラバスに準じて教科書に目を通し予習して授業に臨む。[20分]課題レポートは復習をしながら取り組む。[20分] （実習）実習レポートは、実習で配布されたプリントやその他の資料も参考にしながら、じっくり取り組む。[60分]	レポートは確認の上返却する。返却されたレポートは保管しておくこと。

受講生に望むこと	①授業を通して子どもの食事と健康だけでなく、自分自身や周りの人の食事と健康について興味関心を高めてほしい。 ②調理実習はグループの仲間と協力しながら積極的に取り組む。 ③私語やスマートフォンの使用、実習室使用上のルールを守らないなどの受講態度が、注意喚起によって改められず授業に重大な悪影響を与えていると認められた場合、退出などの措置をとることがある。	教科書・テキスト	子どもの食と栄養 第3版　保育現場で活かせる食の基本　太田百合子、堤ちはる編著　羊土社　2025年　ISBN 978-4-7581-2103-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	別途調理実習費が必要となる。開講までに教材室を通して納めること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家庭支援論			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感を抱く家庭を支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である、育てにくさや障害のある子ども、子ども虐待、ひとり親家庭、ステップファミリー、外国籍の家族などへの具体的支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。	①家庭の意義とその機能について理解している。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 ③子育て家庭の支援体制について理解している。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。 ⑤保育ソーシャルワークの基礎を理解している。

教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション
履修条件	「子ども家庭福祉論Ⅰ」を履修済であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	子ども家庭支援の役割	
2	子どもや子育て家庭の育ちと社会の変容	
3	保育士が担う子ども家庭支援の基本姿勢と倫理	
4	保育所を利用する全ての子育て家庭を対象とした支援	
5	保育所を利用する特別な配慮を必要とする子育て家庭への支援	
6	地域の子育て家庭への支援	
7	保育所等を利用していない子どもを対象とした支援	
8	社会的養護を必要とする家庭への支援	
9	子ども家庭支援に関わる法・制度	
10	子ども家庭支援における社会資源との連携	
11	子ども家庭支援に関する事例検討(1)	
12	子ども家庭支援に関する事例検討(2)	
13	子ども家庭支援に関する事例検討(3)	
14	子ども家庭支援に関する事例検討(4)	
15	子ども家庭支援に関する事例検討(5)	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	講義内容を理解している。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	リアクションペーパー	40	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらず、意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業終了後に自身で振り返りを行う。次回授業のための予習、課題に取り組む。	必要に応じて、レポートやリアクションペーパーにコメントする。

受講生に望むこと	自らが保育や教育現場等において、家族支援を行うことを想定し、講義に臨んでもらいたい。	教科書・テキスト	『よくわかる子ども家庭支援論』橋本真紀・鶴宏史編著　ミネルヴァ書房　2021年　ISBN:9784623092017
指定図書／参考書等	なし／『保育者が学ぶ子ども家庭支援論』植木信一 編著　建帛社　2019年　ISBN:9784767951096	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	乳児保育Ⅰ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。 乳児保育の意義や目的、役割を理解し、成長や発達の特性を理解する。また、低年齢児の発育、発達を踏まえた援助や関わりについて学び、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解している。 ②保育所・乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解している。 ③3未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について考えることができる。 ④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解している。

教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ・赤ちゃんの不思議、赤ちゃんの親になるということは人や家庭にどのような変化をもたらすのか考える。 ・乳児とは何か。乳児保育はなぜ必要なのか、乳児保育の意義を知る。	
2	乳児保育の理念と概念 乳児保育の理念と目標について学ぶ。「三つの視点」から述べられる「ねらい」により、この時期に育てたいことについて考え、「特定の他者」の重要性を知る。	
3	乳児保育の歴史について ・日本の乳児保育の始まり ・諸外国における保育、幼児教育の現状と諸施設の機能等について学ぶ。	
4	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり（1） ゼロ歳児（生後6か月未満児）：身体・運動的発達の特徴・生活リズム（睡眠・食事・排泄）・遊びをとらえる。	
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり（2） ゼロ歳児（生後6か月以上）から1歳3か月未満児：発達と保育内容を考える。言葉の発達に注目して、やりとりの中で育つ言葉・この時期の大人の役割について考える。	
6	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（1） 1歳児（1歳3か月から2歳未満児）：生活リズム（睡眠・食事・排泄・着脱）をとらえる。 自我の育ち「イヤ」「ジブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して考える。	
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（2） 2歳児とは：生活リズム（食事・生活習慣の確立に向けて）をとらえる。意欲の発達に注目する。 言葉の発達「考えることの始まり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲良し」について理解する。	
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容（3） 乳幼児の戸外遊び、自然遊びの事例から発達をとらえ、環境について考える。安全、衛生面の配慮と見守りについて考える。	
9	保育所・認定こども園における乳児保育（1） 保育所、認定こども園における乳児の生活の流れについて知る。	
10	保育所・認定こども園における乳児保育（2） ・保育所、認定こども園、各施設について機能や保育体制等について知る。 ・乳児保育の物的環境や人的環境について考える。	
11	乳児保育における配慮事項 乳幼児期の特別な配慮が必要な子どもへの支援について考える。	
12	乳児保育における全体的な計画について 省察・評価から再計画の往還について理解する。	
13	保護者とのパートナーシップ：乳児保育における保護者支援について考える。保護者と共に子どもの育ちを喜び支えるために必要となる連携のあり方を考える。	
14	乳児保育における保育士等の関わりについて：子どもの行為の意味を理解しようとし、適切な関わりについて考える。また、職員間の連携、地域の関係機関との連携について学ぶ。	
15	乳児保育の現状と課題：乳児保育の実践における課題点、子育て家庭に対する支援、支援をめぐる社会的状況の課題点について考え、多様な保育、支援の場があることを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に対して積極的に参加し、グループワーク等に協働的に取り組む姿勢。	課題	40	乳児保育について適切な資料を活用して調べ、丁寧にまとめられている。
定期試験	30	乳児保育についての基本的な理解を問うもの。授業内で学んだことや自分で学習したことを含め総合的に理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・自分の出生に関する資料（母子手帳・保育所等の成長記録等）を見たり、自身のことを知る人たちに乳幼児期のことを尋ねたりして成長過程を知る。[60分] ・乳児を対象とした歌遊びやふれあい遊びについて考え、学んでおく。[120分]	前回授業について振り返り、補足、助言を適宜行う。また、課題については授業内にて学びを共有していく。

受講生に望むこと	・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。 ・授業で学ぶ乳幼児の姿に心を動かし、イメージしながら受講してほしい。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編　フレーベル館（2018年）ISBN978－4－577－81448―2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府　文部科学省　厚生労働省（2018年）ISBN978-4-577-81449-9
指定図書／参考書等	なし／なし（必要な資料は随時配布する。また、薦めたい良書については授業内にて紹介する。）	その他・特記事項	・本科目は保育士資格取得に関わる内容である。「子どもの保健」「保育者論」等の授業と関連づけながら乳幼児期の保育について学びを深めていきたい。 ・授業内容及び課題等をClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

保育教諭、子育て支援の経験をもとに、乳児保育の意義や役割について現代の課題と共に歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオ映像や保育事例を通して伝えながら、乳児期における適切な環境のあり方と人との関わりの質について考えていく。

授業科目名	乳児保育Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
乳児（３歳未満児）は、一人では生きられず、身近な大人に支え見守ってもらうことを通して、生活習慣を獲得していく。そのため、保育者は３歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方と具体的な支援の仕方を理解する必要がある。ここでは、乳児保育Ⅰの知識を基に、乳児（３歳未満児）の「基本的生活習慣の獲得と支援」や「子どもの生活や遊びを支える環境」を学ぶ。また、個々（集団）に適した援助を行うための指導計画の作成と評価について学ぶ。	1.3歳未満児の発育・発達過程を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2.3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3.乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4.乳児保育における計画の作成（個別・集団等）や評価について、具体的に理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	乳児保育Ⅰを修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育における「乳児保育」の重要性（意義・目的）について理解する。（乳児保育Ⅰ：講義の復習）	
2	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：生活リズム（睡眠のリズム）をつかみ援助することと、排泄の自立支援を理解する。	
3	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：乳幼児の食べる機能の発達と自立支援を理解する。	
4	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：抱き方とおむつ交換の方法を習得する。「演習」	
5	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：清潔（手洗い、うがい）・衣服・靴の自立支援を理解する。	
6	3歳未満の心身の健康と安全、情緒の安定を図るための配慮：子どもの健康・安全に関する事故や事件からその要因を理解し、防止策を考える。	
7	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：調乳と授乳の方法を習得する。「演習」	
8	3歳未満児の主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。：①積極的・意欲的だけでなく、拒否する権利を受け止めた関わりと環境について考える。	
9	3歳未満児の主体性を尊重した生活と遊びの展開について理解する。：②子ども同士の関わりとその環境について考える。	
10	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ICTを活用してのドキュメンテーションの作成を行う。	
11	個別的な指導計画と集団の指導計画について：ドキュメンテーションを基に計画を見直しや評価を行う。	
12	環境の変化や移行に対する配慮：人的・物的・空間的環境から考える。	
13	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：①沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「演習」	
14	3歳未満児の基本的生活習慣の獲得と自立支援について理解する：②沐浴と衣服の交換の方法を習得する。「演習」	
15	動画（実際の乳児の保育の場面）を視聴し、3歳児未満児の体験と学びの援助を考える。（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	講義・演習への取り組み姿勢 ディスカッションや演習に主体的かつ積極的に参加をしている。	演習レポート	40	演習についての支援方法や注意点が理解されている。丁寧でわかりやすく記載されている。
試験	30	基本的な知識を理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、授業後に復習を行う【30分】 ②ドキュメンテーションの作成を行う【90分】 ③乳児保育に関する資料を読む【60分】	・提出された課題を授業で反映する。 ・必要に応じて他の学生の課題を見せ合う。

受講生に望むこと	授業内容を考え、服装や容姿を整えて参加する。	教科書・テキスト	『改訂 乳児保育:一人ひとりが大切に育てられるために』　吉本和子　郁洋舎　2023年 ISBN:978-4-910467-11-5
指定図書／参考書等	なし/必要に応じて随時提示する。	その他・特記事項	連絡事項はClassroomで配信する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	障がい児保育			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
障害の有無に関わりなくすべての人々が共生する、インクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育が重要である。本科目では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深めていきたい。さらに、障害のある子を含むクラスにおける保育や当該児の周囲の子どもたちへの援助など、インクルーシブ保育の実際について理解を深めていく。また、障害児を持つ保護者やきょうだいの思いに触れ、家庭への援助とともに地域社会の理解を踏まえ関係機関との連携の在り方についても考えていく。 ※SDGs目標番号4、10関連科目	①障害者権利条約や改正障害者基本法、障害者差別解消法などをベースとして、新しい障害概念を理解する。 ②障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのより良い関わり方について理解する。 　障害のある子の育ちの援助の実際について理解する。 ④障害のある子の家族の心理とその援助について理解する。 ⑤障害のある子とない子が共に育ち合う、インクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：自分と障害児の関わりについて振り返る。 障害児保育を支える理念（1）：「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷	
2	障害児保育を支える理念（2）：地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解	
3	障害児等の理解と保育における発達の援助（1）：肢体不自由児の理解と援助	
4	障害児等の理解と保育における発達の援助（2）：知的障害児の理解と援助	
5	障害児等の理解と保育における発達の援助（3）：視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助	
6	障害児等の理解と保育における発達の援助（4）:発達障害児の理解と援助（ADHD・LD・ASD）	
7	重症心身障害児・医療的ケア児・その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助	
8	指導計画および個別の支援計画の記載内容を理解し、作成を試みる。作成後の活用の仕方を考える。	
9	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士の関わり・育ち合い 保育者が考慮すべき具体的な関わりや環境構成について考える。	
10	障害児保育における子どもの健康と安全について学ぶ。	
11	職員間の連携・協働 インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について考える。	
12	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援 障害のある子の保護者の心理について理解を深める。	
13	保育施設が地域の専門機関との連携に求めるニーズの現状を知り、専門機関との連携のシステムを知る。	
14	就学に向けて、当該児の思いを理解し、小学校との連携の在り方を学ぶ。	
15	障害児の支援として地域で育ち、地域で暮らせるよう、地域との連携の意義や課題について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	30	授業に対して積極的に参加し、グループワーク等に積極的、協働的に取り組む姿勢。	課題	40	①テーマについて適切な資料を活用して調べ、丁寧にまとめられている。 ②グループ発表の際にはわかりやすくまとめ発表されている。
定期試験	30	障害児保育についての基本的な理解を問うもの。授業内で学んだことや自分で学習したことを含め総合的に理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・これまでの自分と障害児との関わりについて振り返る。［60分］ ・出題される課題について資料等を参考にしながらレポートを作成する。［120分］	前回授業について振り返り、補足、助言を適宜行う。また課題については授業内にて学びを共有していく。

受講生に望むこと	・新しい障害概念を理解すること。そのうえで障害のある子を大切な一人の子どもとして受け止めるために基本的な人間観や保育観を身につけ、その育ちの援助の実際について深く学んでほしい。 ・よい保育者、教育者になるために、自分を見つめる姿勢を養ってほしい。 ・障害をもつ子どもやその家庭の個人情報を扱う場合もあるので、授業で知り得た情報の取り扱いは十分に注意してほしい。	教科書・テキスト	新基本保育シリーズ17『障害児保育』監修　公益財団法人　児童育成協会　編集　西村重稀　水田敏郎　2021年　中央法規　ISBN978-4-8058-5797-7C3036
指定図書／参考書等	なし／『共に生き、共に育つ』徳田茂　ミネルヴァ書房　2019年 ISBN978 -4-623-08775-4	その他・特記事項	授業または課題をclassroomに投稿し、参加、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

保育の現場で関わってきた障がいのある子どもたちの姿や当該児を含むクラスの子どもたちとの事例を提示し、多様な子どもたちの立場で感じたり考えたりする機会を大切にしている。インクルーシブ保育の実現に向け、支援の在り方を考え、当該児や保護者のよき理解者となれるよう学び合っていく。

授業科目名	器楽入門			開講学科	幼児教育	必修・選択	自由
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
保育・教育現場において、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」、保育者・教諭には多様な楽器の演奏技術が求められる。本科目では、旋律楽器（ピアノ）の演奏に必要な基礎知識と入門レベルの演奏技術を習得する。授業はグループレッスン形式で行い、初学者向けテキストや子どものうたを用いて奏法を学ぶ。ピアノの両手奏や読譜に不安がある学生にとって、音楽系科目を履修するための準備となる科目である。	①ピアノ演奏に必要な基礎知識を習得する。 ②音符・休符・基本的な記号の役割を理解し、楽譜を正しく読めるようになる。 ③楽譜を正しく読み取り、リズム奏ができるようになる。 ④ピアノで両手奏を習得し、演奏できるようになる。 ⑤発表の機会を通じて、実践的な演奏の準備について考えられるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	ピアノの両手奏を習得できていない者／簡単な弾き歌いを習得できていない者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価方法等について、シラバスを通して理解する。音楽に関する調査を行う。音楽理論Ⅰ：楽譜の基礎知識について理解する。ピアノを弾く姿勢、座り方、手のかたち等奏法の基本を習得する。指のトレーニングⅠ：２本・3本・4本・5本の指を使った演奏技術を習得する。	
2	音楽理論Ⅱ：音符と休符について理解する①。指のトレーニングⅡ：２本・３本・４本・５本の指を使った平行進行の演奏技術を習得する。ハ長調の重音の演奏技術を習得する①。ピアノ曲Ⅰ：STEP1 B14を習得する。	
3	音楽理論Ⅲ：音符と休符について理解する②。指のトレーニングⅢ：３度の音程をとる演奏技術、２本の指を広げる演奏技術を習得する。ハ長調の重音の演奏技術を習得する②。ピアノ曲Ⅱ：STEP1 B14、B18を習得する。弾き歌いⅠ：「かえるのがっしょう」の歌唱及びピアノ伴奏を習得する。	
4	音楽理論Ⅳ：拍子について理解する。指のトレーニングⅣ：指をくぐったり、またいだりする演奏技術を習得する。ハ長調の重音の演奏技術を習得する③。ピアノ曲Ⅲ：STEP1 B14、B18、B23を習得する。弾き歌いⅡ：「かえるのがっしょう」の弾き歌いを習得する。	
5	音楽理論Ⅴ：奏法に関する記号について理解する。指のトレーニングⅤ：２本の指を寄せる演奏技術、同じ音で指を変える演奏技術を習得する。ハ長調の基本となる三和音を習得する①。ピアノ曲Ⅳ：STEP1 B18、B23、B25を習得する。弾き歌いⅢ：「ロンドン橋」の歌唱及びピアノ伴奏を習得する。	
6	音楽理論Ⅵ：速度記号、強弱記号について理解する。指のトレーニングⅥ：より機能的な運指について確認する。ハ長調の基本となる三和音を習得する②。ピアノ曲Ⅴ：STEP1 B23、B25、B29を習得する。弾き歌いⅣ：「ロンドン橋」の弾き歌いを習得する。	
7	音楽理論Ⅶ：変化記号について理解する。指のトレーニングⅦ：ハ長調の音階について理解し、演奏技術を習得する。ハ長調の基本となる三和音を習得する③。ピアノ曲Ⅵ：STEP1 B25、B29、B30を習得する。弾き歌いⅤ：「ロンドン橋」の弾き歌いを発表する。	
8	音楽理論Ⅷ：これまでに学修した音楽の基礎知識について確認する。指のトレーニングⅧ：ト長調の音階について理解し、演奏技術を習得する。ハ長調の基本となる三和音を習得する④。ピアノ曲Ⅶ：STEP1 B29、B30、B31を習得する。弾き歌いⅥ：「こぎつね」の歌唱及びピアノ伴奏を習得する。	
9	指のトレーニングⅨ：ヘ長調の音階について理解し、演奏技術を習得する。ピアノ曲Ⅷ：STEP1 B29、B30、B31を習得する。ハ長調の基本となる三和音を習得する⑤。弾き歌いⅦ：「こぎつね」の弾き歌いを習得する。	
10	ピアノ曲Ⅸ：STEP1から発表曲2曲を選曲し、演奏技術を高める。弾き歌いⅧ：「こぎつね」の弾き歌いを発表する。	
11	ピアノ曲Ⅹ：発表曲①の個人指導を受け、必要な演奏技術を習得する。発表曲②を習得する。弾き歌いⅨ：弾き歌い発表曲を1曲選曲し、弾き歌いの技術を高める。	
12	ピアノ曲Ⅺ：発表曲①を仕上げる。発表曲②の個人指導を受け、必要な演奏技術を習得する。弾き歌いⅩ：弾き歌い発表曲を習得する。	
13	ピアノ曲Ⅻ：発表曲①②を仕上げる。弾き歌いⅪ：弾き歌い発表曲の個人指導を受け、必要な演奏技術を習得する。	
14	発表Ⅰ：STEP1の発表曲①を発表する。弾き歌いⅫ：弾き歌い発表曲を仕上げる。	
15	発表Ⅱ：STEP1の発表曲②を発表する。弾き歌いを発表する。 「器楽Ⅰ」に向けての説明を聞き、練習計画を立てる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	授業への取り組み姿勢。	発表	30	発表への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎授業で出される課題を演奏できるように、毎日練習すること。[90分]	コメント又は個人指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題を習熟できるように、練習に取り組むこと。 ②ピアノプラクティスルームを利用し、僅かな空き時間を有効活用するなど工夫して、毎日継続してピアノを練習すること。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、2017、ISBN978-4-87446-064-1.『初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.プリント
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	器楽Ⅰ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・種池　有美子・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中でも、旋律楽器（ピアノ）を中心に、演奏の基礎知識と技術を習得する。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは、ピアノ演奏や弾き歌いの基礎知識と演奏技術の習得を目指し、テキストを用いて学ぶ。個人レッスンでは、個々の技能向上を目的とし、各自に応じたピアノ曲と子どものうたの弾き歌いを学ぶ。また、様々な音楽に触れることで豊かな表現力を養い、子どもの発達に応じた弾き歌いの技術を習得することを目指す。	①ピアノ演奏に必要な基礎知識を習得し、正確に読譜できるようになる。 ②様々な音楽に触れ、演奏に必要な豊かな表現力を養う。 ③コードネームを理解し、簡易伴奏をつけられるようになる。 ④発表の機会を通じて、演奏準備の重要性を理解し、実践できるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	「器楽入門」を履修した者、または、バイエルピアノ教則本46番以上を演奏できる者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について理解する。音楽に関する調査を行う。 譜表・音符と休符・音名・拍子について理解する。『初級ピアノ・テクニック速習ステップス』STEP1の曲を演奏し、基礎的な演奏技術を確認する。	武田
2	強弱・速度・奏法に関する音楽用語と記号について確認する。旋律の演奏に必要な基礎的なピアノ演奏技術を習得する。弾き歌いの演奏法について理解する。 各自に応じたピアノ曲、子どものうたを読譜する。	武田
3	クラス授業：ハ長調の音階と主要三和音のコードネームについて理解する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、子どものうたⅠ	各担当教員
4	クラス授業：ハ長調の主要三和音を用いた4つの和音進行を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、子どものうたⅡ	各担当教員
5	クラス授業：弾き歌い発表Ⅰ。ト長調の音階と主要三和音のコードネームについて理解する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、子どものうたⅢ	各担当教員
6	クラス授業：ト長調の主要三和音を用いた4つの和音進行を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、子どものうたⅣ	各担当教員
7	クラス授業：ハ長調とト長調の「子どものうた」のコード奏を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、子どものうたⅤ	各担当教員
8	発表Ⅰ：各自に応じたピアノ曲、弾き歌い（暗譜）を発表する。	全員
9	クラス授業：ハ長調、ト長調の主要三和音を用いた和音進行の発表。ヘ長調の音階と主要三和音のコードネームについて理解する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、子どものうたⅥ	各担当教員
10	クラス授業：ヘ長調の主要三和音を用いた4つの和音進行を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、子どものうたⅦ	各担当教員
11	クラス授業：弾き歌い発表Ⅱ。二長調の音階と主要三和音のコードネームについて理解する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、子どものうたⅧ	各担当教員
12	クラス授業：二長調の主要三和音を用いた4つの和音進行を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、子どものうたⅨ	各担当教員
13	クラス授業：ヘ長調と二長調の「子どものうた」のコード奏を習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、子どものうたⅩ	各担当教員
14	発表Ⅱ：各自に応じたピアノ曲、弾き歌い（暗譜）の発表。	全員
15	クラス授業：ヘ長調、二長調の主要三和音を用いた和音進行の発表。ハ長調・ト長調・ヘ長調・ニ長調の子どものうたのコード奏演習。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅺ、子どものうたⅪ	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢。	発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。	クラス授業内発表	30	発表への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①クラス授業で学んだ課題を習熟できるように、毎日練習すること。[30分] ②個人レッスンで出された、各自に応じたピアノ曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習すること。[60分]	コメント又は個人指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をＣＤなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べること。 ③毎日のピアノ練習時間を確保するために、僅かな空き時間を有効活用するなどの工夫をすること。 ④発表に向けて計画的に練習し、準備すること。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー』木許隆監修・編著、圭文社、 2017、ISBN978-4-87446-064-1.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆，武田恵美，長井典子編著，圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	器楽Ⅱ			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美・種池　有美子・福田　真紀　（代表教員　武田　恵美）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「器楽Ⅰ」で身につけた個々の技能をさらに高め、実践的な演奏能力を養うことを目的とする。保育現場や小学校の授業で求められる弾き歌いや伴奏法の理解を深め、保育現場や初等教育で扱われる楽曲を用いて、実践に必要な知識と技能を身につける。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは、より豊かな表現力を養い、課題を通して演奏技術をさらに向上させる。個人レッスンでは、各学科の特性に応じた楽曲を学び、より実践的な演奏技術の向上を目指す。	①ピアノ演奏に必要な基礎知識を習得し、楽譜の指示に応じた表現で演奏できるようになる。 ②様々な音楽に触れ、曲想に応じた演奏表現ができるようになる。 ③コードネームを理解し、小学校音楽科の共通教材や子どものうたの弾き歌いを演奏できるようになる。 ④様々なリズムの特徴を理解し、リズムに応じた適切な演奏ができるようになる。 ⑤発表の機会を通じて、演奏準備を計画的に進め、本番に向けて仕上げられるようになる。

教授方法	講義、演習及び実技指導
履修条件	「器楽Ⅰ」を履修した者、または、バイエルピアノ教則本80番以上を演奏できる者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。各自に応じたピアノ曲、リズム曲、弾き歌いの課題を理解し、練習計画を立てる。リズム曲の演奏法について学び、実践する。	武田
2	曲想・奏法に関する用語・記号について楽譜を通して理解を深め、様々な演奏技術を習得する。 変ロ長調の音階と主要三和音のコードネームについて理解し、主要三和音を用いた4つの和音進行を習得する。	武田
3	クラス授業：変ロ長調の主要三和音を用いた和音進行の発表。ハ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅰ、リズム曲Ⅰ、子どものうたⅠ	各担当教員
4	クラス授業：ハ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅱ、リズム曲Ⅱ、子どものうたⅡ	各担当教員
5	クラス授業：弾き歌い発表Ⅰ。ト長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅲ、リズム曲Ⅲ、子どものうたⅢ	各担当教員
6	クラス授業：ト長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅳ、リズム曲Ⅳ、子どものうたⅣ	各担当教員
7	クラス授業：ハ長調・ト長調の子どものうたのコード伴奏付けを確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅴ、リズム曲Ⅴ、子どものうたⅤ	各担当教員
8	発表Ⅰ：各自に応じたピアノ曲、リズム曲、弾き歌い（暗譜）を発表する。	全員
9	クラス授業：ヘ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅵ、リズム曲Ⅵ、子どものうたⅥ	各担当教員
10	クラス授業：ヘ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅶ、リズム曲Ⅶ、子どものうたⅦ	各担当教員
11	クラス授業：弾き歌い発表Ⅱ。ニ長調のコード伴奏の発展として、様々な伴奏パターンを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅷ、リズム曲Ⅷ、子どものうたⅧ	各担当教員
12	クラス授業：ニ長調の子どものうたのコード伴奏付けを習得する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅸ、リズム曲Ⅸ、子どものうたⅨ	各担当教員
13	クラス授業：ヘ長調・ニ長調の子どものうたのコード伴奏付けを確認する。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲Ⅹ、リズム曲Ⅹ、子どものうたⅩ	各担当教員
14	発表Ⅱ：各自に応じたピアノ曲、リズム曲、弾き歌い（暗譜）を発表する。	全員
15	クラス授業：即興演奏の方法について学ぶ。 個人レッスン：各自に応じたピアノ曲XI、リズム曲XI、子どものうたXI	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢。	発表Ⅰ	30	発表への取り組みと内容。
発表Ⅱ	30	発表への取り組みと内容。	クラス授業内発表	30	発表への取り組みと内容。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①クラス授業で学んだ課題を習熟できるように、毎日練習すること。[30分] ②個人レッスンで出された、各自に応じたピアノ曲、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを演奏できるように、毎日練習すること。[60分]	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ曲をＣＤなどで聴き、わからない音楽用語や記号は調べること。 ③毎日のピアノ練習時間を確保するために、僅かな空き時間を有効活用するなどの工夫をすること。 ④発表に向けて計画的に練習し、準備をすること。	教科書・テキスト	『うたのファンタジー 』木許隆監修・編著、圭文社、 2017、ISBN978-4-87446-064-1.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆，武田恵美，長井典子編著，圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	身体表現			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	丸井　一誠						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
子どもの発育発達や運動機能、そして身体表現に関する内容を理解したうえで、運動遊びや身体表現活動の実践に必要な基礎的技能や指導力を身につける。また、身体を積極的に動かす経験を通して健康・安全について理解し、子どもと共に楽しく明るい健康な生活を営むための内容と方法について学ぶ。 ※SDGs目標番号4、5関連科目	①自ら積極的に身体を動かすことができるようになる ②子どものための身体運動または身体表現を理解し、創発することができる

教授方法	対面授業による演習
履修条件	保育士資格取得希望者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法 「身体表現」について考える。	
2	幼児期運動指針と指導法	
3	身体運動を創発する環境と安全	
4	保育計画と評価	
5	実技　身体運動・表現を通じて友達と運動を楽しむ資質の基礎を育む	
6	模擬保育①　走ることを中心とした運動遊び	
7	模擬保育②　跳ぶことを中心とした運動遊び	
8	模擬保育③　投げることを中心とした運動遊び	
9	模擬保育④　蹴ることを中心とした運動遊び	
10	模擬保育⑤　教具を用いた運動遊び	
11	模擬保育⑥　身近なものを用いた運動遊び	
12	模擬保育⑦　単純な鬼遊び	
13	模擬保育⑧　役割分担をともなう鬼遊び	
14	模擬保育⑨　音を用いた身体表現遊び	
15	ふりかえりとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	授業への取り組み姿勢	模擬保育	30	伝え方、活動内容、相互作用、指導に向かう態度
課題の提出	20	授業内奥を踏まえ、基本的な項目に対して適切な表現で伝えることができているか 提出期限を守ることができるか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
子どもの運動に関する情報に興味を持つ ①ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する［60分］ ②子どもの明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か常に考える［60分］	課題等は理解度の把握に利用し、授業の中で振り返りと確認を行う。

受講生に望むこと	子どもが明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分は大人として、将来の保育者としてどのようにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講してください。積極的な授業参加をのぞみます。	教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する
指定図書／参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。	その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	児童文化			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。	①わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。 ②子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。 ③わらべ唄の音楽的特徴を理解している。 ④昔話の特徴を理解している。 ⑤子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。 ⑥ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。 ⑦ストーリーテリングを実際に経験している。 （他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。）

教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。（体験が難しい場合は、DVDを視聴する）　伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。	
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。	
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたって聞かせることが子どもの言語発達にとって重要であると知る。	
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。	
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。	
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力（リズム感・聴感）を意識した課業を考える。	
7	わらべ唄を課業に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課業案を立てることが大切だと認識する。	
8	昔話とは何か（昔話の分類）：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。	
9	昔話とは何か　（昔話の語り口　1）：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴（一次元性、孤立性、平面性）について例をあげて解説する。	
10	昔話とは何か　（昔話の語り口　2）：引き続き、昔話の語りの特徴（固定性、極端性、抽象的様式）について例をあげて解説する。	
11	昔話とは何か　（昔話の残酷性）：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。	
12	昔話とは何か　（昔話に込められたメッセージ）：昔話には民衆の人間観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。	
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。フェルトを使った動物の人形の製作方法を確認する。	
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。	
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を追体験したり消化したりできることを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。	授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内での質問に対しての発言も考慮する。
試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってもらう。[1ケ月以上、各自覚えられるまで] 各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してもらう。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業に臨んでほしい。[90分以上]	①発表の際にコメントする。 ②評価やコメント等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれる。動きやすい服装で参加することを望む。	教科書・テキスト	『わらべうたと子どもの育ち』 木村はるみ著　エイデル研究所　2019年 ISBN：9784871686334 ※教科書は授業時に販売予定
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	絵本論			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	山下　のぞみ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。	①絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 ②絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 ③月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 ④子どもの興味と絵本の関わりを知る。 ⑤現在の絵本の多様性を知る。

教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。	
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。	
3	赤ちゃん絵本からストーリー性のある絵本へ：言葉体験と物語展開について考える。	
4	ストーリー性のある絵本：子どもの心の解放、物語の結末などの視点から、読み継がれてきた絵本を考察する。	
5	昔話絵本：エウゲーニー・Ｍ・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウン、赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。	
6	絵本の変遷：「子ども」の概念の誕生から、絵本がどのような変遷をたどったか、ナンセンス絵本までを解説する。	
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。	
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。	
9	乗り物絵本・写真絵本：縦書きから、横書きへと絵本が変わる際の、乗り物絵本について解説する。写真絵本『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエペはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。	
10	絵本論から学ぶ①　モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。	
11	絵本論から学ぶ②　松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のカラス」を例に考察する。グループで昔ばなし絵本について発表する。	
12	絵本の絵を読むとは：林明子の作品を取り上げ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。	
13	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する。行事を描いた作品も取り上げる。	
14	読み手として絵本から学ぶこと：子どもに絵本を読むことで、絵本が教えてくれることについて考える。	
15	読者の広がりと絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。 そのような絵本を取り上げ、考察する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちに読んであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出する。	グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を４～５冊選び、伝承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表する。グループごとにレポートも提出する。
授業参加態度	20	授業の中で絵本の読み聞かせをする。読み聞かせを聞く姿勢も評価する。他の学生からの評価に対する意見を提出する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成する。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] ②授業中に取り上げた絵本のリストを作成する。[授業修了までに絵本論などを読んで作成する]	①発表の際にコメントする。 ②絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却する。

受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読むことを期待する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要

本授業では、保育士資格を得るために必要な「保育実習Ⅰ（施設）」を行うための事前指導と事後指導からなっている。
事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障害者や子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。
事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである「保育実習Ⅲ（施設）」（選択科目）に臨む。

授業の到達目標

①保育実習（施設）の意義と目的を理解している。
②実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。
③実習施設（施設）における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。
④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。
⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。

教授方法	講義・演習、ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、事前訪問、実習報告会等
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。幼児教育・保育コース以外の学生は履修できない。「子ども家庭福祉論Ⅰ」、「社会的養護」、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習の意義、授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。	全員
2	個人票を作成する。施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。	全員
3	実習施設（社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設）の種別と概要について理解する。	全員
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。	全員
5	入所・利用している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係（対家族、対職員、対利用者）について理解する。	全員
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、資料等からの学びの後グループ内でディスカッションを行う。	全員
7	配属予定の施設（種別）について調べた資料に基づいてグループでディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。	全員
8	これまで受講してきた授業（子ども家庭福祉論Ⅰ、社会福祉、社会的養護など）の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。	全員
9	実習ファイルおよび作成書類（事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など）を配付し、記入上の説明を行う。	全員
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の留意事項を学ぶ。	全員
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。	全員
12	実習先施設の養育支援や方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。	全員
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとで行う資料等の学びの後、要点などを確認する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。	全員
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。	全員
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
施設理解	40	①施設の基本的機能を理解している。②施設保育士の職務や保育を理解している。③実習報告会の内容が充実している。	課題提出	40	①課題を期日までに提出する。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習計画を作成することができる。④実習記録の記載方法を正しく理解している
講義への取り組み姿勢	20	演習科目であり、無断欠席、遅刻、受講姿勢などに問題がある場合は減点対象となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

①事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポート作成する。
②実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。
③実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを充分に体験しておく。
④実習報告会に向け、実習体験からの省察を行う。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

事後指導において、実習内容などの講評を行う。

受講生に望むこと	①施設保育士は児童福祉施設や障害者福祉施設の入所者・利用者の人権に直接かかわる業務であることを十分に認識して授業に臨む。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。 ②「子ども家庭福祉論Ⅰ」「社会的養護」の授業と関連付けて理解するための復習を行う。	教科書・テキスト	『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』河合高鋭・石山直樹編　みらい　2020年　ISBN:9784860155032
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	実習に関する科目であり、真摯な受講態度を求める。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習Ⅰ（施設）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
居住型および通所型の児童福祉施設（社会的養護の施設）もしくは障害者福祉施設において、90時間（約10日間）以上の実習を行う。利用者と生活及び作業などをともにすることで、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で取り組まれている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。	①実習施設について理解している。 ②養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 ③子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 ④支援計画を理解している。 ⑤生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 ⑥職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 ⑦施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 ⑧「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 ⑨保育士としての職業倫理を理解している。 ⑩安全および疾病予防への配慮について理解している。

教授方法	配属施設において、宿泊もしくは通勤による「10日間以上」及び「90時間以上」の実習を行う。
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。「保育実習指導Ⅰ（施設）」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約10日間）以上の実習において、下記の内容を行う。	
	施設での一日の流れを理解する。	
	施設の役割と機能について理解する。	
	子ども・利用者を観察し、記録する。	
	子ども・利用者の個々の状態に応じた適切な支援やかかわり方について考察し実践する。	
	実習計画に基づき活動し、支援を行う。	
	子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。	
	子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。	
	子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。	
	支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。	
	実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。	
	施設保育士の業務内容を体験的に理解する。	
	職間の役割分担や他職種職員との連携について体験的に理解する。	
	施設の年間計画や行事について理解する。	
	施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する	巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回担当教員によるヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	30	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「修了レポート」等の内容評価			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。 ②実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。	施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。

受講生に望むこと	事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。	教科書・テキスト	『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』河合高鋭・石山直樹編　みらい　2020年　ISBN:9784860155032
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習Ⅰ（保育所実習2単位）を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本姿勢、年齢・発達の段階に応じた子ども理解・実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後実習では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲに臨む。	①保育実習の意義と目的を理解している。 ②保育所の役割と機能を理解している。 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。 ③子ども（一人一人）の発達過程や生活の流れを理解し、個に応じた関わりや集団における関わりについて理解している。 ④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。 ⑥実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。

教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレ実習と事前訪問・実習報告会等
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修中、「保育実習Ⅰ（施設）」を履修済み、履修中または履修予定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習Ⅰ（施設）、教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）を通しての自己の学び（課題）を振り返る。 保育実習の意義（1）：実習の意義と目的、保育実習の概要の説明 教育プラザ富樫におけるプレ実習日の確認	
2	教育プラザ富樫でのプレ実習説明会 外部講師による講話：子育て支援施設の役割と施設職員の役割について、子ども（乳幼児）や保護者との関わりについて プレ実習日誌の書き方を理解する。	
3	保育実習の意義（2）授業概要の説明、実習の内容と課題、保育士の責務について 実習の意義と目的、保育実習の概要、実習の内容と課題、保育士の責務について	
4	子どもの人権や最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務について： 『全国保育士会倫理綱領学習シート』をもとに学び、実習生の心構えを確認する。	
5	教材作成について（1）：手作り教材の意味と選ぶポイントについて 指導計画の立案について（1）：指導計画の意味と作成のポイントについて理解する。	
6	教育プラザでのプレ実習：観察、記録及び評価 ・子どもや保護者との関わりについて実地から学ぶ。 ・年齢別の発達の違いや個性について実地から学ぶ。	
7	実習園事前訪問とオリエンテーション（実習園プレ実習日）： ・実習先の保育方針、概要を理解する。 ・実習担当クラスの乳幼児の発達・年齢に合わせた関わりを考える。	
8	実習における計画と記録（1）時系列日誌について：記入する目的、記入の仕方 個と集団の観点から教育実習（幼稚園）との共通点と異なる点について学ぶ。 指導計画の立案について（2） ・指導計画の作成のポイントを復習する。	
9	保育実習Ⅰ（保育所）の目的、概要、事前訪問（オリエンテーション&プレ実習）、実践内容（教材・手作り玩具・遊び等・指導計画）、部分実習について確認をする。	
10	実習における計画と記録（2） エピソード記録日誌について：記入する目的，記入の仕方，時系列日誌との違い 教材作成について（2） 手作り教材作成のポイントと実習担当クラスの子どもの発達・年齢に応じた教材とその関わりを考える。	
11	保育施設職員との学び合い（外部講師） ・保育施設職員が大切にしていることについて。（保育士の資質） ・年齢別保育と異年齢保育の違いについて ・保育現場が考える保育実習の意義について（実習生に求めるもの）	
12	直前指導/実習内容や準備物・配布物の確認 ・教育実習（幼稚園）から保育所に学びを繋げる。 ・日誌や指導計画等の書き方についての疑問点等の確認をする。 ・自己課題をもとに自己の目標を明確にする。	
13	保育実習Ⅰ（保育所）事後指導（1）自己評価 ・実習終了アンケートや事後レポートを作成し、自己の学びを振り返る。 ・実習Ⅰ報告会の準備を行う。 ・お礼状の作成を行う。	
14	保育実習Ⅰ（保育所）事後指導（2） ・実習Ⅰ報告会の準備を行う。（各グループの進行状況の報告と準備）	
15	保育実習Ⅰ（保育所）報告会 ・実習報告会に参加し、学びについて発表する。 ・保育実習Ⅰ（保育所）報告会を終え、自己の学びを振り返り、自己課題を明確にする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度（実習報告会内容含む）	50	①実習の目的を明確に理解している。②主体的に討議に参加している。③保育士の職務や保育を理解している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出している。②課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。③実習日誌の書き方を理解している。④指導計画を作成することできる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ホームページ等を活用して、各園の保育方針やねらいについて読み取り、概要をまとめ、レポートを提出する。［30分］ ②実習日誌のモデル案に従って日誌を書いてみることを通し、実習日誌の作成に慣れておく。［60分］ ③実習で求められる教材を実演できるように、作製・練習しておく。（手遊び・絵本・視聴覚教材（手作り教材）・季節に合った歌やゲーム・活動・製作など）［90分］ ④身近に見かける乳幼児や親子の姿を気に留めて観察し、記録する。［30分］ ⑤報告会の準備［60分］	個別指導及び授業内での振り返りを行う。また、授業内で学生同士の記録や指導計画を見せ合い学び合う。

受講生に望むこと	①「教育実習Ⅱ（幼）」「教育実習指導Ⅱ（幼）」も同時に履修することが望ましい。 ②保育士が子どもの成長・安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。 ③事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。 ④「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて理解するように努めること。	教科書・テキスト	教科書は使用せず、授業資料として配付する。
指定図書／参考書等	なし／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退が多い、記録や指導計画が未提出の場合は、実習を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習Ⅰ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習指導Ⅰで受けた事前指導に従って、配属先の保育所で90時間の実習（10から11日間）を行う。大学が依頼した実習先に、通勤の事情を考慮して一保育所に1名または2名の実習生を配属する。実習は、主に3歳未満児のクラスで行い、観察実習から入り、参加、部分実習までを行う。実習は授業で学んだ知識を実践する場であり、毎日の実習内容と気づきを指定の書式に記録し、実習担当者の助言を受ける。 以上の体験を通して、保育の実際を学び、保育士としての自己課題を明らかにすると共に自己理解し、今後の学びにつなげていく。	①保育所の役割や機能を具体的な実践を通して理解している。 ②子どもの観察や子どもとの関わりから子どもを見る視点を明確にし、保育の理解を深める。適切に記録を作成することができる。 ③大学の授業で習った内容（既習事項）を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について実践や保育士との事例検討から学び、考察することができる。 ④保育の計画、観察、実践、記録及び自己評価と改善について具体的に理解している。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、説明できる。 ⑥保育士としての自己課題を明確にし、今後の学びを説明することができる。

教授方法	配属施設において「10日～11日間」及び「90時間以上」の実習を行い、実習担当保育士から学ぶ。
履修条件	教育実習指導Ⅰ（幼）及び教育実習Ⅰ（幼）の単位を修得済（中）の者。また、保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察、参加、部分実習の段階を踏んで、次の内容を行う。	
	保育所の一日の流れを理解する。	
	保育所の役割と機能を理解する。	
	子ども（一人一人）の生活の流れを理解する。	
	子どもの発達過程・生活の流れ・子どもへの援助や関わり等を観察と関わりから記録し、理解する。	
	子ども一人一人の発達過程や生活の流れ等に応じた援助や関わりを考察し、実践する。	
	指導計画を立案の上での留意点や観察の視点を具体的に学び理解する。また、計画を実践し、自身の計画を客観的に振り返ることができる。	
	指導計画を立案し、実践することで子どもの発達過程に応じた保育内容を理解する。	
	指導計画を立案し、実践することで子どもの生活や遊びと保育環境を理解する。	
	子どもの健康と安全を守る保育士の役割を理解する。	
	指導計画に基づき省察し、自己評価を実践する。	
	部分実習の実践や記録をもとにした保育士との協議から自己の課題を明確にする。	
	保育士と保護者との関わりや保護者とのコミュニケーションから家庭との連携の方法について理解する。	
	部分実習の実践や記録をもとにした保育士との協議から自己の課題を明確にする。	
	専門職としての保育士の業務内容や職業倫理について理解する。また、職員間の役割分担やチームワークについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習評価表における項目（実習の態度、知識・技術）ごとに評価する。	提出物（実習日誌・レポート・教材　等）	40	①具体的なねらいを持って計画、実践を行い、適切に記録されている。 ②前半の実習を見直し、気づきを後半の実習にいかしている。 ③実習を通して自己理解し、自己課題をまとめている。
実習訪問指導時の担当教員の評価	20	訪問指導時のヒアリングや面談内容によって評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①『保育所保育指針』を充分に読み込み、保育計画を立てる際に必ず参考にすること。［30分］ ②乳幼児の保育に必要となる表現技術を磨く。［30分］ ③子どもの年齢や発達に応じた歌や手遊び、教材製作などを事前に準備し、いつでもできるようにしておく。［30分］ ④実習日誌や指導計画を期日に遅れないよう作成する。［60分］ ⑤指定された項目に従って、事後レポートを作成し、実習を振り返る。［60分］	実習記録・レポート・指導計画の紹介及び助言指導。 実習における反省や改善は実習指導Ⅱまた、実習Ⅰ事後の個別面談にて伝達する。

受講生に望むこと	①保育実習Ⅰ（保育所）の目標を理解して実習に臨むこと。 ②保育実習Ⅰ（施設）、教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）でとらえた子どもの姿から、子どもの育ち、学びのつながりを考え臨むこと。 ③関連科目（保育原理・乳児保育Ⅰ・Ⅱ・子どもの保健・子どもの食と栄養等）を復習しながら受講すること。 ※実習生であっても、子どもにとっては一人の保育者であることを自覚し実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・「実習の手引き」を熟読し、実習に臨むこと。 ・無断欠席、遅刻、早退等が多い、記録や指導計画の未提出や延滞がある場合、実習の継続を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習指導Ⅰで学んだ知識及び保育実習Ⅰで体得した学びを土台として保育実習Ⅱを行うための、事前指導・事後指導の授業である。 事前指導では、保育実習Ⅰを通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習Ⅱでは保育士の専門性についても理解を深める。保育実習Ⅰと同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。 事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ②保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。 ③保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。 ⑥実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。

教授方法	講義・演習・ディスカッション・プレ実習と事前訪問・実習報告会等
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保育実習Ⅰ（保育所）の振り返りと今後に向けて 保育実習Ⅰ（保育所）報告会について：目的、日時、参加者、実習Ⅱ・Ⅲへ繋がる内容等の伝達と検討 保育実習Ⅰ（保育所）を終えての振り返り①：保育の観察参加・記録・実習終了アンケート・事後レポートを基にし、学びの共有を行い、自己課題を整理する。	
2	保育実習Ⅰ（保育所）報告会について 保育実習Ⅰ（保育所）を終えての振り返り②：各グループで報告会準備を行う。	
3	保育実習Ⅱの目的、概要、事前訪問（オリエンテーション&プレ実習）、実践内容（教材・手作り玩具・遊び等・指導計画）、半日・一日実習の確認、子育て支援レポート作成についてを理解する。	
4	時系列日誌、エピソード記録、指導計画の作成における留意点を明確にし、理解を深める。（保育実習Ⅰにおいて保育所保育指針を参考にし、発達的観点や実習担当年齢、実習時期を考慮して作成できたか）	
5	エピソード記述の書き方を理解し、作成する。（1） 子どもに寄り添い感じ取る、子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることについて考える。	
6	エピソード記述の書き方を理解し、作成する。（2） 子どもの状態や個々に応じた適切な関わりについて多角的に見つめ、その関わりを考える。	
7	実習園事前訪問とオリエンテーション（実習園プレ実習日）： ・実習先の保育方針、概要を理解する。 ・実習担当クラスの乳幼児の発達・年齢に合わせた関わりを考える。	
8	事前訪問を終えて、学んだことを共有し、実習Ⅱへ繋げる。 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解や保護者支援の具体的理解に繋げる。	
9	・直前指導：保育実習Ⅱの目的、概要、事前訪問（オリエンテーション&プレ実習）、実践内容（教材・手作り玩具・遊び等・指導計画）、部分・半日・一日実習の確認をする。 ・自己課題、自己のねらいの確認 ・実習訪問相談についての確認	
10	保育実習Ⅱ事後指導（1） ・実習の記録を見直しながら実習終了アンケートや事後レポートを作成することにより、自己の学びを振り返る。（自己評価）	
11	保育実習Ⅱ事後指導（2） ・実習終了アンケートや事後レポートを作成し、自己の学びと振り返る。 ・実習Ⅰ報告会の準備を行う。	
12	保育実習Ⅱの振り返りと今後に向けて 保育実習Ⅱ報告会について：目的、日時、参加者、内容等の伝達と検討 保育実習Ⅱを終えての振り返り①：保育の観察参加・記録・実習終了アンケート・事後レポートを基にし、学びの共有を行い、自己課題を整理する。	
13	実習Ⅱ報告会の準備（各グループの進捗状況の報告と準備） 保育実習Ⅱを終えての振り返り②：各グループでの学びの報告準備を行う。	
14	・実習Ⅱ報告会の準備（各グループの進捗状況の報告と準備） 保育実習Ⅱを終えての振り返り③：各グループでの学びの報告準備を行う。	
15	保育実習Ⅱ報告会 ・実習報告会に参加し、学びについて発表する。 ・保育実習Ⅱ報告会を終え、自己の学びを振り返り、自己課題を明確にする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	①実習の目的を理解している。②主体的に討議に参加している。③表現技術を身につけ実践しようとしている。④保育士の職務や専門性について理解している。⑤実習報告会に積極的に参加している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出している。②課題内容を理解し教材や指導計画を作成している。③日誌の書き方を理解し、書き分けることができている。④子どもの姿に適した指導計画を作成することができている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①保育実習Ⅰ（学内演習）で課題となった保育技術を磨くよう、家庭において練習や復習を行う。［30分］ ②実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。［一日：7時間］ ③子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。［早めにとりかかり準備する］ ④指導計画案を作成する。［60分］ ⑤授業内で出された実習日誌の作成課題をする。［60分］	個別指導及び授業内での振り返りを行う。また、授業内で指導計画の実演紹介を行い、助言する。

受講生に望むこと	①「保育所実習Ⅰ」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。 ②保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をすること。 ③「保育内容・健康指導法」「保育内容・人間関係指導法」「保育内容・環境指導法」「保育内容・言葉指導法」「保育内容・表現指導法」「子ども家庭福祉論Ⅱ」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養護内容」の授業に関連づけて、理解するよう努めること。 ④子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりを持っていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。	教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814482 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年　ISBN:9784577814499
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて授業内で配付する。	その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い、記録や指導計画等の課題が未提出の場合は、実習を認めない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習Ⅱ（保育所）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	谷　昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
保育実習Ⅰで学んだ内容を土台として、さらに保育士としての知識・技術を実践的に学ぶための実習である。原則として、保育実習Ⅰと同じ実習先で90時間の実習を行う。観察・参加実習・部分実習と段階を踏んで、一日実習までを行う。毎日の実習は日々のねらいをもって臨み、実習後は指定の書式で記録し、実習担当者の助言を受ける。	①保育所の役割や機能について、実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③大学の授業で習った内容（既習事項）を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援、地域の子育て家庭への支援について実践や保育士との事例検討から学び、総合的に学んでいる。 ④保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価と改善について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解している。 ⑥保育士としての自己の課題を明確にし、今後の学びを説明することができる。

教授方法	配属施設において「10～11日間」及び「90時間以上」の実習を行い、実習担当保育者から学ぶ。
履修条件	「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」の単位を修得済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、観察・参加・部分実習の段階を踏み、一日実習を行うことを通して、次の内容を行う。	
	保育所の一日の流れを具体的な実践を通して理解を深める。	
	保育所の役割と機能について具体的な実践を通して理解を深める。	
	子ども（一人一人）の生活の流れを具体的な実践を通して理解を深める。	
	子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。	
	個に応じた援助法と集団（クラス）における援助法を実践から理解する。	
	保育の指導計画の作成、実践、観察、記録及び自己評価について、実践から理解を深める。	
	保育の指導計画、実践、観察、記録及び自己評価と保育の改善、環境構成について実践や事例から学ぶ。	
	指導計画を立案し、実践することで子どもの生活や遊びと保育環境を多面的に捉える視点をもつ。	
	具体的な実践を通して、子どもの健康と安全を守る保育士の役割を理解する。	
	部分・半日・一日の指導計画に基づき実践し、自己評価を行う。	
	大学の授業で既習した内容や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援を総合的に学び、理解する。	
	子育て支援活動に参加し、入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学び、理解する。	
	実習の実践や記録をもとにした保育士との協議から自己の課題を明確にする。また、保育士に求められる資質・能力・技術と自身を照らし合わせて自己課題を明確にする。	
	専門職としての保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践を通して理解を深める。また、職員間の役割分担やチームワークについても実践から理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習評価表における項目（実習の態度、知識・技術）ごとに評価する。	提出物（実習日誌・指導計画・レポート・教材）	40	①具体的なねらいをもって計画、実践を行い、適切に記録している。 ②担当年齢（子どもの姿）に適した指導計画・教材を作成し、実践している。 ③実習での学びを振り返り、レポートを作成している。
訪問指導時の担当教員の評価	20	訪問指導時のヒアリングや面談内容によって評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①保育実習Ⅰ（保育所）の自己課題に基づき、自分に不足している表現技術を磨く。［30分］ ②実習先でのプレ実習に積極的かつ主体的に参加する。［一日：7時間］ ③子どもの年齢や発達にわらべ歌や手遊び、製作、教材などを事前に準備しておく。［30分］レパートリーを増やしておくこと。 ④実習日誌や指導計画を期日に遅れずに作成する。［60分］ ⑤その他、実習先の指示に従って必要な準備を行う。［30分］	実習における振り返りは保育実習Ⅱ事後の面談にて伝達する。

受講生に望むこと	①保育実習Ⅱの目標を理解して実習に臨むこと。 ②保育実習Ⅱでとらえた子どもの姿から、子どもの育ち、学びのつながりを考え臨むこと。 ※実習生であっても、子どもにとっては一人の保育者であることを自覚し実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業資料で配付する。
指定図書／参考書等	なし/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省　フレーベル館　2018年 ISBN:9784577814482	その他・特記事項	・無断欠席・遅刻・早退等が多い、記録や指導計画の延滞がある場合、実習の継続を認めない。 ・連絡事項はclassroomにて配信する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習指導Ⅲ（施設）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
「保育実習Ⅰ（施設）」を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの機能、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。	①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 ②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。 ③保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解している。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。

教授方法	演習形式により、児童福祉施設や障害者福祉施設等の実際について、教員よりの講義、ワークシート作成、各機関におけるフィールドワーク、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。
履修条件	「保育実習指導Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得済みであること。原則、児童福祉施設・障害者福祉施設等への就職を志向する学生であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。	全員
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。	全員
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。	全員
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。	全員
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する支援法及び援助技術の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。	全員
6	保育士が実践するソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。	全員
7	実習予定施設における体験学習を行い、実習前に施設機能、利用者の状況、実習生として学ぶべき要点を考察する。	全員
8	実習に臨むに際しての学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関するニーズ、機能を明確にする。	全員
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分けを理解する。	全員
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。	全員
11	事前訪問で学んだことの報告を行う。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。	全員
12	保育士･支援員の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどのように学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。	全員
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴くなかで内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。	全員
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探究する。	全員
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加姿勢	50	①実習の目的を明確に理解している。 ②主体的に討議に参加している。 ③保育士の職務や保育を理解しようとしている。 ④実習報告会に積極的に参加している。	課題提出	50	①課題を期日までに提出する。 ②課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。 ③実習記録の書き方を理解している。 ④指導計画を適切に作成することができる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①原則、「保育実習Ⅰ（施設）」での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は児童福祉施設、障害者福祉施設など多岐にわたるため、各自の実習施設の目的・機能についてまとめる。 ②実習報告会に向けて、各施設が有する課題及び問題解決の方法を考察する。	事後指導において、実習内容などの講評を行う。

受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、「保育実習Ⅰ（施設）」での内容が経験知として積み上がらない場合がある。「保育実習Ⅲ（施設）」はより専門性が求められる実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通じて収集する努力が求められる。	教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に資料配付を行う。
指定図書／参考書等	なし／『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』河合高鋭・石山直樹編　みらい　2020年　ISBN:9784860155032	その他・特記事項	実習に関する科目であり、真摯な受講態度を求める。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保育実習Ⅲ（施設）			開講学科	幼児教育	必修・選択	選択
担当教員名	松本　理沙・齊藤　英俊　（代表教員　松本　理沙）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				

授業の概要	授業の到達目標
実習期間として設定した12月上旬から中旬に、約10日間（90時間）の「施設実習」を行う。 実習施設は大学より実習を依頼した原則北陸三県における児童福祉施設、障害者福祉施設等にて実習する。	児童福祉施設、障害者福祉施設等において実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。

教授方法	児童福祉施設、障害者福祉施設等にて実習を行うとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。
履修条件	「保育実習指導Ⅰ(施設)」、「保育実習Ⅰ(施設)」の単位を修得済みであること、及び「保育実習指導Ⅲ」を履修中であること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	90時間(約10日間)の実習において、下記の内容を行う。	
	施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握し、職員の役割、業務内容と専門性を理解する。	
	実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。	
	実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。	
	生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。	
	入所児童及び家族と職員のコミュニケーションについて理解する。	
	実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。	
	自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。	
	養護(養育)実践におけるPDCAサイクルの具体的展開を理解する。	
	行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。	
	実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。	
	実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。	
	実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。	
	実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。	
	実習を通じて学んだことより、児童福祉施設や障害者福祉施設等のありかた、将来像を考察する。実習報告会に参加・発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	40	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する。	巡回担当教員評価	30	巡回時の担当教員によるヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	30	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「修了レポート」等の内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。 ②実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。	事後指導において、実習内容などの講評を行う。

受講生に望むこと	「保育実習Ⅲ（施設）」では、施設の持つ専門機能を理解し、社会的役割、使命という視点から考察することが求められる。また、職員の専門性である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について理解を求める。施設機能は未分化の部分（日常性が表出していて、その背景にある専門性が見えにくい）が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する。	教科書・テキスト	テキストは使用せず、配付資料などを用いる。
指定図書／参考書等	なし／『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』河合高鋭・石山直樹編　みらい　2020年　ISBN:9784860155032	その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語学概論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、歴史的変化、音声、語彙、基本的な文構造、意味についての基礎を学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。 ・英語という言語の発音・発音とスペリングの関係・形態論・変化などについて基礎知識を身につける。

教授方法	講義、ディスカッション
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る	
2	ことばの起源と人間のことばの特徴を考える	
3	語族について概観し、言語研究の概要を英語を中心に学ぶ	
4	さまざまな言語研究の方法を知り分析的観点で英語を捉える	
5	英語の歴史を知り、関連させて英語の語彙の多様性や、発音･語彙・文法の変化や標準英語の成立を知る	
6	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する	
7	英語の変種、ことばの変化、現在の英語を巡る状況を理解する	
8	ものの捉え方とことばの意味	
9	言語音についての基本を理解し、音声言語としての英語の特徴を知る	
10	単語ができるしくみ、形態論と形態素について、実例とともに理解する	
11	英語の語形成について実例とともにさらに学ぶ	
12	英語の文の基本的な構造を理解する	
13	英語の文の内部構造に対する理解を深める	
14	ことばの意味について英語の例に基づいて理解し、意味ネットワークや意味拡張について知る	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	50	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。［50分］ ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。［40分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す･読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語･日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。	教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』　長谷川瑞穂編著　大井京子他著　2014年　研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	開講時に指示する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	発達心理学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・高一種（英語）・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創 ・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成(2010)．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編(2013)．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房 2013年　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編(2011)．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育心理学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）・准学校心理士				

授業の概要	授業の到達目標
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	服部環・外山美樹編（2022）．『スタンダード教育心理学　第2版』　サイエンス社　ISBN: 978-4781915340
指定図書／参考書等	なし/石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．『教育・学校心理学』 サイエンス社　ISBN: 978-4781915272、大村彰道編(1996)．『教育心理学Ⅰ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編(1998)．『教育心理学Ⅱ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．『絶対役立つ教育心理学　第２版』ミネルヴァ書房　ISBN :978-4623091638 、水野治久・串崎真志編(2019)．『教育・学校心理学』 ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623086078、橋本創一・三浦巧也・ 渡邉貴裕・ 尾高邦生・堂山亞希・熊谷宍・田口敏子・大伴潔編(2020)．『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』　福村出版　ISBN:978-4571121401	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	教育社会学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む。［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持つ。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望む。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	（参考書）相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
総合的な学習の時間の時間の創設の経緯を知り、目標について考えながら、実践例によって総合的な学習の時間の意義について考える。その過程で自己の経験を思い出しながら意見交換し、現在における総合的な学習の時間の課題について考える。このような授業を総合的な学習の時間の目標に照らし、自己の学びの目標を設定したり、事例を調べて考えたことをグループで話し合ったりレポートしたりすることで、総合的な学習の時間の目標や意義を体得する。	①この授業における自己の学びの目標を設定し、見通しを持って、調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。 ②「総合的な学習（探究）の時間」の全体計画や年間指導計画の例を総合的な学習の時間の目標に照らして考え、議論することができる。 ③自己の学びの過程を振り返り、レポートにまとめることができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要・目標・授業計画・評価方法）／総合的な学習の時間の創設（総合的な学習の時間が創設された経緯について知る。）	
2	総合的な学習の時間の変遷（創設後の総合的な学習の時間の取り組みと当時の課題を知り、第１次改訂、第２次改訂の趣旨をもとに総合的な学習（探究）の時間の意義について考える。）	
3	総合的な学習の時間の学習経験（自己が小中高等学校のときの総合的な学習の時間の学習経験を思い出し、グループで各々の経験を紹介し合う。）	
4	総合的な学習の時間の計画（現在の小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間の全体計画や年間指導計画の考え方を理解する。）	
5	総合的な学習の時間の実践例１（小学校の総合的な学習の時間の実践例を共通資料として読み調べ、感想等について話し合う。）	
6	総合的な学習の時間の実践例２（小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間のいくつかの実践例から選択して読み調べ、自分なりに考える。）	
7	グループ討論（調べて考えたことをグループで紹介し合い、話し合う。）	
8	学習のまとめとレポート（学習のまとめを行い、その内容をレポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習目標設定	15	自己の学びの設定を具体的にしてある。	小レポート	45	授業の過程でグループで話し合ったことをもとに書いてある。
期末レポート	30	自己の学びの過程を振り返って書いてある。	授業態度	10	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で終末に、次時までに考えたり調べてきてほしいことの指示に対して事前学習する。［30分］ ②何回の授業の終末に、本時の感想（小レポート）を求めるので解決してclassroomに提出する。［30分］	①提出された小レポートについて講評する。 ②提出された期末レポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような総合的な学習の時間の学習が行われていたか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、文部科学省、ISBNISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。

授業科目名	教育の方法・技術（ICT活用の理論と実践を含む）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきており、評価の方法も多様になっている。この授業観を具体化するためには教育の方法と技術について検討しなければならない。自ら考え判断し表現する授業とはどういったものなのか、理論や具体的な事例をもとに学んでいく。さらに、様々な情報機器を振り返ったのちにICTの活用について理論と実践例を学ぶ。そして、教科や総合的な学習の時間におけるICT活用授業を構想し、そのための教材を自作する。	①教育方法の歴史的概観をもとにその基礎を整理するとともに実践について理解している。 ②子ども・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的要件を理解している。 ③視聴覚機器から情報機器へ、そしてICT活用へと移り変わっていることを知る。 ④ICTを活用した授業について、理論と実践例から学び、自分なりに活用方法について考えることができる。 ⑤自分なりに考えをもとにICTを用いて教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)のいずれか取得希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育方法の歴史的概観（ソクラテスやコメニウスなど７人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。）	
2	現代における教育方法（デューイ、ブルーナーなど６人物の教育方法や理論について概観し、自分の考えを持つ。）	
3	教育方法の基本原理（系統学習と問題解決学習を比較し、基本的原理について考察する。）	
4	授業理論（直接的な教育手段と間接的な教育手段について理解し、各教科等の授業がどちらに当てはまるか自己の経験から考える。）	
5	授業とは何か（ガイスラ―の理論をもとに授業の「相互往還作用」について理解し、自分の考えを持つ。）	
6	授業と評価（見える学力と見えない学力について理解するとともに、各教科等の授業がどちらに当てはまるか自己の経験から考える。）	
7	授業と視聴覚機器（視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。）	
8	視聴覚機器の教育活用の方法（学校でのコンピュータ等のICTを活用した教育の方法を調べる。）	
9	放送教育の授業への適用（放送教育の役割をと捉え、NHKのWebサイトで教材を閲覧する。）	
10	教材・教具・教科書・教材研究（教材・教具とは何か、また、教科書とは何かについて考え、教材研究について理解する。）	
11	ICTを活用した授業（デジタルコンテンツと教育での活用例を知り、自作教材の構想を練る。）	
12	教材の構想と作成（教育でICTを活用するための計画を立て、そのためのフラッシュ型教材を作成する。）	
13	教材の完成と相互評価（授業計画に基づき構想したフラッシュ型教材を完成させ、お互いに見合う。）	
14	教育方法と施設・設備（教育方法の多様化と学校の施設・設備などの変化について知り、教育の環境について考える。）	
15	学習のまとめと定期試験に向けて（これまで学んだ内容の要点を整理する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	20	教育の方法や技術について理解している。	教材作成	15	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。
定期試験	50	教育の方法や技術についての知識を有し、自分なりの考えを持っている。	授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③小中学校の教育方法に関しインターネット検索して調べる。［20分以上］	①小レポートについての質問に応じる。 ②自作したフラッシュ型教材を「作成要件」の観点から講評する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『教育方法論　改訂版』，谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編著，一藝社，2015年出版，ISBN9784863590984
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7、『中学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-8278-1558-0、『高等学校学習指導要領』文部科学省2018年，ISBN978-4-8278-1567-2／なし	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育方法（ICT活用を含む）について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

授業科目名	道徳教育指導論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において道徳の時間が「特別の教科　道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子どもたち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか諸外国の例も参考にして考える。また、現在、どのような道徳教育が行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤では多様な道徳授業についても探究する。	①道徳教育とは何か：道徳教育の今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長と道徳性の発達：心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育の歴史：道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育：現在の道徳教育がどのように行われているか様々な観点から考えることができる。 ⑤多様な道徳授業：多様な道徳授業について具体例をもとに自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）／道徳教育とは何か（道徳教育の本質について考える。）	
2	道徳教育の意義（日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性についてテキストをもとに考える。）	
3	道徳性の発達（道徳性はどのように発達するか、ピアジェとコールバーグの理論について知る。）	
4	道徳教育の歴史①（明治時代の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
5	道徳教育の歴史②（大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
6	道徳教育の歴史③（昭和時代戦後の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
7	特別の教科　道徳①（学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。）	
8	特別の教科　道徳②（道徳の特質と内容についてテキストをもとに考えながら実際の教材について知る。）	
9	特別の教科　道徳の指導過程（道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。）	
10	特別の教科　道徳の指導方法（道徳指導におけるさまざまな方法にテキストや解説「道徳編」をもとに知る。）	
11	道徳の授業の実際（小学校の道徳の授業でどのように考え議論する道徳が行われているか知る。）	
12	幼・小・中連携による道徳教育（異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。）	
13	外国の道徳教育（アメリカ、ドイツ、韓国から１つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する）	
14	多様な道徳授業の探究①（対話を促す道徳授業について中学校の授業例をもとに考える。）	
15	多様な道徳授業の探究②（デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ミニッツコメント	20	道徳教育について自分の考えを持っている。	小テスト	15	道徳教育についての基礎的知識を有している。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	定期試験	50	道徳教育についての知識・理解を有している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③「特別の教科　道徳」に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②小テストの結果について解説する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『自ら学ぶ道徳教育』〔第1版〕，押谷由夫編著，教育情報出版，2021年12月発行，ISBN978-4-909378-40-8
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-908255-35-9，『中学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-316-30084-9　※小学校、中学校いずれかで可／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。

授業科目名	教育課程編成論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫・川真田　早苗　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちに何を教え、子どもたちは何を学ぶのか。この「何を」に当たるものが小学校、中学校、高等学校の教育課程（カリキュラム）である。そこで、本科目においては、教育課程の概念と構造、学習指導要領の歴史的変遷と教育課程、教育課程編成の方法、小学校、中学校、高等学校それぞれの教育課程編成の実際、教科と教科外活動の教育課程、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価などについて学ぶ。これらを通して小学校、中学校、高等学校の教育課程についての理解を深める。	①教育課程：教育課程の概念と構造や学習指導要領をもとに、小学校、中学校、高等学校の教育課程について理解することができる。 ②学習指導要領の変遷：我が国最初の学習指導要領から最新の学習指導要領の変遷を概観し、現在の「令和の日本型教育」が目指す教育について知る。 ③教育課程の編成：小学校、中学校、高等学校における教育課程編成の方法と実際について理解することができる。 ④教育課程のマネジメント：カリキュラム・マネジメントの理論と実際及びカリキュラム評価について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業計画と評価の方法について知る）／教育課程（教育課程（カリキュラム）について知り、カリキュラムの構造と類型について理解する。）	村井、川真田
2	教育課程行政（教育課程行政の構造や法体系及び教育の目的について理解する。）	川真田
3	学習指導要領の歴史的変遷１（我が国最初の学習指導要領と戦後教育について教科課程と教育課程の面から理解する。）	川真田
4	学習指導要領の歴史的変遷２（学習指導要領の改訂と戦後教育の見直しについて教育内容の現代化から理解する。）	川真田
5	学習指導要領の歴史的変遷３（「新しい学力観」「生きる力」「ゆとり教育」をもとに平成時代の教育課程について理解する。）	川真田
6	学習指導要領の歴史的変遷４（「ゆとり教育」から「確かな学力」へと移った経緯について知り、「令和の日本型教育」を目指していることを理解する。）【レポートA】	川真田
7	教育課程編成の方法（教育課程の意義と教育課程編成の原則及び教育課程編成の手順について理解する。）	川真田
8	学校におけるカリキュラム開発（学校や地域の実態を踏まえたカリキュラム開発の必要性、学習指導要領の記述に見るカリキュラム開発の留意点について理解する。）	村井
9	小学校の教育課程（小学校の教育課程の過去から現在まで通観し、現在の教育課程の内容と特徴について理解する。）	村井
10	中学校・高等学校の教育課程（学校教育法体制下の中学校と高等学校の歩みを通観し、新学習指導要領による中学校と高等学校の教育課程について理解する。）	村井
11	教科と教科外活動の教育課程（教科と教科外の教育課程の特徴をつかみ、教科外の教育課程の内容について理解する。）	村井
12	地域と連携した教育課程編成（従前の学習指導要領をもとに学校と家庭・地域社会の連携による教育課程の重要性について理解する。）【レポートB】	村井
13	カリキュラム・マネジメントの理論（カリキュラム・マネジメントが生まれた背景を知り、カリキュラム・マネジメントの可能性と課題について理解する。）	村井
14	カリキュラム・マネジメントの実際（小学校と中学校における地域連携カリキュラムの取り組みや高等学校における中高一貫教育の取り組みを知る。）	村井
15	カリキュラム評価（カリキュラム評価の意義、対象、方法について理解する。）	村井

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の到達目標（①～④）を達成している（達成状況：「十分達成している」「概ね達成している」「努力を要する」）。	レポート	30	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。
授業態度	20	積極的に授業に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について参考図書等を読んで予習する。(40分) 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校における教科等の学習指導は、各学校において編成する教育課程によって行われていたことについて認識する機会としてほしい。	教科書・テキスト	『教育課程編成論』改訂版、森山賢一編著、学文社、2021年、ISBN978-4-7620-3073-4
指定図書／参考書等	なし／小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

村井：小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
川真田：小学校での研修主任の経験をもとに、教育課程編成の意義や方法及び江戸後期からこれまでの日本の教育及び学習指導要領の変遷について説明し、平成29年学習指導要領のねらいを実現するためにはどのような教育課程を編成するかについてディスカッションを行っている。

授業科目名	特別活動の理論と方法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちにとって楽しい場であることが前提である。この前提となるものの一つが特別活動である。特別活動は学級活動、ホームルーム、児童会活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の領域がある。この領域について学びながら、自己が小中高校生だった頃の活動を思い出し、各領域の活動内容や意義について考える。また、自己が取得を希望している免許種からどのような取組ができるかについても考える。	①教育課程における特別活動の位置づけについて知る。 ②各領域の目標や内容について知る。 ③各領域の活動について自分が児童生徒だった頃のことを思い出しながら、その意義について考えることができる。 ④学校教育における特別活動の意義についてレポートにまとめることができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育課程と特別活動：教育課程における特別活動の位置づけ（学習指導要領に見る歴史的変遷を知る。）	
2	特別活動とは何か①：特別活動の今日的意義と目的論（自己実現等について理解する。）	
3	特別活動とは何か②：小中高等学校における特別活動の領域（各活動と内容について理解する。）	
4	学級活動・ホーム：小中学校の学級活動と高校のホームルーム活動（内容と展開の方法について理解する。）	
5	児童会・生徒会活動：小学校の児童会活動と中高校の生徒会活動（内容と展開の方法について理解する。）＋小学校のクラブ活動	
6	小中高等学校における学校行事（行事の種類と内容について理解する。）	
7	体育的行事におけるジェンダー教育：運動会の種目（種目によって男女別になっていたことについて考える。）	
8	学習のまとめとレポート（学習を振る返りながら特別活動の意義について再考し、レポート作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	特別活動の各領域の目標や内容を理解している。	レポート	30	特別活動の意義について自分なりに考えている。
討論	30	グループ討論で考えを述べたり、討論の進行に寄与したりしている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について資料等を読んで予習する。(30分) 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中学校の頃の学校生活で、なぜ、特別活動が楽しかった思い出として残っているのかを考えながら学んでほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編、文部科学省、2017年、ISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	生徒指導論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、学校種に応じた生徒指導を教師間で進めていくことが求められている。また、生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つ。これらのことを理解したのちに、生徒指導上の課題を「いじめ問題」「不登校」「SNS利用」の観点から現状を把握するとともに児童生徒にとってどのような対応がよいかについて主体的に考える。さらに、生徒指導における法とその扱いの難しさについて理解する。以上のことを通して、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の重要性について学ぶ。

授業の到達目標

①生徒指導の意義と役割：生徒指導の意義や役割、目的を理解するとともに、生徒指導の３機能及び生徒指導と教育相談の関係について理解している。
②教育課程と生徒指導：各教科、教科外活動における生徒指導の意義について理解している。
③生徒指導の方法：集団指導と個別指導の方法原理について理解し、学級担任や教科担任の役割や連携について考えることができる。
④いじめ問題と生徒指導：いじめの定義や認知件数と課題及び対応の在り方について考えることができる。
⑤不登校と生徒指導：不登校の変遷をもとに児童生徒の心理を考えたり、どのような支援や対応が必要か考えたりすることができる。
⑥インターネット社会における生徒指導：児童生徒のスマートフォンの所持率をもとにSNS利用の実態や性被害について理解することができる。
⑦生徒指導と法：学校の規則である校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒（停学・退学）などの内容について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者で受講までにプレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を通観し評価方法について理解する）／生徒指導の意義と役割（生徒指導の意義や役割、目的、生徒指導の３機能について知り、教育相談との関係を理解する。）	
2	教育課程と生徒指導（生徒指導は各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、高校においては総合的な探究の時間、特別活動、すべての教育課程において機能することが求められることを理解する。）	
3	生徒指導の方法（集団指導と個別指導の方法原理について「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」から理解し、学級担任・教科担任の役割や教師間の連携について考える。）	
4	いじめ問題と生徒指導（いじめ問題と生徒指導：いじめの定義と認知件数について知り、社会に影響を与えたいくつかのいじめ事件をもとにケース分類し、ケースごとの対応について考える。）	
5	不登校問題と生徒指導（登校問題と生徒指導：不登校の概念とその変遷について知り、不登校になるきっかけをいくつかに分類し、きっかけの種類ごとの対応について考える。）	
6	インターネット社会における生徒指導（インターネット普及に伴う小中高校生のスマートフォン所持率及びSNS利用の実態や性被害について知るとともに、よりよい対応について考える。）	
7	生徒指導と法および「連携」の重要性（校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒、高等学校においては停学・退学などの内容について理解するとともに、チームで取り組む生徒指導の重要性について考える。）	
8	（前半45分間）第１回～７回の学修を振り返り、生徒指導に対する考えをまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	15	積極的に参加したり、議論の深まりに寄与したりしている。	小レポート	20	観点に基づき自己の考えを明解に書き表している。
授業態度	15	授業に積極的に参加している。振り返りシートに考えを書いている。	テスト	50	生徒指導についての知識・理解を有し、生徒指導に対する考えを表現している。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分]
②授業の「振り返り」を記入し提出する。[10分]
③学修のPDCAサイクルを踏まえたノートテイクや記録作成[20分]
④「生徒指導提要」を読む。[30分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

①レポートの観点や質問に応じる。
②グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。
③テスト（第8回）の観点について事前に示す。

受講生に望むこと	①毎回の授業における学びの記録を、自分なりのノートテイク等を通して主体的に作成する。 ②毎回の授業で学ぶ内容について、自分が教師だったらの視点で考える。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし/「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）※授業内でQRコードを提示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校において教諭及び管理職の立場から、「チーム学校」として生徒指導・支援に取り組んだ経験を生かし、学校現場における課題や実践事例を交えて授業を行う

授業科目名	進路指導論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
進路指導は、自分の将来の生き方への関心を高め、将来の展望を持たせる教育活動であり、社会的・職業的自己実現を達成していくことに必要な自己実現能力の伸長を目指すものである。そのためには、キャリア教育の観点から小中高校を通じた教育活動が重要である。本科目ではこのようなことを学び、自己の教育者としての考え方を深める。	①進路指導とキャリア教育の位置付けについて理解している。 ②教育課程と進路指導・キャリア教育について理解している。 ③進路決定・キャリア形成の支援について理解している。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者で受講までにプレ実習（学習支援員）などで学校現場を体験していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を通観し評価方法について理解する）※本時は授業時間90分の後半45分で行い、前半45分は「生徒指導」の授業第８回（最終回）になる。	
2	進路指導・キャリア教育（進路指導は入学期から卒業期までの教育活動であること。進路指導はキャリア教育の中に位置付くこと、キャリア教育は小学校から行われていることを理解する。）	
3	教育課程と進路指導・キャリア教育（「基礎的・汎用的能力」における「４領域・８能力」を知り、これがどのような教育活動の中で計画・推進されているか小中学校の事例をもとに考える。）	
4	体験活動を通じた進路指導・キャリア教育（中学校における職場体験が進路指導・キャリア教育であることを知り、自己の経験を振り返りながら、その後の自己実現について考える。）	
5	職業教育（職業教育の定義や職業教育導入の経緯を理解するとともに、職業教育の方法を義務教育と専門高校における教育について俯瞰し、自己の高校選択、大学選択を振り返る。）	
6	進路決定・キャリア形成の支援（進路決定やキャリア形成について「基礎的・汎用的能力」の観点から再整理し、教育活動全体で取り組むキャリア教育の重要性について理解する。）	
7	進路決定・キャリア形成の具体（小学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援、中学校教師だからこそできる進路決定・キャリア形成の支援について具体例をもとに考える。）	
8	学習のまとめとレポート作成（進路指導・キャリア教育の要点を整理し、レポートを作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	30	積極的に参加したり、議論の深まりに寄与したりしている。	レポート	40	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。
小テスト	20	生徒指導・進路指導（含キャリア教育）についての知識・理解を有している。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。[20分] ③児童生徒が将来就きたい職業について調べる。[30分] ④「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」を読む。[30分]	①レポートの観点や質問に応じる。 ②グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。

受講生に望むこと	①学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小中高校生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童生徒と関わっているかを観察するようにしてほしい。 ②毎回の授業で学ぶ内容について、自分が教師だったらの視点で考えるようにしてほしい。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし／参考資料「小学校キャリア教育の手引き（改訂版）」（文部科学省平成23年5月）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校における教育アドバイザーを経験している。その際に入手した各学校の「管理運営計画」を基に学習資料を作成し授業で配付して、学生の理解度を高めている。

授業科目名	英語科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	山本　良一・宮浦　国江　（代表教員　山本　良一）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
前年度開講した「英語」での学びを基盤に、小学校外国語活動及び外国語科指導（以下「小学校英語教育」）に必要な基礎的な知識を学ぶ。具体的には、小学校外国語教育の背景や諸外国の状況、英語指導に関わる理論（言語習得、教授法、到達目標と指導計画、授業の構想、評価の在り方）などを学ぶ。一方、模擬授業を通じて具体的な指導技術（指導案作成、題材やコミュニケーション活動設定、教材研究、パフォーマンス評価、英語での語りかけ、Small Talk、絵本の読み聞かせ、ALTとの協働等）への理解を深め、身につける。 小学英語教育は、中・高等学校の外国語科との連携・協力を常に意識して行うものであることを具体的に体験的に理解する。 ※SDGs目標番号4関連科目	①小学校英語教育の変遷、目標、内容について、中・高等学校の外国語科との関連も踏まえて理解する。 ②第二言語習得の特徴を理解した上で、小学校英語教育における音声によるインプットと場面・状況等の設定、及び十分な音声言語経験から文字指導のステップを経ることの重要性を理解する。 ③英語によるコミュニケーション場面で、児童の理解を容易にし、発話を促すような Classroom English、Small Talk、絵本活用などの基本的な指導技術や英語での語りかけを実践を通して身につける。 ④学習到達目標に基づく指導計画の在り方を理解した上で、模擬授業を通じて、学習指導案の作成、教材研究、評価方法、ICTの効果的活用等を身につけ、改善につなげる方法及びティームティーチング指導についても理解する。

教授方法	講義・演習・およびディスカッション
履修条件	①小学校教諭一種免許状取得希望者であること。②英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、シラバスの概要を理解し、達成目標を設定 小学校英語教育をめぐる状況	宮浦
2	小学校英語教育の経緯と目的、理念、役割、配慮事項 Ｃlassroom English (1)	宮浦
3	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性 Ｃlassroom English (2)	宮浦
4	言語習得の特徴、音声によるインプットのあり方、意味あるやり取りの重要性（聞く、話す） Ｃlassroom English (3)	宮浦
5	指導者の役割、資質と研修 Ｃlassroom English (4)	宮浦
6	さまざまな指導法（CLT,CBI,CLIL,TPR）、指導技術 チャンツ、絵本活用	宮浦
7	評価のあり方、小・中・高の連携のあり方と小学校の役割 これまでのまとめ	宮浦
8	言語材料と４技能の指導 Small Talk　絵本活用	山本
9	教材研究 絵本読み聞かせ準備・練習	山本
10	指導案作成 絵本読み聞かせ 模擬授業準備・練習（1）	山本
11	教材・教具 模擬授業準備・練習（2）	山本
12	模擬授業（1）外国語活動 Let's Try! 1 指導案作成、準備、実施、振り返り	山本
13	模擬授業　（2）　外国語活動 Let's Try! 2 指導案作成、準備、実施、振り返り	山本
14	模擬授業　（3）小学校5年生教科書 指導案作成、準備、実施、振り返り	山本
15	模擬授業　（4）小学校6年生教科書　　指導案作成、準備、実施、振り返り まとめ　これまでの学びとこれから取り組むこと	山本

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
討議、発表等取組	30	積極的に授業の活動に取り組むことができるか。 指導方法について関連資料を読む、発言するなど、積極的な理解に務めているか。	小テスト	20	①前時までに学んだ英語教育に関わることが定着しているか。 ②語彙や文法を理解し、定着しているか。 ③使用する場面や機能が理解できるか。
パフォーマンス　絵本読み聞かせSmall Talkなど	20	①授業案に基づいて、模擬授業をすることができるか。 ②Classroom English、絵本の読み聞かせなど子どもの状況を意識しながら、正しい英語で語りかけることができるか。	模擬授業・指導案	30	授業の目標達成のために、教材分析をし、授業計画を作成することができるか。練習をした上で到達目標が達成できるような模擬授業ができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書等について予習をして臨むこと。（30分） ②学習したことについて復習して、知識を整理して自分の言葉で説明することができること。（30分） ③Classroom English や絵本の読み聞かせなど英語らしい音調で生き生きと語りかけることができること。（15分） ④小学校での外国語活動・外国語科の授業に関連した書籍・ビデオ等も含めてできるだけ多く触れて、自身の模擬授業の質を高める努力をすること。（50分）	小テストの結果等から、理解が難しかった部分については解説をする。

受講生に望むこと	①小学校に外国語活動、外国語科が行われていることを踏まえて、幼保、中・高との連携という視点からも積極的に取り組んでほしい。 ②小学校で英語教育が行われることについて、何を大切にすべきなのか、どのような世の中の動きがあるのか意識してほしい。 ③優れた実践から多くのことを吸収して、まずは模倣するところから始めてほしい。	教科書・テキスト	①『最新小学校英語教育法入門』樋口忠彦監修、加賀田哲也(代表)編著、　研究社　2023年 (ISBN: 978-4-327-41108-4) ②『小学校学習指導要領(平成29年公示)解説　外国語活動・外国語編』 文部科学省 2018年 開隆堂出版 (ISBN: 978-4304051685) 『Let's Try! 1』文部科学省　2018年　ISBN: 978-4487258703)『Let's Try! 2』 文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4487258710) ③『Let's Try! 1 指導編』 文部科学省　2018年 (ISBN978-4-487-259700)『Let's Try! 2 指導編』文部科学省　2018年　(ISBN: 978-4-487-259717) ④適宜配布されるプリント 小学校英語教科書については、授業内で別途指示します。
指定図書／参考書等	なし/『最新小学校英語内容論入門』樋口忠彦(代表)他編. 2023年.研究社. ISBN: 978-4327411091 英語絵本 『Baby Bear, Baby Bear, What Do You See?』Henry Holt and Company　2007年 ISBN：　9781250766076 『No, David! 』The Blue Sky Press Scholastic Inc　1998年　　ISBN:9781338299588　など	その他・特記事項	詳細な内容は、1回目に説明する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	介護等体験			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	小一種・中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
県内の高齢者施設や児童施設などの社会福祉施設において５日間、特別支援学校において２日間の介護等体験活動を行う。体験に入る前に事前指導を行い、体験後には事後指導に行う。このように、［事前指導］＋［7日間の介護体験］＋［事後指導］のセットによる授業が本科目の概要である。事前指導には、介護等体験に係る書類等の説明と作成を含む。書類は大学が一括して石川県社会福祉協議会や石川県教育委員会に提出する。なお、５日間体験、2日間体験、いずれも実施日は受講生の希望をもとに県が調整・決定する。	①教職を目指す学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解している。 ②ノーマライゼーションの理念について理解している。 ③高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考えながら体験することができる。 ④体験によって何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書くことができる。

教授方法	講義（事前・事後）、体験（5日間＋2日間）
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者で２年次生までに必要な教員免許状取得のための科目を履修していて、３年次に教育実習が予定されている者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業概要をもとに学びの見通しを持つとともに介護等体験の意義と手続きについて理解する。	
2	人間の障がいの理解：ノーマライゼーションの理念について理解するとともに介護等体験で出会う障がいについて知る。	
3	社会福祉についての理解：社会福祉の理念（基本的人権と社会福祉）や内容（児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉）について理解する。	
4	特別支援教育についての理解：特別支援教育の基本的な考え方（インクルーシブ教育）や教育内容（教育課程など）について理解する。	
5	体験活動の実際①：福祉施設における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
6	福祉施設での介護等体験①：施設利用者の１日の生活に寄り添う。【体験１日目】	
7	福祉施設での介護等体験②：施設利用者に必要で、自己ができる介護、援助、補助などを見つける。【体験２日目】	
8	福祉施設での介護等体験③：自己ができる介護、援助、補助などを行う。【体験３日目】	
9	福祉施設での介護等体験④：自己ができる介護、援助、補助などを繰り返したり、新たに見つける意識をもって臨む。【体験４日目】	
10	福祉施設での介護等体験⑤：自己の経験や学びをもとに感謝の気持ちを持って施設利用者と会話するようにする。【体験５日目】	
11	福祉施設での介護等体験の振り返り：５日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートAの作成と提出）	
12	体験活動の実際②：特別支援学校における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。	
13	特別支援学校での体験①：児童生徒の１日の学校生活に寄り添い、自分がどんな支援・援助ができるか考えながら接する。【体験１日目】	
14	特別支援学校での体験②：１日目の体験で気付いたり考えたりしたことをもとに、２日目はどのように関わっていくか考えて接する。【体験２日目】	
15	特別支援学校での介護等体験の振り返り：２日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートBの作成と提出）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
介護等体験日誌（7日間）	40	福祉施設及び特別支援学校での体験内容を丁寧に記載するとともに、どのような学びがあったのかを明確に書いている。	介護等体験レポートAB	30	福祉施設及び特別支援学校の体験終了後、規定の書式でレポートを書いている。
小レポート	20	福祉施設や特別支援学校の事前調査結果及び講義内容の感想を分かりやすく書いている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①第１回目の授業後に課す「ノーマライゼーションとは何か」について自己で調べて第２回目に授業に臨む。（事前学習） ②第３回目の授業後に課す「インクルーシブ教育と何か」について自己で調べて第４回の授業に臨む。（事前学習） ③７日間の体験中、その日の体験が終わったら毎回、『介護等体験日誌』を書く。（事後学習） ④体験終了後１週間以内に介護等体験レポートABを提出する。（事後学習） ⑤『介護等体験日誌』を学内の「教材室」に提出する。（事後学習）	①小レポート課題の取り組みについてコメントする。 ②福祉施設及び特別支援学校での介護等体験レポートABにコメントする。

受講生に望むこと	①教職を目指す学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解した上で実際の体験に臨むようにしてほしい。 ②高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考え、機会があるときには積極的に交流できるようにしてほしい。 ③ノーマライゼーションの考え方を理解し、今後の生き方の中でそれを大切にしていこうとする意識を持つようにしてほしい。	教科書・テキスト	『介護等体験安心ハンドブック』，庄司和史著，学事出版，2018年版，ISBN978-4-7619-2477-5
指定図書／参考書等	『介護等体験ハンドブック』，現代教師養成研究会編，大修館書店，2014年版，ISBN4-469-26534-9，『介護等体験ガイドブック　フィリア』，全国特別支援学校校長会編著，2014年版，ジ アース教育新社，ISBN978-4-86371-522-6／なし	その他・特記事項	介護等体験レポートABはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行うとともに、指導計画や施設・設備について提示し、理解させている。

授業科目名	異文化間コミュニケーション論			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「異文化」という言葉からは日本と海外の国々との間の「あたりまえ」の差異、異なった文化や価値観を想像するかもしれない。しかし現代はそれだけでなく貧富やジェンダー、移民など様々な要素も加味して問題を捉える必要がある。この授業では異文化を理解し、コミュニケーションを取るための基礎力、現場での応用力を身に付け、アンコンシャス・バイアスを客観的に捉えられることを目的とする。	・異文化理解の意義と重要性を理解する ・言語・非言語によるコミュニケーションのあり方を理解し、実践できる ・マイクロアグレッション、アンコンシャス・バイアスについて理解する

教授方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・第1章：他者との出あい～異文化コミュニケーションを学ぶ意義を理解する	
2	第2章：「ふさわしさ」をめぐるコミュニケーション～コミュニケーションの意味を理解する	
3	第3章：ことばというシンボル～ことばの道具性を理解する	
4	第4章：ことばにできないメッセージ～言語・非言語のメッセージについて理解する	
5	第5章：グローバル化とメディア～スマホがつなぐ社会を考える	
6	「第1部」振り返り	
7	第6章：コミュニケーションの〈想像/創造する力〉～他者からの記憶の継承について理解する	
8	第7章：英語という言語選択～外国語を学ぶ意味を考える	
9	第8章：異文化交流の意味～海外からみた日本文化のイメージを知る	
10	第9章：多国籍チームにみる組織内コミュニケーション～差異とアイデンティティを認知する	
11	第10章：スペクテーター・スポーツの異文化論～分かりやすい「日本人」の姿を理解する	
12	第11章：移民・難民問題から考える多文化社会～ドイツの事例から日本における多文化社会を考える	
13	第12章：異文化としての「スピーチ」～公の場で語ることの意味を考える	
14	第13章：越境・架橋するプロセス～みえない境界線を認識する	
15	最終課題プレゼンテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ワークシート	30	授業のディスカッション内容と自身の意見をまとめて毎授業ごとに提出する。期限の厳守と内容を評価する。	授業参加態度	30	学習態度、グループワークへの積極性や貢献度を評価する。
最終課題	40	課題の提出期限厳守と内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に指定されたテキストを読み、（担当回はレジュメ等、プレゼン資料を作成する）予習が必須である。	提出されたワークシートは次回以降の授業内に返却する。

受講生に望むこと	本授業は毎回、担当を決めてテキストを要約・プレゼンを順に行い、その内容についてディスカッションを行う。そのため、毎週の予習が必須であることを念頭に置き、受講すること。 毎回、自身が発表担当などの役割、グループワークがあるので、安易に欠席しないこと。	教科書・テキスト	「グローバル社会における異文化コミュニケーション論」ー身近な「異」から考える 編著者：池田理知子/塙幸枝 株式会社三修社　2023年4月 ISBN978-4-384-05937-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

観光業経験から得た世界各地の価値観や慣習の違いを俯瞰的に見る視点を取り入れて講義を行う。

授業科目名	児童文学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。	①明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。 ②児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。 ③児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる、を掲げる。

教授方法	講義、ディスカッション、研究発表
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明、序章　児童文学の定義について理解する。	
2	子どもの本の分類について、形式別、対象年齢別、ジャンル別に理解する。	
3	英米の子どもの本の歴史について、当時の時代背景や「子ども観」を中心に理解する。	
4	日本の子どもの本の歴史について、特に明治以降の子どもの本の歴史を概観する。	
5	伝承から子どものための物語への変遷について理解する。神話・伝説・昔話それぞれの特徴を把握する。	
6	ファンタジー（空想と魔法、架空の世界）について、ファンタジーの描かれ方の違いについて理解する。	
7	児童文学のリアリズム（日常、家族、学校、友情、人生）について理解する。	
8	冒険物語（探索、試練、挑戦、救出、サバイバル）について理解する。	
9	歴史物語（歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とした作品）について理解する。	
10	ノンフィクション（事実に基づいた作品）を概観し、分野別に理解する。	
11	子どものための詩（わらべうたから現代詩）について理解する。	
12	読んでおきたい古典を読み、保育者・教育者が読むことの意義を理解する。 欧米以外の世界の児童文学について理解する。	
13	児童文学が戦争と平和をどのように描いているかを理解する。	
14	幼年文学とYA文学について、作品の特徴と内容について理解する。	
15	まとめ：各自が研究した内容について発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢と態度	レポート	50	毎回の授業に関する考察が文章で表現しているか。
研究発表	30	自分で選んだ作品作家について研究した内容を口頭で表現しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の課題作成【30分】 研究発表の準備と振り返り【120分】	個別の質問やコメントについては個別に回答し、全体で共有すべき内容については授業の中で触れる。

受講生に望むこと	この授業でさまざまな児童文学作品を読み、子どもと一緒に作品世界に親しんでほしい。	教科書・テキスト	「児童文学の教科書　改訂新版」川端有子　玉川大学出版部　2025年　（ISBN：9784472406430）
指定図書／参考書等	なし／「今こそ読みたい児童文学100」赤木かん子　ちくまプリマー新書214　2014年　（ISBN:4480689176）、「アプローチ児童文学」関口安義編　2008年　（ISBN:4877372571）	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	国語			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	石上　佐知子・中島　賢介　（代表教員　石上　佐知子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。 ※SDGs目標番号4関連科目	①日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。 ②日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ③言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 ④小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育活動に活用することができる。

教授方法	講義、言語活動、グループ活動
履修条件	小学校教諭の教職課程登録者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、進め方、課題等の説明を聞き、学修の見通しを持つ。	
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。	
3	「話すこと・聞くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	
4	「話すこと・聞くこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	
5	「話すこと・聞くこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	
6	「書くこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	
7	「書くこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	
8	「書くこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	
9	「読むこと」領域について　（1）目標について解説などを参考に理解する。	
10	「読むこと」領域について　（2）指導事項について解説などを参考に理解する。	
11	「読むこと」領域について　（3）言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。	
12	我が国の言語文化について　（1）映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。	
13	我が国の言語文化について　（2）書写や読書に関して体験的に理解を深める。	
14	我が国の言語文化について　（3）俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。	
15	我が国の言語文化について　（4）創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで、作品を披露し互いに批評する機会を持つ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。	事前事後学習	30	①ノートテイク ・事前に、これから学ぶ事項を整理している。 ・事後に、授業内容を再構築している。 ②小レポート 観点に基づき、考えを適切に書き表している。
授業参加態度	20	ノートテイク等を工夫・活用しながら、学びのPDCAサイクルを構築している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前事後課題として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、ノートに書きまとめる。[90分] 上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。[30分]	・ノーとテイクや課題の観点を示し、質問に応じる。 ・グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。 ・ノートテイクに関してフィードバックを行う。

受講生に望むこと	国語での学びは、すべての学習の基礎となる。国語の学力が土台となって、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、自身の言葉の力を高めるよう努めるとともに、学修内容を教育現場でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省　東洋館出版社　2018　ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館　2018　ISBN978-4577814475
指定図書／参考書等	なし／『小学校新学習指導要領ポイント総整理　国語』吉田裕久、水戸部修治編　東洋館出版社　2017　ISBN978-4491033976	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

石上：公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、国語科の本質について問いをもちながら、小学校国語科の内容について実践的に授業を行う。
中島：小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	社会			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、世界の抱える諸課題を踏まえた小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。 「社会的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成するとは、具体的にどういうことかについて、知識と理解を深める。 ※SDGs目標番号4関連科目	①小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。 ②子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通し、理解している。 ③社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。

教授方法	講義・演習、グループ協議
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。	
3	社会系教科の成立と歴史的変遷について理解する。	
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。	
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。	
6	小学校社会科の授業構成と展開例　3学年①「地域の生産や販売に携わっている人々」から	
7	小学校社会科の授業構成と展開例　3学年②「古くから続くくらし（道具・年中行事・先人）」から	
8	小学校社会科の授業構成と展開例　4学年①「地域の人々の安全を守るための諸活動」から	
9	小学校社会科の授業構成と展開例　4学年②「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から	
10	小学校社会科の授業構成と展開例　5学年①「我が国の国土の様子と国民生活」から	
11	小学校社会科の授業構成と展開例　5学年②「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から	
12	小学校社会科の授業構成と展開例　6学年①「我が国の歴史上の主な事象」から	
13	小学校社会科の授業構成と展開例　6学年②「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から	
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。	
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学習の創造」について話し合う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート1（中間）	30	講義１～５までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。	レポート2（最終）	30	講義全体を通し、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。［60分］	対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 レポートについては、次期の「社会科指導法」講義内において適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、ISBN:978-4536590099
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題は必要に応じてClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	算数			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性、評価方法について理解する。	1）小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。 2）算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3）算数科の学習評価の考え方を理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	算数科指導法（後期）を受講する学生が望ましい。高等学校の数学Ⅰ及び中学校の数学を復習して受講すること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	算数を学ぶ意義を考えるとともに、本授業の到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。	
2	算数の目標及び内容構成について理解する。	
3	数と計算領域（１）数の概念と表記、自然数などについて理解する。	
4	数と計算領域（２）数の把握、数の表記について理解する。	
5	数と計算領域（３）たし算、ひき算、かけ算、わり算について理解する。	
6	数と計算領域（４）小数、分数について理解する。	
7	図形領域（１）基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係について理解する。	
8	図形領域（２）面積・体積とその公式について理解する。	
9	測定領域（１）量の概念について理解する。	
10	測定領域（２）量の測定について理解する。	
11	変化と関係領域（１）異種の量の割合について理解する。	
12	変化と関係領域（２）関数の考えについて理解する。	
13	データの活用領域（１）統計と確率について理解する。	
14	文章題、問題解決について理解する。	
15	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	授業内小テスト	20	第14回の授業において、小テストを行い評価する。
期末レポート	40	課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。［40分］ レポート作成のため、授業内容を復習する。［50分］	レポートや小テストの評価及び解説は授業時に行う。

受講生に望むこと	算数科の学修内容は全て理解できていることが基本である。また、教育現場で児童に算数科を指導する責任を自覚して、主体的に学修してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105
指定図書／参考書等	なし／なし 授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	理科			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領における理科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解する。また、具体的な授業場面を例示し、どのような観察・実験を行うのか、どのように評価するのかについて理解する。	1）小学校学習指導要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2）理科の各領域、各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3）理科の学習評価の考え方を理解する。 4）理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。 5）　理科における自然災害の取り扱いについて理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	理科指導法を後期に受講することが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	理科を学ぶ意義、本授業の到達目標・評価方法について理解する。	
2	理科の目標及び内容構成について理解する。	
3	A物質・エネルギー（1）「粒子の保存性」について理解する。	
4	A物質・エネルギー（2）「粒子の存在」について理解する。	
5	A物質・エネルギー（3）「粒子の結合」について理解する。	
6	A物質・エネルギー（4）「粒子のもつエネルギー」について理解する。	
7	A物質・エネルギー（5）「エネルギーの保存と変換」について理解する。	
8	A物質・エネルギー（6）「エネルギーの捉え方」について理解する。	
9	A物質・エネルギー（7）「エネルギーの保存と変換」について理解する。	
10	B生命・地球（1）「生物の連続性」について理解する。	
11	B生命・地球（2）「生物の外部の構造と機能」について理解する。	
12	B生命・地球（3）「生物の内部の構造と機能」について理解する。	
13	B生命・地球（4）「地球の内部と地表面の様子」及び自然災害の取り扱いについて理解する。	
14	B生命・地球（5）「地球の大気と水の循環」及び自然災害の取り扱いについて理解する。	
15	B生命・地球（6）「地球と天体の運動」について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	40	学修内容を活用し、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	授業内小テスト	20	第14回の授業において、小テストを行い評価する。
期末レポート	40	学修内容を活用し、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(40分) レポート作成のため、授業内容を復習する。(50分)	レポートや小テストの評価及び解説を授業で行う。

受講生に望むこと	資質・能力の育成を目指す理科授業を実現するために、理科の目標及び内容の系統性等を理解してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638
指定図書／参考書等	授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標の構造及び内容について体系的に取り上げ、理解を深めている。

授業科目名	生活			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、誰も取り残されない豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。 ※SDGs目標番号4関連科目	①幼児～初期学童期の子どもにとって、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解している。 ②生活科の特性・目標・内容等について理解している。 ③体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解している。

教授方法	講義・演習、グループ協議
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。	
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。	
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」①：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。	
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」②：繰り返し活動することの意義を考えよう。	
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」③：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。	
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」④：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。	
8	生活科の実践から①：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例	
9	生活科の実践から②：学校生活に関する実践例	
10	生活科の実践から③：地域生活に関する実践例	
11	生活科の実践から④：飼育・栽培・いのちに関する実践例	
12	生活科の実践から⑤：自分の成長に関する実践例	
13	体験編「自分物語を創ろう」①：自分自身を見つめ、物語を作ろう。	
14	体験編「自分物語を創ろう」②：互いの物語から学ぼう。	
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。	自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、自分らしい表現を選択して簡潔に表すことができる。
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①家族から自分の幼少期の話を聞くなどして、これまでの人生を振り返る。［60分］ ②子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍等で学ぶ。［20分］ ③多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。［20分］ ④三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。［20分］	対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も含め、成績評価後速やかに返却する。

受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切にする学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、ISBN:978-4491034645
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題は必要に応じてClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。

授業科目名	音楽			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識と技術を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュを学ぶ。初等音楽の教科書から様々な楽曲を取り上げ、歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の教材について理解を深める。また、様々な表現形態について学ぶことで、豊かな感性を育む。	①小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解する。 ②音楽科の指導内容について理解する。 ③正しい発声法を理解し、歌うことができるようになる。 ④打楽器・鍵盤楽器・ソプラノリコーダー・和楽器の演奏法、取り扱いについて理解し、演奏できるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	「器楽Ⅰ」の履修済が望ましい（単位未修得可）／ピアノの両手奏の技術を習得済の者、または習得中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。音楽理論Ⅰ：拍、拍子とリズムについて理解する。低学年Ⅰ：低学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践する。	
2	音楽理論Ⅱ：五線、譜表、音部記号について理解する。低学年Ⅱ：低学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅰ：小学校学習指導要領（音楽）の、各学年の〔共通事項〕に示された「音楽を形づくっている要素」について学ぶ。「音楽の仕組み」について理解する（反復①）。	
3	音楽理論Ⅲ：音名について理解する。低学年Ⅲ：低学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅱ：「音楽の仕組み」について理解する（反復②）。	
4	音楽理論Ⅳ：変化記号について理解する。低学年Ⅳ：低学年の鑑賞教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅲ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ①）。	
5	音楽理論Ⅴ：音符と休符について理解する。中学年Ⅰ：中学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅳ：「音楽の仕組み」について理解する（呼びかけとこたえ②）。	
6	音楽理論Ⅵ：音程について理解する。中学年Ⅱ：中学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅴ：「音楽の仕組み」について理解する（変化）。	
7	音楽理論Ⅶ：速度記号について理解する。中学年Ⅲ：ソプラノリコーダーの取り扱い、奏法及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅵ：「音楽の仕組み」について理解する（反復と変化）。	
8	音楽理論Ⅷ：強弱記号について理解する。中学年Ⅳ：中学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅶ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係①）。	
9	音楽理論Ⅸ：奏法に関する記号について理解する。中学年Ⅴ：中学年の鑑賞教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅷ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係②）。	
10	音楽理論Ⅹ：反復記号について理解する。高学年Ⅰ：高学年の歌唱教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅸ：「音楽の仕組み」について理解する（音楽の縦と横との関係　）。	
11	音楽理論Ⅺ：長調と短調について理解する。高学年Ⅱ：高学年の器楽教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅹ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係①）。	
12	音楽理論Ⅻ：和音について理解する。高学年Ⅲ：高学年の音楽づくり教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅺ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係②）。	
13	高学年Ⅳ：高学年の鑑賞教材及び指導内容について学び、実践する。共通事項Ⅻ：「音楽の仕組み」について確認する（反復,呼びかけとこたえ,変化,音楽の縦と横との関係　）。	
14	和楽器（和太鼓）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	
15	和楽器（箏）の取り扱い及び奏法について学び、実践する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。（「受講生に望むこと」欄を参照）	課題	30	課題に対しての取り組みと内容。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。（①授業内容について振り返りができているか。②授業のポイントを理解してまとめられているか。　感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題に積極的に取り組むこと。［40分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。［20分］ ③次回授業のための課題に取り組み、準備すること。［30分］	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②個人で行う課題とグループで行う課題があるため、グループで行う課題については協力して取り組むこと。	教科書・テキスト	『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021、ISBN978-4-87788-969-2.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.プリント
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018、ISBN978-4-49103-465-2.『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図画工作			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	鷲山　靖						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
1．カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作科教育法」に連接する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2．授業のねらい ①造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 ②造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。 3．授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。	①基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 ②基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 ③自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 ④造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 ⑤図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。

教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動__えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。	
2	つくって遊ぶ活動__つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。	
3	絵に表す活動A__オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。	
4	絵に表す活動B__絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。	
5	絵に表す活動C__版画の基礎知識・技能を学ぶ。	
6	絵に表す活動D__発想の能力を育成するイラスト作品制作とその作品の相互評価を楽しむ。	
7	絵・工作に表す活動A-1__発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
8	絵・工作に表す活動A-2__発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。	
9	立体・工作に表す活動A-1__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
10	立体・工作に表す活動A-2__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
11	立体・工作に表す活動A-3__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
12	立体・工作に表す活動B-1__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
13	立体・工作に表す活動B-2__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
14	立体・工作に表す活動B-3__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	
15	立体・工作に表す活動B-4__評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	30	①指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。 ②美術室の清掃・整備に取り組んでいる。 ③授業に集中している。	作品の制作状況	30	①課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 ②課題作品は作品条件を満たしている。
作品の機能	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験を行い評価する。レベル１（9%），レベル２（20%），レベル３（11%）			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。［10分］ ②指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。［30分］	①作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 ②期末試験時間の前半に作品の合否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。

受講生に望むこと	①身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみる。 ②身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しむ。	教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罫」ミドリ
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する	その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家庭			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択必修
担当教員名	村井　万寿夫・森島　美佳・綿引　伴子　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領解説家庭編をもとに、家庭科の果たすべき役割や指導内容について学習したのち、家庭科の内容としての３領域（A, B, C）について実習や製作を中心に体験的に学ぶ。家庭科は子どもたちにとって普段の生活や社会に出て役立つ教科であることから、学生自身が小学生の頃を思い出しながら考え、体験し、振り返ることができる授業構成としている。授業は専門分野を担当する教員によってオムニバス形式で行う。	①家庭科の目標や内容について理解している。 ②調理や布を使った製作の基礎的技能を身に付けている。 ③子どもの家庭生活についての現状と課題について理解している。 ④持続可能な社会に向けて、家庭生活や社会生活の課題に気付き、実践的な態度に結び付けようとしている。

教授方法	講義　実習　製作
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：各回の授業内容と担当教員、評価の方法等／小学校家庭科の歴史と教育的意義：教科「家庭科」の変遷から「家庭科」の目的や社会変化との関係について理解する。	村井
2	小学校家庭科の目標と内容構成：小学校学習指導要領解説家庭編をもとに理解する。	村井
3	A領域「家族家族・家庭生活」：現代的課題としての「ジェンダー平等」や「ワークライフバランス（WLB）」について考える。【小テスト】	村井
4	A領域「家族・家庭生活」：実習　「手作りおやつと家族の団らん」の活動を通して、子どもの果たす力について考える。	綿引
5	B領域「衣食住の生活」：食事の役割や栄養を考えた食事についての理解を深める。	綿引
6	B領域「衣食住の生活」：伝統的な日常食の献立作成と調理実習計画を立案する。	綿引
7	B領域「衣食住の生活」：実習　「調理の基礎」について実習を通して体験的に学び、知識や技能を習得する。【レポートＡ】	綿引
8	B領域「衣食住の生活」：エネルギー問題や生活環境に課題意識をもって、快適な住まい方の基礎的な知識・方法を考える。	綿引
9	C領域「身近な消費生活と環境」：家庭や地域生活における課題と実践の発表を通して、SDGsの生活の在り方を考える。	綿引
10	B領域「衣食住の生活」：衣服の働きと衣服の着用について、知識及び技能を習得する。	森島
11	B領域「衣食住の生活」：衣服の手入れににについて、洗濯と基礎縫いに関する知識及び技能を習得する。	森島
12	B領域「衣食住の生活」：ミシンの使い方の知識や技能、および用具の安全な取り扱いについて、体験的に学び習得する。	森島
13	B領域「衣食住の生活」：布を用いた作品の計画と製作（地直しと裁断）。	森島
14	B領域「衣食住の生活」：布を用いた作品の計画と製作（縫製）。	森島
15	B領域「衣食住の生活」：作品を仕上げ、製作過程を振り返り反省評価できる。【レポートＢ】	森島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習や製作物	40	・積極的に実習に参加している。 ・基礎的基本的技能を習得している。	レポートAB	30	レポートの要件に沿って書いてある。
小テスト	15	学習内容の理解ができている。	授業態度	15	意欲的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：衣食住について自己の関心をもとに事前学習を行う。［30分］ 事後学習：各回の学習をふり返って感想等を小レポートにまとめる。［30分］	・小テストは採点して返却する。 ・小レポートにはコメントをつけて返却する。 ・製作物を評価し返却する。

受講生に望むこと	「家庭科」は日々の子どもの生活に直結する科目であることから、子どもと家庭、子どもと「衣・食・住」の関係について考える機会としてほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説家庭編，文部科学省，2017年、ISBN978-4-487-28706-2／なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	・調理実習費を徴収します。 ・被服製作実習で作成するマチ付きファスナーポーチの材料を，各自準備して下さい。表地用・裏地用の普通地の綿布(40cm×30cm)計2枚，芯地(40cm×30cm)1枚，ファスナー(20cm)1本，ミシン糸(60番)，裁縫用具

実務経験を活かした授業の概要

村井：小学校教師として第５学年、第６学年の家庭科を担当した。この経験をもとに教える立場としての苦労や喜びを履修生に伝える。

授業科目名	体育			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
平成29年度に告示された新小学校学習指導要領体育編の目標には「心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協同的な学習活動を通して、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力』、『学びに向かう力・人間性』を育成すること」とある。この授業では、将来教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。	学習指導要領（体育編）の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	体つくりの運動遊び①　「体ほぐしの運動（遊び）」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。	
3	体つくりの運動遊び②　「多様な動きをつくる運動遊び」を実践し、指導法などを学習する。	
4	機械・器具を使っての運動遊び①　「器械運動①（マット）」を実践し、指導法などを学習する。	
5	機械・器具を使っての運動遊び②　「器械運動②（鉄棒）」を実践し、指導法などを学習する。	
6	機械・器具を使っての運動遊び③　「器械運動③（跳び箱）」を実践し、指導法などを学習する。	
7	走・跳の運動遊び①　「走・跳の運動及び陸上運動①」を実践し、指導法などを学習する。	
8	走・跳の運動遊び②　「走・跳の運動及び陸上運動②」を実践し、指導法などを学習する。	
9	走・跳の運動遊び③　「走・跳の運動及び陸上運動③」を実践し、指導法などを学習する。	
10	ゲーム①　「ボール運動①」を実践し、指導法などを学習する。	
11	ゲーム②　「ボール運動②」を実践し、指導法などを学習する。	
12	ゲーム③　「ボール運動③」を実践し、指導法などを学習する。	
13	水泳①　各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（水泳実習における留意事項など理論を中心に。）	
14	水泳②　各種泳法を実践し、指導法などを学習する。（各種泳法など実技を中心に。）	
15	まとめ　これまで学習してきた内容を整理する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取ろうとする姿勢がある。	ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されている。 ・指定した課題に対して的確に調べられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。[30分] ②各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。[30分] ③各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。[30分]	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則である。 運動のできる服装で参加する。 主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意する。 なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目である。 学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：『小学校学習指導要領解説　体育編』文部科学省　東洋館出版社 平成30年2月28日初版　ISBN 978-4-491-03467-6	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語			開講学科	初等中等教育	必修・選択	必修
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力を、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景的な知識の具体例を教科書や発表活動から学ぶ。	①英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 ②第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。 ③児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。 ④異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。

教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭（英語）、高等学校教諭（英語）のうち、いずれかの資格・免許を取得予定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を説明する。 Unit 1　ALT's First Visit to Minami Elementary School　初対面の人とのやりとりの仕方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためやりとりをする方法を知る。	
2	Unit 2　Getting to Know Each Other　相手をより知るための話の進め方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを準備する。	
3	Unit 3　School Lunch　相手を歓迎会にお誘いする話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを練習する。	
4	Unit 4　Play Time　休み時間の遊びについての話し方を学ぶ。 発展活動：JTEがALTに学校のことを知ってもらうためのやりとりを発表する。（発表①）	
5	Unit 5　The First English Class　最初の Team Teaching の授業の始め方を学ぶ。 発展活動：TT で ALT 紹介をする方法を知る。	
6	Unit 6　Teaching Numbers 1　TTの授業の始めから活動に入る所までの進め方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を準備する。	
7	Unit 7　Teaching Numbers 2　TTで活動を進める方法を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。	
8	Unit 8　Reflection　授業の最後に行う振り返りの仕方を学ぶ。 発展活動：TT での ALT 紹介を練習する。（発表②）	
9	Unit 9　Activities at a Kindergarten　ゲストとして訪問する幼稚園での活動についての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる方法を知る。	
10	Unit 10　Growing Plants & Observing the Butterfly Lifecycle　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（理科の観察） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる準備をする。	
11	Unit 11　Making Onigiri and Curry　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（家庭科の調理実習） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる練習をする。	
12	Unit 12　Making a Town Map　他教科の学びについてのやりとりを学ぶ。（者s開花の地域の地図作成） 発展活動：TTで歌・チャンツ・ゲームなどを楽しく活動させる発表をする。（発表③）	
13	Unit 13　Introducing Japanese Culture　国際交流に向けての打ち合わせの仕方を学ぶ。 発展活動：TT で skit を行うための準備をする。	
14	Unit 14　Evacuation Drills　避難訓練についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で skit を行うための練習をする。	
15	Unit 15　Graduation　卒業に向けて行われる活動についての説明の方法を学ぶ。 発展活動：TT で skit を発表をする。（発表④）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	英語の語彙、文構造、文法、発音、正書法などを身に付けているか。	発表 ①②③④の4回分	40	英語の自己紹介・歌指導、スキット等を相手を意識しながら発表できているか。
授業への参加態度と発表準備	20	授業に熱心に参加しているか。他者の発表に対する評価が適切にできるか。発表のための協力度。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の小テストの準備を十分にすること。[30分] 英語で発表するために、教室で児童生徒の前で実践する時のように自信をもってできるまで練習すること。[60分]	①小テストについては、次時に返却する際にコメントする。 ②パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。

受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということを体感してほしい。	教科書・テキスト	『Hello, English ―English for Teachers of Children』相羽千州子・藤原真知子・Brian Byrd・Jason Barrows 著　成美堂　2024　ISBN:9784791947973
指定図書／参考書等	なし／『小学校英語内容論入門』樋口忠彦他編著　研究社　2019 ISBN: 97843274100995	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学校・高等学校の教員としての経験を生かして、授業場面の具体を紹介し、幼・保～高等学校における外国語活動・外国語の授業をするために必要な「英語力」「知識」及び「実践的活動」を身につけるための指導をしている。

授業科目名	国語科指導法（書写を含む）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
初等国語科における「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりについて、その基礎力としての視点・理論・技術を身に付けることを目標とする。具体的には、到達目標に挙げた５点を理解するとともに自らも言語活動を体験することを通して、単元構想から授業実践までの過程を実践的に学ぶ。また、学校現場に出た後の授業づくりに対して、具体的なイメージとともに自信をもてるようにする。 ※SDGs目標番号1、4、6関連科目	１．『小学校学習指導要領解説　国語編』の見方・扱い方を概ね理解し、次の２～４に対応させる（活用する）ことができる。 ２．初等国語科の目標・各領域の指導事項に沿った単元（学習目標・言語活動・評価規準のおおまかな設定）を立案できる。 ３．２を具現化するために、独創的な視点をもって教材研究（分析・開発）ができる。 ４．２・３に基づき、言語活動を通した学び、及び指導と評価の一体化を踏まえた学習指導案を作成できる。 ５．模擬授業ができる。

教授方法	１．『小学校学習指導要領解説　国語編』の見方・扱い方を概ね理解し、次の２～４に対応させる（活用する）ことができる。／２．初等国語科の目標・各領域の指導事項に沿った単元（学習目標・言語活動・評価規準のおおまかな設定）を立案できる。／３．２を具現化するために、独創的な視点をもって教材研究（分析・開発）ができる。／４．２・３に基づき、言語活動を通した学び、及び指導と評価の一体化を踏まえた学習指導案を作成できる。／５．模擬授業ができる。
履修条件	「国語」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要・評価・進め方および学習指導要領との関連を確認し、学修の見通しをもつ）	
2	国語科授業づくりの基礎１（主体的・対話的で深い学び、指導と評価の一体化、学習指導技術の基本等）	
3	国語科授業づくりの基礎２（教材研究について①～ビブリオトークを通して～）	
4	国語科授業づくりの基礎３（教材研究について②）	
5	国語科学習指導案の理解	上
6	「話すこと・聞くこと」の授業づくり	
7	「書くこと」の授業づくり	上
8	「読むこと（文学的文章）」の授業づくり	
9	「読むこと（説明的文章）」「情報の扱い方」の授業づくり	
10	「我が国の言語文化」の授業づくり	
11	模擬授業とリフレクション１	
12	模擬授業とリフレクション２	
13	模擬授業とリフレクション３	
14	模擬授業とリフレクション４	
15	まとめ「めざす国語科の授業」	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案	30	模擬授業へ向け、独創的な視点と十分な教材研究を通して、学習指導案を作成することができる。	模擬授業	30	・十分な教材研究および事前準備ができている。 ・積極的・協働的に模擬授業を実施することができる。
期末レポート	20	学修を振り返り、目指す国語科授業について考え、文章に書きまとめることができる。	授業参加態度	20	自己課題を踏まえ、学びのPDCAを構築しようとする態度でノート作りに取り組んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：授業の各回に示されているテキストの章や、指示された内容を予め読み、考えたことや疑問に思ったことなどをノートに書く。また、模擬授業の準備や教材研究を行う。（詳細は授業で案内する）[60分] 事後学習：授業後に、本時の振り返りをノートに書くほか、授業内学習を再解釈・再構築する。[60分] 模擬授業へ向けて、教材研究・指導案作成・授業準備などに、計画的・協働的に取り組む。（詳細は授業で案内する）[60分] ※授業に沿って上記の内容に適宜取り組む。	・授業内課題や期末レポートについて、観点を示し、質問に応じる。 ・ノートテイク等についてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	自らが受けて来た国語科授業を、様々な角度・視点から再考し、めざす国語科授業について自らの言葉で語れる力を身に付けて欲しい。そのためには、授業はもちろん事前・事後の学習にも自覚的に言葉を駆使し、積極的に学ぶ姿勢が必要。そうした学びを通して、国語科授業づくりの楽しさを味わって欲しい。	教科書・テキスト	①『小学校国語科授業研究』田近洵一、中村和弘、大熊徹、塚田泰彦編 2018年 ISBN：9784316804651 ②『小学校学習指導要領解説　国語編』文部科学省　東洋館　2018年 ISBN：9784491034621 ③「国語科　考えるノート（国語編）」「国語科　考えるノート（漢字編）」「国語科　考えるノート（作文編）」正進社（※合計３冊。これはノートで、毎回の授業、教材研究等で使用する。購入については授業時に案案内する。）
指定図書／参考書等	『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館 2020年 ISBN：9784491041209 ／『小学校国語学習指導書（1年～6年）』光村図書出版株式会社ISBN：978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3 『初等国語科教育』塚田康彦、甲斐雄一郎、長田友紀 ミネルヴァ書房 2018年 ISBN：9784623082926	その他・特記事項	この授業はchromebookを持参する回がある。授業で案内する。

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校における国語教育実践の経験を生かし、学びの連続性を踏まえた授業内容を構成する。また理論と実践の両輪からなる初等国語科教育について、言語活動を交えながら実践的に授業を展開する。

授業科目名	社会科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から 6 年生まで、それぞれの発達の段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。	①小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など
履修条件	基礎となる「社会」を履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。	
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。	
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。	
5	社会科授業の様々な方法論について理解する。	
6	3，4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。	
7	5，6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。	
8	社会科授業3，4 学年の指導計画の作成を理解する。	
9	社会科授業5，6 学年の指導計画の作成を理解する。	
10	指導計画の作成、質問教室① 実施単元や展開の大枠を決定する。	
11	指導計画の作成、質問教室② 展開の詳細、発問、板書等を吟味する。（社会科学習指導案①の提出）	
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（3，4学年）	
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（5学年）	
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（6学年）	
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案②（修正版）の提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。	模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。［60分］ 金沢市近郊の小学校あるいは母校等において、学習支援に積極的に参加する。［60分以上］	学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。

受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、ISBN:978-4536590099
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	算数科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について学修する。	1）算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2）算数科の教材研究や学習指導案の作成方法等を理解し、模擬授業を行う。 3）算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。

教授方法	講義と演習
履修条件	「算数」を履修した学生が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。 算数教育の意義、目標、内容について理解する。	
2	主体的・対話的で深い学びを目指す算数教育について理解する。	
3	日本の算数教育の歴史について理解する。	
4	授業の構成、学習指導案を作成する意義、評価の仕方について理解する。	
5	「A 数と計算」の学習指導案を作成し、指導法について理解する。	
6	「B 図形」の学習指導案を作成し、指導法について理解する。	
7	「C 測定」「C 変化と関係」の学習指導案を作成し、指導法について理解する。	
8	「D データの活用」の学習指導案を作成し、指導法について理解する。	
9	学習指導案を作成し、模擬授業を計画する。また、模擬授業のテーマによりグループを編成し、学習指導案について協議する。	
10	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
11	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
12	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
13	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
14	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
15	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	学修内容をもとに、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	模擬授業	40	要件を満たす学習指導案が作成できたかを評価する。 教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業内小テスト	20	学修内容についての理解度を小テストで評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(40分) 授業で示す課題に取り組み、締め切り期限内に提出する。(60分)	レポートや小テストは、評価し授業においてフィードバックする。

受講生に望むこと	小学校の教員として、資質・能力を育成する算数科の授業を実施するために、どのようなことに留意するのかについて具体的に理解してほしい。	教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説　算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105
指定図書／参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。	その他・特記事項	授業ではchromebookを使う。 Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び算数教育研究校での研究主任の経験をもとに、小学校学習指導要領算数科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。

授業科目名	理科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	川真田　早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校教員として理科の学習指導に関する基礎的な知識を習得するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価、学習指導法等を学修する。	1)理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2)理科の教材研究や学習指導案の作成方法について理解し、模擬授業を行う。 3)問題解決の過程で、児童が見方・考え方を働かせる理科授業の在り方について考える。 4)理科で自然災害をどう教えるかを理解する。

教授方法	講義と演習
履修条件	「理科」を履修した学生が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。	
2	理科の目標の構造、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。	
3	理科で何をどのように学ばせるのかについて、4つの領域から考える。	
4	資質・能力を育成する授業づくりについて理解する。	
5	問題解決の授業、ＩＣＴ機器の活用、学習評価・評定について理解する。	
6	実験と観察、基本的な実験器具の使い方、試薬の扱い方、理科室の整備と管理について理解する。	
7	学習指導要領と学習指導案の関連について理解する。	
8	問題解決の活動を具体化する学習指導案の作成方法について理解する。	
9	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
10	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
11	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
12	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
13	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
14	模擬授業を実施し、授業のねらいが達成できたかどうかについて協議する。	
15	理科で自然災害をどう教えるかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	学修内容をもとに、課題に応じたレポートを書くことができたかを評価する。	模擬授業	40	要件を満たす学習指導案が作成できたかを評価する。 教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業内小テスト	20	学修内容についての理解度を小テストで評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業に関連する教科書の内容を予習する。(40分) 授業で示す課題に取り組み、締め切り期限内に提出する。(60分)	レポート及び小テストは評価し、評価内容は授業で活用する。

受講生に望むこと	小学校の教員として、資質・能力を育成する理科授業をするためにどのようなことに留意するのかについて具体的に理解してほしい。	教科書・テキスト	「知識とスキルがアップする小学校教員と教育学部生のための理科授業の理論と実践」講談社　2021 ISBN　9784065229446
指定図書／参考書等	なし／「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省2017　ISBN978-4491034638	その他・特記事項	授業ではchromebookを使う。 Classroomを用いた課題等の提示・提出を基本とする。

実務経験を活かした授業の概要

小学校における勤務経験及び平成29年小学校学習指導要領理科執筆の経験をもとに、小学校学習指導要領理科の目標・内容と関連付けた実践を例示・説明している。これをもとに、学生には、教材研究、指導案作成、模擬授業を行わせている。

授業科目名	生活科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。 1、2 年生の発達の段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。	①生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 ②生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など
履修条件	基礎となる「生活」を履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。	
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。	
3	教材研究、指導計画立案について理解する。	
4	授業展開、評価について理解する。	
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。	
6	生活科の目標と内容を理解する。	
7	生活科学習指導計画の作成について理解する。	
8	指導計画の作成、質問教室①　実施単元や展開の大枠を決定する。	
9	指導計画の作成、質問教室②　主要な教材、展開の詳細等を吟味する。	
10	指導計画の作成、質問教室③　展開の詳細、発問、板書等を吟味する。（生活科学習指導案①の提出）	
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価①（1学年）	
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価②（1学年）	
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価③（2学年）	
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価④（2学年）	
15	模擬授業全体を通じての全体振り返り、まとめ。生活科学習指導案②（修正版）の提出	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。	模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。	講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
三小牛山周辺の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。[20分] 単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。[60分] 金沢市近郊の小学校、あるいは母校等の学習支援に積極的に参加する。[60分以上]	学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。

受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしてほしい。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社，2018年、ISBN:978-4491034645
指定図書／参考書等	授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	音楽科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	武田　恵美						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
小学校学習指導要領「音楽」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。」と示されている。第１学年から第６学年まで、それぞれの発達の段階に応じた音楽科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学ぶ。	①小学校音楽科の目標、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的な知識及び技能を身に付ける。 ②音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。

教授方法	講義と演習
履修条件	「器楽Ⅰ」「器楽Ⅱ」「音楽」を履修済が望ましい（単位未修得可）／ピアノの両手奏の技術を習得している者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業計画、到達目標、成績評価の方法等について、シラバスを通して理解する。小学校音楽科における教科の本質について理解する。 教材研究Ⅰ：歌唱共通教材について理解する。	
2	小学校音楽科の「目標」、「各学年の目標」、「内容」の構成を理解する。 教材研究Ⅱ：共通教材（低学年）の歌唱・伴奏について理解を深め、弾き歌いを発表する。	
3	音楽科の「内容」について理解する。 教材研究Ⅲ：共通教材（中学年）の歌唱・伴奏について理解を深め、歌唱を発表する。	
4	音楽科の「指導計画の作成と内容の取扱い」について理解する。 教材研究Ⅳ：共通教材（中学年）の歌唱・伴奏について理解を深め、ピアノ伴奏を発表する。	
5	音楽科の「評価」について理解する。 教材研究Ⅴ：共通教材（高学年）の歌唱・伴奏について理解を深め、歌唱を発表する。	
6	教材研究Ⅵ：共通教材（高学年）の歌唱・伴奏について理解を深め、ピアノ伴奏を発表する。 Ａ表現（１）歌唱の指導法と教材について学ぶ。	
7	Ａ表現（２）器楽の指導法と教材について学ぶ。 Ａ表現（３）音楽づくりの指導法と教材について学ぶ。	
8	Ｂ鑑賞の指導法と教材について学ぶ。 学習指導案について理解する。	
9	学習指導案①を作成し、提出する。	
10	学生による模擬授業Ⅰ：指導案①に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する。	
11	学生による模擬授業Ⅱ：指導案①に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する。	
12	学生による模擬授業Ⅲ：指導案①に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する。	
13	学生による模擬授業Ⅳ：指導案①に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する。	
14	学生による模擬授業Ⅴ：指導案①に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する。	
15	学生による模擬授業Ⅵ：指導案①に沿って実践し、振り返りを通して指導案を改善する。 模擬授業Ⅰ－Ⅵの振り返りを行い、題材の系統性についての気付きを発表する。改善した学習指導案②を提出する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢。	模擬授業、学習指導案①・②	50	模擬授業の内容。 ①題材及び教材についての目標や指導内容を理解して学習指導案を作成しているか。②適切に修正された学習指導案が作成されているか。
課題	30	各回の講義・演習内容について理解し、必要な技術を習得しているか。課題の内容、形態等の詳細は授業内に提示する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①音楽の基礎的な技術を高めるための課題に積極的に取り組むこと。［50分］ ②講義内容について自身で振り返り、疑問点や不明点を調べること。［20分］ ③学習指導計画案作成において基本的な要件を漏れなく記載することができるよう、多くの学習指導計画を調べること。［20分］	コメント又は個別指導を行う。

受講生に望むこと	①毎授業で出される課題に積極的に取り組むこと。 ②僅かな空き時間を有効活用するなど工夫をして、ピアノと歌唱の練習を継続して行うこと。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説　音楽編』東洋館出版社、2018年、ISBN978-4-49103-465-2.『小学校 音楽科教育法 2022年改訂版』有本真紀・阪井恵・津田正之編著、教育芸術社 、2021年、ISBN978-4-87788-969-2.プリント
指定図書／参考書等	なし／『保育者、教員をめざす人のための 初級ピアノ・テクニック速習ステップス』木許隆監修、音楽之友社、2015、ISBN978-4-276-82073-9.『音楽の基礎 改訂版』木許隆監修、圭文社、2018、ISBN978-4-87446-066-5.『コードネームとリズムによる Basic and Variations』木許隆, 武田恵美, 長井典子編著、圭文社、2022、ISBN978-4-87446-091-7.『うたうソルフェージュ』木許隆監修、圭文社、2024、ISBN978-4-87446-093-1.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図画工作指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	鷲山　靖						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
1．カリキュラムにおける位置付け ①この科目は資格取得に必要な科目である。 ②この科目は「図画工作」に連接する科目である。 ③この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。 2．授業のねらい ①図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 ②図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。 3．授業の進め方 ①テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 ②期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。	①図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 ②図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 ③図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。

教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。
履修条件	「図画工作」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識①：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。	
2	基礎知識②：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。	
3	基礎知識③：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。	
4	基礎知識④：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討しを理解する。	
5	基礎知識⑤：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。	
6	基礎知識⑥：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、 図画工作科教科書を検討し理解する。	
7	基礎知識⑦：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。	
8	授業構想・演習①：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。	
9	授業構想・演習②：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。	
10	授業構想・演習③：図画工作科における指導言とその要点を理解する。	
11	授業構想・演習④：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。	
12	授業構想・演習⑤：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。	
13	授業構想・演習⑥：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。	
14	授業構想・演習⑦：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。	
15	授業構想・演習⑧：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	40	授業内容を理解できているか。	定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解できているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。［10分］ ②教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。［30分］	課題（演習）の成果は，担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。

受講生に望むこと	①スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 ②考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧める。	教科書・テキスト	①『図画工作１・２上～５・６下』（令和7年度版もしくは令和6年度版）日本文教出版 ②『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編』日本文教出版 2018年　ISBN9784536590112 ③『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 図画工作』 東洋館出版社　2020年　ISBN978449104126
指定図書／参考書等	なし／授業時に随時紹介する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家庭科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	荒井　紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、SDGsとの関連にも注目しながら、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。 ※SDGs目標番号1～6、11～13関連科目	①家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。 ②児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。 ③児童の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。

教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、個人の実践的学習、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）	
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）	
3	家庭科の歴史と男女共修（1947 年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）	
4	家庭科の目標・内容とSDGsとの関連（学習指導要領の目標、内容や資質・能力、深い学びについてに理解するとともに、SDGsと家庭科との関連について検討する）	
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）	
6	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（１）（三国清三氏の食の授業の動画をもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）	
7	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（２）（子供の自発性や生活自立力を育む家庭科のカリキュラムの構造について理解し、その理論を用いて、前回の三国清三氏の食の授業を分析する）	
8	家庭科における探究的な学びとカリキュラム（３）（消費者学習の動画をみて、子どもの探究を促すジグゾー型の授業の構造を理解し、その効果について検討する）	
9	授業を読む（１）（テキストに掲載されたSDGsに関わる家族や食の授業実践を読み、その長所と改善点について検討する）	
10	授業を読む（２）（テキストに掲載されたSDGsに関わる消費や住居などの授業を読み検討すると共に、各自の授業案を作成する）	
11	模擬授業（１）授業計画を立てる（各自の授業案をもとに、グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）	
12	模擬授業（２）細案を完成させ、模擬授業の準備を行う（細案に関わる資料や教材、教具を作成する）	
13	模擬授業（３）授業の実施（前半）（グループごとに実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）	
14	模擬授業（４）授業の実施（後半）	
15	各グループの模擬授業についての省察と、講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
個人作成の授業案と実践	20	授業構想がしっかりたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。	課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。
定期試験	50	講義全体に関する各自の省察の中身を問う。具体的には、本講義で学んだことを理解しているか、それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているかをみる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
8回の授業が終わった時点で、授業計画に必要な教材研究の一環として、食生活と衣生活に関わる実践的な問題解決の課題を出す。［180分程度］	講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。

受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」と、関心のある章や授業のひとつに目を通しておくこと。	教科書・テキスト	『SDGsと家庭科カリキュラム・デザイン』（増補版） 教育図書㈱　2022年　荒井紀子、高木幸子ほか ISBN：9784877304621 ※購入については授業前に指示する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	体育科指導法			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	丸井　一誠						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践的指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。各領域の特性に応じた学習活動を行うことができるように工夫することについても学ぶ。 ※SDGs目標番号4、5関連科目	小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身に付ける。

教授方法	対面授業による講義、教材研究、模擬授業
履修条件	「体育」を履修中もしくは履修済みであることが望ましい(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方	
2	学習指導要領の目標と内容	
3	指導計画の立案・教材研究	
4	学生の模擬授業① -体つくり運動-	
5	学生の模擬授業② -マット運動-	
6	学生の模擬授業③ -鉄棒運動-	
7	学生の模擬授業④ -跳び箱運動-	
8	学生の模擬授業⑤ -走・跳の運動-	
9	学生の模擬授業⑥ -ゴール型ゲーム-	
10	学生の模擬授業⑦ -ネット型ゲーム-	
11	学生の模擬授業⑧ -ベースボール型ゲーム-	
12	学生の模擬授業⑨ -表現-	
13	学生の模擬授業⑩ -リズム-	
14	学生の模擬授業⑪ 保健	
15	ふりかえりとまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢	模擬授業の発表内容	20	①模擬授業に向けた丁寧な準備がされているか。 ②運動に関する正しい指導が行われたか。 ③運動が得意な児童だけでなく苦手な児童への配慮がなされたか
指導案の内容	30	①十分な教材研究がなされているか。 ②異なる能力の児童の姿を想定しているか。 ③安全への配慮が考えられているか	レポート	20	「体育」に関する正しい知識を習得し、論理的に考えることができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報や参考書に接し、様々な角度から考える［60分］ ②授業中に配布した資料を読む［30分］ ③指導案及びレポートの作成［60分］ 小学校低学年体育、文部科学省 - You Tube 小学校中学年体育、文部科学省 - You Tube 小学校高学年体育、文部科学省 - You Tube	課題等は授業の理解度の確認に用い、必要な場合は個人指導を行う。

受講生に望むこと	体育は単に運動技能を高めるためだけでなく、すべてのこどもが運動することを通して学びあい、楽しむことができる科目である。そのため、体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要になる。自分自身のこれまでの経験は大切だが、それが全てとは考えず、多様な視点をもって授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	小学校学習指導要領解説　体育編、文部科学省、2017年 体育科教育学入門　三訂版、大修館書店、2021年 小学校体育（運動領域）指導の手引　～楽しく身に付く体育の授業～ https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00003.htm	その他・特記事項	模擬授業は、運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習指導（小）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・村井　万寿夫・石上　佐知子　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。 教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。	①実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 ②小学校について理解を深める。 ③実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 ④観察実習・参加実習・授業実習について理解し、授業記録を作成できる。 ⑤実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 ⑥実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 ⑦実習報告会を計画・運営・実施することができる。

教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク
履修条件	小学校学習支援ボランティアへ参加済であること。実習要件を満たしていること。各教科指導法が履修済（または履修中）であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について、学習支援ボランティアの経験を踏まえて理解する。	全員
2	教育実習を控え、実習受け入れまでには文部科学省と教育委員会と実習校との三者の関係があることを知り、実習に向けた更なる意欲をもつ。	全員
3	小学校における外国語活動と英語教育が行われるようになった経緯を知り、自己が外国語活動あるいは英語の授業を担当する場合の留意点について理解する。	全員
4	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。	全員
5	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を実例を通して理解する。	全員
6	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)	全員
7	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)	全員
8	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。	全員
9	幼・保・小の連携の必要性について理解する。	全員
10	小学校における特別支援教育について理解する。	全員
11	小学校における道徳教育（「特別の教科　道徳」）がどのように行われているかを知り、自己が道徳の授業を担当する場合の留意点について理解する。	全員
12	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。	全員
13	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。	全員
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。（グループ討議）手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。	全員
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。	レポート/リフレクションカード等	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・各学校での公開授業に参加する。 ・実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 ・日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。	各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。

受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的に学習支援ボランティアに参加すること。	教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018　ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 ※教育実習Ⅱ（小）の指定図書／参考書等と兼ねる。
指定図書／参考書等	講義内で適宜紹介する。	その他・特記事項	・実施回については、調整の上変更することがある。 ・第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。 ・課題はClassroomに投稿し、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

村井：小学校における児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。
石上：公立小中学校の教諭及び管理職の経験を生かし、学校現場における教育実習に関わる実践事例を示しながら授業を展開する。
川真田：”・小学校教諭としての経験をもとに、児童の発達段階に応じた教員の支援について具体的に説明 している。
・小学校での教育実習生受け入れ教員としての経験をもとに、教育実習生としての心構え・実習での態度及び教員・児童・保護者に対する対応について具体的に説明している。”

授業科目名	教育実習Ⅰ（小）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	福江　厚啓・川真田　早苗・村井　万寿夫・石上　佐知子　（代表教員　福江　厚啓）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	可	関連資格	小一種				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校等において実施するものとする。 学校現場におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深めることとする。	①子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 ②各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 ③日々の記録を適切に記録することができる。 ④教師としての仕事の魅力や職責に気付く。

教授方法	実習　参観　研究授業　教材研究　個別指導
履修条件	教育実習指導（小）を履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。	
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。	
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。	
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。	
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。	
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）	
	研究授業を実施する。	
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。	
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。	
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。	
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。	
	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。	
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。	
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。	
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
コミュニケーション能力	50	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか(※各実習校による評価を元に)。	研究授業	20	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。	実習での反省や改善のための指導は、実習指導における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。

受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。小学校教師を目指す熱意を充分に高め、例え実習生であっても、子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019　ISBN 978-4-89347-352-3 ※教育実習指導（小）の教科書・テキストと兼ねる。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の選択科目である。(子ども教育学科Cコースの学生にとっては必修科目である。) 「英語学概論」で学んだことを基礎に、ことばのもつさまざまな側面のうち、英語の形態素、文構造、意味にいての理解をさらに深めると同時に、コミュニケーション場面における言語の特徴や、ことばと認知/社会/文化との関係について言語使用の観点から学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な、さまざまな側面からの英語学的知見を身につける。 ・英語という言語の統語論・意味論・語用論・社会と言語の関係・文化と言語の関係を理解する。 ・講義の中で学んだことを踏まえて、日本の英語教育と今日の英語について概観し、今後の方向性や課題について考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③「英語学概論」を履修済みが望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	英語学概論で学んだことをふり返り、英語の歴史的変化、現代英語の特徴(語彙・音声・形態・意味)についての理解を確認する	
2	英語の文構造、文の内部構造、構文について、分析的に理解する	
3	認知と関連させた文法研究について知る	
4	メタファ、メトニミなど意味拡張について理解する	
5	ことばの意味に見られる主観性について理解する	
6	ことばの意味とコンテクストについて考える	
7	まとまりのある文章とはどのようなものか理解する	
8	文章中の情報構造を理解する	
9	ことばのやりとりにおける原理があることを理解し、実例で確認する	
10	協調の原理と関連性理論について理解する	
11	コミュニケーションの民俗誌を概観する	
12	ことばと文化の関係を日本語・英語を比較対照しながら考える	
13	ことばと社会の関係について、具体例を挙げながら考える	
14	言語習得と外国語学習について理解する	
15	全体のまとめと日本における英語教育についての展望	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、小課題	40	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいる。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。	定期試験	60	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。［50分］ ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。［40分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。	教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』　長谷川瑞穂編著　大井京子他著　2014年　研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／開講時に指示する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語音声学Ⅰ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。	・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・日本語とは異なる英語のリズム、音体系について理解する。 ・英語の子音を中心に、調音点・調音法に留意しながら正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。

教授方法	講義と演習
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション:「音声学」ではどのようなことを学ぶのかを知る　英語らしい発音(音とリズム)を日本語と比較する	
2	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する	
3	調音点にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する	
4	調音法にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する	
5	破裂音(1) 破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
6	破裂音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ	
7	摩擦音(1) 摩擦音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
8	摩擦音(2)　前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ	
9	破擦音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
10	鼻音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
11	側音の仕組みを知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
12	接近音(1) 接近音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
13	接近音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ	
14	英語の母音体系について概観する	
15	全体のまとめ　日本語との違いに留意して英語らしい発音で英文を読む	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	単元の理解度	音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できている
定期試験	60	講義内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく。［40分］ ・付属音声教材を聞いて何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする。［50分］	返却時に行う

受講生に望むこと	・常日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。 ・「英語音声学II」を続けて履修し音声言語としての英語の全体像がつかめるようになることが望ましい。	教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本<四訂版> American English Pronunciation: A Drill Book』津田塾大学英語英文学科編　2021年　研究社　ISBN: 978-4327401764 ②他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／『A Course in Phonetics 7版』　Peter Ladeforged, Keith Johnson著. 2014年.　Wadsworth Pub.Co.　ISBN: 978-1285463407	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語音声学Ⅱ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 英語音声学Ⅰに引き続き、音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。	・英語音声学Ⅰに引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・英語の母音を中心に、正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。 ・語強勢やイントネーションなど英語のプロソディについて基礎知識を身につける。 ・「英語音声学Ⅰ」「英語音声学Ⅱ」で学んだことを踏まえて、平易な英文を英語らしい発音で読むことができる。

教授方法	講義と演習
履修条件	①中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、②小学校教諭一種免許状取得希望者、③高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。④「英語音声学Ⅰ」を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「英語音声学Ⅰ」で学んだ子音、接近音､母音の中での中で特に注意すべき発音を確認する	
2	前母音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
3	後母音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
4	中母音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
5	二重母音の仕組みと種類を知り、単音として及び語句や文の中で発音する	
6	語強勢と句強勢について学び、ストレス・パタンに注意して発音する	
7	音節とは何かを学び、英語の音節構造を具体例の発音とともに理解する	
8	機能語と内容語の区別を知り、文強勢にどのような影響するかを発音練習を通じて理解する	
9	強形と弱形について学び、リズムに注意した発音練習を通じて理解する	
10	連結とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する	
11	脱落とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する	
12	同化とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する	
13	イントネーションの基本を学び、適切な音調で発音する	
14	イントネーションの機能と意味について、実際に発音しながら理解を深める	
15	まとめ　プロソディの重要性を確認し、英語らしい発音に留意して英文を読み、自己の発音についての課題を把握する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	単元の理解度	音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できている
定期試験	60	講義内容の理解度			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
･テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく［40分］。 ･付属音声教材を聞いて何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする［50分］。	返却時に行う

受講生に望むこと	･常日頃から英語に接し(聞く･話す･読む･書く)、英語力の維持･向上に努める。	教科書・テキスト	①『アメリカ英語の発音教本<四訂版> American English Pronunciation: A Drill Book』津田塾大学英語英文学科編　2021年　研究社　ISBN: 978-4327401764 ②他に必要な教材は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし/『A Course in Phonetics 7版』　Peter Ladeforged, Keith Johnson著. 2014年.　Wadsworth Pub.Co.　ISBN: 978-1285463407	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	言語教育のための英文法Ⅰ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきかを学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。	①英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。（具体的にはCEFR B1～B2(実用英語技能検定2級～準1級)程度の力を習得する。） ②中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。

教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。 現在形にはどのような種類があり、単純現在形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を用いることができるようになる。	
2	単純現在形と現在進行形の文構造の違いを理解し、「動作動詞」と「状態動詞」の区別ができるようになること。また、その区別を意識しながら、適切な場面や文脈で現在進行形の文を用いることができるようになる。	
3	単純現在形と現在進行形の意味的な違いを理解し、aspect（相）の概念を把握できるようになる。また、英語には「進行相」と「完了相」があることを説明する。	
4	単純現在形と現在進行形で用いられる動詞の違いを理解し、それぞれの場面に応じて単純現在形と現在進行形のいずれかを、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
5	過去形にはどのような種類があり、単純過去形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形の文を用いることができるようになる。規則動詞と不規則動詞を振り返り、単純過去形の疑問文や否定文を適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
6	動作動詞や状態動詞の概念を振り返り、単純過去形と過去進行形の違いを理解し、過去進行形を適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
7	現在形における現在完了形の位置づけを理解し、時間的な意味の特徴を確認しながら、適切な場面や文脈で用いることができるようになること。ここでも aspect（相）の概念を捉え、英語特有の表現方法を知る。	
8	現在完了形と過去形との違いを理解する。特に現在完了形は過去形ではないことを再確認し、「現在と何らかの関係」があることを理解する。just, already, yet などとともに、適切な場面や文脈で現在完了形を用いることができるようになる。	
9	現在完了進行形を、完了相と進行相との関連で理解する。また状態の継続を表す場合に用いられる for ～, since ～などの表現も併せて使えるようになる。	
10	現在完了形と現在完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で現在完了進行形を用いることができるようになる。	
11	現在完了形と現在形、現在完了進行形と現在完了形との違いを、動作の継続をとの関連で理解できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、know, like, live などを理解したり、共起する副詞句なども併せて理解したりできるようになる。	
12	現在完了形とHow long～？の共起関係を理解し、過去形とWhen～?の共起関係との違いを理解する。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
13	過去形と過去完了形の違いを理解し、特に後者の「基準点」の概念を把握できるようになる。また、時間的な意味の違いを時間軸の中で理解できるようになる。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。	
14	過去完了形と過去完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で過去完了進行形を用いることができるようになる。	
15	全体のまとめを行い、教師という教える立場で文法の功罪をデスカッションし、後期「言語教育のための英文法Ⅱ」へのモチベーションを高める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	40	毎回の授業内容を理解できているか。	試験	40	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②学習した箇所に加え、予習・家庭学習課題を指定し、併せて次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[60分]	①小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 ②小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。

受講生に望むこと	①教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくても５回は声に出して繰り返す。 ②最後は、英文を見ないで言えるようにする。	教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法（中級編）』第４版 Raymond Murphy著　ケンブリッジ大学出版　2021 ISBN:9784889969467
指定図書／参考書等	なし／『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2018 ISBN-13: 9784304051692 、『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』文部科学省　開隆堂出版　2019 ISBN-13: 9784304051784	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

”中学校・高等学校の教員としての経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心がけている。
”

授業科目名	言語教育のための英文法Ⅱ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきか学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。	①英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。（具体的にはCEFR B1～B2（実用英語技能検定2級～準1級）程度の力を習得する。） ②中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。

教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。 英語で未来を表す表現にはどのような種類があり、現在進行形と単純現在形では、どのような未来を表すかを説明し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を未来を表す表現として用いることができるようになる。	
2	現在進行形とbe going to を用いた未来表現の違いを理解し、is going to と was going to の違いを考える。その際、「確実に予想できる未来」の概念を把握できるようになる。また、その概念を意識しながら、適切な場面や文脈で be going to を用いることができるようになる。	
3	法助動詞will（1）：動詞によって表される状態や出来事に対する話し手・書き手の態度を示す働きがあることを理解し、will 以外にどのような法助動詞があるか考える。また、will には提案、承諾、要請、約束、依頼などの状況で用いられることを理解し、状況を判断しながら、will を用いることができるようになる。	
4	will と be going to：この二つの未来表現の違いは話し手が何かを決心する時点の違いにあることを説明する。その説明を基に例文を黙読しながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill や be going to の違いが確認できるようになる。	
5	will be ～ing と will have done：この二つの未来表現の違いは未来の一時点における動作の始まりや完結を表すことにあることを説明する。その説明を基に例文を見ながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill be ing やwill have done の意味や場面の違いが確認できるようになる。	
6	時や条件を表す副詞節内の時制：時を表すwhen節内ではwill を用いないことを説明し、その理由を考えてみる。また、時を表す副詞節には、他にどのような例があるかを考えてみる。同様に条件節内でも同じことが起こることを確認する。以上のことを踏まえ、when, as soos, as, if などを英文に用いることができるようになる。	
7	法助動詞can：can の過去形のcould はその意味が必ずしも過去形にならないことを説明し、be able to や manage to との関係を理解する。また、could と「知覚や思考に関する動詞」共起関係及びcouldn't を用いた否定文の用法を理解し、それぞれを英文に用いることができるようになる。	
8	could do と could have done：ここではまず初めに、過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明する。後者の意味から、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを説明する。また、could do の過去はcould have done の形になることを理解する。	
9	必然性や推量を表すmust：must には過去形がないことを確認し、必然性や推量の意味を表す場合の過去は、must have done の形をとることを説明する。また、可能性の意味を表すcan't とcouldn't の違いを考えながら、それぞれを英文に用いることができるようになる。	
10	法助動詞may：may の過去形might の意味が過去形にならないことを説明する。ここでも 過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明し、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。	
11	may と might：推量の意味を表すmay の過去は may have done, また might の過去はmight have done になることを説明する。また、may とmight には大きな意味的な違いがないことを理解する。	
12	have to と must：have to と must の相違を使用される状況から理解する。その上で、過去のことがらや助動詞とともに使う場合や、否定形の意味の相違などに注意を払ってこの２つの表現が使えるようになる。	
13	should：shall と should との関係や should と ought to の違いを説明する。should や should have done が使えるようになる。さらに、must, will, ought to, should, can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。	
14	仮定法：直説法と仮定法の持つ mood の違いを理解する。さらに原形を用いた仮定法を使うことができるようになる。	
15	if 節内の現在形と過去形は、起こる蓋然性の程度の違いであることを理解する。その場合の過去形が「時間的な遠さ」ではなく「心理的な遠さ」を表していることを意識して、両方の形を使うことができるようになる。 これまでの学習を通して得られたことを振り返り、教師として生徒に英文法をどのように指導していけばよいかディスカッションする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	40	毎回の授業内容を理解できているか。	試験	40	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] ②学習した箇所に加えて、予習・家庭学習課題を指定し、併せて次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[60分]	①小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 ②小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。

受講生に望むこと	①教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくても５回は声に出して繰り返す。 ②最後は、英文を見ないで言えるようにする。	教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法（中級編）』第４版 Raymond Murphy著　ケンブリッジ大学出版　2021 ISBN:9784889969467
指定図書／参考書等	なし／『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2018 ISBN-13: 9784304051692 、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省　開隆堂出版　2019 ISBN-13: 9784304051784	その他・特記事項	①前期「言語教育のための英文法Ⅰ」よりも進度が早くなるので計画的に予習を心がけること。 ②Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

中学校・高等学校の教員としての経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に文法）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生が自身の文法力をメタ認知できるように心がけている。

授業科目名	英語文学Ⅰ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
英米において英語で書かれた文学作品を、文学史の中で、あるいは個別に捉えることで、英語による表現への理解を深めると共に、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。	①　文学を論じる時に使用されている様々な英語表現について理解している。時代によって言語の用い方や意味が変化してきたことも併せて理解する。 ②　文化や歴史など、多様な文学作品が生まれた背景を広い視野を持って理解している。 ③　イギリスおよびアメリカで、英語を用いて書かれた代表的な文学作品について理解している。

教授方法	基本的には講義科目となるが、時に受講者に質問をしたり、作品への解釈を求めるなど、受講者の発言を促しつつ進める。
履修条件	中学または高等学校の英語教諭免許の取得を希望する者、または、英語や英文学の学習に関して同程度の意欲を持つ者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業に関するガイダンス。イギリスという国のなりたちと、『ベオウルフ』など、古英語で書かれた文学について理解する。	
2	中英語の文学の時代（11世紀頃～14世紀末）からルネサンス期初めまでの文学について。代表的な作品を通して、詩の発展や、演劇の発生など、文学作品の形態が多様化していく過程を理解する。	
3	シェイクスピア(1564-1616)を中心とする、16世紀～17世紀初頭の演劇の隆盛について理解する。『ロミオとジュリエット』、『ハムレット』などの有名なセリフにも触れる。	
4	17世紀の文学。清教徒革命の勃発や王政復古が文学に及ぼした影響や、動乱の時代を生きた詩人ミルトンなどの作品について学び、その人生にも着目する。	
5	18世紀の文学。理性や秩序を重視する新古典主義の文学が主流だった18世紀初頭から、ロマン主義の詩人たちが登場する世紀末までの間の、特に詩の変遷について理解する。	
6	小説の始まりと発展（18世紀中期～19世紀初期）。小説というジャンルの創始者であるリチャードソンたち4人の作家と、女性作家の登場について理解する。	
7	主として、ロマン主義時代（18世紀末～19世紀中期）の詩について。ワーズワースやキーツなどの詩を実際に鑑賞する。	
8	ヴィクトリア時代(1837-1901)の小説。「小説の世紀」とも呼ばれる19世紀に活躍した、ディケンズ、ブロンテ姉妹、G．エリオット、ハーディなどの作品について理解する。	
9	20世紀初頭の文学。とりわけ、コンラッド、ジョイス、ウルフなどの小説に焦点を当てる。	
10	アメリカ植民地時代の文学（17～18世紀）。　エドワーズやフランクリンなどを中心に、ピューリタニズムやヤンキーイズムなど、アメリカ文学の特性を理解する。	
11	独立から19世紀半ばころまでの文学。アメリカ独自の文学が育ち始める時代の、特に散文を、その背景との関係において理解する。アーヴィング、クーパー、ポーの作品など。	
12	19世紀中葉から末に至るころに書かれた作品中、特に詩を中心に学習する。ホイットマン、ディキンソンの詩のなどの一部を読み、その特質を理解する。	
13	リアリズムの時代（19世紀後期～20世紀初頭）について。　トウェインやジェイムズなどの作品について理解する。	
14	リアリズムの時代において、自然主義の作家とされるクレイン、ドライサーなどの作品について学習する。	
15	第一次世界大戦以後の文学（1920年代と30年代）について。　フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナーなどの文学の一端を知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の内容を正確に理解しているか、また、理解したことを自分の言葉で表現できているか。	小テスト及び提出物	20	授業中に発言などを求められた時、それに的確に応え、他の受講者をも利することができるか。
授業中での貢献度	30	授業中に発言などを求められた時、それに的確に応え、他の受講者をも利することができるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業では、テキストにある情報を取捨選択し、時には情報の追加もするので、テキストや配布資料に事前に目を通すことが必須である。［60分以上］ ②また、課題を解いたり、小テストの準備をするために、学習したことを整理しておくことが必要である。［30分以上～60分程度］	小テストやその他の課題は次回の授業時に返却する。

受講生に望むこと	限られた時間の中で、それぞれの作品について深く語ることは不可能であるので、自分で作品を実際に読んでみるなど、主体的、積極的に勉強に取り組んでいただきたい。そうすれば、理解度も楽しみも増すはずである。	教科書・テキスト	『イギリス文学史』　川崎寿彦著　成美堂　1991年　ISBN:978-4791934034　『アメリカ文学史』　西田実著　成美堂　1991年　ISBN: 978-4791934003 随時プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/参考図書は多数あるが、クラスで指示する。	その他・特記事項	授業時には辞書を持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語文学Ⅱ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
主として子どもや青少年を中心とする英文学作品を精読し、英文を正確に理解できることが最初の一歩となる。その上で、テーマや技法、作者の意図などについて、ディスカッションを通じて理解を深めていく。評論や文学辞典なども活用し、単なる思い付きではない、根拠のある議論を進めることができるようにする。同時に、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めていく。このようなプロセスを通じて、英語の総合的な力を養うとともに、人間や人間の心理に対する理解を深め、自分の「読み」を表現する力も養成する。	英語文学Ⅰで学んだ知識・理解を土台として、本講義では英語で書かれた文学作品の講読とディスカッションを通じて、英語による表現への理解を深め、運用能力の向上を図り、同時に、文学の鑑賞眼を養う。英検でいえば、2級から準1級程度の難度の英語が苦労せずに読め、また、自分の「読み方」を、英語でも紹介できるようになる。また、英語が使われている地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

教授方法	作品を読んで、表現や内容について教師や他の受講生と意見を交換したり、時には受講生に教師の役を担ってもらう演習方式で行う。
履修条件	中学校または高等学校の教諭の資格を取得できるための学力や意欲を備えていること。また、英語文学Ⅰを取得済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業についてのガイダンス。導入として、ジャーナリズムの英語などと比較して。文学の英語とはどういうものか、どのような読み方をするのが適当か考える。	
2	事前にスキャン（辞書などを用いず、ざっと読むこと）をしてもらっておいたアメリカの作品（A)の、登場人物や物語の設定などについてクラスで話し合うことによって理解を深める。	
3	作品（A）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
4	作品（A）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
5	作品（A）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
6	イギリスの短篇小説（B）の講読と鑑賞。事前に作品をおおまかに読んでその枠組みを読み取り、クラスで議論する。	
7	作品（B）を事前に精読、クラスでは、前半の内容や表現について発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
8	作品（B）の後半について理解したことをクラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって表現や内容について正確に理解する。	
9	作品（B）の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
10	アメリカもしくはイギリスの作品（C）をおおまかに読んでおいて、読み取ったことをクラスで議論する。	
11	作品（C）を事前に精読しておいて、前半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。	
12	作品（C）の後半の内容や表現について、クラスで発表したり、受講者同士が話し合うことによって正確に理解する。	
13	作品（C）について、作品の特徴（構成、人物造形、描写、語り方など）についての議論。作者や作品の背景についても考察し、作者の意図を考える。	
14	三作品の内容や特徴を改めて比較考察した上で、もっとも気になる作品とその理由などをそれぞれクラスで発表する。また、特に重要と思われる英語表現を復習する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	語彙や文法が正しく理解ができているか。また、作品の理解の仕方に説得力があるか。	提出物や発言の内容	30	課題に積極的に、真剣に向きい、自分の意図を的確に伝えられているか。
小テスト	20	英語の表現について正しい理解がなされているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①作品を自分で講読したり、作者について調べ、レポートにまとめたり、クラスで発表をしてもらうことになる。辞書を丹念に引くことが必須で、2時間程度の予習は必要。②作品中の表現を自分で使えるものにしたり、ディスカッションの後に問題点を整理するために、毎回1時間程度の復習も必要と考えていただきたい。	小テストやレポートは、原則として次回の授業でコメントを添えて返却する。その他、疑問や議論に対してその都度、解答やコメントを示す。

受講生に望むこと	必ずしも日常的でない英語表現に出会って、必要と判断された場合、辞書を引くことを厭わないこと。インターネットの記事などに安易に頼らず、然るべき文学事典や批評書を使えること。理詰めで考えるだけでなく、フィクションを楽しめる柔軟な考え方を持てることが望ましい。	教科書・テキスト	プリントを配布する。最初はアメリカの小説家、バーナード・マラマッドの作品から読み始める。
指定図書／参考書等	なし/『20世紀英語文学辞典』　上田和夫・渡辺利雄編著　研究社 2005年　ISBN 4-7674-9066-9　『英語文学事典』 木下卓・高田賢一他編著　ミネルヴァ書房　2007年　ISBN 978-4-623-04129-9 その他英語での参考文献などについては授業で紹介する。	その他・特記事項	辞書は必ず持参すること。 演習形式であるし、作品の長さ、難易度の違いによって、必ずしも計画通りには行かないことも予想できる。二作目以降で取り上げる作品、進度などについては、受講者と相談をしながら柔軟に進めて行きたい。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語圏の児童文学			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	木梨　由利						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史を学ぶ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の実人生とのかかわりの中で理解を深める。	児童文学のの歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのみならず、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。

教授方法	児童文学の大まかな歴史はスライドを用いての講義形式となるが、作品を実際に知っている受講者があれば、読後感等を発表してくれるのは歓迎したい。また、歴史を知るだけではなく、実際に作品の一部を英語、または日本語の翻訳で読む。また、各自、作品を一編読み、その作品を他の受講者に紹介するという形で、プレゼンテーションをしてもらう。講義の理解度をはかるための小テストも随時実施する。
履修条件	中学校または高等学校の教諭の資格を取得できるための学力や意欲を備えていること。また、英語文学Ⅰを取得済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業に関するガイダンス　児童観の変遷による「児童文学」の始まりについて。	
2	ヨーロッパにおける児童文学のの始まりと、19世紀半ば頃までにイギリスで子どもに愛読された文学（『ロビンソン・クルーソー』『シェイクスピア物語』、『クリスマス・キャロル』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
3	19世紀後半のイギリスの児童文学（『不思議の国のアリス』、『北風のうしろの国』、『宝島』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
4	20世紀前半のイギリスの児童文学（『砂の妖精』、『たのしい川べ』、『クマのプーさん』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
5	20世紀半ば頃のイギリスの児童文学（『ツバメ号とアマゾン号』、『ホビットの冒険』、『ライオンと魔女』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
6	20世紀後半のイギリスの児童文学（『トムは真夜中の庭で』、『黄金の羅針盤』、『ハリーポッターと賢者の石』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
7	19世紀半ばまでのアメリカの子どもたちに愛読された文学（『モヒカン族の最後』、『スケッチ・ブック』、『アンクル・トムの小屋』など）につて理解し、また、作品の一部を講読する。	
8	19世紀後半のアメリカの児童文学（『若草物語』、『トム・ソーヤーの冒険』、『小公子』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
9	20世紀前半のアメリカの児童文学（『オズの魔法使い』、『大草原の小さな家』、『小鹿物語』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
10	20世紀後半のアメリカの児童文学（『クローディアの秘密』、『影との戦い』、『テラビシアにかける橋』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
11	カナダの文学　（『私が知っている野生動物』、『赤毛のアン』、『パパの最後の贈り物』など）について理解し、また、作品の一部を講読する。	
12	ニュージーランド・オーストラリアの文学　（『青さぎ牧場』、『燃えるアッシュ・ロード』、『目覚めれば魔女』など）について理解し、また作品の一部を講読する。	
13	これまでの振り返りとプレゼンテーションの準備	
14	受講者によるプレゼンテーション、及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第1回）	
15	受講者によるプレゼンテーション、及びプレゼンテーションに基づく質疑応答（第2回）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	20	発表と、そのために作成したハンドアウトに説得力があるか。	提出物	40	作品をよく理解し、かつ、そのことを自分の言葉できちんと表現できているか。
小テスト	20	知識が正確に定着しているか。	授業への参加状況	20	授業に積極的に取り組む姿勢が見られるか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義を十分に理解するためには、配布するプリントを事前に読んでおくことが必要である。［60分程度］ また、講義で触れられたことを整理して、小テストの準備をしたり、提出物を作成する時間も必要である。［最低60分］　プレゼンテーションやレポートのために作品そのものを読み、資料を準備する時期には、さらに多くの時間を求められることになる。	小テストやワークシートは、原則として、次回の授業で返却する。プレゼンテーションについてのコメントは当日、または後日オンラインなどで示す。

受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、作品や作者のメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めむことで、英語での表現力も高められることが望ましい。	教科書・テキスト	プリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし/『たのしく読める英米児童文学』 本多英明・桂宥子・小峰和子編著　ミネルヴァ書房、2000年　ISBN 4-623-03156-X 『オックスフォード　世界児童文学百科』ハンフリー・カーペンター／マリ・プリチャード著　神宮輝夫監訳　原書房、1999年　ISBN 4-562-03104-2 その他はクラスで指示。	その他・特記事項	授業時には辞書を持参のこと。 Chromebookが必要な時もあるが、その際には事前に指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	コミュニカティブ・イングリッシュA			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
世界の若者のインタビューを基にした教材を用いて、毎回1つのテーマを取り上げ、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。また、絵やプレゼン・ソフトを活用し物語や説明文ををわかりやすく導入・展開する技能を身に付ける。	①様々なトピックについてリスニング、スピーキングを中心とした活動を通じて内容理解・得た情報・表現を用いて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようになる。 ②聞き手を意識した話し方を身に付け、英語で自問自答したり、即興で説明したり、質問したりできるようになる。

教授方法	リスニングコンプリヘンション・プレゼンテーション・ストーリーテリング
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方・小テストの進め方 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成の意味を理解し、自らのモチベーションを高める今後の学習計画を展望できる	
2	アメリカの大学生の「休暇」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる イソップ物語（The Young Crab and His Mother）を聞き手を意識して語れるようになる（声の使い分け、動作）	
3	ニュージーランドの大学生の「子供の時の経験」を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる イソップ物語（The Young Crab and His Mother）を聞き手を意識して語れるようになる（声の使い分け、動作、話の切り出し方、展開方法）	
4	ブラジルの大学生の「余暇」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる イソップ物語（The Ants and The Grasshoppers）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて語れるようになる（声の使い分け、動作、話の切り出し方、展開方法、自問自答）	
5	スコットランドの大学生の「食べ物や飲み物」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる イソップ物語（The Ants and The Grasshoppers）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて語れるようになる（声の使い分け、動作、話の切り出し方、展開方法、自問自答、即興による話の続け方）	
6	オーストラリアの大学生の「旅行」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる イソップ物語（The Ants and The Grasshoppers）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて語れるようになる（声の使い分け、動作、話の切り出し方、展開方法、自問自答、即興による話の続け方、質疑応答）	
7	北アイルランドの大学生の「教育」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて語れるようになる（動作、話の切り出し方、展開方法）	
8	イタリアの大学生の「ファッション」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて語れるようになる（動作、話の切り出し方、展開方法、即興による話の続け方）	
9	日本の大学生の「海外生活」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を視覚教材を用いて語れるようになる（動作、即興による話の続け方、聞き手とのインターラクション）	
10	ウェールズの大学生の「職業観」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて語れるようになる（動作、即興による話の続け方、聞き手とのインターラクション・質疑応答）	
11	アメリカの大学生の「健康」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる 日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（動作、即興による話の続け方、聞き手とのインターラクション・質疑応答）	
12	中国の大学生の「社会変化」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history について）	
13	イギリスの大学生の「学生生活」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal historyと hobbyについて）	
14	アメリカの大学生の「芸術」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal historyと hobbyとpersonalityについて）	
15	サウジアラビアの大学生の「ショッピング」に関する考え方を英語で聞き、理解したことに対して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる プレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal historyと hobbyとpersonalityとfuture dream及び質疑応答 について）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ストーリーテリング	40	学習したトピックについて4技能を統合的に身に付けているか。	小テスト	40	各回のトピックスについて4技能を統合的に身に付けているか。
プレゼンテーション	20	4技能を統合的に活用してプレゼンテーションができるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回の授業の復習［30分］ 次時の小テストの準備［60分］ ストーリーテリング・プレゼンテーションの準備・練習［30分］	随時行う

受講生に望むこと	①積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 ②また、そのための練習方法を身に付けること。	教科書・テキスト	『World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills』 Miles Craven著　成美堂 2006 ISBN 978-4-7919-4587-0
指定図書／参考書等	なし/『Presentations to Go』　Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著　センゲージ ラーニング株式会社　2013年　ISBN: 978-4-86312-264-2	その他・特記事項	①この授業では、人前で英語を話すことに慣れ、即興性を生かしたコミュニケーション力を養成する。 ②Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	コミュニカティブ・イングリッシュ B			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、「コミュニカティブ・イングリッシュA」に続いて、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。	・様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解できる。 ・得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できる。 ・得た情報・表現だけでなく、新たな情報を加えて、自分の主張に説得力を持たせて発信できる。

教授方法	演習
履修条件	①基本的には中学/高校英語教免、小学校教免取得を目指す者、②すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者③「コミュニカティブ・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション　この授業で学ぶこと	
2	Unit 1: 大学生の住生活をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
3	Unit 2: 学生の勉強場所をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
4	Unit 4: 成人式をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
5	Unit 5: コンビニエンス・ストアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
6	Unit 8: 災害ボランティアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
7	Units 9: 旅行をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
8	Units 10:語学留学をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
9	Units 12: 日本の年末行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
10	Units 13: 季節行事と異文化をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
11	Units 16: 欧米と日本の行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
12	Unit 18: インターネット時代の娯楽をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
13	Unit 19: インターネット時代の買い物をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
14	Unit 20: 最新翻訳技術をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する	
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度	30	授業の中でテーマについての発言など貢献ができている	英文エッセイ	30	学んだテーマについて正しい英語で論理的に組み立てたエッセイを書くことができる
プレゼンテーション	10	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語プレゼンテーションができる	テスト	30	授業で学んだ様々なテーマについて内容や表現を理解し、自分のことばとして使うことができる

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回授業で扱う課題の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。［45分］ ②毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、指定日までに提出する。［45分］ ③スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。［60分］	毎回課題の英文エッセイについては、次回に添削して返却。 スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。

受講生に望むこと	・毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていこう。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分して話す内容を用意してくること。	教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著　『Two Sides of Every Discussion 2』2020年　成美堂　ISBN: 9784791972104 その他ディスカッションを深めるために必要な資料は適宜配布する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・英英辞書、英和/和英辞書を必ず持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語科教育法Ⅰ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとって必修科目である。英語教育の目的と目標を明確にし、英語教師として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。これは今日小学校教諭にも求められる知識である。また、これまで学習してきた「英語」について、教える立場から捉える第一歩であり、広く外国語を学ぶことの意義や日本の英語教育、英語教師の役割等について考える。	①英語教育の目的、特に今日のグローバル化時代における英語教育の目的を理解する。 ②コミュニケーション能力の育成とはどのようなことかを理解する。 ③日本の外国語教育の歴史を学習指導要領の変遷を含めて振り返るとともに、学習指導要領のめざすものについて理解する。 ④英語教師に求められる資質・知識・技能について理解する。 ⑤主な英語教授法について実演も行いながら理解する。

教授方法	講義、ディスカッション、発表
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者、小学校教諭一種免許状取得を目指す者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　英語教育の現在の状況を知る	
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)	
3	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育、DVD等メディア教材、電子黒板、インターネットを活用した指導	
4	英語教育の現況 :「10年間の英語教育」、小学校・中学校・高校の一貫性と連携を考える	
5	コミュニケーション能力の育成と、評価について学ぶ	
6	日本の英語教育をふりかえる(1)　外国語との接触から1980年代まで	
7	日本の英語教育をふりかえる(2)　グローバル化とコミュニケーション重視の時代の英語教育	
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる	
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの	
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える	
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等	
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法	
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法	
14	教授法・ICTを含む指導技術の変遷（LLからCALL、NBLTまで)と今後の展望をもとに今日求められている英語授業について考える	
15	まとめ　教育実習で必要とされる知識・技能・態度について知り、自身の課題と対策を考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況・ディスカッション	30	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいる	課題、発表	20	課題を指示に従って仕上げ､発表できている
期末テスト	50	「英語科教育法Ⅰ」で学んだことを正しく理解し、自分のことばで表現できている			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる［50分］ ②課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。［40分］ ③中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。［30分］	課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。

受講生に望むこと	中学/高校英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。 英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。	教科書・テキスト	・高梨庸雄他.2023.『新・英語教育学概論［改訂第2版］』. 東京:金星堂.ISBN: 9784764741867 ・『中学校学習指導要領科解説　外国語編』. 2018.文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051692
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する。・『高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説英語編』2019. 文部科学省.開隆堂出版. ISBN:978-4304051784	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語科教育法Ⅱ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
英語科教育法Iに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマごとに模擬授業を実践しながら指導法や指導技術を習得する。 ※SDGs目標番号4関連科目	①英語科教育法Ⅰで学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。 ②聞き手や学習者を意識した、理解しやすい英語の話し方や導入方法を身に付け、実践できる。 ③英語授業の指導手順を理解し、それぞれの段階でどのような指導法・指導技術があるかを考えられるようになる。

教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション
履修条件	中学校・高等学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法Ⅰを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Iを踏まえ、各自に不足している英語教師としての資質をディスカッションを通して、客観的に把握することができる。またこれまで受けてきた英語の授業について考え、望ましい授業はどのようなものかディスカッションする。	
2	一斉授業型の一般的な英語授業の指導手順を理解し、中学校と高等学校の違いを理解する。また、それぞれのタイプの指導の留意点を理解する。指導手順としての、warm-upの具体例を挙げ、留意点を述べることができる。また、いくつかの warm-up 活動を模擬授業に取り入れることができる。	
3	英語授業における「復習」の目的と具体例を理解する。また、特に「聞くこと・話すことの領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べることができる。また、模擬授業に取り入れることができる。	
4	英語授業における「復習」の「読むこと・書くことの領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べることができる。また、模擬授業に取り入れることができる。	
5	英語授業における「新教材の導入」には帰納法と演繹法の二種類があることを説明し、英語授業への具体的な応用例を説明する。Oral Introduction の基本について例に基づいて理解する。文法・文構造の Oral Introduction の模擬授業に向けて準備・練習を行う。	
6	文法・文構造の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。教師の話す英語の accuracy が大切であることを理解する。別の文法・文構造の Oral Introduction の準備・練習を行う。	
7	各自が用意した文法・文構造の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。題材内容の Oral Introduction について、例に基づいて、押さえるべきポイントを理解する。	
8	題材内容の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。板書計画や生徒とのインタラクションが大切であることを理解する。別の題材内容の Oral Introduction の準備・練習を行う。	
9	各自が用意した題材内容の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。教師の話す英語の fluency が大切であることを理解する。文法・文構造および題材内容の Oral Introduction の準備・練習を行う。	
10	文法・文構造および題材内容の Oral Introduction の模擬授業を行い、意見交換・共有をする。Oral Introduction がそのあとに行う活動に対していかに重要であるかを考え、理解する。	
11	Model Reading と Intensive Reading について、生徒の習熟度によってどのような指導が必要かをディスカッションする。また、実際に模擬授業を行い、意見交換・共有をする。	
12	Reading Aloud について、色々な方法とその目的について理解する。また指導に際して必要なことがらをディスカッションする。実際に模擬授業を行い、意見交換・共有をする。	
13	Practice について、色々な方法・活動とその目的について理解する。また指導に際して必要なことがらをディスカッションする。実際に模擬需要を行い、意見交換・共有をする。	
14	英語の授業におけるデジタル機器の活用について考える。アナログ式の授業との違いや留意点を話し合い、学校現場への応用を考える。	
15	英語授業の指導手順を整理し、生徒の発達段階や学習レベルに応じて、どのような指導手順や指導法を用いるかを中学校と高等学校別に考え・整理し発表できる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	40	各単元の予習を前提に小テストを行うので、基本的な内容を理解しているか。	指導案・レポート	40	模擬授業のための指導案を作成する。録画された英語授業を視聴しその良さや改善点をまとめる。
模擬授業と授業参加状況	20	模擬授業後のディスカッションに積極的に参加しているか。他の学生の模擬授業の際に学んだ知識を自分の模擬授業に活用しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
小テストに向けての準備をきちんと行う。［60分］ 模擬授業の準備・練習を入念に行う。［120分］	返却に行う

受講生に望むこと	①実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。 ②講習会や研究に参加して、積極的に意見を発すること。 例：金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）	教科書・テキスト	・高梨庸雄・高橋正夫・佐藤剛・野呂徳治・粕谷恭子・田縁眞弓著.2023.『新・英語教育学概論 改訂第２版』. 東京: 金星堂 ISBN: 9784764741867 ・『中学校学習指導要領解説　外国語編』. 2018.文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 9784304051692
指定図書／参考書等	なし／中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』.2019. 文部科学省　開隆堂出版 ISBN:9784304051784、『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018　ISBN 978-4-304-05169-2『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂 2018　ISBN-13: 978-4-304-05168-5	その他・特記事項	Classroomを用いて課題を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語科教育法Ⅲ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目である。「英語科教育法Ⅰ」及び「英語科教育法Ⅱ」で学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な指導力や実践力を身につけるために教材研究と模擬授業、相互評価、省察を行う。 また、英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、日本の英語教育の歴史を概観する。 ※SDGs目標番号4関連科目	①英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、教育実習への新たな意欲を高めること。 ②中学・高等学校の英語科教科書を用いて、指導計画を板書計画とともに作成できること。 ③他者の（模擬）授業等を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができること。

教授方法	講義・発表・模擬授業・ディスカッション・省察
履修条件	中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校一種免許状（英語）取得を目指す者。英語科教育法Ⅰ及び英語科教育法Ⅱを履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。 Harold E. Palmer：Palmer がどのような功績を残したか、また彼の提唱した教授法 the Oral Method とその意義について理解する。また、著書 English Through Actions についての発表方法を理解する。	
2	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(1)：著者の外国語教育の考え方を理解し、speech と language の相違を知る。	
3	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（2）：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、speech と language の相違について反例を交えながら理解する。	
4	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について(3)：著者の「言語運用」に関する考え方を理解し、言語運用を習慣化するための４段階を学ぶ。	
5	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（4）：著者の「言語運用」に関する考え方を理解し、言語運用を習慣化するための４段階を学ぶ。また、各段階を実際の授業の場面に当てはめ、その連続性と緻密さを実感できる。	
6	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（5）：言語運用の４段階に基づく刺激と反応のタイプを知る。	
7	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（6）：言語運用の４段階に基づく刺激と反応のタイプを知り、著者が後述する Action Chains や Conventional Conversation の具体例を読み、実演する。	
8	English Through Actions で各自が担当した箇所を要約し提出する。また、現代の英語教育に活かせることを提案する。	
9	模擬授業（1）：中学校・高等学校の教科書の題材に基づいた授業の計画・準備をする。	
10	模擬授業（2）：中学校の教科書の題材に基づいた Oral Introduction を実演する。また相互にその良さや改善点を共有する。	
11	模擬授業（2）：高等学校の教科書の題材に基づいた Oral Introduction を実演する。また相互にその良さや改善点を共有する。	
12	模擬授業（3）：中学校の教科書の題材に基づいた授業（warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順）を計画し、模擬授業を行う。また、相互にその良さや改善点を共有する。	
13	模擬授業（4）：高等学校の教科書の題材に基づいた授業（warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順）を計画し、模擬授業を行う。また、相互にその良さや改善点を共有する。	
14	授業研究（1）：ビデオに収められた高等学校の授業を視聴し、気づいた点や学びになった点について意見を共有する。	
15	授業研究（2）：ビデオに収められた中学校の授業を視聴し、気づいた点や学びになった点について意見を共有する。 全体のまとめ：授業の到達目標①～③を達成できたかどうか自己評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題提出	40	課題の完成度	模擬授業	40	実際の授業をイメージしながら模擬授業を計画・運営できるか。
発表と授業参加状況	20	わかりやすい発表を心がけているか。グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
自分の担当箇所を入念に調べ発表できるように準備する。［60分］ 模擬授業の計画・準備をしっかりと行う。［120分］	模擬授業の感想などは次時にまとめて振り返る。

受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること。 積極的に英語の授業を参観したり、研究会などに参加すること。 （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校教育研究発表会（11月開催予定）	教科書・テキスト	望月明彦編著、久保田章/磐崎弘貞/卯城祐司著.2018.『新学習指導要領に基づく英語科教育法第3版』. 東京: 大修館書店.ISBN: 9784469246216
指定図書／参考書等	なし／『English Through Actions』　H. E. Palmer著　開拓社　1925年　ISBN:758900876 C3082 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語編』文部科学省　開隆堂　2018年　ISBN:978-4304051692 『高等学校学習指導要領解説　外国語編・英語編（平成30年7月）平成30年告示』文部科学省　開隆堂　2019年　ISBN:978-4304051784	その他・特記事項	Classroomを用いて課題等を提示することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語科教育法Ⅳ			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は中学校及び高等学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目であり、英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を基に、またプレ実習や教育実習の経験を基に、さらなる指導技術の向上を目指す。並行して、授業を行うのに必要な英語運用力の向上や、英語教育分野の文献講読によって読解力の向上を目指す。	①英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や知識、及び、中学校で教育実習またはプレ実習を経験した者は、その際に課題に感じたことを振り返り、英語の指導力を習得する。 ②他者の授業を参観・視聴することにより授業を観る目を養い、ディスカッションを通して指導技術を習得する。 ③授業を行うのに必要な英語力を身につける。

教授方法	講義、演習、模擬授業、ディスカッション
履修条件	中学校/高校教員免許（英語）を取得希望の者。英検2級を取得していて、英検準1級以上を取得しようとする者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業のねらいとクラスルールを知る 現在の英語教育で求められている英語教師像について考える	
2	英語教師論:生徒の目線、英語力と授業力	
3	小学校英語教育 :目的･目標、言語材料と言語活動、具体的指導例、中学校との連携	
4	中学校英語教育: 目的･目標、言語材料と言語活動、具体的指導例、小学校との連携、高校との連携	
5	高校英語教育:目的･目標、言語材料と言語活動、具体的指導例、中学校との連携	
6	4技能を伸ばす活動及び評価と測定について学び、自分ならばどのように用いるかを考える	
7	授業運営　さまざまな学習形態やALTとのティームティーチングのあり方を学び、自分ならばどのように用いるかを考える	
8	教材研究と指導技術の向上	
9	模擬授業　中学1年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
10	模擬授業　中学2年、３年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
11	模擬授業　高校1年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
12	模擬授業　高校2年、3年の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する	
13	ミニ模擬授業　模擬授業の中で課題となった活動を取り上げ、その活動を実践する	
14	ミニ模擬授業　さらに改善を要する活動を取り上げ、その活動を実践する	
15	まとめ　プレ実習や教育実習後の授業を通して、自分の教師としての資質や課題を客観的にとらえ、今後どのような努力をしていくべきかを考える	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べている。	模擬授業	30	適切な教材研究に基づいて、目標に合った指導案を作成し、板書計画も含め十分な準備・練習をした上で模擬授業ができている。適切な自己評価･相互評価ができている。
小テスト・課題	20	授業を行うのに必要な英語力が身についている。	最終課題	20	指示に従って記述し、期日までに提出する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・模擬授業の準備[60分] ・中学校・高等学校の授業を積極的に参観すること [60分] （例）金沢大学附属中学校/高等学校教育研究発表会（11月開催予定） 石川県立錦丘中学校/高等学校公開研究発表会(11月開催予定）等 ・毎日英語学習を進め、英語教師として必要な英語力を高める。[30分]	返却時に行う

受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること	教科書・テキスト	・中学校学習指導要領解説　外国語編．2018．文部科学省．　ISBN:9784304051692 ・高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　英語編．2019．文部科学省．ISBN:978-4304051784
指定図書／参考書等	なし／中学校英語検定済教科書(NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2016 ISBN 9784487122912など)、高校(英語コミュニケーション)検定済教科書	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習指導（中高）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は、中学・高等学校教育実習のための事前及び事後指導である。1年次における中学・高等学校の英語授業参観や３・４年次におけるプレ実習（中学・高等学校免許取得のためのもの）の経験、及び英語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだ理論や指導技術を統合し、現場で生かす実践力を身につける。また、現場での経験を省察し、さらなる教師としての資質を向上させる。	①教育実習の１日目から最終日までをシミュレーションしながらイメージ化することができるようになる。 ②１時間の英語の授業を運営するための準備と工夫が手際よくできるようになる。 ③4技能別の指導技術を駆使しながら、英語を用いて英語を教えることができるようになる。 ④自分の授業のみならず、他者のものを観て、客観的に評価しながら授業を向上させることができるようになる。 ⑤教師としての、自分の資質を客観的に考察し、さらに一段上の資質を造り出す努力ができるようになる。

教授方法	講義、ディスカッション、模擬授業
履修条件	中学・高等学校（英語）の教育実習Ⅰを履修する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・心構え　本授業の到達目標を理解し、教育実習への心構えを新たにし、その責任と現在の自分がなすべき準備を理解する。自分が教壇に立つことをイメージすることができる。	
2	教育実習の意義と目的　４週間の教育実習期間をシュミレーションしながら、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだことを統合し、教育実習の目的と意義をディスカッションを通して共有する。	
3	教育実習における「観察１」　生徒の登校から下校までの行動を観察する際の、さまざまな視点を共有し、学校におけるさまざまな教育活動を、教師として考える。	
4	教育実習における「観察２」　学校全体の行事や活動に目を向けることにより、学校が生徒に何を求めているかを知ることができることを理解する。	
5	教育実習における「観察３」　学級担任の学級経営や生徒指導が教科指導等に与える影響を知る。また、中学・高等学校における校務分掌の種類やそれぞれの役割を理解する。	
6	生徒指導上の問題解決のために、生徒を個別的に理解したり、共感的に理解したり、発達的に理解したりする指導方法を学ぶ。また、各自の指導法からお互いに相補的な学びができるように指導する。	
7	教師の担うさまざまな仕事内容に目を向け、勤務実態を理解し、近年の働き方改革のためのさまざまな手立て・体制・仕事の仕分けなどを知る。そうしたことから自らの働き方についても考える。	
8	教育現場が教育実習生に求める資質を考え、ディスカッションを通して、教師としての自らの課題を理解する。特に英語の教師として、必要な資質をコア・カリキュラム（文部科学省）を通して考えてみる。	
9	模擬授業に向けて、１時間の授業計画・準備について考え、その方法等について意見共有を行う。	
10	模擬授業を行い、各活動の意図や実施方法などについて、意見共有を行う。また、相互によかった点や改善点をディスカッションする。	
11	模擬授業を行い、各活動の意図や実施方法などについて、意見共有を行う。また、相互によかった点や改善点をディスカッションする。	
12	教育実習直前指導（1）：学習指導案や実習日誌の意義や書き方について指導する。また、学生の不安や心配を払拭するため、現時点での疑問点などを意見交換する。	
13	教育実習直前指導（2）：実習校に提出する各種書類の記入や整理。また、守秘義務等の確認と緊急時の際のリスクマネージメントについても意見交換する。	
14	まとめ　本授業を通して学んだことを基に、中学・高等学校教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。また、英語教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。	
15	中学・高等学校教育実習の報告会:　中学・高等学校における教育実習の振り返り、及び来年度、教育実習予定者へのアドバイスと諸注意を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ディスカッション	30	ディスカッションに積極的に参加し意見交換ができたか。	学習指導案作成・模擬授業	30	模擬授業の準備と与えられた課題への考え方。
課題・報告会発表	40	授業内のポイントを把握しているか。実習後の各自の思いを後輩に伝えられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教室で生徒に向かって自信を持って授業ができるよう、模擬授業の計画・準備を行う。［120分］ 市内の中学校・高等学校のホームページを見て学校現場の様子をシミュレーションしてみる。［30分］	返却時に行う。

受講生に望むこと	教育実習では、生徒の前でどういう話をし、どういう反応を求めるのか真摯に考えてほしい。文部科学省のホームページでもよいので中学校や高等学校の学習指導要領を一読してほしい。	教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業で資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育実習Ⅰ（中高）			開講学科	初等中等教育	必修・選択	選択
担当教員名	山本　良一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
教育実習指導(中高）で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または他の中学・高等学校等での4週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。	①コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 ②学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 ③英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。

教授方法	９月に４週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。
履修条件	教育実習指導（中高）を履修していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。	
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。	
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。	
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。	
	生徒を指導するために必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。	
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。	
	中学・高等学校において指導する教科（英語）の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。	
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。	
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみること。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。	
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。	教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。

受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなす。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。	教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成29年告示）解説 外国語」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2019 ISBN:9784304051784
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、フレッシュマン・セミナー、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。 フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3、12、13関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよび「キリスト教概論Ⅰ」で礼拝への参加方法を学び、セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上、礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金：礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：６月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．フレッシュマン・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。	
	3．各学部で実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	50	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。オータム・セミナーにおいては上級生としてセミナー運営にかかわることで、調整力と実行力を身につける。セミナー活動を通じて自己と他者の違いを尊重する心をはぐくみ、キリスト教精神についての学びを深める。またセミナーと礼拝以外に実施される大学礼拝と諸行事への参加を求める。 ※SDGs目標番号3関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝および秋のセミナーへの参加
履修条件	「北陸学院セミナーⅠ」を修得済であること。「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金: 礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：6月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．オータム・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	50	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日のグローバル・スタンダードの多くは、キリスト教の背景を持つ。本講義では、世界や人間存在の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、その概要を学び、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、代表的な主イエス・キリストのたとえ話に触れる。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：自己紹介、本コースの概要説明、評価の仕方、使用テキストの説明。 ・礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方、教会礼拝出席の姿勢について知る。	
2	・キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教をはじめとする世界の宗教状況について、基本知識を身につける。 ・自分自身の宗教観について改めて振り返ってみる。	
3	・世界宗教と呼ばれる諸宗教の中心的な教え（教理）を概観する。 ・マインドコントロールと信仰との違いについて考察する。	
4	・北陸学院の形成者たちと出会う。小テスト①準備。 ・史料編纂室特別講義	
5	・小テスト①：北陸学院の形成者 ・聖書という書物：聖書の描き出す神の大いなる物語（グランド・ストーリー）の大きな枠組みを理解し、それぞれの構成やジャンルを理解する。	
6	・小テスト②準備 ・主イエスのたとえ①：憐れみ深いサマリア人のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	・小テスト②：使徒信条 ・主イエスのたとえ②：放蕩息子を迎える父のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「北陸学院の形成者」②「主の祈り」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回、聖書並びに Chromebook を持参する。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準（グローバル・スタンダード）の多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はキリスト教の信仰と生活の基準であり、現在もっとも広く読まれているベストセラーでもある。本講義では、「キリスト教概論Ⅰ」の内容を前提として、聖書の大きなストーリーラインを学ぶ。旧約聖書の描き出す神の民の歴史から新約聖書の証しするイエス・キリストの出来事、創造から終末に至る聖書のグランド・ストーリーが自己の人生観・世界観にもたらすインパクトを探る。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：担当教員自己紹介、本授業の概要、評価の仕方の説明。	
2	創造物語：この世界は神が造られた被造世界であり、神と人間が関わり合う舞台として形づくられたものであるという聖書の世界観を発見する。	
3	アブラハムの旅立ち：神の約束に信頼して旅立ったアブラハムの信仰物語を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
4	小テスト①準備 モーセの召命：モーセの物語を通じて、神に呼ばれその務めに立てられ、使命に生きるという人生観を発見する。	
5	小テスト①：十戒 出エジプト：神が苦しみ悩む者を解放し導く主であることを見出し、それが自らの人生に示唆するインパクトを探究する。	
6	小テスト②準備 イエス・キリストの誕生、その教えとわざ：イエス・キリストの生涯と働きを知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	小テスト②：使徒信条 十字架と復活：イエス・キリストの死と復活、そこから始まっていった教会の伝道のわざについて知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「十戒」②「使徒信条」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[30分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「定期試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）（日本聖書協会）
指定図書／参考書等	なし／授業の中で別途紹介する。	その他・特記事項	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	山田　和人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論ⅠおよびⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。	このコースの履修後に学生は・・・ ①北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明（内容、目標、予定、課題、成績評価方法、参考図書の説明）	
2	「イエス・キリストとの出会い」 シモン・ペトロをはじめ、特定の人物に焦点を当て、福音書におけるイエスとの出会いの証言に耳を傾ける。	
3	・「主の祈り」（マタイ6：5-15）：「礼拝」が神と人間との対話・交わりであることを発見する。「祈る」ことを知り、主イエス自らが教えてくださった「主の祈り」を理解し、祈り始める。 ・人の罪意識についての考察と探求。	
4	・小テスト①：「主の祈り」 ・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて理解し実践できるようになる。花の日献金準備。	
5	聖書の内容に親しむ①　聖書の物語と自身の物語（経験したこと）をつなぐ接点を見出し、その解釈を試みる。 「徴税人ザアカイ」（ルカ19：1－10）	
6	聖書の内容に親しむ②　聖書の物語と自身の物語（経験したこと）をつなぐ接点を見出し、その解釈を試みる。 「放蕩息子の帰郷」（ルカ15：11－32） ヘンリ・ナウエン著『放蕩息子の帰郷』を手掛かりに、「失われた者の回復」について共同探求する。	
7	「十戒」について学び、その今日的な意味について共同探求する。	
8	・小テスト②：「十戒」 ・学期末レポートについて ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。	礼拝出席レポート	20	教会の主日礼拝に2回出席し、説教内容や礼拝で経験したことについての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中2回（①「主の祈り」②「十戒」）、それぞれの内容について基本的な理解度を小テストで評価。	学期末レポート	40	課題についてのレポート作成と提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④花の日礼拝にあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をClassroom、もしくはメソフィアで告知する。

受講生に望むこと	主体的な参加。共同探求への志を持つこと。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）
指定図書／参考書等	なし／その都度指示する。	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	山田　和人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。	このコースの履修後に学生は、 ①北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を学び、会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明（内容、目標、予定、課題、成績評価方法、参考図書の説明）	
2	病いの癒し～イエスの宣教と癒しの働きを学ぶ～	
3	「使徒信条」について学ぶ	
4	・小テスト「使徒信条」 ・命の尊厳について～エリザベス・キューブラー・ロスの実践に学ぶ～	
5	ヴィクトール・フランクルの生涯に学ぶ ～ホロコーストを生き抜いた心理学者の体験とその後～	
6	医療・福祉の現場におけるキリスト教の役割について ～病院チャプレンの働きの実際～	
7	スピリチュアリティと「わたし」～人間の尊厳とのかかわりにおいて～	
8	・まとめ ・学期末レポートについて ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。	礼拝出席レポート	20	教会の主日礼拝に２回出席し、説教内容や礼拝で経験したことについての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中１回　「使徒信条」の内容について基本的な理解度を小テストで評価。	学期末レポート	40	課題についてのレポート作成と提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④クリスマス礼拝にあたり、神に感謝し、諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をClassroom、もしくはメソフィアで告知する。

受講生に望むこと	主体的な参加。共同探求への志を持つこと。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）
指定図書／参考書等	なし／その都度指示する。	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	郷土の文学			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。	①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、研究発表会
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。	
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。	
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勧進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。	
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
14	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。	
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	課題提出状況、グループディスカッションへの参加。	課題	30	授業を理解した上で適切に記述されているか。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。［30分］ 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。［180分～240分］	毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。

受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。 フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。	教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア　石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編　能登印刷出版　2001年　ISBN：978-4890103898『文学への旅　金沢・名作の舞台』「文学への旅　金沢・名作の舞台』編集委員会　2000年　ISBN4－89010－335-XC0095	その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」（https://www.aozora.gr.jp）でも読むことができる。

実務経験を活かした授業の概要

高等学校教諭時代における読書教育の実践を生かして、より身近により当事者性の高い作品や話題を提供している。

授業科目名	日本国憲法			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることで良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。 ※SDGs目標番号1～17関連科目	①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	憲法と経済の関係は？：職業選択の自由について学びます。（職業選択の自由、規制目的と審査基準について理解する。）	
13	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	
15	基本的人権をまもるために:統治機構について学びます。（権力分立と立法、行政、司法の役割について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト／確認テスト	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8回)。
期末テスト	25	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］ 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの答え合わせは次回の講義時に掲載・解説します。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』第7版,棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著,有斐閣,2024年,ISBN978-4-641-28155-4
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	青年の心理			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
青年心理学は、青年期の心理や行動を研究対象とする発達心理学の一領域であり、この領域の知見によって青年が自分自身の心理や行動を振り返り、より良く生きるきっかけをつかむことができる。この授業では、生涯発達の途上にある青年期の心理と行動について解説するとともに、青年期の心理臨床や援助について講義する。	①青年期の心理と行動について理解する。 ②青年の心理や行動を青年心理学の知見で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を、青年心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、ワークやディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	青年期とは：青年期の成立過程と時代的変化を理解する。	
2	前青年期とは：青年期の入口としての前青年期の心理や行動を理解する。	
3	青年期の発達課題：アイデンティティとセルフエスティームについて知り、青年期の発達課題を理解する。	
4	青年期の認知の発達：人間の情報処理能力の獲得と思考の発達について知り、青年期の認知発達を理解する。	
5	青年期と家族：親からの分離個体化にかかわる心理や行動について知り、青年と家族のありようを理解する。	
6	青年期と学校・地域：青年が学校で学び、地域にかかわることの実際について知り、青年と学校・地域との関係性を理解する。	
7	青年期と友人：グループの発達的変化といじめにかかわる心理や行動を理解する。	
8	青年期の身体の変化とジェンダー・アイデンティティ：二次性徴の発現による性的成熟に伴う心理や行動と社会・文化的な性（ジェンダー）について理解する。	
9	青年期の恋愛と結婚：恋愛と結婚にかかわる心理や行動を理解する。	
10	青年期の臨床①精神疾患：青年期発症の精神疾患のある青年の心理や行動を理解する。	
11	青年期の臨床②非行：非行の実態を知り、非行にかかわる青年の心理や行動を理解する。	
12	青年期の臨床③発達障害：発達障害のある青年の心理や行動を理解する。	
13	青年期の臨床④ひきこもり・ゲーム依存：ひきこもり・ゲーム依存の実態を知り、その状態にある青年の心理や行動を理解する。	
14	青年期への支援とリソース：青年への支援サービスについて理解する。	
15	青年の就職と労働：青年期のキャリア発達にかかわる心理や行動を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解の程度を評価する。	提出物	50	授業中指示の提出物により評価する。
授業への参加態度	10	授業中のワーク、ディスカッションへの参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する［60分/回］	提出された課題は、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	①授業内容と、自身の日常の生活とのつながりを意識し、自分自身の心理と行動に興味を持ち、積極的に参加してほしい。 ②ワークやディスカッションは、真剣に自身の心理や行動を振り返りながら行なってほしい。	教科書・テキスト	『授業で使える青年心理学ワークブック』安立奈歩・河野伸子・大谷真弓著　北樹出版　2013　ISBN:978-4779303685
指定図書／参考書等	なし/『よくわかる青年心理学［第2版］』　白井利明編　ミネルヴァ書房　2015　ISBN: 978-4623072491	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	食と健康			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は一般教養科目として開講する。食事には、単に空腹を満たすだけではなく、生命維持や健康増進、活動のエネルギー源になることをはじめ、生活リズムの形成、人間関係やコミュニケーションの形成、食文化の継承など様々な役割がある。本科目では食事の栄養的側面や食事と健康との関わりを中心に学ぶ。また文化としての食事や生活を豊かにする食事について知り、理解を深める。他に、食品ロスや食の安全安心など食をとりまく今日的な課題についても知り、興味関心を高める。これらの学びを通して、自分自身の「健やかな食生活」について考える。	①食事の栄養的側面や食事と健康との関わりについて理解している。 ②食事の様々な役割や、食をとりまく課題について知り、興味関心が高まっている。 ③①②を踏まえ自分自身の「健やかな食生活」について考え、実践のきっかけを持つ。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法等について理解している。） 食生活の変遷（戦前から現代までの日本人の食生活の変遷について理解している。）	
2	何をどのくらい食べたらよいか①：自分の食事を振り返る（食事記録や写真から自分の食べたものを整理することができる。）	
3	何をどのくらい食べたらよいか②：「食事バランスガイド」とその活用法（「食事バランスガイド」の活用法を理解し、自分の食事をセルフチェックできる。）	
4	何をどのくらいいつ食べたらよいか：時間栄養学（時間栄養学の視点から、主に朝食摂取の利点について理解している。）	
5	食べたものがはたらくしくみ①：三大栄養素の吸収、代謝（三大栄養素の消化吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
6	食べたものがはたらくしくみ②：ビタミン、ミネラルの消化吸収、代謝（ビタミン、ミネラルの吸収、代謝について知り、食と健康の関わりについて興味関心を持っている。）	
7	日常生活と栄養（生活活動・運動と栄養の関わり、ストレスと食欲や栄養との関わりについて理解している。）	
8	生活習慣病と栄養（生活習慣病とその予防につながる食生活について理解している。）	
9	日本の伝統的な食文化「和食」（和食文化について知る。）	
10	金沢の食文化（金沢の伝統食や食文化について知る。）	
11	食品ロス（食品ロスについて理解し、自分の身の周りの食品ロスとその削減を考えるきっかけを持っている。）	
12	食の安全安心（食中毒、食品添加物、食品表示などの知識を習得し、安全で安心な食生活について考えることができる。）	
13	食情報とのつきあい方（氾濫する食情報の取捨選択の方法を理解し、つきあい方を考えることができる。）	
14	食生活の多様化と共食（食生活の多様化と共食やこ食について理解し、共食の意義について考えることができる。）	
15	まとめ：健やかな食生活とは（これまで学んできたことを踏まえ、自分自身の「健やかな食生活」について考えている。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	授業内容の把握とそれらに対しての自分の考えを適切にまとめている	授業参加状況	10	積極的に参加している
課題	30	食事記録とセルフチェックに取り組み、期限までに提出している			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に資料が配布された場合、授業内で内容に関連する資料等が紹介された場合は目を通す。	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	授業をきっかけに食生活と健康の関わりについて興味関心を持ち、望ましい食生活に向けて行動してみて下さい。	教科書・テキスト	なし（必要に応じて資料を配布する。）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	政治学			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。 まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。	①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。

教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）	
2	民主主義とは何か：民主主義について、選挙との関連から考察します。特に、シュンペーターの民主主義理論から現代日本の民主主義の実際について考えます。（民主主義の理論と実際を理解する。）	
3	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか。この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）	
4	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）	
5	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）	
6	政党：現代民主主義に欠かすことのできない政党について考察します。そして選挙制度が政党の数や行動に与える影響について考察します。（日本の政党政治の特徴や問題点について理解する。）	
7	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）	
8	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、岸田首相の政権運営が最近の首相とどのように違うのかについてなど。）	
9	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）	
10	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）	
11	利益誘導政治：民主主義国家で見られる利益誘導政治について、その特徴、要因、そして影響について検討します。（道路、橋、新幹線、そして原子力発電所などの建設に政治がどのように関わっているかを理解する。）	
12	マスメディア：民主主義国家において、政治家と有権者を繋ぐ媒体としてメディアの果たす役割について政治学の理論から事例を交えつつ検討します。（メディアが政治にどのような影響を与えるのかを理解する。）	
13	政治腐敗：民主主義国家において政治が腐敗すると、社会にどのような影響があるでしょうか。日本における近年の政治腐敗とされる事例について検討することで考えます。（政治腐敗はなぜ起きるのかを理解する。）	
14	災害と政治：第13回までの授業内容をふまえながら、2024年1月1日の能登半島地震に対する政府や自治体による復興対応を事例に、災害が起きた際に有権者は政治や政治家にどのような期待や要望を持ち、それに対してどのように政府や政治家は対応しているのかを学術的に考察していきます。	
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、2020年以降のコロナ禍や2024年1月の能登半島地震などを受けて、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	論述形式や穴埋め問題など、様々な形式を用いた試験を予定している。政治学の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。	毎回の課題・リアクションシート	40	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらうことを検討しています。[60分]	毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。

受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回直接、またはGoogle Classroomを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし。／『政治行動論〔新版〕：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著　有斐閣　2025年　ISBN:978-4-641-15136-9.『政治学（New Liberal Arts Selection）』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真渕 勝共著　補訂版　有斐閣　2011年　ISBN-13: 978-4641053779.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	日本語基礎			開講学科	社会学部	必修・選択	自由
担当教員名	清水　實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。	①辞書に親しみ、使いこなすことができる。 ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる。 ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ。

教授方法	演習と講義。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどういうものかを理解する。「自己紹介文」を書く。	
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）	
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）	
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）	
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）	
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く）②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）	
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読）②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）	
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読）　②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して）　④到達確認テスト	
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）	
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）	
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）	
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）	
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）	
14	①文章表現の実践（小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）	
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期テスト（16 回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解している。	到達確認テスト（8 回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解している。
各回の課題提出	20	定められた書式・時間に従って提出している。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現している。	授業参加態度	10	課題に取り組み、弱点を克服している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと 。[40分]	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。	教科書・テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語基礎			開講学科	社会学部	必修・選択	自由
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストで履修が必要とされた学生を対象として開講する。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。	・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。 ・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。 ・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。

教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。	
2	Lesson 1: This is my everyday life.一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ	
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。	
4	Lesson 2: Do you keep a diary?一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。	
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。	
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。	
7	Lesson 5: We love our town,Sakura-Yokocho.　場所の表現　基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。	
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現　時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。	
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival?　進行形　進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。	
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞　面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。	
11	Lesson 9:　What does he look like?　Wh-疑問文　wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。	
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert?　基本動詞 get, have, come,　go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う	
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞　put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。	
14	Lesson 12: Let's take a trip.英語で自分を表現するために　英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。	
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができている。 ②質問して分かったことがノートにメモされている。 ③復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。［40分］不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。［20分］ ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。	随時行う。

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社. 2007年. ISBN978-4-384-33378-7 C1082
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語ＦＩ」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得ができなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡＩ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、ＣＥＦＲＢ２＋～Ｃ１の能力を有すると判断された者、また英語BI, BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてデータを用いて意見を発表する。	
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてデータを用いて意見を発表する。	
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてデータを用いて意見を発表する。	
8	Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてデータを用いて意見を発表する。	
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてデータを用いて意見を発表する。	
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについてデータを用いて意見を発表する。	
14	Unit 7 Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＡⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFRのB2+～C1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション Unit 8（1）Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
2	Unit 8（2） Preparing for Emergenciesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
3	Unit 9（1）Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Ukraine and Afghanistanについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
5	Unit 10（1）Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Digital Societyについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
7	Unit 11（1）Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
8	Unit 11（2） Climate and Infectious Diseasesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
9	Unit 12（1） Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
10	Unit 12（2） Overtourism and Undertourismについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
11	Unit 13 Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解市、自分の意見をまとめる。	
12	Unit 14 Changing Africaについて内容を理解した後、データを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
13	Unit 15 Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。	
14	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Good Health and Well-beingをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
3	Unit 1 (2)　Good Health and Well-beingについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
4	Unit 2 (1) Life on Landをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
5	Unit 2 (2) Life on Landについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
6	Unit 3 (1) Reduced Inequalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
7	Unit 3 (2) Reduced Inequalityについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
8	Unit 4 (1) Climate Actionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
9	Unit 4 (2) Climate Actionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
10	Unit 5 (1) Sustainable Cities and Communitiesをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
11	Unit 5 (2) Sustainable Cities and Communitiesについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフライティンを行う。	
12	Unit 6　Gender Equalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、テーマについてデータも用いて意見交換する。	
13	Unit 7　Quality Educationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。	
14	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Unit 1～Unit 7これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins･小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＢⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く)の向上を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＢⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Responsible Consumption and Productionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
2	Unit 8 (2)　Responsible Consumption and Productionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
3	Unit 9 (1) Life Below Waterをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
4	Unit 9 (2) Life Below Waterについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
5	Unit 10 (1) Decent Work and Economic Growthをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
6	Unit 10 (2) Decent Work and Economic Growthについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
7	Unit 11 (1) No Povertyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
8	Unit 11 (2) No Povertyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
9	Unit 12 (1) Affordable and Clean Energyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
10	Unit 12 (2) Affordable and Clean Energyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
11	Unit 13 (1) Clean Water and Sanitationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
12	Unit 13 (2) Clean Water and Sanitationについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
13	Unit 14 Industry, Innovation and Infrastructureをテーマにビデオ視聴、リーディング、リスニング活動を通じて内容理解し、それについての意見交換を行う。	
14	Units 8-14からテーマを各自一つ選びスピーチ/プレゼンテーションをする。Peer reviewを行う。	
15	Unit 8～Unit 14の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣＩ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR B1～ B2の能力を有すると判断された者、また英語　ＤＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1（1）Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1（2）OccupationsについてDear Future Selfと題した手紙を書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
4	Unit 2（1）At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 can/could/mightなどの法助動詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2（2）At the Dinner Tableついてレストランでの会話を完成させ､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
6	Unit 3（1)Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3（2)Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
8	Unit 1 ～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1) Unit 4（1）Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。	
9	Unit 4（2）　Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
10	Unit 5（1）Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。	
11	Unit 5（2）Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像してライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	Unit 6（1）At the Moviesについてリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。	
13	Unit 6（2）At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。	
14	Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。 Unit 1～Unit 6で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末ト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＣⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B1～B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＣⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　Unit 7（1）Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SVOOとSVO　+ Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7（2）Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
3	Unit 8（1）Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8（2）　Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
5	Unit 9（1）Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9（2）Looking on the Bright Sideのついて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
7	Unit 10（1）Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。	
8	Unit 10（2）Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
9	Unit 7 ～ Unit 10の復習、到達度確認テスト(1)。 Unit 7 ～ Unit 10で学んだテーマから1つを選び、ショートスピーチをおこなう。	
10	Unit 11（1）Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。	
11	Unit 11（2）Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	Unit 12（1)The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。	
13	Unit 12（2）The Power of Wordsについてriddlesについて理解し、自分でもriddleを作り、発表し合う。	
14	Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。 Unit 7～Unit 12で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Review（Unit 7 - Unit 12)に取り組む。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン・山本　良一　（代表教員　エリック　モーニン）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当する者、CEFR A2+ ～ B1の能力を有すると判断された者、また英語ＥⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(助業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Unique Travel Experiences　旅行について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Unique Travel Experienceについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
4	Unit 2 (1) Our Future Under Water? 気候変動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) Our Future Under Water?について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
6	Unit 3 (1) A DIY-Sushi Party with Friends 和食について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) A DIY-Sushi Party with Friendsについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
8	Unit 1～Unit 3の中から1つのテーマを選びショートスピーチを行う Unit 4 (1) Australia's Cockatoos ペットについての質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Australia's Cockatoosついてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。 Unit 5 (1) How to Become a Good Journalist 報道について質問に答えた後でビデオ視聴する。	
10	Unit 5 (2) How to Become a Good Journalistについてリーディング、要約で理解を深め、職業について自分の意見をまとめる。	
11	Unit 6 (1) Universal Credit 貧困問題について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 6 (2) Universal Creditについてビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 7 Cooling is Heating? エネルギー問題についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity　Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン・山本　良一　（代表教員　エリック　モーニン）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語DIを学修した者を対象に開講する。またCEFR A2+～B1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＤⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）Fashion's Resale Revolution ファッションに関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
2	Unit 8（2）Fashion's Resale Revolutionについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9（1）Finding Treasures in the Trash リサイクルについて質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Finding Treasures in the Trashについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
5	Unit 10（1）Climate Protesters 社会運動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Climate Protestersについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
7	Unit 8～Unit 10の中から1つのテーマを選び、ショートスピーチを行う。 Unit 11（1)The Changing Meaning of "Home" 家庭について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
8	Unit 11（2）The Changing Meaning of "Home" 家庭について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
9	Unit 12（1）Women Still Dying in Pregnancy 発展途上国に関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
10	Unit 12（2）Women Still Dying in Pregnancyについてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
11	Unit 13（1）Struggling to Gain the Right to Vote　参政権について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 13（2）Struggling to Gain the Right to Vote　ビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 14　Feeling Alive throughout Life 長寿についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 8～Unit 14で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	後期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・細川　真衣　(代表教員　宮浦　国江)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR A2程度の能力を有すると判断された者、また英語　ＦⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Module 1 人物紹介 Unit 1 Match,Scan,Focus,Listenの活動で紹介の仕方を学び、自己紹介の準備をする。	
3	Module 1 人物紹介　 Unit 1 Communicateの活動で実践。Unit 2 Readの活動で自己紹介文を理解する。	
4	Module 1 人物紹介 Unit 2　Readの内容確認、Writeの活動のあと、3段落の自己紹介を書く。	
5	Module 1 人物紹介 Unit 2　Writeで書いた自己紹介を修正し、Vocabulary、言語形式を確認する。	
6	Module 2 ファッション　Unit 3 Match,Scan,Focus,Listenの活動でファッションについての表現を学ぶ。	
7	Module 2 ファッション　Unit 3 Listen, Communicationの活動でファッションについてペア活動をする。	
8	Module 2 ファッション　Unit 4 Readの活動で内容を確認し、Writeの活動の後、自分のファションスタイルについて書く。	
9	Module 2 ファッション　Unit 4　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Modules 1-2 Unit 5 Review Project A(自己紹介)のquestionsを考え、インタビューし、結果をまとめる。	
11	Module 3 食べ物 Unit 6 Match,Scan,Focus,Listenの活動で外国の料理について学ぶ。	
12	ModModule 3 食べ物 Unit 6 Listen, Communicationの活動で食べ物についての好みについて､及びCommunication Bの追加質問を用いて世界の料理についてペア活動をする。	
13	Module 3 食べ物 Unit 7 Readでレストランについての文章を理解し、Writeの活動の後、お気に入りのレストランについて英文を書く。	
14	Module 3 食べ物 Unit 7　お気に入りのレストランについての英文を修正して口頭発表する。Vocabulary、言語形式の確認をする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・細川　真衣　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＥⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A2程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り等 Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Match, Scanの活動でライフスタイルについての表現を学ぶ。	
2	Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Focus, Listenの活動でライフスタイルについての表現を学美、ペア活動をする。	
3	Module 4 ライフスタイル　Unit 9 Readの内容確認、Writeの活動の後、自分のライフスタイルについて書く。	
4	Module 4 ライフスタイル　Unit 9　英文修正の後、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
5	Modules 3-4,Unit 10 Review Project C(食習慣)/Project D(健康)を行い、その結果をまとめ、発表する。	
6	Module 5 旅行　Unit 11 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界の観光地について学ぶ。	
7	Module 5 旅行　Unit 11 Listenの活動を参考に自分の意見をまとめ、Communicateでグループ活動を行う。	
8	Module 5 旅行　Unit 12 Readで旅行についての文章を理解し、Writeの活動の後、旅行について3段落の英文を書く。	
9	Module 5 旅行　Unit 12 Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Module 6 規則　Unit 13 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界のさまざまな規則について学ぶ。	
11	Module 6 規則　Unit 13 Communicateで規則についてのペア活動を行う。 Module 6 規則　Unit 14 Readで高校・大学の規則について読み、Writeの活動の後、高校・大学の規則について英文を書く。	
12	Module 6 規則　Unit 14　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
13	Unit 15 Review(Modules 5-6)　Project E(日本の観光地)/Project F(大学の規則)をグループワークで行いその結果をまとめる。	
14	Unit 15 Review(Modules 5-6)　Project E/Fについて各グループがグループ・プレゼンテーションを行う。Peer reviewをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦＩ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子・山本　良一　（代表教員　本間　千重子）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能(聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・自己紹介など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できるようになる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) 動詞の現在時制(be動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝の日課の表現を学ぶ。	
3	Unit 1 (2) 人物紹介の英文を理解し､自己紹介と朝の日課についてのライティングと発表を行う。	
4	Unit 2 (1) 動詞の現在時制(一般動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝食についての表現を学ぶ。	
5	Unit 2 (2) 朝食について述べる英文を理解し､朝食についてのライティングと発表を行う。	
6	Unit 3 (1) 名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて通学準備についての表現を学ぶ。	
7	Unit 3 (2) 通学準備について述べる英文を理解し､自分の通学準備についてのライティングと発表を行う。 Unit 1 ～ Unit 3の振り返り、到達度確認テスト	
8	Unit 4 (1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて大学の授業についての表現を学ぶ。	
9	Unit 4 (2) アメリカの大学授業について述べる英文を理解し､自分の大学の授業についてのライティングと発表を行う。	
10	Unit 5 (1) 前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて昼食についての表現を学ぶ。	
11	Unit 5 (2) アメリカの大学での昼食について述べる英文を理解し、自分の大学での昼食についてライティングを行う。 Unit 6 (1) Wh-疑問文の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてショッピングについての表現を学び、ライティングを行う。	
12	Unit 6 (2) 様々な活動を通じてさらにショッピングについての表現を学び、ライティングの発表を行う。 Unit 7 (1) 過去時制の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングを行う。	
13	Unit 7 (2)様々な活動を通じてさらに街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングの発表を行う。	
14	Unit 4 ～ Unit 7の振り返り、到達度確認テスト。 Unit 1～Unit 7で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチ/プレゼンテーションを行う。Peer review を行う。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)､振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子・山本　良一　（代表教員　本間　千重子）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＦⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自由時間の過ごし方など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できるようになる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）現在進行形/過去進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて美術/芸術についての表現を学ぶ。	
2	Unit 8（2）美術/芸術について述べる英文を理解し、自分の趣味についてライティングと発表を行う。	
3	Unit 9（1）未来表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてカフェについて述べる。	
4	Unit 9（2）アメリカのカフェについて述べる英文を理解し、レストラン/カフェについてのライティングと発表を行う。	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてアルバイトについて述べる表現を学ぶ。	
6	Unit 10（2）アメリカのアルバイトについて説明する英文を理解し、自分の経験についてライティングと発表を行う。	
7	Unit 11（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて趣味についての表現を学ぶ。	
8	Unit 11（2）様々な活動を通じて自由時間についての表現を学び、自分ことについてのライティングと発表を行う。 Unit 8～Unit 11の復習、振り返り。　到達度確認テスト	
9	Unit 12（1)不定詞と動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて家事についての表現を学ぶ。	
10	Unit 12（2）家事について述べる英文を理解し、自分のことについて発表を行う。 Unit 13(1）比較級と最上級の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自宅での自由時間について説明する表現を学ぶ。	
11	Unit 13（2）リーディング活動の後、自宅での自由時間について発表を行う。 Unit 14（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて余暇についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
12	Unit 14（2）余暇についての英文を理解し、ライティングの発表を行う。 Unit 15（1）受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて運動についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
13	Unit 15（2）運動について　ライティングを行い、お互いに発表し合う。	
14	Unit 12 ～ Unit 15の振り返り、到達度確認テスト。 これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし。	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュA			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2・3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、8月中旬4日間のBritish Hills(福島県)研修では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)	①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。 ②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。 ④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。 ⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。 ⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。 ⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。

教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。	
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。	
4	British Hills（以下BH）(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。	
5	BH(2)　Team Challenge（Intermediate)：英語のさまざまなゲームをチーム対抗で競い合うことで、チームメンバーについて知り、協力関係を築きつつ、英語発話を自然に行えるようにする。	
6	BH(3)　Interview & Orienteering:BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。	
7	BH(4) Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。	
8	BH(5)　British Wedding：イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。	
9	BH(6)　World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。	
10	BH(7)　Travel in UK：英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。	
11	BH(8)　Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。	
12	BH(9)　Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。	
13	BH(10)　Group presentation 3:　最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。	
14	BH(11)　Group presentation 4:　最終プレゼンテーション　自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。	
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身につける。 ③英語運用力測定。	BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] ②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] ③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]	随時行う。

受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュC			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2・3年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、単母音の発音と声調（音の高低）を習得する。	
2	単母音と声調を復習後、複母音の発音を習得する。	
3	すべての子音を習得し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。	
4	鼻音と軽声、声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。	
5	鼻音・軽声などを復習後、簡単な日常会話を習得する。 自分の名前を中国語で言えるようになる。	
6	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)	
7	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。)	
8	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」(相手の希望の尋ね方や質問を返す表現を身につける。)	
9	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)	
10	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして他己紹介ができるようになる。	
11	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、時間詞を用いた表現を身につける。)	
12	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。)	
13	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)	
14	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 前期に学んだ学習内容をもとに、自己紹介文を作成する。	
15	期末試験に備えて、前期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自己紹介文の完成度（第14回）	10	前期に習得した文法を用いて自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『≪新版≫できる・つたわるコミュニケーション中国語』　岩井伸子・胡興智 著　白水社　2023年　ISBN 9784560069431
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、前期学習内容を復習する。 第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)	
2	第8課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。	
3	第9課「出来事を尋ねる①」(完了形の言い方、「～しに行く、しに来る」という連動文の表現を身につける。)	
4	第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」(「～するのが…だ」という様態補語の表現を習得する。)	
5	第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」(相手の希望の尋ね方、前置詞を用いて「どこで～する」の表現を身につける。)	
6	第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」(道の尋ね方、選択疑問文を習得する。)	
7	第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」(経験の有無の言い方を習得する。)	
8	第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして文法知識の定着を図る。	
9	第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。)	
10	第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」(比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。)	
11	第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」(２点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。)	
12	第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」(進行表現、結果補語を習得する。)	
13	第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」(義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。)	
14	第18課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 前期と後期の学習内容をもとに、自由なテーマで長文を作成する。	
15	期末試験に備えて、後期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自由テーマ文の完成度（第14回）	10	習得した文法を用いてテーマを自由に文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。 あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『≪新版≫できる・つたわるコミュニケーション中国語』　岩井伸子・胡興智 著　白水社　2023年　ISBN 9784560069431
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目はフランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説する。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化ついて、様々な角度から知り、体験していく。言葉としてのフランス語を通してフランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拡がることであり、フランス語という言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)(s)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　Je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『アンコール　サリュ１』田辺 保子 著，西部 由里子 著，駿河台出版社,2024年，ISBN978-4-411-01144-2
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　Il est en face de la maison.　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　命令形／il faut… Allez tout droit.　Il faut travailler.　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu.	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quad ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『アンコール　サリュ１』田辺 保子 著，西部 由里子 著，駿河台出版社,2024年，ISBN978-4-411-01144-2
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅰ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、ハングルの読み方や書き方、発音の基礎などを中心に、文法表現など一通りを学ぶ。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。前期では１課から６課を中心に文字の練習を重点的に行う。各単語に付けられているイラストによって楽しく反復学習ができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	ハングルの子音と母音の読み書きができると共に簡単な単語の構成について理解ができる。言語学的に日本語や英語との共通点と違いを理解する。２１個の母音と１９個の子音の組み合わせによる文字としての表現の学習力を高めて後期から始める会話学習に備えることができる。自分の名前や簡単な単語の表現ができるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ハングルとは何?/ハングルの基本構成を理解して日本語との共通点と違いを理解する。	
2	ハングルの基本母音について/基本母音を理解する。	
3	ハングルの母音の活用について/母音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
4	ハングルの基本子音について/基本子音を理解する。	
5	ハングルの子音の活用について/子音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
6	子音と母音の組み合わせについて/子音と母音を組み合わせて自分の名前や家族の名前が書ける。	
7	子音と母音の復習/子音と母音を理解し、読み書きができる確認をする。	
8	パッチムとは?/日本語にはないパッチムの構造を理解する。	
9	パッチムの役割について/単語の練習を通じてパッチムの役割が理解できる。	
10	簡単な単語の練習/教科書を中心にグループ別に書く練習をする。	
11	ハングルキ-ボ-ドの打ち方/携帯電話やパソコンを用いてハングルキ-ボ-ドの打ち方ができる。	
12	韓国の文化について①/韓国の食文化や地域の特徴について理解する。	
13	韓国の文化について②/韓国の社会や教育、大学の文化を理解する。	
14	前期の復習①/前期の全般的な内容を理解する。	
15	前期の復習②/前期の全般的な内容についてグループ別に理解度を確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の意見として作成する。
試験	50	ハングルの読み書きに対する理解を基準とする。 １６回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として予習と復習を前提とする。[30分] ハングルは漢字を使わないので英文字やひらがなのように基礎の段階では書く練習に基づく事前学習が必要である。[60分]	レポートは子音と母音に対する理解を確認する内容や単語の書く練習を兼ねたことが主になる。試験はハングルの音読みを基本として子音、母音、パッチムの理解を確認する。

受講生に望むこと	ハングルは基本子音と母音が理解できれば一年ほどで簡単な日記を書くことや基本会話ができる言語で、初めての言葉に対する難しそうという先入観を捨てることが大事である。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅱ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語として開講される。前期の韓国語Ⅰを学んだ学生を対象に、口頭表現の発展を目指す。日常的に用いられるハングル文字の読み方や書き方を中心として、簡単な会話ができることをめざす。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。後期では７課から１８課までに至る日常会話を中心とする授業になる。自己紹介から趣味などの多様な会話を身に付けることができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	個性的な自己紹介ができる。簡単な買い物ができる会話力を身につける。学校生活や週末、日常日課のことが表現できる。食べものの選び方や家族の呼び名、旅行時の簡単な会話ができる。交通手段の利用方法、約束のやり方、自分の能力の表現ができる。様々な趣味のことや自分のことが言えるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	「韓国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の全般的な復習/ハングルの基礎について理解している。	
2	自己紹介/みんなの前で自己紹介ができる。	
3	ショッピングのやり方/自分でショッピングができる。	
4	学校生活について/学校内にある色々な場所が言える。	
5	週末の時間過ごしの表現/週末の過ごし方が表現できる。	
6	一日の日課の表現/自分の日課の表現ができる。	
7	食べ物について/韓国の食べ物を言えることや味の表現ができる。	
8	家族の呼び名/自分の家族関係や数字が言える。	
9	旅行関係の表現/旅行時の簡単な会話ができる。	
10	交通便について/交通手段による乗り方ができる。	
11	約束の仕方/約束する時の表現ができる。	
12	自分の能力を表現する/自分ができることの能力について言える。	
13	趣味に対する表現/自分の趣味について言える。	
14	後期の復習①/後期に学習した会話の全般的なことが分かる。	
15	後期の復習②/後期に学習した会話をグループ別の理解度として確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の会話力を活用して作成する。
試験	50	聞き取りと会話力を基準とする。16回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として基本会話の予習と復習を徹底して行う。[30分] 映画やドラマ、ネットなどを通じて聞き取りを反復して練習する。[30分] 授業時の会話文は次の時間まで覚えて置くこと。[30分]	レポートは自分と関わりを持つ内容として会話文を作成する。 試験は会話テストとして口述試験を行う。

受講生に望むこと	ハングルの語順は日本語と同じなので、単語力と助詞の活用法が分かれば簡単な日常会話を身に付けることができる。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ゴルフ）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ゴルフの競技特性を理解する。 ② ゴルフの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	
5	ショットの基本①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしフルショットまでの技術を習得する。	
6	ショットの基本②：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる９種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	
7	ショットの基本③：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。	
8	ショットの基本④：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。	
9	ショットの基本⑤：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	
11	ショットの基本⑥：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	
12	ターゲットバードゴルフ①：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	
13	ターゲットバードゴルフ②：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。また、一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	
14	ショートゲームテストとまとめ	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目であるため、出席し、実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主にグランドで実技を行うので、外履きの運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書：US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ダンス）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・木藤　由麻　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① ダンスの特性を理解する。 ② ダンスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。	木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。	木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。	木藤
4	基本のステップ 1 ：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。	木藤
5	基本のステップ 2 ：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。	木藤
6	基本のステップ 3 ：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。	木藤
7	簡易創作 1 ：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。	木藤
8	基本のステップ 4 ：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。	木藤
9	簡易創作 2 ：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。	木藤
10	講義：ダンスの歴史を理解する。	木藤
11	創作活動 1 ：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。	木藤
12	作品発表 1 ：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。	木藤
13	創作活動 2 ：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。	木藤
14	作品発表 2 ：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。	木藤
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	木藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。［準備運動を含め 60分程度］ ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主に体育館で実技を行うので、内履きの運動靴を用意する。また、必要に応じてタオルなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。 （事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（テニス）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・熊谷　史佳　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	対面授業によるスポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	熊谷
2	グリッピング、ラケットワーク	熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。	熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	熊谷
11	ゲーム 1 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	熊谷
12	ゲーム 2 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	熊谷
13	ゲーム 3 ：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	熊谷
14	ゲーム 4 ：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	熊谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。［準備体操を含め 60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動ができる服装で参加する。 主に屋外テニスコートで実技を行う。外履き用の運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子など用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB（集中講義：ゴルフセミナー）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられており、この野外活動プログラムは 4 日間にわたる集中講義にて行う。
ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーフィーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。
なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー（本科）」の他に「後期開講の授業」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）
※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。
※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。

授業の到達目標

① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。
② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。
③ グリップ、ポスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。
④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。
⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。
⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。
⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。

教授方法	ゴルフ実技　（大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習）
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握／用具の準備。	
2	【実習　1 日目　午前Ⅰ】　開講式／レッスン①：スタンスの確認（グリップ、ポスチャー、エイミング） ショートスイング　～　スリークォータースイング（ 9Ⅰ）	
3	【実習　1 日目　午前Ⅱ】　レッスン②：スリークォータースイング　～　ハーフスイング（ 9Ⅰ）	
4	【実習　1 日目　午後Ⅰ】　レッスン③：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ）	
5	【実習　1 日目　午後Ⅱ】　レッスン④：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰ）	
6	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑤： 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。 また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。／VTR 撮影	
7	【実習　2 日目　午前Ⅱ】　レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び 弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。／ VTR撮影	
8	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング（ゴルフ練習場）。	
9	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。	
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑨：VTR によるフィードバック／クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。	
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習／グルーピング／打ち込み。	
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑪：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。	
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑫：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。 ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。	
14	【実習　4 日目　午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。	
15	【実習　4 日目　午後】 ラウンド実習：本コース 9ホールのハーフラウンド体験を行う。／閉講式	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。〔1回60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 4日間の集中講義になるので体調を整えて参加すること。 詳しくは事前オリエンテーションにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。場合によっては実習への参加を認めない場合がある。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って　若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。
ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。
ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。

なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）

授業の到達目標

① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。
② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッヂビーなどのゲームを楽しむ。。	
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとして スポーツに親しむ礎とする。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行う。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目であるため、出席し実技に参加することを原則とする。運動のできる服装で参加する。主に体育館にて行うので、内履きの運動靴を用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康科学			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。	① 健康的な生活の意義を理解する。 ② 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 ③ 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。	
2	健康的な生活①：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。	
3	健康的な生活②：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。	
4	健康的な生活③：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。	
5	健康を脅かすもの①：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。	
6	健康を脅かすもの②：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。	
7	健康を脅かすもの③：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。	
8	健康を脅かすもの④：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。	
9	健康を脅かすもの⑤：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」	
10	健康を脅かすもの⑥：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」	
11	運動習慣と疾病の関係①：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。	
12	運動習慣と疾病の関係②：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。	
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方① :健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。	
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方②：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。	
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	40	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させている。	学期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] ②各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎とする。	教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。
指定図書／参考書等	参考書：「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著　北國新聞社　2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ａ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	富岡　和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第２は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。	①Windows10の基本操作を習得する。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③Wordの基本操作を習得する。 ④Excelの基本操作を習得する。 ⑤上記のソフトを利用しプレゼンテーションにおける効果的な資料を作成することができるようになる。 ⑥googleドキュメントやスライドの基本操作を習得する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学内の情報環境を知る。Windows10の基礎操作を習得する。Chromebookの操作に慣れる。 さまざまな文字の入力方法と添付ファイル付きでの電子メールの送受信の正しい知識を身につける。 情報倫理に関する理解を深める。	
2	Google Workspaceの一連の操作ができる。 Googleドキュメントやスライドなどの Googleアプリが使える。	
3	PowerPoint基本操作（基礎）：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
4	PowerPoint（中級）：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。	
5	PowerPoint描画：図形描画を使い、簡単な絵を掛けるようになる。	
6	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。	
7	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
8	Word基本操作（基礎）：文章入力の基本を理解する。	
9	Wordによる文章作成(初級)：レイアウト、書式の設定、ファイルの保存等を理解する。	
10	Wordによる文章作成(中級)：文章作成に必要な基本操作を理解する。	
11	Excel基本操作（基礎）：表集計ソフトの基本を知る。	
12	Excelによる表作成（初級）：簡単な表作成ができるようになる。	
13	Excelによる表作成（中級）：簡単な関数が利用できるようになる。	
14	Excel（応用）：グラフ作成ができるようになる。	
15	総合課題：与えられた課題に対して、Excelで作成他表やグラフを挿入し、体裁を整えたレポートをWordで作成する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
情報倫理達成度	10	情報倫理に関する知識を有すると共に、実際面に応用できる。	プレゼンテーション資料作成	35	PowerPointを用いたプレゼンテーションについて、伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーとなっているか、スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用されているかなどを総合的に評価する。
Word及びExcelのリテラシー	30	テーマに沿った作品であるか。画像・動画ファイルの切替えのタイミングに適切か。	総合成果物	25	WordとExcelの機能を効果的に利用し、効果的なプレゼン資料を作成できる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 ②PowerPointのプレゼンテーションがスムースに行えるように練習する。 ③WordやExcelの操作が教師の指示なしでもできるように練習する。 ④パソコンの操作は慣れることが重要である。特にキーボードからの日本語入力の速度が課題完成に大きく影響するので、入力速度の向上のための練習を行う。 これら①～④について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。	課題は随時評価の上で返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『30時間でマスター Office2019』実教出版　2019年 ISBN978-4-407-34835-4 『情報倫理ハンドブック』 noa出版　2024年
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ｂ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は初年次教育科目として開講する。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション能力が欠かせない。本科目では、代表的なプレゼンテーションソフトであるMicrosoft PowerPointおよびGoogleスライドの基本操作を習得するとともに、より効果的なプレゼンテーション資料作成のための基本操作を習得する。また、生成AIの効果的な利用法を学び、効率的なスライド作成方法を習得する。さらにグループワークを通じたプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し、向上させることを目的とする。	①Excelの関数を組み合わせて使用する方法を習得する。 ②プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。 ③効果的なプレゼンテーションについて理解するとともに、そのような資料を作成し発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤目標②③④に到達するために、生成AIを正しく効果的に利用できる力を身につける。 ⑥グループワークにおいて他者とのコミュニケーションを円滑に行い、適切な役割分担を考え、実行できる力を身につける。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	全15回の講義の説明。 Excel①：前期の授業で習得したExcelの基本的操作を確認、復習する。	
2	Excel②：条件判定と順位付けの操作方法を習得する。	
3	Excel③：検索関数とExcelの便利な機能についての操作方法を習得する。	
4	Excel④：Excel関数の応用。実用的な表を作成し、学んだ関数の振り返りを行う。グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。	
5	プレゼンテーション①：プレゼンテーションの骨格となるロジカル・シンキングについて習得する。	
6	プレゼンテーション②：生成AIを正しく利用し、プレゼンのストーリー作成や視覚的な効果を持つスライドを作成する方法や設定について習得する。	
7	プレゼンテーション③：1回目のグループプレゼンを準備する。	
8	プレゼンテーション④：1回目のグループプレゼンを準備する。	
9	プレゼンテーション⑤：1回目のグループプレゼンを実施し、相互評価を行う。	
10	プレゼンテーション⑥：2回目のグループプレゼンを準備する。	
11	プレゼンテーション⑦：2回目のグループプレゼンを準備する。	
12	プレゼンテーション⑧：2回目のグループプレゼンを実施し、相互評価を行う。	
13	プレゼンテーション⑨：3回目のグループプレゼンを準備する。	
14	プレゼンテーション⑩：3回目のグループプレゼンを準備する。	
15	プレゼンテーション⑪：3回目のグループプレゼンを実施し、相互評価を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	20	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。	プレゼンテーション	50	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
グループワーク参加態度	30	グループワークへの取組み姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
グループワークによりプレゼン発表用のスライドと原稿を作成する。[45分] プレゼン発表までに作成したスライドと原稿で練習を行うこと。[45分]	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。 提出物は内容を確認した後、返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『30時間でマスターOffice2019』初版　実教出版 2022年出版　ISBN978-4-407-34835-4 （情報機器演習Aで使用）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅠ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	葦名　理恵・赤羽　由起夫・沢田　史子・富岡　和久・平岩　英治　（代表教員　葦名　理恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
大学生としての基本的な学びの姿勢および知的探求の方法を修得することを目的とする。具体的には、①ノート・テイキングの基本的技術、②文章読解力の強化と文章作成能力の育成による要約力の強化、③図書資料などをはじめとする情報の収集方法と整理活用術、④レポート作成の基本的事項を修得する。また、ゼミ内での共同作業やディスカッションを通じて人間関係のあり方やコミュニケーションについても学ぶ。PROGを用いた学生指導も含む。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②学びに必要な情報の収集方法を知り集めることができる。 ③ポイントを正確に読み取ることができる。 ④書かれた内容を概要と意見に分けてまとめることができる。 ⑤学び合えるディスカッション方法を身につけ互いに学び合う姿勢を身につける。

教授方法	演習：毎回レジュメを作り、発表・ディスカッションをする形式で進める。
履修条件	社会学科1年生または社会学科の学生で再履修となった者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	期首オリエンテーション	全員
2	第5章　大学図書館における情報収集	全員
3	第１章　スタディスキルズとは：大学での学びに必要な事項を学び、長期目標を立てた上で、それを実現するための今学期の目標を立てる。	各担当教員
4	第2章　ノート・テイキング	全員
5	フレッシュマン・セミナーにおける学部別協議の準備	全員
6	第3章　リーディングの基本スキル(1)：テキストを読むとはどういうことかを学ぶ。	各担当教員
7	第3章　リーディングの基本スキル(2)：二度読み方式について学ぶ。	各担当教員
8	第4章　より深いリーディングのために	各担当教員
9	第1回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
10	第8章　アカデミック・ライティングの基本スキル	各担当教員
11	第9章　効果的なアカデミック・ライティングのために	各担当教員
12	第11章　プレゼンテーションの基本スキル	各担当教員
13	第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために	各担当教員
14	第2回発表：指定された課題についてレポートを作成し、発表する。	各担当教員
15	期末オリエンテーション	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定した書式・字数・枚数にならっている。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっている。	レジュメ作成とレポート発表	20	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメ（含ノート・テイキング練習課題） ②第9回に提出する進捗状況レポート ③聞き手が理解しやすい発表
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしている。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べている。 ③課題にまじめに取り組んでいる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①基礎ゼミⅠで学んだ事柄・スキルを他の授業でも活かすこと。 ②図書館やインターネットなど様々な文献・情報により視野を広め、知識を増やすと共に、集めたものは整理しておくこと。 ③学内外での学びは「ソーシャルサイエンス」の対象の1つと捉え、分析的に観察し、気づいたことはノートにメモしておくこと。 …上記①～③を踏まえつつ、 ・レポートのためにリサーチを重ね、執筆に取り組むこと。［60分］ ・学んだことはその日のうちに復習すること。［30分］	個々の教員の指導に従うこと。

受講生に望むこと	基礎ゼミⅠは大学の学びの最も土台となる科目である。これからの4年間を有意義に過ごすか否かがかかっていると言っても過言ではない。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、この授業で学んだスキルが身につくよう積極的に授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著 くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	課題提出日、発表日などに欠席することは評価に大きくかかわるので注意すること（なお、配慮される欠席理由については学生要覧を参照すること）。 不明な点は自分の所属するゼミ担当教員に問い合わせをすること。 基礎ゼミⅠは13回、または14回に合同でリテラシー・コンピテンシーアセスメントを実施予定である。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅡ（社会学部）			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子・井上　克洋・内田　啓太郎・倭　希實・富岡　和久・平岩　英治　（代表教員　沢田　史子）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢・知的探求の方法及びアカデミックライティング技術を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションのしかた、④ディスカッションのしかた（１１月の「オータム・セミナー」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイディアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	全体オリエンテーション：授業概要を理解する。	全教員
2	リテラシー・コンピテンシーアセスメント解説会（PROGテスト解説会）※特記事項参照	全教員
3	テキスト第6章　インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する。 レポート課題の選定	各担当教員
4	テキスト第7章　情報の整理：レポート作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する。	各担当教員
5	レポートの構想発表	各担当教員
6	テキスト第8章　アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
7	グループ・ディスカッション：オータム・セミナーのグループ討論を念頭に置いてディスカッションスキルを学ぶ。	全教員
8	オータム・セミナーグループ討議のふりかえり	各担当教員
9	テキスト第9章　効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。	各担当教員
10	テキスト第11章　プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表	各担当教員
11	レポート中間発表	各担当教員
12	テキスト第12章　わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備	各担当教員
13	レポート内容の発表準備　各ゼミ必要に応じてレポート最終発表	各担当教員
14	レポート最終発表	各担当教員
15	履修指導、プロゼミ説明会、学期末授業評価アンケート	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	①指定された書式・字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、事実・データと意見を分けた文になっているか。	授業参加態度	20	①ディスカッションに積極的に参加したか。②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。③課題にまじめに取り組んでいるか。
レジュメ作成と発表	20	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で指定された課題を事前に行う。[30分以上] ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分に行う。[30分以上] ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する。必要に応じて調査なども行う。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく。 ⑤学内外の学びは社会学の対象の一つととらえ、観察して気づいた点をメモする習慣をつける。	ゼミ・グループ活動、レポート、パワーポイントなど必要に応じて対応する。また、成績評価等の疑問・質問等には随時応じる。

受講生に望むこと	「基礎ゼミⅡ」は、「基礎ゼミⅠ」とともに大学の学びの土台となる科目である。大学およびそれ以降の社会で必要なスキルを中心に学ぶので、学んだスキルが身につくよう積極的に授業にのぞむこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著　くろしお出版　2019年　ISBN：978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	指定図書　なし/参考図書　『大学生のためのリサーチリテラシー入門』山田剛史・林創　ミネルヴァ書店　2011年　ISBN:978-4-623-06045-0,日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN:978-4487802906，日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN:978-4487802760，日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN:978-4487802784，日本語検定領域別問題集『文法』ISBN:　978-4487802777，日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN:978-4487802971	その他・特記事項	「リテラシー・コンピテンシーアセスメント解説会（PROGテスト解説会）」の実施時期を変更する可能性がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教と社会			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
旧・新約聖書は、古代から現代に至るまでキリスト教社会の形成に大きな影響を与えてきた。近代以降、キリスト教社会の法や制度はグローバル化し、その影響は世界全体に及んでいる。宗教と社会との関係を見る方法論を整理しつつ、歴史上の人物や映画作品を通じて、キリスト教信仰が社会に与えるインパクトの諸相を探究する。 ※SDGs目標番号8、10、16関連科目	・宗教が単に、個人に安心立命を与えるだけではなく、社会を形成する上で、重要な役割を担っていることを理解し、複数の社会科学方法論の特徴と方向性を比較し、複数の視点を持つことができる。 ・歴史上の人物や映画作品を通じて、キリスト教信仰が社会に与えるインパクトの諸相を探究する中で、自分自身の生き方について学びとったことを自分の言葉で表現できるようになる。

教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義。
履修条件	「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の履修済が望ましい（単位未修得も可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要、課題、スケジュール等を詳細シラバスに拠って紹介する。	
2	・大塚久雄と社会科学：社会経済学者大塚久雄の著作を通して、信仰と社会との関係に係るアプローチの方法を探究する。 ・小テスト①準備	
3	宗教と科学技術　宗教は非科学的か。聖書の自然観と科学の芽生えとの関係を科学史的に概観し、科学技術成立に対する宗教の影響と役割を確認する。宗教と科学技術との基本的な関係を把握する。	
4	・キリスト教信仰と共同体形成：旧約律法がイスラエル共同体の形成原理となったことを理解し、宗教が社会形成を担うことを理解する。	
5	・宗教改革と職業理解の展開：宗教改革による職業観の転換の例としてマルティン・ルターの職業理解とその意義を考察する。 ・小テスト①実施	
6	キリスト教と日本社会：明治期以降の「和魂洋才」思想を検討し、現代日本の問題を確認する。職業観と使命Missionについて考える。近代以降の日本の職業観の特徴と問題性を理解し、自分が働く意味を考える。	
7	キリスト教信仰と社会正義：杉原千畝①　杉原千畝の生涯を辿りつつ、自己の生きる時代状況の中でキリスト教信仰をもって生きることがどんな変化をもたらすのか考察する。	
8	キリスト教信仰と社会正義：杉原千畝②　杉原千畝の生涯を辿りつつ、自己の生きる時代状況の中でキリスト教信仰をもって生きることがどんな変化をもたらすのか考察する。 小テスト②準備	
9	キリスト教信仰と社会正義：キング牧師①　信仰における行動が社会のあり方に大きなインパクトを与えた実例を、キング牧師の人種差別との闘いから学ぶ。	
10	キリスト教信仰と社会正義：キング牧師②　信仰における行動が社会のあり方に大きなインパクトを与えた実例を、キング牧師の人種差別との闘いから学ぶ。	
11	キリスト教信仰と結婚・家庭：ファイアーストーム①　結婚と家庭形性におけるキリスト教信仰、特に契約の意義について、自分にあてはめつつ考察する。 小テスト②実施	
12	キリスト教信仰と結婚・家庭：ファイアーストーム②　結婚と家庭形性におけるキリスト教信仰、特に契約の意義について、自分にあてはめつつ考察する。	
13	キリスト教信仰とコミュニティ形成：フェイシング・ザ・ジャイアント①　キリスト教信仰において自己のアイデンティティーを形づくる時、それはコミュニティーとチームを刷新する力を持つことを発見する。	
14	キリスト教信仰とコミュニティ形成：フェイシング・ザ・ジャイアント②　キリスト教信仰において自己のアイデンティティーを形づくる時、それはコミュニティーとチームを刷新する力を持つことを発見する。	
15	まとめと期末試験準備、授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
興味・関心・態度	20	授業に出席し、積極的に発言し、振り返りシートを毎回提出する。	教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、授業のテーマとの関連で説教内容を考察したレポートを提出する。
小テスト	20	キリスト教史に関わる重要人物に関する小テストを２回に分けて実施する。	期末試験	40	学期末に、この科目を通して自分の生き方との関わりで学んだことを表現する記述試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への積極的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、本学のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④神に感謝し、献金先の活動を理解しつつ、礼拝献金に加わる。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	聖書
指定図書／参考書等	なし／授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書ならびに Chromebook を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・視聴覚教材も積極的に導入する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データサイエンス入門			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学部共通科目として開講する。我々が生活する社会には多くの情報やデータが存在する。これからの社会はデータを正しく取り扱い、適切に分析し、価値のある情報を見出すことが求められていく。本科目では1年前期の「情報機器演習A」を受け、ICT機器の取扱について一定の知識を得たことを前提に、AI利活用に関わる理解、データを扱うための知識、統計的な考え方と、統計解析の手法を学ぶ。これらを学ぶことにより、データサイエンス時代に対応できる知識と技術を身につける。 学習効果を高めるため、適宜反転学習や、グループディスカッション、Google Workspaceを活用する。	データサイエンスの時代とも言える21世紀を生きるうえで必要な、社会におけるデータ・AIの利活用について正しい知識を得て、説明できるようになる。 データリテラシーを身につけ、データの読み方、データの特徴抽出、データ分析を行ない、分析した内容について説明できるようになる。 データ・AI利活用における留意事項について理解し、説明できるようになる。

教授方法	テキスト・スライドを用いた講義形式で実施する。Google スプレッドシートを用いてデータ加工について学修する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【導入・社会で起きている変化】現代社会はSociety5.0とも呼ばれ、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の両立が求められている。社会に起きている変化について具体的内容について学ぶとともに、「データサイエンス入門」の概要について説明する。	
2	【社会で活用されているデータ】社会で活用されているデータの種類、データごとの取得方法、所有者について学習する。またデータを扱う上での注意点についても学習する。	
3	【データサイエンスにおける心得−１】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。AIを使うことによるメリットも大きいが、倫理面の問題などについて正しく扱う必要もある。	
4	【データサイエンスにおける心得−２】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。データ・AI活用における負の事例を紹介し、データを守るための留意事項について学ぶ。	
5	【データとAIの活用領域】事業活動と、活用目的ごとにデータ・AI活用の広がりについて学習する。反転授業（LITE)を行う。 【中間レポート１】反転授業を受けてレポートを作成する。	
6	【データ・AI利活用のための技術−１】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特にデータ解析の方法と、それにまつわる話題について触れる。 【振り返り小テスト１】５回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
7	【データ・AI利活用のための技術−２】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に画像や音などの非構造化データ処理、グラフ作成などによるデータ可視化、画像処理などで用いられるパターン認識技術について触れる。	
8	【データ・AI利活用のための技術−３】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に人工知能について扱う。今のAIで出来ること、出来ないことなどについても触れる。	
9	【データ・AI活用の現場】データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかについて考える。	
10	【データ・AI利活用の最新動向】AIを活用した新しいビジネスモデルを紹介する。そして、今後ビジネスなどにも広く活用されるであろうAIに関する最新技術を紹介する。	
11	【データを守る上での留意事項】セキュリティ・プライバシーを守ることと、社会でデータを活用することの両立について学習する。反転学習を行う。 【中間レポート２】反転授業を受けてレポートを作成する。 【振り返り小テスト２】６～１０回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
12	【データリテラシー−１】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は「データを読む」ための基本事項について説明する。	
13	【データリテラシー−２】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に調査などに用いられる方法について説明する。	
14	【データリテラシー−３】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に図解などを用いて判りやすく説明するデータ表現の方法について説明する。	
15	【データリテラシー−４】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に表計算ソフトをデータ解析ツールとして扱う方法について説明する。 【振り返り小テスト３】全15回を通した学習内容についての振り返り小テストを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り小テスト	30	節末の練習問題から出題する3回の小テストによって理解度を評価する。	レポート	40	学期内に二度課す。設定されたテーマに沿ってレポートを作成する。これにより理解度を評価する。
課題学習	10	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	授業への積極的関与	20	反転授業・反転学習でのグループワークにおいて、積極的に関与していることを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：予告した箇所について通読する。[30分]反転学習として指示があった場合は、その指示に従い準備をする。[60分] 事後学習：指示された振り返り課題に取り組む。[30分]	授業時間内の振り返りと、Google Classroomを通じてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	Society5.0とも呼ばれる情報化社会でこれからの時代を担う人材となるべく、データサイエンスに関する知識を正しく身につけられるよう、興味を持って取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』北川源四郎・竹村彰通編,講談社,2024年,ISBN978-4-06-537939-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レジュメはGoogle Classroomから配信する。 毎回行う振り返りもGoogle Classroom経由で実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	統計データの読み方			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会の様々な現象を理解する上で、統計データや調査資料を利用することが多い。この授業では、官庁統計・資料や、それを利用した調査報告・研究論文が読めるようになることを目的とする。具体的には、（1）単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法、（2）様々なグラフの読み方やその作成方法、（3）相関係数などの基礎的統計手法や相関関係と因果関係の違い、（4）質的データの読み方と分析のための利用法について学習する。	①単純集計、度数分布、代表値、そしてクロス集計などの記述統計データの読み方や算出方法を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方について習得する。 ③質的データの読み方と基本的なまとめ方について習得する。 ④日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、適時Excelを利用した実習を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、統計データとは何か、社会調査法とは何か、そしてなぜ社会調査法を学ぶ必要があるのかについて考える。（統計データの読み方や社会調査法を学ぶ意義を理解する。）	
2	データの特徴：データにはどのような特徴があるのか、変数と尺度という言葉を用いながら説明する。（統計データの特徴について理解する。）	
3	単純集計：世論調査等の統計データを単純に集計し、それを一覧表にまとめた度数分布表とヒストグラムについて説明した後、その作成法の実習を行う。（度数分布表とヒストグラムについて理解し、それらを作成できるようになる。）	
4	記述統計Ⅰ：データの中心的傾向を見る指標として平均、中央値、そして最頻値について説明した後、それらの算出法の実習を行う。（記述統計データからデータの中心的傾向を把握できるようになる。）	
5	記述統計Ⅱ：データのばらつきの大きさを測る指標として範囲、分散、そして標準偏差について説明した後、それらの算出法の実習を行う。（記述統計データからデータのばらつきの大きさを把握できるようになる。）	
6	クロス集計Ⅰ：二種類のデータの関係を捉える方法として、クロス集計表について説明する。（クロス集計表から 2 つのデータの関係を捉えることができるようになる。）	
7	クロス集計Ⅱ：世論調査等の統計データを使用したクロス集計表を作成する実習を行う。（クロス集計表を作成することで、2つの回答の関係性を推測できるようになる。）	
8	相関Ⅰ：二つのデータの直線的な関係を捉える方法として、相関の考え方と相関係数について説明する。（相関関係の基本的な考え方と、それを表す相関係数の算出法について理解する。）	
9	相関Ⅱ：二つのデータの関連性を見極める上で理解しておく必要のある相関関係と因果関係の違いや、擬似相関について説明する。（二つのデータの関連性を見極めることの難しさを理解する。）	
10	相関Ⅲ：実際の統計データを利用し、EXCELを使った散布図の描き方や相関係数の算出法などの実習を行う。（散布図の作成法や相関係数の算出法を実習することで、二つのデータの関連性の有無を自身で判断できるようになる。）	
11	様々なグラフ：実際の統計データを利用し、様々なグラフを作成する実習を行う。（適したグラフの選択とわかりやすいグラフについて理解する。）	
12	質的データの読み方Ⅰ：質的調査と呼ばれる研究法について説明した後、観察調査の諸類型やまとめ方について紹介する。（質的調査法と量的調査法の違いを理解する。そして観察調査の種類やまとめ方を理解する。）	
13	質的データの読み方Ⅱ：インタビュー調査とその手順について説明し、実際にインタビュー番組を見ながらインタビュー調査の有用性について考える。（インタビュー調査の意義を理解する。）	
14	質的データの読み方Ⅲ：ドキュメントの諸類型について説明した後、ドキュメント分析の方法を紹介し、その意義について考える。（ドキュメントを分析することの意義を理解する。）	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	20	授業に積極的に取り組んでいるか。	課題	20	授業内容を理解しているか。
到達度テスト	30	授業内容を充分に理解できているか確認するために、授業の後半回で実施する。	期末レポート	30	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用するレジュメ（資料）は、Google Classroom等を通じて配布するので必ず目を通しておくこと。[30分] ②講義後に統計データの読み方に関する練習問題を課題として出すので、期日までに提出すること。[50分]	①課題およびそれに付属するリアクションシートは、採点およびコメントを付けるなどして適切な時期に返却する。 ②到達度確認テストは、採点して返却する。

受講生に望むこと	統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われている。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしよう。	教科書・テキスト	『基礎から学ぶ統計解析　ーEXCEL2010対応ー』沢田史子・杉森公一・大数多可志　共立出版　2011年 ISBN-13: 978-4320019744.
指定図書／参考書等	なし／『社会調査の基礎ー社会調査士 A･B･C･D 科目対応』篠原清夫・清水 強志・榎本環・大矢根淳著　弘文堂　2010 年　ISBN-13: 978-4335551338.『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』谷岡一郎　ちくまプリマー新書　2007 年 ISBN-13: 978-4480687593.『入門・社会調査法　2 ステップで基礎から学ぶ』第3版　轟亮・杉野勇（編）法律文化社　2017年　ISBN-13: 978-4589034892.	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのC 科目「基本的な資料とデータの分析に関する科目」に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	井上　克洋・赤羽　由起夫・内田　啓太郎　（代表教員　井上　克洋）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
授業の目的は２つある。1つ目は、社会で必要とされる力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らが考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では実際の社会が抱える課題を知り、チームでその解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が直面している課題を受け取り、それを解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	①社会に必要な力に気づく。 ②自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。 ③社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。	全教員
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。	全教員
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	全教員
4	第１次提案に向けて：チーム活動。第１次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。	全教員
5	第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	全教員
6	第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。	全教員
7	第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで自分たちの議論および活動を振り返る。	全教員
8	問題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。	全教員
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。	全教員
10	第１次提案に向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえれば議論が進むのかを整理する。	全教員
11	第１次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。	全教員
12	第２次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。	全教員
13	第２次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで自分たちの議論および活動を振り返る。	全教員
14	全体の振り返り：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすのかをまとめる。	全教員
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加したか。	提出物	50	期限内に提出しているか。課題に即した内容となっているか（例えば、毎回提出するリアクションシートの場合は、振り返りが記され、規定文字数を満たしている）。
発表	20	発表内容。発表態度。質疑応答への応対。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
問題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備をすすめること。準備はほぼ授業時間外ですすめることになる。［60分～120分］	プレゼンテーションや提出物などの課題については、授業中においてコメントする。

受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけること。	教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』ベネッセコーポレーション、2014年。　ISBN:なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅡ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	加藤　仁・富岡　和久・井上　克洋　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，学部共通科目に位置づけられるものである。「キャリアデザインⅡ」では，「キャリアデザインⅠ」で培われた気づきを拡張，深化させていく。そのために，MIP1の振り返りや批判的，論理的な思考力を高めるトレーニング，また，働き方や社会の動き，先達の話を聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。	①グループワークや発表をとおして，自身の意見を的確に他者に伝えることができる。 ②先達の話や社会の動き捉える活動から，現代社会の情勢などの知識を身につける。 ③仕事につく際に必要とされるが，現在は不足している力について，学生時代にどのようにして身につけるかの具体的プランが立てられる。

教授方法	教員による講義，ゲストスピーカーによる講演，グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明および前期の振り返りと自己評価の分析を行う。	全教員
2	クリティカルシンキングの自己分析を行う。	全教員
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版を考え，発表を行う。	全教員
4	社会の情勢を把握し他者に伝える（1）：新聞を用い社会の出来事について考察する。	全教員
5	社会の情勢を把握し他者に伝える（2）：新聞を用いたグループワークおよび発表を行う。	全教員
6	会社の仕組み，仕事の仕組みについて考える。	全教員
7	職業選択について（1）：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。	全教員
8	職業選択について（2）：周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークの結果を発表する。	全教員
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。	全教員
10	グローバル企業で働く際の問題点と解決策について具体的に考える（MIP2に向けて）。	全教員
11	就職活動とは：4年生と卒業生の話を聞く。	全教員
12	ワークライフバランスについて考える。	全教員
13	労働者の権利について考える。	全教員
14	企業の社長たちの学生時代の話を聞く（パネルディスカッション）。	全教員
15	自己を振り返る（自分史を作る自己分析）。授業の総括とMIP２へのつながりの説明。	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度，および演習への参加態度	リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されている。
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容	グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されており，わかりやすい話し方である。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①グループ・個人に課された課題・レポートの作成。［120分］ ②日頃から新聞等を読み，社会の事象等に関心を持つ。［60分］	グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。

受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので，学生の活発な参加が求められる。社会学科の他の科目の学習とともに，社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。	教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅢ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	若山　将実・葦名　理恵・俵　希實　（代表教員　若山　将実）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、MIP2を実施する。前半と後半で二つの企業と連携し、授業を進めるところに本授業の特徴がある。企業が抱える普遍的（グローバル）かつ、ローカルな課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、企業がテーマを出題し、学生はチームを組みテーマについてプレゼンテーションを行う。第一次提案と最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	①グローバルかつローカルな特徴を持つ「グローカル」社会で働くために必要な知識・コミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。 ②課題を提示する企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。 ③課題解決のためにICTを用いて実践的経験を学び、グローカル社会で働くために必要な表現形式を習得する。 ④チームで協力したプレゼンテーションができるようになる。

教授方法	講義と演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション・MIP２［１］の課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。グループメンバー発表、グループワーク①	全員・企業担当者
2	MIP２［１］第一次提案に向けての準備：グループワーク②相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全員
3	MIP２［１］第一次提案に向けての準備：グループワーク③相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全員
4	MIP２［１］第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全員・企業担当者
5	MIP２［１］最終提案に向けての再構築：グループワーク④第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	全員
6	MIP２［１］最終提案：最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	全員・企業担当者
7	MIP２［１］振り返り：チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）を振り返る。 ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）ＡＩインストール	全員・外部講師
8	MIP２［２］の課題提示、グループメンバー発表、グループワーク①	全員・企業担当者
9	MIP２［２］第一次提案に向けての準備①：相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全員
10	MIP２［２］第一次提案に向けての準備②：相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。	全員
11	MIP２［２］第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全員・企業担当者
12	MIP２［２］最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	全員
13	MIP２［２］最終提案：最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。	全員・企業担当者
14	MIP２［２］振り返り：チームで、自分たちの活動（文献調査、社会調査、議論など）を振り返る。	全員
15	後期に向けての準備：マイナビ課題解決プロジェクトに向けて	全員・外部講師

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	授業に参加し、チームに貢献しているか。	提出物(振り返りシートとプレゼン視聴コメント)	30	①期限内に提出しているか ②課題に即した内容となっているか ③指定された分量が書けているか ④指定された形式になっているか ⑤振り返りができているか
プレゼンテーション（前半）	30	①課題に即した内容となっているか ②指定された様式・時間を守っているか ③態度 ④質疑への応答	プレゼンテーション（後半）	30	①課題に即した内容となっているか ②指定された様式・時間を守っているか ③態度 ④質疑への応答

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
プレゼンテーションの準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]	プレゼンテーションに対して企業担当者および教員がコメントする。

受講生に望むこと	チームワークを高めるために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。	教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1　ベネッセコーポレーション　2014　ISBN：なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅣ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	若山　将実・葦名　理恵　（代表教員　若山　将実）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、前期の「キャリアデザインⅢ」でのMIP2での学びを基に、マイナビ主催の課題解決プロジェクトに取り組む。すなわち、企業から提示された課題について、社員の立場に立って企画を作り、プレゼンを行う。さらに、授業後半回では社会人基礎力（経産省が提唱する、仕事を行っていく上で必要な基礎的能力）を高めるためのワーク等を通して、社会へ出るまでに各学生がどのような準備をすべきかを考える。	①グループワークを通して、課題解決力を身につける。 ②自分に足りない能力や知識、および、自分の強みを明確に認識する。 ③社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考えることができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明。チーム発表。 課題解決プロジェクト①：企業課題の説明・確認・グループエントリー前期課題解決プロジェクト（第１期）の優勝チームスライドの閲覧と分析（グループワーク）	全教員・外部講師
2	課題解決プロジェクト②：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
3	課題解決プロジェクト③：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
4	課題解決プロジェクト④：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
5	課題解決プロジェクト⑤：企画書案の作成と調査活動（グループワーク）	全教員
6	課題解決プロジェクト⑥：中間プレゼンテーション前半　15分/1チーム（11チーム予定） 担当者に対して第一次提案を行う。担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全教員・外部講師
7	課題解決プロジェクト⑦：中間プレゼンテーション後半 担当者に対して第一次提案を行う。担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。	全教員・外部講師
8	課題解決プロジェクト⑧：企画書案の作成と修正（グループワーク） 第一次提案における担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。	全教員
9	課題解決プロジェクト⑨：企画書案の作成と修正（グループワーク）	全教員
10	課題解決プロジェクト⑩：最終プレゼンテーション前半　20分/1チーム 最終提案を行い、教員からフィードバックを受ける。	全教員
11	課題解決プロジェクト⑪：最終プレゼンテーション後半 最終提案を行い、教員からフィードバックを受ける。	全教員
12	課題解決プロジェクト⑫：最終プレゼンテーションの振り返り マイナビへの企画書提出と活動の振り返りを行う。	全教員
13	就活準備の事前情報（外部講師による講座）・課題解決プロジェクト審査結果の開示を受けた振り返り	全教員・外部講師
14	大学の学びと就職後の仕事　（外部講師による講座）	全教員・外部講師
15	SPI　就職模擬テストの実施。	全教員・外部講師

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	積極的にグループワークや授業に参加している。	課題解決プロジェクト企画書	40	企画書内容がグループワークの成果を反映した内容になっている。
その他提出物	50	リアクションシートなど、その他提出物が、①期限内に提出されている、②課題に即した内容、③指定された分量や様式、④振り返りができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題解決プロジェクト企画書の作成は、授業時間内だけでは足りないので、授業外でも行う。［90分］	この授業の核となる課題解決プロジェクト企画書について、①担当教員との質疑応答、②外部スタッフ（マイナビ、企業・自治体担当者）からのアドバイスを踏まえたグループ間の相互コメントの側面からフィードバックを行う。

受講生に望むこと	グループワークにおいて、各学生が主体的に参加することを希望する。	教科書・テキスト	随時、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	授業資料や授業外の課題はGoogleクラスルームから提供・指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅤ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵・井上　克洋　（代表教員　葦名　理恵）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は、「キャリアデザインⅠ」（ＭＩＰ１）、「キャリアデザインⅡ」、キャリアデザインⅢ」（ＭＩＰ２）、「キャリアデザインⅣ」で学んだことを活かして、就職活動に必要な実践力を養う。実践力を養う１つの方法として、夏休み期間を中心にインターンシップ・仕事体験に参加する。そのために、この授業では就職活動とは何か、自分に合う企業の探し方、自己分析の重要性などについて講義を受け、さらにインターンシップ・仕事体験の説明会への参加を積極的に行うことでインターンシップ・仕事体験参加のための準備を行う。	①就職活動の流れを把握する。 ②就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 ③インターンシップ・仕事体験に参加し、働く自分を具体的にイメージできるようになる。

教授方法	講義・演習
履修条件	「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」を履修済みであることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について理解する	全教員・外部講師
2	インターンシップ・仕事体験について理解する	全教員・外部講師
3	ジョブカフェ石川インターンシップ学内説明会	全教員・外部講師
4	業界研究①インターンシップへのアクション：プレエントリー準備を行う	全教員・外部講師
5	業界研究②業界・職種について理解する	全教員・外部講師
6	自己分析：自己PR作成に向けて自己分析を行う	全教員・外部講師
7	インターンシップへのアクション：プレエントリー準備を行う	全教員・外部講師
8	自己分析：社会人基礎力の判定、 合同説明会の回り方：インターンシップ・仕事体験の探し方とイベント活用方法について理解する	全教員・外部講師
9	ジョブカフェ石川のイベント参加：情報収集を行う	全教員
10	マイナビイベント「インターンシップ&キャリア発見フェア」に参加：情報収集を行う	全教員
11	インターンシップ準備：面接選考準備講座	全教員・外部講師
12	面接練習	全教員・外部講師
13	筆記試験：筆記試験・適性検査について理解する・SPI試験	全教員・外部講師
14	ビジネスマナー：企業訪問マナーや参加の心構えについて理解する 客観的な自己理解：適性検査・ブログの見方を理解する	全教員・外部講師
15	インターンシップや仕事体験（福祉コースの実習含む）への参加（夏休み期間中）	全教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークを達成できる。 ②講義・演習（グループワーク含む）に積極的に参加している。	インターンシップ等への参加	40	インターンシップ・仕事体験、その他就職イベントに参加する。
提出物	30	①課題に対して適切な内容となっている。 ②定められた期間内に提出している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
インターンシップ・仕事体験に参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を行うこと。（60分）	授業内でコメントする

受講生に望むこと	就職活動に結びつく授業なので、真面目に、且つ積極的に取り組むことを望む。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	インターンシップ参加等については各自実費となる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅥ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵・井上　克洋　（代表教員　葦名　理恵）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は「キャリアデザインⅤ」に続いて行う内容である。「キャリアデザインⅤ」で体験したインターンシップや、その準備等で体験したことをふまえて、社会で求められる力を認識するとともに、実際の就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。	①社会で求められる力を具体的に述べることが出来るようになる。 ②就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。

教授方法	講義・演習
履修条件	キャリアデザインⅠ～Ⅴを履修済であることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について理解する	全教員・外部講師
2	インターンシップ参加報告会	全教員
3	自己分析と履歴書のたたき台の作成	全教員・外部講師
4	面接練習	全教員・外部講師
5	学内キャリアガイダンスへの参加①	全教員
6	学内キャリアガイダンスへの参加②	全教員
7	マイナビイベント参加	全教員・外部講師
8	エントリーシート作成：自己分析・自己PR・ガクチカを作ってみよう　※PROG結果持参	全教員・外部講師
9	採用担当者と語る会①	全教員
10	エントリーシート作成：志望動機を作ってみよう	全教員・外部講師
11	面接（対面・WEB）準備	全教員・外部講師
12	採用担当者と語る会②	全教員
13	面接実践：模擬面接（集団面接）①	全教員・外部講師
14	面接実践：模擬面接（集団面接）②	全教員・外部講師
15	就職活動本番に向けて	全教員・外部講師

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	①授業中のワークの達成度 ②講義・演習（グループワーク含む）に足して積極的に参加している。	提出物	30	①課題に対して適切な内容になっている。 ②定められた期間内に提出している。
発表	40	①発表内容 ②発表態度 ③質疑への応答			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
発表準備を進めること。業界・企業・職種研究を進めること（90分）	発表について授業内でコメントする。

受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真摯に、かつ積極的に取り組むことを望む。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミA			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子・井上　克洋・池村　努・植田　峰悠・田中　純一・俵　希實・真砂　良則・若山　将実　（代表教員　沢田　史子）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1年次では、大学での学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を基礎ゼミⅠ・Ⅱにおいて学んできた。2 年次では、3年次から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下にやや専門性の高い内容について学ぶ。	①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成できる。 ③自分が担当する部分について、レジュメにもとづき発表できる。 ④他者の発表を聞いて、自分の考えをもちディスカッションに参加できる。 ⑤プロゼミAで学んだ内容についてレポートにまとめることができる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ゼミ内での自己紹介、各ゼミのゼミ運営についての説明など。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	プロゼミ A の活動のまとめ（ゼミごとに半期のゼミ活動を総括する）	各担当教員
15	後期科目の履修指導、プロゼミB選択についての説明、その他諸連絡（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文になっているか。	レジュメ作成と発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
ゼミへの参加態度と意欲	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ゼミごとに求められる内容が異なるので、自分の所属するゼミの担当教員の指導に従うこと。 ゼミで指定されたテキスト、参考図書、資料等をよく読み考えをまとめる。[週平均90分以上] 日頃から新聞を読み、社会の事象を意識するように努める。	各担当教員から説明する。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが 3 年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示にしたがって指導を受けるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加態度を望みます。	教科書・テキスト	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。
指定図書／参考書等	ゼミごとに教員の指示にしたがうこと。	その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミB			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	葦名　理恵・赤羽　由起夫・内田　啓太郎・加藤　仁・田引　俊和・平岩　英治・松尾　藍・若杉　亮平　（代表教員　葦名　理恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
1年次では、大学の学習に必要な基本的技術や作法（これをアカデミック・スキルという）を「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」において学んできた。2年次では、3年生から始まる専門ゼミの予行演習の位置づけとして設定されているプロゼミにおいて、自分の興味・関心のある分野を選び、それを専門とする教員の指導の下に、やや専門性の高い内容について学んでいく。PROGを用いた学生指導も含む。	①指定テキストの内容を理解する。 ②指定テキストの担当部分のレジュメを作成する。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表する。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加する。 ⑤プロゼミにおいて学んだ内容について、レポートにまとめることができる。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	「プロゼミA」を履修した者（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前半：成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介・各ゼミ運営についての説明、履修・成績指導	全員
2	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
3	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
4	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
5	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
6	オータムセミナーについての説明・テーマに沿ったディスカッションと発表	全員
7	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
8	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
9	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
10	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
11	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
12	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
13	各ゼミ担当教員の指導に従う。	各担当教員
14	4年生卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会に参加し、簡単なレポートにまとめる（※特記事項参照）	全員
15	3年次前期履修説明・指導・専門ゼミⅠについての説明、その他連絡事項（合同）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ゼミへの参加姿勢	30	①議論への積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞きつつ、自分の意見をきちんと述べているか。 ③課題にまじめに取り組み学ぼうとする姿勢があるか。	レジュメの作成と発表	30	①わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・字数・枚数にならっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けた文章になっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートの準備をすること。 上記①・②を踏まえつつ、 ・講義に関するレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと[30分] ・学んだことはその日のうちに復習すること[30分]	各担当教員の指導に従う。

受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミの学びへとつながっていくので、指導教員の指示・指導に従って学びを深めるのはもちろんのこと、自ら学ぶという強い意欲と授業への積極的な参加が望まれる。	教科書・テキスト	各担当教員の指導に従う。
指定図書／参考書等	各担当教員の指導に従う。	その他・特記事項	※卒業論文・専門ゼミⅡレポート報告会については、2月の試験期間後に行われる。具体的な日程等については別途案内する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	若杉　亮平・赤羽　由起夫・葦名　理恵・池村　努・井上　克洋・植田　峰悠・内田　啓太郎・加藤　仁・木村　ゆかり・沢田　史子・田中　純一・田引　俊和・俵　希實・平岩　英治・真砂　良則・松尾　藍・若山　将実　（代表教員　若杉　亮平）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
担当する教員の専門分野の中から自分の興味関心のあるテーマについての知見を深める。ゼミごとに文献等を設定し、演習形式で文献の輪読と担当者によるレジュメの作成と発表、内容についてのディスカッション等を通して、専門的な文献の読解力と内容の把握の方法を身につける。自分のテーマを追求するのに適した理論や方法論を見出し、ゼミレポートの作成を目指す。PROGを用いた学生指導も含む。	①専門分野に関する文献等を読んで理解する。 ②専門分野に関するディスカッション・フィールドワーク等を通して自分が取り組みたい研究テーマを見つける。 ③専門分野に関するディスカッション等を通して自分の研究テーマの追及に適した理論や方法を探す。 ④ゼミレポートを作成する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミにてアセスメントを実施する。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミにてアセスメントに基づく解説を行う。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	50	①課題にまじめに取り組んでいるか。 ②積極的にディスカッション等に参加しているか。	レポート	50	①指定された書式に従っているか。 ②適切な内容となっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ゼミレポートの作成やゼミ発表の準備を進める[週平均90分以上] 詳細は各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。

受講生に望むこと	研究課題に主体的に取り組むこと。	教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。
指定図書／参考書等	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	その他・特記事項	全30回のうち、２回分を使用し「リテラシー・コンピテンシーアセスメント」および「リテラシー・コンピテンシーアセスメント解説会」を実施する。実施時期は事情により変更される場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルサイエンス概説			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	田中　純一・赤羽　由起夫・葦名　理恵・池村　努・井上　克洋・植田　峰悠・内田　啓太郎・加藤　仁・田引　俊和・俵　希實・平岩　英治・松尾　藍・若杉　亮平・若山　将実　（代表教員　田中　純一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
社会学科で学んでいくにあたり、この学科で学ぶことができる研究領域や分野について理解することを目的に、社会学科の専任教員が、専門分野の内容についてわかりやすく講義する。これによって学生は、社会学を始めとしたソーシャルサイエンス領域の中から興味ある分野や自分が研究したいテーマを見出していく。評価は１５回の内容に関係するテーマについてレポート・課題を課すことにより行う。	①社会学科で学ぶにあたり、強い好奇心をもって各分野の初歩を学び、向上心を高める。 ②講義で扱う各分野の内容を理解する。 ③５つの履修モデルの分野（現代社会・国際理解、政治経済・経営、心理・カウンセリング、環境福祉マネジメント、情報・図書館司書）の講義で学んだことを整理し、800文字以上のレポートにまとめることができる。

教授方法	社会学科専任教員による履修モデルオムニバス講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：全体説明	田中
2	「多文化共生」をテーマとし、社会学的思考、社会調査結果を用いて、社会のあり方について考える。	俵
3	日本と世界の観光の特性を比較し、特徴を考える。海外から見た日本の観光についても学び、これからの観光を考える。	葦名
4	いくつかの殺人事件を事例として、犯罪とその社会的背景との関係をどのように考えるべきかを学ぶ。	赤羽
5	メディア・コミュニケーション論の考え方から現代の社会と文化について学び、身近な事例を通じて理解を深めていく。	内田
6	イギリスの工業化が、イギリス社会を物心両面においてどのように変えていったのかを検討し、近代の意味について考える。	井上
7	国政や地元石川県の政治の時事問題を1つ取り上げ、その政治の時事問題がなぜ生じたのかを、政治学的なアプローチによって検討していく。	若山
8	企業経営と経営学の入門的な解説を行う。企業の行動や存在が我々の生活にどのような影響を及ぼすのか考えていく。	平岩
9	「パーソナリティ」の心理学：ダークトライアドと呼ばれる3つのパーソナリティについて、事例を通じて理解を深めるとともに、人間関係・自分自身の人付き合いについても考える。	加藤
10	カウンセリングや心理検査など、心理学の研究知見を対人援助に応用する臨床心理学について学ぶ。	植田
11	人は他者との関わりなしには生きられない。こうした「社会的存在」としての人への理解を深めるとともに、私たちが誰かを近く感じたり遠く感じたりする心のはたらきを、心理学の視点から説明する。	松尾
12	障害概念の基礎的理解、心の不調や発達障害などがある人たちについて正しく理解するとともに、互いを認め合える共生社会・ノーマライゼーション理念について学ぶ。	田引
13	自然災害からの復旧・復興過程における社会的課題について「人間の復興」の視点から考える。	田中
14	図書館情報学とは何かを考えるため図書館の役割について取り上げる。図書館に関わる歴史的な議論を踏まえ，知的自由と図書館への基本的な理解を目的とする。	若杉
15	コンピュータや情報通信機器などが現代においてどのような役割を持つようになったか考えていく。また、正しく情報を扱うため何に気を付けるべきかについて学ぶ。	池村

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	90	①各分野ごとに出される課題レポートの提出（全５回分のレポート提出） ②レポート内容（「授業外における学習」欄を参照）	受講態度	10	授業への積極的な取り組み姿勢

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で学んだことを整理・復習する。［30分以上］ ②講義中に紹介された図書や資料については講義後各自で読む、調べる。［30分以上］ ③講義によっては事前に関連する資料を配布するので熟読すること。 ④こころと体の健康、高齢社会などについて、社会のニュースを意識し、考えをまとめる（福祉分野）。 ⑤以下の評価基準に留意しレポートを作成すること。分量、文体の統一、漢字とかなの使い分け方針の一貫性、誤字・脱字、文頭と文末の対応、一文の長さ、段落の一字下げの有無等。	提出されたレポートについては、別途、総評をする。

受講生に望むこと	授業は、教員と学生双方の意欲と態度によって成り立つので、学生には積極的な授業への参加態度（教員の問いかけに答えるなど）を望む。	教科書・テキスト	各回の担当者がレジュメ・資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／各回の担当者の指示に従うこと。	その他・特記事項	①各分野による課題レポートの提出期日は厳守すること。期限後の提出は、いかなる理由があっても受理しない。 ②レポートは、Google Classroom を通じて、翌週の月曜日13：00までに提出。文字数は全コース共通で800文字以上。なお、個別に指示があった場合は、それに従う。 ③指定された日にはChromebookを持参。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学概論Ａ			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では社会学の基本的な理論と概念、そして社会学の基本的な考え方を理解し、現代社会の捉え方を学ぶ。授業では、具体的に社会問題や人々の生活を取り上げ、社会学の視点から解説する。それらを踏まえて社会学とはどのような学問であるのか、どのように社会に貢献しているのかについて考える。	①社会学の基本的な理論と概念について理解する。 ②社会学の基本的な考え方ができるようになる。 ③現代社会が直面する問題を社会学の理論や概念を用いて説明することができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学とはどのような学問なのか①：社会学が対象としている「社会」とは何か、社会と人間との関わりについて考える。	
3	社会学とはどのような学問なのか②：他の社会科学との違いから社会学を捉える。社会学における「前近代」「近代」「脱近代」ついて理解する。	
4	【人と社会の関係を捉える】 行為論①：行為と行動の違い、行為の種類、行為の４類型について理解する。	
5	行為論②：準拠集団、社会規範について理解する。	
6	行為論③：社会化、個人主義、パーソナリティについて理解する。	
7	相互作用論①：地位と役割、役割の分類、役割葛藤、役割演技、ダブルコンティンジェンシーについて理解する。	
8	相互作用論②：予言の自己成就について理解する。	
9	【現代社会への理解を深める】 集団論①：集団とは何かを学び、その上で個人と集団との関係、社会と集団との関係を理解する。	
10	集団論②：内集団と外集団、集団の諸類型について学ぶ。	
11	集団論③：最も大規模な機能集団である官僚制組織の特徴やその組織の構成員に与える影響について理解する。	
12	【生活を理解する】 家族と社会：社会の基礎集団である家族について理解する。	
13	生活と社会：男女共同参画社会に着目して生活時間について考える。	
14	【社会学ア・ラ・カルト】 メディア文化：文化社会学の視点から現代社会におけるメディア文化について理解する。	
15	若者と社会：コミュニケーション論の視点から現代社会における若者のあり方について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布するレジュメを事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて、現代社会のあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	教科書は指定しない。
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考書等：授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開する（印刷物を配布しない）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学概論Ｂ			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は社会学科の基幹科目である。社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立的人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。社会学部の基幹となる科目として幅広い内容について講義を行う必要のあることからも、この授業では様々な各論領域について取り扱う。 ※SDGs目標番号1、3、4、5、8、10関連科目	①社会学の基礎的な考え方について説明できる。 ②具体的な社会現象についての基礎的な知識を説明できる。 ③自らの身の回りの社会現象について社会学的に考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	デュルケムの社会学：自殺という現象を取り上げ、それを社会学的に理解する方法を学ぶ。	
3	ヴェーバーの社会学：資本主義の誕生という現象を取り上げ、それを社会学的に理解する方法を学ぶ。	
4	家族と少子化：近代家族の変化と少子化の背景について社会学的に理解する。	
5	就活と労働：日本の就職活動の特徴やブラック企業の誕生について社会学的に理解する。	
6	学校と学歴：学校と学歴について社会学的に理解する。	
7	福祉国家と社会福祉：福祉国家と社会福祉について社会学的に理解する。	
8	犯罪と逸脱：犯罪・逸脱と社会の関係について社会学的に理解する。	
9	国家と移民：国家と移民をめぐる諸問題について社会学的に理解する。	
10	宗教と信仰：宗教・信仰と社会の関係について理解する。	
11	マス・メディアとコミュニケーション：マス・メディアとコミュニケーションの関係について社会学的に理解する。	
12	貧困と格差：貧困と格差について社会学的に理解する。	
13	ジェンダー：ジェンダーについて社会学的に理解する。	
14	自己とアイデンティティ：自己アイデンティティと社会の関係について理解する。	
15	感情：感情について社会学的に理解する方法を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションシート	30	授業の内容をふまえて自分の考えを記述できるかを評価する。	期末試験	70	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①社会に関する情報を普段からニュースなどを通じて入手し、その内容や背景を知るようにする。［45分］ ②授業の内容を復習することで社会学の考え方を身につけるとともに、ニュースなどで入手した社会現象の内容や背景について社会学的に考える。［60分］	リアクションシートでの質問について毎授業時の最初に解説する。

受講生に望むこと	この授業を通じて、「個人環境にかんする私的問題」と「社会構造にかんする公的問題」とを関連づけて考えることができる「社会学的想像力」（Mills 1959=1965）を身につけ、身の回りの現象を社会学的に考えられるようになってください。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査論			開講学科	社会学部	必修・選択	必修
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会学の基礎的な知識と関連させながら、学問の方法としての社会調査法を学ぶ。経験的社会学研究の方法論として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。社会調査の種類・目的、実例、社会調査の倫理、社会調査の歴史等についての基礎知識を学び、これからの社会調査のあり方について考える。社会調査の方法の概要について、社会調査の全体像と個別作業との結びつきを実際例から把握する。以上によって、社会学を自ら学んでいく基礎を確立することを目指す。	①社会学の基礎的知識、特に経験的社会学の成果について説明できるようになる。 ②社会調査の意義、目的、種類、歴史について説明できるようになる。 ③現代の社会環境のなかで社会調査を実施する際の、気をつけるべきポイントを理解する。 ④社会調査の全体像と、個別作業の結びつきについて理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会学の見取り図（理論社会学と経験社会学）と社会調査の位置について理解する。	
3	社会調査の定義と目的、歴史について知り、意義を構築する。	
4	調査倫理、統計法と個人情報保護、そして統計リテラシーについて知識を習得する。	
5	社会調査（質的調査）の種類と実際例を学ぶ。	
6	社会調査（量的調査）のプロセスの全体像を把握する。	
7	社会学の理論とリサーチクエスチョン、そして問題発見の仕方について理解し、実践的に考察する。	
8	社会調査（量的調査）の実際例を学び、その意義について考え、理解する。	
9	調査課題の設定について実践的に検討する。	
10	様々な実査の方法の長所と短所について理解する。	
11	調査票の構成について理解する。	
12	質問文の作成と、社会学で使われてきた尺度について具体例に基づいて理解する。	
13	サンプリングの概念について学び、調査対象者を決めるということの意味を理解する。	
14	サンプリングの実際の場面を模擬的に経験し、ポイントを理解する。	
15	調査の実施（郵送法）の具体的な手続きと注意点を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	期末試験	70	各回の講義内容について理解しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①教科書の該当範囲を事前に読んで、疑問点を考えてくる。 ②配付資料を事後に確認し、復習を行う。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	①講義内容に関して疑問点があれば、積極的に質問してください。 ②社会学と社会調査の結びつきについて、常に念頭におくようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2021年 ISBN：978-4-589-04141-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのA科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査法			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく基本的な知識と具体的な方法を学ぶ。 構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査（量的調査）の全過程について順を追って解説する。 実際に、リサーチ・クエスチョンを立てたり、質問文を作成したりすることで理解を深める。	①社会調査（量的調査）の全過程についての基礎知識を習得する。 ②量的調査に係る実施作業のイメージをつかむことができるようになる。 ③他の人がおこなった調査データや分析結果を適切に読みとることができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	社会調査のデザイン：リサーチ・クエスチョンを立てる。	
3	実査の方法：量的調査における方法の選択について学ぶ。	
4	調査票の作成（1）：調査票の構成と質問の作成手順について学ぶ。	
5	調査票の作成（2）：質問文の形式、質問の作成および配置に関する留意点について学ぶ。	
6	サンプリング：ランダムサンプリングがなぜ必要なのか、標本抽出枠とカバレッジ誤差、実行可能性や利便性への配慮、層化抽出、非標本誤差について理解する。	
7	調査の実施（1）：郵送法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
8	調査の実施（2）：個別面接法実査の具体的な手順と注意点について理解する。	
9	データの電子ファイル化（1）：データ構造化の流れについて理解する。	
10	データの電子ファイル化（2）：エディティングとコーディングについて学ぶ。	
11	データの電子ファイル化（3）：データ入力とデータクリーニングについて学ぶ。	
12	データの基礎的集計（1）：変数の種類、質的変数の要約、量的変数の要約（代表値）について学ぶ。	
13	データの基礎的集計（2）：量的変数の要約（散布度）について学ぶ。	
14	変数間の関連：相関係数とクロス表の作成について学ぶ。	
15	調査倫理とデータの管理：調査のフィナーレであるデータ管理と、社会調査のすべてのプロセスにかかわる調査倫理について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	授業内容を理解しているか。	提出物	30	①適切な回答を記述しているか。 ②定められた期間内に提出しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習としてテキストの該当箇所を読んでくること。事後学習として授業中に配付されたレジュメを確認すること。ワークシートを指示されたところまで仕上げること。[60分]	課題についての解説を授業中に行う。

受講生に望むこと	粘り強く学習してください。 授業で得た知識を他の授業や授業外でも活用するようにしてください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2021年 ISBN：978-4-589-04141-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムの B科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	質的研究法			開講学科	社会学部	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
社会調査法における質的なアプローチを学ぶ。質的調査の歴史、考え方、特徴、仮説と理論についての説明、さらに事例を示しつつ、さまざまな質的データの収集方法や分析方法についての解説を行う。研究目的に適合した調査手法の選び方、調査設計の仕方、実査の進め方、調査結果の解釈の仕方を学ぶ。そして、学んだことをもとに調査案を考えたり、実査を行ったりしながら、実践的な知識とノウハウを習得する。	①質的研究法の基本的な考え方を理解する。 ②質的研究法を用いた研究事例について、分析手法の選択および研究手続きの妥当性が判断できるようになる。 ③質的調査を行うための実践的な知識および技術を習得する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	質的調査へのいざない：自分の生活の再発見を通じて質的調査の感覚について理解する。	
3	質的調査の歴史と考え方：これまでの質的調査の歴史の展開や、調査を実際に進める中で生みだされてきた考え方について理解する。	
4	質的調査の特徴・魅力・難しさ：質的調査と量的調査の違いや関係を知ることを通じて、質的調査の特徴・魅力・難しさについて理解する。	
5	質的調査と調査倫理：社会調査において守らなければならない規範について理解する。	
6	観察法①：観察法の進め方と事例について理解する。	
7	観察法②：観察法の実践結果や調査案を検討する。	
8	参与観察法①：参与観察法の進め方と事例について理解する。	
9	参与観察法②：参与観察法の実践結果や調査案を検討する。	
10	インタビュー法①：インタビュー法の進め方と事例について理解する。	
11	インタビュー法②：インタビュー法の実践結果や調査案を検討する。	
12	ライフストーリー法①：ライフストーリー法の進め方と事例について理解する。	
13	ライフストーリー法②：ライフストーリー法の実践結果や調査案を検討する。	
14	ドキュメント分析法①：ドキュメント分析法の進め方と事例について理解する。	
15	ドキュメント分析法②：ドキュメント分析法の実践結果や調査案を検討する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	①授業内容について理解しているか。 ②適切な質的調査を行うことができるか。 ③研究成果を適切に記述できるか。	提出物	50	①授業内容について理解しているか。 ②課題に対して適切な内容になっているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習として、教科書の該当箇所を読んでくること。［30分］ ②調査課題を出すので、個々人で計画し、それに従って調査を実施、その結果をまとめること。［30分］ ③事後学習として、授業中に配布したレジュメの内容を確認し、復習すること。［30分］	提出された課題については、授業中にコメントする、もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	「社会」はどこにでもあるからこそ、逆に距離を取って観察するのが難しいものです。そのために社会調査法の習得が必要ともされます。本授業で得た知識や技術を使って「社会」を見ることができるようになってください。	教科書・テキスト	『質的調査の方法〔第3版〕―都市・文化・メディアの感じ方』工藤保典・宮垣 元・寺岡伸悟編、法律文化社、2022年、ISBN：978-4589041906
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する 社会調査士資格取得カリキュラムの F科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データ処理基礎			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
ビッグデータなどが簡単に入手できるようになった現在、社会の様々な現象を理解する上でデータを適切に処理することのできる能力は社会でますます求められるようになっています。この授業の目的は、大学で社会調査を学んでいく前に求められるデータ分析に関する基本的な知識を学習することにあります。具体的には、データを実証的に分析する際に求められる方法論や分析を行うに際して求められるデータの基本的な見かた等を統計ソフトを用いたデータの簡単な処理を通じて学んでいきます。	①データを実証的に分析する方法論を習得する。 ②グラフの読み方や特性、さらに作成の仕方の基本について習得する。 ③日常生活の様々な側面で利用されている統計データの利用のされ方の正誤を判別できるようになる。

教授方法	講義と演習によって進められます。演習は、パソコンの統計ソフトExcel、またはSPSSを用いて行う実習が中心となる。
履修条件	社会学部社会学科の学生のみ履修可

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、データ分析を学ぶ意義について検討します。（データ分析を学ぶ意義を理解する。）	
2	データとは何か①：データの定義や基本構造を説明します。（データの定義や基本構造を理解する）	
3	データとは何か②：実際のデータを自分で作成したり、探してみることでデータの定義や基本構造について学びます。	
4	変数の中心を把握する：変数の平均的な傾向を確認する平均値、中央値、最頻値について学びます。（変数の中心を把握する方法を理解する）	
5	変数のばらつきを把握する：変数のばらつきを確認する範囲、分位数、分散、標準偏差などについて学びます。（変数のばらつきを把握する方法を理解する）	
6	実証分析の基礎①：社会現象をデータによって明らかにするとはどういうことか。実証分析の枠組みについて説明します。	
7	実証分析の基礎②：因果関係の解明を目的とする理論とは何か、仮説とは何かについて説明します。（理論と仮説の意味を理解する）	
8	実証分析の基礎③：社会現象を事例としていくつか取り上げ、それがなぜ生じたのか、各自で仮説を立てて考えてみることで、理論や仮説について学びます。	
9	クロス集計表分析①：二つの変数の関係を分析するクロス集計表分析について学びます。（クロス集計表分析の基礎を理解・習得する）	
10	クロス集計表分析②：Excel、またはRを使ったクロス集計表分析の方法について学びます。	
11	相関分析①：二つの変数の双方向の関係を分析する相関分析について学びます。（相関分析の基礎を理解・習得する）	
12	相関分析②：Excel、またはRを使った相関分析の方法について学びます。	
13	レポート課題の提示：社会問題をテーマに課題を提示します。受講者は、実証的な方法論に基づいて個人でこの課題に取り組んでいきます。	
14	個人学習：提示されたレポート課題に個人で取り組みます。	
15	まとめ：授業全体のふりかえりとして、データ処理を行うにあたって注意すべき点について説明します。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	60	ポイントを押さえた読みやすいレポートを書くことができているか。	各回の課題	40	毎回の内容を理解できているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業で使用する資料は、Google Classroomから提供するので事前に必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎回の講義後に課題をGoogle Classroomから出すので、期日までに提出してください。[50分]	①毎回課題については、適切な時期にGoogle Classroomから返却します。 ②期末レポートについては、可能な限り次学期初めに内容に関するコメントを配布することを検討します。

受講生に望むこと	①統計データは、日常生活のあらゆる側面で使われています。日頃からそうした統計データの利用のされ方に注目するようにしてください。 ②教室内での私語やスマホの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。授業資料（自作テキスト）を配布します。
指定図書／参考書等	なし／『ExcelとRではじめるやさしい経済データ分析入門』　隅田和人・岡本基・岩澤政宗・金燕春 ・水村陽一・吉田崇紘著　2020年　オーム社　ISBN: 978-4-274-22562-8.　『SPSSによるやさしい統計学』　岸学著　2012年　オーム社　ISBN:978-4-274-06870-6	その他・特記事項	授業資料や授業の感想や疑問を記入するリアクションシートなどは、Google Classroomから提供します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学統計法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学（特に心理統計学）を学ぶ体系として位置づけられる。統計学は人の行動や心のはたらきだけでなく、社会のさまざまな事象を理解するための有益なツールである。近年は、ビジネスの現場においても統計学の知識や分析手法を習得していることが求められる。本科目では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。	①統計に関する基礎的な知識および心理学で用いられる統計手法を理解して適切に使用できる。 ②統計に関する基礎的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 ③データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。

教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学統計法とは何か、本科目を学ぶ意義について考える。	
2	記述統計の基礎：データとは何かを学び、度数分布表などデータの図表化について理解する。	
3	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する。	
4	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する。	
5	相関と相関係数：２つの変数が関連している度合いを表現する。	
6	クロス集計表と連関係数：クロス集計表のつくりかた、２つの変数が関連している度合いを示すもう一つの指標を学ぶ。	
7	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ。	
8	さまざまな分布（１）：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ。	
9	さまざまな分布（２）：標本分布について学ぶ。	
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ。	
11	統計的検定（１）：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ。	
12	統計的検定（２）：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ。	
13	統計的検定（３）：1つの平均値の検定を例に統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ。	
14	カイ二乗検定：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、日常生活における身近な統計活用事例を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他、テレビや新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、そこで示されているデータを、授業内容と照らし合わせて適切に読み取るように習慣づける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「世の中には３つの嘘がある、嘘、まっかな嘘、そして統計」こんな言葉があるように、私たちは、しばしば数字に惑わされる。データサイエンスが重視される現代社会を生き抜くために、本科目で解説する基礎的な統計リテラシーをしっかりと身につけてほしい。	教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』山田　剛史・村井　潤一郎 著 ミネルヴァ書房　2004年　ISBN：9784623039999
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	本科目は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのD科目に準拠している。 体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会学理論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田邊　浩						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
多くの人々は社会のことをそのようにあるのは「当たり前だ」と思っており、その中で生きています。けれども、よく考えてみると、「当たり前だ」と思っていることの中にも、不思議なことはいっぱいあります。実はわたしたちが生きている社会はたまたまそのような社会としてあるだけで、決して「当たり前」のものではないし、必然でもないのです。でも、ふだん生活している時にはそのことにはなかなか気づきません。社会を違った目で見るための有効な道具が社会学の理論です。理論を使えば、さまざまな社会現象がバッサリと切れて、社会の出来事がスッキリみえてきます。社会学理論はやや抽象的で、その意味で多少難しいですが、それらを理解することができれば、これほど頼りになる道具はありません。みなさんにも、社会学理論の切れ味を確かめてみてほしいと思います。	①社会的行為、コミュニケーション、地位と役割、社会制度、社会システムと社会構造など、社会学の基礎的な概念を理解する。 ②デュルケーム、ヴェーバー、ジンメルなど、社会学を確立した古典理論を理解する。 ③ハーバーマスやルーマン、ギデンズ、ブルデューなど、近年影響力のある社会学理論を理解する。 ④これらを通じて、社会を理解するための道具として、社会学理論を使えるようになる。 ⑤社会学理論を通じて、自分自身や自分のまわり、日常生活について、理解を深める。 ⑥社会学理論を通じて、私たちがいま生きている社会（モダニティ）を理解する。

教授方法	講義形式で行いますが、講義中にみなさんの意見を求めることがあります。パワーポイントを使用します。
履修条件	社会学概論Aないし社会学概論Bを履修済みであることが望ましい（社会学の基礎知識がないと、理解がやや難しいかもしれません）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会とは何か：社会学は「社会」に関する学問です。では、社会とは何でしょうか。社会という言葉を知らない人はいないでしょうが、社会とは何かという問いに答えることは、難しいことです。社会学理論の出発点として、社会とは何かという問題について考えます。	田邊
2	近代社会と社会学：社会学の研究対象である近代社会とはいかなる社会であるのか。社会学はどのように誕生したのか，社会学はどのような役割を担っているのかなど、社会学を学ぶことの意義について考えます。	田邊
3	社会学の古典（1）：E. デュルケームの社会学：社会学という学問の基礎を確立したのは3人の社会学者ですが，そのうちの一人デュルケームは，社会は個人の外に実在し、個人を拘束するようなものだと考えました。そうした彼の社会学的方法について考察します。	田邊
4	社会学の古典（2）M. ヴェーバーの社会学：ヴェーバーはデュルケームと並ぶ重要人物です。ヴェーバーは社会は実在するものではなく、個人の社会的行為からなっていると考えました。デュルケームと対比しながら、ヴェーバーの理論について紹介します。	田邊
5	社会学の古典（3）G. ジンメルの社会学：G. ジンメルは、社会学の研究対象は、人と人、人と集団、集団と集団の「相互作用」にあると考えました。ジンメルはそれら相互作用の形式について考察しました。こうした「形式社会学」について検討します.	田邊
6	社会的行為とはなにか：社会学理論の基礎概念は行為です。人びとのふるまいを表す言葉として、行動という言葉もありますが、行為はこれとどう区別されるのか、行為が社会学の中でなぜ中核概念となるのか、行為にはどのようなタイプがあるのかについて考察します。	田邊
7	地位と役割：私たちはさまざまな集団に所属しています。そして、その集団の中では、ある地位が与えられ、その地位とセットになった役割を遂行するのにふさわしい行為をすることが求められます。この地位と役割の概念について理解を深めます。	田邊
8	社会システムと社会構造：社会システムと社会構造は、社会学理論において、きわめて重要な役割を担う概念です。これらの概念を理解することなくしては、社会学を研究することはおぼつきません。具体例を交えながら、それらの概念を理解します。	田邊
9	機能主義の社会学：機能主義は社会学理論においてきわめて大きな影響力をもったアプローチです。その代表的存在はT. パーソンズですが、機能主義はその名のとおり、社会システムの「機能」ということに注目するのがその特徴です。機能主義の考え方を理解します。	田邊
10	意味学派の理論：機能主義社会学に対抗して、人間が「意味」をやりとりする、そしてそのことによって社会が成り立っていることに注目するさまざまな理論が現れました。現象学的社会学、象徴的相互作用論、エスノメソドロジーといった理論について紹介します。	田邊
11	J. ハーバーマスのコミュニケーション的行為理論：ハーバーマスは相互行為の中でもとくにコミュニケーション的行為に注目して、独自の理論を作り上げました。人びとのコミュニケーションによる合意が社会を成り立たせているという意味について考えます。	田邊
12	N.ルーマンの社会システム理論：パーソンズの遺産を受け継ぎながらも、それを批判的に消化して、さらに大胆に社会システム理論を革新した、ルーマンのオートポイエティック・システム理論について検討します。	田邊
13	P. ブルデューの実践の理論：ブルデューは、行為と構造がハビトゥスによって媒介されていると考えました。ハビトゥスとは、人びとの慣習的行動を生み出す基盤になるような、ある種の性向の体系です。ハビトゥスとはなにかを中心に検討します。	田邊
14	A.ギデンズの構造化理論：ギデンズは、行為と構造が相互に規定しあう関係にあると考えました。構造によって私たちの行為は拘束されている。けれども、構造によって私たちの行為は可能にもなっているということです。このことの意味について考えます。	田邊
15	再び、社会学の理論とは：14回までの授業を振り返りながら、社会学をするうえでいかに理論というものが必要なものであるのか、大切なものであるのかを再確認します。	田邊

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末レポート	40	論述式のレポートです。 ①講義で学んだ知識を習得していることが明確であること。 ②矛盾がなく、論理的であること。 ③自分なりの視点で構成されていること。	小レポート	30	毎回、課題を出し、200字程度で論述してもらいます。
授業への積極性・態度	30	リアクション・ペーパーを配布し、受講して考えたこと、疑問に思ったことを記述してもらいます。自分なりの考えが含まれていることを重視します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①自分で考えてみることが大切です。講義で学んだことを自分の身の回りを例にして具体的に考えてみましょう。［20分］ ②毎回の講義で学んだことがテキストのどの部分に書かれているかを指示します。講義の後で、指示された部分のテキストを丁寧に読んでみましょう。［60分］ ③テキスト、参考書以外の文献も適宜紹介します。それらを図書館などで探し、実際に手にとってみましょう。［100分］	リアクション・ペーパーに関して、参考になる質問や意見を次回の講義開始時に取り上げて、それらに対してコメントします。

受講生に望むこと	①講義中に受講者のみなさんに質問することがあります。正解があるような質問ではないので、あなたの考えを臆することなく回答してください。 ②パワーポイントに映し出されたことをすべてノートする必要はありません。重要なポイントのみ、きちんとノートを取りましょう。 ②著しく講義の進行の妨げになるような行為がある場合、退室してもらうなどの処置をすることがあります。	教科書・テキスト	A・ギデンズ＆P・サットン『社会学　第9版　（上）』而立書房（2025年4月刊行予定）
指定図書／参考書等	なし/A・ギデンズ＆P・サットン『社会学　第9版　（下）』而立書房（2025年4月刊行予定），『テキスト社会学』星野潔・杉浦郁子著 2007年 学文社　ISBN-13:978-4762016721，『社会学ベーシックス 2 社会の構造と変動』井上俊・伊藤公雄編 2008年 世界思想社 ISBN-13:978-4-7907-1349-4	その他・特記事項	理論というと難しいように思うかもしれませんが、講義内容は具体例を用いて、なるべくわかりやすく、噛み砕いてお話しするようにいたします。 出席を重視します。4回以上の欠席は大きく減点されます。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	家族社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代の社会変動の中で、家族の形態と社会的機能、および個々人にとっての家族の意味は大きく変わってきた。過去および現在における日本の家族に関する様々な現象を取り上げ、その実態とメカニズムを解説する。さらに、家族社会学の基本的な概念や理論をふまえながら、現代社会における家族の諸相について考える。授業の前半は受講生による発表、後半は講義を行う。	①家族社会学に関する基本的な用語や概念を理解する。 ②現代日本における家族の動向を知る。 ③家族について、常識にとらわれない見方・考え方ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	家族社会学の基礎（1）：家族の類型について学ぶ。	
3	家族社会学の基礎（2）：家族の機能について学ぶ。	
4	主婦の誕生：近代化と女性の主婦化について理解する。	
5	家事の誕生：家事とは何かを「主婦論争」から考える。	
6	少子化：戦後の合計特殊出生率の推移から少子化の変遷を捉える。	
7	近代化と子どもの数の減少(1)：産業構造の変化と子どもの価値について理解する。	
8	近代化と子どもの数の減少(2)：「子ども」の概念の誕生と子どもの価値について理解する。	
9	母の誕生：「母親」という役割について考える。	
10	核家族化：人口学的特殊性から考える。	
11	高齢化社会と家族(1)：現状と今後の見通しについて理解する。	
12	高齢化社会と家族(2)：家制度の崩壊による家族の変容について考える。	
13	結婚の動向(1)：恋愛結婚、婚姻率、離婚率、初婚年齢、未婚率についてのデータを読む。	
14	結婚の動向(2)：結婚への志向、収入と結婚についてのデータを読む。	
15	多様化する家族：家族単位の社会から個人単位の社会への変容について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	10	①テーマ選択は適切か。 ②論理的な構成となっているか。 ③指定された時間以上の発表になっているか。	提出物	30	①指定された期日に提出しているか。 ②指定された書式にしたがっているか。 ③自分の意見を書くことができているか。
期末試験	60	授業内容について理解しているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
個人発表を課すので、テーマを決め、それについて調べ、発表準備を行うこと。配付資料を事後に確認し、復習を行うこと。[60分]	各発表に対してコメントする。

受講生に望むこと	授業に関連するニュース等に関心を持ち、それについて考えるようにしてください。 発表についてのディスカッションでは、積極的に発言するように心がけてください。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	都市社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会は、一般に総都市化社会と言われる。社会学は、都市に住む人々の社会関係や生活様式の変化を説明する。この講義では、都市化がコミュニティ，人間関係，生活様式に及ぼす影響に関する研究を取りあげ，背景となる都市そのものの変化に目を配りながら、学説史的に都市を理解する。さらに、近年のグローバル化にともなう都市の変容について考える。	①都市社会学の基本的な概念を説明することができるようになる。 ②「都市化とコミュニティ」「都市化と人間関係」「都市化と生活様式」について説明することができるようになる。 ③自分たちが住んでいる実際の場（多くは都市社会）を、客観的に観察することができるようになる。 ④より快適な都市社会を創造するための基礎的な分析を行うことができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	村落的環境から都市的環境へ：村落的環境における生活様式から都市的環境における生活様式への変化を理解する。	
3	都市的環境の出現とシカゴ学派：アメリカの都市シカゴの発展と都市社会学の原型をつくったシカゴ学派との関連について理解する。	
4	シカゴ・モノグラフ：シカゴ学派の具体的な研究に触れ、シカゴ学派の研究課題や研究方法を理解する。	
5	都市の空間構造：E.W.バージェスの同心円地帯論と、都市の空間構造の生成過程を論じたR.E.パークの人間生態学について理解する。	
6	同心円地帯論への批判：E.W.バージェスとは異なる主張を展開している社会文化生態学について学び、空間構造をもたらす要因についての考察を深める。	
7	生活様式としてのアーバニズム：L.ワースのアーバニズム論について理解する。	
8	アーバニズム論への批判：L.ワースとは異なる主張が展開されている研究について学ぶ。	
9	コミュニティ喪失論とコミュニティ存続論：都市の人間関係をめぐる議論を整理し、考察する。	
10	コミュニティ解放論：都市の人間関係をめぐる議論において新しい視点を含んだB.ウェルマンのコミュニティ解放論について学ぶ。	
11	アーバニズムの下位文化理論：都市の人間関係をめぐる議論においてシカゴ学派の主張を修正したC・S・フィッシャーの都市下位文化理論について学ぶ。	
12	日本における下位文化理論の検証：C・S・フィッシャーの都市下位文化理論を用いた複数の社会調査の結果を比較する。	
13	日本型コミュニティの形成：日本におけるコミュニティ喪失論、コミュニティ存続論、そして社会目標としてのコミュニティについて理解する。	
14	グローバル化と都市再編：都市コミュニティ論と外国籍居住者研究について理解する。	
15	コミュニティ論再考：現代社会に対応した新しいコミュニティとはどのようなコミュニティかを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	20	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。	期末レポート	80	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された字数、書式に従っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習については、授業中に発言を求めた際、適切な意見を述べることができるよう、日ごろから都市環境についての情報をメディア等からキャッチしておくこと。事後学習については、講義内容についてポイントを整理すること。専門用語は授業中に説明するが、事典等で調べること。[60分]	提出された課題について、授業中にコメントする，もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	社会で生じている諸事象を客観的に把握・分析しようとする意欲をもって、講義に参加してください。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	講義の中で紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	環境社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義は、日常生活の身近な環境問題等を事例に、被害・加害構造論、社会的ジレンマ論などの分析視角から、問題発生のメカニズム、被害の特性、問題解決に向けたアクターの諸機能、法制度等について学ぶ。	①環境問題がもたらす派生的被害について説明できる。 ②環境社会学の基本的な分析アプローチについて説明できる。

教授方法	講義及びテーマに基づくディスカッション。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	環境社会学の分析アプローチ（1）　被害論、加害・原因論について理解する。	
3	環境社会学の分析アプローチ（2）　解決論について理解する。	
4	環境保護の歴史的変遷（1）　欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
5	環境保護の歴史的変遷（2）　欧米の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
6	環境保護の歴史的変遷（3）　日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
7	環境保護の歴史的変遷（4）　日本の環境思想の変遷から自然と人間との関係について理解する。	
8	海は誰のものか（1）　入浜権について理解する。	
9	海は誰のものか（2）　自然と人間との関係性について公共信託理論を通して理解する。	
10	野生生物との共存　　獣害問題を事例に、里山保全と野生生物との関係について理解する。	
11	アメニティとは何か　　運動論、政策論の立場からアメニティ論について理解する。	
12	社会的ジレンマ　　ごみ・リサイクルの取り組みを事例に、社会的ジレンマのメカニズムについて理解する。	
13	交通政策とまちづくり　我が国の交通政策と欧米の交通政策とを比較し問題点を明らかにするとともに、住民参加のまちづくりの意義について理解する。	
14	歴史的文化的環境とは何か　　歴史的文化的環境概念を通し、持続可能な地域社会について理解する。	
15	まとめと総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	レポート	30	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている
小テスト	20	講義の理解度	期末試験	40	講義内容を理解し、要求されたレベルの論考がなされている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので、事前に復習し内容を理解する［30分以上］	講義時間内に小テストを複数回実施し、答え合わせ・解説する。

受講生に望むこと	時事問題や環境問題に関心を持ち、ニュースや新聞をチェックする。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	現代社会と福祉Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉の原理をめぐる思想・哲学の考え方として人間の尊厳、社会正義、平和主義等について理解する。社会福祉の理論の基本的な考え方について理解する。社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。社会問題と社会構造の関係の視点から、貧困や孤立、偏見と差別、社会的排除など現代の社会問題について理解する。福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。	①社会福祉の原理について理解できる。 ②社会福祉の歴史について理解できる。 ③社会福祉の思想・哲学・理論について理解できる。 ④社会問題と社会構造について理解できる。 ⑤福祉政策の基本的な視点について理解できる。 ⑥福祉政策におけるニーズと資源について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、社会福祉の原理を学ぶ視点について理解する。	
2	社会福祉の歴史（社会福祉の歴史を学ぶ視点、欧米の社会福祉の歴史：生成期）について理解する。	
3	社会福祉の歴史（欧米の社会福祉の歴史:発展期から転換期）について理解する。	
4	社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史:萌芽期から成熟前期）について理解する。	
5	社会福祉の歴史（日本の社会福祉の歴史:成熟後期から転換期）について理解する。	
6	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の思想・哲学）について理解する。	
7	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の理論）について理解する。	
8	社会福祉の思想・哲学・理論（社会福祉の論点、社会福祉の対象とニーズ）について理解する。	
9	社会問題と社会構造（現代社会における社会問題）について、理解する。	
10	社会問題と社会構造（社会問題の構造的背景）について理解する。	
11	福祉政策の基本的な視点（福祉政策とは何か）について理解する。	
12	福祉政策の基本的な視点（福祉政策において重要な概念・理念）について理解する。	
13	福祉政策におけるニーズと資源（ニーズ）について理解する。	
14	福祉政策におけるニーズと資源（資源）について理解する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等においてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『社会福祉の原理と政策』　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　　中央法規 2021年　ISBN:978-4-8058-8234-4
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	現代社会と福祉Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
福祉政策の構成要素とその役割・機能について理解する。政策決定、実施、評価など福祉政策の過程について理解する。福祉政策の動向と課題を踏まえた上で関連施策（保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策など）や包括的支援（地域包括ケアシステム等）について理解する。福祉政策の実施体制の中核を担う福祉サービスの供給部門と供給過程、及び利用過程について理解する。福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。	①社会福祉の構成要素と過程について理解できる。 ②福祉政策の動向と課題について理解できる。 ③福祉政策と関連政策について理解できる。 ④福祉サービスの供給と利用の過程について理解できる。 ⑤福祉政策の国際比較について理解できる。 ⑥これからの社会福祉について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	「現代社会と福祉Ⅰ」の単位の修得済が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	福祉政策の構成要素と過程（福祉政策の構成要素）について理解する。	
2	福祉政策の構成要素と過程（福祉政策の過程と評価）について理解する。	
3	福祉政策の動向と課題（福祉政策と包括的支援の現状）について理解する。	
4	福祉政策の動向と課題（福祉政策と包括的支援の課題）について理解する。	
5	福祉政策と関連施策（保健医療政策）について理解する。	
6	福祉政策と関連施策（教育政策、住宅政策）について理解する。	
7	福祉政策と関連施策（労働政策、災害政策）について理解する。	
8	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給部門）について理解する。	
9	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉供給過程）について理解する。	
10	福祉サービスの供給と利用の過程（福祉利用過程）について理解する。	
11	福祉政策の国際比較（国際比較の視点と方法、福祉政策の動向：欧米）について理解する。	
12	福祉政策の国際比較（国際比較の視点と方法、福祉政策の動向：東アジア、福祉政策の新しい潮流と課題）について理解する。	
13	これからの社会福祉（出発点、到達点）について理解する。	
14	これからの社会福祉（展望）について理解する。	
15	全体のまとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から社会福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等においてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『社会福祉の原理と政策』日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規　2021年 ISBN:978-4-8058-8234-4
指定図書／参考書等	なし／授業において紹介	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉について、各種委員会等（契約締結審査会、権利擁護センター委員等）の委員の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	心理学概論A			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。	1．心理学の成り立ちについて学び、歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2．人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。

教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。	
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。	
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。	
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。	
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。	
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。	
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。	
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。	
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。	
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。	
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。	
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。	
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。	
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。	
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから、授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるので、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。	教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢創・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣，2015年，ISBN-13：978-4641150225／同時に、教員が作成した資料も配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣，2018年，ISBN-13：978-4641053861	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学概論Ｂ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の基本・共通科目であり、心理学を学ぶ体系として位置づけられる。本科目では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的に、知覚、認知、学習、記憶、感情、動機づけ、発達、社会など「基礎心理学」全般を概説する。本科目のねらいは、人間一般に共通する心のはたらきと行動を科学的に理解することである。	①心理学という学問の成り立ちや性質を理解できる。 ②知覚、認知、学習、動機づけ、言語、思考、人格、社会、感情、発達など、人の基本的な心の仕組みやはたらきを理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：心理学とは、どのような学問だろうか。科学的心理学の成立とその歴史について概説する。	
2	見る・聞く・感じる心：人が感覚器官を通して、どのように外の世界を知覚しているのかを理解する。	
3	心と脳：心の活動と脳の活動との関係について、生理心理学の視点から学習する。	
4	認知する心：人が外界から受け取った情報をどのように処理しているのかを理解する。	
5	覚える心・忘れる心：記憶のメカニズムや知識の構造を理解する。	
6	学ぶ心（１）：条件づけを学び、人や動物の行動の成り立ちを理解する。	
7	学ぶ心（２）：観察学習、模倣学習を中心に、人間特有の学習の仕組みについて理解する。	
8	やる気の心理：動機づけや欲求についての理論を学び、人の行動を引き起こす原因を理解する。	
9	考える心（１）：人がどのように問題解決を行っているかを理解する。	
10	考える心（２）：人がどのように概念や言語を獲得し、用いているかを理解する。	
11	その人らしさの心理：パーソナリティとは何かを学び、その形成に関わる要因を理解する。	
12	他者を知る心：人が身の回りの他者や集団をどのように認知しているかを理解する。	
13	喜怒哀楽の心：感情の基礎的理論を学習し、感情とは何かを理解する。	
14	発達する心：生涯発達の視点から、人が生まれてから死に至るまでの心身の変化について理解する。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、基礎心理学の展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本科目で扱う内容は、一般的な「心理学」のイメージとは異なるかもしれないが、いずれも目には見えない「心」を「科学的に」理解するための先人たちの努力の賜物であり、人間理解につながるものである。本科目を通して、人間とはどんな生き物であるかを考えてみてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック心理学』北尾倫彦・中島　実・井上　毅・石王敦子　著　サイエンス社　1997年　ISBN：978-4-7819-0825-0
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育社会学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持ちます。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望みます。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	（参考書）相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開します（印刷物を配布しません）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	グローバル社会論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
世界には多種多様な人種、国家、文化や価値観が存在する。日常的に私達が目にするニュースや情報は日本人目線である。本講義では世界のSDGｓの視点から様々なニュースや時事トピックスなどを取り上げ、多角的な視点からリサーチ、分析することによって視野を広げ、多様な価値観への理解を深めることを目的とする。	・SDGsに取り上げられている項目について説明できる。 ・世界各地域の取り組みやその現状と背景について理解を深める。 ・上記と日本の取り組みの現状との比較から、価値観、慣習の違いなどを理解する。

教授方法	講義、プレゼンテーション、グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、諸注意　SDGsとは何かを理解する。	
2	SDGs17のゴールについて調査する	
3	SDGs17のゴールについて理解する①環境について知る	
4	SDGs17のゴールについて理解する①環境 ゴール 6,13,14,15 について調査する	
5	SDGs17のゴールについて理解する②社会について知る	
6	SDGs17のゴールについて理解する②社会　ゴール 1,2,3,4,5,7,11,16について調査する	
7	SDGs17のゴールについて理解する③経済について知る	
8	SDGs17のゴールについて理解する③経済　ゴール8,9,10,12,17について調査する	
9	SDGsから見えてくる私たちの課題について	
10	課題解決取り組み事例（海外）について調査する	
11	取り組み事例の発表と共有	
12	課題解決取り組み事例（日本）について調査する	
13	取り組み事例の発表と共有・最終課題について	
14	最終課題作成	
15	最終課題提出と共有	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。	最終課題	30	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
発表(プレゼン)	20	リサーチした項目について発表するプレゼン内容、態度を評価する	コメントシート	20	学生がお互いの発表ついてコメントを書き、他者のプランのポイントを理解したシート作成と内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
世界のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を得るように努めること。［60分］	各グループ発表については授業中、または次回の授業でフィードバックを行う。提出物については希望者にはコメントと共に返却する。

受講生に望むこと	個人またはグループ単位での学習やプレゼンテーションとなるため、お互いに協力して作業を進め、積極的な授業参加態度を望む。	教科書・テキスト	「60分でわかる！SDGs超入門」 バウンド著 株式会社技術評論社 2020年 ISBN：978-4-297-10969-1
指定図書／参考書等	なし／適時講義の中で紹介する	その他・特記事項	授業にはクロムブック等の持参を推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

観光業経験から得た世界各地の価値観や慣習の違いを俯瞰的に見る視点を取り入れて講義を行う。

授業科目名	応用心理社会統計法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学（特に心理統計学）を学ぶ体系として位置づけられる。本科目では、多変量解析の基本的な考え方を学び、特に回帰分析と因子分析を中心に、その知識と技法を習得することを目指している。統計解析を用い、大量のデータがどのように処理されるのかを知ることで、データを適切に読み解くことができるようになると期待される。	①多変量解析の概要を理解し、データの特徴に応じて適切な分析方法を選ぶことができる。 ②回帰分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。 ③因子分析の手法を理解し、データの分析をおこない、結果を解釈して報告できる。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	心理学統計法の履修済が望ましい（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本科目が扱う「多変量解析」とは何かを学び、本科目を学ぶ意義について考える。	
2	多変量データとは何か：データの種類による分類を学ぶ。	
3	代表値：代表値の計算を通じて記号に慣れ、共変動、相関係数についても学ぶ。	
4	多変量解析を俯瞰する：多変量解析の概要を知り、それぞれの解析の位置づけについて学ぶ。	
5	回帰分析を理解する（１）：回帰分析の基本モデルと推定法を学ぶ。	
6	回帰分析を理解する（２）：回帰係数の算出など回帰分析の実際と重回帰分析への拡張について学ぶ。	
7	因子分析を理解する（１）：因子分析の基本モデルと推定法を学ぶ。	
8	因子分析を理解する（２）：因子分析の詳細な設定と実際の流れを学ぶ。	
9	統計的分析の実際（１）：統計ソフトを使って基礎的分析の実際を学ぶ。	
10	統計的分析の実際（２）：統計ソフトを使ってt検定や分散分析の実際を学ぶ。	
11	多変量解析の実際（１）：統計ソフトを使って単回帰分析の実際を学ぶ。	
12	多変量解析の実際（２）：統計ソフトを使って重回帰分析の実際を学ぶ。	
13	多変量解析の実際（３）統計ソフトを使って因子分析の基本的な流れを学ぶ。	
14	多変量解析の実際（４）統計ソフトを使って因子分析の実際（因子軸の回転、因子の解釈）を学ぶ。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、日常生活における身近な統計活用事例を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	50	各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他、テレビや新聞、雑誌、インターネット、商業広告等、日常生活の中にある統計情報に積極的に触れ、そこで示されているデータを、授業内容と照らし合わせて適切に読み取るように習慣づける。	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	パソコンを使って、データ解析を行います。キーボード、マウスの操作や、ファイル、フォルダの扱いに慣れておいて下さい。	教科書・テキスト	『Excelで今すぐはじめる心理統計　第2版　簡単ツールHADで基本を身につける』小宮あすか・布井 雅人 著 講談社　2024年　ISBN:　978-4-06-537180-0
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	本科目は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのE科目に準拠しています。体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験や調査への参加を求めることがあります。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会調査実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實・若山　将実　（代表教員　俵　希實）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会調査士				

授業の概要	授業の到達目標
「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」などで学んできたことを基礎とし、調査の構想・計画→準備→実査→データの入力と点検→分析→報告という社会調査の全過程を体験的に学び，社会調査士資格に相応の社会調査に関する実践能力を習得することを目的とする。同時に、調査組織のつくり方、運営していくためのコミュニケーション能力、マネジメント能力、作業のダブル･チェックの徹底、資料の保管方法、作業記録の作り方など、社会で働くために必要な基本的スキルを獲得することを目指す。	①社会調査の全過程を知る。 ②社会で働くために必要な基本的スキルを獲得する。

教授方法	実習
履修条件	「社会調査論」「社会調査法」「統計データの読み方」「心理学統計法」を履修済、もしくは現在履修していることが望ましい。履修していない場合は要相談。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準についての説明	全員
2	共通テーマ、年間スケジュールに関する説明、役割分担の決定	全員
3	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
4	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
5	調査テーマに関する先行研究論文の発表	全員
6	調査テーマに関する仮説の構築	全員
7	調査テーマに関する仮説の構築	全員
8	調査テーマに関する仮説の構築	全員
9	調査テーマに関する仮説の構築	全員
10	調査テーマに関する仮説の構築	全員
11	質問文の作成	全員
12	質問文の作成	全員
13	質問文の作成	全員
14	質問文の作成	全員
15	サンプリング　対象者リストの作成	全員
16	調査票の作成	全員
17	調査票の作成	全員
18	調査票の作成	全員
19	調査票の作成	全員
20	実査の準備	全員
21	実査の準備	全員
22	実査	全員
23	エディティング・コーディング	全員
24	エディティング・コーディング	全員
25	エディティング・コーディング	全員
26	分析についての説明：相関分析　クロス表　カイ二乗検定など	全員
27	データクリーニング　単純集計表の作成	全員
28	調査データの分析:各自の分析	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	調査データの分析:各自の分析	全員
30	報告書の作成	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	50	①授業にまじめに取り組んでいるか。 ②自分の役割を遂行しているか。 ③調査に貢献しているか。	レポート	50	①期限内に提出しているか。 ②指定された書式、分量に従っているか。 ③適切な内容となっているか。 ④図表が適切に作成されているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
仮説の構築、質問文の作成、分析などは主に授業外で進めること。調査票配布および回収、エディティングやコーディング作業など、受講生で協力して授業外で進めること。[120分]	仮説の構築や質問文の作成にあたり、完成するまで継続的にコメントする。

受講生に望むこと	着手から最終報告まで受講生が主体となるため、主体的に考え、他のメンバーに迷惑をかけないよう責任を持って行動してください。	教科書・テキスト	『入門・社会調査法』（第4版）轟亮・杉野勇・平沢和司　編 法律文化社　2021年 ISBN：978-4-589-04141-8
指定図書／参考書等	授業中に紹介する。	その他・特記事項	この授業は、一般社団法人社会調査協会が認定する社会調査士資格取得カリキュラムのG科目に準拠している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	観光と社会			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
観光は経済波及効果とともに、交流人口の増加や地域文化の振興などの効果が期待できる。一方で、過剰な訪問者により地域住民の生活や自然環境に悪影響を与えることもある。本講義では、観光と社会の関りを、少子高齢化、人口減少、インバウンド、データサイエンスなどの観点から多角的に捉える。そして、持続可能な観光や地方創生における観光の役割、テクノロジーを活用した観光など、現代社会における観光のあり方を考える。	①観光によるプラスの影響・マイナスの影響を理解する。 ②日本の観光産業の現状について理解する。 ③観光分野におけるデジタル技術の活用について考えることができる。 ④現代社会における観光のあり方を考えることができる。

教授方法	講義・グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価の方法について説明した後、観光とは何か、観光と社会の関係について考える。	
2	観光の定義と観光の意義（個人と観光地への良い影響）について理解する。	
3	観光によるマイナスの影響について理解する。オーバーツーリズムについて現状を知る。	
4	オーバーツーリズムの対策について理解する。	
5	グループディスカッション・発表	
6	高齢者の観光動向を知る。高齢者の旅行の動機と阻害要因を理解する。	
7	高齢者の観光促進策の研究事例（観光行動力の把握）を知る。	
8	代表的な観光統計を知り、統計分析方法（代表値と散布度）を理解する。	
9	観光データの統計分析方法（散布図と相関関係）を理解する。	
10	観光分野のオープンデータを知り、データの利活用について考える。	
11	グループディスカッション・発表	
12	金沢における歴史資料の観光への活用事例を知り、地域資源の観光への活用を考える。	
13	観光分野におけるデジタル技術の活用について知る。	
14	観光分野におけるデジタル技術の活用について考える。	
15	まとめ：現代社会における観光のあり方を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	講義、グループディスカッションに積極的に参加しているか。	課題	30	授業内容を理解しているか。
期末レポート	40	講義で学んだ知識をもとに、課題について自分の意見が述べられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①テキストの該当箇所について、講義前に目を通しておくこと。[30分] ②授業後に、適宜課題を出すので、期日までに提出すること。[50分]	提出された課題について、次回の授業中にコメントする。 リアクションシートへの質問は適宜回答する。

受講生に望むこと	ニュース報道や自ら観光地へ行くなどの機会を通して、観光という社会現象がもたらす影響について考えること。	教科書・テキスト	『DX時代の観光と社会』沢田史子・小越咲子・伴浩美・大薮多可志　近代科学社Digital ISBN：978-4-7649-0687-7
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	観光統計分析やグループディスカッションの回など、授業においてChromebookを使用する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域と観光			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。一方で、観光地にキャパシティ以上の訪問者が押し寄せるオーバーツーリズムが問題となっている。その対策として、場所、時間、時期などの分散がある。本講義では、金沢市の観光動向と主要な観光資源について学び、フィールドワークを行い観光振興に資する地域資源を発掘する。そして、観光の分散化を図るプランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う。	①金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。 ②ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。 ③フィールドワークに参加し、金沢の地域資源を理解する。 ④地域資源を活用した観光の分散化を図るプランの企画ができる。 ⑤スライドで発表資料を作成し、観光プランのプレゼンテーションができる。

教授方法	講義、グループディスカッション、フィールドワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方、評価方法について説明する。観光による地域振興を考える。	
2	金沢の観光①：統計データを基に金沢の観光動向を学び、課題について考える。	
3	金沢の観光②：金沢の観光資源について知り、他地域との違いを考える。	
4	金沢の観光③：金沢の観光モデルルートについて知る。	
5	フィールドワークの準備①：グループでオリジナルプランのターゲットを決める。フィールドワークで訪れる場所を決める。	
6	フィールドワークの準備②：グループでフィールドワークで訪れる場所と調査内容を検討する。	
7	フィールドワーク①：金沢市における新しい観光プラン作成のためフィールドワークを行う。	
8	フィールドワーク②：金沢市における新しい観光プラン作成のためフィールドワークを行う。	
9	フィールドワーク③：金沢市における新しい観光プラン作成のためフィールドワークを行う。	
10	フィールドワークの振り返り：フィールドワークでの調査結果をまとめ、対象資源についてグループでディスカッションを行う。	
11	オリジナルプラン作成①：グループでフィールドワークの調査結果をもとにオリジナルプランを作成する。	
12	オリジナルプラン作成②：グループでフィールドワークの調査結果をもとにオリジナルプランを作成する。	
13	オリジナルプラン作成③：グループでオリジナルプランの発表準備を行う。	
14	オリジナルプランの発表：各グループがスライドを用いてプレゼンテーションを行う。	
15	レポート課題：オリジナルプランに関する課題を提示する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	積極的に授業、グループディスカッション、フィールドワークに参加しているか。	グループごとの観光プラン	30	観光プランが魅力的であるか、分散化に寄与できるか、独自性があるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。
期末レポート	40	オリジナルプランについて、的確にまとめられているか。決められた書式に従っているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
発表準備[120分] フィールドワークで訪問する場所の調査[120分]	各発表に対しコメントする。

受講生に望むこと	グループワーク・グループディスカッションが多いため、積極的な参加が求められる。学外でのフィールドワークでは、主体的に取り組んで欲しい。	教科書・テキスト	適宜、プリントを配布またはClassroomで配信する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	第7～9回は学外で実施する。学外活動の関係により、予定人数を超えた場合は、社会学部社会学科の学生を優先する。学内での授業ではChromebookを使用するので、毎回持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ホテルサービス論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
北陸新幹線の開通以降、金沢市には259施設12000室以上のホテル客室が稼働している。これらホテルは多様な顧客に対応しており、個性にあふれている。老舗と呼ばれるシティホテルから最新型の宿泊特化型ホテルやゲストハウス、またサブスクリプションでの利用など、顧客に提供している様々なサービスを理解し、今後のホテルサービスの在り方を考える。	・ホテル、旅館、ゲストハウスなどそれぞれの宿泊施設の特徴について述べることが出来る。 ・ホテル業に携わる人材に求められるホスピタリティについて理解する。 またそれを現場で実践するための思考を身につける。

教授方法	講義、グループワーク、施設見学など
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、施設見学、評価の説明、ホテルについての基礎知識①：ホテルの種類などについて理解する	
2	ホテルについての基礎知識②：宿泊施設の変遷と多様化について学ぶ	
3	シティホテルについて学ぶ　施設見学①	
4	シティホテルについて学ぶ　施設見学②	
5	シティホテルの在り方について　施設見学の振り返りとまとめ	
6	現代の旅館について学ぶ　施設見学③	
7	現代の旅館について学ぶ　施設見学④	
8	現代の旅館の在り方について　振り返りとまとめ	
9	ゲストハウスについて学ぶ　施設見学⑤	
10	ゲストハウスについて学ぶ　施設見学⑥	
11	ゲストハウスの在り方について　振り返りとまとめ	
12	ホテルに求められるホスピタリティ、サービスの変化について理解する①	
13	ホテルに求められるホスピタリティ、サービスの変化について理解する②	
14	今後求められるホテルの在り方について考える	
15	最終課題発表	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	授業内容の理解度とレポート内容について評価する。	最終課題提出	40	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
授業参加態度	30	学習態度、授業、グループワークへの積極性や貢献度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
ホテル業界には専門用語が多くあるので、正しく理解するためにも、基礎知識については復習が必要。［30分］　授業前には各種ホテルなどについての予習が望ましい。［30分］	提出物については提出後、授業内にて振り返りを行う。

受講生に望むこと	基礎知識では情報量が多いので、講義内容をしっかり復習するように望む。 マナーに厳しい業界について学ぶ授業でもあるので受講態度についてもマナーを求める。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	「ホテル概論」株式会社JTB総合研究所 「初心者にやさしい 旅館ホテル・観光の教科書」大谷晃　鈴木はるみ　編著 株式会社キクロス出版　2020年 ISBN978-4-434-27375-9 ／「ホスピタリティのプロを目指すあなたへ お客様の”気持ち”を読み解く仕事 コンシェルジュ」 安部 佳 著 株式会社　秀和システム　2015年 ISBN978-4-7980-4433-0	その他・特記事項	授業にはクロムブックなどの持参を推奨する。 施設見学は授業日以外の日程を設定する場合がある。また施設見学は現地集合解散、交通費は自己負担とする。

実務経験を活かした授業の概要

ツアーコンダクターの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。

授業科目名	インバウンドツーリズム			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	葦名　理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日本の基幹産業となることを期待されている「観光」であるが、様々な外的要因に大きく左右される一面を持つ。この授業では日本の観光資源を把握し、訪日外国人からみたデスティネーションとしての日本の魅力を理解する。同時に日本国内の観光地のあり方についても理解を深める。また観光によって引き起こされる様々な問題の現状や解決方法について理解すると同時に、今後のインバウンド観光の方向性を考える。	・世界と日本の人気観光地域について把握する。 ・日本の観光特性・資源について理解し、説明できる。 ・北陸地域の観光資源とその特徴について説明できる。 ・地域の課題解決のための観光のあり方について自身の考えを述べることができる。

教授方法	講義、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　授業の進め方、成績評価の説明、諸注意、インバウンドツーリズムの基礎知識を理解する	
2	日本の観光の歴史と今：基幹産業としての観光産業を理解する	
3	世界と日本の有名観光地について：魅力と課題を把握する	
4	日本の観光地の今：日本の観光の現状について学ぶ	
5	世界から見る日本の魅力①日本には何がある？　有名観光地、ゴールデンルートについて理解する	
6	世界から見る日本の魅力②日本には何がある？　地方における観光～着地型観光について理解する	
7	訪日外国人観光客の視点を知る：外国人から見た日本の魅力と問題点を理解する	
8	世界から見る日本の魅力③地域には何がある？　石川・金沢の観光コンテンツについて知る	
9	世界から見る日本の魅力④地域には何がある？　石川・金沢の観光コンテンツの魅力と課題を整理する	
10	世界から見る日本の魅力⑤地域には何がある？　石川・能登の観光コンテンツについて知る	
11	世界から見る日本の魅力⑥地域には何がある？　石川・能登の観光コンテンツの魅力と課題を整理する	
12	持続可能な地域作りと観光①オーバーツーリズムと地域のあり方について考える	
13	持続可能な地域作りと観光②新しい人口形態「関係人口」について理解する	
14	最終課題：インバウンドツーリズムについて　ワーク	
15	最終課題：インバウンドツーリズムについて　プレゼンテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	30	提出物の期限厳守と内容を評価する	最終課題	40	最終課題のプレゼンテーションについて内容、態度を評価する。提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその内容を評価する。
授業参加態度	30	授業・グループワークでの発言・質問等、積極的参加姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
観光関係のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を仕入れるようにすること。［30分］	提出物やプレゼンテーションについては授業中、または次回の授業でフィードバックを行う。提出物については希望者にコメントと共に返却する。

受講生に望むこと	提出物作成とそのプレゼンテーションと共有のための自学、グループワークが評価の約半分を占めるため、自律して学習を進めることと、積極的な授業参加態度を望む。	教科書・テキスト	「これでわかる！着地型観光 地域が主役のツーリズム」尾家健生・金井萬造 編著 学芸出版社 2008年 ISBN:978-4-7615-2445-6
指定図書／参考書等	「新・観光立国論」デービッド・アトキンソン 著 東洋経済新報社 2019年 ISBN：978-4-492-50275-4 参考図書なし	その他・特記事項	授業にはクロムブックなどの持参を推奨します

実務経験を活かした授業の概要

着地型観光商品の造成、営業販売、ガイドの経験から総合的に地域にとってのインバウンドツーリズムを捉える視点を取り入れている。

授業科目名	多文化共生論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	俵　希實						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				

授業の概要	授業の到達目標
外国人住民の増加とともに、「多文化共生」概念が注目されるようになってきた。家族関係、教育など、外国人住民の現状と課題を把握し、「多文化共生」と呼ばれる経験、努力が今の日本でどこまでできているかを総括する。また、オーストラリアやアメリカなど多文化主義の考え方を導入している国の歴史や社会的背景を学ぶことから、日本社会における多文化共生の未来に向けての条件と課題を考察する。	①多文化共生の基礎知識を身につけ、意味を理解する。 ②日本における外国人住民の現状と課題についてまとめ、考察することができるようになる。 ③多文化共生のパースペクティブを身につけ、異文化に理解を示すことができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。	
2	グローバライゼーションと多文化共生：「グローバライゼーション」という社会変動と「多文化共生社会」の意味を理解する。	
3	多文化共生のパースペクティブ：多文化共生社会に向けて求められる視点について考える。	
4	アメリカにおける多文化主義：移民社会アメリカの成り立ちについて理解する。	
5	ヨーロッパ諸国における多文化主義：社会的背景とその潮流について理解する。	
6	オーストラリアにおける多文化主義：白豪主義からの転換について理解する。	
7	外国人労働者から住民、市民へ：日本における定住外国人に対する受け入れ施策を検討する。	
8	外国人住民たちの文化とホスト社会：母国語が英語圏の住民とそれ以外の住民、それぞれについて考える。	
9	外国人住民の家族関係と家族問題①：外国人住民の家族関係と家族問題をアイデンティティの観点から考える。	
10	外国人住民の家族関係と家族問題②：外国人住民の家族関係と家族問題を子どもの視点から考える。	
11	外国籍児童生徒への学校教育の実態と課題：文化伝達の観点からマイノリティ児童生徒への学校教育を考える。	
12	多文化共生と言語：外国籍児童生徒の学習環境を知り、外国籍児童生徒が日本語で教育を受ける意義について考える。	
13	外国籍児童生徒の不就学・不登校：「制度の壁・心の壁・言葉の壁」から生じる外国籍児童生徒の「不就学」の構造について考える。	
14	文化の多様性および異文化交流の意義：文化的背景の異なる人々との交流を通じて、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的に理解する。	
15	まとめ：共生が進むか、ナショナリズムの反転か、改めて多文化共生社会を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
提出物	20	①課題に対して適切な内容になっているか。 ②定められた期間内に提出しているか。 ③指定された字数、書式に従っているか。	期末レポート	80	①課題に対して適切な内容となっているか。 ②定められた期限内に提出しているか。 ③指定された字数、書式に従っているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
普段から日本における外国籍の人々についてのニュースや国際的なニュースに関心を持つこと。事後学習として授業で配付されたレジュメを確認すること。専門用語は授業中に説明するが、復習を兼ねて事典等で調べること。[45分]	提出された課題について、授業中にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	授業で学んだことと社会情勢を常にリンクさせて自分なりの意見を持つように心がけること。	教科書・テキスト	レジュメを配付する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	子ども教育学科　中学校教諭一種免許状（英語）　関連科目

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会病理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、社会病理学の理論と現代社会における社会病理の実態について解説する。これを通じて、社会病理学の考え方や現代社会の社会病理の実態についての正確な知識を学び、社会病理の事例を社会学的に説明できる力を身につける。 ※SDGs目標番号1、4、5、8、10関連科目	①社会病理に対する社会学的な考え方を身につける。 ②現代社会の社会病理の実態についての正確な知識を身につける。 ③現代社会の社会病理の事例について、その実態を社会学的に説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	逸脱行動の社会学①　逸脱とは何か：逸脱の定義、逸脱化・非逸脱化、犯罪化・医療化といった点などについて理解する。	
3	逸脱行動の社会学②　逸脱行動論：逸脱行動を説明する理論である緊張理論、学習理論、統制理論について理解する。	
4	社会問題の社会学①　機能主義：社会問題を説明する理論である機能主義について理解する。	
5	社会問題の社会学②　構築主義：社会問題を説明する理論である構築主義について理解する。	
6	社会病理と統計：社会病理の統計を理解するために必要な基礎知識を理解する。	
7	薬物犯罪：薬物犯罪の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
8	殺人：殺人の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
9	暴力団：暴力団の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
10	いじめ：いじめの言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
11	少年犯罪：少年犯罪の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
12	自殺：自殺の実態と背景について社会病理学的に理解する。	
13	不登校：不登校の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
14	児童虐待：児童虐待の言説と実態と背景について社会病理学的に理解する。	
15	ひきこもり：ひきこもりの言説と実態について社会病理学的に理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションシート	30	授業の内容をふまえて自分の考えを記述できるかを評価する。	期末試験	70	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①社会病理に関する情報を普段からニュースなどを通じて入手し、その内容や背景を知るようにする。［45分］ ②授業の内容を復習することで社会病理学の考え方を身につけるとともに、ニュースなどで入手した社会病理の内容や背景について社会病理学的に考える。［60分］	リアクションシートでの質問について毎授業時の最初に解説する。

受講生に望むこと	この授業を通じて、「個人環境にかんする私的問題」と「社会構造にかんする公的問題」とを関連づけて考えることができる「社会学的想像力」（Mills 1959=1965）を身につけ、社会病理を社会学的に考えられるようになってください。	教科書・テキスト	なし（レジュメを配布する）
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	メディア文化論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
「授業の到達目標」で示した目的を達成するために情報社会学と関連領域（メディア論、コミュニケーション論、理論社会学、文化社会学など）における基本概念（専門用語・学術語）や言説（すでにある研究成果）を解説する。また授業では内容への理解をスムーズにするためできる限り最新の事情を取り上げてケーススタディを行う。	現代社会においてインターネット、特にソーシャルメディアは情報が生産される場所であり、生産された情報が拡散、共有される場所である。同時にソーシャルメディアが情報の生産、拡散、共有を通じて人びとが相互につながり、集団を作り上げていく手段としても利用されている。したがって本授業の目標は、ソーシャルメディアを対象とした社会学の理論と方法について先行研究をふまえて学び、社会学の視点からソーシャルメディアのあり方とそこで生じる多様な社会現象を理解する力を修得することである。

教授方法	講義
履修条件	無し

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【イントロダクション】 教科書序章「今、ソーシャルメディアを論じることについて」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
2	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（1）】 教科書第1章「ソーシャルメディアとフェイクニュース・デマ情報の拡散」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
3	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（2）】 教科書第2章「動画視聴は自由な意思でなされているのか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
4	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（3）】 教科書第3章「小説投稿サイトがひらいた読書・創作・コミュニケーション」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
5	【ソーシャルメディアのプラットフォーム（4）】 教科書第4章「ソーシャルメディアと現実空間を横断するあらたな『場所』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
6	【ソーシャルメディアと文化（1）】 教科書第5章「インターネットは音楽から何を奪ったか?」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
7	【ソーシャルメディアと文化（2）】 教科書第6章「ソーシャルゲームというメディア」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
8	【ソーシャルメディアと文化（3）】 教科書第7章「アニメ・マンガのソーシャルな体験」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
9	【ソーシャルメディアと文化（4）】 教科書第9章「YouTubeにおけるリアクターとエモ消費」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
10	【ソーシャルメディアと政治・経済（1）】 教科書第10章「プラットフォーム経済」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
11	【ソーシャルメディアと政治・経済（2）】 教科書第11章「ネット炎上の政治学」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
12	【ソーシャルメディアと政治・経済（3）】 教科書第12章「ソーシャルメディアが起こすフェミニズムの『波』」の内容をふまえたケーススタディを行う。	
13	【ソーシャルメディア研究法入門】 指定図書の「はじめてのソーシャルメディア研究（飯田豊）」章の内容をふまえ、ソーシャルメディアで生じた社会現象やソーシャルメディアそのものを対象とする研究を行ううえで必要な概念となる「マスメディアとの共振作用」について社会学および社会心理学の知見より解説する。	
14	【ソーシャルメディアと「地域」】 教科書でも言及されている「プロト・ソーシャルメディア」概念をふまえ、ソーシャルメディアを含むインターネットによる地域社会／コミュニティの変容について、授業担当者が過去に実施したフィールドワークの成果をもとに解説する。	
15	【今学期のまとめ】 第14回の授業までに学んだ内容をふりかえり「いま・ここで」ソーシャルメディアを対象とした社会学を学ぶ意味を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容について理解しているか。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
定期試験の準備は授業外で行うこと。授業中に配布する資料を事後に確認し、復習すること。講義内容にとどまらず、様々な情報を通じて現代社会におけるソーシャルメディアのあり方、諸問題の背景と原因について自己学習すること。[45分]	定期試験の終了後にコメントする。もしくは書面でコメントを提示する。

受講生に望むこと	意欲的な態度で授業に参加すること。	教科書・テキスト	松井広志・岡本健（編著）2021年『ソーシャルメディア・スタディーズ』北樹出版（ISBN：9784779306617）
指定図書／参考書等	指定図書：浪田陽子・福間良明（編）2021年『はじめてのメディア研究〔第２版〕』世界思想社（ISBN：9784790717478） 参考書：授業中に随時紹介する。	その他・特記事項	毎回の授業資料はオンラインで公開する予定。資料の閲覧、ノートテイキングのため、Chromebook、タブレットPC、ノートPCを持参することを推奨する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地方行政入門			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本の地方政治・行政について理論と実際の見地から考察することにあります。この授業の前半では、地方自治を担う首長、議会、そして地方公務員が果たす役割、地方自治体の組織編成、そして地方行政における政策過程について学んでいきます。また、この授業の後半では学生が主体的に個人で地方自治体が実際に直面している政策課題に取り組む機会を設ける予定です。	①民主主義国家における行政部門が果たす役割を理解する。 ②日本の中央・地方などのマルチレベルの行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようになる。 ③日本の地方政治・行政の実態を理解し、それがどのような要因によって規定され、そして日本の社会にどのような帰結を生み出しているのかを理解できるようになる。 ④日本の地方自治体組織の実態を理解し、それがどのような要因によって規定されているのかを理解できるようになる。 ⑤地方自治体における政策過程の理論と実際を理解し、それに依拠した形で日本の政策過程の実際を理解できるようになる。

教授方法	この授業の前半は講義形式が中心となりますが、後半はフィールドワークを含む学生による能動的な学習が中心となります。
履修条件	社会学部（人間総合学部）社会学科の学生のみ可。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、地域の行政を担う地方自治体について、基礎的な行政主体である市町村と広域的な行政主体である都道府県が日本の国の中に存在する意味を考えます。（地域行政を学ぶ意味を理解する。）	
2	中央地方関係：戦後日本の中央・地方関係において、地方自治体へ権限が委譲されてきた過程を振り返るとともに，地方分権が進められてきた要因について考察します。（戦後日本の地方分権の流れを理解する。）	
3	地方自治体における首長：地域の行政を担う主役である地方自治体の首長に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政における首長の影響力を理解する。）	
4	地方議会：主に地域の行政をチェックする役割を持つ地方議会や地方議員に関する制度や実像について実例を交えながら説明します。（地方政治・行政において地方議会が果たす役割を理解する。）	
5	地方公務員：地域の行政の実務を担う地方公務員について、その多様性、採用や昇進のシステム、そして実際の仕事内容について実例を交えながら説明します。（地方行政における地方公務員が果たす役割を理解する。）	
6	地方自治体の組織編成：日本の地方自治体組織の実態について、それがどのような要因によって規定されているのかを説明します。（地域の実情に応じて地方自治体の組織が編成されていることを理解する。）	
7	地方選挙、直接請求、そして住民投票：地域の行政に対しては住民が積極的に参加・関与することが求められています。この回では地方選挙、直接請求、そして住民投票を通じて住民の意思が地域の行政にどのように反映されているかを考えます。（地域行政に住民が積極的に参加・関与する意義を理解する。）	
8	政策過程の理論と実際：地域行政において政策が発案され、実施に至る過程について実例を交えながら説明します。（地域行政における政策過程を理解する。）	
9	政策リサーチの方法①：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ・クエスチョンのたてかたについて学びます。（因果関係を解明することの意味を理解する。）	
10	政策リサーチの方法②：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説について説明し、そして仮説のたてかたについて学びます。（仮説をたてる意味を理解する。）	
11	政策リサーチの方法③：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では政策課題に関する資料・データを収集する方法を学びます。（資料・データの収集方法を理解する。）	
12	政策リサーチの方法④：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回では仮説を検証する方法を学びます。（因果関係特定のために、条件をコントロールする方法を理解する。）	
13	政策リサーチの方法⑤：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果をまとめ、伝える方法を学びます。（リサーチ結果をわかりやすく伝える方法を理解する。）	
14	政策リサーチの方法⑥：地方自治体が実際に直面している課題に取り組むため、この回ではリサーチ結果を政策化する方法を学びます。（特定した因果関係に基づく政策提言・評価の方法を理解する。）	
15	政策リサーチの方法⑦：まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	地方行政の理論をふまえたうえで、地方自治体が実際に直面している課題に対する学生自身の政策提案を論理的に書くことができているレポートを評価する。	各回の課題	40	Google Classroomを通じて提示する毎回の授業の理解度を確認する課題への取り組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この授業の後半は個人で能動的に取り組む課題（政策リサーチ）が中心となるので、授業外で継続して課題に取り組むことが求められる。[90分以上]	①毎回の課題は、必要に応じてコメントを付けて返却します。 ②期末レポートは、採点およびコメントを付けて次学期冒頭に返却することを検討します。

受講生に望むこと	①将来、地方公務員への道を考えている学生の受講を望みます。 ②授業外でフィールドワークに出る可能性があるので、そうした負担を負う覚悟のある学生のみ受講することを望みます。また、単なる大学の授業の一環としてではなく、地域で暮らす社会人の一人として自覚のある態度で授業に取り組んでほしいです。 ③教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	自作のレジュメやスライドを毎回Google Classroomなどを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし／『地方自治論：２つの自律性のはざまで　新版』北村亘・青木栄一・平野淳一著　有斐閣　2024年　ISBN-13:978-4-641-15121-5.『テキストブック地方自治 第2版』村松岐夫編著　東洋経済新報社　2010年　ISBN-13:978-4492211830.『新版 現代地方自治論』橋本行史編著　ミネルヴァ書房　2017年　ISBN-13:978-4623079902.『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤修一郎著　東京大学出版会　2022年増補版　ISBN-13:978-4-13-032232-4.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	政治行動論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では特に選挙を巡る政治行動に着目し、有権者はなぜ、そしてどのようにして特定の政治家や政党を選んでいるのか。また、選挙で選ばれた代表者である政治家たちが有権者の意思や行動を汲み取って政策を立案・実施するような状況を生み出すにはどのような条件が必要なのか。政治行動を巡る理論と実際について主に日本の選挙を事例とした調査データを豊富に用いながら検討する。	①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義国家において選挙が果たす役割を理解する。 ③民主主義国家における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④民主主義国家において有権者の様々な政治・社会意識が投票行動やその他の政治行動につながるメカニズムを理解する。 ⑤日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。

教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	社会学部の学生のみ可。政治学を既に履修していることが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	政治行動論とは：授業の進め方や成績評価の方法とともに、「政治」「代表民主制」「有権者」「政府」といったキーワードを紹介しながら、政治行動論を学ぶ目的を明らかにする（民主的な政策決定の仕組みは本当にうまく1機能しているのか考える。）	
2	民意の分布と形成：有権者が政治についてどのような意見を持っているのか、そしてその意見はどのようにして形成されるのかを考える。（経済格差や安全保障の問題を事例に有権者が異なる意見を持つようになる４つの理由を理解できるようになる。）	
3	有権者の政治知識と判断：有権者が政治についてどれくらい知識を持っているのか、そしてどういった特徴を持つ有権者がより多くの政治知識を持っているのかを考える。（有権者の政治知識の豊富さがどのような政治行動に結びつくのかを理解する。）	
4	党派性とイデオロギー：有権者は何を手がかりにして個別の政策についての意見を決めたり、政党や政治の意見を正しく認知しているのかを考える。（日本における党派性やイデオロギーの重要性の低下が現代の日本政治にどのような影響を与えているのかを理解する。）	
5	投票参加：有権者が選挙での投票にどれくらい参加しているのか、そして有権者の中で誰が投票し、誰が棄権するのかを調査データを基にみていく。（有権者の合理的計算が投票参加にどのような影響を与えるのかを理解する。）	
6	投票選択：選挙において有権者がどのように自分の意見を代表してくれそうな政党や候補者を投票先として選び出すのかを考える。（有権者が「支持政党」「争点に関する立場」「候補者の能力」「業績への評価」という4つの情報を活用していることを日本の選挙の調査データから理解する）	
7	選挙と情報：有権者が選挙の際に候補者や政党に関する情報をどこから入手しているのかを見ていく。（有権者は比較的低いコストで情報を入手し、自分にとって望ましい政党や候補者を選び出していることを理解する。）	
8	民意と経済：良い経済状態の実現を望む有権者の存在が、政府の政策を通じて経済にどのような影響を与えるのかを考える。（選挙に向けて景気が変動するなど、政治が経済に影響を与えるメカニズムを理解する。）	
9	民意と政策：民意が政府の作り出す政策に反映されているのかを考える。（有権者の意見が政策に反映されるメカニズムを理解する。）	
10	選挙制度の影響：有権者に対する政府の政策応答性の度合いが選挙制度によってどのように異なるのかを明らかにする。（選挙制度の違いが政策の展開に与える影響を多国間比較、一国の経時的比較から理解する。）	
11	政治意識の形成過程：有権者の政治行動は、彼らの政治意識からもたらされる。この回では、有権者の政治的社会化やライフサイクルに関する理論を紹介し、日本の有権者の調査データからその妥当性を検討していく。	
12	政治への信頼と不信：近年の民主主義諸国においては、有権者の政治への不信が高まっており、それが低投票率など様々な課題を生み出していることが指摘されている。この回では、日本の有権者の調査データから政治不信が有権者のどのような政治行動をもたらすのか、そのメカニズムについて考えていく。	
13	政治的分極化：近年の民主主義国家における選挙では、有権者間の感情的対立を指す政治的分極化の問題が生じていることが指摘されている。政治的分極化はなぜ生じるのか、有権者の政治意識との関連からそのメカニズムについて考えていく。	
14	排外意識：近年の民主主義諸国に共通した憂慮すべき現象として、外国人などのマイノリティに対する偏見や差別などの排外意識の高まりの問題がある。排外主義はなぜ生じるのか、有権者の政治意識との関連からそのメカニズムについて考えていく。	
15	有権者は政治を変えられるのか：授業全体のまとめとともに、代表民主制における有権者の政治行動に関する様々な問題への回答を考えていく。（民主主義のメカニズムについて改めて考え、理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	論述形式や穴埋め問題など、様々な形式を用いた試験を予定している。政治行動の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。	毎回の課題・リアクションシート	40	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治や選挙に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらうことを検討しています。[60分]	毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。

受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	『政治行動論〔新版〕：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著　有斐閣　2025年 ISBN:978-4-641-15136-9.
指定図書／参考書等	『政治意識研究の最前線』善教将大編著　法律文化社　2025年 ISBN:978-4-589-04378-8	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経済学Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、経済学に関する基本的な知識やお金の流れ、そして社会経済の仕組について分かりやすく解説していく。内容的には経済学入門であり、高校で経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく予定である。時々意見交換も行う。	経済学に関する基本的な知識を習得し、新聞や雑誌記事で語られている経済的な事象や議論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	経済学とは：経済と生活の繋がりを学ぶ	
2	市場の原理とは：需要と供給、競争、独占について学ぶ	
3	経済成長とは：国富、GDP、豊かさと何かを学ぶ	
4	市場の失敗と政府の役割：市場万能主義の問題点を学ぶ	
5	景気循環とは：景気循環の仕組とその社会・生活への影響を学ぶ	
6	景気のコントロール：ケインズ経済学を学ぶ	
7	不景気の意味：イノベーションとシュンペーターを学ぶ	
8	小テスト	
9	政治と経済：政官財¯鉄のトライアングルについて学ぶ	
10	鉄のトライアングル　VTR鑑賞	
11	日本の財政：歳入と歳出、財政問題、上げ潮派、均衡財政派について学ぶ	
12	日本銀行の役割：物価のコントロールについて学ぶ	
13	日本の経済政策１：日本列島改造論から小泉改革までの流れを学ぶ	
14	日本の経済政策２：アベノミクスについて学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	80	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	20	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	代替授業日が発生した場合は Classroom を用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

授業科目名	経済学Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、前半は経済学Ⅰの知識をベースに国際経済に関する基本的な制度やその変遷を学び、後半は現代の経済学を支える主要な理論を学ぶ。時々意見交換も行う。	国際経済学に関する基本的な知識を習得し、現代の経済学を支える主要な理論を凡そ理解できるようになること。

教授方法	講義形式
履修条件	経済学Ⅰの受講後に履修することが望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	IMF・GATT体制：戦後の国際経済システムを学ぶ	
2	金本位制と変動相場制：ニクソンショックの影響について学ぶ	
3	外国為替と国際貿易：為替レートの決定要因と国際貿易の功罪を考える	
4	株式市場・債券市場・外為市場：金融市場を学ぶ	
5	ニューエコノミーと米国経済：米国経済の日本への影響を学ぶ①	
6	民主党と共和党の経済政策：米国経済の日本への影響を学ぶ②	
7	小テスト	
8	マルクス主義：資本主義の興隆と崩壊についての理論を学ぶ	
9	世界システム論：マルクス主義の展開について学ぶ	
10	マネタリズム：貨幣供給量による経済のコントロールについて学ぶ	
11	ゲーム理論：新しい経済学について学ぶ①	
13	行動経済：新しい経済学について学ぶ②	
14	MMT現代貨幣理論：国債はいくらでも発行可能か？考える	
14	21世紀の資本：格差社会の歴史的背景について学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	問いに対する答えが適切で、かつ簡潔明瞭にまとめられているか。	受講態度	10	真剣に講義を聴講したか。与えられた問に対して積極的に意見交換を行ったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と場合によっては個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	代替授業日が発生した場合は Classroom を用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

経済学で語られる基本的な経済現象や思想が、実際の社会や会社、役所、家庭などにどのような影響を与えているのか、経験に基づき具体例をあげて講義を行う。

授業科目名	経済学Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、資本主義社会が最初に誕生したイギリスを中心に、１６世紀から現代に至るまで西洋の人々の生活が具体的にどのように発展していったのか、そしてその背後にある社会の力関係や仕組の変化を経済の歴史を通して学んでいく。内容的には西洋経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明してくため、これまでに経済に関する科目履修がなくても理解できるように進めていく。時々に応じて意見交換も行う。	資本主義社会がどういう条件の下で誕生し、それがどのように世界に広がっていったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、南北問題や地域格差などの現代の社会経済問題を分析把握できるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	工業化前のイギリス社会①：農村の経済を学ぶ	
2	工業化前のイギリス社会②：都市の経済を学ぶ	
3	工業化前のイギリス社会③：都市と農村との経済的関係について学ぶ	
4	工業化前のイギリス社会④：工業化前の社会保障制度を学ぶ	
5	プロト工業化：農村における手工業生産の拡大について学ぶ	
6	工業化①～毛織物と綿産業の興隆を学ぶ	
7	工業化②～帝国主義について学ぶ	
8	小テスト	
9	イギリスの工業化の波及：ベルギー・フランス・ドイツの工業化を学ぶ	
10	工業化の新たな段階：電気・化学・輸送・コミュニケーションについて学ぶ	
11	2つの世界大戦と国際経済：グローバリゼーションの時代を学ぶ	
12	戦後復興：復興から米ソ冷戦への流れを学ぶ	
13	EU：欧州経済の統合とユーロの誕生について学ぶ	
14	現在における国際経済の諸問題：環境、移民、租税回避について考える	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	与えられた問題にどれだけ正確にこたえられているか。	受講態度	10	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に関わったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	代替授業がある場合は、 Classroom を用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経済学Ⅳ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	井上　克洋						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、明治以降の日本が西欧諸国をモデルに工業化を達成し経済大国といわれるまでに至った過程を理解し、加えて日本人の価値観、背後にある国際情勢、社会の力関係や仕組の変化を経済の歴史を通して学んでいく。取り扱う内容としては日本経済史となるが、基本的な経済理論や経済政策についても必要に応じて説明してくため、これまでに経済に関する科目履修や知識がなくても理解できるように講義を進めていく。	日本における工業化がどのような時代的背景や条件の下で誕生していったのか、そして我々の生活にどのような影響を及ぼしてきたのかを理解する。経済学というツールを使って、財政や移民・グローバル化などの現代日本の社会経済問題を分析把握できるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	江戸の社会と経済：都市と農村を学ぶ	
2	幕末と開港：幕末の経済発展とグローバル化について学ぶ	
3	明治維新：中央集権国家の経済的側面について学ぶ	
4	日本資本主義の確立①：日本の産業革命について学ぶ	
5	日本資本主義の確立②：明治期の社会構造について学ぶ	
6	帝国主義の経済構造：日露戦争、第一次大戦そして太平洋戦争を学ぶ	
7	小テスト	
8	戦後経済改革と復興：戦後改革、傾斜生産方式、朝鮮戦争について学ぶ	
9	高度経済成長（1954-1973年）①：消費社会の到来について学ぶ	
10	高度経済成長（1954-1973年）②：総中流化社会について学ぶ	
11	オイルショックと安定成長：経済大国日本と貿易摩擦について学ぶ	
12	バブル経済とその崩壊：プラザ合意、円高、複合不況について学ぶ	
13	失われた30年：小泉改革からアベノミクスまでの流れを学ぶ	
14	日米関係：戦後の日米関係について学ぶ	
15	小テスト	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	90	与えられた問題にどれだけ正確にこたえられているか。	受講態度	10	講義内での議論や意見交換に関して、積極的に関わったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の後に、よく理解できなかったことや納得できなかったことは必ず復習し（30分）、それでも解決できなければ、どんな些細な内容であっても次回の講義の最初に質問すること。ニュースや新聞等での報道を通して、「今」世界で起こっている事件や出来事に注目し、なぜそのような事件が起こったのか、講義の内容に結びつけて経済学的に説明できないか考察してみる。	課題提出後の講義において、総評と個別のコメントを行う。

受講生に望むこと	受講後、その日のうちに1度講義内容について復習しておくこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	代替授業がある場合は、 Classroom を用いて課題を提示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	法律学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	名古　道功						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
法律は、社会生活を営む上で常に関わりを持つものである。 本講義では、法律が現実社会の中でどのような役割を果たしているのかを学生に身近な法律問題を通じて学び、法律の重要性を理解する。さらに、法的思考を身につけることによって、法学の視点で様々な社会問題について、各自が思考できることをめざす。	①法律問題の解決方法を自ら考える法的思考力を養成するとともに、直面した場合の対応方法を習得する。 ②各テーマのルールを理解し、社会生活で活かして法的紛争防止に役立てる。

教授方法	主として講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・法の意義と役割　　①授業の概要・方法等を説明する。②最近の事例を素材にして、法の意義と役割を理解する。	
2	契約・成人年齢の引下げ　契約の意義や成人年齢18歳引下げの影響・留意点を理解する。	
3	消費者保護と法　消費者契約法などの規制と仕組みを学び、消費者保護の必要性・制度を理解する。	
4	クレジット契約・通販と法　クレジット契約や通販の規制と仕組みを学び、利用における留意点を習得する。	
5	ハラスメントと法　セクハラやパワハラの事例を取り上げ、法的対応を理解する。	
6	カスタマーハラスメント　店員等が顧客から受ける暴言や暴行の実情と法的対応を考える。	
7	交通事故と法①　交通事故の現状、影響、法的責任などを取り上げ、交通事故の重大性を学ぶ。	
8	交通事故と法②　交通事故の法的責任や自賠責保険などを取り上げ、不法行為や損害賠償の内容を理解する。	
9	アルバイトと法　アルバイトで直面する法律問題を取り上げる。いくつかの事例の考察を通じて、解決策と対応を学ぶ。	
10	少年犯罪と法　少年犯罪の実情と背景、「厳罰化」の議論などを通じて、少年犯罪への考え方や刑法の意義・機能を学ぶ。	
11	アパートの賃貸借　アパートの賃借で生じる法律問題を考える。契約内容（約款）、更新、現状回復義務、賃貸借期間などを理解する。	
12	家族と法　子供の養育、結婚、相続のほか、虐待に対する法的対応を学ぶ。	
13	食品製造販売と法　食品ロスや食品衛生法などの規制を理解する。	
14	社会保険と生活保護　労働者・家族の生活保障に不可欠の医療保険、年金保険、介護保険、雇用保険、労災保険を学ぶ。生活保護のあり方も考える。	
15	法律紛争解決システム　法律紛争の相談機関（消費者センター、弁護士など）や解決機関（裁判所、調停機関等）の状況と対応方法を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義で学んだ知識に基づき設問に的確に答えているか。	小テスト	30	設問に正確に答えているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①次回講義のレジュメを配布するので、予習する（1時間）。 ②復習は必ず行う（1時間）。 ③新聞などを通じて、関連する社会問題の知識を増やす（30分）。	①講義内容理解向上をめざして小テストを適宜実施し、採点して返却する。 ②講義内容の理解度を知るため、毎回、ミニッツペーパーの提出を求め、わからない点などがあれば、補充説明を行う。

受講生に望むこと	社会問題に関心を持ってほしい。 予習・復習を欠かさず行う。	教科書・テキスト	なし　毎回、レジュメを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域社会政策論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では自然災害で被災した住民生活の復旧・復興過程で生じるさまざまな課題を取り上げつつ、課題の発生原因と制度的課題を法制面、政策面から検討し、必要な施策について考える。	①被害の不平等性概念について理解する。 ②被災者支援に係る法律、条令等について内容を理解する。 ③「人間の復興」という考え方について理解する。

教授方法	講義、テーマに基づくディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	我が国の社会変動の特質と課題：超少子高齢社会の特徴、課題について理解する。	
3	超少子高齢社会の特質と社会政策①：人口政策、財政政策について理解する。	
4	超少子高齢社会の特質と社会政策②：社会保障政策、セーフティ・ネットについて理解する。	
5	過疎を生きる：過疎集落の住民の暮らしを捉えた映像資料を参照しつつ、集落の維持、住民生活の持続に必要な視点について理解する。	
6	映像研究①　映像資料から過疎集落の暮らしの課題と改善策を考える。	
7	内発的発展とは何か：内発的発展論の主要理論と今日的意義について理解する。	
8	グループワーク①　与えらえたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
9	グループワーク②　与えられたテーマに基づきグループで協議し発表する。	
10	災害と避難行動：災害発生時の避難行動の特徴について理解する。	
11	過疎地における自然災害の発生と復旧・復興の課題：能登半島地震を事例に住宅政策、生活再建制度の課題について理解する。	
12	地区防災計画：地区防災計画の考え方、計画づくりに必要な視点について理解する。	
13	映像研究②　映像資料を参考に住民主体の復興まちづくりに必要な視点について理解する。	
14	個別避難計画：住民一人ひとりに寄り添った避難支援の考え方と計画づくりに必要な視点について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義内容の理解度
レポート	25	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	期末試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①配布された資料は、講義前に目を通し内容を理解する[30分以上] ②講義で学んだことはその日のうちに復習するとともに、わからなかった点や関心を持った内容について、他の文献等を参照しながら内容の理解に努めること[30分以上] ③適宜小テストを実施するので、テスト範囲の学習に取り組むこと[30分以上]	講義時間内に小テストを複数回実施し、答え合わせ・解説する。

受講生に望むこと	時事問題に関心を持ち、積極的に情報収集する。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	第8～9回は連続開講予定（振替対応）。グループワークについては、状況により進め方を変更することがある（講義内で説明する）。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経営学入門			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、広義の経営学の視点から、経営学の主要な内容について学んでいきます。経営学の各分野の内容は、個別、バラバラなものではなく、相互に関連しており、実務ではどこかを動かせば他も動く構造になっています。このため、マネジメントの観点から、各分野のつながりなどにおいて理解を深めることができるよう、総括的に講義を進めます。 ※SDGs目標番号1～3、14関連科目	経営学の主要な考え方や分析の枠組みを理解し、マネジメントの観点から論理的思考に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・経営学入門の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	戦略（1）：　戦略とは何か、戦略を考えていくためのやり方について考察していきます。	
3	戦略（2）：　戦略の考え方を理解し、その考え方から戦略を立案する内容について考察していきます。	
4	マーケティング（1）：　マーケティングとは何か、マーケティングを行うためのやり方について考察していきます。	
5	マーケティング（2）：　マーケティングの考え方を理解し、環境や市場の分析、マーケティング戦略の立案などについて考察していきます。	
6	組織と人（1）：　組織のマネジメントやリーダーシップのやり方について考察していきます。	
7	組織と人（2）：　組織のマネジメントやリーダーシップの考え方から、組織（企業）の行動を考察していきます。	
8	組織と人（3）：　個人と集団の行動を理解し、そのための組織の運営などについて考察していきます。	
9	組織と人（4）：　個人と集団の行動の考え方から、人事システムの運営などについて考察していきます。	
10	アカウンティング（1）：　アカウンティング（会計）とは何か、その把握のやり方などについて考察していきます。	
11	アカウンティング（2）：　指標や分析、管理の考え方から、その利用などについて考察していきます。	
12	ファイナンス（1）：　ファイナンスとは何か、基本となる考え方について考察していきます。	
13	ファイナンス（2）：　基本の概念から、意思決定や資金調達、資本政策などについて考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだ経営学の考え方に基づいて、実務などの事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	【参考書等】 グロービス経営大学院（2008）『グロービスMBAマネジメント・ブック（改訂3版）』ダイヤモンド社. ISBN：978-4478004968 ＊その他の文献は、適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	マーケティング論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、マーケティングとは何かについて、組織（企業）活動における役割の点から学んでいきます。主に、STP（Segmentation, Targeting, Positioning）やマーケティングの4P（Product, Price, Place, Promotion）について、マネジメントの観点から考察します。また、商学関連の基礎となるものであり、各論の流通やサービスなどにおいて理解を深めることができるよう、総括的に講義を進めます。	主要なマーケティングの考え方や分析の枠組みを理解し、マーケティング志向に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・マーケティング論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	マーケティングの概念：　マーケティングの考え方や体系、マーケティングの4Pの概要などについて考察していきます。	
3	事業機会の選択：　市場需要の創造、開拓、拡大や、成長ベクトル、事業戦略のポートフォリオなどについて考察していきます。	
4	事業領域の選択：　事業領域（ドメイン）、事業の多角化、組織（企業）アイデンティティ、組織（企業）イメージ、組織（企業）戦略とマーケティングなどについて考察していきます。	
5	標的市場の選択：　標的市場の選択における市場細分化の考え方や基本軸、体系、採用の手続きなどについて考察していきます。	
6	製品対応：　マーケティングにおける製品、新製品開発、製品ライフサイクル、ブランド・マネジメントなどについて考察していきます。	
7	価格対応：　価格設定の基本的な考え方、新製品や製品ミックス、心理面などを考慮した価格対応、割引による価格対応、需要の弾力性などについて考察していきます。	
8	チャネル対応：　チャネルの体系やチャネルの選択、チャネルの管理などについて考察していきます。	
9	プロモーション対応：　マーケティングにおけるコミュニケーションとその領域、コミュニケーション・ミックス、広告、セールス・プロモーションなどについて考察していきます。	
10	競争分析、競争対応：　組織（企業）を取り巻く競争要因、業界の競争構造や競争戦略の分析、変化する競争構造などや、競争における枠組みと対応などについて考察していきます。	
11	サービス・マーケティング、消費者行動：　サービスそのものや商品などに付随する機能としてのサービスに関するマーケティング、消費者行動における分析方法、新製品の普及過程、準拠集団、新しい消費者行動分析などについて考察していきます。	
12	ソーシャル・マーケティング、関係性マーケティング：　社会的な問題の解決や社会的な組織におけるマーケティング、顧客との関係性の構築と維持を目指して展開されるマーケティングについて考察していきます。	
13	デジタル・マーケティング、市場データ分析：　情報やネットなどのデジタルのマーケティング、市場におけるデータ分析の基本的な考え方について考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだマーケティングの考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	【参考書等】 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦（2022）『マーケティング戦略〔第6版〕（有斐閣アルマ）』有斐閣. ISBN：978-4641221833 ＊その他の文献は、適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	財務諸表の読み方			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
財務諸表は組織（企業）の経営状態などを表したものです。この授業では財務諸表のうち、主に、貸借対照表、損益計算書の意味と読み方を中心に学びます。また、事例から、会社の経営状況を見るポイントについて理解していきます。	・損益計算書、貸借対照表の意味と読み方を理解すること。 ・財務諸表の事例から、企業の経営状況を把握すること。 ・キャッシュフロー計算書の概要を理解すること。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・財務諸表の読み方の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	財務諸表の基礎：　財務諸表の基礎的な内容について考察していきます。	
3	損益計算書（1）：　損益計算書とは何かを理解し、損益計算書の読み方について考察していきます。	
4	損益計算書（2）：　損益計算書の構造から、損益計算書の読み方について考察していきます。	
5	貸借対照表（1）：　貸借対照表とは何かを理解し、貸借対照表の読み方について考察していきます。	
6	貸借対照表（2）：　資産、負債、純資産の視点から、貸借対照表の読み方について考察していきます。	
7	貸借対照表（3）：　貸借対照表の構造から、貸借対照表の読み方について考察していきます。	
8	キャッシュフロー計算書：　キャッシュ等の流れから、キャッシュフロー計算書を考察していきます。	
9	財務諸表のまとめ：　損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書のまとめの考察を行います。	
10	経営分析（1）：　収益性、成長性、安全性の視点から、財務諸表の分析について考察していきます。	
11	経営分析（2）：　収益性、成長性、安全性の視点から、財務諸表の分析について考察していきます。	
12	経営分析（3）：　収益性、成長性、安全性の視点から、財務諸表の分析について考察していきます。	
13	事例研究（1）：　財務諸表の例から、財務諸表の読み方について考察していきます。	
14	事例研究（2）：　財務諸表の例から、財務諸表の読み方について考察していきます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言・記入シート、授業参加態度など	20	記入シートや発言での貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	【参考書等】 石島洋一（2009）『［新会計基準対応版］決算書がおもしろいほどわかる本：損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書から経営分析まで』PHP研究所. ISBN：978-4569672526 ＊その他の文献は、適宜紹介します。	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経営組織論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
組織とは、複数の人々による、意識的に調整された諸活動、諸力の体系であり、共通の目的、貢献する意欲、諸活動などの調整のためのコミュニケーションがあるシステムのことです。また、組織は戦略を行うためのシステムであり、戦略とも関係のある内容になります。この授業では、組織そのものだけでなく、戦略との関係性の観点からも考察します。	組織の主要な考え方や分析の枠組みを理解し、実践的な視点に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・経営組織論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	組織の概要、組織の定義：　組織の概要や組織の定義などについて説明し、組織とは何かについて考察していきます。	
3	組織の基本設計：　組織の目的や目標、分業の基本構造、調整などについて説明し、組織の基本的な設計について考察していきます。	
4	組織のメカニズム：　組織の基本的な構造や機能などについて説明し、組織を動かすメカニズムについて考察していきます。	
5	組織の構造：　組織の部門化や、組織における権限と責任などについて説明し、組織の効率的な目標達成のための組織構造について考察していきます。	
6	モチベーションとリーダーシップ：　人を動かすための動機づけなどについて説明し、そのためのモチベーションとリーダーシップについて考察していきます。	
7	組織文化：　組織文化などについて説明し、組織文化の特性やリーダーの役割などの視点から考察していきます。	
8	組織における意思決定：　組織における意思決定のバイアスやプログラムなどについて説明し、組織における意思決定について考察していきます。	
9	組織と環境：　組織を取り巻く環境などについて説明し、組織と組織を取り巻く環境との関係について考察していきます。	
10	組織におけるキャリア：　組織におけるキャリアなどについて説明し、組織における個々の人々の成長の視点からキャリアについて考察していきます。	
11	組織における学習：　個人の学習や共同での学習の考え方などについて説明し、組織における学習について考察していきます。	
12	外部資源とネットワーク：　外部の資源やネットワークなどについて説明し、組織における活用の視点から外部資源やネットワークについて考察していきます。	
13	組織変革：　組織のライフサイクルやマネジメントなどについて説明し、組織変革のプロセスやポイントなどについて考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだ組織の考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	【参考書等】 鈴木竜太（2018）『〈はじめての経営学〉経営組織論』東洋経済新報社. ISBN：978-4492502952 ＊その他の文献は、適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	経営戦略論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	平岩　英治						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、戦略とは何かについて、組織（企業）の目的（目標）を達成するための活動や、その活動を行うための長期的（中長期的）な計画と方向性の観点から学んでいきます。主に、組織（企業）における資源の配分（再配分）や組織（企業）の競争優位性の構築などについて考察します。また、いろいろな視座、視点から分析できるよう、総括的に講義を進めます。 ※SDGs目標番号1～3、14関連科目	主要な戦略の考え方や分析の枠組みを理解し、戦略的な視点に基づいた判断や考え方ができる力をつけることを目標とします。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス・経営戦略論の概要：　この講義の進め方や評価方法などについて説明し、この講義の全体像について考察していきます。	
2	経営環境と基本戦略：　戦略の概要、5つの競争要因や戦略グループなどの経営環境と環境の分析、基本戦略について考察していきます。	
3	製品ライフサイクル：　製品ライフサイクルの導入期、成長期、成熟期、衰退期と、ライフサイクルにおける戦略について考察していきます。	
4	市場地位と戦略：　市場における地位である、リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャーと、それらの市場地位における戦略について考察していきます。	
5	資源ベース戦略：　資源ベース戦略における主な考え方である、VRIOとコア・コンピタンスについて考察していきます。	
6	事業システム：　組織（企業）の価値連鎖の仕組みのうち、主要な部分である事業システムについて考察していきます。	
7	事業領域：　組織（企業）戦略における主要な考え方である事業領域（ドメイン）について考察していきます。	
8	成長戦略：　組織（企業）戦略における主要な考え方である成長戦略について考察していきます。	
9	資源展開：　組織（企業）戦略における資源の展開について考察していきます。	
10	戦略の社会的側面：　戦略における社会的な側面について考察していきます。	
11	組織構造：　組織（企業）における様々な形態について、その主なものを考察していきます。	
12	組織文化：　組織（企業）における考え方や行動のベースとなり、戦略とも密接に関係している組織文化について考察していきます。	
13	組織（企業）変革：　組織の生存や盛衰に関係する組織（企業）変革について考察していきます。	
14	事例研究：　これまで学んだ戦略の考え方に基づいて、事例を用いて組織（企業）に適用する考え方を学びます。	
15	総括（まとめ）：　この講義の総括（まとめ）を行います。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	50	内容の理解度を評価します。	小レポート	30	内容の理解度を評価します。
発言や記入シート、授業参加態度など	20	発言や記入シートでの貢献度、授業参加態度などを評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：　図書館やインターネットなどを活用し、その回のテーマに関する情報を調べておくようにしてください（60分）。 事後学習：　授業で特に重要なのは復習です。配布した授業資料や授業で説明した内容を基に、必ず復習し、理解を深めるようにしてください（90分）。	授業内で解説します。

受講生に望むこと	日頃から経営に関する雑誌記事を見たり、図書館やインターネットなどを活用して文献などを探したりするなど、関連した情報を調べておくようにしてください。	教科書・テキスト	指定しません。
指定図書／参考書等	【参考書等】 嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎（2016）『1からの戦略論<第2版>』碩学舎．ISBN：978-4502167416 ＊その他の文献は、適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	簿記A			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	小嶋　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
全ての企業が行う会計業務を遂行するために必要となる簿記の基礎的な知識を習得する。	日本商工会議所簿記検定試験３級受験に向けて、その基礎的な知識の修得を目指す。

教授方法	講義と問題演習の併用。
履修条件	簿記検定資格取得希望者に限る

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	簿記の基礎について理解する。	
2	日常の手続について理解する。	
3	商品の購入と販売の取引について理解する。	
4	返品、諸掛り、保管費について理解する。	
5	商品有高帳について理解する。	
6	簿記上の現金と預金の意味と記帳について理解する。	
7	小口現金とクレジット売掛金の意味と記帳について理解する。	
8	手形の意味と記帳について理解する。	
9	さまざまな帳簿の関係について理解する。	
10	貸付金、借入金、有形固定資産の取引と記帳について理解する。	
11	未収入金、未払金、仮払金、仮受金の取引と記帳について理解する。	
12	給与の取引と記帳について理解する。訂正仕訳について理解する。	
13	試算表について理解する。	
14	税金及び証ひょうと伝票について理解する。	
15	総復習演習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評点により評価を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テスト行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[90分]	実施した小テストは、原則提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ電卓を除く）を携行すること。 分からないことは何でも、何度でも質問すること。	教科書・テキスト	『2025年度版 スッキリわかる 日商簿記3級』 滝澤ななみ著 2025年度版　TAC出版　ISBN:9784300115718 『2025年度版　スッキリうかる日商簿記３級　本試験予想問題集』 滝澤ななみ監修 TAC出版開発グループ(著/文)　2025年度版　TAC出版　ISBN:9784300110041
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	簿記Ｂ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	小嶋　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前期の講義を基礎として、簿記の知識の理解を一層深めます。特に決算についての手続を中心に講義を進め、取引の記帳から損益計算書・貸借対照表の作成まで、簿記の一連の流れを理解してもらいます。	日本商工会議所簿記検定試験３級の合格を目指します。

教授方法	講義と演習の併用による。
履修条件	資格簿記Aを履修した者または、高校において簿記を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	決算のあらましや手続きについて理解する。	
2	現金過不足、貯蔵品、当座借越について理解する。	
3	売上原価について理解する。	
4	貸倒れについて理解する。	
5	減価償却について理解する。	
6	収益・費用の見越し、繰延について理解する。	
7	決算整理後残高試算表及び精算表について理解する。	
8	帳簿の締め切りについて理解する。	
9	損益計算書と貸借対照表の形式について理解する。	
10	株式会社における資本（純資産）の概要と株式を発行するときの処理について理解する。	
11	剰余金の配当と処分について理解する。	
12	税金及び証ひょうについて理解する。	
13	伝票について理解する。	
14	日商簿記検定試験３級問題演習	
15	日商簿記検定試験３級問題演習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。	提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
各回で学習した教科書の箇所を次回授業までに再度確認しておくこと。[50分] 学習した箇所について問題集（参考書推奨）を解いておくこと。[50分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[180分]	実施した小テストは、原則提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。

受講生に望むこと	電卓（スマホ携帯を除く）を必ず携行すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。	教科書・テキスト	『2025年度版 スッキリわかる 日商簿記3級』 滝澤ななみ著 2025年度版　TAC出版　ISBN:9784300115718 『2025年度版　スッキリうかる日商簿記３級　本試験予想問題集』 滝澤ななみ監修 TAC出版開発グループ(著/文)　2025年度版　TAC出版　ISBN:9784300110041
指定図書／参考書等	なし／合格するための本試験問題集 日商簿記 3級 2025年SS対策 （よくわかる簿記シリーズ） TAC出版　　ISBN：9784300112625	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会貢献論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では災害ボランティアを中心に、行為的主体としてのボランティアの特質、ボランティアの社会的役割・機能、課題等について考える。	①ボランティア行為の社会的意義について、自分のことばで説明できる。 ②受講者自身が地域の社会的課題に関心を持ち、積極的に参加する。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	自発性　　ボランティアの特質としての自発性概念について理解する。	
3	利他性　　ボランティアの特質としての利他性概念について理解する。	
4	共同性・公共性　ボランティアの特質としての共同性概念及び公共性概念について理解する。	
5	非営利性　　ボランティアの特質としての非営利性概念について理解する。	
6	先駆性・継続性・責任性　　ボランティアの特質としての先駆性概念、継続性概念、責任性概念について理解する。	
7	臨床性　　ボランティアの特質としての臨床性概念について理解する。	
8	映像研究：映像資料を参照しつつ、第2～第7回までに学んだ理論的視点を踏まえつつ、課題を批判的に考える。	
9	自助・共助・公助とは　　自然災害緒の発災から復旧・復興過程における自助、共助・互助、公助の機能、役割、課題等について理解する。	
10	自然災害とボランティア（1）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
11	自然災害とボランティア（2）　　災害フェーズごとのボランティアの役割について理解する。	
12	災害時要配慮者とは　災害時における高齢者・障がい者、乳幼児等が抱える諸課題と外部支援の意義について理解する。	
13	事例研究①：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
14	事例研究②：国内外の具体的実践事例を通し、社会貢献活動の意義について考察する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート	15	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの資料作成、プレゼン内容となっている。
レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている	期末試験	60	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされていること

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前配布資料は、次回講義までに目を通し内容を理解する。［30分以上］ ②講義中に紹介した資料や書籍については目を通す。［30分以上］	講義時間内に小テストを実施（複数回予定）し、答え合わせ・解説する。

受講生に望むこと	関心のある分野での社会貢献活動に積極的に取り組む。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会貢献実習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この実習は、集落等地域内に入り当該地域課題を調査し、課題改善に向けた実践活動及び提案を行うことを目的とする。 ①実施時期：講義・プレゼンテーション（平日、学内）＋現地実習（土・日、学外）※現地の調整により、宿泊が伴う場合あり。 ※具体的な実施日は受講者と相談し決定する。 ②実習先：石川県輪島市（予定） ③定員：10名程度 ④費用：10,000円程度（交通費、宿泊費、飲食費、保険代等）	①地域の課題を整理し改善策を提案する。 ②問いを探し、仲間と協議して提案する。

教授方法	フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	①宿泊を伴う実習形式（予定）　②屋外活動のため、ある程度の体力が必要　③事前説明会への参加（3月下旬に実施予定。具体的日程、会場についてはメソフィア経由で連絡）。 ※事前説明会への参加がない場合、受講登録できません。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス　実習概要の説明、役割分担、スケジュールの確認	
2	現地概況の概説　対象地の社会動態、課題等についての概説、調べたことの共有	
3	現地活動（１）地域住民等と連携した活動実践	
4	現地活動（２）地域住民等と連携した活動実践	
5	現地活動（３）地域住民と連携した活動実践	
6	現地活動（４）地域住民等と連携した活動実践	
7	現地活動（５）地域住民と連携した活動実践	
8	現地活動（６）地域住民等と連携した活動実践	
9	現地活動（７）地域住民等と連携した活動実践	
10	現地活動（８）地域住民等と連携した活動実践	
11	現地活動（９）地域住民等と連携した活動実践	
12	地域課題分析（１）住民等への聞き取りによる課題の分析	
13	地域課題分析（２）住民等への聞き取りによる課題の分析	
14	プレゼンテーション準備	
15	プレゼンテーション　課題解決に向けたプレゼンテーションの実施	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習参加態度	30	グループワークへの積極的参加、住民聞き取り、現地活動への積極的参加	期末レポート	50	実習活動を通して得た情報などを活用し、要求されたレベルの考察ができている
プレゼンテーション	20	ポイントを押さえたわかりやすく、説得力のある内容及び説明になっている			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①当該地域に関する情報収集を行う［30分以上］ ②聞き取り調査に向け、情報収取と準備をする［30分以上］	実習を通した質問等については適宜助言指導を行う。

受講生に望むこと	・問いを立て、住民や地域住民団体関係者等に質問し、自ら情報を収集すること ・宿泊を伴う実習のため、体力に自信がある人、集団生活に抵抗のない人が望ましい	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・天候、感染状況等外部要因により、実施時期やプログラム内容に変更が生じる場合がある。その場合は教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	環境と開発			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、国内外で発生する開発問題、環境問題について問題発生の要因を探るだけでなく、問題の背後にある経済社会システムの限界について批判的に検討する。	①エンパワメント、内発的発展、人間開発概念など、講義で取り上げる重要概念について説明できる。 ②基本的人権について理解を深め、人権を通して社会的諸問題を捉える視点を持つ。 ③「開発」について自分のことばで説明できる。

教授方法	講義、講義内プレゼンテーション、グループワーク
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	貧困とは　　DAC指標などを通し貧困概念にについて理解する。	
3	豊かさとは　　消費社会における豊かさ、絶対的貧困、相対的貧困について理解しつつ、豊かさの意味について考える。	
4	人間の潜在能力と開発　　アマルティア・セン「人間の潜在能力」概念について理解する。	
5	グローバル化と不平等　途上国の現状を理解し不平等の構造について理解する。	
6	開発と人権（1）世界人権宣言を中心に人権概念について理解する。	
7	開発と人権（2）日本国憲法を中心に基本的人権について理解する。	
8	近代化と開発　従属理論、世界システム論について理解する。	
9	映像研究①　開発問題をテーマにした映像資料から、グローバルな開発問題の解決策について考える。	
10	相対的剥奪とは　　各種指標を用いて、格差及び貧困が生み出される社会経済構造について理解する。	
11	ウェルビーイングとは　　GNH（Gross National Happiness）概念を通して、豊かな暮らし、well-being概念について理解する。	
12	持続可能な社会とは　SDG's概念の基本的な考え方を踏まえつつ、持続可能性を批判的に検討する。	
13	映像研究②　環境・人権問題をテーマにした映像資料から、グローバルな環境問題の現状を捉えつつ、解決策について考える。	
14	公正な貿易とは　　フェアトレードの考え方、社会的意義と限界について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義内容の理解度
レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	講義で学んだことの理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので内容を復習する［30分以上］ ③講義で紹介した書籍等について、目を通し内容を理解する［30分以上］	講義時間内に小テストを複数回実施する。

受講生に望むこと	環境問題、開発問題に関連した新聞記事やニュースを関心をもって見る。あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域環境マネジメント論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、Sustainable Development Goals概念及びローカルなレベルでの具体的実践について検討しつつ、持続可能な社会や持続可能な暮らし方について受講者と考える。	「持続可能な社会」について、自分のことばで説明できる。

教授方法	対面授業,グループ・ディスカッション
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	リスクとしての環境問題　U.ベックのリスク社会論について理解する。	
3	リスクと不確実性　不確実性概念について理解する。	
4	持続可能性とは　Sustainable Development概念について、概念の共有化に向けた歴史的過程について理解する。	
5	強い持続性、弱い持続性　ハーマン・デイリーにによる最適規模概念、「強い持続性」「弱い持続性」の考え方について理解する。	
6	SDGsとは何か　Sustainable Development Goalsの概要及び17の目標及びその内容について理解する。	
7	映像資料研究　SDGsに関する具体的な事例について映像資料を参照しつつ、持続可能な社会について話し合う。	
8	持続可能性を支える主体：社会的リスクを巡る民主的正当性を実現する手段としてのコンセンサス会議をについて理解する。	
9	映像資料研究　地域環境マネジメントに関する具体的な事例について映像資料を参照しつつ、持続可能な社会について話し合う。	
10	地域環境マネジメント実践にむけた検討：第10回以降の実習に向け、事前に提示された課題についてグループで協議する。	
11	持続可能な地域社会とは①　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
12	持続可能な地域社会とは②　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
13	持続可能な地域社会とは③　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
14	持続可能な地域社会とは④　石川県内のSDGs実践事例について検討する。	
15	総括・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小レポート	25	講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの内容になっている
講義内プレゼンテーション	20	与えられたテーマに基づいて、これまでの講義で学んだ知識を適切に用いて、要求されたレベルの発表になっている	期末試験	45	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配布するので、事前に目を通し理解を深める［30分以上］ ②レポート作成に向け、自ら問を立て、関連する書籍・資料に目を通す［30分以上］	講義内プレゼンテーション課題および実施方法については、オリエンテーション時にアナウンスする。プレゼン実施時は、発表者以外の受講者の積極的な発言を求める。

受講生に望むこと	関連するニュースや新聞記事を興味関心をもって見る。 あらゆる事象や考え方を相対化して捉える視点を持つ。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	第11～14回は週末を利用し、学外（金沢市内予定）で実施予定。 ※現地集合・現地解散。会場までの交通費は自己負担。 日程等詳細については、受け入れ先と協議の上決定し、講義開始後に受講者にアナウンスする（土曜または日曜に実施予定）。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
本講義では、福祉専門職として必要となる地域福祉の知識の習得を目指すとともに理論や方法論について理解を深める。 本科目は社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の【共通】科目であり、国家試験に準じた講義を行う。	①地域福祉の基本的考え方について理解する。 ②地域福祉の現状や課題について、自分の考えを述べることができる。

教授方法	講義、グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題①　地域社会の概念と理論	
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題②　地域社会の変化，多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズについて理解する。	
3	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題③　地域福祉と社会的孤立について理解する。	
4	地域包括ケアシステム　地域包括ケアシステムの考え方、生活困窮者自立支援の考え方について理解する。	
5	地域福祉ガバナンス　地域福祉ガバナンス、多職種連携について理解する。	
6	地域福祉の基本的な考え方　地域福祉の概念と理論、地域福祉の歴史、地域福祉の推進主体について理解する。	
7	地域福祉の推進主体　地域福祉の推進主体について理解する。	
8	地域福祉の主体と福祉教育　地域住民の地域福祉推進と福祉教育について理解する。	
9	地域を基盤としたソーシャルワーク①　ソーシャルワークの概念、コミュニティソーシャルワークとは何かについて理解する。	
10	地域を基盤としたソーシャルワーク②　住民の主体形成に向けたアプローチについて理解する。	
11	映像研究　映像資料から地域福祉課題について検討する。	
12	災害時における総合的・包括的支援体制①　非常時や災害時における法制度について理解する。	
13	災害時における総合的・包括的支援体制②　包括的支援体制の必要性について、過去の災害を事例にその課題から理解する。	
14	災害時における総合的・包括的支援体制③　個別避難支援、災害ケースマネジメントについて理解する。	
15	総括・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義で学んだことの理解度
レポート	25	講義で学んだ知識などを適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考ができている。	期末試験	50	講義内容の理解度

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義前には指定されたテキストの範囲を熟読し、内容を理解する【30分以上】 ②講義終了後は必要に応じて他の参考書やネットを活用して調べ、理解を定着させる【30分以上】	講義時間内に小テストを複数回実施し、回答・解説する。

受講生に望むこと	地域福祉に関連した書籍を積極的に読む	教科書・テキスト	一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』，中央法規出版 2021. ISBN 978-4-8058-8236-8
指定図書／参考書等	なし/講義時に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田中　純一						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この講義では、福祉行政の実施体制及び福祉財政の動向、福祉計画の意義・目的、方法、社会保障の財政、社会保障制度の体系など、社会福祉士として必要な知識の習得を目指す。	①福祉行財政のしくみ、現状及び課題について説明することができる。 ②社会保障制度について具体的に説明することができる。

教授方法	講義、グループディスカッション
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	
2	現代社会と社会保障　人口動態の変化、経済環境の変化、労働環境の変化について理解する。	
3	福祉行財政システム　　国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、国と地方の関係について理解する。	
4	福祉財政　　国の一般会計予算と社会保障関係費の動向及び地方自治体の福祉行政と民生費の動向について理解する。	
5	福祉行政の組織　社会福祉の実施体制、社会福祉の専門機関及び専門職について理解する。	
6	社会保障の財政　社会保障財政を支える財源、社会保障支出の規模と動向、国民負担率等について理解する。	
7	社会保障概念　社会保障の概念とその範囲、社会保障の役割と意義、社会保障の対象について理解する。	
8	社会保障制度の展開　　社会保険、社会手当、公的扶助の展開、福祉国家体制の再編と社会居保障の変容、日本の社会保障の展開について学ぶ。	
9	社会保障の財政　社会保障財政を支える財源、社会保障支出の規模と動向、国民負担率について理解する。	
10	社会保険・社会扶助　社会保険と社会扶助の考え方について理解する。	
11	社会保障制度の体系　　医療保険制度、介護保険制度、年金制度、生活保護制度について理解する。	
12	福祉計画の意義と種類　　福祉計画の定義、目的、機能、地域福祉計画の歴史的展開について理解する。	
13	福祉計画の策定過程と方法　福祉計画の過程とその特徴、福祉計画の過程における方法・技術	
14	福祉計画における評価　　福祉計画における評価の方法・技術、留意点について理解する。	
15	まとめ・総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加態度	10	講義への積極的参加	小テスト	15	講義の理解度
レポート	25	講義で学んだ知識等を適切に用いて課題を考察し、要求されたレベルの論考がなされている	期末試験	50	要求されたレベルの論考がなされている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①適宜資料を配るので、講義までに目を通し内容を理解する［30分以上］ ②適宜小テストを実施するので、先に学んだことを復習する［30分以上］ ③講義で紹介した書籍、論文等について目を通し知識を得る［30分以上］	社会福祉士国家試験過去問を中心とした小テストを講義時間内に適宜実施する。

受講生に望むこと	国家試験受験を目指す学生に照準を当て講義を展開する。受講生は高い目的意識をもって講義に臨んで欲しい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/①最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座『社会保障』、中央法規出版、2021　ISBN　978-4-8058-8237-5 ②最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版、2021　ISBN　978-4-8058-8236-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	児童福祉論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜　和昭						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
児童福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども福祉制度政策、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本的機能についても理解する。また児童福祉の現代的課題を明確にすることによって少子化社会の影響、児童のみならずそれを取り巻く家庭、地域社会の中の子ども、社会環境、諸外国の児童福祉を理解する。	1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解している。 2．子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	特にない

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。	
2	子ども家庭福祉の原理について、子どもの特性と発達ニーズ、理念、権利保障、児童憲章・児童福祉法の理念、子どもの権利条約について学ぶ。子どもの権利の特徴である受動的権利と能動的権利の二面性、その確立の過程を理解する。	
3	児童福祉の発展の理解。日本の児童福祉の歴史、特に明治期の児童福祉の萌芽から「石井十次」、「留岡幸助」をはじめとした足跡、その思想理念を理解する。欧米の歴史については、イギリスの児童保護から始まる歩みから、アメリカの近代的児童福祉思想を理解する。	
4	児童家庭の権利保障および支援の核となる児童福祉六法（児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子保健法、母子並び父子及び寡婦福祉法、児童手当法）の概要を理解する。また関連法である、児童虐待防止法、DV 防止法、などもあわせて学ぶ。	
5	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関の機能を理解する。国及び地方自治体、児童福祉の各審議機関の機能、児童相談所、福祉事務所、保健センターの概要を学ぶ。児童福祉施設の種類とその運営内容など基本的機能を理解する。	
6	子ども家庭福祉の専門職を学ぶ。児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室などの関係機関に配置されている職員の資格と職務を理解する。また、児童福祉施設の専門職員と資格について、その具体的な専門的機能を理解する。	
7	母子保健を中心に学ぶ。母子保健の目的、歴史、乳幼児死亡率の傾向、健康診査・健診内容や保健指導・訪問指導などの具体的な制度を理解する。母子健康手帳、予防接種、自立支援医療、小児慢性特定疾患治療研究事業を理解する。育児支援についても理解する。	
8	障害・難病のある子どもと家族への支援を学ぶ。障害児及び家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、障害児教育、特別児童扶養手当・障害児福祉手当などの経済的支援などに関する制度を学ぶ。	
9	児童健全育成を学ぶ。児童健全育成の目的と内容、健全育成施策の現状としての地域組織活動、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業の現状と課題、児童手当制度の制度変更の内容などを中心に理解を深める。	
10	保育制度を学ぶ。保育制度の概要と保育の実施体制、保育制度の変遷、保育所の多機能化などを理解する。保育施策の現状について、認定こども園や認可保育所の運営・入所方法・保育内容を理解する。認定こども園や認可保育所の事業内容である、乳児保育・障害児保育・育児相談・子育て支援の概要を理解する。	
11	子ども子育て支援制度の内容を理解する。幼保連携型認定こども園を中心とする、認定こども園制度の具体的内容、認可外保育施設の種類と保育サービスを理解する。その他保育サービスとしての、家庭的保育事業（保育ママ）、ファミリーサポートセンター事業、幼稚園の預かり保育の実情を理解する。	
12	ひとり親家庭の福祉を学ぶ。ひとり親家庭の現代的様相、経済的支援策（児童扶養手当法・母子福祉資金など）、就業支援策、雇用対策、施設による支援としての母子生活支援施設の現状と課題、母子支援員や少年支援員の専門性を理解する。	
13	社会的養護を学ぶ。社会的養護を必要とする児童への具体的支援策を理解する。代表的施設サービスである、乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設の基本的機能、専門職の働きを理解する。	
14	非行児童・情緒障害児への支援を学ぶ。非行と情緒障害は不可分の関係があること、家族問題としての非行の動向と非行そのものの理解を深める。児童相談所のみならず、非行少年への対応の第一義機関である家庭裁判所の役割を理解する。	
15	児童虐待対策を学ぶ。児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、子ども虐待の発見と通告、在宅支援と施設における保護などの実態を理解する。児童虐待対策の課題として、関係機関とのネットワーク、発生予防の具体的施策を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。	リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を正しく理解し、文章で説明できるように復習する。[45分] ②各回の授業で学習した児童福祉に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[45分] ③各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]	・各回の授業で提出されるリアクションペーパーを活用し、そこでの質問等の内容について次回において全体共有する。

受講生に望むこと	子ども家庭福祉の基本となる内容が教授され、少子化対策において根幹をなす学科目であるから、確実に専門用語などについては内容の理解に努めること。	教科書・テキスト	『児童・家庭福祉』日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 中央法規 2021年 ISBN 978-4-8058-8246-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	日本社会が直面している最重要課題を学ぶ科目である。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	高齢者福祉論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
老いや高齢者の問題は、とかく否定的なイメージでとらえられがちである。確かに、介護問題等は深刻な社会問題ともなっている。しかし一方では、さまざまな形で社会参加し意欲的に暮らしている高齢者や、介護が必要になってもその人らしく生き生きと暮らしている高齢者も見受けられる。 授業では、超高齢社会を迎えたわが国において、すべての人が何らかのかたちで関わらざるを得なくなってきた高齢者や老いの問題について、理解を深めていく。さらに、支え合っていく仕組みの問題や豊かな老後等、高齢者福祉のあり方について考えていく。	①高齢者の特性、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解できる。 ②高齢者保健福祉制度の発展過程について理解できる。 ③介護保険制度について、目的と理念、制度の概要等を理解できる。 ④高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解できる。 ⑤介護の概念や対象及びその理念、介護過程、介護の技法、介護予防、終末期ケアのあり方について理解できる。

教授方法	講義およびワークシートによる課題。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業概要の説明。高齢化の進展とその特徴について理解する。	
2	高齢者の特性を理解する。	
3	高齢者の生活実態について理解する。	
4	高齢者を取り巻く環境を理解する。	
5	高齢者福祉施策の変遷について理解する。	
6	老人福祉法について理解する。	
7	介護保険制度：制度創設の背景、仕組みの概要①について理解する。	
8	介護保険制度：仕組みの概要②、現状と課題について理解する。	
9	介護保険等サービス：居宅・予防・地域支援について理解する。	
10	介護保険等サービス：施設サービスについて理解する。	
11	高齢者医療確保法、高齢者の権利擁護について理解する。	
12	高齢者のためのさまざまな環境の整備について理解する。	
13	高齢者の雇用安定と家族の就労上の介護休業支援について理解する。	
14	高齢者と家族を支援する組織と専門職、市民の役割と連携について理解する。	
15	高齢者と家族等への相談援助について理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	80	・授業内容についてどれだけ理解しているか。	提出物	20	・ワークシート等の提出物（授業内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回の授業内容を確認し、テキストの該当箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して、自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③日頃から高齢者福祉や社会保障等の問題に関心をもち、新聞・ニュース等に触れる。	毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	講義中心の授業となるが、受け身ではなく能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『新・エッセンシャル高齢者福祉論 』 田中康雄編 みらい　2022年　ISBN978-4-86015-564-3
指定図書／参考書等	なし／『令和5年版　高齢社会白書』内閣府編　2023年　ISBN978-4-86579　376-5	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

高齢者福祉について、各種委員会等（施設職員研修、介護老人福祉施設第三者委員等）の経験をもとに具体例をあげて講義している。

授業科目名	障害者福祉論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
こころの不調や発達障害などを含め、現代社会における障害者福祉の諸問題、支援制度等を正しく理解する。また、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習で必要となる基礎知識の習得、および社会福祉士国家試験に関する知識を身につける。 とくに障害のある人たちを取り巻く諸問題は社会全体の問題としてとらえ、国家試験受験、および専門職を目指すもの以外にも理解できる内容を展開する。	1．障害の概念と特性を踏まえ、障害のある人たちとその家族の生活と、これを取り巻く社会環境について理解し、説明できるようにする。 2．障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解し、説明できるようにする。 3．障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みについて理解し、説明できるようにする。 4．障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	障害の概念と特性の理解：各法律での障害者の定義、障害種別ごとの特性と支援内容	
2	障害者福祉の歴史：当事者による活動の意義、障害当事者・親の会の運動の展開過程、国連障害者政策の歴史と障害者権利条約、障害者基本法改正のポイント	
3	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：障害者の虐待防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律	
4	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
5	障害のある人たちの生活実態とこれを取り巻く社会環境と課題：障害のある人たちを取り巻く情勢と暮らしの現状、生活問題と支援ニーズ	
6	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：児童福祉法、発達障害者支援法	
7	障害のある人とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境：障害のある人たちの生活実態、家族の現状と背景、子育てする障害のある人のニーズと支援、家族支援のあり方	
8	障害の概念と特性：国際機能生活分類（ＩＣＦ）の意義と課題、医学モデルと社会モデル	
9	障害のある人たちに対する法制度：法制度の全体像、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法	
10	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法律、国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律	
11	障害のある人たちと家族等の支援における関係機関と専門職の役割：行政機関、労働機関、教育機関、医療機関、相談支援専門員、ピアサポーター、養護教諭、家族等の役割	
12	障害のある人たちに対する法制度と支援の仕組みの理解：障害者総合支援法・児童福祉法	
13	障害のある人たちと家族等に対する支援の実際：ソーシャルワーカーの中核的使命と原理、障害領域におけるソーシャルワーカーの配置の現状、期待される役割、多職種連携	
14	障害者福祉の歴史：制度の発展過程、障害者処遇の変遷、社会の背景と障害のある人たちが置かれていた状況の関連、国際社会のなかでの日本の障害者福祉施策の変化	
15	障害者福祉の歴史：障害観の変遷、障害のある人たちに向けられる差別や偏見、優生思想の概要、障害者福祉を支える代表的な理念	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート・授業内確認テスト等	50	レポート評価基準（初回に説明）、授業内容の理解	授業参加状況	50	受講態度、提出物等（課題、授業内の小テスト、小レポートを含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．障害のある人たちの社会生活を意識する。 2．社会における障害者福祉サービスの意味を理解する。 3．国民福祉の動向、障害者白書等で最新の情報を確認する。 4．社会福祉士国家資格取得を目指すものはテキストや資料を繰り返し学習する。 5．社会における障害者福祉に関する事象について考え、まとめる。 ［1～5の全体で60分以上］	小テスト等は内容を解説する。課題やテスト内容、評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	こころの不調や発達障害などを含め、障害について正しく理解するとともに、社会全体の問題として関心を持ってください。	教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集、最新社会福祉士養成講座８『障害者福祉　第２版』中央法規出版、2025. ISBN:978-4-8243-0151-2 ※2025年度から「第２版」を使います。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じて講義内で資料を配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会保障論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	陳　萍						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、社会保障制度の基礎知識を学習することである。具体的には、①社会保障の定義、方法、内容、機能　②社会保障の歴史（世界と日本）　③公的扶助（貧困と社会保障）　④社会保険（医療保険、年金保険、介護保険、労働保険）　⑤社会福祉（少子高齢化と社会保障）について学習する。 ※SDGs目標番号1、3関連科目	1. 社会保障制度の歴史、体系、内容等の基礎知識を習得する。 2. 社会保障の方法の一つである社会保険による方法の仕組み、社会保険と民間保険の相違について理解する。 3. 社会保障をめぐる現状と課題について理解する。 4. 生活者の視点から、現代社会における生活をめぐる問題、尊厳ある生活の実現のための対策などを主体的に考えるようになる。

教授方法	講義形式
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の主題や流れ、成績評価の方法などについて説明する。 社会保障とは：社会保障の概念、目的、仕組み及び人権と社会保障について考える。	
2	社会保障の方法と内容：社会保障の方法、社会保険による方法の仕組み、社会保険と民間保険の異なり、憲法第25条で定められた「健康で文化的な生活」の詳細などについて理解する。	
3	社会保障の機能：社会保障の最低生活保障機能、リスク分散機能、所得再配分機能、経済安定機能、社会統合・政治安定機能を明らかにする。	
4	社会保障の歴史（世界）：社会保障の形成（歴史的源流と歴史的起点）と確立（国家責任による生存権・生活権の保障、総合的な生活保障）について考察する。	
5	社会保障の歴史（日本）：戦前と戦後に分けて、日本の社会保障のあゆみについて考察する。	
6	貧困と社会保障：貧困の基本的な考え方、貧困が引き起こす問題、世界と日本の貧困の実態及び日本の生活困窮者自立支援制度と生活保護制度について明らかにする。	
7	少子化と社会保障：少子化の背景、少子化の社会影響、少子化の対策及び日本の子ども家庭福祉の仕組みなどについて明らかにする。	
8	労働と社会保障：労働法、労働保険制度（雇用保険、労働者災害補償保険）などについて理解する。	
9	年金保険（1）：年金の種類（公的年金と私的年金）、公的年金制度の概要（国民年金「基礎年金」、厚生年金）、体系及び受給などについて明らかにする。	
10	年金保険（2）：年金制度の給付の種類（老齢年金、障害年金、遺族年金）や年金制度の特徴を明らかにするとともに、年金制度の課題について考える。	
11	医療保険（1）：被保険者、保険料、保険給付などの内容を通して公的医療保険の仕組みを明らかにする。	
12	医療保険（2）：診療報酬、国民医療費、医療費の動向、公的医療保険の役割などについて理解する。	
13	介護保険（1）：介護保険導入の経緯、介護保険制度の仕組みなどを理解する。	
14	介護保険（2）：家族の規模や家族機能の変化と介護保険制度の関係を理解する。	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	社会保障の基礎知識を習得できているか。	振り返りシート	30	主体的な姿勢で授業を受講できているか、毎回の授業内容を十分に理解できているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
国民生活に関する出来事について情報を収集する。（30分） 関心ある社会保障や国民生活の問題について文献などを活用して学習する。（30分）	毎回の講義後に振り返りシートに書かれた質問は次回の講義の冒頭で回答する。

受講生に望むこと	①日頃から国民生活に関するニュースに注目するようにする。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがある。	教科書・テキスト	特に使用せず、自作テキストに基づいて講義を行う。
指定図書／参考書等	指定図書なし／参考書：『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ』椋野美智子・田中耕太郎　著　有斐閣2022年　ISBN-13:978-4641222021.『入門テキスト社会保障の基礎』西村淳　著 東洋経済新報社2022　ISBN-13:978-4492701546.『最新社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座7　社会保障』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編　中央法規2021　ISBN-13:978-4805882375.	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	権利擁護を支える法制度			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、権利擁護を支える法制度について解説する。とりわけ、ソーシャルワークと法のかかわり、法の仕組み、権利擁護の意義と支える仕組み、権利擁護と意思決定支援、権利擁護に関わる組織、団体、専門職、成年後見制度についてを中心に解説する。社会福祉士の国家試験に準じた講義を行う。 ※SDGs目標番号3関連科目	①ソーシャルワークと法のかかわりについて理解できる。 ②法の仕組みについて理解できる。 ③権利擁護の意義と支える仕組みについて理解できる。 ④権利擁護と意思決定支援について理解できる。 ⑤権利擁護活動にとって不可欠な、組織、団体、専門職について理解できる。 ⑥成年後見制度について理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	ソーシャルワークと法のかかわり①（憲法）：ソーシャルワークと憲法のかかわりについて理解する。	
3	ソーシャルワークと法のかかわり②（民法）：ソーシャルワークと民法のかかわりについて理解する。	
4	ソーシャルワークと法のかかわり②（行政法）：ソーシャルワークと行政法のかかわりについて理解する。	
5	法の基礎：法の仕組みについて理解する。	
6	権利擁護の意義と支える仕組み①（権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用）：権利擁護の意義、福祉サービスの適切な利用について理解する。	
7	権利擁護の意義と支える仕組み②（苦情解決の仕組み、虐待・暴力防止関係法の概要、障害者差別解消法の概要）：苦情解決、虐待・暴力防止関係法、障害者差別解消法について理解する。	
8	権利擁護活動と意思決定支援①（意思決定支援とは、意思決定支援ガイドライン）：意思決定支援、意思決定支援ガイドラインについて理解する。	
9	権利擁護活動と意思決定支援②（インフォームド・コンセント、秘密・プライバシー・個人情報、権利擁護活動と社会の安全）：インフォームド・コンセント、秘密・プライバシー・個人情報などについて理解する。	
10	権利擁護に関わる組織、団体：権利擁護にとって不可欠な組織、団体について理解する。	
11	権利擁護に関わる専門職：権利擁護にとって不可欠な専門職について理解する。	
12	成年後見制度①（成年後見制度の概要、後見の概要）：成年後見制度の概要、後見の概要について理解する。	
13	成年後見制度②（保佐の概要、補助の概要、任意後見の概要）：保佐の概要、補助の概要、任意後見の概要について理解する。	
14	成年後見制度③（成年後見制度の最近の動向）：成年後見制度の最近の動向について理解する。	
15	成年後見制度④（成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業）：成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題（小テスト）	50	毎回の授業の内容を理解できているかを評価する。	期末試験	50	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に各授業回の教科書の該当箇所を熟読しておく。［45分以上］ ②事後に各授業回の教科書の該当箇所を復習しておく。［45分以上］	小課題（小テスト）・期末試験の解説をする。

受講生に望むこと	教科書を徹底して使う授業をする予定ですので、しっかりと教科書を読み込むようにしてください。	教科書・テキスト	『権利擁護を支える法制度 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、2024年、ISBN：978-4824301529
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	刑事司法と福祉			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	赤羽　由起夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、刑事司法と福祉について解説する。とりわけ、刑事司法と福祉の関係、刑事司法の現状や課題、刑事司法をめぐるさまざまな支援対象者や主体についてを中心に解説する。社会福祉士の国家試験に準じた講義を行う。 ※SDGs目標番号3、16関連科目	①刑事司法と福祉の関係について、社会、犯罪原因論、刑罰の側面から理解できる。 ②刑事司法の現状や課題について、刑事司法、少年司法、施設内処遇、社会内処遇の側面から理解できる。 ③刑事司法をめぐるさまざまな支援対象者や主体について、多様なニーズを有する犯罪行為者、犯罪被害者等支援、コミュニティの側面から理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：本授業の導入として、授業の概要、到達目標、授業計画などを解説する。	
2	社会と犯罪：犯罪の定義と測り方、犯罪統計の基本、日本の犯罪の状況、社会において犯罪という現象がどのように捉えられているのかについて理解する。	
3	犯罪原因論と対策：犯罪原因論の内容と変遷、その意義、犯罪原因論に基づく犯罪への対応、その限界について理解する。	
4	刑罰とは何か：刑罰制度の歴史、執行の形態、社会において刑罰がもつ意義について理解する。	
5	刑事司法：刑事手続の概要と重要な原則、犯罪の成立要件などについて理解する。	
6	少年司法：少年法の目的や機能、少年保護手続の流れ、少年司法制度上の処分とその適用状況について理解する。	
7	施設内処遇①（成人）：刑事施設における処遇のあり方、現状および課題、刑事施設における福祉専門職の業務内容とその様態、地域生活に向けた支援のあり方、対人援助職の連携のあり方について理解する。	
8	施設内処遇②（少年）：少年院および少年鑑別所の組織体制と処遇、少年院における矯正教育のあり方と社会復帰支援の実際について理解する。	
9	社会内処遇①（更生保護の理念と概要）：更生保護の意義と歴史、更生保護制度の概要、更生保護におけるソーシャルワーカーの役割・課題について理解する。	
10	社会内処遇②（更生保護の実際）：保護観察、仮釈放を中心とした更生保護の実際と、更生保護における関係機関のネットワークについて理解する。	
11	多様なニーズを有する犯罪行為者①（精神障害者を対象とした医療観察制度）：医療観察制度の概要および手続の流れ、社会復帰調整官の役割、医療観察制度にかかわる地域のソーシャルワーカーの役割について理解する。	
12	多様なニーズを有する犯罪行為者②（高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉）：「司法と福祉の連携」の展開、地域生活定着支援センターの役割と機能、犯罪・非行に至った高齢者・障害者の特徴などについて理解する。	
13	多様なニーズを有する犯罪行為者③（アディクションを抱える人と刑事司法）：アデイクションのメカニズムやその治療、回復に必要なもの、刑事司法におけるアディクション対応やソーシャルワークについて理解する。	
14	犯罪被害者等支援：犯罪被害者等支援に関する制度の概要、支援における考え方、支援の実際について理解する。	
15	コミュニティと刑事司法：刑事司法への市民参加のあり方、犯罪現象への向きあい方、対話という問題解決のあり方について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題（小テスト）	50	毎回の授業の内容を理解できているのかを評価する。	期末試験	50	授業の到達目標の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前に各授業回の教科書の該当箇所を熟読しておく。［45分以上］ ②事後に各授業回の教科書の該当箇所を復習しておく。［45分以上］	小課題（小テスト）・期末試験の解説をする。

受講生に望むこと	教科書を徹底して使う授業をする予定ですので、しっかりと教科書を読み込むようにしてください。	教科書・テキスト	『刑事司法と福祉 第2版』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規、2025年、ISBN：978-4824301536
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜、紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。 また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。	①図書館の意義・役割について理解する。 ②これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する。 ③公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する。 ④図書館類縁機関，図書館関係団体について理解する。 ⑤今日の図書館の課題と今後の展望ついて主体的に考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会と図書館（1）図書館とは何か	
2	現代社会と図書館（2）図書館の種類と図書館の役割	
3	現代社会と図書館（3）司書の役割とは何か	
4	図書館の理念（1）図書館の自由	
5	図書館の理念（2）図書館員の倫理綱領	
6	図書館関係法規について	
7	公共図書館の制度と機能（1）図書館法	
8	公共図書館の制度と機能（2）公共図書館の機能	
9	公共図書館の制度と機能（3）管理運営	
10	学校図書館の制度と機能	
11	大学図書館の制度と機能	
12	専門図書館の制度と機能	
13	国立国会図書館の制度と機能	
14	図書館関係団体について・その他図書館について	
15	図書館についてまとめと復習	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	50	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。図書館に関する基礎的な知識が身についている必要がある。	レポート課題	20	各回授業内容に合わせた小レポートの課題などを行う。授業内容に応じた記述がなされているか評価する。
授業への参加態度	30	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。 図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。	希望に応じ試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目である。ただし，図書館に興味がある学生の履修も歓迎する。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館概論　六訂版』塩見昇編著．日本図書館協会，2024．(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3;1) ISBN:978-4820424079
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報技術論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では現代社会で必要不可欠なツールとなっているコンピュータや情報通信機器などについて学び、道具として活用できるための基礎的知識を身につけることを目的とする。テキストを通して日常利用しているコンピュータの成り立ちや歴史、仕組みについて学ぶ。最新のトピックスを通じて、現代社会において情報通信機器がどのような役割を果たしているかを知る。また高度情報化社会の中で、情報がどのように我々に関わるのか、正しく情報を扱う上で必要となるマナーやモラルとは何かについて学習する。	情報とはなにかについて、説明することができるようになる。 電気で動くコンピュータがどのように計算処理を行っているかについて理解する。 スマートフォンを初めとするコンピュータが、どのように成長してきたかを理解する。 携帯電話ネットワークやインターネットなど、情報通信網の概要を理解する。 情報を適切に管理するための知識を身につける。

教授方法	テキストを用い、パワーポイントによる補足説明を用いて講義形式で実施する。適宜Google Classroomを用いて課題を課す。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業ガイダンス 本講義の概要を説明する。 情報とは・情報社会とICT：「情報とはなにか」「私たちとどのように関わっているのか」について社会の流れとともに学ぶ。	
2	インターネットと検索エンジン 身近なデータベースであるインターネットについて、その成り立ちと共に活用されている例について紹介する。	
3	1.1情報の概念、1.2情報の収集・整理 情報とは何か、情報収集・整理の方法について学ぶ。	
4	1.3情報加工・表現、1.4情報発信・交換と表現 情報収集・発信におけるモラル・ルール・マナーについて学ぶ。	
5	1.5情報の管理とセキュリティ 情報を扱うとき気を付けるべきセキュリティとモラルについて学ぶ。	
6	2.1問題解決の方法論とデータ 情報機器を使った問題解決に用いられている技法について学ぶ。	
7	2.2情報のディジタル表現と処理 身の回りに存在するディジタル機器がどのような方法で動いているのか学習する。	
8	2.3コンピュータのしくみ、2.4プログラミング コンピュータを構成する装置と、その中で実際の処理を行うプログラムについて学ぶ。	
9	2.5情報通信ネットワーク 当たり前のように存在して利用しているインターネットの仕組みについて学ぶ。	
10	2.6セキュリティを守る技術 安心してインターネットを利用するうえで必要になるセキュリティ技術について学ぶ。	
11	【ビデオ視聴とレポート】AIの進化 AIの現状についてビデオ視聴により学び、視聴内容に関すして意見交換した後、レポートを作成する。	
12	3.1情報伝達の多様化と社会の変化 情報伝達ツールの多様化高度化と、それに伴う社会の変化について学ぶ。	
13	3.2情報社会の進展 電気や水道と同じように重要インフラとなった情報システム発展に伴い、社会にどのような変化が起こっているか学ぶ。	
14	3.3情報社会のもたらす影響と課題 情報化社会の発展により、便利になった反面様々な問題が生じている。その影響と課題について学ぶ。	
15	3.4情報社会における個人の役割と責任 私たちは所属する社会や組織の一員として、高度に発展する情報社会の中でどのように働くべきかについて学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末試験	40	学習内容に基づいた試験を行う。	振り返り課題	20	Google Formsを使って課す。課題に対し、積極的に取り組んでいること
レポート課題	20	ビデオ視聴した内容に基づくレポートを課す。	授業への積極的取り組み	20	授業に対する積極的取り組みをもとに評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次週の予告を行うので、該当するテキスト箇所を読み、疑問点をまとめておくこと。[30分] 授業終了後はレジュメとメモの整理を行うこと。[60分]	授業振り返りにより質問などを募り、翌週回答を行う。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。

受講生に望むこと	授業中は適宜メモをとり、聞き漏らさないようにしてほしい。 疑問点はそのままにしないこと。 ディスカッションにおいては積極的な関与を期待する。	教科書・テキスト	『情報基礎　ネットワーク社会における情報の活用と技術』岡田正・高橋参吉、実教出版(2019)ISBN978-4-407-34825-5
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データベース演習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
本科目ではリレーショナルデータベースの一つとしてMicrosoft Accessを題材にデータベースについて学ぶ。Accessを学習するにあたりExcelとの違いなどについて知り、それぞれの特徴を活かした利用ができる知識を身につける。Accessについてはテーブル作成とクエリの作成を中心に学ぶ。クエリを用いることで必要とするデータ抽出を容易にする。	データベースの一種であるリレーショナルデータベースについて学ぶ。リレーショナルデータベースを構成する以下の機能について学習する。テーブルの作成。リレーションシップ作成。クエリ作成。フォーム作成。レコード抽出。レポート作成。これらを通してMicrosoft Accessの操作方法について習熟し、最終的にデータベースの基本的な運用ができるようになることを目標とする。

教授方法	テキストを用いて演習形式で実施する
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	データベースとは何か：データベースの種類と特徴について学ぶ	
2	Accessの基礎知識：Accessの概要について学ぶ	
3	データベースの設計と作成：データベース構築の流れについて学び、新規に作成する	
4	テーブルによるデータの格納(1)：テーブルの概要について学び作成する	
5	テーブルによるデータの格納(2)：マスター作成を行う リレーションシップの作成：リレーションシップ作成を行う	
6	クエリによるデータの加工(1)：クエリについて学ぶ	
7	クエリによるデータの加工(2)：クエリについて学ぶ	
8	フォームによるデータの入力(1)：フォームについて学ぶ	
9	フォームによるデータの入力(2)：フォームについて学ぶ	
10	クエリによるデータの抽出と集計：クエリを用いた抽出と集計を行う	
11	レポートによるデータの印刷(1)：レポートについて学び印刷準備を行う	
12	レポートによるデータの印刷(2)：レポートを用い目的別印刷準備を行う	
13	便利な機能：Accessを用いるうえで知っておくとよい機能について学ぶ	
14	総合問題1：章末問題に取り組み、習熟度の確認を行う	
15	総合問題2：章末問題に取り組み、習熟度の確認を行う	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定課題	40	指定された課題の達成度をもとに評価する	練習問題・総合問題	20	章末練習問題、総合問題の完成度をもとに評価する
成果物提出	20	各章の完成ファイル完成度をもとに評価する	授業態度	20	授業に対する積極的取り組みを評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次回実施予定のテキスト箇所に目を通しておく。[30分] 授業で取り組んだ内容の復習を行う。[30分]	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。

受講生に望むこと	Accessは、リレーショナルデータベースの基本が理解できると他にも応用できるので、概念の理解が進むよう積極的に取り組んでいただききたい。	教科書・テキスト	『よくわかる Microsoft Access 2019 基礎』FOM出版(2019)ISBN978-4-86510-386-1
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	とくになし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プログラミング入門			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目ではプログラミングの入門課程としてExcel VBAを用いた学習を行なう。はじめに始めにプログラムとは何かについて学習する。次にアルゴリズムを考え、物事の手順を可視化する方法について学ぶ。Excel VBAプログラミングの基本を学ぶことにより。簡単なマクロを作成しプログラムの構造を理解するところから始め、マクロの基本的な使い方について理解する。この科目で身につけた知識を深めることにより、最終的にVBAを用いた業務処理の効率化ができるようになることを目指す。	1. アルゴリズムの概念を理解し、説明できるようになる。 2. プログラムの手順を示す流れ図を作成できるようになる。 3. マクロを用いて簡単なプログラムを作成できるようになる。

教授方法	テキストを用いて演習形式で実施する
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	コンピュータとプログラム：プログラムとは何か、データとどう異なるのかを知り、取り扱い上の注意点について学ぶ。プログラムを考える上で必須となるアルゴリズムについて学び、プログラム実行手順を図解する。流れ図を作成できるようになる。	
2	マクロを知る：マクロとは何か、マクロを使うと何が便利なのか、マクロを使う上での注意点を知る。実行手順を記録するマクロの概要を学び、マクロを保存し、再利用できるようにする。	
3	マクロの編集：記録されたマクロを編集する。VBAを動かし、マクロがどのような構造になっていたか知る。 VBAの他にどのようなプログラミング言語が有るのか紹介する。	
4	モジュールとプロシージャ１：モジュールとプロシージャを学び、使いやすいマクロを作るための基本を身につける。オブジェクト、メソッド、プロパティが何を意味しているかについて学ぶ。	
5	モジュールとプロシージャ２：テキストに基づいてプロシージャを作成する。	
6	モジュールとプロシージャ２：テキストに基づいてプロシージャを作成する。 デバッグ：エラーが発生したときの対応と、解決手段を学ぶ。	
7	変数と制御構造１：プログラム実行において欠かせない変数、データ型、演算子について学ぶ。	
8	変数と制御構造２：プログラム実行において欠かせない変数、データ型、演算子について学んだ内容を元にプロシージャを作成する。	
9	変数と制御構造３：条件分岐とくり返し処理について学ぶ。	
10	変数と制御構造４：条件分岐とくり返し処理について学んだ内容を元にプロシージャを作成する。	
11	自動化処理プログラム作成１：販売管理プログラムを例に、自動化処理について学ぶ。対話形式処理を行う方法について学習する。	
12	自動化処理プログラム作成２：販売管理プログラムを例に、印刷処理について学ぶ。	
13	自動化処理プログラム作成３：販売管理プログラムを例に、アプリケーションを完成させる。	
14	単位認定章末問題実施１：指定の課題に沿ったマクロを作成し完成させる。	
15	単位認定章末問題実施２：指定の課題に沿ったマクロを作成し完成させる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
フローチャート課題	20	指定された課題の達成度をもとに評価する	練習問題・総合問題	40	章末練習問題、総合問題の完成度をもとに評価する
成果物提出	20	各章の完成ファイル完成度をもとに評価する	授業態度	20	授業に対する積極的取り組みを評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次回実施予定のテキスト箇所に目を通しておく。[30分] 授業で取り組んだ内容の復習を行う。[30分]	授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。

受講生に望むこと	マクロやVBAの使い方をマスターすると、頻繁に行う操作をすばやく処理することができるため、効率的に業務をこなしたい人は積極的に履修してほしい。	教科書・テキスト	『よくわかるExcel マクロ/VBA office2021/2019/2016/microsoft365対応』FOM出版(2023)ISBN978-4-86775-030-8
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	Excel関数の使い方について参照することがあるので、「情報機器演習」で使用したテキストを準備しておくことが望ましい。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨床心理学概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。	1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者、教職課程登録者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。	
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。	
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。	
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。	
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。	
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。	
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。	
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。	
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。	
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。	
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻繁に利用される様々な心理療法について理解する。	
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。	講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。	教科書・テキスト	野島一彦・岡村達也編（2023）『公認心理師の基礎と実践③　臨床心理学概論　第２版』遠見書房 ISBN:9784866161679
指定図書／参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか:基本を学び、考える』新曜社　ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美　(2013)『臨床心理学入門 ： 多様なアプローチを越境する』 有斐閣　ISBN：9784641220034	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

これまでの実務経験に基づいて、それぞれの理論や実際の支援内容がイメージしやすくなるような具体例等を適宜紹介しつつ講義を行う。

授業科目名	心理学実験Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・植田　峰悠 （代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。	①実験計画の方法に習熟している。 ②実験器具の取り扱いを習得している。 ③実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 ④実験レポートを的確に書くことができる。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。	
2	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法の解説。	
3	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。	
4	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
5	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	
6	「P-Fスタディ」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
7	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。	
8	「触二点閾」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
9	SD法：SD法の実験の実習を行う。	
10	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
11	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。	
12	「鏡映描写」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
13	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。	
14	「パーソナル・スペース」　レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	
15	実験を含む、心理学の研究法について振り返る	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。［90分］ ②各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。［90分］ ③添削されたレポートによって復習する。［30分］	提出された実験レポートを添削した上で返却する。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。他の講義や自習により統計学について十分修得しておくこと。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』　西口利文・松浦均（編）　ナカニシヤ出版　2008年　ISBN 978-4-77-950237-8
指定図書／参考書等	なし/『実践心理データ解析―問題の発想・データ処理・論文の作成―改訂版』　田中敏　新曜社　2006年　ISBN 978-4-78-851012-8　その他種目ごとに適宜授業内にて提示することがある。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

植田：それぞれの実験課題が公認心理師としての職務にどのように活かされるのかについて、実務経験に基づいて適宜解説を加える。

授業科目名	心理学実験Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁・齊藤　英俊・松尾　藍　（代表教員　加藤　仁）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習Ⅰ」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。	①実験計画の方法を理解する。 ②実験器具の取り扱いを習得する。 ③実験で得られたデータの分析方法を習得する。 ④実験レポートの書き方に習熟する。

教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。
履修条件	心理学実験実習Ⅰの履修済みが望ましい（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。	加藤・齊藤・松尾
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。	加藤
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	加藤
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。	松尾
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	松尾
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。	齊藤
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	齊藤
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで、実験操作の考え方について理解する。	加藤
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	加藤
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。	松尾
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	松尾
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。	齊藤
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	齊藤
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。	加藤
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。	加藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計 7 本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。	実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。［45分］ ②各実験種目のレポートを作成する。［120分］ ③各種目で適用された分析方法を復習する。［30分］ ④返却されたレポートを見直し、修正する。［30分］	各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。

受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。	教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8
指定図書／参考書等	なし／種目ごとに適宜授業内に提示する。	その他・特記事項	

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学研究法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。心理学は、目には見えない「心」を扱う学問分野である。そのような「心」を科学的に理解するためには、適切な方法論が必要不可欠である。本科目では、直接観察できない心のはたらきに科学的にアプローチするための心理学の方法論を概説する。そのうえで、受講生には実際に研究計画の立案に取り組んでもらう。	①心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的・質的研究の基礎知識を習得する。 ②データを用いた実証的な思考方法を身につける。 ③研究倫理を理解し、実践することができる。

教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える。	
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ。	
3	実証の２つの手続き：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する。	
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ。	
5	実験法（２）：原因をどのように作り出すか、独立変数の操作を学ぶ。	
6	実験法（３）：結果をどのように取り出すか、従属変数の測定を学ぶ。	
7	実験法（４）：原因を見誤らないために、剰余変数の統制を学ぶ。	
8	実験法（５）：質問紙実験やフィールド実験など、様々な実験法を学ぶ。	
9	中間テストとその解説：第１～８回の内容の理解度を問うテストを実施するとともに、前半の内容を振り返る。	
10	観察法（１）：観察法の基本的な考えについて学ぶ。	
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ。	
12	研究倫理：心理学研究に特有の倫理問題を学び、心理学研究に必要な倫理的配慮を理解する。	
13	研究計画の立て方　研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ。	
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る。	
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	40	第14～15回で立てた研究計画をレポートにまとめて提出を求める。レポートに授業で学んだ内容が反映されているかを評価する。	中間テスト	40	講義前半で学んだ内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。
提出物	20	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。[60分/回] ③その他：「心理学研究」など学術雑誌に掲載されている心理学の実証研究論文を、授業内容と照らし合わせながら１本以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。中間テストについては、テスト終了後に解説を行う。

受講生に望むこと	自分の興味ある事がらを研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要がある。研究のためには何をする必要があるのか、何をしてはいけないのかを考えながら講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎・岡隆 編　有斐閣　2017年　ISBN 978-4-641-22086-7
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理的アセスメント			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	植田　峰悠						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して状態を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。	1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。

教授方法	講義、演習
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理学研究法に習熟した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理	
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点	
3	心理測定の信頼性と妥当性	
4	心理アセスメントと統計解析	
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
6	性格検査、TEGの理論と実施	
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施	
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）	
10	知能検査、WAIS-Ⅲ（言語性検査1回目）	
11	知能検査、WAIS-Ⅲ（言語性検査2回目）	
12	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査1回目）	
13	知能検査、WAIS-Ⅲ（動作性検査2回目）	
14	知能検査、WAIS-Ⅲ（結果の解釈と所見作成）	
15	総括、心理アセスメントの観点および展開	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、仲間と協力すること	課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]	講義中に課す小レポートについては返却時に適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。	教科書・テキスト	『心理アセスメント　心理検査のミニマム・エッセンス　心の専門家養成講座③』松本真理子・森田美弥子（編）　ナカニシヤ出版　2018年　ISBN-13:9784779511158
指定図書／参考書等	なし/『心理検査の実施の初歩　心理学基礎演習5』　願興寺礼子・吉住隆弘（編）　ナカニシヤ出版　2011年　ISBN-13:9784779503870、『心理テスト―理論と実践の架け橋―』　ホーガン，T．P．（著）繁桝算男・椎名久美子・石垣琢麿（共訳）　培風館　2010年　ISBN-13:978-4563052041	その他・特記事項	・心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるため、大きな減点になる。

実務経験を活かした授業の概要

実施や解釈の手順にとどまらない、支援の一環としてのアセスメントが学べるよう、演習を通して実務経験に基づく臨床的な視点が学べるよう指導する。

授業科目名	発達心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー・認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創 ・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成(2010)．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編(2013)．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房 2013年　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編(2011)．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	教育心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①子どもの心身の発達過程を答えられる。 ②心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 ③主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 ④教育活動の評価の意義および役割を答えられる。

教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究法を理解する。	
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。	
3	学習①「学習理論①」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
4	学習②「学習理論②」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。	
5	学習③「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。	
6	学習④「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。	
7	学習⑤「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。	
8	学習⑥「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。	
9	評価①「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。	
10	評価②「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことか考える。	
11	評価③「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。	
12	集団・適応①「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。	
13	集団・適応②「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。	
14	集団・適応③「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。	
15	集団・適応④「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	教育心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]	①各回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望む。	教科書・テキスト	服部環・外山美樹編（2022）．『スタンダード教育心理学　第2版』サイエンス社　ISBN: 978-4781915340
指定図書／参考書等	なし/石津憲一郎 ・下田芳幸 ・ 横田晋務（2022）．『教育・学校心理学 』サイエンス社　ISBN: 978-4781915272、大村彰道編(1996)．『教育心理学Ⅰ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520720、下山晴彦編(1998)．『教育心理学Ⅱ』　東京大学出版会　ISBN: 978-4130520744、藤田哲也編（2021）．『絶対役立つ教育心理学　第２版』ミネルヴァ書房　ISBN :978-4623091638 、水野治久・串崎真志編(2019)．『教育・学校心理学』ミネルヴァ書房　ISBN:978-4623086078、橋本創一・三浦巧也・ 渡邉貴裕・ 尾高邦生・ 窪山亮希・熊谷亮・田口敏子・大伴潔編(2020)．『キーワードで読み解く特別支援教育・障害児保育&教育相談・生徒指導・キャリア教育』　福村出版　ISBN:978-4571121401	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。

授業科目名	人格心理学（感情・人格心理学Ａ）			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格（＝性格、パーソナリティ）があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた１つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。	①人格を理解するための諸理論を説明できる。 ②人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 ③人格の形成過程について説明できる。 ④人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。

教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：人格（性格、パーソナリティ）とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか概説する。	
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。	
3	精神分析的人格論①：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
4	精神分析的人格論②：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。	
5	特性論①　その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。	
6	特性論②　Big Five：パーソナリティは 5 つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。	
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。	
8	相互作用論：人－状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。	
9	物語論：物語論（ナラティヴ）の視点から人格について考える。	
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論（質問紙法、投影法、観察法、面接法）を理解し、研究方法について学ぶ。	
11	人格の発達①：一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かについて考える。	
12	人格の発達②：遺伝や家庭をはじめとする環境が、どの程度、人格の形成に影響しているかを考える。	
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。	
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしうるかについて考える。	
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	課題レポート	20	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうかを評価基準とする。
定期試験	50	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。 「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察がされている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習をしておくこと。[30分] ②授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。[40分] ③普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみること。 ④授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみること。	①授業レポートについては、対面授業時に振り返りの時間をもつ。 ②課題レポートや定期試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。	教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊（2003）．『性格心理学への招待　改訂版』 サイエンス社　ISBN:978-4781910444、榎本博明・安藤寿康・堀毛一也（2009）．『パーソナリティ心理学』　有斐閣　ISBN:978-4641123779、鈴木公啓編(2012)．『パーソナリティ心理学概論』　ナカニシヤ出版　ISBN:978-4779506383	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会・集団・家族心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。人は人との関わりの中で、互いに影響を与え合って生きている。本科目では、こうした「社会的存在」としての人間を理解することを目的に、社会心理学の代表的な理論を概説する。人間の行動を個人と状況との相互作用の産物として捉える社会心理学の視点を身に着けることで、身近な出来事や社会現象を科学的に理解できるようになると期待される。	①社会心理学の基礎知識を習得する。 ②対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解できる。 ③人の態度および行動との関わりを理解できる。 ④家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：社会心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	対人認知：人の印象がどのように作られるのかを学習し、その印象に基づく他者への理解は正確であるかを考える。	
3	社会的推論：人は物事の原因をどのように推論し、その際どのような間違いを起こしやすいのかを理解する。	
4	態度：態度がどのように決定されるかを学び、人には認知的一貫性を求める基本的性質があることを理解する。	
5	説得：人に命令されるとやりたくなくなるのはなぜか？　説得と態度変容のプロセスを理解する。	
6	社会的自己：他者との関わりのなかで揺れ動く自己について理解する。	
7	対人行動：なぜ人は助け合い傷つけ合うのか、援助行動や攻撃行動のしくみを理解する。	
8	対人関係（１）：関係の成立から、発展、維持、崩壊まで、対人関係のしくみを理解する。	
9	対人関係（２）：家族に焦点を絞り、その特徴や機能について理解する。	
10	コミュニケーション：非言語的コミュニケーションを学び，心地よいコミュニケーションのあり方を考える。	
11	集団と個人（１）：他者の存在が個人にどのような影響を及ぼすのかを理解する。	
12	集団と個人（２）：多くの社会問題や迷惑行為に共通する「社会的ジレンマ」を理解する。	
13	健康と幸福：幸福や健康を支える人間関係を理解するとともに、SNS利用が健康や幸福に及ぼす影響を考える。	
14	文化と人間：文化的自己観を紹介し、心と文化には相互構成的な関係があることを理解する。	
15	まとめ：講義全体の総括を行い、社会的環境を生きる社会的存在としての自分自身を振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他，日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ，社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を１冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	社会は心に影響を及ぼし、そうして影響を受けた心もまた社会に影響を及ぼしていく。こうした心と社会との相互構成的な関係を念頭におき、授業内容と日常生活との接点を見つけ、自分と社会との関わりについて興味・関心を広げてほしい。	教科書・テキスト	『グラフィック社会心理学 第3版』池上知子・遠藤由美 著　サイエンス社　2024年　ISBN：978-4-7819-1610-1
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	産業・組織心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、社会学科の「心理と社会」科目であり、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。産業・組織心理学は、企業や公的機関など、組織で働く人の心のはたらきと行動を明らかにする学問である。AIの活用やテレワークの導入など働く現場は変化を続け、多様な働き方が求められる今、そこに生きる人間を理解することはこれからますます重要となる。本科目では、産業・組織心理学の代表的な理論を紹介する。	①産業・組織心理学の基礎知識を習得する。 ②組織における人の行動を、心理学の視点から理解できる。 ③職場やキャリア形成に関する問題と必要な支援を理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：産業・組織心理学とは何か、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	人的資源管理：「雇用」「能力開発」「人事評価」など、働く人の個性や能力を活かす仕組みを理解する。	
3	ワーク・モチベーション：職場における「やる気」はどのように作られ、どのように維持されるのかを理解する。	
4	職場集団のダイナミクス（1）：職場集団の特性について理解する。	
5	職場集団のダイナミクス（2）：チームワークの意義を理解し、優れたチームワークに必要な条件を考える。	
6	職場のコミュニケーション（1）：職場に特有のコミュニケーションの性質や機能を理解し、効果的なコミュニケーションについて考える。	
7	職場のコミュニケーション（2）：集団での意思決定が必要な場面における、人の心の働きを理解する。	
8	職場の人間関係：職場の人間関係の特徴と、そこで生じる対人的葛藤について理解する。	
9	リーダーシップ：代表的なリーダーシップ理論を学習し、優れたリーダーシップのあり方について考える。	
10	消費者行動：消費者がモノやサービスを購入利用するプロセスの特徴を理解する。	
11	職場のメンタルヘルス（1）：　ストレスに関する基本的な概念を学習したうえで、働く人に特有のストレスを理解する。	
12	職場のメンタルヘルス（2）：　ストレスと上手に付き合っていく方法や対処について、個人と組織の双方の視点から理解する。	
13	作業管理・安全管理：仕事の能率や生産性に関わる「作業管理」と、労働災害や産業事故の防止対策に関わる「安全管理」について、理論と実践方法を紹介する。	
14	キャリア発達：キャリア発達に関する主要な理論を学習し、自身が歩んできた道を振り返る。	
15	まとめ：講義全体の振り返りとともに、将来へ向けて、主体的に歩む自身のキャリアを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書（各回の授業内容に該当する箇所）をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験や社会問題、社会現象などと照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③その他、日ごろから新聞やテレビなどの報道に触れ、社会で起こっている出来事に関心をもつ。授業テーマと関連する本を1冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	産業・組織心理学は、組織で働く人を研究対象としているが、大学生にとっても、アルバイトやサークルといった組織での体験と関連づけて理解することが可能である。授業内容と日常生活との間に接点を見つけ、本科目で学んだ内容を、自身の就職活動やキャリアプランニングに活かしてほしい。	教科書・テキスト	『はじめて学ぶ産業・組織心理学』柳澤さおり・田原直美 編　白桃書房　2015年　ISBN:9784561256557
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	知覚・認知心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる。知覚・認知心理学は、人が自分自身や自分をとりまく環境について、どのように知覚し処理しているのかを探る学問である。知覚・認知心理学の代表的な理論を学ぶことにより、「人間とはどのような生き物であるか」を知るための、はじめの1歩となることが期待される。	①知覚心理学および認知心理学の基礎知識を習得する。 ②人の感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解できる。 ③人の認知・思考のメカニズムとその障害について理解できる。

教授方法	講義を中心に、一部ワークを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：知覚心理学、認知心理学とは何を明らかにする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	
2	感覚の基礎：人はどのように周囲の環境から情報を取り入れているのか、感覚の種類と構造について学ぶ。	
3	知覚の基礎：閾や順応など、知覚の基本的特性について学ぶ。	
4	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ。	
5	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完などについて学ぶ。	
6	様々な感覚：体性感覚や自己受容感覚について、基本的なはたらきを学ぶ。	
7	対象認知：人の知覚、認知の対象は様々であり、物体や顔、絵画、さらには時間まで、様々な対象の知覚、認知を学ぶ。	
8	感覚・知覚の障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ。	
9	認知の基本特性：情報処理システムとしての人間像を学び、その処理の二方向性を理解する。	
10	記憶（1）：基本的な記憶のメカニズムや知識の構造について学ぶ。	
11	記憶（2）：日常生活の中で経験する出来事の記憶に焦点を絞り、人の記憶が正確であるかを考える。	
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ。	
13	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ。	
14	認知・思考の障害：認知や思考の障害にはどのようなものがあるのか、神経心理学の知見から学習する。	
15	まとめ：講義全体を振り返るとともに、授業内容と日常生活との接点を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	60	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解度を評価する。	提出物	40	振り返りシートなど、各授業回の提出物の提出状況とその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：各回の事前配布資料をあらかじめ読み、内容の理解に努めると共に、疑問点をまとめておく。[30分/回] ②事後学習：授業で配布する資料等を活用し、授業内容を復習する。また、授業内容を自身の経験と照らし合わせながら、ノートにまとめるなどして理解を深める。[60分/回] ③授業テーマと関連する本を1冊以上読む。[期間を通して合計38時間]	各授業回の提出物については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。

受講生に望むこと	知覚・認知心理学が扱う内容は、日ごろの生活では意識されずに「当たり前」に行われる心のはたらきである。この「当たり前」がなぜ、どのように成立するのか、本当に「当たり前」なのか、それが成立しなくなるとどうなるのかを意識しながら、講義に臨んでほしい。	教科書・テキスト	使用しない。資料を配布する。
指定図書／参考書等	指定図書なし。 参考書については、授業の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	体験を通して学び深めることを目的に、心理学の実験・調査への参加を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	感情心理学（感情・人格心理学Ｂ）			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松尾　藍・齊藤　英俊　（代表教員　松尾　藍）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰しもが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。	①感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。 ②感情が行動に及ぼす影響について説明できる。 ③幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 ④感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　感情心理学とは何を明らかにしようとする学問なのか、この科目を学ぶ意義を考える。	松尾
2	感情とは何か　感情の基礎的な事項を説明し、感情の役割や機能について考える。	松尾
3	感情の理論　感情が生じる仕組みについて、古典的理論を中心に説明する。	松尾
4	感情の生物学的基礎　感情の生物学的基盤である脳と身体について、基礎的な神経生理学的理論を紹介する。	松尾
5	感情がもたらす影響　感情が認知や行動に及ぼす影響を説明する。また、行動経済学の知見を紹介し、人々の生活における理性と感情の役割を考える。	松尾
6	社会を支える感情　人間関係や集団の機能の維持に関わる感情について、進化心理学の視点を交えて説明する。	松尾
7	健康を支える感情　心身の健康を増進させる感情のはたらきを説明する。また、幸福感や畏怖などポジティブ感情の研究を紹介する。	松尾
8	感情の調整　感情が生じる仕組みについて現在主流の２つの理論を説明し、感情とうまく付き合っていくにはどうしたら良いかを考える。	松尾
9	感情の発達　感情について発達の観点から考える。	齊藤
10	精神疾患に関連する感情①　不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
11	精神疾患に関連する感情②　抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
12	精神疾患に関連する感情③　恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。	齊藤
13	感情の病理への心理的アプローチ①　精神分析的心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。	齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ②　フォーカシングの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ③　エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。	齊藤

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。	講義への参加態度	30	講義への参加態度と振り返りの内容から評価を行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。［45分］ ②講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品（小説、映画、漫画など）にあてはめて具体的に理解する。［30分］	各回での振り返り・リアクションシートの内容について、授業内でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするとそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身のみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。	教科書・テキスト	第1～8回については、教科書を使用する。『感情心理学　感情研究の基礎とその展開』今田純雄・中村真・古満伊里　著　培風館　2018年　ISBN：4-563-05877-7 第9～15回については、適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／講義の中で適宜紹介する。	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	障害者・障害児心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児／者に対する理解を深める。また、障害児／者が社会の中でよりよく生きることを支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。	1．身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児／者への理解を深める。 2．障害児／者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション／障害とは？:国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。	
2	障害と心理学：障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。	
3	身体障害：視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。	
4	知的障害：知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。	
5	精神障害：不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病性障害など主要な精神障害について理解する。	
6	行動・情緒障害：発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。	
7	発達障害（1）：自閉症スペクトラム障害：発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。	
8	発達障害（2）注意欠如・多動性障害、局限性学習障害：注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。	
9	障害児の支援（1）：応用行動分析：応用行動分析の概念および基本的な考え方と障害児への支援について理解する。	
10	障害児の支援（2）：ペアレントトレーニング：応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。	
11	障害受容のプロセス／障害の理解：障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。	
12	保健・医療における課題と支援：認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。	
13	福祉・教育における課題と支援：障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。	
14	保護者や家族の理解と支援：障害児／者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。	
15	コミュニティ支援／障害児・者支援のこれから：障害児／者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『障害者心理学』太田信夫（監修）北大路書房，2017年，ISBN-13：978-4762829840	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	心理学的支援法			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。	様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライエントやクライエントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。

教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。	
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。	
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。	
4	精神分析的心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移／逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。	
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。	
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。	
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。	
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。	
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。	
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。	
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。	
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。	
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。	
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。	
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内でペア・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。［30分程度］	振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。 期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。	教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社, 2005年, ISBN-13：978-4422113265	その他・特記事項	授業中にWebサイト等を利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	学校心理学（教育・学校心理学）			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
教育現場における現在の諸問題について理解し、子どもが学習面、心理・社会面、進路面、健康面などにおける課題の取り組みのプロセスで出会う問題状況の解決を援助する「心理教育的援助サービス」の理論と実践を支える学校心理学の理論と方法について、具体的場面を示しながら解説する。	①教育現場において生じる問題とその背景について説明できる。 ②教育現場における心理教育的課題とその支援について説明できる。

教授方法	講義を中心に、ワーク(演習）やディスカッションを取り入れる。
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：教育・学校心理学を概観し、現在の実際の教育現場でのさまざまな課題について知る。	
2	教育現場での心理教育的援助サービスの実践とそのための援助者を理解する。	
3	子どもをめぐる課題①　不登校の実情とその支援について理解する。	
4	子どもをめぐる課題②　いじめ等の実情とその支援について理解する。	
5	学校心理学を支える要素（学校組織と教育制度、教育関連法規等）について理解する。	
6	子どもをめぐる課題③　発達障害の実情とその支援について理解する。	
7	子どもをめぐる課題④　デジタル社会、ネット・ゲーム依存等の実情とその支援について理解する。	
8	学校心理学を支える心理学的基盤（発達心理学、教育心理学、臨床心理学等）について理解する。	
9	子どもをめぐる課題⑤　精神疾患・非行・その他の実情とその支援について理解する。	
10	心理教育的援助サービスの方法①　アセスメントについて理解する。	
11	心理教育的援助サービスの方法②　カウンセリングについて理解する。	
12	心理教育的援助サービスの方法③　コンサルテーション・コーディネーションについて理解する。	
13	心理教育的援助サービスの実際（公認心理師等の専門的ヘルパーの役割と活動内容）について理解する。	
14	教職員・学校をめぐる課題（教師のバーンアウト・危機介入・その他）の実情とその支援について理解する。	
15	家庭・地域をめぐる課題（家族・児童虐待・ヤングケアラー・その他）の実情とその支援について理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	40	学習内容の理解の程度を評価する。	提出物	50	授業中指示の提出物により評価する。
授業への参加態度	10	授業中のワーク、ディスカッションへの参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する［60分/回］	提出された課題は、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	自身のこれまでの学校生活を振り返りながら、理解を深めてほしい。一方で近年の学校の抱える諸課題を意識し、積極的に参加してほしい。	教科書・テキスト	『学校心理学ハンドブック［第2版］：「チーム」学校の充実をめざして』　日本学校心理学会編　教育出版　2016　ISBN:978-4316803128
指定図書／参考書等	なし／授業時に関連する図書を適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	心理演習			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	齊藤　英俊・植田　峰悠 （代表教員　齊藤　英俊）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。	1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。

教授方法	演習、講義。
履修条件	次の4科目全てについて「B以上」の単位を修得している者に限る。4科目は心理学実験Ⅰ，心理学実験Ⅱ，心理学研究法， 心理的アセスメントである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割	全員
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）	全員
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）と終了（終結、中断など）	全員
4	アセスメントと心理検査	全員
5	基本的な傾聴スキル	全員
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）	全員
7	精神分析的心理療法における心理面接	全員
8	精神分析的心理療法の心理面接のプロセス	全員
9	クライアント中心療法の心理面接	全員
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接	全員
11	行動療法の心理面接	全員
12	認知行動療法における心理面接	全員
13	その他の心理療法の心理面接	全員
14	多職種連携および地域連携	全員
15	心理面接の効果と課題	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。	講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]	小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。	教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。 ・Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接の演習を行う。
植田：これまでの実務経験をふまえ、特に臨床を行う上で重要な視点については多側面から繰り返し取り上げつつ、授業で取り上げた内容がどのように臨床現場で活かされるのか具体的にイメージできるよう演習を行う。

授業科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
授業を通して、ソーシャルワークの概念、範囲、形成過程、理念について学び、ソーシャルワーク・相談援助にかかる専門職としての役割、意義を理解する。また、ソーシャルワーク・相談援助専門職としての専門性と倫理を学ぶとともに、総合的かつ包括的なソーシャルワークの全体像と理論を理解する。 社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験受験を意識した専門的な内容を展開する。	1．社会福祉士の法的な位置付けについて理解し、説明できるようにする。 2．ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解し、説明できるようにする。 3．ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解し、説明できるようにする。 4．社会福祉士の職域と求められる役割について理解し、説明できるようにする。 5．ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解し、説明できるようにする。 6．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解し、説明できるようにする。 7．総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「現代社会と福祉Ⅰ」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の単位修得済みの者、または同時履修の者。加えて、「現代社会と福祉Ⅱ」の同時履修が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の法的な位置付け：社会福祉士及び介護福祉士法、共生社会の実現に向けて活躍が期待されるソーシャルワーク専門職である国家資格の位置付け	
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士の法的な位置付け：社会福祉士の専門性、社会福祉士に求められるコンピテンシー、これからの社会福祉士に求められる能力	
3	ソーシャルワークの概念：ソーシャルワークの定義、ソーシャルワークの構成要素、任務や原理、ソーシャルワークの基盤となる知と実践	
4	ソーシャルワークの基盤となる考え方：ソーシャルワークの原理、ソーシャルワークの理念、現代社会状況との関係、ソーシャルワークの必要性	
5	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの源流と基礎確立期、ソーシャルワークの発展期、ソーシャルワークの萌芽となった諸活動	
6	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの展開期と統合化、日本におけるソーシャルワークの形成過程、救済から社会事業への展開、戦後のソーシャルワークの導入、国家資格化	
7	ソーシャルワークの倫理：専門職倫理の概念、倫理綱領、専門職倫理綱領の必要性、その意義や構成要素と機能・活用の仕方、倫理的ジレンマ	
8	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：ソーシャルワーク専門職の概念と範囲、ソーシャルワーカーが専門職であるために必要な条件	
9	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：社会福祉士の職域と役割、社会福祉士が働く職域の広がり	
10	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲：多様な組織・機関・団体における専門職、ソーシャルワークを担うさまざまな職種や職場、諸外国の動向	
11	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象、三つのレベルの相互関係	
12	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開、ソーシャルワークグローバル定義に基づいた実践	
13	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点、ジェネラリストの意味と視点	
14	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、さまざまな人や組織との連携・協働	
15	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容：多職種連携およびチームアプローチの意義と内容	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、毎回の小テスト（持ち込み不可）、提出物等（課題、ミニレポート、ワークシートなど）	確認テスト	50	授業内容の理解（持ち込み不可）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．社会のなかで起こっている福祉に関する事象・問題について関心を持つ。 2．相談援助の基盤となる人間関係についてさまざまな機会をとおして学ぶ。 3．社会問題に関する新聞記事を読み、自分なりに考察し、まとめる。 ［1～3の全体で30分以上］	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	社会のなかで発生しているさまざま社会福祉の問題に関心をもち、なぜそのような事象が起こるのか、その問題の解決にはどのような方法があるのか、自分なりに問題意識をもちながら授業に臨んでください。 授業、および毎回の小テストと期末の確認テスト（全て持ち込み不可）は、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習と国家試験受験を意識した専門的な内容です。	教科書・テキスト	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座11『ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8241-2 ※旧テキスト（2021年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワーク専門職にとって必要な知識・技術に関する全体像を理解する。ソーシャルワークの構造、機能、展開過程を理解し、専門職として求められる基本的な理論と方法の習得を目指して授業を進める。 関連科目の内容を意識しつつ、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および社会福祉士国家試験を意識した内容を展開する。	1．ソーシャルワークに関する基本的な知識と技術を理解し、説明できるようにする。 2．ソーシャルワーク専門職の役割と意義を理解し、説明できるようにする。 3．人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解し、説明できるようにする。 4．ソーシャルワークの過程と、係る知識と技術、および様々な実践モデルとアプローチについて理解し、説明できるようにする。 5．ソーシャルワーク実習に必要な基礎的内容を理解、習得する。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」の単位修得済みの者、または同時履修の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：ソーシャルワーカーが学ぶ理論、ソーシャルワークの共通基盤、固有の視点	
2	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：システム理論、生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、各理論・モデルの基本的な考え方と内容の理解	
3	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク：ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標と展開過程、生活課題が「人と環境との交互作用」により生じることの理解	
4	ソーシャルワークの過程：ケースの発見、援助までのプロセス、エンゲージメント（インテーク）の意味と役割、クライエントとの関係構築の留意点	
5	ソーシャルワークの過程：アセスメントの意義と目的、アセスメントの方法、アセスメントの留意点、「生活者」や「生活」への接近の方法、アセスメントを支える理論・方法・構成要素、マッピング技法	
6	ソーシャルワークの過程：プランニングの意義と目的、ソーシャルワークにおけるプランニング	
7	ソーシャルワークの過程：プランニングのプロセスと方法、目的・目標・計画内容の設定、プランニングにおける留意点、倫理的な実践、包括的な支援のための連携・協働	
8	ソーシャルワークの過程：支援の実施、モニタリング、効果測定、モニタリングから再アセスメントまでの流れ、シングルシステムデザイン	
9	ソーシャルワークの過程：支援の終結と結果評価、ソーシャルワーカーとクライエント双方で行うことの意味、結果評価の意義・視点・方法、アフターケア、再支援を行う重要性	
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの考え方、視点、モデル、アプローチ等の意味	
11	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：治療モデル、ストレングスモデル、生活モデル（ライフモデル）、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
12	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
13	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ、行動変容アプローチ、認知アプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
14	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ、エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	
15	ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ：解決志向アプローチ、さまざまなアプローチ、実践モデル・アプローチの特徴と歴史的な概要、モデル・アプローチによる違い	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト、ミニレポート、ワークシートなど）	確認テスト等	50	授業内容の理解（テスト等は全て持ち込み不可）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回の授業後に、自身で振り返り、疑問点や不明な点を調べる。 2．社会の事象に関心を持ち、とくに福祉領域の特徴、問題等をまとめる。 3．社会福祉士の国家試験と関連したポイントを整理する。［1～3で30分以上］	確認テスト等は、毎回内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。	教科書・テキスト	ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8242-9 ※旧テキスト（2021年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの展開過程において必要な知識、技術について、その意義、目的、留意点を理解する。また、ソーシャルワーク専門職に必要な面接技術、記録の技術を学ぶ。加えて、ケアマネジメント（ケースマネジメント）方法、グループの活用、コミュニティワーク、スーパービジョンの意義について理解する。 関連科目の学びを意識しつつ、社会福祉士資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した内容を展開する。	1．ソーシャルワーク・相談援助にかかる基本的な面接技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 2．ソーシャルワーク・相談援助にかかる基本的な記録の技術を理解し、援助過程において活用できるようにする。 3．ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法について理解し、説明できるようにする。 4．コミュニティワークの概念とその展開について理解し、説明できるようにする。。 5．ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの面接：面接の意義と目的、日常会話と面接の特徴と違い、ソーシャルワークにおける面接の意義、目的	
2	ソーシャルワークの面接：面接の方法と実際、ソーシャルワーク面接における形態や手段、場所の多様性、面接の基本的留意点、具体的な面接技法	
3	ソーシャルワークの記録：記録の意義と目的、記録の内容、専門職の記録に求められる倫理的責任	
4	ソーシャルワークの記録：記録のフォーマット、根拠のある記録の書き方	
5	ケアマネジメント（ケースマネジメント）：ケアマネジメント（ケースマネジメント）の歴史、ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則	
6	ケアマネジメント（ケースマネジメント）：ケアマネジメント（ケースマネジメント）の意義と方法、モデルとプロセス	
7	グループを活用した支援：グループワークの意義と目的、グループワークの展開過程、ジェネラリスト実践を意識したグループワーク、グループの発達段階に応じた介入	
8	グループを活用した支援：グループワークとセルフヘルプグループ、セルフヘルプグループへの向き合い方	
9	コミュニティワーク：コミュニティワークの意義と目的、住民が主体となる地域福祉活動の意義、コミュニティワークの展開、コミュニティワークの各技法の特徴、評価の視点・方法	
10	コミュニティワーク：コミュニティワークの理論的系譜とモデル、コミュニティワークの歴史、各モデルが必要とされた社会的背景	
11	ソーシャルアドミニストレーション：ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義、組織介入・組織改善の実践モデル、ピラミッド組織・フラット組織・ティール組織	
12	ソーシャルアドミニストレーション：組織運営における財源の確保、種類、ファンドレイジングの手法	
13	ソーシャルアクション：ソーシャルアクションの概念とその意義、事例を通じたソーシャルアクションの基本	
14	ソーシャルアクション：コミュニティ・オーガナイジング、コミュニティ・オーガナイジングの実例、展開過程	
15	スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョンの意義・目的・方法・関係・形態・実施、コンサルテーションの意義・目的・方法、コンサルテーションとスーパービジョン	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト、ミニレポート、ワークシートなど）	確認テスト	50	授業内容の理解（テスト等は全て持ち込み不可）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、毎回内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会において社会福祉のニーズは多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や関連するニュースには関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新社会福祉士養成講座12『ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021. ISBN978-4-8058-8242-9 ※前期「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」と同じもの ※旧テキスト（2021年度以前）は使えません。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布します。	その他・特記事項	随時、社会福祉士国家試験に関する資料を配布、説明します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。ソーシャルワーカーがクライエントや連携・協働を図る人との間で結ぶ援助関係の形成について学ぶ。そのため、ニーズの掘り起こしを行う知識と技術について理解し、援助関係を土台とした関係者・関係機関とのネットワークを構築していく方法等を学ぶ。	①ソーシャルワークにおける援助関係の形成について理解する。 ②ネットワークの形成について理解する。 ③ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際について理解する。

教授方法	講義、ワークシートによる課題等
履修条件	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：総合的かつ包括的な支援の考え方（多様化・複雑化した生活課題への対応）	
2	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：総合的かつ包括的な支援の考え方（今日的な地域福祉課題への対応、分野・領域を横断する支援）	
3	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：家族支援の実際（家族が抱える複合的な生活課題）	
4	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：家族支援の実際（家族支援の目的、方法、留意点）	
5	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：地域支援の実際（地域が抱える課題、多機関協働）	
6	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：地域支援の実際（地域住民との協働、地域アセスメント）	
7	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：非常時や災害支援の実際（非常時や災害時の生活課題）	
8	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際：非常時や災害支援の実際（非常時や災害時における支援の目的、方法、留意点）	
9	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係形成の意義と概念（ソーシャルワークの対象と援助関係等）	
10	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係形成の意義と概念（クライエントシステムならびにソーシャルワークの実践レベルと援助関係等）	
11	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の形成方法と留意点（倫理綱領を踏まえた援助関係の形成方法と留意点、自己覚知と他者理解等）	
12	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の形成方法と留意点（対人関係の理論や方法から導かれる援助関係の形成方法等）	
13	ネットワークの形成：ネットワーキング（ネットワークとは何か、社会福祉分野におけるネットワーク等）	
14	ネットワークの形成：ネットワーキング（ネットワークの機能、ネットワーク構築のプロセスと手法等）	
15	ネットワークの形成：コーディネーション（コーディネーションの意義、目的、方法、留意点等） まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	授業内容についての理解度	授業参加状況	20	ワークシート等の提出物の記載内容（授業内容の理解度、考察や気づきの内容）や授業中の発言内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。（それぞれ30分以上） ②テキストで理解が難しい用語について、社会福祉に関する書籍や辞典等で調べる。 ③ソーシャルワーク演習や実習などの科目と関連づけて学ぶ。 ④国家試験を意識した専門的内容を理解する。	毎回の授業で用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく、能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んでほしい。	教科書・テキスト	『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　中央法規出版　2021　ISBN：978-4-8058-8249-8
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

ネットワークやカンファレンス等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。

授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。個別の事例の具体的な解決及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。	①ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について理解する。 ②ソーシャルワークに関連する方法について理解する。 ③カンファレンスについて理解する。 ④事例分析について理解する。

教授方法	講義、ワークシートによる課題等
履修条件	「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発:社会資源の活用・調整	
2	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発:ソーシャルワーク実践と社会資源	
3	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発:社会資源開発のさまざまな方法	
4	カンファレンス:会議の種類と方法	
5	カンファレンス:ミクロ・メゾ・マクロの会議①	
6	カンファレンス:ミクロ・メゾ・マクロの会議②	
7	事例分析、事例検討、事例研究:事例分析	
8	事例分析、事例検討、事例研究:事例検討	
9	事例分析、事例検討、事例研究:事例研究	
10	ソーシャルワークに関連する技法:ネゴシエーション	
11	ソーシャルワークに関連する技法:コンフリクト・レゾリューション	
12	ソーシャルワークに関連する技法:ファシリテーション	
13	ソーシャルワークに関連する技法:プレゼンテーション	
14	ソーシャルワークに関連する技法:ソーシャル・マーケティング	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	授業内容についての理解度	授業参加状況	20	ワークシート等の提出物の記載内容（授業内容の理解度、考察や気づきの内容）や授業中の発言内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎回、テキストを読んで予習・復習をする。（それぞれ30分以上） ②テキストで理解が難しい用語について、社会福祉に関する書籍や辞典等で調べる。 ③ソーシャルワーク演習や実習などの科目と関連づけて学ぶ。 ④国家試験を意識した専門的内容を理解する。	毎回の授業で用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回の授業等でフィードバックを行う。

受講生に望むこと	受け身ではなく、能動的な姿勢（疑問をもつ、考える、発言する等）で臨んで欲しい。	教科書・テキスト	ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編　中央法規出版　2021　ISBN：978-4-8058-8249-8
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会資源の活用・調整・開発等のソシャルワークの理論と方法について、毎年実施している施設職員向けの各種研修会の経験をもとに具体的なテーマを設定し、ディスカッションを取り入れている。

授業科目名	福祉サービスの組織と経営			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜　和昭						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会福祉ニーズの広がりから、サービス提供主体が多様化してきており、新たな時代における福祉経営の確立を学ぶ。運営理念の確立をはじめとする、経営の基礎理論、質の高い人材確保、労働条件の改善をはじめとする労務管理、長期的・安定的な資金調達方法、外部資金導入など財務体質強化、イコールフィッティング論、経営意識改革、福祉リスクマネジメント、福祉経営コンプライアンス・ガバナンス、労働生産性と雇用管理、マッチングシステムなどを理解する。	①福祉サービスに関わる多様な組織を類型化し、その具体的特徴について理解できる。 ②福祉サービスが制度として提供されるべき社会的な背景について、歴史的経緯と特徴を正しく理解できる。 ③社会福祉法人をはじめとする非営利法人における、経営理論・組織論を理解できる。 ④福祉サービスを提供する組織・集団の理念などについて、実践理論を踏まえて理解できる。 ⑤福祉サービスを提供する組織・集団が抱えるところの今日的課題及び将来の動向などが理解できる。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	特にない

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「福祉サービスの組織と経営」について授業の教育目標、学習方法などについて概要説明を行ない、サービスとしての福祉実践のあり方を理解する。	
2	福祉制度や社会市場等の考え方を基に、現代社会における福祉サービスのあり方について学ぶ。	
3	福祉制度になぜ経営理論・組織論が求められるのかを理解する。	
4	社会福祉法人制度が創設された経緯、概要を理解しその意義、果たす社会的役割と税制、理事･評議員･監事などの役員の機能について学ぶ。実施事業や組織ガバナンスを学ぶ。	
5	社会福祉法人が展開する福祉サービスの具体的内容とその課題と将来像について学ぶ。	
6	ＮＰＯ法人、医療法人、営利法人、協同組合、ボランティア団体等の提供する福祉サービスの特長と役割を学ぶ。	
7	経営学の理論や技法を基に、福祉サービス経営の概要とその特長について学ぶ。	
8	福祉サービスをはじめとする非営利法人の組織構造について学ぶ。	
9	福祉サービスの組織論を基盤にし、リスクマネジメントの必要性とその対応について学ぶ。	
10	福祉サービスの集団理論とその理解、組織内部のグループダイナミクスについて学ぶ。	
11	福祉サービスの組織運営におけるリーダーシップ理論を学び、フォロワーシップと人材育成を理解する。	
12	福祉サービスの品質管理とＰＤＣＡサイクルを学び、その具体的展開を理解する。	
13	福祉サービスの品質管理における「ＩＳＯ認証制度」等の質保証に関する基本的な知識を学ぶ。	
14	福祉サービスの品質管理における「福祉サービス第三者評価制度」の概要、質向上の仕組みを学ぶ。	
15	福祉サービス利用者の権利擁護にかかる法律、権利擁護システムの在り方とその具体的内容を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容を正しく理解した上で、自らの態度・意見を表明することができるような、記述を中心とする筆記試験を行う。	リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ②各回の授業で学習した福祉サービスに関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ③各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を正しく理解し、短い文章で説明できるように復習する。[30分] ④各回の授業で学習した組織経営に関わる用語や概念を、社会福祉全般の中で正しく位置付ける、あるいは他の各論領域と比較することができるように理解を深めるため、書籍や論文を積極的に読み込む。[30分] ⑤各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[30分]	・各回の授業で提出されるリアクションペーパーを活用し、そこでの質問等の内容について次回講義時及びGoogle Classroomにおいて全体共有する。

受講生に望むこと	・福祉的支援は決して一面的なものではなく、多様な視点から問題を考察することが大切である。本科目の学びの中心である「マネジメント」と「福祉サービス」の関係を理解いただきたい。	教科書・テキスト	最新 社会福祉士養成講座１『福祉サービスの組織と経営』社会福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版 2021年 ISBN:978-4-8058-8244-3
指定図書／参考書等	なし／『非営利組織の経営』P.F.ドラッカー 2007年 ダイヤモンド社 ISBN：978-4-478-30705-2	その他・特記事項	・日常的な学習について、できれば自身の課題などを明確にして質問いただきたい。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公的扶助論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	堂田　俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
社会保障・社会福祉制度の中で「最後のセーフティ・ネット」の役割を果たすのが公的扶助（生活保護含）である。生活保護制度は様々な要因によって貧困状態に陥った人々を経済給付により保護し、相談援助により自立助長を図る。生活保護制度を理解するため、法制度や相談援助の実践方法を学ぶと同時に、貧困が生み出される社会的要因と実態、政治・経済・社会構造の中で救貧救済制度がどのような位置を占めるのかを考える。その上で、社会保障制度における生活保護制度の役割と社会的意義について考察する。 ※SDGs目標番号1関連科目	①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。 ②公的扶助制度の歴史を理解する。 ③貧困・低所得者の動向と社会的課題について理解する。 ④生活保護制度とその関連制度の仕組みについて理解する。 ⑤生活保護の実施と関係専門職の役割について理解する。 ⑥現在の低所得者の支援に関する社会保障制度について理解する。 ⑦コミュニティソーシャルワークと生活保護ケースワークとの関連を理解する。

教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方、成績評価について。公的扶助論の概要、社会福祉士国家試験について理解する。	
2	公的扶助の意義と役割。公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、国民的議論になるのは何故かを理解する。	
3	公的扶助の歴史（英国中心に）。公的扶助制度はどのように萌芽したのか、世界に影響を与えた流れ、貧困観を理解する。	
4	公的扶助の歴史（日本）。戦前から戦後、占領軍の社会保障政策を学び、現代に続く公的扶助制度の根幹を理解する。	
5	公的扶助のしくみ（社会保険との違い）。社会保障制度の基本である制度設計について、民間保険との関係性も含め理解する。	
6	生活保護法を条文とともに概観する。法の目的、原理原則を理解し、国家試験対策としても習得する。	
7	生活保護制度（保護の種類、範囲、方法）。生活保護法及び運用規定等を含め、国家試験対策と絡めて理解する。	
8	生活保護ケースワークの概要。ソーシャルワーク実践としての事例を通して理解する。事例に基づきグループワークを通して理解を深める。	
9	生活保護基準（扶助費等）。生活保護受給額や最低生活費の算出や具体的内容について理解する。	
10	低所得者対策（ホームレス自立支援の施策等）。生活保護制度とホームレス対策を理解する。ソーシャルワーカーの実践活動からも学ぶ。	
11	生活保護の実施体制（福祉事務所の業務と組織）を学ぶ。生活保護ワーカーと組織体制、関係機関、外部機関との関りも理解する。	
12	低所得者に対するソーシャルワークの実践について理解する。具体的な手法について習得する。初回面談から終結の流れを理解する。	
13	生活保護における自立支援。生活保護と自立支援の関係を理解する。	
14	生活保護における自立支援。具体的な自立支援制度、経済的自立、日常生活自立、社会生活自立の概念を理解する。これまでの授業をフィードバックし、「貧困」状態についてグループワークとディスカッションを行う。	
15	生活保護制度（不服申立と制度の運用）。講義のまとめとして、公的扶助とは何か、国民の生活とどのように関連しているか、自分達の暮らしと「貧困」との関わりについて生活保護制度との関係を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容を正しく理解した上で、国家試験同等の問題に解答する。	課題への取組	20	講義では、各々に課題を与え、ディスカッションを行いながらすすめる。したがって、問題意識を持っているか、積極的に講義に参加しているかを評価する。
小テスト	10	授業終盤に小テストを行う。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
＜各回共通＞ 予習：各授業の学習内容を事前に調べ、不明点について調査し自分の考えに照らし合わせをすること。また、疑問点を明確にしておく。（120 分） 復習：配布したレジュメをもとに重要事項を確認し、不明点について再度調査し質問すること。学習した内容を深化させるため、論文や書籍に当たる事や新聞、インターネット等の記事を検索し、理解を深める。（120 分）	授業開始時に前回の授業についてのフィードバックを行う。

受講生に望むこと	①人と環境について理性に照らし社会科学的視座を鍛えましょう。生活保護制度を取り巻く世論の実態とナショナルミニマムについて深く考える機会と捉えてください。 ②ソーシャルワーカーとして、クライエントに関わる場合、公的扶助を理解していないとどの分野においても丁寧なソーシャルワークはできません。 ③社会の貧困について様々な媒体から情報を取捨選択する力を身に着け、貧困の解消について理解を深めてください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考図書：最新　社会福祉士養成講座４『貧困に対する支援』１６巻』 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集　中央法規出版 2021年　ISBN：978-4-8058-8247-4　C3036	その他・特記事項	学籍番号順に座席を指定する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	保健医療サービス			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	松多　岳史						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
保健医療サービスを構築する要素を理解し、今日的課題や、社会福祉士、精神保健福祉士、その他専門職の機能と役割を理解する。あわせて医療保険制度と診療報酬制度の概要、高齢者が増加する現代の医療保険制度と介護保険制度のつながりを理解する。社会福祉士がどのようにミクロ・メゾの支援をしているか、事例を交えて紹介する。 ※SDGs目標番号1、3、10、11関連科目	①保健医療サービスの変化と、提供する施設、システム及び社会福祉専門職（社会福祉士、精神保健福祉士）の役割を理解できる。 ②保健医療サービスを取り巻く法制度、仕組みを理解できる。 ③医療保険制度、介護保険制度、公費負担医療制度の概要を理解できる。 ④保健医療サービスにおける各専門職、関係機関の連携と、社会資源との結び付きを理解できる。

教授方法	講義に加えてグループディスカッションを取り入れる（アウトプットを心掛ける）。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	保健医療サービスの変化：保健医療サービスの概要、保健医療サービスの構成要素、整備・拡充、住民及び患者視点の尊重	
2	医療法改正に見る保健医療サービスの今日的課題、医療連携チームと社会福祉士と精神保健福祉士の役割	
3	医療法および保健医療政策による、医療施設の機能・類型	
4	診療報酬における医療施設の機能、介護保険における施設の機能・類型	
5	医療と介護の連携、地域包括ケアシステムの必要性	
6	医療ソーシャルワーカーの業務内容、経済的問題への支援、退院援助・社会復帰援助	
7	通院援助、組織における地域の窓口、保健医療サービスの専門職の外観、基本的姿勢	
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割：チームアプローチの実際	
9	医療保険制度と診療報酬の概要：保険料の負担と給付、診療報酬における在宅医療・終末期医療	
10	介護保険制度と介護報酬及び公的扶助の概要	
11	保健医療の専門職との連携方法：保健医療チームとの連携、他職種チームとの連携	
12	チームケア実現のための制度や連携機関：チームケアの基本となる制度、行政、社会福祉協議会、地域包括支援センター等との連携	
13	社会福祉協議会、職能団体、ボランティア、地域産業、学校と教職員	
14	保健医療の専門職との連携の実際：チームケアの類型、疾病・障害別のチームケア、クリティカルパスの実践と活用	
15	地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法：地域連携とネットワーキングとその原則 ※15分で講義し（全体の振り返り含む）、残り時間で定期試験を実施	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の取組み姿勢	50	授業の出席率および意欲的にディスカッションなどに参加する姿勢。	定期試験	50	保健医療サービスについての理解、知識の確認。 講義資料・メモ（関連資料）の持込み可。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の前にテキストを読み疑問に感じたことをまとめておくこと（5分）。 ・授業の後には分からなかった点を、当日・次回の授業で質問（メールも可）すること。	・講義の前後に質疑応答の時間を設ける。 ・講義開始時には前回の講義内容を復習する。 ・適宜、テーマに沿ったグループワークを行い全体フィードバックを図る。

受講生に望むこと	・何事にも関心と疑問をもって、意欲的に取り組んでください。 ・分からない点はそのままにせず、講義中やその後、メール等で主体的に質問してください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／「保健医療ソーシャルワークの知識と技術　キャリアアップのための実践力の構築」公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会＝編集　ISBN：978-4-8058-8886-5	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

実務経験をもとに、学生がイメージしやすいよう、病院で医療ソーシャルワーカーがどのような業務を行うか事例を紹介する。また、病院内連携、地域包括ケアシステムなどをミクロ・メゾ・マクロレベルに分けて情報提供し、学生の知識に落とし込めるようディスカッションを行う。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。	1. ケースワーク及びグループワークの理論や技術について、演習により基礎的な能力 を習得する。 2. ソーシャルワークの価値と倫理を実践的に理解できる。 3. 演習を通じて、利用者・家族等とのコミュニケーションに必要な能力を理解できる。 4. ソーシャルワークの展開過程に用いられる知識と技術を実践的に理解できる。

教授方法	個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定したロールプレイング等を中心とする演習形態
履修条件	社会福祉士またはスクールソーシャルワーカーの資格取得を目指している者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、受講の注意点、演習形態の重要性を理解する。	
2	自己覚知（自己理解と他者理解）について理解する。	
3	関係形成のための原則について学ぶ：バイスティックの７原則の理解	
4	基本的なコミュニケーション技術の習得：言語的、非言語的技術の理解	
5	基本的なコミュニケーション技術の習得：観察、傾聴、伝達等の技術の習得	
6	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の体験的な理解	
7	基本的な面接技術の習得：基本的応答技法の活用	
8	基本的な面接技術の習得：面接の構造化、場の設定、ツールの活用	
9	ソーシャルワークの展開過程の理解：ケースの発見、インテーク	
10	ソーシャルワークの展開過程の理解：アセスメント、プランニング	
11	ソーシャルワークの展開過程の理解：支援の実施、モニタリング	
12	ソーシャルワークの展開過程の理解：支援の終結と事後評価、アフターケア	
13	ソーシャルワークの記録の理解：支援経過の把握と管理	
14	グループダイナミクスの活用：グループワークの構成、グループワークの展開過程	
15	プレゼンテーション技術の理解：個人プレゼンテーション、グループプレゼンテーション まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
テスト	60	授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加態度等	40	・演習の目的を理解し、積極的に自ら学びとろうとする姿勢。 ・ワークシート等の提出物（講義内容を理解しているか、自分の意見を述べているか等）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・分からない語句や興味の持てたことに関して、自分で調べて理解を深める。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・授業では演習形態により、実際の状況を模擬的に体験すること等を通して、専門的な知識と技術を学んでいくために、毎回、積極的な姿勢で臨むこと。 ・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目と関連づけるとともに、ソーシャルワーク実習に備えることを意識する。	教科書・テキスト	なし。ワークシート等を毎回配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、面接や記録等の相談援助についてのロールプレイやディスカッションを行っている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ケアマネジメントについて、事例や援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により習得する。	1.ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2.社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。 3.具体的な事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。 4.ケアマネジメントについて、その誕生の背景、基本理念、目的、援助の視点を理解する。

教授方法	ワークシート等を用いて演習形式で行う。
履修条件	「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の単位を修得済の者。「高齢者福祉論」の単位の修得済が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の流れと到達目標を把握し、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合について理解する。	
2	援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。	
3	ソーシャルワーク実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について理解する。	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：虐待（高齢者）	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：認知症	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。事例等：終末期ケア	
7	ケアマネジメントの基本的理念、意義と目的について理解する①。	
8	ケアマネジメントの基本的理念、意義と目的について理解する②。	
9	ケアマネジメントの過程とアセスメント、ケアマネジメントとソーシャルワークの関係について理解する。	
10	介護保険制度におけるケアマネジメント（居宅介護支援）について理解する。	
11	介護保険制度におけるケアマネジメント（施設介護支援）について理解する。	
12	介護保険制度におけるケアマネジメント（介護予防支援）について理解する。	
13	障害者領域におけるケアマネジメントについて理解する。	
14	子ども家庭福祉領域におけるケアマネジメントについて理解する。	
15	生活困窮者等に対するケアマネジメントについて理解する。まとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	毎回の授業内容についてどれだけ理解しているか。	授業参加状況	40	・授業への積極的な取り組み。 ・ワークシート等の提出物。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業の後に講義と演習内容を復習し、毎回の授業のねらい達成を確実なものとする。[30分以上] ・授業の後に課された課題に取り組み、次の授業に備える。[30分以上] ・参考書等の事例を読み込み、ソーシャルワークへの理解を深める。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・授業では演習形態により、実際の状況を模擬的に体験すること等を通して、専門的な知識と技術を学んでいくために、毎回、積極的な姿勢で臨むこと。 ・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目と関連づけるとともに、ソーシャルワーク実習に備えることを意識する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/『対人援助職をめざす人のケアマネジメント』 太田貞司 他編　みらい　2007年　ISBN:978-4-86015-109-6	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

毎年実施している施設職員向けの研修や本学の出張講座等の経験をもとに、ケアマネジメントの演習を行っている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的な事例等を通して学ぶ。支援を必要とする人などを中心としたソーシャルワークの展開過程、援助技術について、関連科目、およびソーシャルワーク実習との関連性も視野に入れつつ、分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について事例等の検討を通して理解する。 社会福祉士国家資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。	1．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。 2．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。 3．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4．具体的事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の流れと到達目標を把握し、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合について理解する。	
2	援助資源になるための自己覚知、他者理解と尊重、ソーシャルワーカーの使命と役割、価値基盤を理解する。	
3	ソーシャルワーク実践における専門的援助関係づくりと、そのために必要なコミュニケーション・かかわり行動について理解する。	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（児童）、過程等：ケースの発見、インテーク、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（児童）、過程等：アセスメント、プランニング、支援の実施、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（障害者）、過程等：ケースの発見、インテーク、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
7	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（障害者）、過程等：アセスメント、プランニング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
8	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：虐待（障害者）、過程等：支援の実施、モニタリング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング	
9	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：ひきこもり、過程等：ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション	
10	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：ひきこもり、過程等：支援の実施、モニタリング、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション	
11	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：ひきこもり、過程等：事後評価、アフターケア、アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション	
12	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：ケースの発見、インテーク、プランニング、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	
13	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：プランニング、支援の実施、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	
14	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：モニタリング、事後評価、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	
15	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：アフターケア、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ファシリテーション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシート・小テストの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。 3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	課題等は、毎回結果とともに内容を解説し、疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅳ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要

ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的な事例等を通して学ぶ。支援を必要とする人、地域社会などを中心としたソーシャルワークの展開過程、援助技術について、関連科目やソーシャルワーク実習との関連性も視野に入れつつ、分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について事例等の検討を通して理解する。
社会福祉士国家資格に係るソーシャルワーク実習、および国家試験を意識した専門的な内容を展開する。

授業の到達目標

1．ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を習得する。
2．社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得する。
3．支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的、かつ包括的な支援について実践的に理解する。
4．地域の特性や課題を把握し、解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
5．具体的事例等を題材として、ソーシャルワークにおける展開過程、アプローチについて理解する。

教授方法	講義・演習
履修条件	「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの基盤と専門職」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワークの対象、焦点、およびソーシャルワーカーの視点、立場、役割の特徴を理解する。	
2	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：災害時、過程等：ケースの発見、インテーク、アウトリーチ、ネットワーキング、ファシリテーション、ソーシャルアクション	
3	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：災害時、過程等：アセスメント、プランニング、支援の実施、アウトリーチ、ネットワーキング、ファシリテーション、ソーシャルアクション	
4	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：災害時、過程等：モニタリング、事後評価、アウトリーチ、ネットワーキング、ファシリテーション、ソーシャルアクション	
5	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：インテーク、アセスメント、プランニング、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
6	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：支援の実施、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
7	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：モニタリング、事後評価、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
8	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：その他の危機状態にある事例、過程等：アフターケア、チームアプローチ、コーディネーション、ネゴシエーション、プレゼンテーション	
9	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、場面・過程等：アウトリーチとニーズ把握	
10	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、場面・過程等：地域アセスメント	
11	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：地域福祉計画、組織化	
12	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：社会資源の活用	
13	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：社会資源の調整、開発	
14	ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的事例を用いて総合的、かつ包括的な支援について理解する。 事例等：地域福祉、過程等：サービス評価	
15	まとめ：ソーシャルワークにかかる専門職の意義と役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	演習への参加態度（発言の程度、頻度、内容など）、提出物等	確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシート・小テストの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）

1．毎回、配布資料の見直しとともに授業・演習内容を振り返り学びを定着させる。[30分以上]
2．社会の事象に関心を持ち、福祉領域との関係を意識する、まとめる。
3．福祉現場への理解を深めるため施設・機関への見学、ボランティアに参加する。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

課題等は、毎回結果とともに内容を解説し、疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．ｿｰｼｬﾙﾜｰｸの専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．疑問点や深い洞察も含めた知識の探求を意識し学んで下さい。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義内で配布する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	ソーシャルワーク演習Ⅴ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	前川　直樹						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術について、具体的な事例等を通して学びます。関連科目やソーシャルワーク実習との関連性も視野に入れつつ、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例等を活用した演習により、地域の特性や課題を把握し解決するための地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解することをめざします。	①地域で展開されている援助技術について、具体的なレベルで理解する。 ②各理論・概念、技術や価値について、実践に適用する方法を理解できるようになる。 ③実習での体験や学習、日々の実践について、一般化・理論化する方法を理解できるようになる。

教授方法	講義と個人、グループでの演習。
履修条件	「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅰ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅱ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅲ」、「ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ演習Ⅳ」を履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	演習実施のための枠組み（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）：アウトリーチの概念とニーズ整理の方法について知る。	
2	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①）：アウトリーチ、ニーズ把握の実際について知る。	
3	相談援助事例（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②）：アウトリーチの具体的実践について考える。	
4	演習実施のための枠組み（チームアプローチ）：チームアプローチの概念と実際について知る。	
5	相談援助事例（チームアプローチ）：チームアプローチを促進するコーディネーションの技術について考える。	
6	演習実施のための枠組み（ネットワーキング）：ネットワーキングの概念と実際について知る。	
7	相談援助事例（ネットワーキング①）：ソーシャルサポート・ネットワークの具体的実践について考える。	
8	相談援助事例（ネットワーキング②）：地域福祉を推進するための総合的なネットワーク形成について考える。	
9	演習実施のための枠組み（社会資源の活用・調整・開発）：社会資源の概要と活用・調整の方法について知る。	
10	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発①）：社会資源開発の具体的展開について考える。	
11	相談援助事例（社会資源の活用・調整・開発②）：ソーシャルアクションの具体的展開について考える。	
12	演習実施のための枠組み（サービスの評価）：サービスの評価の概念と実際について知る。	
13	相談援助事例（サービスの評価）：福祉サービスの評価制度の概要について知る。	
14	演習実施のための枠組み（地域福祉の計画）：コミュニティソーシャルワークの概念、地域福祉計画の概要について知る。	
15	相談援助事例（地域福祉の計画）：地域福祉の計画化、住民の主体化と住民参加について考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	45	授業に対する取り組み姿勢を評価します。 ・講義、個人での演習時の学習態度 ・グループでの演習への参加態度	課題レポート	20	指定する書式にて期日までに提出し、自身の考察を加えてまとめていることを評価します。
期末試験	35	講義、演習内容の理解を筆記試験で評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習として、各回の内容を他の科目のテキスト、またはその他のテキスト（例：「最新・社会福祉士養成講座」日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、中央法規出版）等を参考にして確認しておく。[30分] ②事後学習として、毎回、配布資料等の見直しとともに授業・演習内容の振り返りを行う。[60分]	課題等は、毎回結果とともに内容を解説し、疑問・質問等には随時対応します。

受講生に望むこと	他の科目で習得した内容や実習での体験、学習等と関連づけながら、積極的に各作業や討議に参加して下さい。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布します。
指定図書／参考書等	授業中に適宜紹介します。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもとに、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
ソーシャルソーシャルワーク実習の意義について理解する。社会福祉士に求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。	①ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義について理解できる。 ②実際の実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③社会福祉士に求められる役割の理解と、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を身につける。 ④ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブック、ワークシート等を用いた演習、ＤＶＤの視聴を行う。
履修条件	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修中（履修登録済）の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導の意義の理解	
2	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：分野）	
3	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ：施設）	
4	実際に実習を行う分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
5	実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解	
6	実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理･知識及び技術に関する理解	
7	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解	
8	実習目的と実習課題の明確化（個人票）	
9	実習目的と実習課題の明確化（実習計画）	
10	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
11	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
12	実習先への事前訪問の意義と留意点の理解	
13	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価への理解	
14	巡回指導	
15	実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・課題への取り組み状況	提出物	50	・提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上] ③福祉現場におけるボランティアや自主的な見学等を経験しておくことが望ましい。	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』　早坂聡久　他編　弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
「ソーシャルワーク実習Ⅰ」で学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について学ぶ。個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に学び実践的な技術等を体得する。	①「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を振り返り、実習Ⅱに向けた課題について改めて把握することができる。 ②実習を行う分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。 ③個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得することができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、実習ガイドブックを用いた演習、ＤＶＤの視聴、ワークシートによる課題。
履修条件	「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理	
2	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（テーマ設定・アウトライン）	
3	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの作成（資料・データ整理）	
4	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第1グループ）	
5	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」における実習記録や実習体験を踏まえたレポートの発表（第2グループ）	
6	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ分野）	
7	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（事前リサーチ施設）	
8	実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解（概況表）	
9	実習目的と実習課題について（個人票）	
10	実習目的と実習課題について（実習計画）	
11	実習生に求められる姿勢	
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（実習記録の目的・内容）	
13	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解（記述方法）	
14	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成	
15	巡回指導	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等への取り組み状況	提出物	50	・実習レポート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「ソーシャルワーク実習Ⅰ」について、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習では、社会人としてのマナーも問われる。挨拶や身だしなみなどに日頃から気をくばること。規律のある態度で授業に臨むこと。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・「ソーシャルワーク実習Ⅱ」では、Ⅰに比べ実習期間が長くなる。実習の良い準備が出来るよう、意欲的な姿勢で授業に臨むこと。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』　早坂聡久　他編　弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
「ソーシャルワーク実習Ⅱ」で学んだ「専門知識」「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要となる資質・能力・技術を習得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	①「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を振り返り、実習課題の達成状況の評価が適切にできる。 ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的な能力を習得することができる。 ③具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立ててレポートにまとめることができる。

教授方法	テキストをもとにした講義の他、レポート作成、ワークシートによる課題。
履修条件	「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」を履修済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習の価値と事後学習の意義	
2	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習課題の達成状況の評価	
3	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における課題や疑問点の言語化と整理	
4	実習評価と自己評価（ソーシャルワーク実習と評価）	
5	実習評価と自己評価（スーパービジョン）	
6	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（テーマ設定）	
7	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（アウトライン）	
8	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（資料・データ収集・整理）	
9	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（レポート作成）	
10	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」における実習記録や実習体験を踏まえた実習総括レポートの作成（見直し、プレゼン準備）	
11	実習総括レポートの発表とディスカッション（第1グループ）	
12	実習総括レポートの発表とディスカッション（第2グループ）	
13	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第1グループ）	
14	実習報告会における実習総括レポート発表と指導者からの助言（第2グループ）	
15	実習指導のまとめ、総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	・授業への積極的な取り組み ・ワークシート等への取り組み状況	提出物	50	・実習レポート等の提出物の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「ソーシャルワーク実習Ⅱ」について、学びと課題を再確認しておく。 ②授業の前にあらかじめ指示したテキストの箇所を読んでおく。[30分以上] ③授業の後に講義内容を復習するとともに、興味関心を持てたことや疑問点に関して自分で調べて理解を深める。[30分以上]	・個別指導により、気づきを促していく。 ・グループワークにより、気づきを深めていく。 ・毎回用いるワークシートにおいて課題を設定し、次回にコメントを行う。

受講生に望むこと	・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・実習全体のまとめ・整理を行って、今後の学びにつなげていく。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』　早坂聡久　他編　弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

職能団体である社会福祉士会の現場職員との定期的な交流、意見交換をもとに現場で求められる社会福祉士像について、ディスカッション等により指導をおこなっている。

授業科目名	ソーシャルワーク実習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
8日間(60時間）にわたる実習を通して、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について 把握する。施設・機関等が地域社会の中で果たす役 割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職 種・多機関、地域住民等との連携のあり方 及びその具体的内容を実践的に理解する。	①利用者やその関係者との円滑な人間関係や援助関係が形成できる。 ②地域の課題や利用者のニーズ等について理解できる。 ③実習施設・機関の機能・役割について理解できる。 ④社会福祉士の業務内容や職業倫理について実際的に理解できる。 ⑤ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	「高齢者福祉論」、「障害者福祉論」、「児童福祉論」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の単位を修得済で、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修中の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者(家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランテイア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
3	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握	実習指導者、担当教員
4	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	実習指導者、担当教員
5	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の 理解及び具体的な地域社会への働きかけ	実習指導者、担当教員
6	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理を含む）の理解	実習指導者、担当教員
8	社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	実習指導者、担当教員
9	ソーシャルワーク実践に求められるアウトリーチ ・ネットワーキングなどの技術の実践的理解	実習指導者、担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅱ及び実習Ⅱに繋げていく。

受講生に望むこと	・実習ガイドブックを熟読し、意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』 早坂聡久　他編 弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	ソーシャルワーク実習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	真砂　良則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
24日間(180時間）にわたる実習を通して、ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士とし ての価値と倫理に基づく支援を行うため の実践能力を養う。支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について 把握する。さらに、支援を必要とする人の内的資源やフォ ーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・機関等が地域社会の中で果たす役 割を実践的に理解する。総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方 及びその具体的内容を実践的に理解する。	①利用者やその関係者との円滑な人間関係や援助関係が形成できる。 ②地域の課題や利用者のニーズ等について理解できる。 ③社会資源を活用した支援計画の作成と実施及び評価ができる。 ④実習施設・機関の機能・役割について理解できる。 ⑤社会福祉士の業務内容や職業倫理について実際的に理解できる。 ⑥ソーシャルワークの知識や技術について、総合的に対応できる能力が習得できる。

教授方法	実習施設の指導者による指導、担当教員による巡回指導等。
履修条件	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の単位を修得済の者。「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」を履修した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	利用者やその関係者(家族・親族、友人等）、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランテイア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成	実習指導者、担当教員
2	利用者やその関係者（家族・親族、友人等）との援助関係の形成	実習指導者、担当教員
3	利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価	実習指導者、担当教員
4	多職種連携及びチームアプローチの実践的理解	実習指導者、担当教員
5	当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ	実習指導者、担当教員
6	地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解	実習指導者、担当教員
7	施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理を含む）の理解	実習指導者、担当教員
8	社会福祉士の職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解	実習指導者、担当教員
9	ソーシャルワーク実践に求められる技術（アウトリーチ ・ネットワーキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション）の実践的理解	実習指導者、担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習施設の指導者による評価	60	・実習の態度 ・専門的知識、技術の習得の状況	担当教員による評価	40	・実習記録の内容等

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習の前に事前学習や実習計画、実習プログラム等の内容を再確認しておく。[30分] ②実習の後に実習課題に関する自己評価や内省を行うとともに疑問点等を調べ次に備える。[60分]	・実習記録等をもとに、実習指導者から指導を受ける。 ・巡回訪問時等の面接により、担当教員から気づきを促していく。 ・実習を終えての内省や自己評価を実習指導Ⅲに繋げていく。

受講生に望むこと	・「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の学びを踏まえ、より良い実習となるよう意欲的に取り組む。 ・実習及び実習指導は社会福祉士という国家資格の取得を目指すものであるということを常に意識すること。 ・社会福祉士の具体的なイメージを掴む。	教科書・テキスト	『ソーシャルワーク実習・実習指導』 早坂聡久　他編 弘文堂　2023年 ISBN978-4-335-61227-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	精神保健学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。また、現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際、および関連する専門職の役割、精神保健を維持、増進するために機能している専門機関や関係職種の役割と連携について理解する。また、国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。 他のスクールソーシャルワーカー関連科目を意識した専門的な内容を展開する。	1．現代の精神保健分野の動向と課題を理解し、説明できるようにする。 2．精神保健の基本的考え方を理解し、説明できるようにする。 3．現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、説明できるようにする。 4．精神保健の保持・増進と発生予防のための支援および専門機関や関係職種の役割と連携について理解し、説明できるようにする。 5．スクールソーシャルワーカーに必要な基礎知識を習得する。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	精神保健の概要：ライフサイクルと精神保健、生活習慣と精神の健康、講義オリエンテーション	
2	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方：精神保健の動向、精神保健活動の三つの対象、精神の健康に関する心的態度、生活と嗜癖	
3	家族に関連する精神保健の課題と支援（1）：家族関係における暴力と精神保健、出産・育児をめぐる精神保健、介護をめぐる精神保健、社会的ひきこもりをめぐる精神保健	
4	家族に関連する精神保健の課題と支援（2）：家族関係の課題、グリーフケア、精神保健支援を担う機関	
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（1）：学校教育における精神保健的課題、教員の精神保健	
6	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ（2）：関与する専門職と関係法規、スクールソーシャルワーカーの役割、学校精神保健にかかわる社会資源	
7	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ：現代日本の労働環境、産業精神保健とその対策、職場のメンタルヘルスのための相談、職場内の問題を解決するための機関および関係法規	
8	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（1）：災害被災者の精神保健、犯罪被害者等の支援、自殺予防、身体疾患に伴う精神保健、貧困問題と精神保健、社会的孤立	
9	精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（2）：性的マイノリティと精神保健、多文化に接することで生じる精神保健上の問題、反復違法行為と精神保健、高齢化と精神保健	
10	精神保健に関する発生予防と対策（1）：精神保健の予防の考え方、アルコール関連問題に対する対策、薬物依存対策、ギャンブル等依存対策	
11	精神保健に関する発生予防と対策（2）：うつ病と自殺防止対策、子育て支援と暴力、虐待予防、認知症高齢者に対する対策、発達障害者に対する対策、社会的ひきこもりに対する対策、災害時の精神保健に対する対策	
12	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題：関連法規、精神保健に関わる人材育成、精神保健における偏見・差別	
13	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（1）：国の機関とその役割、精神保健に関係する法規、多職種の役割と連携	
14	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携（2）：地域精神保健にかかわる行政機関の役割および連携、学会や啓発団体、セルフヘルプグループと地域精神保健を課題とした市民団体	
15	諸外国の精神保健活動の現状および対策：世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動、諸外国の精神保健医療の実情	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）	レポート・授業内確認テスト等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、テキスト・資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．相談援助の専門職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では精神保健のニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、最新　精神保健福祉士養成講座『２現代の精神保健の課題と支援』中央法規、2021. ISBN:978-4-8058-8253-5
指定図書／参考書等	なし／なし　必要な資料を講義毎に配布します。	その他・特記事項	必要に応じて授業内で資料を配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	スクールソーシャルワーク論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	スクール（学校）ソーシャルワーカー				

授業の概要	授業の到達目標
講義を中心に、教育現場での子どもの現状、および家庭や地域社会の動向について理解するとともに、スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての子どもを取り巻く環境との関係性のとらえ方について学ぶ。また、スクール（学校）ソーシャルワーカーの発展過程、役割、実践モデル、支援方法等を理解する。 必要に応じて、資料や事例検討、グループ協議等を用いる。	1．今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性を理解し、説明できるようにする。 2．スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程について理解し、説明できるようにする。 3．海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動について理解し、説明できるようにする。 4．スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデルについて理解し、説明できるようにする。 5．スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョンの必要性について理解し、説明できるようにする。

教授方法	講義
履修条件	「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得済みの者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	講義オリエンテーション スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の内容、位置づけ	
2	今日の学校教育現場が抱える課題とその実態、及びスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義	
3	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢①（不登校、非行、学齢期の児童虐待）	
4	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢②（特別支援教育、学習遅滞・学習障害、教育福祉）	
5	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢③（家族の抱える課題、外国児童の就学問題）	
6	スクール（学校）ソーシャルワークの価値・倫理	
7	スクール（学校）ソーシャルワークの発展過程、アメリカや他諸外国及び日本のスクール（学校）ソーシャルワークの発展過程の概要	
8	海外のスクールソーシャルワーカーの役割と活動、アメリカや他諸外国のスクールソーシャルワーカーの役割と活動	
9	スクール（学校）ソーシャルワークの実践モデル（生態学的視点、ストレングスの視点、エンパワメントの視点）	
10	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル①）（学校内の支援ケース会議、校内協働、コンサルテーション）	
11	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル②）（学校と関係機関の協働支援、校外協働）	
12	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例（メゾ・レベル③）（社会資源の開発）	
13	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル①）（スクールソーシャルワーカー活用事業）	
14	スクール（学校）ソーシャルワークの支援方法、スクール（学校）ソーシャルワークの教育行政への支援（マクロ・レベル②）（教育委員会との協働、各地の教育委員会が実施するスクールソーシャルワークに関する事業）	
15	スーパービジョン、スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン（スーパービジョン体制、スーパービジョンの方法）、全体まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	50	授業への参加状況、受講態度、提出物等（課題、小テスト・ミニレポート・ワークシート含む）	授業内確認テスト・レポート等	50	授業内容の理解、レポート・ワークシートの記載内容

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎回、資料等で授業を振り返り、学びを定着させる。[30分以上] 2．社会の事象に関心を持ち、福祉・教育分野との関係を意識する、まとめる。 3．社会福祉、教育現場への理解を深めるため、施設・機関への見学、ボランティアに参加する。	確認テスト等は、結果とともに内容を解説する。テスト内容や評価に関する疑問・質問等には随時対応する。

受講生に望むこと	1．学校教育における相談援助職を目指す者として、基本となる概念や知識を主体的、かつ、積極的な姿勢で学び習得するよう期待します。 2．現代社会では教育現場におけるニーズや課題は多様化し、範囲も広がっています。他の科目との関係や、関連するニュース・社会的事象に関心を持つようにしてください。	教科書・テキスト	必要な資料を講義内で配布します。
指定図書／参考書等	なし／山野則子・野田正人・半羽利美佳編著『よくわかるスクールソーシャルワーク　第2版』ミネルヴァ書房、2016. ISBN: 978-4-623-07834-9	その他・特記事項	とくになし。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯学習概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	高橋　律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
生涯学習及び社会教育施設の本質と意義の理解を図り、学ぶことの楽しさを理解することから始めます。自分自身の学びを振り返りながら、今後の生涯学習社会の在り方について理解を深めます。 ※SDGs目標番号4関連科目	①生涯学習を通して「学ぶ」意味について理解する。 ②社会教育施設の役割について理解を図る。 ③社会教育施設の見学を通して現在の生涯学習の在り方について理解を図る。 ④今後の生涯学習社会の在り方について考察する。

教授方法	基本的に講義形式となりますが、ディスカッションやグループワークも併用し、積極的な参加を求めます。校外学習があります。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価について説明した後、「生涯学習」とは何かについて考えます。	
2	学習について：自分自身のこれまでの学びを振り返りながら、「学習」についての理解を深めます。	
3	芸術文化と生涯学習Ⅰ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
4	芸術文化と生涯学習Ⅱ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
5	学習の内容Ⅰ：生涯学習において何を学ぶべきか考えます。	
6	学習の内容Ⅱ：生涯学習社会において何を学ぶべきか考えます。	
7	芸術文化と生涯学習Ⅲ：生涯学習の視点から映画を視聴し、分析を試みます。	
8	芸術文化と生涯学習Ⅳ：視聴した映画の分析内容を共有することで学びを深めます。	
9	生涯学習施設を知るⅠ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境をどのように作っているのか理解します。	
10	生涯学習施設を知るⅡ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
11	生涯学習施設を知るⅢ：生涯学習施設を見学し、学習しやすい環境はどうあるべきか考えます。	
12	生涯学習施設を知るⅣ：生涯学習施設を見学し、考えたことを共有し、学びを深めます。	
13	生涯学習プログラムについてⅠ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
14	生涯学習プログラムについてⅡ：生涯学習プログラムをどのように企画実施するか、実践的に学びます。	
15	生涯学習についての総括：生涯学習について学んだことを総括し、最終レポートにまとめます。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への積極的な参加	50	出席だけでなく、ディスカッションやグループワークなどでの積極的な発言を評価します。	小レポート	20	授業内で数回実施する課題について、理解できているかどうか評価します。
最終レポート	30	最終授業で総括としてレポート提出を求めます。自分自身の課題として生涯学習をとらえることができているか評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」(学校内、学校外とも)してきたか、振り返っておいてください。[30分]	授業内でフィードバックを行います。

受講生に望むこと	集中講義のため1日の欠席が４回の欠席扱いとなります。体調管理にも留意してください。	教科書・テキスト	特に用いません。
指定図書／参考書等	なし/リンダ・グラットン『ライフ・シフト』東洋経済新報社、2016、ISBN13：978-4492533871	その他・特記事項	特になし。

実務経験を活かした授業の概要

学芸員としての経験をもとに、金沢市内の図書館及び美術館などの社会教育施設の現場見学を取り入れつつ、具体的な学習支援の方法と内容の理解を深められるよう講義を行う。

授業科目名	図書館サービス概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを目指す。	①図書館サービスの意義・構造について理解する。 ②資料提供サービスの基本について理解する。 ③様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する。 ④図書館ネットワークについて理解する。 ⑤障碍者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する。 ⑥図書館と著作権について問題意識を持って理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館サービスの意義（1）図書館の構成要素とサービスの役割	
2	図書館サービスの意義（2）図書館サービスの類型化	
3	図書館サービスとマネージメント（1）計画の立案と評価	
4	図書館サービスとマネージメント（2）図書館の「新・望ましい基準」	
5	来館者へのサービス	
6	利用空間の整備	
7	貸出サービスの構造	
8	資料提供の展開（1）リクエストサービス	
9	資料提供の展開（2）資料収集の方針	
10	情報提供サービス	
11	利用対象に応じたサービス（1）障碍者サービス、高齢者サービス	
12	利用対象に応じたサービス（2）児童サービス	
13	利用対象に応じたサービス・利用者とのコミュニケーション	
14	図書館サービスの課題：情報提供と著作権	
15	これからの図書館サービスのあり方について（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	30	授業内で小テストを実施する。	授業内課題	10	授業内での作業・コメントなどの成果を評価する。
レポート	40	①授業で指定した内容をまとめ，②同一内容を扱う別の文献を探し，内容をまとめる。③双方の見解に基づいて意見をまとめ，④期限までに指定書式にて提出する。	授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業資料を活用した復習を推奨する。図書館を日常的(できれば週1回以上)に活用することを心がける。 また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。 各回の復習をノートや資料を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ小テスト終了後に問題の解説を行う。レポートは必要に応じてClassroomなども利用しフィードバックをする。

受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報サービス論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。	①図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する。 ②資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する。 ③図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する。 ④各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける。

教授方法	講義，スライドを使用した形式で実施
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する	
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか	
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか	
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方	
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは	
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価	
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動	
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解	
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには	
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能	
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力	
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容	
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方	
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方	
15	情報サービスを行う意義：まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。	授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。 図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ期末テスト終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著．日本図書館協会，2012．（JLA図書館情報学テキストシリーズ 3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	児童サービス論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
児童サービスは全ての図書館サービスの中でも大変重要なサービスの一つである。サービスの対象者である児童は人として尊ばれ社会の一員として尊重されなければならず、よい文化環境（図書館）が必要だからである。その図書館を運営するのは子どもを知り、本を知り、子どもと本を結ぶことに使命感を持つ図書館職員である。そのような児童図書館員を養成するための授業を講義および実践を取り入れて実施する。	①児童サービスに必要な資料（絵本、児童文学、知識の本他）を知り、子どもを楽しく豊かな本の世界に導き、子どもが求める知識や情報を手に入れる方法を理解する。 ②子どもの発達段階および子どもを取り巻く環境を知り、最適な時に最適な本を提供することができることをめざす。 ③子どもと本をつなぐ手法を学び図書館および関連機関で実践できる基礎力を身につける。

教授方法	基本的に講義による授業および実践。レポート作成。
履修条件	「図書館概論」「図書館ｻｰﾋﾞｽ概論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	児童サービスの意義・目的および歴史を説明する。（児童サービスの重要性・必要性を理解する。）	
2	子どもの発達および子どもを取り巻く社会・環境を説明する。（子どもを知ることができる。）	
3	児童資料の種類と特色①類型および絵本について説明する。（絵本を知り選書の力を習得する。）	
4	児童資料の種類と特色②児童文学について説明する。（子どもがよい物語を持つ意味について理解する。）	
5	児童資料の種類と特色③ノンフィクション他の資料およびレファレンスについて説明する。（子どもが図書館で情報処理能力を高める重要性を理解する）	
6	児童資料の選択および整理について説明する。（子どもが利用しやすい児童室づくりを習得する。）	
7	児童サービスの諸活動を説明する。（資料提供、フロアーワーク、集会行事、展示など実際に行われるサービスを知り実践に役立つ力を身に付ける。）	
8	児童サービスの運営について説明する。（運営計画および評価、市民との協働について理解し組織的にサービスを展開できる基礎力を養う。）	
9	子どもと本をつなぐ①読み聞かせ、ストーリーテリングを説明し実践する。（読み聞かせ、ストーリーテリングを学び実践できる基礎力を身につける。）	
10	子どもと本をつなぐ②ブックトークを説明し実践する。（ブックトークを理解し、実践力を養う。）	
11	乳幼児サービスについて説明する。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
12	ヤングアダルトサービスについて説明する。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を養う。）	
13	特別支援の必要な子どもたちへのサービスについて説明する。（意義と現状を理解し、対象資料およびサービスの展開を知り実践力を習得する。）	
14	学校図書館への支援と連携・協力および関係機関との連携について説明する。（子どもにとって本と出合う一番身近な学校図書館について理解し、どんな支援・連携・協力が必要かを理解する。）	
15	講義全体のまとめをし、児童サービス担当者の役割を再認識させる。（子どもと本をむすぶ仕事の重要性を理解し、キャリアアップする手立てを習得し今後に生かす。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢等	期末試験	40	筆記試験
実践・レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・身近な図書館を利用し児童室を配架・展示などに気をつけ見学する。利用案内、ブックリストなどを入手しおはなし会などのサービスを実際に見学する。（事前に開催日時を確認し図書館の了解を得ること）［60分］ ・指定図書、参考図書には目を通し、紹介されている本、講義中におすすめする本はできるだけ読むこと。［120分］ ・子どもと本を結ぶ技法（絵本の読み聞かせ、おはなし、わらべうた、ブックトークなど）を習得し実践できるようにする。［120分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	本と子どもを知るためにできるだけ本を読み、本の楽しさを味わうとともに、身近な子どもを観察する。子どもと本を結ぶための技法を身につけるために自己研鑽をしてほしい。	教科書・テキスト	『児童サービス論　新訂版』JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ６ 堀川照代編著 日本図書館協会 2020年 ISBN 978-4-8204-1909-9
指定図書／参考書等	なし／『子どもと本の世界に生きて』E.コルウェル著 石井桃子訳 こぐま社 2018年 ISBN4-7721-9017-6『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年 ISBN978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中公新書 1980年 ISBN 978-4121005632『児童文学論』ﾘﾘｱﾝ・H・ｽﾐｽ著 岩波現代文庫 2016年 ISBN 978-4-00-602282-2『新編子どもの図書館』『児童文学の旅』『エッセイ集』（石井桃子ｺﾚｸｼｮﾝⅢⅣⅤ）岩波現代文庫 2015年 ISBN Ⅲ978-4-00-602254-9 Ⅳ978-4-00-602255-6 Ⅴ978-4-00-602256-3	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

子どもたちへ、児童サービス（絵本の読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク、わらべうた）を数多く実践してきた経験から、学生たちにその手法を実際に見せ、より具体的に教えている。

授業科目名	情報資源組織論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解することを目的とする。	①資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する。 ②記述目録法について学び、書誌記述法を理解する。 ③主題分析・分類法・索引法について理解する。 ④日本目録規則にもとづく目録法を理解する。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	資料組織化の意義について	
2	書誌コントロール（1）書誌とは何か	
3	書誌コントロール（2）全国書誌・OPACとは	
4	書誌情報の作成・流通・管理	
5	記述目録法の基礎―概要と記述の範囲	
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号	
7	記述目録法作成の実際（1）タイトルと責任表示、版表示に関する事項	
8	記述目録法作成の実際（2）出版頒布・形態に関する事項	
9	記述目録法作成の実際（3）シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項	
10	記述目録法作成の実際（4）標目と排列	
11	主題分析と分類法・索引法	
12	分類法の実際（1）分類総論	
13	分類法の実際（2）日本十進分類法	
14	分類法の実際（3）その他の分類法	
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ・授業まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を実施する。目録の基礎知識及び基本的な技術を習得している必要がある。	授業内課題	20	目録の知識を確認するため記述式などの形式で課題を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか，教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ期末テスト終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『情報資源組織論　三訂版』柴田正美，高畑悦子著．日本図書館協会，2020.（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ； 9） ISBN:978-4-8204-1915-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館制度・経営論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	三田村　悦子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて説明し、図書館の意義や社会的役割を理解させる。 図書館の組織および施設、サービス計画の実例を参考に説明し、図書館経営に必要な知識を習得させる。	①図書館に関連する法律、条例等を学び図書館の法的根拠を把握し、図書館の意義と社会に果たす役割を理解する。 ②図書館の組織・職員について学び運営方法を習得しサービス計画を立てる力を養う。 ③図書館の管理運営形態について学び、これからの図書館の在り方を考察する。

教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成
履修条件	「図書館概論」「図書館ｻｰﾋﾞｽ概論」の履修済みが望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館をめぐる法体系を説明する。（日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法を理解し図書館の法的位置づけを把握する。）	
2	図書館法について考察する①（図書館法第１条から９条までを学び図書館の目的・図書館奉仕などを理解する。）	
3	図書館法について考察する②（図書館法第１０条から２９条までを学び公立図書館の設置・職員・図書館協議会および無料の原則を理解する。）	
4	地方自治体の図書館関連条例などを説明する。（地方自治法、条例・規則・内規・要項・マニュアルを学び図書館運営の法的根拠を理解する。）	
5	他館種の図書館に関する法律などを説明する。（学校図書館・国立国会図書館・大学図書館などの法的根拠を理解し、他館種との連携、協力方法を習得する。）	
6	図書館サービス関連法規を説明する。（子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法、著作権、個人情報の保護に関する法律などを学び図書館サービスの法的根拠を理解する。）	
7	国、地方自治体の図書館政策を説明する。（国の政策、各自治体の政策の具体例を考察する。）	
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営を説明する。（公立図書館経営の理念と運営および危機管理について理解する。）	
9	図書館の組織・職員について説明する①（図書館の組織、館長の役割、図書館職員の在り方を理解し、求められる職員像を認識する。）	
10	図書館の組織・職員について説明する②（図書館協議会や図書館を支える団体、ボランティアについて理解し、図書館運営への関わり方を考察する。）	
11	図書館の施設・設備について説明する。（図書館建築のあり方を理解し、建築計画書の実例に基づき図書館施設のあるべき姿を認識する。）	
12	図書館サービス計画と予算の確保について説明する。（サービス計画の実例を考察し、実際に立案・策定できる能力を習得する。）	
13	図書館業務/サービスの調査と評価について説明する。（評価の実例を考察し、効率的・効果的な図書館運営を学ぶ。）	
14	図書館の管理形態の多様化について説明する。（業務委託、指定管理者制度、PFIの問題点について学び、望ましい図書館の管理運営について考察する。）	
15	講義全体のまとめをし、公立図書館の課題と今後の展望について説明する。（複本購入批判、貸出猶予問題、予約・リクエストの在り方などの課題を検討し、今後の図書館経営を考察する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	事前・事後学習も含めた授業への取り組み姿勢・発言等	期末試験	40	筆記試験
レポート	40	課題を的確に把握した内容であり、自分独自の考えがまとめられているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・県内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等の利用・見学をし、できれば条例・サービス計画の説明を聞く機会を持つ。［60分］ ・事前にテキストの章に目を通しておく。［120分］ ・参考図書および講義中に紹介する図書に目を通し講義内容を深める。［120分］	課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	図書館関係の雑誌や新聞の記事に関心を持ち最新の情報を得るように心掛ける。図書館情報学関係のウェブサイトにアクセスして情報の閲覧、理解に努める。	教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第２版』ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望５　手島孝典編著　学文社　2017年 ISBN 978-4-7620-2701-7
指定図書／参考書等	なし／『生きるための図書館』竹内 悊著 岩波新書 2019年 ISBN 978-4-00-431783-8/『読書からはじまる』長田弘著 日本放送出版協会 2004年 ISBN4-14-080564-1『つながる図書館』猪谷千香著 ちくま新書 2014年 ISBN 978-4-480-06756-2『新図書館法と現代の図書館』塩見昇他編著 日本図書館協会 2009年 ISBN 978-4820409151『図書館制度・経営論』糸賀雅児・薬袋秀樹編著 樹村房 2013 ISBN 978-4-88367-202-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

館長の経験を活かして、図書館制度の重要性および図書館経営の在り方を実例を挙げてより具体的に説明している。

授業科目名	情報サービス演習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。 情報サービス演習Ⅰでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。	①情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得する。 ②一般的な情報リテラシー能力の習得と向上。 ③情報の評価能力 （情報内容の判断）の習得と向上。 ④情報発信能力 （回答の作成・提供）の習得と向上。

教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報サービス論」を履修した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容	
2	ネットワーク、 ディジタル情報源の特性、 情報検索技術の基礎知識	
3	情報検索システムの基礎知識 （データベース構成／論理演算　等）	
4	ウェブ情報源の検索 （1） サーチエンジンの使い方とブール演算	
5	ウェブ情報源の検索 （2） サーチエンジンによるウェブ情報の検索	
6	ウェブ情報源の検索 （3） 検索結果と情報源の評価	
7	図書情報の検索 （1） 目録と書誌	
8	図書情報の検索 （2） 主題とアクセスポイント	
9	図書情報の検索 （3） 各図書館OPAC、 総合目録等	
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、 ニュースサイト等	
11	雑誌記事の検索 （1） 雑誌記事データベース、 索引類	
12	雑誌記事の検索 （2） 引用の活用	
13	雑誌記事の検索 （3） 主題検索	
14	総合演習 （1） レファレンス質問を想定した実践演習　質問の分析と戦略立案	
15	総合演習 （2） レファレンス質問を想定した実践演習　検索と回答作成	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。	小課題	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみること。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみること。 また、情報検索には幅広い知識が求められるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。 課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜Classroomなども利用する。

受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をすること。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をすること。	教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報サービス演習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。	①レファレンスサービスのプロセスを理解する。 ②レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する。 ③レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う。 ④レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める。 ⑤基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する。

教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	レファレンスサービスの基礎・復習	
2	レファレンスブック評価の仕方	
3	情報源の評価（1）目録・書誌・索引	
4	情報源の評価（2）辞書・事典	
5	情報源の評価（3）便覧・年鑑類	
6	情報源の評価（4）地名・人名	
7	情報源の評価（5）各種の専門領域	
8	情報の探索（1）ことばの情報	
9	情報の探索（2）事柄・事物・現象の情報	
10	情報の探索（3）人物・団体の情報	
11	情報の探索（4）地名・地理の情報	
12	情報の探索（5）歴史・時事の情報	
13	情報の探索（6）統計の情報	
14	情報の探索（7）書誌情報	
15	情報の探索　まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていること。	演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に応えることができること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。 日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際，ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。 各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。	課題発表時に口頭でコメントをする形でフィードバックをする。

受講生に望むこと	課題が多く与えられるので，図書館情報資源を用いて課題作成に取り組むこと。授業では作成した課題を発表する機会があり，他の履修者や教員に分かりやすく説明することも求められる。	教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報資源組織演習Ⅰ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。	①多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 ②具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。

教授方法	演習、主にコンピュータを使用する
履修条件	「司書資格」取得希望者かつ、「図書館概論」の単位を修得済みの者、「情報資源組織論」を履修した者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。	
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。	
3	コンピューターによる目録記述方法を学ぶ。	
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（基礎的な資料）	
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。（応用的な資料）	
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。	
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。	
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。	
12	メタデータ記述方法を解説する	
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（Webサイトなど）	
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。（データベースなど）	
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。	課題の提出について随時添削を行い返却もしくは，直接説明を行う。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に過去の教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。 返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において原状復帰し返却すること。 必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報資源組織演習Ⅱ			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。	①主題分析について、演習を通じて理解する。 ②分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する。 ③分類の規則について、演習を通じて理解を深める。

教授方法	演習
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習Ⅰ」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。	
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。	
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）	
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）	
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。	
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。	
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①授業課題に対し真摯に取り組んでいる。②教員の発問に対し意欲的に回答をしている。	授業前準備・復習	10	①授業実践のための事前学習を行っている。②授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。 図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。 各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。	課題発表を行い、その場で教員がコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版　簡易版』もりきよし原編，日本図書館協会分類委員会改訂　日本図書館協会 2018年　ISBN:9784820418078
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	図書館情報資源概論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	若杉　亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	司書				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質，生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。	①印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 ②出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 ③蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 ④人文科学、社会科学、自然科学、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 ⑤資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。

教授方法	講義
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	図書館情報資源とは	
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史	
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料	
4	非印刷資料について	
5	灰色文献について	
6	政府刊行物・地域資料について	
7	映像資料・音声資料について	
8	電子資料・ネットワーク情報源について	
9	電子コンテンツと電子出版について	
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義	
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度	
12	資料の収集と選択について	
13	人文科学分野の情報資源とその特性	
14	社会科学分野の情報資源とその特性	
15	自然科学分野の情報資源とその特性	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。図書館で取り扱う各種の情報資源について理解できている必要がある。	レポート	20	レポート課題について、課題の要件を満たしており十分な内容があること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。	希望に応じ期末テスト終了後に問題の解説を行う。必要に応じてClassroomなども利用する。

受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨むこと。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問すること。	教科書・テキスト	『図書館情報資源概論　三訂版』馬場俊明著．日本図書館協会，2024.（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；8） ISBN:978-4-8204-2309-6
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	必要に応じClassroomより資料配布，課題の出題・回収を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公認心理師の職責			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	植田　峰悠・齊藤　英俊　（代表教員　植田　峰悠）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
公認心理師の役割、責任、業務内容を学ぶ。心理学だけでなく倫理、医療、教育、福祉、司法、資格に関連する法律など、公認心理師に関わる広範な内容を学習する。	1)公認心理師の役割を説明できること。 2)公認心理師の法的義務及び倫理を説明できること。 3)心理に関する支援を要する者等の安全の確保を説明できること。 4)情報の適切な取扱いを説明できること。 5)各分野における公認心理師の具体的業務を説明できること。 6)自己課題発見・解決能力を説明できること。 7)生涯学習への準備を説明できること。 8)多職種連携及び地域連携を説明できること。

教授方法	講義、演習。
履修条件	公認心理師を目指す者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公認心理師の職責：導入	齊藤・植田
2	公認心理師の役割	植田・齊藤
3	公認心理師の法的義務・倫理	齊藤・植田
4	クライエント／患者らの安全の確保のために	齊藤・植田
5	情報の適切な取り扱いについて	植田・齊藤
6	保健医療分野における公認心理師の具体的な業務	植田・齊藤
7	福祉分野における公認心理師の具体的な業務	植田・齊藤
8	教育分野における公認心理師の具体的な業務	植田・齊藤
9	司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務	植田・齊藤
10	産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務	植田・齊藤
11	支援者としての自己課題発見・解決能力	齊藤・植田
12	生涯学習への準備	齊藤・植田
13	多職種連携・地域連携	齊藤・植田
14	公認心理師の今後の展開	齊藤・植田
15	公認心理師の職責のまとめ	齊藤・植田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	30	講義中に提示する小課題の完成度をみる	講義参加態度	30	課題、発表、質問などの参加態度をみる
期末試験	40	講義内容の理解度をみる			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
与えられたテーマについて予習すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]	小レポートは返却時にフィードバックする。

受講生に望むこと	公認心理師の関連科目である。そのため、資格取得を目指す学生の真摯で積極的な学習が望まれる。	教科書・テキスト	『公認心理師の職責　第2版』　野島一彦（編）遠見書房 2023年（ISBN:978-4866161662）
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

植田：単なる職務内容の紹介にとどまらないよう、なぜそうすべきであるのか、どのように行うのかについて実務経験をふまえ解説を行う。

授業科目名	学習・言語心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	加藤　仁						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
人間が経験に基づきどのように変化するかを、主に行動の変化と言語の習得を中心に学ぶ。基本的には講義形式で進めるが、必要に応じてディスカッションの機会を設ける。	(1) 経験を通して人の行動が変化する過程を説明できる。 (2) 言語の習得における機序について概説できる。

教授方法	講義形式
履修条件	「認定心理士」あるいは「公認心理師」資格取得希望者が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：学習心理学および言語心理学について概説する。また、授業の進め方や成績評価基準などを説明する。	
2	学習・行動領域の心理学（パヴロフの条件反射，ソーンダイクの試行錯誤学習・効果の法則、ワトソンの恐怖条件づけ、トールマンの認知地図）	
3	行動の測定と実験デザイン（行動の定義、反応型と行動の機能、様々な観察法）	
4	生得性行動（生得性と学習性、刺激と反応の随伴性、刻印づけ、馴化の法則）	
5	レスポンデント条件づけ（無条件・条件刺激、無条件・条件反応、中性刺激）	
6	オペラント条件づけ（強化・弱化、強化子・弱化子、正の強化子・負の強化子、条件強化子）	
7	強化随伴性（確立操作、遮断化、飽和化、強化スケジュール）	
8	刺激性制御（弁別刺激、同時弁別、継時弁別、条件性弁別刺激）	
9	言語に関する理論と研究（言語の４領域（音韻・語彙・文法・語用論）、スキナーの言語学習理論・模倣言語行動、生成文法理論、普遍文法）	
10	言語に関する理論と研究（認知言語学、社会語用論的アプローチ、非言語的・前言語的コミュニケーション、ナラティブ、ディスコース、言語と推論、言語と文化）	
11	語彙の獲得過程（クーイング、喃語、初語、一語発話、二語発話、概念カテゴリー、理解語、産出語（表出語彙））	
12	語彙の獲得過程（語彙カテゴリー、指示対象と語のマッピング、相互排他性、社会的手がかり、語彙の爆発的増加、認知的制約）	
13	文法能力の発達（構文の発達、埋め込み文、語順、文法形態素の獲得（助詞、助動詞））	
14	言語の生物学的基礎と障害（言語における脳機能、失語症（ブローカ失語、ウェルニッケ失語、超皮質性運動失語、超皮質性感覚失語、伝導失語）、読字障害（ディスレクシア））	
15	全体のまとめ：学習心理学および言語心理学のまとめを行い、それぞれの心理学の社会での展開について説明する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	60	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。	受講態度	10	発表、質問、グループディスカッションなどの参加態度をみる。
小レポート	30	小レポートの完成度を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
シラバスを確認し、毎回扱う内容を予習すること。［60分］ 学習した内容が定着するよう復習すること。［90分］	小レポート等の提出物については、次回講義時にフィードバックを行う。

受講生に望むこと	この授業の配当年次までの心理学系の授業内容を理解していることが前提の講義であるため、事前によく復習をしておくこと。 シラバスの内容をよく確認した上で受講すること。 学習に自発的、積極的に取り組むこと。	教科書・テキスト	毎回、教員が作成した資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	神経・生理心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	森　彩香						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は公認心理師を目指すにあたり必要な科目である。 本授業では脳・神経の役割を理解し、患者さんの症状理解に必要な基礎知識を学ぶ。脳や神経が行動や心理・精神にどのような影響を与えているのかを知り、脳神経が障害された場合にはどのような症状が生じるのかを学ぶ。	以下の項目内容に関する知識を習得し、自らの言葉で概要を説明できるようになることを目標とする。 ①脳神経系の構造および機能について ②各種神経心理学的症候について ③神経心理学領域における心理的支援について

教授方法	基本的に講義形式を予定しているが、適宜ディスカッションやグループワークも取り入れる。
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の進め方や成績評価基準の説明	
2	神経・生理心理学の概要：神経系や高次脳機能について学ぶ	
3	脳神経の構造①：脳神経系の構造および機能について学ぶ	
4	脳神経の構造②：脳神経系の構造および機能について学ぶ	
5	神経心理学的アセスメント：高次脳機能障害のアセスメントについて学ぶ	
6	注意障害の概要：注意障害の症状について学ぶ	
7	注意障害の対応：注意障害の対応について学ぶ	
8	記憶障害の概要：記憶障害の症状について学ぶ	
9	記憶障害の対応：記憶障害の対応について学ぶ	
10	遂行機能障害の概要と対応：遂行機能障害の症状とその対応について学ぶ	
11	社会的行動障害の概要と対応：社会的行動障害の症状とその対応について学ぶ	
12	失語の概要と対応：失語の症状とその対応について学ぶ	
13	失行・失認の概要と対応：失行・失認の症状とその対応について学ぶ	
14	神経心理学領域における各種支援法について学ぶ	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパー及び小テスト	40	リアクションペーパー（毎回）：授業内容をもとに自分自身の考えを述べることができるかどうかを評価する。 小テスト（不定期）：授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業前にシラバスを確認し、該当する教科書のページを読んでおく［60分］。 授業後に、自分自身のこれまでの体験が授業で習得した内容とどのように関わっているのかを自分なりに考察する［60分］。	提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対してコメントをする。 小テストについても、次回講義時に全体に対して解説をする。

受講生に望むこと	脳の働きや脳損傷における心理・行動障害についてを学び、自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指してください。	教科書・テキスト	教科書：『高次脳機能障害の病態・ケア・リハがトータルにわかる』浜松市リハビリテーション病院 高次脳機能センター, 照林社出版, 2021年出版 , ISBN:9784796525428.
指定図書／参考書等	指定図書：なし 参考書等：『公認心理師必携テキスト 臨床神経心理学［神経・生理心理学］』緑川晶・山口加代子・三村將,医歯薬出版,2018年出版 ,ISBN：978-4-263-26561-1.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	人体の構造と機能及び疾病			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	社会福祉士・スクール（学校）ソーシャルワーカー・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
医療を理解するには、人の体の構造と機能をある程度理解し記憶していることが重要になります。この構造と機能を理解するときには、病気を例にして講義することが役立つことがありますので、少数の病気にも言及することも行います。将来，皆さんが自分で病気などを調べる時の基礎知識と考えを講義では示したいと思います。	人体の構造と機能の基礎知識を身につける。それをもとに，病気をどのように捉えるかの考え方を身につける。

教授方法	テキストと配布資料をプロジェクターで映しながら講義する。講義内容に関する小テストを行い、提出してもらい点数化する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション．序章人体解剖の歴史の講義から解剖生理の重要性を理解してもらう。	
2	1章総論．筋骨格系を講義する。骨と筋の特徴を理解し知識を獲得する。	
3	1章総論．循環器系を講義する。血管の特徴と動脈と静脈の特徴そしてリンパ管の特徴を理解し知識を獲得する。	
4	1章総論．消化器系を講義する。消化器の消化吸収のしくみや動きを理解し知識を獲得する。	
5	1章総論．呼吸器系の構造と機能を理解し知識を獲得する。	
6	1章総論．泌尿生殖器系と内分泌の構造と機能を理解し知識を獲得する。	
7	1章総論．神経系と感覚器系の構造と機能を理解し知識を獲得する。	
8	２章頭部・頸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
9	２章頭部・頸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
10	3章胸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する.	
11	3章胸部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する.	
12	4章腹部・背部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
13	4章腹部・背部の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
14	5章上肢・下肢の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	
15	5章上肢・下肢の構造と機能を骨、筋、血管、神経、内臓を一括して理解して知識を獲得する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	小テスト	20	点数化して評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストは予習しておき、疑問点などがあれば自身で問いを立てておく。講義で自分でその解答を見つける（90分）。分からなければ、講師にその場で質問するか、時間がなければ、質問を用紙に書いて講師に渡すか、講師へメールで質問を送る。復習を行う（90分）。	試験後は答案用紙を返却し、解答を開示する。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	テキストは最初から最後まで読むこと。人体の色々な部位の構造と機能は関連しあっているので、最初は理解が難しくても、他の部位の内容を読むことで、理解ができることがあるので諦めないこと。	教科書・テキスト	『ぜんぶわかる人体解剖図』　坂井健雄，橋本尚詞（著）成美堂出版　2010年　ISBN: 9784415306193
指定図書／参考書等	なし/『カラーアトラス　人体　解剖と機能』第4版、横地ら、医学書院、2013年、ISBN:978-4-260-01646-9,『ジュンケイラ組織学』　第6版、坂井ら、丸善出版、2024年、ISBN-13 :978-4621308851、『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』 第2版、中野ら、医学書院、2023年、ISBN-13: 978-4260052153,『好きになる病理学』　第2版、早川、講談社、2019年、ISBN:978-4-06-517109-7	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	福祉心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	大矢　正則						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
福祉心理学は、福祉問題に関する心理学的研究であり、比較的歴史の浅い心理学の応用分野である。この学問で一定の理解を得るためには、社会福祉に関する基本的な知識と、心理学に関する基本的な理解の両方が必要になる。授業では、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者・被災者)を軸に章立てをし、その分野の福祉的な諸問題に、心理学がどのように役立つのかを問いを交えながら、順を追って説明していく。	①福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について概説できる。 ③虐待についての基本的知識を修得している。

教授方法	講義形式
履修条件	認定心理士あるいは公認心理師を目指す者が望ましい

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	現代社会における福祉をめぐる現状と課題(福祉心理学とは何か、現代社会の現状と課題)	
2	親子のアタッチメント関係と支援(アタッチメントの形成、アタッチメントの障害、アタッチメント形成を阻害する要因、アタッチメントの形成への支援、子育て支援の施策)	
3	児童虐待の理解と支援(児童を取り巻く虐待の現状、虐待による発達上への影響、児童の虐待防止対策と被虐待児への支援)	
4	社会的養護の課題と支援(社会的養護とは何か、社会的養護の制度と実施体系、社会的養護の実際、社会的養護における心理職の展望)	
5	夫婦間・カップル間暴力への支援(ドメスティック・バイオレンスとは何か、夫婦再統合に関する事例、夫婦再統合のための観点)	
6	貧困家庭への支援(貧困の定義・現状とその影響、貧困家庭への具体的支援策、支援の課題と方向性)	
7	自殺の背景の理解と支援(自殺の実態と対策の枠組み、自殺のメカニズムを説明する心理的理論、自殺対策における支援)	
8	障害と疾病の理解(障害者処遇を大きく変えたノーマライゼーション原理、共生社会の構築に向けて、障害の分類、障害者支援の観点)	
9	高齢者の心身機能の特徴(老年期の心理的適応、老年期の心理的特徴、老年期の心理的アプローチ、高齢福祉領域における多職種連携)	
10	認知症の理解と支援(認知症の定義と原因疾患、認知症の症状とアセスメント、認知症の人の理解と支援)	
11	介護と高齢者虐待(高齢者を介護する家族の心理と対応、介護保険制度と介護サービス、高齢者虐待の現状と有効な対応)	
12	災害と福祉①(災害と福祉心理学、こころのケアとウェルビーイング)	
13	災害と福祉②(災害における福祉心理学的援助の考え方)	
14	多職種連携による支援(福祉心理相談・支援の連携による支援について、福祉心理相談・支援の事例)	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	60	授業内容を理解できているか。毎日最後に実施する小テストの点数で評価する。	レポート	40	締め切り内に提出されたものについて、内容で評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①集中講義であるので、予習は難しいかもしれないが、日ごろから福祉に関する報道に関心を持ち、自分なりの考えを持っておくこと。 ②毎回講義後に復習すること。不明な点はインターネット(信頼できるサイト)や図書館等で調べるなどすること。授業時も質問を受け付けます。	小テストは、採点の上、返却する。

受講生に望むこと	皆さんと一緒にディスカッションしながら楽しい授業を目指します。大いに発言してください。	教科書・テキスト	特に用いません。毎回、詳しいレジュメを配布します。
指定図書／参考書等	なし／『福祉心理学』渡部純夫・本郷一夫(編著)　ミネルヴァ書房　ISBN978-4-623-08627-6.　『生活支援の障害福祉学』奥野英子・結城俊哉(編著)　明石書店　ISBN978-4-75032-6-306.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

”小・中・高等学校の校長として勤務する中で、児童相談所等の職員との連携により子どもの安全・安心の確保に努めている。また、病院倫理委員として高齢者および家族に対する職員の倫理に関して心理学的観点から意見を発信している。
自身の経験を踏まえ、福祉の対象となる側(乳児・児童・障害者・高齢者)を軸に章立てをし，その分野の福祉的な諸問題に，心理学がどのように役立つのかをペア・グループワークやディスカッションを交えながら説明する。”

授業科目名	司法・犯罪心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	宮城　徹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
司法・犯罪心理学に関する一般的な知識とこの分野で働く心理職が身につけておくべき基礎的知識を学ぶ。 参加学生にテキスト内容の説明を求め、それに解説を加える。さらに理解を深めるためにディスカッションを行う。 ※SDGs目標番号3、5、11、16関連科目	（1）犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基礎知識を習得し、概要を説明できる。 （2）犯罪・非行分野における心理支援について、その特徴を学び、概要を説明できる。 （3）離婚問題を中心とする夫婦と子どもの心理的問題を学び、それらについて理解を深める。

教授方法	学生主導でテキスト内容の確認を中心とし、ペアワーク、グループワーク（学生間討議）も行う。
履修条件	認定心理士や公認心理士等、心理学に関連する職を目指す者、教職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	この授業の目的とゴール：イントロダクション、関連法、施設、職種（1～21）	
2	Ⅰ．犯罪の原因：　生物学的要因、心理的要因（22～40）	
3	心理的要因つづき、社会的要因（41～59）	
4	社会的要因つづき Ⅱ．非行・犯罪への対応：非行（60～80）	
5	非行つづき DV　（81～99）	
6	DVつづき 虐待（100～120）	
7	物質・プロセス依存 窃盗・特殊詐欺・サイバー犯罪（121～140）	
8	窃盗・特殊詐欺・サイバー犯罪つづき Ⅲ.司法の手続きと対応の流れ 捜査、供述、精神鑑定（141～160）	
9	捜査、供述、精神鑑定　つづき サポートが必要な被害者や被疑者への聴取（161～179）	
10	サポートが必要な被害者や被疑者への聴取　つづき 目撃証言　（180～199）	
11	目撃証言つづき 裁判（200～220）	
12	金沢家庭裁判所見学（家庭裁判所調査官、書記官から学ぶ）	
13	裁判　つづき Ⅳ．支援：加害者の立ち直り支援（221～239）	
14	加害者の立ち直り支援　つづき 司法と被害者　（240～260）	
15	子ども支援（261～278） 補足および全体のまとめ、期末レポート説明	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	30	最終日講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。	受講姿勢	30	グループ発表での役割、発言、質問、グループディスカッションなどの参加姿勢をみる。
毎回授業後課題(宿題)	40	授業内容と自己学習に基づく基礎知識と自分なりの意見を展開して答えているかどうかをみる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・シラバスを確認し、毎回行うテキストの内容を予習してくること［毎回60分x3回分］ ・発表担当のグループメンバーは役割分担、内容理解、進め方などについて、しっかりと事前の打ち合わせをしておくこと。 ・学習した内容のうち、自分が特に関心を持った項目について、文献探索、購読を行うこと。これが期末レポートの基礎になる。	・毎日の課題に関しては、次回授業冒頭でフィードバック（総評）を行う。 ・期末レポート（メール提出）に関しては、コメントをつけてメール返信を行う。

受講生に望むこと	・集中講義であり、1日でテキストの60ページ分を学習することになる。十分にテキストを読み込んで授業に参加すること。翌日の予習に加え、その日に出された課題を当日中に提出する必要がある。したがって、集中講義期間直前、期間中は極力アルバイトなどは入れず、予習、復習に打ち込めるようにしておくことが望まれる。 ・指定されたテキストはわかり易く書かれている。必ず予習をし、用語や概念を理解し、疑問点を明らかにして受講すること。 ・授業では事前学習で得た知識をもとにして、討議に積極的に参加すること。 ・オンライン授業となった場合には、必ずビデオカメラをオンにして参加すること(バーチャル背景は使用してよい)。	教科書・テキスト	『入門　司法・犯罪心理学』（法と心理学会監修、綿村英一郎他編）2022　有斐閣　ISBN: 978-4641174740
指定図書／参考書等	なし／『犯罪心理学　ビギナーズガイド：　世界の捜査，裁判，矯正の現場から』　R．ブル、C.クック他著、仲真紀子監訳　2010　有斐閣　ISBN: 978-4-641-17369-9	その他・特記事項	本科目は集中講義であり、夏季に対面授業を実施する予定である。1回のフィールドワーク（金沢家庭裁判所見学）を計画している。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	精神疾患とその治療			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	曺 由寛						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、公認心理師として活動する上で関連の高い精神疾患について、特に心理師としての知識や理解を学習します。 特には、①精神疾患総論、②薬剤による心身の変化、③医療機関との連携を含みます。 講義形式だけでなく、ペアワークやグループワーク、ディスカッション、体験等も用いながら行います。 ※SDGs目標番号3、5、8、10関連科目	①精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む）についての理解及び説明をすることが出来る。 ②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について理解及び説明を することが出来る。 ③医療機関との連携について理解及び説明をすることが出来る。

教授方法	講義形式の授業
履修条件	学科指定の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【精神疾患とは】精神疾患の概要、歴史的変遷、臨床心理学の歴史等を学び、理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
2	【精神症状のみかた】意識、知覚、思考、感情、意欲・意志の異常について理解し、それぞれ分類等を含めて説明することが出来ることを目標とします。	
3	【精神疾患の診断】診断時の面接の際に、注意すべき事項や、聴取・観察すべき事項、評価尺度や心理検査について理解をし、説明することが出来ることを目標とします。	
4	【精神疾患と薬物療法】抗うつ薬、抗不安薬・睡眠薬、抗精神病薬、気分安定薬、認知症治療薬の分類、作用機序、効果と使い方、副作用を理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
5	【心理療法・支援の基本】治療構造の重要性、支持的心理療法、精神分析的心理療法、認知行動療法のポイント、集団へのアプローチの基本を理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
6	【多職種連携とリエゾン精神医学】リエゾン精神医学の重要性、多職種連携の重要性について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
7	【統合失調症】統合失調症の症状や操作的診断、伝統的診断、治療法、抗精神病薬の副作用について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
8	【うつ病、双極症】うつ病、双極症の主な症状、治療法、患者と家族への支援の留意点を理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
9	【強迫症、不安症群】強迫症、不安症の症状、病態、治療について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
10	【ストレス関連症群、解離症群】ストレス関連症群、解離症群の症状、病態、治療について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
11	【神経発達症群】神経発達症群の代表的な疾患名と症状、診断手順、治療の基本方針について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
12	【物質関連症、嗜癖症、秩序破壊的・衝動制御・素行症群】物質関連症群の代表的な疾患名と症状、診断手順、治療の基本方針について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
13	【児童・思春期における心理的問題】児童・思春期の発達課題、特有な精神疾患、心理社会的治療について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
14	【ジェンダーをめぐる問題】女性の心理的問題、LGBTQのメンタルヘルスについて理解し、説明することが出来ることを目標とします。	
15	【高齢期における心理的問題】高齢者の心理的側面、不眠、うつ、認知症、家族に対する支援等について理解し、説明することが出来ることを目標とします。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小課題	30	授業中における課題を用いた、授業内容の理解度をみます。	授業参加の態度や姿勢	10	授業中の発言、質問等より、授業態度や姿勢をみます。
レポート	40	本授業全般的な内容を理解をし、授業目標に沿った説明を出来るかをみます。	テスト	20	授業内容の理解度を見るテストを行います。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・授業前に教科書をあらかじめ読み、疑問点等をまとめておくこと。特に、初回授業においては、受講理由や目的の共有を行います。初回授業までに、受講理由、特に関心のある内容を整理してください。[30分] ・テストやレポートに備えて、授業後に復習を行っておくこと。[60分]	・レポートは評価やコメントをつけて返却します。 ・評価やコメントに関する疑問・質問は応じます。

受講生に望むこと	授業における知識技能を習得することは勿論のこと、それを今後どのように活かしていくかの想定や、活動イメージも作りながら受講してください。受講後にどのような変化、知識の活用を想定しているかを事前に持っておくことが望ましいです。	教科書・テキスト	「公認心理師カリキュラム準拠 精神疾患とその治療 第２版」 三村 将・幸田るみ子・成本 迅・新村 秀人 編 医歯薬出版　2025年 （ISBN 978-4-263-26685-4）
指定図書／参考書等	無し	その他・特記事項	無し

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康・医療心理学			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	選択
担当教員名	森　彩香						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
本授業は公認心理師を目指すにあたり必要な科目である。ストレスと心身反応との関連、保健・医療・災害等の現場における心理社会的課題についての理解を深める。また、心理職の実践的な支援方法を学ぶ。	以下の項目内容に関する知識を習得し、自らの言葉で概要を説明できるようになることを目標とする。 ①ストレスと心身の疾病との関係 ②医療現場における心理社会的課題及び必要な支援 ③保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援 ④災害時等に必要な心理に関する支援

教授方法	基本的に講義形式を予定しているが、適宜ディスカッションやグループワークも取り入れる。
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者が望ましい。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：授業の進め方や成績評価基準の説明	
2	健康心理学①：健康心理学の特徴について学ぶ	
3	健康心理学②：健康心理学におけるアセスメントについて学ぶ	
4	健康心理学③：健康心理学における心理支援法について学ぶ	
5	ストレスとは何か①：ストレスと心身の疾病との関係について学ぶ	
6	ストレスとは何か②：ストレスの対処法について学ぶ	
7	医療心理学①：医療心理学の特徴について学ぶ	
8	医療心理学②：精神科・心療内科領域の疾患について学ぶ	
9	医療心理学③：児童精神科・小児科領域の疾患について学ぶ	
10	医療心理学④：医療心理学におけるアセスメントと心理支援法について学ぶ	
11	緩和医療：緩和医療現場での心理支援法について学ぶ	
12	災害心理学：災害時の心理状態の変化と心理支援法について学ぶ	
13	産業保健：産業保健現場での心理支援法について学ぶ	
14	地域保健活動：地域保健の現場での心理支援法について学ぶ	
15	全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業で取り扱った内容を習得できているかどうかを評価する。	リアクションペーパー	30	毎回の授業でリアクションペーパーを配布する。授業内容をもとに自分自身の考えを述べることができるかどうかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義資料を読み、予習・復習を行う［60分］。 授業後に、自分自身のこれまでの体験が授業で習得した内容とどのように関わっているのかを自分なりに考察する［60分］。	提出してもらったリアクションペーパーについては、次回講義時に全体に対してコメントをする。

受講生に望むこと	主に保健・医療現場の心理職には欠かせない知識や考え方を取り扱いますが、いずれも自分の言葉で他者に説明できるようになることを目指してください。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	参考書『公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学』宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫 編，医歯薬出版，2018年出版，ISBN-13:978-4263265772.	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	関係行政論			開講学科	社会学部 社会	必修・選択	自由
担当教員名	中野　修						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	公認心理師				

授業の概要	授業の到達目標
この授業は公認心理師になるためのカリキュラム必修群の一つである。公認心理師が専門職として従事する分野の５つ：①保健医療分野、②福祉分野、③教育分野、④司法・犯罪分野、⑤産業・労働分野に分け、それぞれの分野に配置されている専門職とその役割、施設や整備されている各制度、法律を学ぶ。知識を取り入れるだけではなく、小テスト、グループワークを通じて、履修者同士での、相互の学び合いができるよう進めていく。 ※SDGs目標番号3関連科目	この授業を通して、公認心理師養成カリキュラムが定める次の５つの分野①保健医療分野②福祉分野③教育分野④司法・犯罪分野⑤産業・労働分野に関する政策や法律について知識を得て、具体的な適用について述べることができるようになる。

教授方法	講義・グループワーク・小テスト
履修条件	公認心理師または対人援助職を目指す学生

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	はじめに：①公認心理師について（法的義務や倫理）　②授業内容、課題、評価についての説明	
2	A.保健医療の分野について　①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
3	A.保健医療の分野について　③精神科医療と地域保健医療　④法律と政策の適用	
4	A.保健医療の分野について　⑤保健医療の政策と法律のまとめ　⑥保健医療分野の振り返り（小テスト）	
5	B.福祉の分野について　①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
6	B.福祉の分野について　③生活保護、児童、障害者、高齢者　④支える法律と政策	
7	B.福祉の分野について　⑤保険制度　⑥支える法律と政策	
8	B.福祉の分野について　⑦福祉政策と法律のまとめ　⑧福祉分野の振り返り（小テスト）	
9	C.教育の分野について　①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
10	C.教育の分野について　③いじめ、発達障害　④支える法律と政策　⑤教育分野の振り返り（小テスト）	
11	D.司法・犯罪の分野について　①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策	
12	D.司法・犯罪の分野について　③刑事司法（成人）に関する法律と政策	
13	D.司法・犯罪の分野について　④少年犯罪、犯罪被害者、家庭裁判所　⑤司法・犯罪分野の振り返り（小テスト）	
14	E.産業・労働の分野について　①どのような施設や専門家がいるのか？　②支える法律と政策　③産業・労働分野の振り返り（小テスト）	
15	全体での振り返り（グループワーク）（5分野）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加	50	授業における発言、課題への取り組み、グループワークへの姿勢（詳細は授業オリエンテーションを参照）。	全授業の振り返り	30	講義全体の振り返りを、グループワークを通して実施する。最終回授業にて行う（60分）。
課題	20	各領域ごとに小テストを実施する。小テスト前までに、十分に復習しておくことを課題とする（詳細は授業オリエンテーションを参照）。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：各授業の復習をして、制度や法律に関する知識を定着させてください。他者に自分の言葉で説明できるようになることが望ましいです（30分/回）	小テストは各単元を全員で復習し、その都度解答を行う。 最終回の5分野での振り返りでは、グループワークを行った後、全14回の講義の振り返りを全体で行う。

受講生に望むこと	関係行政論で学ぶ政策や法律は、あまりなじみがないかもしれません。しかし、クライエントやその関係者の生活を守り、支える上で非常に大切なものです。他の専門職と連携する上で必須の知識といえるでしょう。専門家を目指す仲間と学んだ内容を確認し合うなど、互いに学び合う姿勢で履修することを望んでいます。	教科書・テキスト	特になし。
指定図書／参考書等	授業内で紹介する。	その他・特記事項	授業中の私語、スマートフォンやPCの使用は禁止します。使用した場合は厳しく対処します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、フレッシュマン・セミナー、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。また、セミナーと礼拝以外に諸行事への参加を求める。 フレッシュマン・セミナーにおいては自己と他者を尊重する心をはぐくむ。学生同士、また教員との交流を通じ、学生生活の基本とする。オータム・セミナーにおいては、1・2年生合同で実施することにより学年を越えた学びと交流を通じ、多様な考え方について共有を図る。 ※SDGs目標番号3、12、13関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝およびフレッシュマン・セミナーならびにオータム・セミナーへの参加
履修条件	宗教オリエンテーションおよび「キリスト教概論Ⅰ」で礼拝への参加方法を学び、セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上、礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金：礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：６月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き春は１・３年生を対象に行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。１年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．フレッシュマン・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１年生が聖書から本学の歴史、精神を学び、学びの姿勢を整える。	
	3．各学部で実施されるオータム・セミナーには２年生と一緒に１年生も参加する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	50	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	北陸学院セミナーⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教の学びに基づいた礼拝行事への参加、オータム・セミナーへの参加を中心とする。授業時間を設けず、礼拝出席に伴う奨励感想小レポート、セミナー参加による課題提出により評価を行う。オータム・セミナーにおいては上級生としてセミナー運営にかかわることで、調整力と実行力を身につける。セミナー活動を通じて自己と他者の違いを尊重する心をはぐくみ、キリスト教精神についての学びを深める。またセミナーと礼拝以外に実施される大学礼拝と諸行事への参加を求める。 ※SDGs目標番号3関連科目	1）聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する。 2）賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する。 3）祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる。 4）生の意味について考え、自分の存在の意味を考える。 5）世界と歴史の意味に触れる。 6）自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する。 7）教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む。

教授方法	大学礼拝および秋のセミナーへの参加
履修条件	「北陸学院セミナーⅠ」を修得済であること。「キリスト教概論Ⅰ」および「キリスト教概論Ⅱ」の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
	礼拝行事、セミナーの詳細は以下の通り。	
	1．大学礼拝	
	①礼拝：毎週平均2.5回以上礼拝でメッセージを聴き、定期的にミニレポートを提出する。	
	②献金: 礼拝でささげる献金をキリスト教行事や世界の子ども支援に用いる。	
	③花の日：6月　花を諸施設に届ける。	
	④特別伝道礼拝：牧師を招き秋は２・４年生を対象に行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	⑤創立記念礼拝：９月　メッセージを通して学院の歴史、建学の精神に触れる。	
	⑥収穫感謝：11月　果物を各所に届ける。	
	⑦クリスマス礼拝：学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。２年生は全員礼拝メッセージを聴く。	
	2．オータム・セミナー	
	全学科教員で実施に当たる本学独自の行事。全学科１・２年生が聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
礼拝ミニレポート	50	聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝でメッセージを聴き、定期的に感想レポートを提出している。	セミナー課題レポート	50	・セミナーでの講演を主体的に聴いて理解し、グループで話合いを行い、レポートで振り返りを行っている。 ・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。指示どおり適切に作成されている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1）日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2）地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3）セミナーの準備に主体的に参加する。 4）セミナー参加後に、レポート等により問題意識を深める。 5）１年生もオータム・セミナーに参加する。	セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。

受講生に望むこと	1）毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。万が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞄にしまう。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2）セミナーに主体的に参加することを望む。	教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、2019年、ISBN978-4-8202-1344-4 『讃美歌21』日本基督教団出版局、2006年、ISBN978-4818437135
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	本科目は「北陸学院科目」として、全教職員の理解と協力の下における大学礼拝・セミナー準備・実施から成る。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日のグローバル・スタンダードの多くは、キリスト教の背景を持つ。本講義では、世界や人間存在の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、その概要を学び、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、代表的な主イエス・キリストのたとえ話に触れる。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	・イントロダクション：自己紹介、本コースの概要説明、評価の仕方、使用テキストの説明。 ・礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方、教会礼拝出席の姿勢について知る。	
2	・キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、仏教をはじめとする世界の宗教状況について、基本知識を身につける。 ・自分自身の宗教観について改めて振り返ってみる。	
3	・世界宗教と呼ばれる諸宗教の中心的な教え（教理）を概観する。 ・マインドコントロールと信仰との違いについて考察する。	
4	・北陸学院の形成者たちと出会う。小テスト①準備。 ・史料編纂室特別講義	
5	・小テスト①：北陸学院の形成者 ・聖書という書物：聖書の描き出す神の大いなる物語（グランド・ストーリー）の大きな枠組みを理解し、それぞれの構成やジャンルを理解する。	
6	・小テスト②準備 ・主イエスのたとえ①：憐れみ深いサマリア人のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	・小テスト②：使徒信条 ・主イエスのたとえ②：放蕩息子を迎える父のたとえ　代表的な主イエスのたとえ話を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「北陸学院の形成者」②「主の祈り」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・聖書・Chromebook を必ず持参すること。 ・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『神学のよろこびーはじめての人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版、アリスター・Ｅ・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0　その他、授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回、聖書並びに Chromebook を持参する。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置せず注意する。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教概論Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本講義は全学生必修科目であり、北陸学院のキリスト教教育の基盤にある旧新約聖書について学ぶ入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準（グローバル・スタンダード）の多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はキリスト教の信仰と生活の基準であり、現在もっとも広く読まれているベストセラーでもある。本講義では、「キリスト教概論Ⅰ」の内容を前提として、聖書の大きなストーリーラインを学ぶ。旧約聖書の描き出す神の民の歴史から新約聖書の証しするイエス・キリストの出来事、創造から終末に至る聖書のグランド・ストーリーが自己の人生観・世界観にもたらすインパクトを探る。	北陸学院の建学の精神である「キリスト教の思想」を聖書によって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。 ①聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。 ②聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。 ③聖書を通して世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。 ④人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に着ける。 ⑤他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。 ⑥北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身につける。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：担当教員自己紹介、本授業の概要、評価の仕方の説明。	
2	創造物語：この世界は神が造られた被造世界であり、神と人間が関わり合う舞台として形づくられたものであるという聖書の世界観を発見する。	
3	アブラハムの旅立ち：神の約束に信頼して旅立ったアブラハムの信仰物語を通じて、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
4	小テスト①準備 モーセの召命：モーセの物語を通じて、神に呼ばれその務めに立てられ、使命に生きるという人生観を発見する。	
5	小テスト①：十戒 出エジプト：神が苦しみ悩む者を解放し導く主であることを見出し、それが自らの人生に示唆するインパクトを探究する。	
6	小テスト②準備 イエス・キリストの誕生、その教えとわざ：イエス・キリストの生涯と働きを知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
7	小テスト②：使徒信条 十字架と復活：イエス・キリストの死と復活、そこから始まっていった教会の伝道のわざについて知り、それが自分の人生に示唆するインパクトを探究する。	
8	・期末試験準備説明 ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	小テスト	20	学期中2回（①「十戒」②「使徒信条」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。	学期末試験	40	講義内容の理解度を測る期末試験で評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[30分] ④収穫感謝・クリスマスにあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「定期試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）（日本聖書協会）
指定図書／参考書等	なし／授業の中で別途紹介する。	その他・特記事項	・聖書・Chromebookを必ず持参すること。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	山田　和人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論ⅠおよびⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸問題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。	このコースの履修後に学生は・・・ ①北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明（内容、目標、予定、課題、成績評価方法、参考図書の説明）	
2	「イエス・キリストとの出会い」 シモン・ペトロをはじめ、特定の人物に焦点を当て、福音書におけるイエスとの出会いの証言に耳を傾ける。	
3	・「主の祈り」（マタイ6：5-15）：「礼拝」が神と人間との対話・交わりであることを発見する。「祈る」ことを知り、主イエス自らが教えてくださった「主の祈り」を理解し、祈り始める。 ・人の罪意識についての考察と探求。	
4	・小テスト①：「主の祈り」 ・「献金」（マルコ12:41-44）：献金の心構えについて理解し実践できるようになる。花の日献金準備。	
5	聖書の内容に親しむ①　聖書の物語と自身の物語（経験したこと）をつなぐ接点を見出し、その解釈を試みる。 「徴税人ザアカイ」（ルカ19：1ー10）	
6	聖書の内容に親しむ②　聖書の物語と自身の物語（経験したこと）をつなぐ接点を見出し、その解釈を試みる。 「放蕩息子の帰郷」（ルカ15：11－32） ヘンリ・ナウエン著『放蕩息子の帰郷』を手掛かりに、「失われた者の回復」について共同探求する。	
7	「十戒」について学び、その今日的な意味について共同探求する。	
8	・小テスト②：「十戒」 ・学期末レポートについて ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。	礼拝出席レポート	20	教会の主日礼拝に2回出席し、説教内容や礼拝で経験したことについての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中2回（①「主の祈り」②「十戒」）、それぞれの内容について基本的な理解度を小テストで評価。	学期末レポート	40	課題についてのレポート作成と提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④花の日礼拝にあたり、神に感謝し、花束や諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をClassroom、もしくはメソフィアで告知する。

受講生に望むこと	主体的な参加。共同探求への志を持つこと。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）
指定図書／参考書等	なし／その都度指示する。	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教人間論Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	山田　和人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キリスト教概論Ⅰ及びⅡで得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。	このコースの履修後に学生は、 ①北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を学び、会衆と共に暗唱できるようになる。 ③聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明（内容、目標、予定、課題、成績評価方法、参考図書の説明）	
2	病いの癒し～イエスの宣教と癒しの働きを学ぶ～	
3	「使徒信条」について学ぶ	
4	・小テスト「使徒信条」 ・命の尊厳について～エリザベス・キューブラー・ロスの実践に学ぶ～	
5	ヴィクトール・フランクルの生涯に学ぶ ～ホロコーストを生き抜いた心理学者の体験とその後～	
6	医療・福祉の現場におけるキリスト教の役割について ～病院チャプレンの働きの実際～	
7	スピリチュアリティと「わたし」～人間の尊厳とのかかわりにおいて～	
8	・まとめ ・学期末レポートについて ・授業評価アンケート	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度	20	「振り返りシート」で授業内容について自分の言葉で感想や疑問を表現できているかを評価。	礼拝出席レポート	20	教会の主日礼拝に２回出席し、説教内容や礼拝で経験したことについての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
小テスト	20	学期中１回　「使徒信条」の内容について基本的な理解度を小テストで評価。	学期末レポート	40	課題についてのレポート作成と提出。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] ②その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] ③日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] ④クリスマス礼拝にあたり、神に感謝し、諸奉仕団体の活動のためにささげられる献金への参加準備をする。[15分]	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をClassroom、もしくはメソフィアで告知する。

受講生に望むこと	主体的な参加。共同探求への志を持つこと。	教科書・テキスト	『聖書』（聖書協会共同訳）
指定図書／参考書等	なし／その都度指示する。	その他・特記事項	指定日開講

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	郷土の文学			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	中島　賢介						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。	①石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 ②フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 ③自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

教授方法	プリントを使用した講義、フィールドワーク、研究発表会
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。	
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。	
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勧進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。	
4	金沢の三文豪①：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
5	金沢の三文豪②：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
6	金沢の三文豪③：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
7	加賀の作家と作品①：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
8	加賀の作家と作品②：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
9	能登の作家と作品①：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
10	能登の作家と作品②：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
11	金沢の作家と作品①：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
12	金沢の作家と作品②：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。	
14	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。	
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	課題提出状況、グループディスカッションへの参加。	課題	30	授業を理解した上で適切に記述されているか。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回、指定された作品箇所を読み、内容を把握する。［30分］ 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。［180分～240分］	毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。

受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。 フィールドワークにかかる費用（交通費、入館料など）は実費とする。	教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／『ミリアニア　石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編　能登印刷出版　2001年　ISBN：978-4890103898『文学への旅　金沢・名作の舞台』「文学への旅　金沢・名作の舞台』編集委員会　2000年　ISBN4－89010－335-XC0095	その他・特記事項	金沢の三文豪を始め、郷土作家の作品は、「青空文庫」（https://www.aozora.gr.jp）でも読むことができる。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	日本国憲法			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	土屋　仁美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は一般教養科目として開講する。憲法と法律の違いや、憲法が目指すもの、憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのか、憲法が定める平等などについて学び、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習する。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につける。憲法を知ることで良き市民として社会に出て行くための知識と考える力を身につけることを目的とする。 ※SDGs目標番号1～17関連科目	①憲法の役割と機能を理解する。 ②憲法の基本的な知識や論点を理解する。 ③個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。

教授方法	講義毎にレジュメと資料を配布します。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	憲法とは何か？：憲法の基礎知識について学びます。（授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。）	
2	日本国憲法がめざすもの：日本国憲法の基本原理について学びます。（日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。）	
3	平和に生きる：平和主義、国際貢献について学びます。（前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。）	
4	「個」性のために：個人の尊重、憲法上の権利について学びます。（基本的人権総論として、人権の類型、享有主体、適用範囲について理解する。）	
5	データ化された個人情報：プライバシーの権利について学びます。（個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。）	
6	自分のことは自分で決める：自己決定権について学びます。（医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。）	
7	すぐそばにある差別：法の下の平等、不合理な差別について学びます。（性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下の平等について理解する。）	
8	なぜ差別は起きるのか？：「無意識の差別」について考えます。（第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。）	
9	胸の内にあるもの：思想・良心の自由について学びます。（日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。）	
10	信じていてもいなくても：信教の自由について学びます。（信教の自由、政教分離の原則について理解する。）	
11	インターネットで広がる表現空間：表現の自由について学びます。（表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。）	
12	憲法と経済の関係は？：職業選択の自由について学びます。（職業選択の自由、規制目的と審査基準について理解する。）	
13	どうする？　子どもの貧困：生存権について学びます。（社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。）	
14	教えること、いじめのこと：教育を受ける権利について学びます。（教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。）	
15	基本的人権をまもるために:統治機構について学びます。（権力分立と立法、行政、司法の役割について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト／確認テスト	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。	小レポート	5	具体的な出来事を通して憲法学的な考察力について評価します(第8回)。
期末テスト	25	憲法の基本的な知識や論点の理解度について評価します。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。［20分］ 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。［30分］	小テストの答え合わせは次回の講義時に掲載・解説します。

受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。 授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。	教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿――憲法の世界へ』第7版,棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著,有斐閣,2024年,ISBN978-4-641-28155-4
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	青年の心理			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	宇根本　聡						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
青年心理学は、青年期の心理や行動を研究対象とする発達心理学の一領域であり、この領域の知見によって青年が自分自身の心理や行動を振り返り、より良く生きるきっかけをつかむことができる。この授業では、生涯発達の途上にある青年期の心理と行動について解説するとともに、青年期の心理臨床や援助について講義する。	①青年期の心理と行動について理解する。 ②青年の心理や行動を青年心理学の知見で説明できる。 ③自分自身の心理や行動を、青年心理学の知見を用いて振り返ることができる。

教授方法	講義を中心に、グループワークやディスカッションを取り入れる。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	青年期とは：青年期の成立過程と時代的変化を理解する。	
2	前青年期とは：青年期の入口としての前青年期の心理や行動を理解する。	
3	青年期の発達課題：アイデンティティとセルフエスティームについて知り、青年期の発達課題を理解する。	
4	青年期の認知の発達：人間の情報処理能力の獲得と思考の発達について知り、青年期の認知発達を理解する。	
5	青年期と家族：親からの分離個体化にかかわる心理や行動について知り、青年と家族のありようを理解する。	
6	青年期と学校・地域：青年が学校で学び、地域にかかわることの実際について知り、青年と学校・地域との関係性を理解する。	
7	青年期と友人：グループの発達的変化といじめにかかわる心理や行動を理解する。	
8	青年期の身体の変化とジェンダー・アイデンティティ：二次性徴の発現による性的成熟に伴う心理や行動と社会・文化的な性（ジェンダー）について理解する。	
9	青年期の恋愛と結婚：恋愛と結婚にかかわる心理や行動を理解する。	
10	青年期の臨床①精神疾患：青年期発症の精神疾患のある青年の心理や行動を理解する。	
11	青年期の臨床②非行：非行の実態を知り、非行にかかわる青年の心理や行動を理解する。	
12	青年期の臨床③発達障害：発達障害のある青年の心理や行動を理解する。	
13	青年期の臨床④ひきこもり・ゲーム依存：ひきこもり・ゲーム依存の実態を知り、その状態にある青年の心理や行動を理解する。	
14	青年期への支援とリソース：青年への支援サービスについて理解する。	
15	青年の就職と労働：青年期のキャリア発達にかかわる心理や行動を理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行い、内容の理解の程度を評価する。	提出物	50	授業中指示の提出物により評価する。
授業への参加態度	10	授業中のワーク、ディスカッションへの参加の程度により評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事後学習：授業で配布した資料等を活用し、授業内容を復習する［60分/回］	提出された課題は、評価を行い返却する。

受講生に望むこと	①授業内容と、自身の日常の生活とのつながりを意識し、自分自身の心理と行動に興味を持ち、積極的に参加してほしい。 ②ワークやディスカッションは、真剣に自身の心理や行動を振り返りながら行なってほしい。	教科書・テキスト	『授業で使える青年心理学ワークブック』安立奈歩・河野伸子・大谷真弓著　北樹出版　2013　ISBN:978-4779303685
指定図書／参考書等	なし/『よくわかる青年心理学［第2版］』　白井利明編　ミネルヴァ書房　2015　ISBN: 978-4623072491	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

青年期の課題について、スクールカウンセラーや発達相談センター相談員としての経験を教材として取り上げ、ディスカッションを通じて、学生の学びを深めていく。

授業科目名	政治学			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	若山　将実						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業の目的は、日本を中心とした民主主義諸国における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの様々な個人・組織の政治行動の特徴、要因、そして影響を考察することにあります。授業では、民主主義国家における有権者、政治家、官僚、そして利益団体などの個人・組織の政治行動に関する理論と実際を学んでいきます。 まず、政治行動に関する政治学の理論について紹介します。そして、政治行動の実際として民主主義諸国の事例を取り上げることで、政治行動の特徴、要因、そして影響について理解できるようになることを目指します。また、最新の政治に関する時事問題についても説明する機会を設けたいと思います。	①個人・組織の政治行動について学ぶことで、社会のなかで政治が果たす役割を理解する。 ②民主主義社会における政治制度が有権者、政治家、官僚そして利益団体などの個人・組織の政治行動に与える影響を理解できるようになる。 ③民主主義社会における将来の有権者の一人として適切に政治へ参加できるようになる。 ④日本や世界の政治に関する時事問題について理解できるようになる。 ⑤日本や世界の政治現象を分析する手法を習得する。

教授方法	授業はパワーポイントなどを使った講義形式を中心に行います。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の概要説明：授業の進め方や成績評価の方法とともに、そもそも「政治」とは何か、そしてそれを対象とする「政治学」とは何かという点について考えます。（政治を学ぶ意味を理解する。）	
2	民主主義とは何か：民主主義について、選挙との関連から考察します。特に、シュンペーターの民主主義理論から現代日本の民主主義の実際について考えます。（民主主義の理論と実際を理解する。）	
3	有権者の投票参加：有権者はなぜ投票するのでしょうか。この疑問について政治学が考えてきた理論を参考にしながら、世界各国の選挙を事例に考えます。（投票参加の理論と実際を理解する。）	
4	有権者の投票行動：有権者による特定の政党・候補者への投票は、どのような動機に基づかれているのかを、政治学理論を紹介しながら考えます。（有権者の投票行動についての理論から、その有権者の多様性を理解する。）	
5	選挙制度：世界各国の様々な選挙制度の特徴について簡単に紹介した後、選挙制度が民主主義体制の安定にどのような影響を与えているのかを考察します。（代表を選ぶための選挙制度が民主主義の安定性に大きな影響を与えていることを理解する。）	
6	政党：現代民主主義に欠かすことのできない政党について考察します。そして選挙制度が政党の数や行動に与える影響について考察します。（日本の政党政治の特徴や問題点について理解する。）	
7	執行府・議会関係：世界各国の執行府と議会制度の特徴について紹介した後、議院内閣制・大統領制・半大統領制等に代表される執行府・議会関係の違いがそのような政治的帰結をもたらすのかを検討する。（本人・代理人関係のパターンが政治的帰結に与える影響を理解する。）	
8	指導者：民主主義国家における執政制度の特徴と影響について説明した後、日本の首相のリーダーシップについていくつかの事例から検討します。（例えば、岸田首相の政権運営が最近の首相とどのように違うのかについてなど。）	
9	官僚制：世界各国の官僚制の特徴について紹介した後、官僚の自律性の程度が政策の内容にどのような影響を与えているのかを検討します。（国家における官僚制の役割について理解する。）	
10	政策：民主主義国家において政策はどのように作られるのでしょうか。近年における日本の各政権が実行している政策をいくつか取り上げ、その政策が作られる過程について検討します。（政策過程の理論と実際を理解する。）	
11	利益誘導政治：民主主義国家で見られる利益誘導政治について、その特徴、要因、そして影響について検討します。（道路、橋、新幹線、そして原子力発電所などの建設に政治がどのように関わっているかを理解する。）	
12	マスメディア：民主主義国家において、政治家と有権者を繋ぐ媒体としてメディアの果たす役割について政治学の理論から事例を交えつつ検討します。（メディアが政治にどのような影響を与えるのかを理解する。）	
13	政治腐敗：民主主義国家において政治が腐敗すると、社会にどのような影響があるでしょうか。日本における近年の政治腐敗とされる事例について検討することで考えます。（政治腐敗はなぜ起きるのかを理解する。）	
14	災害と政治：第13回までの授業内容をふまえながら、2024年1月1日の能登半島地震に対する政府や自治体による復興対応を事例に、災害が起きた際に有権者は政治や政治家にどのような期待や要望を持ち、それに対してどのように政府や政治家は対応しているのかを学術的に考察していきます。	
15	まとめと民主主義の未来：授業全体のまとめとともに、2020年以降のコロナ禍や2024年1月の能登半島地震などを受けて、民主主義国家における政治の姿は今後どのように変容することが予測できるのかについて、e-デモクラシーの可能性などを例に考察していきます。（民主主義の変容の可能性について理解する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	論述形式や穴埋め問題など、様々な形式を用いた試験を予定している。政治学の理論や実際についてどの程度まで理解して自分のものとしているかどうかを評価の基準とする。	毎回の課題・リアクションシート	40	Google Classroomを通じて提示する授業の理解度を確認する課題や授業に対する感想・質問を書くリアクションシートへの取り組み姿勢。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義で使用するレジュメ（資料）は、直接、またはGoogle Classroomを通じて授業前に配布するので必ず目を通しておいてください。[30分] ②毎日、新聞・ニュース等に目を配り、政治に関する様々なニュースに触れること。毎回の小レポートで今週はどのような政治ニュースに注目したかを記入してもらうことを検討しています。[60分]	毎回の課題およびそれに付属するリアクションシートは、適切な時期に採点およびコメントを付けて返却することを検討します。

受講生に望むこと	①政治は、日々動いています。日頃から可能な限り世界や日本の様々なニュースに目を配るようにしてください。 ②教室内での私語やスマートフォンの使用など、特定の学生による受講態度が講義に重大な悪影響を与えていることが度々認められた場合、その学生に対しては退室等の厳しい処置を取ることがあります。	教科書・テキスト	特に用いません。レジュメ（資料）を毎回直接、またはGoogle Classroomを通じて配布します。
指定図書／参考書等	なし。／『政治行動論〔新版〕：有権者は政治を変えられるのか』飯田健・松林哲也・大村華子共著　有斐閣　2025年　ISBN:978-4-641-15136-9.『政治学（New Liberal Arts Selection）』久米 郁男・川出 良枝・古城 佳子・田中 愛治・真渕 勝共著　補訂版　有斐閣　2011年　ISBN-13: 978-4641053779.	その他・特記事項	毎回の授業では、Google Classroomを使用して授業内容についてのアンケートや学生からの質問受付を随時実施します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	日本語基礎			開講学科	健康科学	必修・選択	自由
担当教員名	清水　實						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要とされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。	①辞書に親しみ、使いこなすことができる。 ②決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる。 ③表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす ④口頭表現に慣れ親しむ。

教授方法	演習と講義。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどういうものかを理解する。「自己紹介文」を書く。	
2	①前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 ②辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）	
3	①表現力を豊かにする語彙（対義語） ②辞書を使い慣れる（「対義語」）	
4	①文章表現の基礎（「構成」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（同義語） ③辞書を使い慣れる（「同義語」）	
5	①文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える）　②表現力を豊かにする語彙（四字熟語） ③辞書を使い慣れる（「四字熟語」）	
6	①文章表現の実践（「エッセイ」を書く）②表現力を豊かにする語彙（三字熟語） ③辞書を使い慣れる（「三字熟語」）	
7	①口頭表現の実践（「詩」の朗読）②表現力を豊かにする語彙（故事成語） ③辞書を使い慣れる（「故事成語」）	
8	①口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読）　②表現力を豊かにするために（仮名遣い） ③辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して）　④到達確認テスト	
9	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）	
10	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）	
11	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（教育漢字の確認）	
12	①口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） ②表現力を確実にするために（常用漢字の確認）	
13	①文章表現の実践（「意見文」を書く） ②表現力を確実にするために（表外漢字の確認）	
14	①文章表現の実践（小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）	
15	①文章表現の実践（「小論文」を書く） ②表現力を確実にするために（まとめ）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期テスト（16 回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解している。	到達確認テスト（8 回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解している。
各回の課題提出	20	定められた書式・時間に従って提出している。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現している。	授業参加態度	10	課題に取り組み、弱点を克服している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと。［40分］	・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。

受講生に望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。	教科書・テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語基礎			開講学科	健康科学	必修・選択	自由
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストで履修が必要とされた学生を対象として開講する。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。	・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。 ・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。 ・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。

教授方法	演習（予習⇒授業での理解確認⇒テスト⇒復習・予習）の形式で行う。
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。	
2	Lesson 1: This is my everyday life.一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ	
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。	
4	Lesson 2: Do you keep a diary?一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。	
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。	
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。	
7	Lesson 5: We love our town,Sakura-Yokocho.　場所の表現　基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。	
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現　時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。	
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival?　進行形　進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。	
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞　面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。	
11	Lesson 9:　What does he look like?　Wh-疑問文　wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。	
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert?　基本動詞 get, have, come,　go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う	
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞　put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。	
14	Lesson 12: Let's take a trip.英語で自分を表現するために　英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。	
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	①予習：指定された範囲の課題（ノートづくり）ができている。 ②質問して分かったことがノートにメモされている。 ③復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習型で進められる。単語や文の意味（発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。［40分］不明な点等があれば授業で質問すること。 ②授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。［20分］ ③目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。	随時行う。

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社. 2007年. ISBN978-4-384-33378-7 C1082
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語ＦＩ」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得ができなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡＩ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語科目最上位として位置づけられており、ＣＥＦＲ Ｂ２＋～Ｃ１の能力を有すると判断された者、また英語BI, BIIを学修した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	1年次に「英語BI」「英語BII」を履修し、少なくとも1科目単位修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Unit 1 (1)Pandemic and People's Lifestyleをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Pandemic and People's Lifestyleについてデータを用いて意見を発表する。	
4	Unit 2 (1) The Circular Economyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) The Circular Economyについてデータを用いて意見を発表する。	
6	Unit 3 (1) Road to Decarbonizationをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) Road to Decarbonizationについてデータを用いて意見を発表する。	
8	Unit 4 (1) Online Learning and School Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Online Learning and School Lifeについてデータを用いて意見を発表する。	
10	Unit 5 (1) Delivery Robotsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
11	Unit 5 (2) Delivery Robotsについてデータを用いて意見を発表する。	
12	Unit 6 (1) Discrimination against Asian Americansをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
13	Unit 6 (2) Discrimination against Asian Americansについてデータを用いて意見を発表する。	
14	Unit 7 Gendered Division of Houseworkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、自分の意見をまとめる。	
15	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションを行う。 これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、前期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＡⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	リチャード ポーター						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＡⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFRのB2+～C1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・現代社会のさまざまな問題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・それぞれのテーマについてデータからの情報を利用して論理的なディスカッションを行うことができる。 ・ディスカッションや新たな情報も取り入れて自分の意見をまとめ、スピーチ、プレゼンあるいはライティングで発表できる。 ・CEFRのB2+～C1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語 AI」を履修した者(単位未修得可)

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション Unit 8（1）Preparing for Emergenciesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
2	Unit 8（2） Preparing for Emergenciesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
3	Unit 9（1）Ukraine and Afghanistanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Ukraine and Afghanistanについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
5	Unit 10（1）Digital Societyをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Digital Societyについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
7	Unit 11（1）Climate and Infectious Diseasesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
8	Unit 11（2） Climate and Infectious Diseasesについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
9	Unit 12（1） Overtourism and Undertourismをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解する。	
10	Unit 12（2） Overtourism and Undertourismについてデータを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
11	Unit 13 Multicultural Exchange in Japanをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解市、自分の意見をまとめる。	
12	Unit 14 Changing Africaについて内容を理解した後、データを用いて自分の意見をまとめ､ディスカッションする。	
13	Unit 15 Helping People Make Better Choicesをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、データを用いたディスカッションを行う。	
14	Unit 8～Unit 15で学んだテーマから1つを選び、データを用い反論も考慮に入れてプレゼンテーションを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、後期の振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『CLIL Discuss the Changing World 2』. Miyako Nakaya et al. 2023. 成美堂. ISBN:978-4791972685
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者CEFR B2の能力を有すると判断された者、また英語ＣⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Good Health and Well-beingをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
3	Unit 1 (2)　Good Health and Well-beingについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
4	Unit 2 (1) Life on Landをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
5	Unit 2 (2) Life on Landについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
6	Unit 3 (1) Reduced Inequalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
7	Unit 3 (2) Reduced Inequalityについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
8	Unit 4 (1) Climate Actionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
9	Unit 4 (2) Climate Actionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
10	Unit 5 (1) Sustainable Cities and Communitiesをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
11	Unit 5 (2) Sustainable Cities and Communitiesについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフライティンを行う。	
12	Unit 6　Gender Equalityをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、テーマについてデータも用いて意見交換する。	
13	Unit 7　Quality Educationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴、リスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、意見交換する。	
14	Unit 1～Unit 7　これまで学んたことがらから各自 1つのテーマを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Unit 1～Unit 7これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。[50分]	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins･小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＢⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	グレン　ノリス						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＢⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く)の向上を目指す。	・大学生にとって関心が高く論議を呼びそうなさまざまな分野の話題について理解し、発信できる。 ・さまざまなディコース方略を知り、ディスカッションに生かすことができる。 ・統計データを利用してディスカッションやライティングを行うことができる。 ・CEFR B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＢⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、Unit 8 (1) Responsible Consumption and Productionをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
2	Unit 8 (2)　Responsible Consumption and Productionについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
3	Unit 9 (1) Life Below Waterをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
4	Unit 9 (2) Life Below Waterについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
5	Unit 10 (1) Decent Work and Economic Growthをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
6	Unit 10 (2) Decent Work and Economic Growthについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
7	Unit 11 (1) No Povertyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
8	Unit 11 (2) No Povertyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
9	Unit 12 (1) Affordable and Clean Energyをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
10	Unit 12 (2) Affordable and Clean Energyについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
11	Unit 13 (1) Clean Water and Sanitationをテーマに導入の質問、語彙確認、ビデオ視聴を通じて内容を理解する。リスニング、リーディング活動を通じて理解を深め、意見交換する。テーマについての文章を読み、要点を書き出す。	
12	Unit 13 (2) Clean Water and Sanitationについての統計データをリスニングで確認し、それについての意見交換を経て自分の意見をまとめパラグラフ・ライティングを行う。	
13	Unit 14 Industry, Innovation and Infrastructureをテーマにビデオ視聴、リーディング、リスニング活動を通じて内容理解し、それについての意見交換を行う。	
14	Units 8-14からテーマを各自一つ選びスピーチ/プレゼンテーションをする。Peer reviewを行う。	
15	Unit 8～Unit 14の復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］ ③テーマについて積極的に情報収集を行い効果的なディスカッションができるよう準備をすること。［50分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Facing Challenges』. 2025. Peter J. Collins・小林めぐみ. 金星堂. ISBN: 978-4764742239
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣＩ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR B1～ B2の能力を有すると判断された者、また英語　ＤＩ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1（1）Occupationsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 although/but/because/soなどの接続詞が正しく使えるようになる。	
3	Unit 1（2）OccupationsについてDear Future Selfと題した手紙を書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
4	Unit 2（1）At the Dinner Tableをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 can/could/mightなどの法助動詞が正しく使えるようになる。	
5	Unit 2（2）At the Dinner Tableついてレストランでの会話を完成させ､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
6	Unit 3（1)Sportsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。 always/usually/seldom/rarely/neverなどの頻度の副詞が正しく使えるようになる。	
7	Unit 3（2)Sportsについてグラフを読み取りレポートを書き､発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
8	Unit 1 ～Unit 3の復習、到達度確認テスト(1) Unit 4（1）Healthをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。不定詞、動名詞が正しく使えるようになる。	
9	Unit 4（2）　Healthについてある患者の問診票を参考に、体調不良による病欠をする旨のメールを先生にあてて書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
10	Unit 5（1）Musicをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。both A and B/neither A nor Bなどの相関接続詞が正しく使えるようになる。	
11	Unit 5（2）Musicについてパンフレットからの情報を読み取る。ロックスターの日常を想像してライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	Unit 6（1）At the Moviesについてリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。see/watch/hear/feelなどの知覚動詞が正しく使えるようになる。	
13	Unit 6（2）At the Moviesについて映画館の上映案内を読み取り友人に向けて映画に誘うメッセージを書き、発表し合う。	
14	Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。 Unit 1～Unit 6で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末ト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＣⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ　カリー						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＣⅠを学修した者を対象に開講する。またCEFR B1～B2程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常的な身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・得た情報をもとに言語使用ができる。 ・会話ストラテジーや適切な文法を用いてコミュニケーションが行えるようになる。 ・CEFR B1～B2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＣⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　　Unit 7（1）Technology in Daily Lifeをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。SVOOとSVO　+ Prep. + I.Oの与格交替が正しく使えるようになる。	
2	Unit 7（2）Technology in Daily Lifeについてamazing inventionsの記事を参考に架空の発明品についてライティングを行い、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
3	Unit 8（1）Social Networkをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that節、wh-節などの名詞節が正しく使えるようになる。	
4	Unit 8（2）　Social NetworkについてSNSサイトのコメントを参考にSNSにアップする記事を書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
5	Unit 9（1）Looking on the Bright Sideをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。be/sense/keepなどの連結動詞が正しく使えるようになる。	
6	Unit 9（2）Looking on the Bright Sideのついて前向きな生き方についてのアドバイスを参考に、自分独自のアドバイスを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
7	Unit 10（1）Love Affairsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。that/who/whichなどの関係代名詞が正しく使えるようになる。	
8	Unit 10（2）Love Affairsについてデートに誘うメッセージを参考に自分のメッセージを書き、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
9	Unit 7 ～ Unit 10の復習、到達度確認テスト(1)。 Unit 7 ～ Unit 10で学んだテーマから1つを選び、ショートスピーチをおこなう。	
10	Unit 11（1）Storytellingをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。who/whichの関係代名詞の制限用法/非制限用法が正しく使えるようになる。	
11	Unit 11（2）Storytellingについてある寓話を読み、その続きを完成させ、発表し合う。Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。	
12	Unit 12（1)The Power of Wordsをテーマにリスニング、リーディング活動を通じて内容を理解し、会話を行う。happy that/kind of sb. to Vなど形容詞補部が正しく使えるようになる。	
13	Unit 12（2）The Power of Wordsについてriddlesについて理解し、自分でもriddleを作り、発表し合う。	
14	Challenge Yourselfで発展問題に取り組む。 Unit 7～Unit 12で学んだテーマから1つを選び、スピーチまたはプレゼンテーションをする。	
15	Review（Unit 7 - Unit 12)に取り組む。 これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Live Escalate: Trekking』. Teruhiko Kadoyama et al. 2021. 成美堂. ISBN: 978-4791972227
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン・山本　良一　（代表教員　エリック　モーニン）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当する者、CEFR A2+ ～ B1の能力を有すると判断された者、また英語ＥⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力が求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(助業のねらい、履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) Unique Travel Experiences　旅行について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
3	Unit 1 (2) Unique Travel Experienceについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
4	Unit 2 (1) Our Future Under Water? 気候変動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
5	Unit 2 (2) Our Future Under Water?について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
6	Unit 3 (1) A DIY-Sushi Party with Friends 和食について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
7	Unit 3 (2) A DIY-Sushi Party with Friendsについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
8	Unit 1～Unit 3の中から1つのテーマを選びショートスピーチを行う Unit 4 (1) Australia's Cockatoos ペットについての質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
9	Unit 4 (2) Australia's Cockatoosついてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。 Unit 5 (1) How to Become a Good Journalist 報道について質問に答えた後でビデオ視聴する。	
10	Unit 5 (2) How to Become a Good Journalistについてリーディング、要約で理解を深め、職業について自分の意見をまとめる。	
11	Unit 6 (1) Universal Credit 貧困問題について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 6 (2) Universal Creditについてビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 7 Cooling is Heating? エネルギー問題についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 1～Unit 7で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	前期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity　Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＤⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	エリック　モーニン・山本　良一　（代表教員　エリック　モーニン）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語DIを学修した者を対象に開講する。またCEFR A2+～B1程度の能力を有すると判断された学生を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す〈やり取り/発表〉・書く）の向上を目指す。	・海外メディアのビデオ映像を手がかりに現代社会の様々なトピックについて知り、リスニング、リーディングを通じて理解を深め、発信に活かすことができる。 ・得た情報を元に批判的思考ができる。 ・CEFR A2+～B1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語ＤⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）Fashion's Resale Revolution ファッションに関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
2	Unit 8（2）Fashion's Resale Revolutionについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
3	Unit 9（1）Finding Treasures in the Trash リサイクルについて質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
4	Unit 9（2）Finding Treasures in the Trashについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
5	Unit 10（1）Climate Protesters 社会運動について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
6	Unit 10（2）Climate Protestersについて要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
7	Unit 8～Unit 10の中から1つのテーマを選び、ショートスピーチを行う。 Unit 11（1)The Changing Meaning of "Home" 家庭について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング等で内容を理解する。	
8	Unit 11（2）The Changing Meaning of "Home" 家庭について要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
9	Unit 12（1）Women Still Dying in Pregnancy 発展途上国に関連する質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
10	Unit 12（2）Women Still Dying in Pregnancyについてビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
11	Unit 13（1）Struggling to Gain the Right to Vote　参政権について質問に答えた後でビデオ視聴、リーディング、要約で内容を理解する。	
12	Unit 13（2）Struggling to Gain the Right to Vote　ビデオ視聴で理解を深め、リサーチをして意見をまとめる。	
13	Unit 14　Feeling Alive throughout Life 長寿についてリーディング、要約、ビデオ視聴で理解を深め、自分の意見をまとめる。	
14	Unit 8～Unit 14で学んだテーマから一つを選びプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	後期の学習の確認(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Integrity Beginner』竹内理他. 2023年.　金星堂 ISBN:9784764741744
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・細川　真衣　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者、CEFR A2程度の能力を有すると判断された者、また英語　ＦⅠ・Ⅱの単位を修得した者を対象に開講する。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等) Self-introduction	
2	Module 1 人物紹介 Unit 1 Match,Scan,Focus,Listenの活動で紹介の仕方を学び、自己紹介の準備をする。	
3	Module 1 人物紹介　 Unit 1 Communicateの活動で実践。Unit 2 Readの活動で自己紹介文を理解する。	
4	Module 1 人物紹介 Unit 2　Readの内容確認、Writeの活動のあと、3段落の自己紹介を書く。	
5	Module 1 人物紹介 Unit 2　Writeで書いた自己紹介を修正し、Vocabulary、言語形式を確認する。	
6	Module 2 ファッション　Unit 3 Match,Scan,Focus,Listenの活動でファッションについての表現を学ぶ。	
7	Module 2 ファッション　Unit 3 Listen, Communicationの活動でファッションについてペア活動をする。	
8	Module 2 ファッション　Unit 4 Readの活動で内容を確認し、Writeの活動の後、自分のファションスタイルについて書く。	
9	Module 2 ファッション　Unit 4　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Modules 1-2 Unit 5 Review Project A(自己紹介)のquestionsを考え、インタビューし、結果をまとめる。	
11	Module 3 食べ物 Unit 6 Match,Scan,Focus,Listenの活動で外国の料理について学ぶ。	
12	ModModule 3 食べ物 Unit 6 Listen, Communicationの活動で食べ物についての好みについて､及びCommunication Bの追加質問を用いて世界の料理についてペア活動をする。	
13	Module 3 食べ物 Unit 7 Readでレストランについての文章を理解し、Writeの活動の後、お気に入りのレストランについて英文を書く。	
14	Module 3 食べ物 Unit 7　お気に入りのレストランについての英文を修正して口頭発表する。Vocabulary、言語形式の確認をする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＥⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦　国江・細川　真衣　（代表教員　宮浦　国江）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＥⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A2程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や運用方法等を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・日常のさまざまなテーマについて、リスニング、リーデングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFR A2に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	「英語EⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り等 Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Match, Scanの活動でライフスタイルについての表現を学ぶ。	
2	Module 4 ライフスタイル　Unit 8 Focus, Listenの活動でライフスタイルについての表現を学美、ペア活動をする。	
3	Module 4 ライフスタイル　Unit 9 Readの内容確認、Writeの活動の後、自分のライフスタイルについて書く。	
4	Module 4 ライフスタイル　Unit 9　英文修正の後、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
5	Modules 3-4,Unit 10 Review Project C(食習慣)/Project D(健康)を行い、その結果をまとめ、発表する。	
6	Module 5 旅行　Unit 11 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界の観光地について学ぶ。	
7	Module 5 旅行　Unit 11 Listenの活動を参考に自分の意見をまとめ、Communicateでグループ活動を行う。	
8	Module 5 旅行　Unit 12 Readで旅行についての文章を理解し、Writeの活動の後、旅行について3段落の英文を書く。	
9	Module 5 旅行　Unit 12 Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
10	Module 6 規則　Unit 13 Match, Scan, Focus, Listenの活動で世界のさまざまな規則について学ぶ。	
11	Module 6 規則　Unit 13 Communicateで規則についてのペア活動を行う。 Module 6 規則　Unit 14 Readで高校・大学の規則について読み、Writeの活動の後、高校・大学の規則について英文を書く。	
12	Module 6 規則　Unit 14　Writeで書いた英文を修正し、Vocabulary、言語形式の確認をする。	
13	Unit 15 Review(Modules 5-6)　Project E(日本の観光地)/Project F(大学の規則)をグループワークで行いその結果をまとめる。	
14	Unit 15 Review(Modules 5-6)　Project E/Fについて各グループがグループ・プレゼンテーションを行う。Peer reviewをする。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『Framework English A』 Colin Thompson, Tim Woolstencroft著. 2024年.　金星堂 ISBN:9784764742000
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子・山本　良一　（代表教員　本間　千重子）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は基礎学力テストの結果履修に相当すると判断される者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有する者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能(聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く)の向上を目指す。	・自己紹介など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できるようになる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト）。
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション(授業のねらい､履修上の注意等)　Self-introduction	
2	Unit 1 (1) 動詞の現在時制(be動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝の日課の表現を学ぶ。	
3	Unit 1 (2) 人物紹介の英文を理解し､自己紹介と朝の日課についてのライティングと発表を行う。	
4	Unit 2 (1) 動詞の現在時制(一般動詞)の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて朝食についての表現を学ぶ。	
5	Unit 2 (2) 朝食について述べる英文を理解し､朝食についてのライティングと発表を行う。	
6	Unit 3 (1) 名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて通学準備についての表現を学ぶ。	
7	Unit 3 (2) 通学準備について述べる英文を理解し､自分の通学準備についてのライティングと発表を行う。 Unit 1 ～ Unit 3の振り返り、到達度確認テスト	
8	Unit 4 (1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて大学の授業についての表現を学ぶ。	
9	Unit 4 (2) アメリカの大学授業について述べる英文を理解し､自分の大学の授業についてのライティングと発表を行う。	
10	Unit 5 (1) 前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて昼食についての表現を学ぶ。	
11	Unit 5 (2) アメリカの大学での昼食について述べる英文を理解し、自分の大学での昼食についてライティングを行う。 Unit 6 (1) Wh-疑問文の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてショッピングについての表現を学び、ライティングを行う。	
12	Unit 6 (2) 様々な活動を通じてさらにショッピングについての表現を学び、ライティングの発表を行う。 Unit 7 (1) 過去時制の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングを行う。	
13	Unit 7 (2)様々な活動を通じてさらに街の様子や交通機関についての表現を学び、ライティングの発表を行う。	
14	Unit 4 ～ Unit 7の振り返り、到達度確認テスト。 Unit 1～Unit 7で学んだことから各自 1つのテーマを選び、スピーチ/プレゼンテーションを行う。Peer review を行う。	
15	これまで学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)､振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業･課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ･プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う。

受講生に望むこと	①オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	英語ＦⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	本間　千重子・山本　良一　（代表教員　本間　千重子）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は英語ＦⅠの単位を修得した者を対象に開講する。またCEFR A1程度の能力を有すると判断された者を対象とする。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中で適切な英語を用いられるように実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより4技能（聞く・読む・話す<やり取り/発表>・書く）の向上を目指す。	・自由時間の過ごし方など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できるようになる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができるようになる。 ・CEFR A1に近いレベルの英語運用力を身につける。

教授方法	演習（発表、ペアand/orグループワーク、プロジェクト等）。
履修条件	「英語FⅠ」を履修した者（単位未修得可）。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8（1）現在進行形/過去進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて美術/芸術についての表現を学ぶ。	
2	Unit 8（2）美術/芸術について述べる英文を理解し、自分の趣味についてライティングと発表を行う。	
3	Unit 9（1）未来表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてカフェについて述べる。	
4	Unit 9（2）アメリカのカフェについて述べる英文を理解し、レストラン/カフェについてのライティングと発表を行う。	
5	Unit 10（1）現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてアルバイトについて述べる表現を学ぶ。	
6	Unit 10（2）アメリカのアルバイトについて説明する英文を理解し、自分の経験についてライティングと発表を行う。	
7	Unit 11（1）助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて趣味についての表現を学ぶ。	
8	Unit 11（2）様々な活動を通じて自由時間についての表現を学び、自分ことについてのライティングと発表を行う。 Unit 8～Unit 11の復習、振り返り。　到達度確認テスト	
9	Unit 12（1)不定詞と動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて家事についての表現を学ぶ。	
10	Unit 12（2）家事について述べる英文を理解し、自分のことについて発表を行う。 Unit 13(1）比較級と最上級の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自宅での自由時間について説明する表現を学ぶ。	
11	Unit 13（2）リーディング活動の後、自宅での自由時間について発表を行う。 Unit 14（1）接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて余暇についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
12	Unit 14（2）余暇についての英文を理解し、ライティングの発表を行う。 Unit 15（1）受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて運動についての表現を学び、ライティングの準備をする。	
13	Unit 15（2）運動について　ライティングを行い、お互いに発表し合う。	
14	Unit 12 ～ Unit 15の振り返り、到達度確認テスト。 これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う。Peer reviewを行う。	
15	これまでに学んだことの復習(定期試験に向けての質問タイムを含む)、振り返り、リフレクション最終提出。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業・課題取組状況	40	(小テスト・発表・タスク・リフレクション等) ①毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 ②教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 ③学習内容確認の小テスト。	到達度確認テスト・期末テスト	50	(単元テスト/中間テスト + 定期テスト) 学習した語彙や文法が定着し、内容把握・理解・運用力等がついている。
口頭表現	10	①課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 ②積極的に取り組み、スピーチ・プレゼンテーション等の口頭発表を行うことができている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。［40分］不明な点は授業中に質問すること。 ②授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。［20分］	随時行う

受講生に望むこと	①1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 ②課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。 ③授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 ④授業には辞書を持参すること。	教科書・テキスト	『English Day!』,Robert Hickling著,2023年,金星堂,ISBN: 9784764741690
指定図書／参考書等	なし／なし。	その他・特記事項	①当該レベルの英語Ⅰの単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語Ⅱの授業を履修し、翌年英語Ⅰを再履修する。②「英語A～F」のうち、当該レベルのⅠ・Ⅱの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュA			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要

本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、8月中旬4日間のBritish Hills(福島県)研修では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。(諸般の事情によりBritish Hillsでの研修が不可能な場合はBritish Hills Online研修を行う。)

授業の到達目標

①自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。
②英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。
③英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。
④英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。
⑤異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。
⑥異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。
⑦異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。

教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等）※参加希望者は必ず出席すること。	
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。	
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。	
4	British Hills（以下BH）(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。	
5	BH(2)　Team Challenge（Intermediate)：英語のさまざまなゲームをチーム対抗で競い合うことで、チームメンバーについて知り、協力関係を築きつつ、英語発話を自然に行えるようにする。	
6	BH(3)　Interview & Orienteering:BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。	
7	BH(4) Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。	
8	BH(5)　British Wedding：イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。	
9	BH(6)　World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。	
10	BH(7)　Travel in UK：英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。	
11	BH(8)　Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。	
12	BH(9)　Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。	
13	BH(10)　Group presentation 3:　最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。	
14	BH(11)　Group presentation 4:　最終プレゼンテーション　自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。	
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。 ②必要な英語表現を身につける。 ③英語運用力測定。	BH研修参加態度	60	BH研修に、積極的かつ協力的な態度で取り組んでいる。
英文日誌	10	①授業（活動）の概要について具体的に記載できている。 ②自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 ③指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	15	①学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 ②事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。 ③英語運用力測定。

授業外における学習（事前・事後学習等）

①与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分]
②授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分]
③イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はどのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

随時行う。

受講生に望むこと	①英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 ②会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 ③集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。	教科書・テキスト	Akira Morita他.『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年.成美堂. ISBN: 9784791934249
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	①履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。②団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。③諸般の事情によりBHでの研修が不可能な場合は本学で、BH Online研修を行う。④事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。⑤事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	アクティブ・イングリッシュC			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦　国江						
標準履修年次	2・3・4年	開講時期	通年	単位	3単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は，全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。 本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階（事前学習）から実施（留学）及び終了段階（事後学習）まで見通しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。	・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。 ・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。 ・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。 ・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。

教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、大学および施設でのルールが守れる者。以上の条件を満たして、学科指定の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前学習① オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。	
2	事前学習②　研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。	
3	事前学習③　留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。	
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在	
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在	
14	事後学習①　研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)	
15	事後学習② 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	15	①留学への取り組み､計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する ②英語運用力測定	留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する	事後学習	15	①帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する ②英語運用力測定

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。［毎日40分］英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。［毎日30分］	適宜行う。

受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／『今日から使える！留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年（ISBN: 978-4757426658）	その他・特記事項	・提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 ・英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける ・留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、中国語の「話す・聞く・読む・書く」技能をバランスよく身につけ、自らの考えを口頭や文章によって他者に伝えられるようになることを目的とする。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。中国語を学びながら中国の文化や社会に関する理解を深める。	①発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 ③中国語の文法を理解する。 ④中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、単母音の発音と声調（音の高低）を習得する。	
2	単母音と声調を復習後、複母音の発音を習得する。	
3	すべての子音を習得し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。	
4	鼻音と軽声、声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。	
5	鼻音・軽声などを復習後、簡単な日常会話を習得する。 自分の名前を中国語で言えるようになる。	
6	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)	
7	第1課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得する。)	
8	第2課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第3課「食べたいものを尋ねる」(相手の希望の尋ね方や質問を返す表現を身につける。)	
9	第3課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)	
10	第4課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして他己紹介ができるようになる。	
11	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、時間詞を用いた表現を身につける。)	
12	第5課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方、行きたい場所の尋ね方を習得する。)	
13	第6課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)	
14	第7課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 前期に学んだ学習内容をもとに、自己紹介文を作成する。	
15	期末試験に備えて、前期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自己紹介文の完成度（第14回）	10	前期に習得した文法を用いて自己紹介文を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自己紹介文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自己紹介文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	語学は積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりおこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。	教科書・テキスト	『≪新版≫できる・つたわるコミュニケーション中国語』　岩井伸子・胡興智 著　白水社　2023年　ISBN 9784560069431
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	中国語Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	渡邉　彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。実際の授業では、まず単語と文法を学び、その後対話文や長文を通して文法の定着を図る。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。中国語を単に「知識」として知るだけでなく、実際に運用できる能力を習得し、社会においてもこれを活用できるようにする。	①中国語を正確に発音できるようになる。 ②中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 ③中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 ④習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。

教授方法	基本的に講義形式による授業となるが、学生同士でのロールプレイなどの表現練習も行う。
履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法についての説明)後、前期学習内容を復習する。 第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)	
2	第8課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第5課から第8課をまとめた文章で文法知識の定着を図る。	
3	第9課「出来事を尋ねる①」(完了形の言い方、「～しに行く、しに来る」という連動文の表現を身につける。)	
4	第9課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第10課「出来事を尋ねる②」(「～するのが…だ」という様態補語の表現を習得する。)	
5	第10課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第11課「希望を尋ねる」(相手の希望の尋ね方、前置詞を用いて「どこで～する」の表現を身につける。)	
6	第11課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第12課「行き方を尋ねる」(道の尋ね方、選択疑問文を習得する。)	
7	第12課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第13課「経験を尋ねる」(経験の有無の言い方を習得する。)	
8	第13課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第9課から第13課の復習文を参考にして文法知識の定着を図る。	
9	第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合の尋ね方、中国語の可能表現を身につける。)	
10	第14課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第15課「比較する」(比較表現、新たな疑問文の表現である反復疑問文を習得する。)	
11	第15課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第16課「条件・情報を尋ねる」(２点間の隔たりを表す表現、比較文の否定形を習得する。)	
12	第16課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第17課「進行状況を尋ねる」(進行表現、結果補語を習得する。)	
13	第17課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 第18課「別れを告げる」(義務・当為をあらわす助動詞、変化を表す表現を身につける。)	
14	第18課の復習を通して、文法の理解をさらに深める。 前期と後期の学習内容をもとに、自由なテーマで長文を作成する。	
15	期末試験に備えて、後期の学習内容の総復習を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業内の活動・課題（毎回）	10	授業内で行われる質疑応答やペアでの表現練習などに積極的に参加する姿勢、課題の完成度で評価する。	小テスト（適宜）	30	1課が終了するごとに、学習到達度確認のための小テストを行う。
自由テーマ文の完成度（第14回）	10	習得した文法を用いてテーマを自由に文章を作成する。その完成度で評価する。	期末試験（第16回）	50	授業内容を十分に理解できているか確認するために、筆記試験を実施する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それから音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] ②授業後は新出単語（発音、ピンイン、簡体字）、新たに学習した文法項目を復習し、授業で課された練習問題に取り組むこと。[50分] ③自由テーマ文を作成することを考えて、あらかじめ内容を準備すること。[10分]	①小テストや課題は添削・採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 ②第14回授業で作成する自由テーマ文は添削後に返却する。 ③採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。

受講生に望むこと	前期に比べて複雑な文法項目が多いので、必ず復習をしましょう。 学期末には一年間で習得した文法を用いて文章を作成してもらいます。 あらかじめどのような内容にするのかを考えておきましょう。	教科書・テキスト	『≪新版≫できる・つたわるコミュニケーション中国語』　岩井伸子・胡興智 著　白水社　2023年　ISBN 9784560069431
指定図書／参考書等	なし／『日中辞典[第３版]』小学館　2015年　ISBN 978-4095-156538 『中日辞典[第３版]』小学館　2016年　ISBN 978-4095-156040 『Ｗｈｙ？にこたえるはじめての中国語の文法書＜新訂版＞』相原茂・石田知子・戸沼市子 著　同学社　2016年　ISBN 978-4-8102-0327-1	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目はフランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説する。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化ついて、様々な角度から知り、体験していく。言葉としてのフランス語を通してフランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 ②言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が拡がることであり、フランス語という言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	フランス語の基礎，アルファベ，綴り字の読み方，発音のルール，リエゾン・アンシェヌマン Eléments de base / prononciation	
2	挨拶，授業で使う表現　Salutations Bonjour, Madame.　Salut, Paul.　Ça va?	
3	自己紹介・国籍・身分・名前の言い方，人称代名詞　je/tu の使い方，動詞　êtreの活用形・否定形・疑問形 Est-ce que tu es japonais?　verbe négation, questions fermées	
4	名詞の性・数　masculin/féminin canadien（s）　canadienne（s）chinois (e)(s)	
5	定冠詞・不定冠詞　un, une, des, le, la, l', les C'est une école.	
6	住んでいるところ・言語・学科を言う，第一群規則動詞，否定形ne...pas J'habite à Tokyo.　Je parle français.　Je n'habite pas à Paris.	
7	第一群規則動詞 -er　疑問形・否定形の口頭練習 Vous parlez français?　Non, je ne parle pas français.	
8	動詞 avoirの活用，年齢・好みをいう，数(11～20) J'ai un frère.　J'ai vingt ans.　J'aime le cinéma	
9	動詞 avoirの否定形・疑問形の口頭練習，不定冠詞，否定文中のde，avoirを使った表現 Je n'ai pas de frère.　j'ai faim.　J'ai froid.	
10	食べる，飲む，たずねる（何？　いくつ？），部分冠詞 Tu manges du fromage.　Je prends du café.	
11	部分冠詞の否定形，カフェでの飲み物の注文の仕方の口頭練習 Je bois de l'eau. Je ne bois pas d'eau. Il y a une voiture. Il n'y a pas de voiture. Qu'est-ce que tu prends le matin? Je prends du café au lait.	
12	人・物を描写する，たずねる（誰？，どんな？），形容詞の性・数・位置，指示代名詞，所有形容詞 Il est grand. Elle est gentille. C'est un étudiant intelligent.　C'est mon père. Ce sont mes amis.	
13	形容詞の女性/男性形の例外 beau-belle gentil-gentille ennuyeux-ennuyeuse	
14	動詞aller/venirの活用　行先・国名，冠詞縮約(à) à+le-au/ (de) de+le-du Je vais en France.　Je vais à l'école.　Je vais aux Etats-Unis.　Je viens du bureau.	
15	行く・来る，人称代名詞強勢形，数（60～） Je suis étudiant.　Et toi?	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中にある練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『アンコール　サリュ１』田辺 保子 著，西部 由里子 著，駿河台出版社,2024年，ISBN978-4-411-01144-2
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	フランス語Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	ロイック　メノウ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明する。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学ぶ。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していく。フランス社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学ぶ。	①フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 ②言葉だけではなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 ③一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることあり、言語を通してその実感を体験する。

教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。
履修条件	『フランス語Ⅰ』の単位を修得済みの者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	動詞aller/venirを使った近接未来・近接過去　futur proch/passé récent Tu vas sortir ce week-end ?　Je viens de finir mon travail.	
2	時刻，たずねる（何時？何時に？いつ？）（何をする？），第二群規則動詞finir/faireの慣用表現，家事について Quelle heure est-il?　Il est trois heures. A quelle heure …? quel? quand?　Je fais　la cuisine.	
3	代名動詞（再帰動詞）の疑問形 se coucher/s'appeler Je me couche à dix heures. Je m'appelle Sophie.	
4	時制や頻度を表す名詞や副詞　toujours, souvent, tous les jours, aujourd'hui, hier, demain	
5	pouvoir/vouloirの活用と表現　Je veux voyager.　Je peux sortir.	
6	たずねる（なぜ？），痛みに関する表現，Pourquoi?に対して　～ Parce-que の答え方 J'ai mal à la tête.	
7	日常の行動をいう，午前・午後・週などをいう，代名動詞／指示形容詞 Tu te lèves tôt?　A　quelle heure vous vous couchez?	
8	天気をいう，季節・月・週・午前・午後などの語彙 Il fait beau.　Il neige.　lundi,　hiver,　janvier	
9	場所をいう，道順をいう，冠詞の縮約(de)，前置詞，序数 Où est le café?　Il est en face de la maison.　dans, sur,　sous	
10	命令・義務の表現　命令形／il faut… Allez tout droit.　Il faut travailler.　Sois sage!	
11	過去のことを語る（1）-1　複合過去(passé composé) avoir + pp.　様々な否定（1） J'ai fait du tennis.　Je n'ai pas téléphoné.	
12	過去分詞の作り方，中性代名詞en Il a travaillé.　J'ai fini mon étude.　Je n'en ai plus.	
13	過去のことを語る（2）-1　複合過去(passé composé) être + pp.　様々な否定（2）・ être動詞を伴う動詞の種類 aller/venir/sortirなど・過去分詞は主語の性・数に一致する　Elle est allée au musée.	
14	複合過去(passé composé)の疑問分・否定文の作り方 Il est venu de la piscine?　Non, il n'est pas venu.	
15	外国に行ったことがありますか？Il y aの使いかた（過去を表現する場合），中性代名詞　場所を表す副詞 y，半過去形 Tu　est déjà allé(e) à l'étranger?　Quad ça?　Il y a dix ans, j'étais à Paris.（10年前私はパリにいました	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	学習内容をきちんと習得している。	受講態度	30	講義に積極的に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]	テキスト中の練習問題を自主学習し、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。

受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。	教科書・テキスト	『アンコール　サリュ１』田辺 保子 著，西部 由里子 著，駿河台出版社,2024年，ISBN978-4-411-01144-2
指定図書／参考書等	授業中に随時紹介します。	その他・特記事項	プリントや資料等は随時配布します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅰ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語科目として開講される。韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、ハングルの読み方や書き方、発音の基礎などを中心に、文法表現など一通りを学ぶ。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。前期では１課から６課を中心に文字の練習を重点的に行う。各単語に付けられているイラストによって楽しく反復学習ができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	ハングルの子音と母音の読み書きができると共に簡単な単語の構成について理解ができる。言語学的に日本語や英語との共通点と違いを理解する。２１個の母音と１９個の子音の組み合わせによる文字としての表現の学習力を高めて後期から始める会話学習に備えることができる。自分の名前や簡単な単語の表現ができるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ハングルとは何?/ハングルの基本構成を理解して日本語との共通点と違いを理解する。	
2	ハングルの基本母音について/基本母音を理解し、読み書きができる。	
3	ハングルの母音の活用について/母音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
4	ハングルの基本子音について/基本子音を理解し、読み書きができる。	
5	ハングルの子音の活用について/子音の役割を理解し、言語としての活用法を理解する。	
6	子音と母音の組み合わせについて/子音と母音を組み合わせて自分の名前や家族の名前が書ける。	
7	子音と母音の復習/子音と母音を理解し、読み書きができる確認をする。	
8	パッチムとは?/日本語にはないパッチムの構造を理解する。	
9	パッチムの役割について/単語の練習を通じてパッチムの役割が理解できる。	
10	簡単な単語の練習/教科書を中心にグループ別に書く練習をする。	
11	ハングルキ-ボ-ドの打ち方/携帯電話やパソコンを用いてハングルキ-ボ-ドの打ち方ができる。	
12	韓国の文化について①/韓国の食文化や地域の特徴について理解する。	
13	韓国の文化について②/韓国の社会や教育、大学の文化を理解する。	
14	前期の復習①/前期の全般的な内容を理解する。	
15	前期の復習②/前期の全般的な内容についてグループ別に理解度を確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の意見として作成する。
試験	50	ハングルの読み書きに対する理解を基準とする。 １６回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として予習と復習を前提とする。[30分] ハングルは漢字を使わないので英文字やひらがなのように基礎の段階では書く練習に基づく事前学習が必要である。[60分]	レポートは子音と母音に対する理解を確認する内容や単語の書く練習を兼ねたことが主になる。試験はハングルの音読みを基本として子音、母音、パッチムの理解を確認する。

受講生に望むこと	ハングルは基本子音と母音が理解できれば一年ほどで簡単な日記を書くことや基本会話ができる言語で、初めての言葉に対する難しそうという先入観を捨てることが大事である。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	韓国語Ⅱ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択必修
担当教員名	金　正逸						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は第２外国語として開講される。前期の韓国語Ⅰを学んだ学生を対象に、口頭表現の発展を目指す。日常的に用いられるハングル文字の読み方や書き方を中心として、簡単な会話ができることをめざす。韓国語はアルタイ語に属する子音１９個母音２１個で構成されている表音文字である。日本語と同じく漢字の音読みや固有語で形成されているために言語としての共通点が非常に多いのが特徴である。後期では７課から１８課までに至る日常会話を中心とする授業になる。自己紹介から趣味などの多様な会話を身に付けることができる。言語の学習は何よりも興味を持つことが大事で、ネットを通じる情報の確認や映画、ドラマ、歌など自分の好みに基づく様々なことに接するのを授業に応用する。	個性的な自己紹介ができる。簡単な買い物ができる会話力を身につける。学校生活や週末、日常日課のことが表現できる。食べものの選び方や家族の呼び名、旅行時の簡単な会話ができる。交通手段の利用方法、約束のやり方、自分の能力の表現ができる。様々な趣味のことや自分のことが言えるようになる。

教授方法	グループ授業を原則として与えられた課題をグループの中で解決する方式で行う。
履修条件	「韓国語Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	前期の全般的な復習/ハングルの基礎について理解している。	
2	自己紹介/みんなの前で自己紹介ができる。	
3	ショッピングのやり方/自分でショッピングができる。	
4	学校生活について/学校内にある色々な場所が言える。	
5	週末の時間過ごしの表現/週末の過ごし方が表現できる。	
6	一日の日課の表現/自分の日課の表現ができる。	
7	食べ物について/韓国の食べ物を言えることや味の表現ができる。	
8	家族の呼び名/自分の家族関係や数字が言える。	
9	旅行関係の表現/旅行時の簡単な会話ができる。	
10	交通便について/交通手段による乗り方ができる。	
11	約束の仕方/約束する時の表現ができる。	
12	自分の能力を表現する/自分ができることの能力について言える。	
13	趣味に対する表現/自分の趣味について言える。	
14	後期の復習①/後期に学習した会話の全般的なことが分かる。	
15	後期の復習②/後期に学習した会話をグループ別の理解度として確認する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業の参加態度	20	授業に積極的に参加し、グループ内で活発な意見交換などを行う。	レポート	30	与えられたレポートを自分の会話力を活用して作成する。
試験	50	聞き取りと会話力を基準とする。16回目に実施する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
教科書を中心として基本会話の予習と復習を徹底して行う。[30分] 映画やドラマ、ネットなどを通じて聞き取りを反復して練習する。[30分] 授業時の会話文は次の時間まで覚えて置くこと。[30分]	レポートは自分と関わりを持つ内容として会話文を作成する。 試験は会話テストとして口述試験を行う。

受講生に望むこと	ハングルの語順は日本語と同じなので、単語力と助詞の活用法が分かれば簡単な日常会話を身に付けることができる。 韓国語に興味を持ち韓国の様々な文化に対する知識を高めたいという意識を持って受講してほしい。	教科書・テキスト	『マルプンソンで学ぶ韓国語初級』李熙卿・白　仁子著,白帝社,2016年,ISBN9784863982093 必要に応じてプリントなどを用いる。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（ゴルフ）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要

本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。
健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。
ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。

授業の到達目標

① ゴルフの競技特性を理解する。
② ゴルフの基本的技術を習得する。
③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。
④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。
⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。	
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。	
3	ショットの基礎①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。	
4	ショットの基礎②：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしハーフショットまでの技術を習得する。	
5	ショットの基本①：グリップ、ポスチャー、エイミング ～ ショートスイング ～ ハーフスイング ～ フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくしフルショットまでの技術を習得する。	
6	ショットの基本②：ボール弾道の法則とフェースコントロール･･･スイング及びフェースの向きによって生じる９種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。	
7	ショットの基本③：ＶＴＲによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。	
8	ショットの基本④：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。	
9	ショットの基本⑤：グリーン周りの技術 ～ パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。	
10	講義：ゴルフの歴史、ルールを理解する	
11	ショットの基本⑥：ショートアイアンとミドルアイアン～ウッドクラブ クラブを使い分けることで飛距離をコントロールする	
12	ターゲットバードゴルフ①：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。	
13	ターゲットバードゴルフ②：ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。また、一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。	
14	ショートゲームテストとまとめ	
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しは行う。［準備体操を含め60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し、実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。 主にグランドで実技を行うので、外履きの運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ～ 7　MICO　ケンメディア	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（テニス）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・熊谷　史佳　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 生涯スポーツとして実戦人口の多い「テニス」を実技種目とし、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① テニスの競技特性を理解する。 ② テニスの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	対面授業によるスポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明	熊谷
2	グリッピング、ラケットワーク	熊谷
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習得を目指す。	熊谷
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
6	基本ストローク（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。	熊谷
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。	熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。	熊谷
11	ゲーム 1 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。	熊谷
12	ゲーム 2 ：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。	熊谷
13	ゲーム 3 ：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。	熊谷
14	ゲーム 4 ：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。	熊谷
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	熊谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する ・実技に対して積極的に参加しているか ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか	種目毎に実施するスキルテスト	30	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。［準備体操を含め 60分程度］ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動ができる服装で参加する。 主に屋外テニスコートで実技を行う。外履き用の運動靴を用意する。また、必要に応じて帽子など用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツA（バドミントン）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一・宮本　勝裕　（代表教員　永山　亮一）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「バドミントン」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「バドミントン」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。	① バドミントンの競技特性を理解する。 ② バドミントンの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス、種目選択、グルーピング、用具の説明	宮本
2	バドミントンの楽しみ方1 ：ラケット競技の特性を理解し、楽しむための基本的な知識を得る。 ラケットワーク(グリップ、操作方法など)を習得する。	宮本
3	バドミントンの楽しみ方2 ：バックハンド、フォアハンドなどの技術を理解し、基本ストローク(サーブ)が打てるようになる。	宮本
4	バドミントンの基礎（基本ストローク）1 ：下から上への基本ストローク(ロブ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
5	バドミントンの基礎（基本ストローク）2 ：下から上への基本ストローク(ヘアピン)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
6	バドミントンの基礎（基本ストローク）3 ：上からの基本ストローク(ハイクリアー)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
7	バドミントンの基礎（基本ストローク）4 ：上から下への基本ストローク(スマッシュ、カット、ドロップ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
8	バドミントンの基礎（基本ストローク）5 ：横からの基本ストローク(ドライヴ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
9	バドミントンの基礎（基本ストローク）6 ：その他の基本ストローク(プッシュ)の技術を理解し、打てるようになる。	宮本
10	講義：ダブルス・シングルスのルール及び審判方法を学習し、ゲームができるようになる。	宮本
11	中間レベル確認：これまでに学習した基本ストローク技術の習得度合いを確認する。	宮本
12	ゲーム 1 ：学習したルールに則り、ダブルスゲームを楽しめるようになる。	宮本
13	ゲーム 2 ：ダブルスゲームのリーグ戦を行う。	宮本
14	ゲーム 3 ：ダブルスゲームのリーグ戦の続きを行う。まとめ	宮本
15	講義：本授業での学びを振り返り、健康的で豊かなスポーツライフの実現ついて考える。	宮本

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
課題レポート	20	生涯スポーツとしてのバドミントン競技の意義をどの程度理解している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。 その際の用具の貸し出しを行う。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 運動のできる服装で参加する。主に体育館で実技を行うので、内履きの運動靴を用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。 健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って　若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。 ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を実技種目として採用する。 ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。 なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）	① 各種ニュースポーツの競技特性を理解する。 ② 各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。 ③ 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ④ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ⑤ ①～③を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。

教授方法	スポーツ実技
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。	永山
2	フライングディスク①：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。	永山
3	フライングディスク②：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッヂビーなどのゲームを楽しむ。。	永山
4	ソフトバレーボール①：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。	永山
5	ソフトバレーボール②：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。	永山
6	ソフトバレーボール③：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。	永山
7	インディアカ①：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。	永山
8	インディアカ②：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。	永山
9	フレッシュテニス①：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）	永山
10	フレッシュテニス②：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	永山
11	ユニホック①：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）	永山
12	ユニホック②：ユニホックという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	永山
13	タグラグビー①：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　タグラグビーの基礎的技術を習得する。	永山
14	タグラグビー②：タグラグビーという競技を理解し、実践する。　習得した技術を基にゲームを楽しむ。	永山
15	講義：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとして スポーツに親しむ礎とする。	永山

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
レポート	10	課題を理解し、適切な内容が書かれている。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。授業中に学んだことを自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。	小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。運動のできる服装で参加する。主に体育館にて行うので、内履きの運動靴を用意する。 詳しくは初回ガイダンスにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生涯スポーツB（集中講義：ゴルフセミナー）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	永山　亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要

本科目は、大学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられており、この野外活動プログラムは 4 日間にわたる集中講義にて行う。
ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーフィーの格安化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーもさることながら、職域や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いからではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることで、ゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。
なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー（本科）」の他に「後期開講の授業」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）
※ 各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。
※ 各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。

授業の到達目標

① ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。
② ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。
③ グリップ、ポスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。
④ ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。
⑤ 距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。
⑥ 基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。
⑦ ゴルフを通じた人間関係能力を養う。

教授方法	ゴルフ実技　（大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習）
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握／用具の準備。	
2	【実習　1 日目　午前Ⅰ】　開講式／レッスン①：スタンスの確認（グリップ、ポスチャー、エイミング） ショートスイング　～　スリークォータースイング（ 9Ⅰ）	
3	【実習　1 日目　午前Ⅱ】　レッスン②：スリークォータースイング　～　ハーフスイング（ 9Ⅰ）	
4	【実習　1 日目　午後Ⅰ】　レッスン③：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ）	
5	【実習　1 日目　午後Ⅱ】　レッスン④：ハーフスイング　～　フルスイング（ 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰ）	
6	【実習　2 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑤： 9Ⅰ、7Ⅰ、5Ⅰまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。 また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。／VTR 撮影	
7	【実習　2 日目　午前Ⅱ】　レッスン⑥：「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び 弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。／ VTR撮影	
8	【実習　2 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑦：ウッドクラブによるスイング（ゴルフ練習場）。	
9	【実習　2 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑧：パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。	
10	【実習　3 日目　午前Ⅰ】　レッスン⑨：VTR によるフィードバック／クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。	
11	【実習　3 日目　午前Ⅱ】 レッスン⑩：ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習／グルーピング／打ち込み。	
12	【実習　3 日目　午後Ⅰ】 レッスン⑪：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。	
13	【実習　3 日目　午後Ⅱ】 レッスン⑫：グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。 ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。	
14	【実習　4 日目　午前】 レッスン⑬：民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。	
15	【実習　4 日目　午後】 ラウンド実習：本コース 9ホールのハーフラウンド体験を行う。／閉講式	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加している。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力している。	実習終了後のレポート評価	20	1．指定されたフォーマットに準じて記載されている。 2．本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられている。

授業外における学習（事前・事後学習等）

運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につく。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧める。その際の用具の貸し出しを行う。〔1回60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行うこと。

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	実技科目のため、出席し実技に参加することを原則とする。 4日間の集中講義になるので体調を整えて参加すること。 詳しくは事前オリエンテーションにて説明する。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出ること。場合によっては実習への参加を認めない場合がある。（事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意する。）

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ａ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
本講義の目的は２つある。第１は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第２は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようになることを目指す。	①学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。 ②電子メールの送受信ができるようになる。 ③情報倫理に関する基本的な知識を身につける。 ④Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。 ⑤Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。 ⑥Googleドキュメントで文章を作成し、Classroomにより提出することができるようになる。 ⑦Googleスプレッドシートの基本操作を知る。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	各自のChromebookを使用してGoogleドキュメントを作成し、Classroomにより提出する方法を習得する。	
2	各自のChromebookを使用したGmailの送受信方法を習得する。学内の情報環境を知る。Windowsの基礎操作とさまざまな文字の入力方法を身につける。	
3	Word①：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。	
4	情報倫理：インターネットを利用する際のマナーやモラルを身につける。	
5	Excel①：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。	
6	Excel②：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。	
7	Excel③：条件分岐関数の操作方法を習得する。	
8	Excel④：表引き関数の操作方法を習得する。	
9	Excel⑤：これまで学習したExcel操作について振り返りを行い、小テストで習熟度の確認を行う。	
10	Excel⑥：基本的なグラフの作成方法を習得する。	
11	Excel⑦：データの並べ替え・抽出方法を習得する。	
12	Word②：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。	
13	Word③：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。	
14	総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。	
15	スプレッドシート：基本的な操作方法を学ぶ。Ecxelとの違いを知る。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
情報倫理小テスト	10	授業で学んだ知識を習得しているか。	Excel小テスト	30	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。
総合課題	30	Excelで作成した表やグラフを挿入し、Wordで体裁を整えることができるか。	授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分] ②14回目の授業で、総合課題を課す。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取組むこと。[60分以上]	課題はコメントを付けて返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『30時間でマスター Office2019』 （実教出版，2019年） ISBN978-4-407-34835-4 『情報倫理ハンドブック（改訂版）』 noa出版　2024年出版
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	情報機器演習Ｂ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	沢田　史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種免				

授業の概要	授業の到達目標
現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。代表的なアプリケーションであるPowerPointの基本的操作を習得し、プレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。また、近年データ入力やアンケートの多くがフォームで実施されている。Googleフォームの基本的操作を習得し、データ収集・管理する力を養うことを目指す。	①Excelで複合グラフが作成できる。 ②PowerPointの基本操作を習得する。 ③プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、PowerPointで資料を作成して発表できるようになる。 ④どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 ⑤Googleフォームの基本操作を習得する。 ⑥Googleスライドの基本操作を知る。

教授方法	演習
履修条件	「情報機器演習A」の履修済が望ましい。（単位未修得可）

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Ａで学んだ関数の振り返りを行う。	
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。	
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。	
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。	
5	図形描画機能を使って、オリジナルのイラストを作成する方法を習得する。	
6	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。	
7	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。	
8	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。	
9	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。	
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価①：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価②：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。	
12	Googleスライド：基本的な操作方法を学ぶ。PowerPointとの違いを知る。	
13	Googleフォーム①：簡単なアンケートを作成し、基本操作を習得する。	
14	Googleフォーム②：オリジナルアンケートを作成する。	
15	Googleフォーム③：アンケート結果をまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。	プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。
アンケート作成とまとめ	20	フォームでアンケートを作成できるか。その結果をわかりやすくまとめることができるか。	授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業で学んだ知識・技術が定着するよう復習すること。[40分] ６回までにプレゼンのテーマを考えること。[60分以上] 10、11回のプレゼンのための発表練習を十分に行うこと。[60分以上]	課題・プレゼンテーションはコメントを付けて返却する。

受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。	教科書・テキスト	『30時間でマスター Office2019』 （実教出版，2019年） ISBN978-4-407-34835-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅠ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子・矢澤　励太　（代表教員　俵　万里子）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生の学びを進めていくに当たり必要となる基礎的な能力を身につける。具体的にはノートテイキング・文献講読・レポート作成・プレゼンテーション・グループディスカッションなどについて演習を通して学習する。グループディスカッションを通じて人間関係のあり方や、コミュニケーションについても学ぶ。入学時に実施するPROGテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①大学での学び方について理解している。 ②図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を習得する。 ③ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。 ④レポートの書き方を理解している。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（前半合同）ゼミの進め方や履修登録の確認を行う。（後半）ゼミごとに自己紹介を行い、係りを決める。	担当教員
2	（合同）図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。（テキスト第５章に該当）	全員
3	ゼミごとに図書館から借りた食に関する本を紹介する。	各担当教員
4	（合同）スタディ・スキルズとは？：自己の目標設定、大学での学びについて考える。（テキスト第１章に該当）	全員
5	ノートテイキングのスキル：ノートテイキングの方法について学び、理解する。（テキスト第２章に該当）	全員
6	ＰＲＯＧテストの解説会	全員
7	（合同）レポートと感想文の違い、対比思考を活用し論理的な文章を書く方法を知る。（テキスト第８章に該当）	全員
8	レポートの構成を理解する。（テキスト第８章に該当）	各担当教員
9	（合同）テキストを読み、要約する方法を理解する。（テキスト第３章に該当）	全員
10	テキストを読み、要約する。（テキスト第４章に該当）	各担当教員
11	（合同）情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、理解する。（テキスト第６．７章に該当）	全員
12	教員が提示した文章を読み要約する。	各担当教員
13	第12回で読んだ文章をもとに、自分の考えをレポートにまとめ、発表する	各担当教員
14	（合同）後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。	全員
15	教員が提示した文章を要約し、自分の考えをレポートにまとめる。提出期限はClassroomで一週間後とする。	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言していることを 100％として、積極的な姿勢を評価する。	レポート	50	①内容はオリジナルなものか。 ②参考文献の選定や引用は適切か。 ③時間内に収まる構成だったか。 ④他者に伝わるような話し方、内容だったか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各自レポート作成のための「問い」を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには日頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。 ②レポート作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。 ③学内の環境（ILCやLLCなど）を有効に活用し、レポート作成ができるように準備する。	その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考にして自分の学びを深めていくように指導する。

受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもちろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著,くろしお出版,2019年,ISBN978-4-87424-789-1
指定図書／参考書等	担当教員の指示に従うこと。／担当教員の指示に従うこと。	その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する回の授業内容は、日程によって前後する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎ゼミⅡ（健康科学部）			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・榎本　俊樹・中谷　壽男・新澤　祥恵・西　正人・矢澤　励太　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は初年次教育科目の一つとして開講する。大学生としての主体的・自主的な学びの姿勢および知的探求の方法を習得することを目的とする。具体的には、①文献・データの検索と整理、②レポートの文章作成（前期からの継続と発展）、③プレゼンテーションの方法、④ディスカッションの方法（11月の「オータム・セミナー」でのグループ討論を念頭）に重点をおいて学ぶ。テーマに沿ったレポートを作成し、発表する。また PROGテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①大学で学ぶために必要なスキルを身につけ、それを実践することができる。 ②文献の調べ方とデータの検索方法を身につける。 ③レポートの書き方を身につける。 ④プレゼンテーションのスキルを身につける。 ⑤新しいアイディアを生み出すためのグループ・ディスカッションのスキルを身につける。 ⑥正しい文法に基づいた分かりやすい文章を書く日本語力を身につける。

教授方法	各ゼミごとの演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	（全体）全体オリエンテーション（履修登録の確認等）：授業概要を理解する。成績指導を受け、履修登録確認を行う。	全員
2	インターネットによる情報収集：レポート作成のために必要な情報をインターネットで収集する方法を習得する（テキスト第６章）。日本語表現：漢字	全員
3	アセスメント解説会：各ゼミにおいて担当教員がリテラシーとコンピテンシーの修得状況に応じたアドバイジー学修指導を行う。	全員
4	レポート・テーマの選定	全員
5	情報の整理：レポートの作成に用いる文献の整理方法と文献リストの作成方法を習得する（テキスト第７章）。	全員
6	レポートの構想発表	全員
7	グループ・ディスカッション：オータムセミナーのグループ討論を念頭に置いて、ディスカッションスキルを学ぶ。	全員
8	オータムセミナーグループ討議の振り返り；日本語表現：文法① アカデミックライティングの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める（テキスト第８章）。	全員
9	効果的なアカデミックライティングのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める（テキスト第９章）。 日本語表現：文法②・③	全員
10	プレゼンテーションの基本スキル：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。各ゼミ必要に応じてレポート中間発表（テキスト第11章）。日本語表現：語彙①	全員
11	レポート中間発表	全員
12	わかりやすいプレゼンテーションのために：「基礎ゼミⅠ」での学びをさらに深める。レポート内容の発表準備（テキスト第12章）。日本語表現：語彙②	全員
13	レポート内容の発表準備：各ゼミ必要に応じてレポート最終発表	全員
14	レポート最終発表	全員
15	（全体）履修指導、授業評価アンケート調査、プロゼミ説明会	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見に聴きつつ、自分の意見もきちんと述べているか。 ③課題に真剣に取り組んでいるか。	提出課題	30	レポート・テーマや構想、中間発表原稿、日本語表現の各課題を締め切りまでに提出しているか。
レポート・発表	50	①内容はオリジナルなものか②文献の選定や引用は適切か③適切な構成か④他者に伝わるような話し方か⑤指定された形式か⑥事実・データと意見を分けた文			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業に示されているテキストの章をあらかじめ読んでおくこと(30分)　。 ②レポート作成のための文献・情報の収集と整理を十分行う(30分)。 ③レポートの中間発表でのコメントを踏まえて、必要な文献等を読み、内容を改訂する(30分)。 ④図書館やインターネットなどさまざまな文献・情報により視野を広め、知識を増やすとともに、集めたものは整理しておく(30分)。	その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考にして自分の学びを深めていくように指導する。

受講生に望むこと	少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ自分の意見も述べるように努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。	教科書・テキスト	『知へのステップ』（第5版）学習技術研究会/編著,くろしお出版,2019年,ISBN978-4-87424-789-1 ※基礎ゼミⅠから引き続き使用
指定図書／参考書等	なし／日本語検定公式テキスト『日本語中級３・４級』ISBN　978-4487802906、日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN　978-4487802760、日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN　978-4487802784、日本語検定領域別問題集『文法』ISBN　978-4487802777、日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN　978-4487802971	その他・特記事項	・テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 ・本科目は授業の事前課題として日本語表現に関わる課題に取り組み、日本語表現の基礎を修得するための内容も担保している。 ・合同で実施する回の授業内容は、日程によって多少前後する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キリスト教といのち			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤　励太						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
１・２年次で得たキリスト教人間観の基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくり、聖書的人間理解を携えて「食」に関わるプロフェッショナルとして歩んでいくために助けとなる素材を提供する。ねらいは①学生が健康科学部での学びをキリスト教人間観の視点から見つめ直し、社会での働きに対する構えを形成すること、②学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。 ※SDGs目標番号2、3、12関連科目	①北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。 ②人間を聖書的平和（シャローム）の視点からホーリスティックに理解し、他者の本当の健やかさに寄与する「食」のプロフェッショナルの姿勢を修得する。 ③キリスト教人間観の視点から、健康科学部における学びの成果を総括できるようになる。

教授方法	レジュメに基づく講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：本コースの概要説明。Google Classroom 設定クラス参加手続。健康科学部での学びを本学の「キリスト教人間観」の視点から総括するキャップストーン科目としての本科目の位置づけを理解する。	
2	キリスト教と科学①：キリスト教と科学との関係を歴史的に概観する。両者の関係が常に対立的であったわけではなく、親和性もあることを発見する。	
3	キリスト教と科学②：キリスト教と科学との関係を科学哲学・世界観の視点から概観する。科学的探究が神の造られた世界を探究し、神の栄光を現す営為となることを発見する。	
4	キリスト教における「いのち」：聖書を通して示される「いのち」の理解を探究し、生物学的生命と霊的いのちとの区別と関連を探る。	
5	キリスト教とSDGs①:健康科学の視点から、SDGsのゴールを検討し、「食」に携わる者として何ができるかを考える。	
6	キリスト教とSDGs②:健康科学の視点から、SDGsのゴールを検討し、「食」に携わる者として何ができるかを考える。	
7	「シャローム」と「食」：聖書における「平和」（シャローム）を理解し、その中に「食」がどのように位置づけられるのかを探究する。	
8	聖書における「食物規定」について、その理解がどのように変化してきたのか、それがキリスト教の「救い」の理解とどうつながっているのかを理解する。	
9	いのちのパンであるキリスト：マナから聖餐のパンに至る神のいのちの系譜を発見する。	
10	いのちの水であるキリスト：荒れ野の水からキリストにある生ける水に至る神のいのちの系譜を発見する。	
11	「バベットの晩餐」①：ストーリーの場面を取り上げ、「食」がひとのホーリスティックな健やかさに寄与することを発見する。	
12	「バベットの晩餐」②：ストーリーの場面を取り上げ、「食」がひとの身体・精神・霊の健やかさに寄与することを発見する。	
13	「キリスト教人間観」に生きる食のプロフェッショナル：Vocation、Calling としての職業理解に触れ、その具体的な働きの現れ方を考察する。	
14	献立・食卓の先を思い遣る：ホーリスティック（全体的）な健康といのちの理解を持って相手に食のサービスを提供できるようになる視点を発見する。	
15	まとめ：本科目における学びを振り返りまとめつつ、学期末試験の準備説明を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。	教会出席レポート	20	地域教会の礼拝に出席し、メッセージ内容について「食といのち」の視点からの感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。
SDGsレポート	20	「食」に係わる視点でSDGsのゴール１つを取り上げて、学期中に自分の生活の中で取り組んだ活動とその成果をまとめた小レポートにおいて、自分が学び取った内容を的確に表現できているかを評価。	定期試験	40	講義内容の理解度を測る記述試験により評価。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、チャペル礼拝への積極的参加を求める。 ②その週の授業内容をプリントで復習し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。 ③日頃より聖書に親しみ、本学のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。 ④神に感謝し、献金先の活動を理解しつつ、礼拝献金に加わる。	「振り返りシート」は学期中の授業展開の上で参考にしていく。「礼拝出席レポート」、「学期末試験」については全体講評をメソフィア等で告知する。

受講生に望むこと	・遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞄にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 ・本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／授業内で紹介する。	その他・特記事項	・毎回聖書ならびに Chromebook を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作などのマナー違反が繰り返される場合は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。 ・視聴覚教材も積極的に導入する。”

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	データサイエンス入門			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	池村　努						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この科目は学部共通科目として開講する。我々が生活する社会には多くの情報やデータが存在する。これからの社会はデータを正しく取り扱い、適切に分析し、価値のある情報を見出すことが求められていく。本科目では1年前期の「情報機器演習A」を受け、ICT機器の取扱について一定の知識を得たことを前提に、AI利活用に関わる理解、データを扱うための知識、統計的な考え方と、統計解析の手法を学ぶ。これらを学ぶことにより、データサイエンス時代に対応できる知識と技術を身につける。 学習効果を高めるため、適宜反転学習や、グループディスカッション、Google Workspaceを活用する。	データサイエンスの時代とも言える21世紀を生きるうえで必要な、社会におけるデータ・AIの利活用について正しい知識を得て、説明できるようになる。 データリテラシーを身につけ、データの読み方、データの特徴抽出、データ分析を行ない、分析した内容について説明できるようになる。 データ・AI利活用における留意事項について理解し、説明できるようになる。

教授方法	テキスト・スライドを用いた講義形式で実施する。Google スプレッドシートを用いてデータ加工について学修する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	【導入・社会で起きている変化】現代社会はSociety5.0とも呼ばれ、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の両立が求められている。社会に起きている変化について具体的内容について学ぶとともに、「データサイエンス入門」の概要について説明する。	
2	【社会で活用されているデータ】社会で活用されているデータの種類、データごとの取得方法、所有者について学習する。またデータを扱う上での注意点についても学習する。	
3	【データサイエンスにおける心得−１】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。AIを使うことによるメリットも大きいが、倫理面の問題などについて正しく扱う必要もある。	
4	【データサイエンスにおける心得−２】データサイエンス本編について学ぶ前に、データ・AIを扱う上での留意事項について学習する。データ・AI活用における負の事例を紹介し、データを守るための留意事項について学ぶ。	
5	【データとAIの活用領域】事業活動と、活用目的ごとにデータ・AI活用の広がりについて学習する。反転授業（LITE)を行う。 【中間レポート１】反転授業を受けてレポートを作成する。	
6	【データ・AI利活用のための技術−１】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特にデータ解析の方法と、それにまつわる話題について触れる。 【振り返り小テスト１】５回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
7	【データ・AI利活用のための技術−２】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に画像や音などの非構造化データ処理、グラフ作成などによるデータ可視化、画像処理などで用いられるパターン認識技術について触れる。	
8	【データ・AI利活用のための技術−３】データを解析し、可視化する方法について学ぶ。この回は特に人工知能について扱う。今のAIで出来ること、出来ないことなどについても触れる。	
9	【データ・AI活用の現場】データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきかについて考える。	
10	【データ・AI利活用の最新動向】AIを活用した新しいビジネスモデルを紹介する。そして、今後ビジネスなどにも広く活用されるであろうAIに関する最新技術を紹介する。	
11	【データを守る上での留意事項】セキュリティ・プライバシーを守ることと、社会でデータを活用することの両立について学習する。反転学習を行う。 【中間レポート２】反転授業を受けてレポートを作成する。 【振り返り小テスト２】６～１０回までの学習内容についての振り返り小テストを行う。	
12	【データリテラシー−１】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。今回は「データを読む」ための基本事項について説明する。	
13	【データリテラシー−２】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に調査などに用いられる方法について説明する。	
14	【データリテラシー−３】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に図解などを用いて判りやすく説明するデータ表現の方法について説明する。	
15	【データリテラシー−４】データの読取りと理解を中心とする活用能力であるデータリテラシーについて学ぶ。この回は特に表計算ソフトをデータ解析ツールとして扱う方法について説明する。 【振り返り小テスト３】全15回を通した学習内容についての振り返り小テストを行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
振り返り小テスト	30	節末の練習問題から出題する3回の小テストによって理解度を評価する。	レポート	40	学期内に二度課す。設定されたテーマに沿ってレポートを作成する。これにより理解度を評価する。
課題学習	10	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	授業への積極的関与	20	反転授業・反転学習でのグループワークにおいて、積極的に関与していることを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：予告した箇所について通読する。[30分]反転学習として指示があった場合は、その指示に従い準備をする。[60分] 事後学修：指示された振り返り課題に取り組む。[30分]	授業時間内の振り返りと、Google Classroomを通じてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	Society5.0とも呼ばれる情報化社会でこれからの時代を担う人材となるべく、データサイエンスに関する知識を正しく身につけられるよう、興味を持って取り組んでほしい。	教科書・テキスト	『教養としてのデータサイエンス　改訂第2版』北川源四郎・竹村彰通編,講談社,2024年,ISBN978-4-06-537939-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レジュメはGoogle Classroomから配信する。 毎回行う振り返りもGoogle Classroom経由で実施する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
キャリアデザインの授業の目的は、社会的・職業的自立を目指し、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な能力を育成することである。この授業では、キャリアデザインの意義と目的、働くということの意義と目的、そして21世紀の産業社会を生き抜くために必要な能力について学ぶ。	この授業の到達目標は、下記のとおりである。 ①キャリアプランニング能力の育成である。働くことの意義を理解し、自らが果たすべき役割との関連を踏まえて働くことを位置付け、自ら主体的に判断してキャリアを形成していくことを理解する。 ②①を達成するため、ライフロール（人生役割）を理解する。 ③働くことの多面的な意味を理解する。 ④「なぜ仕事をするのか」「自分の人生の中で仕事や職業をどのように位置づけるか」といった勤労観・職業観について理解する。 ⑤21世紀の産業社会を生き抜くために必要な能力として、キャリアプランニング能力、専門的な職業能力等について理解する。 ⑥①を達成するため、私たちを取巻く外的環境即ち社会・経済状況等について理解する。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 キャリアデザインの基礎理解① キャリアデザインの基本について下記の視点を通して理解する。 ・キャリアデザインの意味　・キャリアデザインの時代　・キャリアデザインの対象　・キャリアデザインと「ワーク・ライフ・バランス」　・キャリアデザインの基本　等	
2	キャリアデザインの基礎理解②　現代社会におけるキャリアデザインの必要性とその課題について下記の視点を通して理解する。 ・キャリアデザインの課題　・なぜ働くのか　等	
3	キャリアの広がりとライフロールについて学ぶ① キャリア発達の基本的な考え方を理解する。 D.E.スーパーは、キャリア発達を、職業を含む様々な役割の組合せであるとして、人生の各段階における「ライフロール（人生役割）」を重視しました。そして、キャリアの発達段階を「ライフ・キャリア・レインボー」を用いて表しました。 ここでは、D.E.スーパーのキャリア発達理論を理解する。	
4	キャリアの広がりとライフロールについて学ぶ②　「ライフ・キャリア・レインボー」を用いて自分のライフロールを考える。 【working】自分のライフロールについて過去・現在を振り返り、更に未来についてイメージすることを通して、自らのキャリアをデザインする。	
5	『レビンソンの発達段階説』を通して、キャリアの生涯発達と下記の３つの節目（若年・中年・老年）について学ぶ。 (1) 人生の形成期とその課題　・「新米成人時代」の３つの過渡期　・職務適応と職場適応 (2) 人生の後半への出発　・中年期の発達課題：過去と未来をつなぐ現在 (3) 人生の終盤への課題　・新しい自我と生活構造の形成	
6	働くことの意味について学ぶ①　『マズローの欲求の5段階説』と『職業のもつ多面的な意味』から、働くことの多面的な意味を理解する。 【working】「人はなぜ仕事をするのか？（領域別・ライフステージ別・担い手別・職業形態別）」を使って、さまざまな視点から検証していき、職業の持つさまざまな意味の理解を深める。	
7	働くことの意味について学ぶ②　「職業観」の意味と職業観を持つことの大切な理由について学ぶ。 職業観とは「何のために働き、何のためにその仕事をするのか」ということである。 ●職業観が持つ３つの側面　●職業観についての歴史的な考察　●職業観を持つことが大切な理由	
8	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会① 私たちが、自らのキャリアデザインをする、即ち「これからどのように生きていくのか」「どのような仕事についてどのような働き方をするのか」について考える時に、私たちを取り巻く外的環境、即ちわが国の社会や経済、組織の在り方や仕組み等に関する知識や意見を持っていることが重要である。	
9	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会② 第２次世界大戦終了後から現在までの80年の歴史を概観する。切り口として、以下の視点から見ていくことにする。 第8回講義では、経済的な視点、具体的には「経済成長率」の推移 第9回講義では、社会的な視点、具体的には「少子高齢化」問題	
10	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会③ 第２次世界大戦終了後から現在までの80年の歴史を概観する。切り口として、以下の視点から見ていくことにする。 第10回講義では、これら経済的社会的変化に伴う「日本型経営」の推移	
11	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会④ 特に、下記の視点から少子化問題について考える。 ●少子化問題の原因　●女性と職業	
12	外的環境について学ぶ―私たちが生きる現代社会⑤ 特に、下記の視点から少子化問題について考える。 ●就業と子育ての両立　●少子化対策	
13	あなたに求められる４つの能力開発① 日本の産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変容し、人の働かせ方も個々人の自立性・多様性・社会性を重視したものに変化してきている。 第13回講義では、「キャリアプランニング能力」と「自己管理能力」について学ぶ。	
14	あなたに求められる４つの能力開発② 日本の産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変容し、人の働かせ方も個々人の自立性・多様性・社会性を重視したものに変化してきている。 第14回講義では、「政治的能力」について学ぶ。	
15	あなたに求められる４つの能力開発③ 日本の産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変容し、人の働かせ方も個々人の自立性・多様性・社会性を重視したものに変化してきている。 第15回講義では、「専門的な職業能力」（「エンプロイアビリティ」）について学ぶ。 キャリアデザインⅠの講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	・授業への参加態度及びディスカッションについて、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点等から評価する。	講義内容に関する課題・レポート	80	・講義内容に関する課題或いはレポートについて、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点等から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍、雑誌、論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは、良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・講義終了後に実施する授業評価を通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	・授業毎にレジュメ（テキスト）・資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187　金井壽宏著　PHP研究所　2002年10月 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要のある自己理解について、様々な科学的な手法を用いて学ぶ。 更に、仕事において高い成果を上げるための行動特性を「職業能力としての基礎力」というが、それらの内の「人間関係形成・社会形成能力」、「自己管理能力」そして「課題対応能力」について学ぶ。 以上のように内的キャリアへの関心を高めた上で、具体的に組織との関わり、即ち働くことを考える。	この授業の到達目標は、下記のとおりである。 ①様々な科学的な手法を用いて、長所・短所を中心とした自分の性格、好き嫌い、適性、希望などを明確化して把握する「自己分析」を行い、自己理解を深める。 ②職業能力としての基礎力の内の「人間関係形成・社会形成能力」、「自己管理能力」そして「課題対応能力」について学ぶ。 ③キャリア形成について思考する初期段階として、株式会社、ＮＰＯそして公務員についてのアウトラインを学ぶ。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 自己理解を深める① 「自己分析」とは、自分の本質を探る作業のことで、長所・短所を中心とした自分の性格、好き嫌い、適性、希望などを明確化して把握することである。第1回講義では、自己分析の目的と効果的な方法について理解する。	
2	「新聞を読もう」：新聞を身近なものとするために、新聞の意義やその読み方を学ぶ。 自己理解を深める② 【working】時間軸を通して自分を知るという目的から「自分史」を作成する。即ち、自分の外的キャリア（経験、体験、学習してきた事柄）を整理すること（自分史の作成）を通して、内的キャリア（能力、興味、価値観、性格等）を理解する。	
3	自己理解を深める③ 【working】『ライフライン分析』結果から、自分の性格等を認識する。 効果的な他己分析としての『ジョハリの窓』を理解する。	
4	自己理解を深める④ 産業と職業を理解する ●産業とは何かを理解する。　・産業と職業の関係　・産業の宿命　●職業とは何かを理解する。	
5	自己理解を深める⑤ 【working】職業との関わりから自分を知るという目的から、どんな業種（業界）に「興味がある・興味がない」のか、業務の内容によって分けられた仕事の内、どんな業務が「できる・できない」のか、という視点から自分の性格等を認識する。	
6	自己理解を深める⑥ 【working】「キャリアアンカー」の実施 キャリアアンカーとは、あなたが何を最も大切にして仕事に取り組むのか、その「コンピタンス（成果を生み出す能力）」 「動機（何がやりたいか）」および「価値観（何に価値を感じるか）」を明らかにしようとするものである。	
7	自己理解を深める⑦ 「社会人基礎力」を理解する。	
8	自己理解を深める⑧ 職業能力としての「５つの基礎力」を理解する。 第8回講義では「対人能力」を理解する。 【working】アサーティブなコミュニケーションを理解する。	
9	自己理解を深める⑨ 職業能力としての「５つの基礎力」を理解する。 第9回講義では「対自己能力」を理解する。	
10	自己理解を深める⑩ 職業能力としての「５つの基礎力」を理解する。 第10回講義では「対課題能力」「思考力」そして「処理力」を理解する。	
11	働くことについて学ぶ① 「組織と人間としての生き方ー組織と人間の関わり」を理解する。 「現代の組織社会では、個人としての人間が組織の目的達成の手段と化し、組織目的の達成が高度に行われる一方で、組織において、人間が、人間として、人間らしく生きられないという状況が発生しているのではないか」 ●組織とは何かを理解する。　●経営組織論とは何かを理解する。	
12	働くことについて学ぶ② わが国の産業構造を支える製造業の新たな動きを理解する。 ・第4次産業革命という試練　・日本の製造業が解決すべき大きな3つの課題　・製造業におけるサービタイゼーションという変革 株式会社について理解する。 ・コーポレートガバナンスとCSR等、株式会社の今日的な課題を理解する。	
13	働くことについて学ぶ③ NPO（非営利団体）について理解する。 ・NPO法人とは　・わが国のNPOが直面している課題	
14	働くことについて学ぶ④ 「栄養士」と「管理栄養士」の仕事内容を理解する。 ・これからの栄養士・管理栄養士に求められること	
15	働くことについて学ぶ⑤ 公務員について理解する。 ●国家公務員の仕事内容を理解する。　：わが国の国家公務員が直面している課題 ●地方公務員の仕事内容を理解する。　：わが国の地方公務員が直面している課題 キャリアデザインⅡの講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	20	・授業への参加態度及びディスカッションについて テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	講義内容についての課題・レポート	80	・講義内容についての課題・レポートについて、授業内容を理解した上で論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍、雑誌、論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・「日本経済新聞」等の全国紙を読む習慣を身に付けることは、良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・講義終了後に実施する授業評価を通して、授業内容の理解度や要望、質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	・授業毎にレジュメ（テキスト）、資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187　金井壽宏著　PHP研究所　2002年10月 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅣ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、自己理解に基き、キャリデザインを行う。同時に、特に「非正規労働」に焦点を当てることにより職業理解を深める。また、自己表現力を高め、来るべき就職活動に備える。	この授業の目指すところは、下記のとおりである。 ①キャリア設計能力を高め、自己理解に基づいて自分の将来を考える。 ②仕事の世界を知る。 ③キャリアデザインの実践としてのインターンシップに備える。 ④自己表現力を高め、社会人としてのマナーを身に付ける。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 『キャリアアンカー』・『ホランドの六角形モデル』を手掛かりに、キャリアの方向を定める。	
2	働くことについて学ぶ① 働き方の多様化について理解する。	
3	働くことについて学ぶ② 非正規労働について学ぶ① 非正規雇用という働き方について理解する。	
4	働くことについて学ぶ③ 非正規労働について学ぶ② 働く側からみた非正規雇用について理解する。	
5	働くことについて学ぶ④ 非正規労働について学ぶ③ 企業の視点からみた非正規雇用について理解する。	
6	働くことについて学ぶ⑤ 非正規労働について学ぶ④ 【working】グループディスカッションを通してフリーターについて考える。	
7	働くことについて学ぶ⑥ 実効的なキャリデザインを行うために会社の各部門の機能と課題について理解する①	
8	働くことについて学ぶ⑦ 実効的なキャリデザインを行うために会社の各部門の機能と課題について理解する②	
9	働くことについて学ぶ⑧ 実効的なキャリデザインを行うために会社の各部門の機能と課題について理解する③	
10	働くことについて学ぶ⑨ グローバル化に伴って求められる新しい人材について理解する。	
11	働くことについて学ぶ⑩ 【working】グループディスカッションを通して、グローバル化に伴って求められる新しい人材について考える。	
12	マナー講座① 【working】社会人としての必要なマナーを身に付ける①	
13	マナー講座② 【working】社会人としての必要なマナーを身に付ける②	
14	インターンシップ事前研修①	
15	インターンシップ事前研修② キャリアデザインⅣ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	・授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	小テスト、事後の課題・レポート	80	・小テストについて,前回の授業内容を的確に把握しているかという観点から評価する。 ・課題・レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・小テストについては、採点し、次回授業の冒頭に返却し、内容説明を行い、正しい理解と知識の定着を図る。 ・毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	授業毎にレジュメ（テキスト）・資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187　金井壽宏著　PHP研究所　2002年10月 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインⅤ			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
産業構造・企業組織・労働市場の在り方が変化し、「男女共同参画社会の実現」が希求されている。他方では、若者の労働環境に起因するさまざまな労働問題、女性の社会地位に基づく労働問題を始めとするさまざまな社会問題等、解決を求められている課題は多い。この講義では、これらの課題に対する認識を図り、解決の糸口に触れることを目指す。	この授業の目指すところは、下記のとおりである。 ①若者を取り巻く労働環境について理解する。 ②若者に係る労働問題について考える。 ③女性の社会進出の現状と問題点について理解する。 ④労働の実態と貧困について考える。 ⑤男女雇用格差の現状について理解する。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション ： 授業の進め方とその目的について理解する。 働く世界の理解を深める① 若者を取り巻く労働環境について理解する①	
2	働く世界の理解を深める② 若者を取り巻く労働環境について理解する②	
3	働く世界の理解を深める③ 【グループディスカッション】若者を取り巻く労働環境について考える③	
4	働く世界の理解を深める④ 若者に関わる労働問題について理解する①	
5	働く世界の理解を深める⑤ 【グループディスカッション】若者に関わる労働問題について考える②	
6	女性の社会進出について考える① 女性の社会進出の現状と問題点について理解する。	
7	女性の社会進出について考える② 女性の社会進出促進要因である「クオータ制」について、ノルウェーや北欧諸国の実例を参考にしながら理解する。	
8	女性の社会進出について考える③ 【グループディスカッション】「クオータ制」導入に係る利点と問題点である「逆差別」について考える。	
9	女性の社会進出について考える④ 「女性の活躍から男女の働き方改革へ」の移行に伴い実施されている様々な女性支援策について理解する。	
10	女性の社会進出について考える⑤ 【グループディスカッション】「女性の活躍から男女の働き方改革へ」の移行に伴う「男性の役割」について考える。	
11	女性の社会進出について考える⑥ まとめとして、「男女共同参画社会」の実現に向けた動きについて理解する。	
12	雇用の実態について学ぶ① 「労働の実態と貧困」のテーマの下に「相対的貧困」について理解する。	
13	雇用の実態について学ぶ② 【グループディスカッション】「子どもの貧困」について考える。	
14	雇用の実態について学ぶ③ ひとり親世帯、特に『全国ひとり親世帯等調査』の結果から見えてくる「シングルマザー世帯」の実情について理解する。	
15	雇用の実態について学ぶ④ 【グループディスカッション】「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」と「性別賃金格差」等のデータを用いて、 男女雇用格差の現状について考える。 キャリアデザインⅤ講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	・授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	小テスト、事後の課題・レポート	80	・小テストについて,前回の授業内容を的確に把握しているかという観点から評価する。 ・課題・レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・小テストについては、採点し、次回授業の冒頭に返却し、内容説明を行い、正しい理解と知識の定着を図る。 ・毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	授業毎にレジュメ（テキスト）・資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187　金井壽宏著　PHP研究所　2002年10月 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	キャリアデザインVI			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	田中　康司						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
私たちの生活は「法律」という大きな枠組みの中で営まれている。普段の生活では気に掛けることの少ない事柄について、「法的な視点」から確認する姿勢の重要性を学ぶ。長時間労働の是正や同一労働同一賃金の実現といった「働き方改革」が進行している。これらの社会の大きな流れに関心を持ち、本質をしっかりと把握する。	①日本国憲法の基本的人権の内、経済的自由権（第22条等）、社会権（第25条、第27条、第28条）を通して、労働権や労働基本権について学ぶ。 ②労働基準法は、労働時間や賃金等、働く際にもっとも重要な労働条件を定めていることを学ぶ。 ③男女雇用機会均等法は、働く上での男女の差別を禁止しており、性別役割分業意識の強いわが国において重要な働きをしていることを学ぶ。 ④労働者派遣法は、働き方の多様化に伴い解決を求められている多くの課題に対処していることを学ぶ。 ⑤「働き方改革」の具体例として、長時間労働の是正、柔軟な働き方の選択、同一労働同一賃金の実現といった重要な課題に対して、それらの背景を理解し、どのような取組みがなされているのか認識する。

教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	就職活動に備えた事前準備講座①	
2	就職活動に備えた事前準備講座②	
3	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ① 「労働」について憲法上の基本的人権規定から学ぶ。	
4	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ② 労働基準法について学ぶ。	
5	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ③ 男女雇用機会均等法について学ぶ①	
6	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ④ 【working】男女雇用機会均等法について学ぶ②	
7	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ⑤ 労働者派遣法について学ぶ。	
8	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ⑥ 働くときに知っておかなければならないルールについて理解する①	
9	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ⑦ 【working】働くときに知っておかなければならないルールについて理解する②	
10	大きく変化してきている労働環境について考える① 長時間労働是正の目的とその意義を理解する①	
11	大きく変化してきている労働環境について考える② 【working】長時間労働是正の目的とその意義を理解する②	
12	大きく変化してきている労働環境について考える③ 新しい働き方について、柔軟な働き方の選択の視点から理解する①	
13	大きく変化してきている労働環境について考える④ 【working】新しい働き方について、柔軟な働き方の選択の視点から理解する②	
14	大きく変化してきている労働環境について考える⑤ 同一労働同一賃金の意義および導入の目的とその進捗状況を理解する。	
15	大きく変化してきている労働環境について考える⑥ 新しい働き方について、職務給制度、職能給制度及び役割等級制度の視点から理解する。 キャリアデザインVIの講義全体のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	20	・授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができているかという観点から評価する。	小テスト、事後の課題・レポート	80	・小テストについて,前回の授業内容を的確に把握しているかという観点から評価する。 ・課題・レポートについては、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
・事前に提示したレジュメ（テキスト）の内容について、授業前に目を通しておくこと。[30分] ・授業終了後、レジュメ（テキスト）をもとに、授業の中で紹介した書籍・雑誌・論文等に目を通して、授業内容を復習しておくこと。[60分] ・新聞（「日本経済新聞」等の全国紙）を読む習慣を身に付けることは良識ある社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。[毎日30分]	・小テストについては、採点し、次回授業の冒頭に返却し、内容説明を行い、正しい理解と知識の定着を図る。 ・毎回実施する授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。

受講生に望むこと	・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。	教科書・テキスト	授業毎にレジュメ（テキスト）・資料を配付する。
指定図書／参考書等	なし／『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書187　金井壽宏著　PHP研究所　2002年10月 他に、講義時に紹介する。	その他・特記事項	chromebookを授業で使用するので、必ず持参すること

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミA			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子・西　正人・田中　弘美・中谷　壽男・三沢　典彦・矢澤　励太　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
３年次から始まる「専門ゼミ」の前段階として位置づけられている「プロゼミ」は、「生命倫理」「健康と栄養」「病気と栄養」「食品と栄養」「調理と栄養」の５分野から自分の興味関心のある分野を選び、「基礎ゼミ」で培ったスキルをさらに高めるとともに、専門性の高い内容について学ぶ。「プロゼミＡ」は２年次前期に開講し、２年次後期の「プロゼミＢ」とは異なる分野を選択する。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「プロゼミＡ」の概要説明	全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	全員
12	ゼミ内発表	全員
13	ゼミ内発表と総括	全員
14	プロゼミＡ振り返り（リテラシー・コンピテンシーアセスメント）	全員
15	前期のまとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。
レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など(60分～) ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する（90分～）	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	プロゼミB			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦・榎本　俊樹・俵　万里子・新澤　祥恵・西　正人・矢澤　励太　（代表教員　中川　明彦）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
３年次から始まる「専門ゼミ」の前段階として位置づけられている「プロゼミ」は、「生命倫理」「健康と栄養」「病気と栄養」「食品と栄養」「調理と栄養」の５分野から自分の興味関心のある分野を選び、「基礎ゼミ」で培ったスキルをさらに高めるとともに、専門性の高い内容について学ぶ。２年次後期開講の「プロゼミＢ」は２年次前期の「プロゼミＡ」で選択した分野とは異なる分野を選択し、「専門ゼミ」につなげる。また ＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「プロゼミＢ」の概要説明	全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	リテラシー・コンピテンシーアセスメントの解説会	全員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	ゼミ内発表	各担当教員
14	ゼミ内発表と総括	各担当教員
15	プロゼミＢ振り返り	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。
レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。[30分] ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する。[30分]	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅠ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・三田　陽子・榎本　俊樹・相良　多喜子・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
３年次の「専門ゼミⅠ」では、１・２年次の「基礎ゼミ」「プロゼミ」で身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献講読、演習形式で文献の輪読と発表、ディスカッションを中心に理解を深め、ゼミレポートを作成する。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「専門ゼミⅠ」の概要説明	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	前期のまとめと振り返り	担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	ＰＲＯＧテストの解説会	全員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	ゼミ内発表	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
30	ゼミ内発表と総括	担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など（30分）。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する（60分）。	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	望むこと 積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	専門ゼミⅡ			開講学科	健康科学	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹・新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子　（代表教員　榎本　俊樹）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
４年次には「専門ゼミ」の最終段階として、「専門ゼミI」に引き続き、「専門ゼミⅡ」としてそれぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には口頭発表の方法(効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等)を身につけ、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果をレポートとしてまとめ、卒業発表として各自が発表することを課している。またＰＲＯＧテストを用いた学生指導についてもゼミ活動内で実施する。	①ゼミに積極的に参加し学びが深めることができる。 ②文献を読み自分の意見をまとめることができる。 ③自分が担当する部分について、レジュメに基づき発表できる。 ④他者の発表を聞いて自分の考えを持ち、ディスカッションに参加できる。

教授方法	ゼミごとによる演習
履修条件	「専門ゼミＩ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「専門ゼミⅡ」の概要説明	各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	「専門ゼミⅡ」中間のまとめ	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
20	ＰＲＯＧテストの解説会	全教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。各担当教員	各担当教員
28	専門ゼミⅡレポート報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	専門ゼミⅡレポート報告会での報告	全教員
30	全体の振り返り	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	①ゼミ内で指定した書式・文字数・枚数になっているか。 ②ポイントを押さえ、概要と意見を分けて記載しているか。	レジュメ作成・発表	30	①分かりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 ②聞き手が理解しやすい発表となっているか。
授業参加状況	30	①ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 ②人の意見を聞いたり自分の意見を述べているか。 ③課題に意欲的に取り組み学ぼうとする姿勢があるか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①学内外のセミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の購読など。 ②各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、レポートを作成する。	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	積極的な姿勢で参加すること。	教科書・テキスト	なし
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	卒業研究			開講学科	健康科学	必修・選択	選択
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
これまでの専門分野での学習を総合的に生かし、自ら研究テーマを設定し、その研究テーマの探究を通して、研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。具体的には、研究方法の選択、先行研究の検討、研究上の仮説の構築、適切な方法論の構築などを行った上で、データ収集、分析、解釈を実施し合理的な結論を導き、卒業論文を執筆する。また、卒業論文報告会で研究成果を報告する。	①現代社会が抱える様々な問題に対しての関心を高め、研究テーマを設定し、それについて論理的に考えることができるようになる。 ②専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ③既存の資料や文献の批判的検討を通じて独自の分析視点を構築できるようになる。 ④研究内容について、論文執筆および口頭発表という形で的確に表現することができ、さらに他者と討論ができるようになる。

教授方法	演習
履修条件	3年次終了時点で累積GPAが2.5以上であること。3年次までに開講されている全必修科目の単位を修得していること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：卒業研究の概要および注意事項等について説明する。	全教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。	各担当教員
28	卒業論文報告会での報告準備	各担当教員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	卒業論文報告会での報告	全教員
30	卒業研究の総括	各担当教員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	10	①研究に意欲的に取り組んでいるか（報告会を含む）。 ②積極的にディスカッションに参加しているか（報告会を含む）。	卒業論文	80	①期限内に提出しているか。 ②指定された字数、書式にしたがっているか。 ③適切な内容となっているか。
成果報告	10	①卒業論文の内容を効果的に伝えることができているか。 ②報告態度は適切か。 ③質疑への応答ができているか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
卒業論文の作成および卒業論文報告会での報告準備は、ほぼ授業外で行う。	卒業論文報告会において行う。

受講生に望むこと	卒業論文の作成は、早めに着手し、主体的に進めて欲しい。	教科書・テキスト	担当教員の指示にしたがう。
指定図書／参考書等	担当教員の指示にしたがう。	その他・特記事項	担当教員の指示にしたがう。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	管理栄養士への道Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・三田　陽子・俵　万里子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、管理栄養士･栄養士が栄養の指導と給食管理業務を通して人々の健康増進に寄与するための、現場で利用する技術の基礎を習得する。「食品成分表」や「日本人の食事摂取基準」とそれぞれの活用法について基礎知識を習得する。また、食品の概量把握を体験、食品への興味関心を高めると共に、献立作成や栄養指導時の食事量把握や提案力の初歩を築く。さらに自分自身の食事を記録し、評価することで、食事評価のための基礎的な技術を習得、その学びを自身や周囲の人の健康に興味関心を持つことにつなげ、職業意識を高めていく。	①食品に興味関心を持ち、概量把握力を高める意欲がある。 ②食品成分表と活用について、初歩的な知識と技術が身についている。 ③日本人の食事摂取基準と活用について基本的な知識がある。 ④食事評価の方法について、基礎的な知識や技術が身についている。自分自身や周囲の人の健康に興味関心を持っている。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の概量：食品の概量把握を体験する。（身近な食品の概量を把握することに興味関心を持っている。）	全員
2	食品成分表と使い方①：食品成分表について学修する。（食品成分表とその活用方法を理解する。食品成分表で食品を探すことができる。）	全員
3	食品成分表と使い方②：食品成分表と食品群について学修する。（食品群とその栄養的特徴を理解する。）	全員
4	食品成分表と使い方③：食品成分表を用いた栄養価計算の方法を学修する。（食品成分表を用いて食品の栄養価を計算できる。）	全員
5	食事摂取基準①：『日本人の食事摂取基準』について学修する。（『日本人の食事摂取基準』について基礎知識を得る。）	全員
6	食事摂取基準②：『日本人の食事摂取基準』の活用について学修する。（活用について基礎知識を得る。自身の年齢･性別･身体活動量に合った指標を調べて整理できる。） 食事調査と食事評価①：食事を記録する準備をする。（食事を記録する方法を理解する。）	全員
7	食事調査と食事評価②：自身の食事内容を記録する。（2日分の食事を留意点に従って記録している。）	全員
8	食事調査と食事評価③：食事記録をもとに、栄養量を算出する技術を学ぶ。（自身の食事記録を栄養量算出のために整理できる。）	全員
9	食事調査と食事評価④-1：自身の食事記録の栄養価計算をする。（食品成分表を用いて自身の食事の栄養価計算ができる。）	全員
10	食事調査と食事評価④-2：自身の食事記録の栄養価計算をする。（食品成分表を用いて自身の食事の栄養価計算ができる。）	全員
11	食事調査と食事評価⑤：食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（食事摂取基準に基づいて自身の食事を評価できる。）	全員
12	食事調査と食事評価⑥：食品群別摂取量について学修する。（食品群と食品群別摂取量について理解する。）	全員
13	食事調査と食事評価⑦：食品群別摂取量の指標と、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（自身の食事を食品群別摂取量から評価できる。）	全員
14	食事調査と食事評価⑧：栄養比率について学修する。（栄養比率とその計算方法について理解する。）	全員
15	食事調査と食事評価⑨：栄養比率を求め、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。（自身の食事の栄養比率を求め、評価できる。） 食事調査と食事評価⑩：総合評価（自分の食事内容を総合的に評価する。）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	80	授業内容の目的に応じて、量・質とも適切に作成し、期日までに提出できたか。	授業参加状況	20	積極的に参加しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の演習課題を整理し、着実に仕上げる。（60分）	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で活用する場合があるため、ファイルに綴り毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、わからないことがあれば積極的に質問する。 ③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味関心を持つ。 ④食品や食事、食事と健康の関わりに興味関心を持つ。	教科書・テキスト	『日本食品成分表2025 八訂 』医歯薬出版編,医歯薬出版株式会社,2025年,ISBN9784263701492 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会監修,第一出版,2025年,ISBN9784804114910
指定図書／参考書等	なし／『調理のためのベーシックデータ』第6版　松本仲子監修　女子栄養大学出版部 ISBN 978-4789503259	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	管理栄養士への道Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
管理栄養士への道Ⅰにつづき、管理栄養士像を学生自身の中で明確にし、目指す気持ちを育み、これからの学びへの意欲を高めることを目的としている。まず、栄養の専門職としての役割を自覚するため、社会環境の中での、健康、食生活、栄養を考え、管理栄養士の法的位置づけや使命・役割から、多職種連携を視野に入れた関連職種との関わりを理解する。また、栄養学、栄養士・管理栄養士制度や栄養改善活動の歴史を知り、今日の日本さらにグローバルな視点での栄養の課題を考える。また、人間の営みの根源である生命倫理から、管理栄養士の職業倫理、研究倫理などへの理解も深める。	①今日の食生活の状況や課題を説明できる。 ②管理栄養士の役割や業務を、多職種協働という考え方を理解する。 ③生命倫理、研究倫理、職業倫理を理解する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食べ物、食生活、健康を考える	
2	食べ物、食生活、健康を考える：グループワーク	
3	管理栄養士の役割と業務	
4	管理栄養士の使命と役割・関連業務との関わり	
5	栄養士の役割・業務、多職種協働について考える：グループワーク	
6	栄養学の歴史	
7	栄養士・管理栄養士制度の歴史	
8	日本における栄養課題	
9	地球レベルでの栄養課題	
10	現代医学と生活習慣病	
11	生命の尊厳と生命倫理	
12	生命の尊厳と生命倫理	
13	管理栄養士の職業倫理と研究倫理	
14	生命倫理・職業倫理・研究倫理について考える：グループワーク	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学期末レポート	50	授業内容を理解し、適切に説明されている。	毎回レポート	50	①量的、質的に適切である。 ②提出期限が守られている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎週の演習課題を整理し、着実に仕上げる。（90分）	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で活用する場合があるため、ファイリングし、毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、分からないことがあれば、積極的に質問する。 ③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味・関心を持つ。 ④食品や食事、食事と健康の関わりに興味・関心を持つ。	教科書・テキスト	『導入教育』伊達ちぐさ・木戸康博編　医歯薬出版 2021年　ISBN　978-4-263-70680-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	分析化学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では食品中に含まれている各成分の特徴を理解し、それらを分離、分析する方法を解説する。まず、分析化学の基礎的知識の習得を目標に、単位、濃度、活量、酸・延期、平衡定数、酸・塩基解離定数、緩衝液、有効数字などについて述べ、理解を深める。次いで、分離分析、クロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー、電気泳動、比色定量、質量分析などの実際の食品成分分析法について説明し、具体的な食品分析実施例についても解説する。	①食品分析の必要性について理解できる。 ②化学反応速度、化学平衡の基礎理論を理解できる。 ③成分の分離方法を理解できる。 ④食品成分の分析方法と原理を説明できる。 ⑤データの取り扱いを正しくできる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション（分析化学って何？、食品と分析化学、国際単位、濃度、分析法等）	
2	基本の化学（溶液の化学、酸と塩基、錯形成反応、酸化と還元）	
3	基本の化学（溶解度と沈殿、極性、分配）	
4	試薬・器具（実験器具の使用方法と使用方法、試薬の選び方と使い方、液体試薬、電子天秤の使用方法）	
5	試料採取と前処理（分離・溶解、沈殿・再結晶と分離、固形物からの抽出、液相抽出、固相抽出、濃縮、蒸留）	
6	クロマトグラフィーの基礎	
7	ガスクロマトグラフィーと液体クロマトグラフィー	
8	ガスクロマトグラフィー質量分析装置と液体クロマトグラフィー質量分析装置	
9	電気泳動	
10	分光学の基礎	
11	蛍光、原子吸光分析	
12	食品分析（水分、タンパク質、脂質、食物繊維、炭水化物、灰分）	
13	データ処理と品質保証（有効数字、平均と標準偏差、最小二乗法、標準とトレーサービリティ）	
14	グループワーク（演習）	
15	グループワーク（演習）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	レポート課題に関して、適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。	期末試験	70	管理栄養士国家試験を意識して、選択肢で回答する問題と論述する問題を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義資料は事前にClassroomにアップするのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ 毎回、課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。［30分］	①質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 ②毎回授業の初めに、課題の解説を通し前時の授業内容の振り返りを行い、学んだ内容について理解を深める。

受講生に望むこと	事前に学習する内容について予習すること。 講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。	教科書・テキスト	図説入門よくわかる最新分析化学の基本と仕組（秀和システム）ISBN：9784798046501
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	無し

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食事計画論			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
日々の食事の内容は私たちの健康を左右するものの一つである。献立は様々な要素を持ち合わせており、その作成は、文化的、健康的、嗜好的、調理機能的、環境的要素を考慮することが求められる。本授業では、主食・主菜・副菜と揃った食事を考えることから始め、給与栄養目標量・嗜好・食費等作成時に考慮しなければならない条件を勘案して献立を作成する方法の基礎を講義と実習を通して学び、食事計画の基礎的実践力を養うことを目指す。	①献立作成の意義と手順を理解し、栄養計画・栄養管理の基礎が身についている。 ②食品成分表を用いて栄養価計算ができる。 ③１日分から連続した数日分の献立を食品構成に基づいて作成できる。

教授方法	講義、実習を組み合わせて行う
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食事計画論の内容と意義：栄養計画、献立作成の意義とその手順を学修する。（栄養計画、献立作成の意義と手順を理解する。）	全員
2	食品の概量：食品の概量や常用量を会得し、献立作成に必要な食品の数量化を学ぶ。（代表的な食品の概量や常用量を把握する力を調べたり実測したりして身につける。今後さらに高めるためのきっかけを持つ。）	全員
3	栄養価計算①：栄養価計算（廃棄率や正味重量を求める計算を含む）の方法を学修する。（食品成分表を用いて、食品の栄養価計算ができる。結果をルールに従って記すことができる。）	全員
4	栄養価計算②：献立の栄養価計算の方法を学修する。（献立の栄養価を計算できる。結果をルールに従って記すことができる。）	全員
5	献立作成の基本①：献立の形式、バランスのとれた献立に必要なこと、作成の手順など、献立作成に必要な基本的技術を学ぶ。（献立作成に必要な基本的技術を理解している。）	全員
6	献立作成の基本②：主食、主菜、副菜とそろった和洋中の献立を１食分×16回考える。（連続した献立を作成する際の要点を踏まえながら考えることができる。）	全員
7	献立作成の基本③：献立作成のヒントとなる料理を挙げる。（資料等を参考にしながら多くの料理を知る。）	全員
8	献立作成と食品構成①：献立作成と食品構成について学修する。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成をする、その一連の流れについて理解している。）	全員
9	献立作成と食品構成②：食品構成に基づいた一日分の献立作成の準備をする。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成ができる。）	全員
10	基本献立の作成①：食品構成に基づいた一日分の献立作成をする。（給与栄養目標量から食品構成を用いて献立作成ができる。）	全員
11	基本献立の作成②：一日分の献立の栄養価計算をする。（これまでに学んだ栄養価計算の方法により、一日分の献立の栄養価計算ができる。）	全員
12	調理実習献立の作成①：調理実習用に献立を選び、栄養価計算と評価をする。（調理実習を前提に献立を選ぶことができる。栄養価計算し、評価と調整ができる。）	全員
13	調理実習献立の作成②：食品の購入計画を立て、作業工程を考える。（購入量を求め、発注票を作成できる。制限時間や使用する器具・熱源の数に合わせて作業工程を検討できる。）	全員
14	作成献立の調理：献立、レシピに沿って調理を行い、試食などにより、評価する。（作成したレシピや作業工程に合わせて調理できる。試食により味のバランス等の評価ができる。）	全員
15	まとめ：献立作成から調理実習までの反省とまとめを行う。（ペアまたはグループで協力しながら反省とまとめをし、スライドを活用しながら適切に発表できる。）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題	60	授業内容の目的に応じて、量・質とも適切に作成し、期日までに提出できたかについて評価する。	調理実習	30	メンバー同士協力しながら時間内に作ることができたかについて評価する。
授業参加状況	10	積極的に参加しているかについて評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
毎回の演習課題を整理し、着実に仕上げる。（90分）	演習課題は確認後返却する。返却後も授業で参照する場合があるため、ファイルに綴り毎回持参すること。

受講生に望むこと	①各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 ②授業中は説明をよく聞き、わからないことがあれば積極的に質問する。③家庭での調理や食事の際、使用される食品やそこからできる料理に興味関心を持つ。④様々な場面で提供される食事の内容に興味関心を持つ。	教科書・テキスト	『日本食品成分表2025 八訂 』医歯薬出版編,医歯薬出版株式会社,2025年,ISBN9784263701492 『調理のためのベーシックデータ』第6版,松本仲子監修,女子栄養大学出版部,2022年,ISBN978-4789503259
指定図書／参考書等	なし／「管理栄養士・栄養士必携」日本栄養士会　第一出版 「日本調理」実習テキスト「西洋調理」実習テキスト「中華調理」実習テキスト 「調理と理論」山崎清子他著　同文書院	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康管理概論			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
少子高齢社会となり、社会環境が変化する中で、私達の健康がどのように規定されるかを理解し、特に集団を対象とした健康管理を実践するために必要な知識や考え方を学習する。今日的課題である健康寿命延伸のための健康づくりの基礎は栄養・食生活である。健康とは何か、今日の健康の現状から、栄養・食生活を中心に身体活動・運動や休養とストレス、喫煙・飲酒などの要因から、疾病予防に理解を深め、さらに健康づくりの施策や健康管理の進め方を学修することから、管理栄養士の役割を理解する。	①生態系における人間の位置づけや行動特性を理解する。 ②健康の概念や健康の現状、疾病構造と併せて、これらをもたらす我々の食生活をはじめとする生活習慣を理解する。 ③健康づくりの施策を理解する。 ④各地域・分野毎の健康管理の方法を理解する。 ⑤グローバルな視点からＳＤＧｓなどから国際保健について理解する。 ⑥ＥＢＭに基づく健康管理の重要性を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	健康の概念：「健康管理概論」を学ぶにあたり、生態系における人間の位置づけや行動特性を取り上げ、「健康」とは何か、特に主観的健康観の意味を考える。また、「健康」が成立する条件、さらに、「健康」の度合いを判定する様々な指標を学修する。	
2	健康の現状1：人口動態統計より、日本の人口構成の特徴と過去、現在、未来の人口構成の変化を知る。高齢社会の要因を考え、健康寿命の意義を考える。	
3	健康の現状2：人口動態統計の、死亡に関する指標より、地域の健康状況を把握する。我が国の主要な死因の現状とその国際比較を行う。また、様々な死亡に関する指標を学修する。	
4	栄養と健康：生活習慣病の要因の一つである栄養・食生活の現状から課題を見いだし、健康管理の視点から、目標とする食生活のあり方を考える。	
5	運動と健康：今日の生活環境における身体活動・運動の状況と生活習慣病との関係を考え、健康作りのための運動を学修する。	
6	睡眠・休養・ストレスと健康：ストレスが問題となっている社会環境と、健康づくりのために必要な休養や睡眠のあり方を考える。	
7	睡眠・休養・ストレスと健康：ストレスが問題となっている社会環境と、健康づくりのために必要な休養や睡眠のあり方を考える。	
8	睡眠・休養・ストレスと健康：ストレスが問題となっている社会環境と、健康づくりのために必要な休養や睡眠のあり方を考える。	
9	健康づくりの施策：わが国における国民健康づくり運動の沿革を海外の動きと関連しながら理解し、健康日本21や健康フロンティア戦略などの今日の健康施策を学修する。	
10	健康づくりの施策：健康づくりのための法的対応を理解するため、地域保険法、健康増進法他の国の法律を中心に学修する	
11	健康管理の進め方：健康管理の定義と考え方を理解し、健康管理体系のモデルを学修する。	
12	健康管理の進め方：健康管理の実際として、健康教育、健康相談、健康診査などを学修する。	
13	健康管理の進め方：地域保健、産業保健など、各分野における健康管理の実際を学修する。	
14	ＥＢＮに基づく栄養管理と健康情報：科学的根拠にもとづく健康管理の意義を理解し、いくつかの研究手法を学修する。	
15	授業の総括：これまでの授業での学びより、健康管理の今日的意義と管理栄養士の役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率に基づいて評価する	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方に基づいて評価する
授業態度	10	授業への参加意欲を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、健康管理概論の学びを把握する。（30分） ②毎授業前に授業予定の部分を読んでくる（60分）。 ③授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。（60分）	レポートは次の授業時に返還する。

受講生に望むこと	食と健康に関する話題に関心を持ち、新しい情報に留意する。	教科書・テキスト	栄養・スポーツ・保健分野のための『健康管理概論』 香川靖雄監修　建帛社　2024年 ISBN　978-4-7679-0578-1　C3047
指定図書／参考書等	なし／『国民衛生の動向』厚生労働統計協会	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公衆衛生学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	木村　敏行						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的並びに精神的能力を増進するための技術であり科学であると定義されている。公衆衛生活動は、主に衛生行政のなかで行われ、その課題は社会状況とともに変化し、健康増進、疾病予防に加え、重症化予防さらには社会復帰へと広がりをみせており、管理栄養士になるための基本的な知識を習得することを目的としている。本科目の学びを通して衛生についての学びを広げる。	本科目では、社会、環境、健康との関係を理解するとともに、現代の医療、保健、福祉及び社会保障などについて知識を習得する。また、地域社会における疾病予防や国民の健康維持向上の現状並びに今後の対策について理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	社会と健康 公衆衛生学概論	
2	保健統計 人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計について学ぶ	
3	疫学 疫学の概念、疫学の指標、疫学の方法について学ぶ	
4	生活習慣（ライフスタイル）の現状と対策 健康に関連する行動と社会について学ぶ	
5	主要疾患の疫学・その１ 生活習慣病と成人保健、主要部位の悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患について学ぶ	
6	主要疾患の疫学・その２ 骨・関節疾患、口腔疾患、精神疾患、自殺、感染症について学ぶ	
7	保健行政・その１ 地域保健について学ぶ	
8	保健行政・その２ 母子保健、学校保健について学ぶ	
9	保健行政・その３ 産業保健、高齢者保健について学ぶ	
10	環境保健・その１ 人間生活と環境、環境汚染と健康について学ぶ	
11	環境保健・その２ 環境衛生について学ぶ	
12	社会保障、社会福祉、医療、介護の制度・その１ 社会保障の概念、医療制度について学ぶ	
13	社会保障、社会福祉、医療、介護の制度・その２ 社会保険、介護保険制度と社会福祉制度を学ぶ	
14	衛生、栄養関係法規 法規の定義とその種類、衛生法規について学ぶ	
15	国際保健 国際協力のしくみ及び国際保健について学ぶ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	80	記述式の試験で評価する。 試験範囲、評価基準は後日示す。	授業参加状況	20	受講態度、提出課題を参考にする。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義内容に関する課題提出により復習を行うとともに、次回講義冒頭で知識の定着をはかる。［5分］	講義の冒頭にてコメント。

受講生に望むこと	講義中の飲食は禁止。特別な理由がある場合は要相談。栄養士に相応しい態度。私語、居眠りなどせず講義に集中してほしい。	教科書・テキスト	『栄養科学シリーズ NEXT 公衆衛生学』第3版,講談社サイエンティフィク,2011年,ISBN 978-4-06-155365-1 衛生環境系ノートブック
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	この授業は、管理栄養士の免許を取得するための必須科目であり、ほとんどの医療職が学んでいます。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生化学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
生化学（Biochemistry）とは、生物・生命現象を、複雑で高度な化学反応系と見なし、化学の言葉・レベルで理解することをめざす壮大な学問領域ということができる。「生化学Ⅰ、生化学Ⅱ」では、食品・栄養及び人間環境に関わる生化学を受講する。食事等から摂取された栄養素とは、そもそもどのようなものなのか、そして、どのように代謝され、生命の恒常性が維持されていくのかを中心に学ぶ。「生化学Ⅰ」では、化学の基本の確認から始まり、栄養素として利用される分子の構造と機能、生体のエネルギー源、及び生体内化学反応系を担う酵素や補酵素、その分子生物学的基盤、さらには、感染症の微生物学的基盤について理解する。	1.　各種栄養素の構造と機能を理解している。 2.　生体のエネルギー源について説明できる。 3.　酵素、補酵素、酵素反応について基本を理解している。 4.　生化学に関わる分子生物学的基盤となる知識を身に付けている。 5.　感染症の微生物学的基盤となる知識を身に付けている。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	生化学とは何か、人体の構成の概要、細胞の構造と役割について理解する。	
2	化学構造式に関する基本的知識を習得する。	
3	アミノ酸・タンパク質の化学、構造と機能について理解する。	
4	糖質の化学、構造と機能について理解する。	
5	脂質の構造と機能について理解する。	
6	核酸の構造と機能について理解する。	
7	各栄養素の全体像を把握し、確認試験を受ける。	
8	生体のエネルギー源と代謝について理解する。	
9	酵素・酵素反応、補酵素について理解する。	
10	分子生物学の基本（複製、修復）について理解する。	
11	分子生物学の基本（転写、翻訳）について理解する。	
12	分子生物学の基本（ドライ解析、遺伝子組換え）について理解する。	
13	微生物学の発展の歴史を知り、細菌について理解する。	
14	動く遺伝子やウィルスについて理解する。	
15	感染症の概要を理解する。全体の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポートまたは非定期試験	20	適切に理解し、的確に記載されているかを評価する。	定期試験	80	筆記試験の正答率により評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎授業前に授業予定の部分を読んでくる（30分） 2．授業終了後、その単元全体を復習する（1時間）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書や配布資料を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	『管理栄養士をめざす人のいちばんやさしい代謝ドリル』西村直道著，講談社，2023年,ISBN978-4-06-513420-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定された教科書だけでは不十分なので、資料を毎回、配布する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	解剖生理学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
健康の保持・増進、傷病者の療養のための栄養管理・教育の主役である管理栄養士にとって、本科目は人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するためには必須の科目である。人の生命活動の基盤となる栄養について科学的に理解するための生理学・解剖学という視点から、人体の構造と機能を密接に関連付けて学ぶ。人体の構成単位である細胞レベルから組織・器官・器官系レベルまでの構造や機能を、栄養という事象の理解を念頭に体系的に学ぶ。「解剖生理学Ⅰ」では、総論と運動系、循環器系、神経系と内分泌系の内容を講義する。	「解剖生理学Ⅰ」「解剖生理学Ⅱ」を通して、細胞、組織、器官からなる人体の正常な構造と機能を理解し、記憶し、疾病を理解するための基礎学力を築き、非専門家には優しい言葉で説明ができ、専門家とは専門学用語を用いての十分な討論ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	解剖生理を学ぶ意味と歴史を知る。解剖生理学のための基礎知識。人体の構造と区分を理解して覚える。	
2	細胞の構造と機能、組織と器官を理解し覚える。	
3	身体の支持と運動。骨と筋肉の基本構造を理解し覚える。	
4	11章：人体の頭部、体幹の骨と筋の役割と機能を理解し、生活における運動活動を支えていることを理解し覚える。	
5	人体の四肢の骨と筋の役割と機能を理解し、生活における運動活動を支えていることを理解し覚える。	
6	血液の循環とその調節。心臓と全身の脈管の構造と分布を理解し覚える。	
7	心臓の機能、心電図、循環の調節を理解し覚える。	
8	循環器系の病態生理を理解し、生活や環境変化に対する循環器の対応を理解し覚える。	
9	情報の受容と処理。神経系構造と機能を理解し覚える。脊髄と脳の形態と機能を理解し覚える。	
10	脳の高次機能と伝導路の構造と機能を理解し、生活活動への関与を理解し覚える。	
11	眼の構造と機能を理解し、視覚の生活への影響を理解し覚える。	
12	耳の構造と機能、味覚と嗅覚、痛みといった感覚の構造と機能を理解し、生活への関わりを理解し覚える。	
13	内臓機能の調節。自律神経による身体内臓の調節機能を理解し覚える。	
14	内分泌系の構造と機能を知って、人体が環境変化に対しての対応機構を理解する。	
15	骨、筋、神経、循環器、内分泌の総合作用が人体の生活活動や環境への対応機構にどのように影響しているかを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行なう。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	教科書をしっかりと読むこと。 最初は分かりにくくても、予習、講義、復習を通して、教科書を読むことで、だんだんと理解でき記憶に残るようになってくる。	教科書・テキスト	人体の構造と機能 第6版　内田ら（著者）医歯薬出版 2023年　ISBN-13 ： 978-4263710616
指定図書／参考書等	なし／『カラーアトラス　人体　解剖と機能』第4版、医学書院、2013年、ISBN:978-4-260-01646-9,『ジュンケイラ組織学』　第6版、丸善出版、2024年、ISBN-13 ： 978-4621308851、『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』 第2版、医学書院、2023年、ISBN-13: 978-4260052153	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	医学一般Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」では、臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を網羅していく。その正しい理解と栄養学との関わりの中で、総合的かつ臨床応用学的な理解を深めていく。「医学一般Ⅰ」では、特に、病理学の総論を学ぶことで、疾病発生を形態学的、生理学的、生化学的、細菌ウイルス学的、免疫学的に理解するための基礎を確立する。疾病の発症を病理学的な視点でみることで、疾病をより良く理解して、他の人に易しく正確に説明することができるようになる。	疾病の発症を病理学的な視点でみることで、疾病をより良く理解して、他の人に優しく正確に説明することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：病理学の領域の内容を理解して覚える。	
2	細胞・組織とその障害の内容を理解して覚える。	
3	再生と修復の内容を理解して覚える。	
4	循環障害の内容を理解して覚える。	
5	炎症が人体への損傷や毒性物質や感染症に対する生体防御反応として起こることを理解して覚える。	
6	炎症にかかわる細胞や物質の役割や急性慢性炎症の違いを理解して覚える。	
7	人体への微生物や毒性物質にさらされる時に起きる免疫とアレルギーの反応機構の内容を理解して覚える。	
8	感染症の内容を理解し、人体に病原微生物が感染し感染症が発症、人体が炎症や免疫といった防御機構で対応することを理解して覚える。	
9	代謝異常の内容を理解して覚える。	
10	老化と老年病の内容を理解して覚える。	
11	新生児の病理の内容を理解して覚える。	
12	先天異常の内容を理解して覚える。	
13	腫瘍の定義と分類を理解して覚える。	
14	腫瘍が人体にどのような作用を及ぼしそれに対して生体がどのように防御機構を働かせるのかを理解して覚える。	
15	生命の危機とまとめ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行なう。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	疾病のなりたちと回復の促進[1]『病理学』　第6版、大橋健一ら著、医学書院、2021年、ISBN:978-4-260-04203-1/　『微生物学』　改訂第2版（栄養科学イラストレイテッド）大橋 典男　編、羊土社、2023年、ISBN-13:　978-4758113731
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の科目に位置づけられ、管理栄養士を目指す学生の基礎知識として、食品成分の化学、食品の味・色・香り・有害成分、食品成分の変化などについて解説し、食品を化学的側面から理解する。さらに、食品の物性や官能評価、食品の表示についても述べ、理解を深める。なお、本科目を通して食品を総合的に考える能力を養うため、15回目の講義においてグループワークとディスカッションを実施する。また、講義ごとに課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。	①人間と食品のかかわりを理解することができる。 ②食品成分を化学的に理解することができる。 ③食品成分の変化、食品の物性や官能評価、食品の表示について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	人間と食品①	
2	人間と食品②	
3	水	
4	アミノ酸、タンパク質	
5	炭水化物①	
6	炭水化物②	
7	脂質	
8	無機質	
9	ビタミン	
10	嗜好成分	
11	有害成分	
12	食品の化学変化	
13	食品の機能性	
14	食品の物性	
15	総合学習（グループワーク及びディスカッション）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	適格に理解・記載されているかを評価基準とする。	期末試験	70	管理栄養士国家試験を意識して、選択肢で回答する問題と論述する問題を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義資料は事前にClassroomにアップするのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ 毎回、課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。［30分］	課題は、期日内にレポートとして提出すること。また、レポートの記載内容については、インターネット情報の切り貼りではなく、本人自身が考えて作成すること。

受講生に望むこと	事前に学習する内容について予習すること。 講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。	教科書・テキスト	『食品学総論』第3版、森田潤司・成田宏史編、化学同人、2016年、ISBN：9784759816402
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	

実務経験を活かした授業の概要

なし

授業科目名	食品衛生学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	矢野　俊博						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食の安全安心を確立するために必要な食品と微生物の基礎を理解し、さらに食品の変質、各種の食中毒、食品汚染物質及び食品添加物について理解を深める。また、管理栄養士及び食品衛生監視員・管理者として知っておくべき食品衛生法を含む食品安全関連法規を学ぶ。そして、食品衛生管理に必要なHACCP、一般的衛生管理プログラム、食品の規格基準及び各種の微生物検査について理解を深めることで、食品衛生を総合的に理解できることを目標とする。	・食の安全安心の目的を理解する。 ・食品衛生と微生物についてその重要性を理解する。 ・各種の食中毒について理解を深める。 ・食品汚染物質、残留物質及び食品添加物について理解する。 ・HACCPや一般的衛生管理などの食品衛生管理の重要性を理解する。 ・食品安全行政及び食品安全関連法規を理解する。

教授方法	授業は教科書、プリント、パワーポイント、板書などを使った講義形式によって行う。
履修条件	特になし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の安全性：食品衛生と微生物：食品の安全性の確保、食品衛生の目的、微生物の種類や分類を理解する	
2	食中毒Ⅰ：食中毒の分類と発生、細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する	
3	食中毒Ⅱ：細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する	
4	食中毒Ⅲ：ウイルス、寄生虫、自然毒による中毒を理解する	
5	食中毒Ⅳ：寄生虫の種類、生態、食中毒の感染経路、予防法を理解する	
6	食品と感染症：経口感染症と病原体、人獣共通感染症、プリオン感染症を理解する	
7	食品の変質と変質の防止：食品成分の変化、腐敗・鮮度の判定、油脂の変敗を理解する。変質の原理、変質の制御法を理解する	
8	食品汚染物質・残存物質：カビ毒、農薬、ＰＣＢ、ダイオキシンについて理解する	
9	食品添加物：食品添加物の種類、性質、役割、安全性の評価、使用基準を理解する	
10	食品の包装：機能、種類、性質、衛生性、安全性を理解する	
11	食品衛生管理Ⅰ：コーデックス、ＨＡＣＣＰシステム、一般的衛生管理プログラムを理解する	
12	食品衛生管理Ⅱ：ＨＡＣＣＰシステム、衛生検査、微生物検査を理解する	
13	食品の表示と規格：表示法の概略、規格基準、成分規格を理解する	
14	食品安全行政：食品安全行政の対象と範囲について理解する	
15	食品安全関連法規：食品安全基本法、食品表示法、調理師法、製菓衛生師法などを理解する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末テスト	70	筆記テストにより、学習したことが身についているか確認する。	取り組む姿勢・態度	30	客観的に履修の意欲低下と判断された場合は減点の対象となる場合がある。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
この講義の開始前に高校で履修した理科（化学、生物）に関する部分を再度通読しておく。［30分］ また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。［30分］	特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。

受講生に望むこと	食品衛生に関する基礎的な事項を理解し、さらにその内容が私たちの日々の生活にどのように関連しているかを考える。そして、本講義における学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。	教科書・テキスト	Visual栄養学テキスト『食べ物と健康Ⅲ 食品衛生学』 岸本満著,中山書店,2018年,ISBN978-4-521-74290-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとすれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画→食材調達→調理操作→供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化することができる。この授業では、①調理の概念②食事計画③美味論④調理操作論⑤各食品の調理特性⑥調理器具⑦食文化について学修する。	①調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 ②おいしいとはどういうことかを科学的に理解する。 ③調理の課程とその中の調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 ④調理に必要な機器や設備を理解する。 ⑤食品毎の調理性を理解する。 ⑥食文化（郷土食、行事食）を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文化的視点を理解する。	
2	調理操作論－非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。	
3	調理操作論－加熱操作Ⅰ（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
4	調理操作論－加熱操作Ⅱ（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。	
5	食べ物のおいしさⅠ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。	
6	食べ物のおいしさⅡ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。	
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん　ゲル化剤）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化のの過程や意義を理解する。	
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。	
9	食品の調理性（穀類　芋類、豆類）：小麦粉、じゃがいも、 さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。	
10	食品の調理性（野菜類、果実類）調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食 品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。：	
11	食品の調理性（獣鳥肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。	
12	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。	
13	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。	
14	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。	
15	食事計画、共食、食事環境：食事設計の意義と日本・西洋・中華料理の食卓構成などに理解を深める。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率に基づいて評価する。	課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方について評価する。
授業態度	10	授業への参加意欲をもとに評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する(30分）。 ②毎授業前に授業予定の部分を熟読する（30分）。 ③授業終了後、その単元全体を復習する（30分）。	レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。	教科書・テキスト	『新調理の科学』吉田勉監修　学文社 ISBN　978-4-7620-3312-4
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎栄養学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員・社会福祉主事任用				

授業の概要	授業の到達目標
栄養とは生物が外界から必要物質を取り入れて生命活動を営むことである。人間が健康な生活を営むためには、適切な食物摂取が必要であり、取り入れたものを消費するための生活活動など広い視点からの取組が求められる。この授業では、これらを考える上での基礎として、栄養の意味から、人間の摂取行動、栄養素の消化・吸収、各栄養素の機能と体内における代謝、エンルギー代謝の仕組みをとおして人体と栄養素の関わりについて理解を深める。健康の保持増進、疾病の予防・治療における栄養の役割やエネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。	①栄養とは何か、その意義を理解する。 ②栄養と遺伝素因との関連を理解する。 ③健康の保持・増進、疾病予防・治療における各栄養素の役割を理解する。 ④人間の摂食行動から消化・吸収、代謝と栄養素の流れを理解する。 ⑤エネルギー代謝、各栄養素の代謝とその意義を理解する。 ⑥講義や事前学習によって学んだ知見をふまえて考察し、自らの所見を表現することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養の概念：栄養、栄養素、健康と食生活、各年齢ステージの栄養、栄養学の歴史などを理解する。	
2	食物の摂取と栄養素の補給：人間の食物摂取行動とその調節の仕組みを理解する。	
3	消化吸収と体内動態：栄養素の消化吸収など摂取後の体内動態の仕組みを理解する。	
4	糖質の栄養Ⅰ：糖質の種類と代謝の仕組みを理解する。	
5	糖質の栄養Ⅱ：糖質代謝と他の栄養素との関連を理解する。	
6	脂質の栄養Ⅰ：脂質の構造と代謝の仕組みを理解する。	
7	脂質の栄養Ⅱ：脂質の体内動態と他の栄養素との関連を理解する。	
8	たんぱく質の栄養Ⅰ：たんぱく質の構造とたんぱく質の代謝を理解する。	
9	たんぱく質の栄養Ⅱ：たんぱく質の栄養価や他の栄養素との関連を理解する。	
10	ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンと健康との関連を理解する。	
11	ビタミンの栄養：水溶性ビタミンと健康との関連を理解する。	
12	無機質の栄養：無機質の意義、各無機質の特徴、過不足による健康障害の理解する。	
13	無機質の栄養：無機質の機能、代謝などを理解する。	
14	水・電解質等の代謝と食物繊維：水の役割、水・電解質・アルコールの代謝と食物繊維を理解する	
15	エネルギー代謝：エネルギーの概念、エネルギー代謝とそれに及ぼす要因などを理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	筆記試験問題の正答率に基づいて評価する。	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方について評価する。
授業態度	10	授業への参加意欲をもとに評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業開始前に、教科書全体を読み、基礎栄養学の学びを把握する（30分）。 ②毎授業前に授業予定の部分を熟読する（30分）。 ③授業終了後、その単元全体を復習する（30分）。	レポートは次回の授業時に返却する。

受講生に望むこと	①他の学科目とも関連させながら勉強して欲しい。 ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと。	教科書・テキスト	『イラスト　基礎栄養学　第3版』田村明他　東京教学社　ISBN：978-4-8082-6066-8 『現代人のための健康づくり』石川県大学健康教育研究会　北國新聞社　ISBN：978-4-8330-1972-9
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	特になし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では身体状況や栄養状態に応じた栄養管理と、栄養管理プロセスを活用するための基本的概念を理解することを目指し、個人または集団の栄養スクリーニングの評価方法と栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）、栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価とフィードバックの考え方や手法を学ぶ。また、栄養管理のための基本指針である「食事摂取基準」の基本的な考え方や各指標の概念について学ぶ。ここでの学修は、各ライフステージの栄養管理の展開の基礎となる。	①栄養管理プロセスの意義を理解し、栄養アセスメントの方法について説明できるようになる。 ②「日本人の食事摂取基準」の目的や策定方針、各栄養素の摂取基準の策定の科学的根拠について説明でき、さらに活用の方法についても説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養マネジメントの概念	
2	栄養アセスメントとその方法	
3	栄養ケア・栄養プログラムの計画と目標設定	
4	栄養ケア・栄養プログラムの実施と行動科学理論	
5	評価のデザインとフィードバック	
6	食事摂取基準の目的と意義、策定の基本方針	
7	食事摂取基準における各指標の意義	
8	食事摂取基準における策定の基本事項	
9	食事摂取基準における指標別に見た活用の留意点	
10	食事摂取基準における目的に応じた活用の留意点	
11	食事摂取基準各論：エネルギー必要量策定の科学的根拠	
12	食事摂取基準各論：たんぱく質、脂質、炭水化物の摂取基準策定の科学的根拠	
13	食事摂取基準各論：ビタミンの摂取基準策定の科学的根拠	
14	食事摂取基準各論：ミネラルの摂取基準策定の科学的根拠	
15	食事摂取基準の具体的活用	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	筆記試験問題の正答率に基づいて評価する	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方に基づいて評価する
授業参加意欲	10	授業への参加意欲をもとに評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②授業終了後、その単元全体を復習する。［90分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	①他の学科目と関連させながら勉強してほしい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと	教科書・テキスト	『応用栄養学』第3版（栄養科学イラストレイテッド）栢下 淳、 上西 一弘　編集　羊土社　2025年2月 ISBN-13：978-4758113793
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	笠原　賀子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育は、食を通して、人々の生涯にわたる健康の保持・増進あるいは疾病の予防に寄与し、QOLの向上を目指すという基本的な概念について学修する。さらに、その目標を達成するために必要な、個人および集団の健康的な食行動変容を促す行動科学の理論やモデルについて学修する。 また、管理栄養士の関わる生活指導全般についても学修する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	・栄養教育の概念について説明できる。 ・行動科学の理論やモデル、行動変容技法について説明できる。 ・行動科学の理論やモデルを栄養教育に活用できるようになる。

教授方法	グループワーク、プレゼンテーション
履修条件	「栄養教育論Ⅰ」の単位を取得していない者は、「栄養教育論Ⅱ」は受講できない。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、今までの学びの振り返り、栄養教育の概念①　栄養指導・栄養教育の歴史、定義、目的・目標、対象と機会 （栄養教育の概念と管理栄養士の職務を理解する）	
2	いのちに向き合う：ゲスト（管理栄養士の仕事は、人のいのちに係わることに気づく）	
3	栄養教育の概念②　栄養教育マネジメント（アセスメント・計画・実施・評価）、栄養教育マネジメントに用いる理論：エコロジカルモデル（栄養教育マネジメントと用いられる理論について理解する）	
4	栄養教育の実践と行動科学①　行動科学の基礎理論（認知行動療法を含む）と栄養教育における応用、ヘルスプロモーションにおける栄養教育（栄養教育に役立つさまざまな行動科学の理論や行動変容技法について理解する）	
5	栄養教育の実践と行動科学②　刺激反応理論、ライフスキル （さまざまな理論について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
6	栄養教育の実践と行動科学③　ヘルスビリーフモデル、ソーシャルスキルトレーニング、トランスセオレティカルモデル （さまざまな理論について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
7	栄養教育の実践と行動科学④　計画的行動理論、社会的認知理論、ソーシャルサポート／ソーシャルネットワーク （さまざまな理論について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
8	栄養教育の実践と行動科学⑤　ストレスマネジメント、ヘルスリテラシー （さまざまな理論について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
9	栄養教育の実践と行動科学⑥　イノベーション普及理論、ソーシャルマーケティング （さまざまな理論について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
10	栄養教育の実践と行動科学⑦　ナッジ （ナッジについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
11	栄養教育の実践と行動科学⑧　行動科学とさまざまな行動変容技法 （さまざまな行動変容技法について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
12	栄養教育の実践と行動科学⑨　コミュニティオーガニゼーション／コミュニティビルディング、組織・地域づくり：セルフヘルプグループ、グループダイナミクス、エンパワメント等（さまざまな理論について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
13	栄養教育と食環境整備（栄養教育における食環境整備の必要性について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
14	行動科学の理論やモデル、行動変容技法を活用した栄養・食生活指導 （さまざまな理論やモデル、行動変容技法について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか	レポート	20	提出期限を順守しているか。授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。
主体的態度	10	主体的に授業に参加できたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習（30分）：該当範囲の関連する内容について調べ、まとめておく。 事後学習（90分）：授業内容を振り返り、要点を整理する。レポートをまとめる。 ※基本的に、レポートは毎回実施。〆切厳守のこと。	課題等の説明は、随時、行う。 質問はメールで、件名は「栄教Ⅰ」とする。 ML：kasahara_yoshiko@std.hokurikugakuin.ac.jp

受講生に望むこと	・栄養教育は、1年次に学修したこと、さらに、これから学修するさまざまな専門的知識が基盤となることを認識すること。しっかりした土台があってこそ、強固な家は立つ。 ・食・栄養は、人々の命を支える大切な営みであることを意識する。	教科書・テキスト	・『管理栄養士講座　栄養教育論　第3版』中村丁次・外山健二・笠原賀子編著,建帛社,2020 ・管理栄養士・栄養士必携』公益社団法人　日本栄養士会, 第一出版 ・その他、適宜、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	・ゲストの都合等により、授業の順番が変わることがある。 ・Chromebookを持参する必要がある場合には、事前に連絡する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨床栄養学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
傷病者の病態に応じた治療、薬剤の服用、臨床症候および栄養状態の評価に基づいて、適切な栄養管理を行うための臨床栄養管理の基礎を学習する。栄養アセスメント、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する臨床栄養管理の考え方を解説する。医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、提案する栄養管理の具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養投与計画などについて講義する。さらに、傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画（知識）と栄養処方（技術）を修得することを目標とする。	医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画（知識）と栄養処方（技術）を修得することを目標とする。 ①疾病の治療状況から栄養スクリーニングツールが利用できる。 ②栄養スクリーニングから栄養評価が把握できる。 ③疾病・身体状況に対応した栄養補給方法を説明できる。 ④栄養評価に基づき、栄養介入計画を栄養計画書が作成できる。 ⑤栄養計画の経過の再評価ができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	臨床栄養とは、臨床栄養管理のあり方、スクリーニング方法	
2	栄養パラメータ：臨床診査、身体計測	
3	栄養パラメータ：臨床検査値①　（一般臨床検査の種類と意義、血液学検査の種類と意義、生化学検査の種類と意義）	
4	栄養パラメータ：臨床検査値②（生理機能検査の種類と意義、免疫学検査の種類と意義、画像検査の種類と意義）	
5	栄養パラメータ：臨床検査値③（摂食嚥下機能検査の種類と意義、微生物学検査の種類と意義）	
6	臨床症候と栄養障害の評価：脱水、貧血	
7	臨床症候と栄養障害の評価：浮腫、腹水、黄疸	
8	臨床症候と栄養障害の評価：下痢・便秘、摂食嚥下障害	
9	臨床症候と栄養障害の評価：悪心・嘔吐、食欲不振、低栄養、褥瘡	
10	栄養補給方法：経腸栄養法	
11	栄養補給方法：静脈栄養法	
12	食事と医薬品の相互作用	
13	栄養・代謝・内分泌系疾患の栄養管理：飢餓、たんぱく・エネルギー栄養失調	
14	栄養・代謝・内分泌系疾患の栄養管理：ビタミンおよびミネラル欠乏症・過剰症	
15	栄養・代謝・内分泌系疾患の栄養管理：栄養管理：電解質代謝異常	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題評価	20	前回の授業内容に基づく課題の提出
期末テスト	70	期末テストにおける得点に基づいて評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【事前学習】「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」「基礎栄養学」の学修内容を十分に復習してから講義に臨むこと。（60分） 【事後学習】「臨床栄養学Ⅱ」の疾患別、病態別栄養管理の基礎知識となるため、毎回十分に復習をする。（60分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。"

受講生に望むこと	臨床栄養学は、1年次の講義の集体系した教科であるため、理解を深めるために、1年次で学修した関連教科を十分に復習すること。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編，第３版本田佳子，曽根博仁／編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113694 栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編，第３版本田佳子，曽根博仁／編：羊土社,2022年，ISBN 9784758113700 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック,(改訂第3版)，佐々木雅也(編集)：南江堂,2024年， ISBN-13978-4524206841
指定図書／参考書等	【指定図書】 日本人の食事摂取基準〈2025年版〉,厚生労働省：第一出版，2025.4.1 【参考書等】 『栄養管理プロセス,公益社団法人日本栄養士会編』　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）	その他・特記事項	臨床栄養学は、医療専門関連学会のガイドラインの改訂により、その栄養管理指針などが変更される。その都度、新しいガイドラインに準じて、授業を進める。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。

授業科目名	公衆栄養学Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	長井　直子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
公衆栄養学Ⅰでは公衆栄養学の概念、公衆栄養活動の歴史、栄養行政関連法規、わが国や諸外国における健康・栄養問題の現状と課題(食事・食環境の変化)及びそれを取り巻く社会的・経済的・文化的要因について、情報収集、分析、評価判定し、その改善のための健康・栄養政策、健康・食育対策と地方計画などの公衆栄養活動について学ぶ。 さらに地域住民の健康づくり及び栄養・食生活の改善を担う管理栄養士として、地域や職域等の保健・医療・福祉・介護システムにおけるハイリスク集団の特定、あらゆる健康・栄養状態の対象者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的マネジメントに必要な理論と方法を学ぶ。	1.わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する現状と課題を把握し、関連する政策について理解する。 2.地域や集団の特徴に基づいた実際の公衆栄養活動について理解する。 3.地域、集団の健康・栄養問題に対し、適切なプログラムの作成・実施・評価を行う理論を理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	公衆栄養学の概念①　公衆栄養の意義と目的、生態系と食料・栄養	
2	公衆栄養学の概念②　保健・医療・福祉・介護システムと公衆栄養、コミュニティと公衆栄養活動	
3	公衆栄養学の概念③　公衆栄養活動の歴史、少子・高齢社会における健康増進、疾病予防・ヘルスプロモーション・住民参加・持続可能性等を踏まえた活動、ソーシャル・キャピタルの醸成、多職種連携・多機関連携	
4	わが国の健康・栄養問題の現状と課題（食事の変化、食生活の変化、食環境の変化）	
5	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題（先進諸国、開発途上国、地域間格差）	
6	栄養政策①　わが国の公衆栄養活動	
7	栄養政策②　公衆栄養関連法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法、高齢者医療確保法など）	
8	栄養政策③　管理栄養士・栄養士制度と職業（栄養士法、管理栄養士・栄養士の養成制度、職業倫理）	
9	栄養政策④　国の健康増進基本方針、健康日本21（第三次）と地方健康増進計画	
10	栄養政策⑤　第4次食育推進基本計画と地方食育推進計画、食育白書	
11	栄養政策⑥　国民健康・栄養調査及び調査実施に関連する指針・ツール	
12	栄養政策⑦　国民の健康づくり対策と栄養施策（スマートライフプロジェクト、特定健診・特定保健指導など） 諸外国の健康・栄養政策	
13	栄養施策⑧　健康危機管理における栄養・食生活支援と管理栄養士活動の実際	
14	栄養政策⑨　食環境整備と食品表示	
15	栄養政策⑩　高齢社会の健康・栄養課題（介護予防、地域包括ケアシステムなど）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	栄養施策の法的根拠や公衆栄養活動の内容やプロセスを理解する。	課題レポート	30	課題内容を理解し適切にまとめる。提出期限を守る。
授業参加意欲	20	学習への取り組み姿勢			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前予習：教科書予習をして授業に臨む。 ②事後学習：学習内容を確認ながら、資料整理やレポート作成に取り組む。	課題レポートは解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・他科目との関連を意識しながら学ぶ。 ・配付資料やレポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	『基礎から身につく公衆栄養学』逸見幾代編著 同文書院　2024年　ISBN978-4-8103-1525-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。

授業科目名	給食経営管理論Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
円滑な給食経営のためには、給食運営や関連の資源(食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力が求められる。 本授業では、各特定給食施設における給食利用者の身体状況、栄養状態等に応じて食事を計画する栄養・食事管理、給食の運営を効率的に行うための生産(調理)管理、それらのシステム構築を理解する。さらに施設管理や調理機器の構造と特徴、新調理システムなどについても学び、幅広い知識を習得する。 ※SDGs目標番号12関連科目	①特定給食施設における給食の目的や管理栄養士や栄養士の役割について説明できる。 ②給食の定義を理解し、給食経営管理に関わる関連法規について説明できる。 ③食材料管理について流通と購買管理の概要が理解でき、購入量の計算ができる。 ④HACCPの概念を理解し、給食現場での衛生管理の重要性と関連付けることができる。 ⑤経営管理の視点から給食運営の全体像を理解できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：給食経営管理論の全体像を理解する	
2	特定給食施設と給食の意義について学ぶ	
3	健康増進法と管理栄養士の役割について学ぶ	
4	給食経営管理の概要と給食システムについて学ぶ	
5	食材料管理(1) ：食材料管理の目的、購買計画について学ぶ	
6	食材料管理(2) ：検収、在庫管理、評価について学ぶ	
7	生産管理(1) ：給食のオペレーション、生産計画について学ぶ	
8	生産管理(2) ：大量調理の特性、生産性、評価について学ぶ	
9	安全・衛生管理(1) ：安全・衛生管理の概要について学ぶ	
10	安全・衛生管理(2) ：給食の安全・衛生の実際について学ぶ	
11	施設・設備管理について学ぶ	
12	提供管理について学ぶ	
13	栄養・食事管理(1) ：栄養・食事管理の概要とアセスメントについて学ぶ	
14	栄養・食事管理(2) ：栄養・食事計画と実施、評価について学ぶ	
15	品質管理 ：品質管理の意義と改善のためのPDCAサイクルの仕組みについて学ぶ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	試験形式で、栄養士・管理栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。	課題	30	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習すること。［30分］ ②課題は、テキスト以外にも資料を参考にして取組み、知識を定着させる努力をすること。［30分］	①課題レポートはコメントを入れて返却する。 ②授業に関する質問には随時対応する。

受講生に望むこと	臨地実習を意識して、基本的事項を十分に理解し、関連科目とリンクさせ、主体的に学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著,講談社　ISBN978-4-06-14066-6 『給食経営管理用語辞典 第3版』日本給食経営管理学会監修,第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会,2023年度版, 第一出版　ISBN:978-4-8041-1409-5
指定図書／参考書等	なし／『給食の運営―栄養管理・経営管理―』逸見幾代,平林眞弓編著,長田早苗他共著,建帛社　『日本人の食事摂取基準』［20255年版 ］,第一出版　ISBN 『食事療養のための食品交換表』第 7 版,日本糖尿病学会編　ISBN978-4-8306-6046-7	その他・特記事項	Google Classroomから課題を配信します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	公衆衛生学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	林　宏一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
人の健康は身の回りの自然や社会環境との相互関係で成り立っている。本授業では、空気、水質、食品などの衛生試験法に関する実験と発表・討論を行う。各試験法の原理を理解しその技術を習得するとともに、社会や環境中の因子が人間の健康をどう規定し影響を与えるか、その健康を保持増進するための環境因子の排除はいかにあるべきか等を考察する。また、社会環境と健康に関する演習も行う。さらに、国、都道府県が公表する統計データを用い、地域の健康課題と生物学的要因（生活習慣・感染症）との関連性の分析を行い、地域の健康課題を解決するための健康づくり対策について検討を行う。 ※SDGs目標番号3、6関連科目	①各種環境因子の評価方法、健康への影響について理解する。 ②国、都道府県が公表している統計データを用い、地域の健康課題とその要因の分析方法を修得する。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業の進め方、班決め、実習の注意事項、器具の使い方、レポートのまとめ方等	
2	国民健康・栄養調査の経時変化から高血圧の発症リスクを分析	
3	社会生活統計指標を用いた生活習慣病の死亡リスク要因を分析	
4	社会生活統計指標を用いた生活習慣病の死亡リスク要因の分析結果から健康づくり対策を作成	
5	室内環境の測定（気温、気湿、気流、感覚温度、不快指数）	
6	室内・屋外の環境測定（照度）	
7	室内・屋外の環境測定（騒音）	
8	音源からの距離による音量の変化	
9	紫外線の身体への影響について実測する。 手洗い実習 普段行っている手洗いが有効なのか実測する。	
10	水質試験水道水（飲料水の残留塩素、理化学試験項目）と雨水（pH）	
11	河川の水の指標には何があるか、身近な河川の水を調べる。	
12	水質試験 市販されている水の性質を調べる。	
13	空気環境の測定 学内の環境を例に空気環境を測定する。 呼吸商（食物の何が燃焼しているか確かめる）。	
14	タバコと健康への影響を実際に測定する。	
15	フリッカーテスト、自覚症状スクリーニングテストによる疲労測定	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	課題に対して、的確に記載されているかを評価基準とする。	期末テスト	70	この実習において、修得状況を記述式でテストを行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前：授業テーマを予め知らせるので、インターネットや図書館資料等を利用し、専門用語を中心に意味を調べておく（30分） ②事後：レポートをまとめる（60分）	レポート、試験ともに全体的なコメントをメール等で行う。学生からの質疑を随時、対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。

受講生に望むこと	日頃から人を取り巻く自然環境、社会環境について、興味を持って生活してほしい。	教科書・テキスト	なし。プリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし シラバス内には記載しないが、学習の参考となる図書等は授業内で随時、紹介する。	その他・特記事項	管理栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員には必須の内容である。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	社会福祉概論			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田引　俊和						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、援助の視点、制度や実施体制等の現状について、広く学ぶ。日常生活を支える社会保障の体系、社会福祉援助技術の基本的な考え方にも触れつつ、高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改正の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、管理栄養士・栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざす。	①社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。 ②社会福祉の援助と視点を理解する。 ③社会福祉分野における管理栄養士・栄養士の役割を理解できるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。	
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。	
3	社会保障制度の概要Ⅰ：社会保障制度の全体像を学ぶ。	
4	社会保障制度の概要Ⅱ：社会保険制度について学ぶ。	
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原理・原則、生活保護の実際について学ぶ。	
6	高齢者の福祉Ⅰ：高齢者を取り巻く状況について学ぶ。	
7	高齢者の福祉Ⅱ：介護保険制度の概要について学ぶ。	
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。	
9	障害者の福祉Ⅰ：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。	
10	障害者の福祉Ⅱ：障害者総合支援法の概要について学ぶ。	
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。	
12	社会福祉基礎構造改革と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。	
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。	
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。	
15	社会福祉分野における管理栄養士・栄養士：社会福祉分野で働く管理栄養士・栄養士の立場と役割を考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価する。	授業参加状況	20	授業内小テスト、小レポートの提出、および意見や質問を行い積極的に授業に参加しているか等、受講態度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めること。[30分以上]	講義後に提出された意見や質問には、次回の授業でコメントを行う。

受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、管理栄養士・栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでほしい。	教科書・テキスト	『七訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉』岩松珠美・三谷嘉明 編,株式会社みらい,2020年, ISBN：978-4-86015-656-5 ※2025年度テキスト改訂（七訂）
指定図書／参考書等	なし／授業中に適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生化学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
生化学（Biochemistry）とは、生物・生命現象を、複雑で高度な化学反応系と見なし、化学の言葉・レベルで理解することをめざす壮大な学問領域ということができる。「生化学Ⅰ、生化学Ⅱ」では、食品・栄養及び人間環境に関わる生化学を受講する。食事等から摂取された栄養素とは、そもそもどのようなものなのか、そして、どのように代謝され、生命の恒常性が維持されていくのかを中心に学ぶ。「生化学Ⅱ」では、「生化学Ⅰ」をふまえ、各種栄養素の代謝や代謝系の関わり合いを中心に学ぶ。さらに、免疫系（炎症やアレルギーの概要を含む）や情報伝達の機構について学び、生命の恒常性について理解する。	1.　各種栄養素の代謝を理解している。 2.　代謝系の関わり合いについて説明できる。 3.　免疫系、及び炎症、アレルギーの概要を理解している。 4.　情報伝達の機構について概要を理解している。 5.　生体内の恒常性維持機構について概要を理解している。

教授方法	講義
履修条件	生化学Ⅰを履修していること

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	代謝の概要を学ぶ。	
2	糖質の代謝(解糖系～TCA回路～電子伝達系）について理解する。	
3	グリコーゲン代謝について理解する。	
4	糖質の代謝(糖新生、ペントースリン酸回路、ウロン酸回路）について理解する。	
5	脂質の代謝（トリアシルグリセロール、脂肪酸の分解･合成、ケトン体の生成)について理解する。	
6	脂質の代謝(エイコサノイドの合成、コレステロール代謝)について理解する。	
7	たんぱく質の分解について理解する。	
8	アミノ酸の代謝（生理活性窒素化合物の合成）について理解する。	
9	アミノ酸の代謝(アミノ基の代謝、尿素回路）について理解する。	
10	アミノ酸の代謝（アミノ酸炭素骨格の代謝）、代謝系の関わり合いについて理解する。	
11	免疫細胞の種類と機能について理解する。	
12	免疫系、及び炎症、アレルギーの概要を理解する。	
13	血液と尿の生化学を学ぶ。	
14	情報伝達の機構について概要を理解する。	
15	生体内の恒常性維持機構について概要を理解する。全体の振り返り	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポートまたは非定期試験	20	適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。	定期試験	80	筆記試験の正答率により評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．毎授業前に授業予定の部分を読んでくる（30分） 2．授業終了後、その単元全体を復習する（1時間）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書や配布資料を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	『管理栄養士をめざす人のいちばんやさしい代謝ドリル』西村直道著，講談社，2023年,ISBN978-4-06-513420-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	指定された教科書だけでは不十分なので、資料を毎回、配布する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	生化学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
生化学は生体内の化学成分や代謝機能を知るうえで重要な学問である。生化学の知識なくして、栄養学は成立しない。糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル、遺伝子の性質について様々な実験を通してより深く学修し、「生化学」の講義の学習内容を、机上の理論だけではなく実験を通して、知識をより確実なものにすることを目的とする。また、試験管内の化学反応を実際の生体反応と関連付けて考察することにより、細胞、または分子レベルでの人体の機能への理解につなげる。さらに、実験で得られた結果について、栄養代謝の観点からも考察することにより各種病態の理解に必要な知識を養う。	1.汎用的な技能を用いて得られた実験データなどを実験レポートとしてまとめることができるようになることとにより、論理的思考の育成を目標とする。 2.実験の原理が理解でき、必要な技術の習得を目標とする。 3.実験を円滑に進めることができるよう、実験内容を的確に理解し、各自の役割を理解することができる（チームワーク力の育成を目標とする）。 4.生体分子や酵素、核酸などの化学的性質と生体におけるそれらの機能や代謝における働きなどを関連付けて理解することにより人体機能の理解につなげる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス：生化学実験に関する基礎的な内容を理解する。	
2	pHと緩衝液に関して理解する。（天然物から抽出した色素の呈色変化）	
3	アミノ酸およびタンパク質の性質 - 等電点 , 加熱変性 - アミノ酸およびタンパク質の基本性質を知る。	
4	アミノ酸およびタンパク質の性質　-凝固・沈殿-　アミノ酸およびタンパク質の基本性質を知る。	
5	アミノ酸およびタンパク質の呈色反応 アミノ酸およびタンパク質の基本性質を知る。	
6	糖質の定性反応 糖質の基本性質を知る。	
7	まとめ実験Ⅰ　タンパク質、糖質の未知試料について定性反応から物質を同定する。未知試料中の物質の同定から学んだことを確認する。	
8	脂質および脂溶性ビタミンの定性反応　脂質や脂溶性ビタミンの基本性質を知る。	
9	まとめ実験Ⅱ 未知試料中の脂質および脂溶性ビタミンを同定する。未知試料中の物質の同定から学んだことを確認する。	
10	水溶性ビタミンおよび無機質の定性反応　水溶性ビタミンおよび無機質の基本性質を知る。	
11	まとめ実験Ⅲ　未知試料中の水溶性ビタミンおよび無機質をの同定する。未知試料中の物質の同定から学んだことを確認する。	
12	酵素による糖質の分解実験から、酵素の基本的な性質を知る。	
13	DNAの抽出　PCR法、電気泳動法（１）DNAの性質、PCR法の原理を理解する。	
14	DNAの抽出　PCR法、電気泳動法（２）電気泳動法を理解する。	
15	全実験のまとめ（講義含む）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。	実験レポート	50	実験内容の理解度とレポート作成における達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実験に関連する生化学や化学などの知識を事前学習で確認する(45分)。事後学習では、実験で学んだことを実際の生体反応との関連性を考える（50分）。	質問がある場合は個別に対応する。また、解説が必要と思われる場合は授業時間内に説明を行う。

受講生に望むこと	実験結果が予想されたものにならなかった場合の考察こそ学ぶことが多い。失敗を恐れずに実験に積極的に参加し、本実験から新しい技術や知識、論理的思考を身につけてもらいたい。	教科書・テキスト	実験プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	解剖生理学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
解剖生理学の学修範囲は非常に幅広いため、「解剖生理学Ⅱ」では「解剖生理学Ⅰ」では学修できなかった消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、皮膚、免疫、代謝と運動、体温調節、発生と老化の分野について学修する。本科目は人間生活を支える栄養や健康、疾病の成り立ちを理解するためには必須の科目である。人の生命活動の基盤となる栄養について科学的に理解するための生理学・解剖学という視点から、人体の構造と機能を密接に関連付けて学ぶ。	「解剖生理学Ⅰ」と「解剖生理学Ⅱ」を通して、細胞、組織、器官からなる人体の正常な構造と機能を理解し、記憶し、疾病を理解するための基礎学力を築き、非専門家には優しい言葉で説明ができ、専門家とは専門学用語を用いての十分な討論ができるようになる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養の消化と吸収。口・咽頭・食道の構造と機能を理解し、さらに食事時の嚥下の調節と誤嚥に関して理解し覚える。	
2	胃、小腸、大腸の構造と機能を理解し、消化、吸収の機構を理解し覚える。	
3	膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能を理解し、消化器全体で食事の生活活動への調節機構を理解し覚える。	
4	呼吸器と血液のはたらき。呼吸器全体の構造と上気道の機能を理解し、発生の機構を理解し覚える。	
5	下気道と肺の機能と理解し、呼吸と循環との関係、呼吸と神経との関係を理解し、空気環境への対応機構を理解し覚える。	
6	血液の組成と機能を理解し、日常におきる出血時の凝固機構を理解し、環境変化に対する血液の反応を理解し覚える。	
7	体液の調節と尿の生成。腎臓の構造と機能を理解し、人体の活動時おいて体液調整がいかに重要かを理解し覚える。	
8	排尿と体液の調整機能を理解し覚える。	
9	生殖・発生と老化のしくみ。男性生殖器の構造と機能を理解し覚える。	
10	女性生殖の構造と機能を理解し覚える。生殖という本能機能を科学的に解明して性にどのように向き合うかを考える。	
11	受精と発生の機構を理解し、人の成長から老化、死への一連の流れを考える。	
12	身体機能の防御と適応。皮膚の構造と機能を理解し、皮膚の環境変化に対する対応機構を理解し覚える。	
13	生体防御機構、免疫とアレルギーを理解して覚える。外部からの有害な刺激に対する対応機構を考える。	
14	代謝と運動と体温調節を理解し覚える。食物が代謝されて運動のエネルギーを生み、熱を生み、生活活動が可能になり、環境に対応できていることを考える。	
15	まとめ。習ってきた内容をもとに、食事、代謝、エネルギー、運動、体を休めるといった生活活動をおこせるための器官の働きと環境変化に対応するための器官の働きを考察し理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80%	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出	20%	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する（60分）。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す（60分）。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する（60分）。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	教科書をしっかりと読むこと。 最初は分かりにくくても、予習、講義、復習を通して、教科書を読むことで、だんだんと理解でき記憶に残るようになってくる。	教科書・テキスト	解剖生理学　上嶋/濱田（編集）　南江堂　2020年 ISBN　：978-4-524-24531-4
指定図書／参考書等	なし／『カラーアトラス　人体　解剖と機能』第4版、横地ら、医学書院、2013年、ISBN:978-4-260-01646-9,『ジュンケイラ組織学』　第6版、坂井ら、丸善出版、2024年、ISBN-13:978-4621308851、『プロメテウス解剖学エッセンシャルテキスト』　第2版、中野ら、医学書院、2023年、ISBN-13: 978-4260052153	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	解剖生理学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、正常な人体の構造・機能を学修する科目であり、管理栄養士養成課程における”人体の構造と機能及び疾病の成り立ち”を学ぶ科目群に配置されている。食物を提供される側の人体の基本的な構造と機能を理解することは重要である。ヒトが食物を摂取することは消化吸収、排せつの一連の過程と関連しており、栄養となることと、すべての器官、組織、細胞の構造と機能との関連を実験をとおして理解を深めることをねらいとしている。実験では骨標本、組織標本などを使いながら構造や機能的特徴などを学修する。	1.人体の構造を巨視的（系統的）および微視的（顕微鏡的）に説明できる。 2.人体の臓器や組織、細胞さらには遺伝子レベルにおける特徴的な構造とその機能を関連付けて理解する。また、人体の構造と機能について体系的に理解する。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	本実験のガイダンス、生体組織の構造と成り立ち	
2	顕微鏡の取り扱い	
3	骨格標本の観察１（上肢帯、上肢骨、頭蓋骨）	
4	骨格標本の観察２（椎骨、寛骨、下肢骨）	
5	人体模型の観察（胸部）	
6	人体模型の観察（腹部）	
7	組織標本の観察１呼吸器系：肺胞、気管支	
8	組織標本の観察２循環器系：心臓、心筋	
9	組織標本の観察３消化器系：肝臓、膵臓	
10	組織標本の観察４泌尿器系：腎臓	
11	組織標本の観察５神経系：中枢神経	
12	内分泌系：内分泌器官とホルモンの働き、ホルモン分泌の調節などについて学修する。	
13	皮膚感覚の触 圧点、痛点、温点、および冷点の分布や閾値の部位差の検討。重量感覚と空間閾値の実験からウェーバー・ヘクナーの精神物理的法則とその適応範囲を理解する。	
14	生体の観察：血圧の測定、脈拍の測定、運動負荷後の脈拍、血圧の測定	
15	総括	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。	レポート	50	課題が求めている内容とレポート作成の達成度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
実験後に解剖生理学や生化学など関連があると思われる授業のテキストなどを使い、実験で得た知識を深めてください（60分）。	質問や疑問があれば積極的たずねてください。重要なポイントなどは授業中に解説します。

受講生に望むこと	実験結果が予想されたものにならなかった場合の考察こそ学ぶことが多い。失敗を恐れずに実験に積極的に参加し、本実験から新しい知識や技術、論理的思考を身につけてもらいたい。	教科書・テキスト	実験プリントを配布します。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	医学一般Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」では、臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を網羅していく。その正しい理解と栄養学との関わりの中で、総合的かつ臨床応用学的な理解を深めていく。「医学一般Ⅱ」では、疾病の成り立ち、診断、治療に関する総論から始めて、代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、泌尿器疾患に関する重要な疾患を取り上げて、「医学一般Ⅰ」も参考にしながら疾患の病態生理、症状、治療を講義する。これらの各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できるようになる。	各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	序章．疾病の成り立ち、疾患診断の概要（一般的診療、主な症候）の内容を理解して覚える。	
2	疾患診断の概要（臨床検査、画像検査）の内容を理解して覚える。	
3	疾患治療の概要（種類と特徴、治療計画・実施・評価）の内容を理解して覚える。	
4	疾患治療の概要（治療の方法、終末期患者の治療、根拠に基づいた医療）の内容を理解して覚える。	
5	栄養障害と代謝疾患の内容を理解して覚える。	
6	肥満と代謝疾患（肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病、脂質異常症）の内容を理解して覚える。	
7	肥満と代謝疾患（高尿酸血症、痛風、先天性代謝異常）の内容を理解して覚える。	
8	消化器系疾患（嚥下障害、口内炎、舌炎、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍）の内容を理解して覚える。	
9	消化器系疾患（たんぱく漏出性胃腸炎、炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、過敏性腸症候群、便秘、下痢、急性肝炎、慢性肝炎）の内容を理解して覚える。	
10	消化器系疾患（肝硬変、脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎、胆石症、胆嚢炎、膵炎、消化器系の悪性腫瘍）の内容を理解して覚える。	
11	循環器系疾患（虚血、充血、うっ血、血栓、塞栓）の内容を理解して覚える。	
12	循環器系疾患（動脈硬化、血圧）の内容を理解して覚える。	
13	循環器系疾患（狭心症、心筋梗塞、不整脈、肺塞栓症、心不全）の内容を理解して覚える。	
14	腎・尿路系疾患（急性・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病）の内容を理解して覚える。	
15	腎・尿路系疾患（糖尿病性腎症、慢性腎不全、尿路結石、血液透析、腹膜透析、アシドーシス、アルカローシス）の内容を理解して覚える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、各自の手持ちの臨床医学のテキストと解剖生理学、生化学、病理学、微生物学のテキストを繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	臨床医学　改訂第2版　羽生/河手（編集）南江堂 2024年　ISBN：978-4-524-20663-6
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	医学一般Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中谷　壽男						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」では、臨床上の各疾患とその病態生理・疾患成立機序を網羅していく。その正しい理解と栄養学との関わりの中で、総合的かつ臨床応用学的な理解を深めていく。「医学一般Ⅲ」では、「医学一般Ⅱ」の続きとして、内分泌疾患、神経疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、生殖器疾患、血系疾患、免疫アレルギーそして感染症疾患に関する重要な疾患を取り上げて、「医学一般Ⅰ」も参考にしながら疾患の病態生理、症状、治療を講義する。これらの各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「医学一般Ⅲ」を学び終えることで、広い視野に立って、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できるようになる。	各疾病の病態生理学を知ることで、それに対応する妥当的栄養代謝学の視点から総合医学として理解でき、実際上の臨床応用問題（症例の問題点把握力）を自らの力で解決できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	内分泌系疾患（甲状腺機能亢進症、甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫）の内容を理解して覚える。	
2	内分泌系疾患（クッシング病・症候群、その他の内分泌疾患）の内容を理解して覚える。	
3	神経疾患（脳出血、脳梗塞）の内容を理解して覚える。	
4	神経疾患（認知症、パーキンソン病、パーキンソン症候群）の内容を理解して覚える。	
5	呼吸器系疾患（慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息）の内容を理解して覚える。	
6	呼吸器系疾患（肺炎、肺がん）の内容を理解して覚える。	
7	運動器（筋・骨格）系疾患（骨粗鬆症、骨軟化症、くる病、変形性関節症）の内容を理解して覚える。	
8	運動器（筋・骨格）系疾患（サルコペニア、廃用性筋萎縮、ロコモティブシンドローム、フレイル）の内容を理解して覚える。	
9	生殖器系疾患（妊娠高血圧症候群、子宮頸部がん・子宮体部がん）の内容を理解して覚える。	
10	生殖器系疾患（乳がん、前立腺がん）の内容を理解して覚える。	
11	血液系疾患（貧血、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、その他の貧血）の内容を理解して覚える。	
12	血液系疾患（出血性疾患、白血病、悪性リンパ腫）の内容を理解して覚える。	
13	免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、膠原病、自己免疫疾患、免疫不全）の内容を理解して覚える。	
14	感染症（病原微生物と感染・感染症、病原微生物の感染経路、性感染症・性行為感染症、日和見感染症）の内容を理解して覚える。	
15	感染症（院内感染、新興感染症、再興感染症、抗菌薬・抗生物質、薬剤耐性菌・多剤耐性菌）の内容を理解して覚える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	80	筆記試験の結果に基づいて評価する。	課題提出物	20	適宜課す課題提出物に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義の範囲の教科書を読んで講義に出席する［1時間］。 講義後は講義の範囲の教科書に再度目を通す［1時間］。 問題集を解いて内容の記憶と理解を自習する［30分］。	試験は答案の返却と解答を示し学生からの疑問を対面またはメールで受け付けてフィードバックを行う。 提出物に関しては授業内に適宜フィードバックを行なう。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、各自の手持ちの臨床医学のテキストと解剖生理学、生化学、病理学、微生物学のテキストを繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	臨床医学　改訂第2版　羽生/河手（編集）南江堂 2024年　ISBN：978-4-524-20663-6
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、管理栄養士養成課程教育カリキュラムにおける「食べ物と健康」分野の科目に位置づけられ、1年時前期で学習した食品学Ⅰの知識を基礎に、食品の分類や各食品の特性を学習、理解することを目的とする。具体的には、植物性食品、動物性食品、その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や特性について学習する。また、食品の三次機能に関与する成分が健康に与える影響について述べるとともに、これらの特性を活用した保健機能食品などの新規食品についても解説する。なお、本科目を通して食品を総合的に考える能力を養うため、2回の講義で、グループワークとディスカッションを実施する。さらに、毎回、課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。	①食品成分表について理解することができる。 ②植物性食品の分類や特性について理解することができる。 ③動物性食品の分類や特性について理解理解することができる。 ④その他の食品（油脂、甘味料、調味料、香辛料、嗜好飲料等）の分類や特性について理解することができる。 ⑤保健機能食品について，表示の規格を含め説明できる。また、いわゆる健康食品との違いについて説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品の分類・食品成分表	
2	植物性食品（穀類）	
3	植物性食品（いも類）	
4	植物性食品（豆、種実類）	
5	植物性食品（野菜類）	
6	植物性食品（果実類）	
7	植物性食品（キノコ類、藻類）	
8	動物性食品（肉類）	
9	動物性食品（魚介類）	
10	動物性食品（乳類、卵類）	
11	その他の食品（油脂類、甘味料、調味料、嗜好飲料）	
12	食品の三次機能とその作用機序	
13	保健機能食品制度と開発された新規食品の事例紹介	
14	グループワーク及びディスカッション	
15	グループワーク及びディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	レポート課題に関して、的確に理解し・記載されているかを評価基準とする	期末試験	70	管理栄養士国家試験を意識して、選択肢で回答する問題と論述する問題を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義資料は事前に Classroom上でダウンロードし、目を通しておくこと。[30分] ②毎回、課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。	①質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 ②毎回授業の初めに、課題の解説を通し前時の授業内容の振り返りを行い、学んだ内容について理解を深める。

受講生に望むこと	事前に学習する内容について予習すること。 講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。	教科書・テキスト	『食品学各論』第3版、瀬口正春・八田一編、化学同人、2016年、ISBN：9784759816419
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品機能学			開講学科	栄養	必修・選択	選択
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食品の有する機能性について理解することを目的とする。特に、三次機能である生体調節機能および関係する疾患や人体の構造と生理機能についての知識を習得する。さらに、食品における機能性表示や医薬品と食品との違いについて学ぶとともに市場に溢れる健康食品についての問題点について考える。	①食品が有する3 つの機能について説明できる。 ②保健機能食品制度を説明できる。 ③各生体調節機能について作用メカニズムを含めて説明できる。 ④生理機能別に人体の構造を説明できる。 ⑤生活習慣病について説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品機能学とは	
2	抗酸化機能①	
3	抗酸化機能②	
4	消化吸収促進と代謝改善機能①	
5	消化吸収促進と代謝改善機能②	
6	難消化、吸収阻害および微生物活性機能①	
7	難消化、吸収阻害および微生物活性機能②	
8	脂質関連代謝機能	
9	酵素後害、酵素活性化機能①	
10	酵素阻害、酵素活性化機能②	
11	免疫系に及ぼす機能①	
12	免疫系に及ぼす機能②	
13	神経系に及ぼす機能	
14	グループワーク及びディスカッション	
15	グループワーク及びディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	レポート課題に関して、的確に理解・記載されているかを評価基準とする。	期末試験	70	管理栄養士国家試験を意識して、選択肢で回答する問題と論述する問題を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
講義資料は事前にClassroomにアップするのでダウンロードし目を通しておくこと。［30分］ 毎回、課題を出し、期日内にレポートの提出を課す。［30分］	①質問は、対面あるいはメールで対応するので、わからないままにしないこと。 ②毎回授業の初めに、前時の授業における振り返りを行い、質問や意見に対するコメントを行う。

受講生に望むこと	事前に学習する内容について予習すること。 講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。	教科書・テキスト	改定　食品機能学　第4版、建帛社、ISBN: 978-4-7679-0716-1
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品分析学			開講学科	栄養	必修・選択	選択
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、日本食品標準成分表に記載されている５大栄養素であるたんぱく質、脂質、炭水化物、無機質、ビタミンに水を加えた一般６成分の代表的な分析方法を中心に紹介する。その都度、呈味成分、香気成分、色素成分、機能性成分の分析法やガスクロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー、質量分析法などの使用機器の紹介と測定原理、機器の構造を含めて、具体的にわかりやすく解説する。分析法の妥当性確認法や精度管理などについても説明する。	①化学物質・化合物である栄養成分を分離・分析するために必要な考え方を理解している。 ②機器分析を含む分析手法に関する知識が身についている。 ③食品標準成分表の成り立ちを理解している。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品分析の基礎（食品成分の特徴、分析試料としての食品素材の取扱い、基本的な分析原理）	
2	食品中のたんぱく質の主な定量分析	
3	たんぱく質の代表的な分析手法1（分離、組成）	
4	たんぱく質の代表的な分析手法2（分子量、構造）	
5	糖質の分析法1（概要、酵素法）	
6	糖質の分析法2（各種機器分析法）	
7	脂溶性ビタミンの分析法	
8	水溶性ビタミンの分析法	
9	脂質分析に役立つ脂質の基礎知識	
10	食品成分表策定に用いられる脂質分析法1（脂質の定量）	
11	食品成分表策定に用いられる脂質分析法2（脂肪酸の定量）	
12	その他の脂質分析法	
13	食品中の水分の主な定量分析	
14	ミネラル成分の分析試料調製方法、原子吸光法とスペクトル	
15	元素分析の実際（Na、K、Ca、Mg、P、Fe、Zn、Cu、Mnなど）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポートまたは非定期試験	20	適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする。	定期試験	80	問題の正答率に基づいて評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
① 毎授業前に授業予定の部分を読んでくる（30分） ② 授業終了後、その単元全体を復習する（1時間）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書と配布資料を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	『基礎から学ぶ　食品分析学』谷口亜樹子編著,建帛社,2022年,ISBN978-4767906720
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品加工学			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食品を保存・保蔵する生活技術が修練され、独自の食文化や加工食品が生まれるなど、加工の技術は歴史的変遷を繰り返してきた。食の外部化が進み、われわれの毎日の食生活も加工食品無しでは成り立たなくなっている。本講義では、さまざまな加工食品の理解を深めるために、食品保存（貯蔵）法の原理を化学的・物理的観点から習得する。また、微生物の力を利用した発酵食品を含む身近な加工食品の加工原理・製造方法について学ぶ。さらに、加工食品を正しく選択するために、加工食品の規格・表示と安全性について概説し、栄養面・安全面・嗜好面の各特性を高める食品の加工の方法を総合的に理解し、修得する。	1.食品の保存方法について理解できる。 2.各加工食品の加工原理・製造方法について理解できる。 3.加工食品の規格・表示制度について理解できる。 4.授業で扱った内容について、自主学修によって得た知識をふまえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食品加工の意義・目的、食品加工の方法	
2	食品保存の原理①　食品保存の方法	
3	食品保存の原理②　流通環境と食品・栄養成分変化（温度、光、気相）	
4	食品保存の原理③　保存条件と食品・栄養成分変化（水分活性、保存による変化、食品成分間反応）	
5	食品の劣化原因（脂質の酸化など）とその防止方法	
6	食品加工の原理（食品加工の新技術）	
7	食品の包装による成分及び品質変化	
8	加工食品の規格基準と品質表示	
9	加工食品の安全性とその評価	
10	農産物加工食品とその利用	
11	畜産物加工食品とその利用	
12	水産物加工食品とその利用	
13	食用油脂、コピー食品、調味料およびし好食品とその利用	
14	微生物利用食品とその利用	
15	新規加工食品（保健機能食品・特別用途食品）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	適切に理解し、的確に記載されているかを評価基準とする	定期試験	70	管理栄養士国家試験を意識して、選択肢で回答する問題と論述する問題を出題する。評価は、筆記試験の正答率により行う。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1.毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。[30分] 2.授業終了後、その単元全体を復習する。	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。

受講生に望むこと	1.事前に学習する内容について予習すること。 2.講義で不明な点等については、必ず質問し、理解すること。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『食品加工・保蔵学』,海老原清編,講談社,2017年,ISBN978-4-06-155395-8
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	分析化学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三沢　典彦						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本学科では、食や健康に関する様々な領域を学習していくが、専門領域を学ぶ上で生物、化学の基礎知識が重要となる。本実験は、化学に関する基礎知識・理解を深め、また、他の化学実験にも応用できる基本的な実験技術について習得することを目的とする。また、実験と理論とを結びつけて理解することにより、近代科学の基盤である「科学的方法」について意識する。 実験を通じて化学分析の原理を習得するとともに、科学的視点から物事を捉え、考察する能力も養う。	身近な食品などを題材とし、科学の基礎となる実験を行なう。化学実験（主に分析化学）に習熟すると共に実験化学的なアプローチ法、科学理論と実験の関係を理解する。 ・化学実験の多岐にわたる基本的操作を安全かつ合理的に行なうことが出来るようになる。 ・実験の目的、方法、結果、その解釈を整合的・有機的に理解することが出来るようになる。 ・行なった化学実験の内容を、一般的形式に則って簡潔且つ適切・適正にレポートとしてまとめることが出来るようになる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験ガイダンス	
2	ガラス器具の取り扱い方、重量分析（水分の定量）	
3	重量分析（灰分、脂質の定量）	
4	シュウ酸標準液および水酸化ナトリウム溶液の調製・標定	
5	食品のpH測定、酸度測定	
6	容量分析（油脂の酸化・過酸化物価）	
7	ケルダール法によるタンパク質の定量「ケルダール分解装置の設置及び試料分解」	
8	分解溶液の蒸留および滴定	
9	比色分析、鉄の定量	
10	糖質の定量	
11	過マンガン酸カリウム溶液の力価測定	
12	ペーパークロマトグラフィー①（食品用色素の分離）	
13	ペーパークロマトグラフィー②（食品用色素の同定）	
14	ガスクロマトグラフィー（GC)/マススペクトロメトリー（MS)、データ処理	
15	まとめ、グループワークおよびディスカッション	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	50	実験レポートは基本的な構成に則って記述されているか。結果の表記が適切・適正に記載されているか。結果導かれる考察が仮説・理論から考えられることと結果との比較など客観的且つ論理的な主張がなされているかなど	定期試験	50	授業内容の理解度を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前にテキストなどを熟読し、実験内容や操作などの流れを把握してから実験に臨む（1時間）。予習により実験を安全かつ手早く合理的に進めることができる。レポート作成はテキストなどを参照し、基本的な構成に則って記述する。	質問や疑問がある場合には担当教員に尋ねること。 受講生全員に説明した方がいいと判断した場合は授業中に説明する。

受講生に望むこと	レポート作成にあたり、実験内容などを友人と議論することは有益であるが、レポートは必ず各自作成すること。実験操作はテキストを丸写しするのではなく実際に行なった操作を簡潔に記載する。実験後は実験項目ごとにレポートを作成し期限までに提出する。実験レポート提出とその合格をもって化学実験の終了となる。	教科書・テキスト	実験プリントを配布して行なう。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
食品学や関連領域で学んだ知識をより一層深く理解するためには、一人ひとりが実際に実験を行い、体験的に食品成分の特性や含有量を知ることが重要である。本実験の目的は、「日本食品標準成分表2015」で採用されている分析法（重量分析、容量分析、機器分析）を用いて、食品の一般成分である水分、たんぱく質、脂質、炭水化物および灰分の測定を行う。また、それらの分析や測定方法をとおして食品成分の化学的な性質や構造などと健康への影響や疾病予防との関連について関連付けて理解を深める。また、嗜好成分の定量実験および食品成分の性質と変化に関する実験も行い、食品を多角的に観察し、評価する能力を養う。これらの実験をとおして実験の進め方、分析機器の原理や操作方法、結果の解析方法などを習得し、論理的な思考力も身につける。	1.授業の解説や実験を通じて習得した食品分析および食品成分について学んだ知識を踏まえ、食品成分の栄養特性や健康に与える影響、疾病予防などを関連づけて理解する。また、栄養、安全、嗜好などの面から、食品成分を活かすための技術との関連について理解する。 2.授業で扱った内容について、自主学修によって得た知見を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができるようになる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験ガイダンス	
2	化学実験の基礎知識説明、中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定。今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算ができるようになる。	
3	中和滴定による酸力価検定、食酢中の酢酸の定量 ①中和滴定によりさらに実験技法を高める。	
4	酢酸の定量② 塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量できることを知り、実験技法のさらなる上積みをする。	
5	水酸化ナトリウム再滴定 総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する。蒸留装置を組めるようになる。	
6	菓子類と栄養 パン、ケーキ、クッキー類に使われているバター、マーガリンのケン化価、ヨウ素価による油脂の化学的特徴を測定によって明らかにする。還流装置を組めるようになる。	
7	ソモギー変法による清涼飲料水、機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつける。	
8	牛乳、乳飲料、機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、滴定における微妙な色の変化を識別出来るようになる。	
9	ほうれん草中の鉄の定量①　シュウ酸の定量①　灰化操作、化学成分の抽出を習得する。	
10	ほうれん草中の鉄の定量②　分光光度計の原理と使い方を習得する。	
11	食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、そのしくみと防止する条件を探る。	
12	菓子類と栄養　菓子類に使われているイチゴ、柑橘類にビタミンCが本当に多いのか？　数種類のものを対象に測定し、比較する。	
13	ワイン中に含まれるアルコールの定量　ワインを対象として、ラベルに記載されているアルコール濃度と測定結果を比較し、考察する。	
14	ポリフェノールの定量	
15	抗酸化活性の測定	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	50	実験内容と実験データを的確にまとめたレポートにより授業の理解度を評価する。	定期試験	50	授業内容の理解度と実践力を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
食品学やその他の科目で学んだこととの関連性を考えることにより学修が深まり、実践力が高まります(60分)。	質問や疑問があれば個別に対応する。その中で受講者全員に説明した方がよいと思われることは授業時間に解説する。

受講生に望むこと	実験には積極的に参加してください。実験で得られた体験と机上で学んだ知識とのつながりから専門知識を深めてください。	教科書・テキスト	実験プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品加工学実習			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	西　正人						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
食品加工は食品の栄養的価値を可能な限り変えず、食する時の物性面を考慮した技術である。本授業では、各種加工食品の製造法の原理をふまえて、食品の調理、加工に伴う食品成分の物性的・化学的変化と栄養、嗜好性、安全性への影響を、実習を通して学ぶ。また、殺菌、滅菌などの衛生管理、製品管理の技術などを習得する。実習では、家庭、学校現場、食品製造メーカー等で扱う加工食品や、微生物の力を利用した発酵食品などの身近な加工食品の加工・製造技術を学ぶ。	1.食品の生育・生産から加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程における、食材の成分の変化と加工の関係が理解できる。 2.各加工食品の加工原理が理解できる。 3.作業手順に基づき加工食品を完成することができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、実習講義	
2	果実類の加工（１）：イチゴジャムの瓶詰【実習】【レポート】	
3	果実類の加工（２）：マーマレードの瓶詰【実習】【レポート】	
4	穀類の加工（１）：うどん【実習】【レポート】	
5	穀類の加工（２）：パスタ【実習】【レポート】	
6	豆類の加工（１）：木綿豆腐、寄せ豆腐【実習】【レポート】	
7	豆類の加工（２）：充填豆腐、がんもどき【実習】【レポート】	
8	いも類の加工：こんにゃく【実習】【レポート】	
9	野菜類の加工（１）：ピクルスの瓶詰 きのこ類の加工：なめたけの瓶詰【実習】【レポート】	
10	野菜類の加工（２）：レトルト食品（カレー）【実習】【レポート】	
11	海藻類の加工：ところてん【実習】【レポート】	
12	乳類の加工：ソフトクリーム【実習】【レポート】	
13	自主テーマによる食品製造実習【実習】【レポート】	
14	発表【プレゼンテーション】	
15	総まとめ【相互評価】	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	説明を聞き、適切に実習がなされているか評価する。	実習態度	30	安全面に配慮しながら主体的に取り組んでいるかを評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1.毎授業前に授業予定の部分を読んでくる 2.授業終了後、その単元全体を復習する （50分）	質問については、授業終了時またはメール等で対応する。 レポートは次の授業時に返却する。

受講生に望むこと	講義の内容を定着させるために、教科書を繰り返し読んでほしい。	教科書・テキスト	適宜プリントを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	食品衛生学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	榎本　俊樹						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
実験を通じて、食品の安全性を確保するための原理を理解するとともに、食品の安全と密接に関与する食品中の化学物質、アレルゲン及び微生物（細菌）、さらには食品の安全に寄与する添加物について、その取り扱い方、検出方法、同定や定量方法などの基本的な技術を修得することを目的とする。	①食品の安全性を評価するための手法を説明できる。 ②無菌操作を経験し、微生物の取り扱い手法及び検出法の技術を使うことができる。 ③生活環境には食品の安全性を脅かす様々なリスクが存在することを理解し、食品の安全を判断できる。

教授方法	実験及び講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験に関する注意事項、レポートの書き方などについての説明	
2	簡易測定キットによる水道水の水質検査	
3	過酸化物価測定による油脂の劣化評価	
4	コンウェイ微量拡散法による食品中の揮発性塩基窒素量の測定（実験）	
5	コンウェイ微量拡散法による食品中の揮発性塩基窒素量の測定（実験及び計算）	
6	ELISA法を用いた食品中のアレルゲンの測定（抽出）	
7	ELISA法を用いた食品中のアレルゲンの測定（検出）	
8	比色法による食品中のヒスタミン含量の測定	
9	食品中の一般生菌数及び大腸菌群の測定（培養）	
10	食品中の一般生菌数及び大腸菌群の測定（コロニー数の測定）	
11	薄層クロマトグラフィーによる食品中の合成着色料の同定（実験）	
12	薄層クロマトグラフィーによる食品中の合成着色料の同定（実験及び同定）	
13	比色法による食品添加物（合成保存料）の測定（抽出）	
14	比色法による食品添加物（合成保存料）の測定（定量）	
15	ATPふき取り法による適切な手洗い方法と手洗い効果の確認	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	80	適切に実験がなされているか、科学的な考察がなされているか、実験レポートとしての体裁が整っているかなどを評価する。	期末試験	20	実験に関連した食品衛生に係る専門知識の理解を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前に実験テキストを読み、内容を把握しておくこと。	レポートは示された期日までに提出すること。

受講生に望むこと	実験は危険を伴うこともあるので、遅刻せず、説明をすべて聞いたうえで実験を行うこと。	教科書・テキスト	作成したテキスト。
指定図書／参考書等	なし／食品衛生学実験　杉山章、岸本満、和泉秀彦　編　みらい 2016年　　ISBN 978-4-86015-396-0	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
調理は献立作成から始まり、適切な食品を選び、それに調理操作を行って、美味しい食べ物に仕上げ、盛り付けし喫食するまでが対象になる。管理栄養士には、食材に関する知識や調理技術を身につけ、健全で安全な食生活を実践、管理する能力が求められる。そのため本授業では、調理の際の衛生管理、食材の調理特性と扱い方および加熱調理、非加熱調理などの調理操作の原理など基本的な調理技術の習得を目標に、日本料理、西洋料理、中国料理の代表的な料理を取り上げて実習を進める。	①基礎的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②基本的な切り方などは、一定の水準に達すること（適度なスピードで正しい包丁の使い方が出来る）。 ③日常的に利用する食材の使い方を習得する。 ④栄養面、安全面、嗜好面を考慮し調理することができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理の概要：調理の目的・実習の心得を理解する。	
2	食材の切り方・計量の仕方：野菜の基本的な切り方、計量の仕方を学ぶ。	
3	日本料理：炊飯・すまし汁（混合出し）・卵の調理・浸し：炊飯とその理論、だし汁のとり方、卵の扱い方、青菜の茹で方を学ぶ。	
4	日本料理：味付け飯・酢の物（二杯酢）・煮物・味噌汁：炊き込みご飯の副材料の使い方、酢の物の合わせ酢の比率、煮物の調理比率の計算、味噌汁の調理を学ぶ。	
5	日本料理：味付け飯・炒り煮・即席漬・フルーツ白玉：味付け飯の調理比率と留意点、炒り煮の留意点、漬物の原理、もち米粉の調理を学ぶ。	
6	西洋料理：魚の蒸し料理・ソース・サラダ・冷菓：魚の蒸し料理の留意点、基本のソース（ホワイトソース）、ゼラチンの調理性を学ぶ。	
7	日本料理：煮魚：酢の物（三杯酢）・卵の調理（蒸し物）・柏餅：煮魚の方法、三杯酢の調味、卵の蒸し物の留意点、うるち米粉の調理を学ぶ。	
8	日本料理：煮魚・酢の物（酢味噌和え）・潮汁：魚の三枚おろし、魚の酢締めの理論と方法、魚介類の旨味について学ぶ。	
9	西洋料理：ソース・挽肉料理・魚介のマリネ：基本のソース（トマトソース）、挽肉調理の留意点、イカの扱い方、マリネの方法について学ぶ。	
10	日本調理：揚げ物（天ぷら）・あんかけ料理：揚げ物の理論と調理、あんかけ料理の調理について学ぶ。	
11	日本料理：焼き物・麺類：魚の姿焼きの留意点、麺類の扱い方を学ぶ。	
12	西洋料理：フライ料理・スープ・冷菓：フライの留意点、野菜の旨味を生かしたスープの調理、コーンスターチの糊化について学ぶ。	
13	中国料理：炒菜・溜菜・桧菜・点心：中国料理の炒め物、あんかけ料理について学ぶ。	
14	中国料理：焼菜・桧菜・炒菜・点心：中国料理の煮しめ料理、薄くず料理について学ぶ。	
15	中国料理：湯菜・拌菜・点心：中国料理の和え物、スープ、点心について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況	実技試験	50	調理操作の習熟度を評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習前にテキストで予習し、調理の段取りを把握する。（30分） ②実習内容をまとめる。	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①調理前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む ②食材に関心を持ち、出回り時期や価格に注意する。 ③常に計量する習慣をつける ④実習で行った料理の復習をする。	教科書・テキスト	本学で作成したテキストを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「調理学実習Ⅰ」で習得した食材の調理特性を生かした取り扱い方や基本的な調理技術を土台に、日本料理、西洋料理、中国料理の代表的な料理や季節の献立や行事食などについて実習を行い、食事様式や食文化など、より広く調理学について学習する。応用的、発展的な実習を通して、調理の知識・技術を高め、食品の調理性、調理操作（炒める、煮る、蒸す、揚げるなど）、栄養バランス、喫食者の嗜好、食文化に配慮して、献立作成および調理する力を習得する。	①基礎的なものに加え、応用的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 ②多様な調理器具の使い方を会得する。 ③日常的に利用する食材に加え、特殊食材の使い方を習得する。 ④理論と実技を関連させて理解し、実践できる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	日本料理：すし・寄せもの・わらびもち：すし飯の調理、でんぷん（わらび粉）の糊化について学ぶ。	
2	西洋料理：チャウダー・ピカタ・クッキー：貝の調理、豚肉の調理、クッキーの留意点について学ぶ。	
3	日本料理：蒸しもの調理、酢の物（胡麻酢和え）・羊羹：赤飯、茶碗蒸しの調理を通して、蒸し物の原理と材料による才を理解する。またゲル化材料としての寒天の調理性を理解する。	
4	西洋料理：カレー・ムニエル・サラダ：カレーのルーの特徴、ムニエルの調理、サラダの留意点について学ぶ。	
5	日本料理：味付け飯、炊き合せ、和え物（白和え）：栗、蓮根など季節の食材の調理を理解する。	
6	西洋料理：スパゲティ・フリッター・サラダ：パスタの扱い方、ミートソースの調理、フリッターと天ぷらとの違いについて学ぶ。	
7	日本料理：おでん：おでんの調理、季節の食材を利用した合理的な調理方法を学ぶ。	
8	西洋料理：包み焼き・スクランブルエッグ・ポタージュ：包みや焼きの留意点、スクランブルエッグ、ポタージュの調理について学ぶ。	
9	中国料理：炒菜・焼菜・点心：牛肉、豚肉、魚介類を生かした中国料理の手法を学ぶ。	
10	日本料理：刺身・粕汁・田楽・だし巻き卵：さしみの基本を学ぶ。	
11	西洋料理：デコレーションケーキ：スポンジケーキの膨化原理を理解し、調理する。各自デコレーションを工夫する。	
12	日本料理：正月料理：おせち料理の意義を理解し、その調理法を知る。	
13	西洋・ロシア料理：ボルシチ・コキール・シュークリーム：ロシア料理を体験する。シュークリームの膨化原理を理解し調理する。	
14	中華料理：溜菜・拷菜・拌菜・点心：鯵の三枚おろしの技術を習得する。	
15	日本料理：鍋料理：寄せ鍋の特徴と調理法を学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況	実技試験	50	調理操作の習熟度を評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①実習前にテキストで予習し、調理の段取りを把握する。（30分） ②実習内容をまとめる。	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①調理前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。 ②食材の出回り時期や価格に関心を持つ。 ③常に計量する習慣をつける。 ④実習で行った料理の復習をする。	教科書・テキスト	本学で作成したテキストを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	調理学実習Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	俵　万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「調理学実習Ⅰ」および「調理学実習Ⅱ」で習得した知識・技術を土台に、調理科学実験や災害時の食事、郷土料理、コース料理等の実習を行う。調理科学実験では調理操作過程における諸現象について理解し、科学的、合理的に調理を行う力を身につける。調理実習では、調理の理解を深めるとともに、多様な喫食者の栄養状態や要望、環境に応じ、衛生管理、安全、栄養バランス、嗜好性に配慮しながら、幅広い視野で食事の提供ができる実践力を身につける。	①食材の調理特性を科学的な視点で理解できる ②喫食者や環境の状況に応じ、食事提供するための知識を習得する ③郷土料理を知り、その調理法を習得する

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理科学実験：小麦粉の膨化を理解する。	
2	災害時の食事：ポリ袋調理を体験し、災害時に必要な食事支援について考えるきっかけとする。	
3	調理科学実験：揚げ物における吸油率の測定方法や調理法による吸油率の違いを理解する。	
4	3・１・2弁当箱法：3・1・2弁当箱法の理論を学び、実践する。	
5	味覚に関する実験：味覚の閾値測定、味の相互作用、官能評価（順位法による嗜好検査等）について理解する。	
6	介護食：介護食に適した食材の調理法について学ぶ。	
7	パン・ジャム：果実類の加工、パン生地の膨化について学ぶ。	
8	エコクッキング：環境に負担をかけない調理法について考えるきっかけとする。	
9	電子レンジ料理：電子レンジを活用した調理法について学ぶ。	
10	郷土料理1：祭礼献立（押し寿司など）、供応食（じぶ煮など）の調理を学ぶ。	
11	郷土料理2：いわしの団子汁、イカ飯など総菜的な郷土食を学ぶ。	
12	会席献立1：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。	
13	会席献立2：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。	
14	正餐コース1：正餐のテーブルセットをマナーについて学ぶ。	
15	正餐コース2：ステーキの焼成の要点について学ぶ。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や実習レポートの記載状況	課題	50	質的量的に適切であるかを評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」で学んだ知識を生かせるよう復習しておく（30分） ②実習内容をまとめる	レポートは学期内にコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	学んだ内容をより深く理解し、実践に生かせるよう、家庭でも実践することを望む。	教科書・テキスト	本学で作成したテキストを使用する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	基礎栄養学実験			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
栄養とは、生命を維持して活動するために、必要な物質（栄養素）を体外から摂取して活用し、不要なものを排出する一連の流れのことである。本授業では基礎栄養学での栄養と栄養素の関わりの学びをもとに栄養素の役割への理解を深めることをねらいに、栄養素別の性質や消化について実験を通して学ぶ。また、行動時間調査からエネルギー消費量を推定し、基礎代謝量や推定エネルギー必要量、身体活動レベルを算出し、食事量と体格との関係なども含めて、栄養素等の摂取から消費までの概念に理解を深める。	1.課題内容を理解し、安全に配慮して行うことができる。 2.各テーマの実験目的および手順を理解し、正しく実験を行うことができる。 3.得られた結果を客観的かつ適正に考察することができる。

教授方法	実験
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実験ガイダンス（基礎栄養学実験の目的と概要を理解している。実験室の使い方、実験器具の取り扱い方を理解している。）	
2	エネルギー代謝の実験①　体組成測定	
3	エネルギー代謝の実験②　体組成測定	
4	糖質の実験①：糖質の判定	
5	糖質の講義	
6	糖質の実験②③：でんぷん、アミラーゼ	
7	たんぱく質の講義	
8	たんぱく質の実験①②：カゼイン、濃度定量	
9	エネルギー代謝の実験③　体組成測定	
10	たんぱく質の実験③④：消化、アミノ酸	
11	脂質の講義	
12	脂質の実験①②：溶解性、乳化	
13	授業のまとめ①：三大栄養素についてまとめる	
14	エネルギー代謝の実験④：体組成測定	
15	授業のまとめ（2）：三大栄養素についてまとめるを発表	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	80	必要事項を適正にまとめ、提出期限までに提出しているか	授業参加姿勢	20	メンバーと協力しながら積極的に取り組んでいるか

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前学習：教科書、資料を読み、実験内容を把握する（30分）。 ②事後学習：授業内容を振り返り、要点を整理する。授業時間内に終わらなかったことは次の授業までに完了しておく（60分）。	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	各回の実験に丁寧に取り組み、また日常生活においても食品や栄養に興味関心を持つことを心がけて下さい。	教科書・テキスト	『基礎栄養学実験』木元幸一・鈴木和春編著,建帛社,2009年,ISBN978-4-7679-0383-5
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、「応用栄養学Ⅰ」の学修をふまえ、ライフステージに応じた栄養管理を実践するために、ライフステージ別食事摂取基準の要点、成長・発達、加齢に関する概念と加齢に伴う身体的変化・精神的変化について学ぶ。さらに、妊娠・授乳期、新生児・乳児期、幼児期、学童期から思春期にいたるまでの成長期について各ステージの生理的・身体的特徴、栄養アセスメント、疾患と栄養との関連を取り上げ、それに対応した栄養管理の特徴を学ぶ。	①成長・発達、加齢に関する概念を説明できる。 ②妊娠期～思春期までの各ライフステージの生理的・身体的特徴、疾患と栄養との関連、それに対応した栄養管理の特徴について理解し、説明できる。

教授方法	講義
履修条件	管理栄養士・食品衛生管理者及び食品衛生監視員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	成長、発達、加齢、ライフサイクルの概念	
2	妊娠期の生理的特徴	
3	妊娠期の栄養アセスメントと栄養ケア	
4	授乳期女性の生理的特徴	
5	授乳期女性の栄養アセスメントと栄養ケア	
6	新生児期・乳児期の生理的特徴	
7	新生児期・乳児期の栄養上の課題	
8	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア	
9	幼児期の生理的特徴	
10	幼児期の栄養上の課題	
11	幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	
12	学童期の生理的特徴	
13	学童期の栄養アセスメントと栄養ケア	
14	思春期の栄養上の課題	
15	思春期の栄養アセスメントと栄養ケア	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	課題レポート	20	課題への取組とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②授業終了後、その単元全体を復習する。［90分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	①他の学科目と関連させながら勉強してほしい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと	教科書・テキスト	『応用栄養学』第3版（栄養科学イラストレイテッド）栢下 淳、 上西 一弘 編集 羊土社 2025年2月 ISBN-13：978-4758113793
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「応用栄養学Ⅱ」に続き、成人期、更年期、高齢期の生理的・身体的特徴、疾患と栄養、それに対応した栄養管理の特徴について学ぶ。特に成人期・更年期に特徴的な食生活、食習慣、生活習慣と生活習慣病との関連を取り上げ、高齢期は今日的な課題である低栄養、フレイル等の問題を取り上げる。また、身体活動時のエネルギー代謝や生理的特徴、栄養ケアを学ぶ。さらに、ストレス応答と代謝の特徴や特殊環境下での栄養ケア、災害時の栄養ケアも取り上げる。	①成人期から高齢期までのライフステージ毎の生理的・身体的特徴、疾患と栄養、それに対応した栄養管理の特徴について理解し、説明できる。 ②運動時の栄養管理の特徴を説明できる。 ③ストレス・特殊環境下での栄養ケアを説明できる。 ④災害時の栄養ケアを理解できる。”

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	加齢、老化の生理	
2	成人期の生理的特徴	
3	成人期の栄養上の課題	
4	成人期の栄養アセスメントと栄養ケア	
5	更年期の生理的特徴	
6	更年期の栄養アセスメントと栄養ケア	
7	高齢期の生理的特徴	
8	高齢期の栄養上の課題	
9	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア	
10	健康増進と運動	
11	運動時の生理的変化の特徴とエネルギー代謝	
12	運動と栄養ケア	
13	特殊環境と栄養ケア	
14	ストレスと栄養ケア	
15	災害時の栄養ケア	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率	授業参加意欲	10	授業への参加意欲
課題レポート	20	課題への取組とまとめ方			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②授業終了後、その単元全体を復習する。［90分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	①他の学科目と関連させながら勉強してほしい ②健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと”	教科書・テキスト	『応用栄養学』第3版（栄養科学イラストレイテッド）栢下 淳、 上西 一弘　編集　羊土社　2025年2月 ISBN-13：978-4758113793
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
応用栄養学で学んだ知識を基に、妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期の各ライフステージの生理的・身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理の一連の流れについて、演習や実習を通して習得することを目的とする。対象者の栄養状態を評価および判定し、食事計画、食品構成、献立の立案を行う。さらに調理、栄養評価の実施を行い、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について理解を深め、実践的な技術、知識を身につける。	①妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期における特性と問題点を理解し、それに応じた栄養管理ができるようになる。 ②対象者の身体状況、栄養状態を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。 ③各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。”

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス:栄養ケア・マネジメントの概要、目的、方法について理解する。	
2	妊娠期の栄養管理１：妊娠期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
3	妊娠期の栄養管理２：妊娠期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
4	妊娠期の栄養管理３：妊娠期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
5	授乳期の栄養管理１：授乳期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
6	授乳期の栄養管理２：授乳期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
7	授乳期の栄養管理３：授乳期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
8	乳児期の栄養管理１：乳児期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
9	乳児期の栄養管理２：乳児期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
10	乳児期の栄養管理３：調乳の方法や離乳食の進め方について調理実習を通して理解する。	
11	乳児期の栄養管理４：離乳食の進め方や留意点について調理実習を通して理解する。	
12	幼児期の栄養管理１：幼児期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
13	幼児期の栄養管理２：幼児期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
14	幼児期の栄養管理３：幼児期（3歳未満児）の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
15	幼児期の栄養管理４：幼児期（3歳以上児）の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
献立演習	40	各ライフステージの特性に応じた献立を立てる。	授業参加意欲	20	受講態度、調理実習中の取り組み。
実習レポート	40	テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書等を参考にして記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①「応用栄養学Ⅰ」および「応用栄養学実習Ⅱ」で学んだ知識を生かせるよう復習しておく ②レポートをまとめ、1週間以内に提出する。”	レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する

受講生に望むこと	①実習の目的と内容を十分に理解して授業に臨むこと。 ②提出物は期限までに必ず提出すること。”	教科書・テキスト	『スタンダード人間栄養学『これからの応用栄養学演習・実習』第2版,渡邊早苗・宮崎由子編,朝倉書店,2025年,ISBN978-4254610703
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	応用栄養学実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
応用栄養学で学んだ知識を基に、学童期、思春期、成人期・更年期、高齢期の各ライフステージの生理的・身体的特徴、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理の一連の流れについて、演習や実習を通して習得することを目的とする。対象者の栄養状態を評価および判定し、食事計画、食品構成、献立の立案を行う。さらに調理、栄養評価の実施を行い、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について理解を深め、実践的な技術、知識を身につける。	①学童期、思春期、成人期・更年期、高齢期における特性と問題点を理解し、それに応じた栄養管理ができるようになる。 ②対象者の身体状況、栄養状態を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。 ③各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	学童期の栄養管理１：学童期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
2	学童期の栄養管理２：学童期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
3	学童期の栄養管理３：学童期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
4	思春期の栄養管理１：思春期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
5	思春期の栄養管理２：思春期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
6	思春期の栄養管理３：思春期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
7	成人期の栄養管理１：成人期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
8	成人期の栄養管理２：成人期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
9	成人期の栄養管理３：成人期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
10	高齢期の栄養管理１：高齢期の特性と栄養ケアのあり方について理解する。	
11	高齢期の栄養管理２：高齢期の症例（事例）について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
12	高齢期の栄養管理３：高齢期の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
13	スポーツ選手の栄養管理１：スポーツ選手の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	
14	スポーツ選手の栄養管理２：スポーツ選手について栄養ケア計画を作成し、食品構成・献立作成のプロセスを演習する。	
15	スポーツ選手の栄養管理３：スポーツ選手の食事の特徴や留意点を調理実習を通して理解する。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
献立演習	40	各ライフステージの特性に応じた献立を立てる。	実習レポート	40	テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書等を参考にして記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。
授業参加意欲	20	受講態度、調理実習中の取り組み。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①毎授業前に授業予定の部分を熟読する。［60分］ ②レポートをまとめ、期日までに提出する。［60分］	レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。

受講生に望むこと	①実習の目的と内容を十分に理解して授業に臨むこと。 ②提出物は期限までに必ず提出すること。	教科書・テキスト	『スタンダード人間栄養学『これからの応用栄養学演習・実習』第2版,渡邊早苗・宮崎由子編,朝倉書店,2025年,ISBN978-4254610703
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	笠原　賀子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育マネジメントの必要性を理解し、個人および集団を対象とした栄養教育プログラムについて学修する。特に、栄養教育マネジメントにおけるPDCAサイクル（アセスメント・計画・実施・評価・改善）の一連のプロセスを実践的に展開、応用できるようにする。 また、栄養教育を実施するにあたっての新しい視点についても学修する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	・栄養教育マネジメントの必要性について理解する。 ・栄養教育マネジメントにおけるPDCAサイクルの一連のプロセスについて説明できる。 ・栄養教育を実施するにあたっての、新しい視点について理解する。

教授方法	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
履修条件	「栄養教育論Ⅰ」の単位を修得済の者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、「栄養教育論Ⅰ」の振り返り、集団と個人を対象とした栄養教育 （さまざまな対象者に応じた栄養教育マネジメントについて理解する）	
2	集団を対象とした栄養教育①　栄養教育マネジメント（PDCA）とその必要性 （栄養教育マネジメントの必要性について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
3	集団を対象とした栄養教育②　プリシード・プロシードモデルとその応用 （プリシード・プロシードモデルについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
4	集団を対象とした栄養教育③　アセスメント、計画（目標設定）と評価 （栄養教育マネジメントについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
5	集団を対象とした栄養教育④　実施と方法、改善、報告 （栄養教育マネジメントについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
6	特定保健指導におけるPDCAの実際　ゲスト （現場の実践から、特定保健指導における栄養教育マネジメントについて理解する）	
7	栄養教育の新しい視点①　楽しい栄養教育の構想 （エビデンスに基づいた楽しい栄養教育の方法について理解し、栄養教育に応用することができるようになる）	
8	集団を対象とした栄養教育⑤　学習形態と教材 （さまざまな対象者や場面に応じた学習形態や教材について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
9	学校食育におけるPDCAの実際（学校食育における栄養教育マネジメントについて理解する）	
10	集団を対象とした栄養教育プログラムの検討①（事例をもとに、栄養教育プログラムを構築することができるようになる）	
11	集団を対象とした栄養教育プログラムの検討②（事例をもとに、栄養教育プログラムを構築することができるようになる）	
12	栄養教育の新しい視点②　味覚教育（味覚教育について理解し、栄養教育に応用することができるようになる）	
13	個人を対象とした栄養教育　栄養管理プロセスNutrition Care Process（NCP）とその必要性、栄養状態の判定と介入、モニタリング（栄養管理プロセスについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	
14	個人を対象とした栄養教育プログラムの検討 （事例をもとに、NCPを活用した栄養教育プログラムを構築することができるようになる）	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。	レポート	30	提出期限を順守しているか。授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。
主体的態度	10	主体的に授業に参加できたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習（30分）：該当範囲の関連する内容について調べ、まとめておく。 事後学習（90分）：授業内容を振り返り、要点を整理する。レポートをまとめる。 ※基本的に、レポートは毎回実施。〆切厳守のこと。	課題等の説明は、随時、行う。 質問はメールで、件名は「栄教Ⅱ」とする ML： kasahara_yoshiko@std.hokurikugakuin.ac.jp

受講生に望むこと	・栄養教育を実施するにあたってはPDCAサイクルに則って、成果を明確に示すことが何よりも重要であることを認識すること。やりっぱなしはダメ！	教科書・テキスト	・『管理栄養士講座　栄養教育論　第3版』中村丁次・外山健二・笠原賀子編著,建帛社,2020 ・『管理栄養士・栄養士必携』公益社団法人　日本栄養士会，第一出版 ・その他、適宜、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・ゲストの都合等により、授業の順番が変わることがある。 ・Chromebookを持参する必要がある場合は、事前に連絡する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	笠原　賀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
生涯を通じた健康づくりには、ライフサイクルに応じた栄養教育が必要である。それぞれの特徴を把握して、「栄養教育論Ⅱで学んだ」PDCAサイクル（計画立案・実施・評価・改善）に基づいた栄養教育を行う際のポイントについて、実践と結び付けながら学修する。さらに、対象者に応じた栄養教育を実施するために、「栄養教育論Ⅰ」で学んだ行動科学の理論やモデル、行動変容技法を活用する方法についても学びを深める。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	・ライフサイクル別栄養教育の特徴を説明できる。 ・対象者に応じた栄養教育の内容や方法について説明できる。 ・PDCAサイクルに則った栄養教育を実施することができ、その際、行動科学の理論を応用することができる。

教授方法	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
履修条件	「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、ライフサイクル別栄養教育におけるPDCA（プログラムの計画・実施・評価・改善の概念と特徴） （ライフサイクル別の栄養教育におけるPDCAの概念と特徴ついて理解する）	
2	妊婦・授乳期・乳幼児期における栄養教育の展開 （妊婦・授乳期・乳幼児期の栄養教育の特徴について理解する）	
3	乳幼児期における栄養教育の実践例　ゲスト （現場の実践から乳幼児期の栄養教育について理解し、実践することができるようになる）	
4	学童・思春期・青年期における栄養教育の展開 （学童・思春期・青年期の栄養教育の特徴について理解する））	
5	学童・思春期・青年期における栄養教育の実践例　ゲスト （現場の実践から学校における食育について理解し、実践することができるようになる）	
6	学童・思春期・青年期における栄養教育の実践例　ゲスト （現場の実践から摂食障害における栄養教育について理解する）	
7	成人期・中壮年期における栄養教育の展開 （成人期・中壮年期の栄養教育の特徴について理解する）	
8	災害時における栄養教育の実践例　ゲスト （現場の実践から災害時における栄養教育について理解し、実践することができるようになる）	
9	傷病者に対する栄養教育の実践例 （現場の実践から傷病者の栄養教育について理解し、実践することができるようになる）	
10	病院給食と栄養管理の連携をめざした栄養教育の展開と実践例　ゲスト （現場の実践から病院における栄養教育について理解し、実践することができるようになる）	
11	高齢期における栄養教育の展開 （高齢期の栄養教育の特徴について理解する）	
12	高齢期における栄養教育の実践例　ゲスト （現場の実践から高齢期の栄養教育について理解し、実践することができるようになる）	
13	ライフサイクル別栄養教育プログラム① （それぞれの対象者に応じた栄養教育プログラムを立案することができるようになる）	
14	ライフサイクル別栄養教育プログラム② （さまざまな対象者に応じた栄養教育プログラムを立案することができるようになる）	
15	まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。	レポート	30	提出期限を順守しているか。授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。
主体的態度	10	主体的に授業に参加できたか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習（30分）：該当範囲の関連する内容について調べ、まとめておく。 事後学習（90分）：授業内容を振り返り、要点を整理する。レポートをまとめる。 ※基本的に、レポートは毎回実施。〆切厳守のこと。	課題等の説明は、随時、行う。 質問はメールで、件名は「栄教Ⅲ」とする。 ML: kasahara_yoshiko@std.hokurikugakuin.ac.jp

受講生に望むこと	・他科目（特に、応用栄養学）の基礎的な学修を実践につなげられるよう、関連づけて学ぶこと。 ・身近にいる、それぞれのライフスタイルの対象者を観察し、栄養教育に活かすこと。	教科書・テキスト	・『管理栄養士講座　栄養教育論　第3版』中村丁次・外山健二・笠原賀子編著,建帛社,2020 ・『管理栄養士・栄養士必携』公益社団法人　日本栄養士会，第一出版 ・その他、適宜、資料を配布する
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・ゲストの都合等により、授業の順番が変わることがある。 ・Chromebookを持参する必要がある場合は、事前に連絡する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	笠原　賀子・三田　陽子　（代表教員　笠原　賀子）						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
”管理栄養士の職務は、「人」を対象として、人々が望ましい食行動や生活習慣へと自発的に変容することを支援し、協働して歩むものである。対象者と豊かなコミュニケーションを構築することが不可欠であるため、本実習ではカウンセリング、コーチング、動機づけ面接法、認知行動療法の基礎理論を学修するとともに、動機づけ面接法を中心としたロールプレイを通して、個々の対象者に応じた、きめ細かな対応ができるスキルを身につける。 また、職務を円滑に遂行するための他職種との連携に必要なコミュニケーションのとり方についても学修する。” ※SDGs目標番号3、4関連科目	・栄養教育におけるコミュニケーションの大切さについて理解する。 ・栄養教育を実施する際に必要なカウンセリング、コーチング、動機づけ面接法、認知行動療法について説明できる。 ・対象者に寄り添った動機づけ面接法ができるようになる。

教授方法	・対面とMeetのハイブリッド　・ロールプレイ、グループワーク、ディスカッション
履修条件	「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」の単位を修得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、自己の振り返りと気づき （自己のコミュニケーションスタイルに気づき、栄養教育に応用できるようになる）	全員
2	コミュニケーション理論（カウンセリング、コーチング、動機づけ面接法、認知行動療法等） （さまざまなコミュニケーション理論について理解する）	全員
3	動機づけ面接法（MI）の定義と特徴（動機づけ面接法について理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
4	動機づけ面接法のスキル①　質問（質問のスキルについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
5	動機づけ面接法のスキル②　聞き返し（聞き返しのスキルについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
6	動機づけ面接法のスキル③　聞き返しと要約（聞き返しと要約のスキルについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
7	動機づけ面接法のスキル④　是認：自分の強みの発見と是認 （是認のスキルについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
8	タイプ（ソーシャルスタイル）別コミュニケーション （タイプ別コミュニケーションについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
9	動機づけ面接法のスキル⑤　情報交換（情報交換のスキルについて理解し、栄養教育に応用できるようになる）	全員
10	動機づけ面接法のコーディング（動機づけ面接法の評価手法であるコーディングについて理解し、バージョンアップを図る）	全員
11	食を通して伝える：食の演出、魅せる企画と管理栄養士の役割　ゲスト （食を通したコミュニケーションの方法と必要性について理解する）	全員
12	ケーススタディ①　面接記録による振り返り（対象者に応じた栄養カウンセリングが実践できるようになる）	全員
13	ケーススタディ②　面接記録による振り返り（対象者に応じた栄養カウンセリングが実践できるようになる）	全員
14	リフレーミング：対象者と管理栄養士の立場にたって考える　（対象者に寄り添った栄養カウンセリングができるようになる）	全員
15	まとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	提出期限を順守しているか。授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。	主体的態度	30	実習に主体的に取り組んでいるか、グループのメンバーと協調できているか。グループに貢献しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習（30分）：該当範囲の関連する内容について調べ、まとめておく。 事後学習（90分）：授業内容を振り返り、要点を整理する。レポートをまとめる。 ※基本的に、レポートは毎回実施。〆切厳守のこと。	課題等の説明は、随時、行う。 質問は、メールを含め随時受けつける。件名は「栄教実習Ⅰ」とする。 ML：kasahara_yoshiko@std.hokurikugakuin.ac.jp

受講生に望むこと	・ロールプレイに主体的に取り組むこと。遅刻厳禁。 ・積極的に発言したり、質問をすること。 ・栄養教育に不可欠な信頼関係と豊かなコミュニケーションの構築を常に意識し、本実習で得たスキルを日常生活で実践すること。	教科書・テキスト	・『管理栄養士講座　栄養教育論　第3版』 中村丁次・外山健二・笠原賀子編著,建帛社,2020, ISBN978-4-7679-0669-0 ・『管理栄養士・栄養士必携』公益社団法人　日本栄養士会 ,ISBN9784804114712 ・その他、適宜、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／『栄養カウンセリング論』赤松利恵･永井成美著、化学同人、2015年、ISBN：978-4-7598-161-43	その他・特記事項	・ゲストの都合により実習の順番が変わることがある。 ・Chromebookを持参する必要がある場合は、事前に　連絡する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	栄養教育論実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	笠原　賀子・三田　陽子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教育は、さまざまな対象者の健康増進やQOLの向上のために、行動科学の理論やカウンセリング技法を駆使して、マネジメントサイクルに則り実施するものである。本実習では、「栄養教育論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育論Ⅲ」の学修内容を基礎として、各ライフサイクル別に、栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする方法や技術を、実習を通して学修する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	・ライフスタイイル別の栄養教育マネジメントについて説明できる。 ・学修したさまざまな知識を、実際の栄養教育プログラムに活かすことができる。

教授方法	実践的な実習（模擬授業、調理デモ）、グループワーク、ディスカッション
履修条件	「栄養教育論Ⅲ」の単位を取得済の者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション、「栄養教育論Ⅲ」の振り返り（「栄養教育論Ⅲ」の内容を整理して、理解する）	全員
2	栄養教育の基礎技術：書き方、話し方、コミュニケーション技術 （栄養教育を実施するにあたって必要なさまざまな基礎技術を習得する）	全員
3	ライフサイクル別栄養教育の基礎②食事調査・質問票の作成とまとめ方 （的確に情報を得、それをうまく伝える方法について理解する）	全員
4	ライフサイクル別栄養教育のプログラムの計画・立案・教材及び献立作成の検討① （ライフサイクル別の特徴を理解し、栄養教育プログラムを立案することができるようになる）	全員
5	ライフサイクル別栄養教育のプログラムの計画・立案・教材及び献立作成の検討② （ライフサイクル別の特徴を理解し、栄養教育プログラムを立案することができるようになる）	全員
6	ライフサイクル別栄養教育のプログラムの計画・立案・教材及び献立作成の検討③ （ライフサイクル別の特徴を理解し、栄養教育プログラムを立案することができるようになる）	全員
7	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）① （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
8	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）② （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
9	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）③ （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
10	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）④ （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
11	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）⑤ （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
12	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）⑥ （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
13	ライフサイクル別栄養教育の実施（模擬授業と調理デモ）⑦ （立案した栄養教育プログラムを用いて、栄養教育を行うことができるようになる）	全員
14	ライフサイクル別栄養教育の報告（報告の意味を理解し、次回の栄養教育を改善するための視点を修得する）	全員
15	まとめ	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	70	提出期限を順守しているか。授業内容を理解し、学習のねらいを達成できているか。	主体的態度	30	実習に主体的に取り組んでいるか、グループのメンバーと協調できているか。グループに貢献しているか。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習（30分）：該当範囲の関連する内容について調べ、まとめておく。 事後学習（90分）：授業内容を振り返り、要点を整理する。レポートをまとめる。 ※基本的に、レポートは毎回実施。〆切厳守のこと。	課題等の説明は、随時、行う。 質問は、メールを含め随時受けつける。件名は「栄教実習Ⅱ」とする。 ML：kasahara_yoshiko@std.hokurikugakuin.ac.jp

受講生に望むこと	・既修の学びを総動員して、対象者の行動変容を支援する栄養教育を実施すること。 ・身近に居る、それぞれのライフスタイルの対象者をイメージし、栄養教育に活かすこと。 ・栄養学の基礎理論と食事を関連付けることを意識すること。	教科書・テキスト	・『管理栄養士講座　栄養教育論　第3版』 中村丁次・外山健二・笠原賀子編著,建帛社,2020, ISBN978-4-7679-0669-0 ・『管理栄養士・栄養士必携』公益社団法人　日本栄養士会 ,ISBN9784804114712 ・その他、適宜、資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	・Chromebookを持参する必要がある場合は、事前に連絡する。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨床栄養学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「解剖生理学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅰ」などで学んだ知識に基づき、各疾病と栄養状態との関係を理解し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するために基礎知識を学習する。栄養管理を必要とする主要疾病の発症機序および病態生理を概説し、食事療法の意義とその内容を解説する。 医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、各疾病と栄養状態との関係を理解し、疾傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画と栄養処方を修得することを目標とする。	医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、各疾病と栄養状態との関係を理解し、疾傷病者に適切な栄養管理を行うために必要な栄養計画と栄養処方を修得することを目標とする。 ①疾病の治療状況から栄養スクリーニングツールが利用できる。 ②栄養スクリーニングから栄養評価が把握できる。 ③疾病・身体状況に対応した栄養補給方法を説明できる。 ④栄養評価に基づき、栄養介入計画を栄養計画書が作成できる。 ⑤各疾病の病態や栄養状態の特徴を概説できる。 ⑥各疾病の発症機序と栄養障害に基づく、栄養管理が説明できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養代謝・内分泌代謝疾患（糖尿病、高尿酸血症）	
2	栄養代謝・内分泌代謝疾患（脂質異常症、メタボリックシンドローム）	
3	栄養代謝・内分泌代謝疾患（下垂体異常、甲状腺機能障害、副腎疾患）	
4	循環器疾患（高血圧症、動脈硬化症、脳血管障害）	
5	循環器疾患（虚血性心疾患：狭心症・心筋梗塞、心不全）	
6	消化器疾患（口腔疾患、摂食・嚥下障害、胃食道逆流症、胃炎、胃・十二指腸潰瘍）	
7	消化器疾患（過敏性腸症候群、炎症性腸疾患、タンパク漏出性腸症）	
8	消化器疾患（肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆嚢炎、膵炎）	
9	腎疾患（慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法）　尿路系疾患	
10	妊産婦の疾患（妊娠特有の疾患、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病）	
11	外科分野、悪性腫瘍（消化管がん、肝臓・膵臓・肺がん）とターミナルケア	
12	神経・精神疾患（認知症、パーキンソン病、摂食障害、アルコール依存症、精神疾患）	
13	呼吸器系疾患（気管支炎、肺疾患、慢性閉塞性肺疾患）	
14	免疫・アレルギー疾患（食物アレルギー、リウマチ性疾患、免疫不全、皮膚炎）	
15	乳幼児・小児疾患（先天性代謝異常、小児肥満、小児糖尿病）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題評価	20	前回の授業内容に基づく課題の提出
期末試験	70	期末試験における得点に基づいて評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【事前学習】「解剖生理学Ⅰ」「臨床医学・疾病の成り立ち」「生化学Ⅰ・Ⅱ」「基礎栄養学」「臨床栄養学Ⅰ」の学修内容を十分に復習してから講義に臨むこと。（60分） 【事後学習】疾患別、病態別栄養管理を行うために、栄養スクリーニングから栄養評価できるように毎回十分に復習する。（60分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	「臨床栄養学Ⅰ」の栄養評価のための指標を基準に、各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することの理解を目指して学んでほしい。	教科書・テキスト	【教科書】栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　基礎編第３,版本田佳子, 曽根博仁／編：羊土社,2022年, ISBN 9784758113694 栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学　疾患別編　第３版, 本田佳子, 曽根博仁／編：羊土社,2022年, ISBN 9784758113700 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版) ,佐々木雅也(編集) ：南江堂,2024年, ISBN-13978-4524206841
指定図書／参考書等	【指定図書】 日本人の食事摂取基準〈2025年版〉,厚生労働省：第一出版 2025.4.1 【参考書等】 栄養管理プロセス、公益社団法人日本栄養士会編、監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル、公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）	その他・特記事項	臨床栄養学は、医療専門関連学会のガイドラインの改訂により、その栄養管理指針などが変更される。その都度、新しいガイドラインに準じて、授業を進める。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患、症状、合併症、栄養摂取量（投与）身体指標、検査値などにより標準的な栄養養評価による栄養管理を学習する。医療現場では、標準化に属さない個々に状態に応じた栄養評価や実際の症例により栄養管理を学習する。

授業科目名	臨床栄養学Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「臨床栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅱ」「臨床栄養学演習」「臨床栄養学実習Ⅰ」などで学んだ知識を基に、各疾病と栄養面との関係を整理し、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチを実践するための応用力を身につける。栄養管理を必要とする主要疾病の発症機序および病態生理、基礎疾患と合併症による疾患による相互的な食事療法の意義とその内容を整理する。医療チームのスタッフの一員である管理栄養士として、医師、看護師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、その他医療スタッフの治療の方針を相互的に理解し、必要な栄養管理を提案することを目標とする。	①各疾病の病態や栄養状態の特徴を概説できる。 ②各疾病の発症機序と食事療法との関係を説明できる。 ③基礎疾患と合併症による食事療法が提案できる。 ④チーム医療における管理栄養士の立場から、疾病に対する臨床栄養学的なアプローチが提案できる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	医療法に基づいた栄養部門業務、医療施設の食事栄養基準の策定について	
2	医療施設の栄養部門マニュアルについて	
3	医療施設の医療安全対策、感染制御に係わる管理栄養士の責務と業務について	
4	診療報酬制度にチーム医療の参画による治療計画［PFM（Patient Flow Management）、クリニカルパス］について	
5	チーム医療に係わる管理栄養士の役割と栄養部門における管理栄養士の業務について	
6	栄養サポートチーム、褥瘡チームについて	
7	チーム医療による特定集中治療室での早期経腸栄養管理に係わる評価について	
8	周術期（胃・腸切除後）の栄養管理 について	
9	周術期（胃・腸切除後）の栄養管理 について	
10	チーム医療による特定集中治療室での早期経腸栄養管理に係わる評価について	
11	在宅訪問の栄養管理について	
12	在宅訪問の栄養管理について	
13	チーム医療に必要な管理栄養士の認定資格について	
14	診療報酬以外の実費診療における抗加齢医学の栄養管理について	
15	災害時における栄養部門の危機管理体制と管理栄養士の役割について	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題評価	20	前回の授業内容に基づく課題の提出
期末試験	70	期末試験における得点に基づいて評価する			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
【事前学習】「解剖生理学Ⅰ」「生化学Ⅰ」「生化学Ⅱ」「基礎栄養学」「応用栄養学Ⅰ」「応用栄養学Ⅱ」「臨床栄養学Ⅰ」「臨床栄養学Ⅱ」の学修内容を十分に復習してから講義に臨むこと。（60分） 【事後学習】チーム医療における栄養管理ができるように毎回十分に復習する。（60分 ）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	栄養評価のための指標を基準に、各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することを理解し、チーム医療において活用できることを目指して学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズ　新・臨床栄養学竹谷豊・塚原丘美・桑波田雅士・阪上浩編,講談社,2016年,ISBN978-4-06-155384-2 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック,(改訂第3版),佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841
指定図書／参考書等	【指定図書】 日本人の食事摂取基準〈2025年版〉,厚生労働省：第一出版, 2025.4.1 【参考書等】 『栄養管理プロセス,公益社団法人日本栄養士会編』　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 『国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル』,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）	その他・特記事項	臨床栄養学は、医療専門関連学会のガイドラインの改訂により、その栄養管理指針などが変更される。その都度、新しいガイドラインに準じて、授業を進める。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各疾患による身体機能低下に必要な栄養素摂取（投与）量を加減、制限することを理解し、チーム医療のスタッフとの連携を計るために必要な食事・栄養管理の評価、計画、栄養教育などの知識、実際の医療施設のマニュアル用いて、管理栄養士の業務について総合的に学習し、実習に繋げる。

授業科目名	臨床栄養学演習			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
【基礎】臨床栄養管理に必要な各疾患の病態に応じた治療、各治療のガイドラインに準じた食事療法、栄養状態を把握し治療経過に基づく栄養評価、栄養ケアプロセスを用いた栄養管理計画書の作成に至る知識を集約し、理解する。 【応用】病院の運営に係わる栄養部門の一連の業務で、管理栄養士の役割と責務を理解する。なお、病院実習でのチーム医療の医療スタッフの意見や考え方による栄養管理の方針の決め方、適切な栄養サポート、栄養教育（栄養指導）などについては、担当者が現場で実践したことを授業の症例検討に応用する。	1.授業で解説を受けた内容について80％の事項を理解し、回答することができる。 2.臨床栄養学の実践は、病院の栄養部門の総合的な業務運用の一部である。現状の医療法に合わせた病院システムの中で患者情報を集約化し、各部門へのオーダーが指示し、それらの一部の情報を栄養・給食システムに読み込み、栄養部門全体の業務運用体制を行っている。この一連の病院システムの基礎を習得し、栄養管理の運用を理解し、栄養管理を行うために必要とされる知識及び技術の統合の必要性を理解する。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	医療法に準じた病院栄養士の栄養管理業務、診療報酬制度、 医療保険制度、電子カルテについて	
2	法令に準じた管理栄養士の業務管理：組織運営、各帳票の管理・保存［給食管理・献立表、衛生管理報告書、納品関係等］［栄養管理・栄養指導記録等］、特定給食施設栄養管等報告書作成、監視時の準備と当日の対応等	
3	栄養補給法（ 経腸栄養法、静脈栄養法：末梢静脈栄養法（PPN）・中心静脈栄養法（TPN）、経口摂取法：食形態　普通食・全粥食・5分粥食・3分粥食・流動食・とろみ食）	
4	栄養補助食品、低たんぱく質調整食品、嚥下調整食品、濃厚流動食品、治療食宅配など利用方法	
5	医療施設の食事栄養基準（一般食と特別食）の指針、治療に適合した食事	
6	病院食の献立作成をする場合の基本と基準（普通食・全粥食・5分粥食・3分粥食・流動食）	
7	学会の役割と学会が示すガイドラインについて 日本糖尿病学会　治療ガイドラインに準じた糖尿病食（エネルギーコントロール食）と食品交換表について	
8	糖尿病食（エネルギーコントロール食）の献立作成と食品交換表（単位）による表分類と単位配分について	
9	日本高血圧学会のガイドラインに準じた塩分制限食の献立作成、普通食と塩分制限食の基本について	
10	日本腎臓病学会 CKD 診療ガイドラインに準じた腎不全食（低たんぱく質コントロール）献立作成	
11	日本摂食嚥下リハビリテーション学会　嚥下調整食分類に準じた嚥下機能調整食　献立作成について	
12	法令による危機管理と栄養部門の危機管理マニュアル：院内（機器停止）及び院外（災害・停電）緊急対策の給食対応、備蓄食品・備蓄飲料水の長期保管	
13	危機管理：各疾患の備蓄食品による3日分献立作成と価格（糖尿病食、腎臓病食、嚥下機能調整食など）	
14	栄養管理記録：POS方式問題志向型システム（POS）［基礎情報・問題・栄養計画・経過記録・退院］	
15	例対応：外来・糖尿病 →　入院・糖尿病/糖尿病性腎症　クリニカルパス、入院栄養管理計画書の作成	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題の達成度(給食管理)	20	食事摂取基準、治療食指針、献立作成などについて理解できたか総合的に評価する
課題の達成度(栄養管理)	20	栄養評価、栄養記録、栄養管理計画などについて理解できたか総合的に評価する	定期試験	50	期末テストにおける得点に基づいて評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
「臨床栄養学」「応用栄養学」「解剖生理学」「食事計画論」「調理学実習」「給食経営管理論」「栄養教育論」について十分に復習し、授業に臨むこと。（60分） 医療施設は医療法に基づき、栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されていることを念頭に置き、実務をイメージし、授業に取り組むこと。（60分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	法令に準じた医療施設、介護施設の病院管理栄養士の業務をイメージし、ベッドサイドの栄養管理を行うための基本的知識や技術の習得を目指してほしい。 チーム医療のスタッフとして、各疾患の基本的な栄養管理を説明でき、コミニュケーション力と対応力を身につけてほしい。 災害によるライフラインが停止した場合を想定した備蓄食品の確保と栄養部門の危機管理マニュアルの基本を身につけてほしい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学実習 実践に役立つ技術と工夫』中村丁次／監，栢下淳，植下啓子，北岡陽男／編：羊土社，2022年，ISBN9784758113717 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版,日本糖尿病学会編,文光堂,2013年,ISBN978-4830660467 糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践昔,日本糖尿病学会（編集）：文堂,2015年,ISBN-13978-4830660474 腎臓病食品交換表9版,黒川清監修,医歯薬出版,2016年,ISBN978-4-263-70674-9 カーボカウントの手ひき,日本糖尿病学会（著）：文光堂,2017,ISBN-13978-4830660641 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841 日本人の食事摂取基準〈2025年版〉,厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	【参考書等】 栄養管理プロセス,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）	その他・特記事項	CP室：栄養算出ソフトによる食事栄養摂取量の演習をする。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）が確認できるまでの、実務の基本を演習を通して、学習する。

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
【基礎】傷病者の病態に応じた治療、薬剤の服用、臨床症候および栄養状態の評価に基づいて、適切な栄養管理を行うための臨床栄養管理の基礎を学習する。栄養管理に必要な院内食事栄養基準、食種、主食形態、献立、栄養補助食品、栄養指導媒体などの基本的な業務の関連を習得し、チーム医療のスタッフの一員として、連携することを学習する。 【応用】病院医療システムによる電子カルテ、栄養・給食システムの標準的な運用、給食タイムスケジュール、栄養管理画面、情報収集画面など、栄養部門のIT実務を運用するための知識を習得する。	1.授業で解説を受けた内容について80％の事項を理解し、回答することができる。 2.臨床栄養学の実践は、病院の栄養部門の総合的な業務運用の一部である。現状の医療法に合わせた病院食に関連する治療食指針である院内食事栄養基準を策定することが基本である。 現在では、病院医療システムIT化が進展しているため、その電子カルテシステム、栄養部門システムの基本運用を習得する。また患者情報、医療スタッフの診療の情報を集約する手段の基礎知識を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習の概要説明 医療法、病院組織と栄養部門、管理栄養士・栄養士の管理する業務（事務・給食・栄養管理等）診療報酬の理解	
2	病院食の分類：栄養委員会の設置、院内食事栄養基準の作成、食事摂取基準、給与目標量、献立作成前準備	
3	基本作業1：調理システム、出食数、作業人員、厨房機器の種類、食器の種類・数量、職員教育システムなど	
4	基本作業2：主食の種類・量・水分量、塩分、飲料の種類、食器種類、料理の種類、食品材料費など	
5	献立作成1：普通食（常食）基本献立作成　栄養素エネルギー比率、栄養素量、栄養補助食品、食材費	
6	献立作成2：常食から各治療食への展開、特別食：栄養成分別管理による各治療食の分類、検査食	
7	献立作成3：全粥、5分粥、3分粥、重湯、嚥下調整食学会分類、胃腸疾患、消化器系術後食、化学療法対応食、口内炎食、対応食などへの検査食（ヨード制限食、注腸食など）	
8	献立作成4：胃腸疾患、消化器系術後食、化学療法対応食、口内炎食、対応食などへの検査食（注腸食など）	
9	献立作成5：エネルギーコントロール食、塩分制限食：糖尿病食、高血圧食、循環器疾患、貧血食などへの展開	
10	献立作成6：エネルギーコントロール食　　糖尿病食品交換表を用いた実習	
11	献立作成7：たんぱく質コントロール食：慢性腎臓病、末期腎不全、肝疾患などへの展開	
12	献立作成8：たんぱく質コントロール食　腎臓病食品交換表、糖尿病腎症交換表を用いた実習	
13	調整粉ミルク、特殊ミルク、離乳食、幼児食、食物アレルギー食などへの展開	
14	栄養管理：栄養投与（静脈、経腸、経口）、栄養剤（食品、薬剤）、輸液製剤	
15	経腸栄養剤　天然濃厚流動食/人工濃厚流動食　①半消化態栄養剤　②消化態栄養剤　③成分栄養剤	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題の達成度(給食管理)	20	食事摂取基準、治療食指針、献立作成などについて理解できたか総合的に評価する
課題の達成度(栄養管理)	20	栄養評価、栄養記録、栄養管理計画などについて理解できたか総合的に評価する	定期試験	50	期末テストにおける得点に基づいて評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
「臨床栄養学」「応用栄養学」「解剖生理学」「食事計画論」「調理学実習」「給食経営管理論」「栄養教育論」について十分に復習し、授業に臨むこと。（60分） 医療施設は医療法に基づき、栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されていることを念頭に置き、実務をイメージし、授業に取り組むこと。（60分）	次回の授業時に、添削し、返却する。 課題の理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を配布する。

受講生に望むこと	法令に準じた医療施設、介護施設の病院管理栄養士の業務をイメージし、ベッドサイドの栄養管理を行うための基本的知識や技術の習得を目指してほしい。 チーム医療のスタッフとして、各疾患の基本的な栄養管理を説明でき、コミニュケーション力と対応力を身につけてほしい。 災害によるライフラインが停止した場合を想定した備蓄食品の確保と栄養部門の危機管理マニュアルの基本を身につけてほしい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学実習実践に役立つ技術と工夫,中村丁次／監，栢下　淳・松下啓子・北岡陸男／編：羊土社,2022年,ISBN9784758113717 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版,日本糖尿病学会編,文光堂,2013年,ISBN978-4830660467 糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例とその実践,日本糖尿病学会（編集）：文光堂,2015年,ISBN-13978-4830660474 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版),佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841 日本人の食事摂取基準〈2025年版〉,厚生労働省：第一出版，2025.4.1
指定図書／参考書等	【指定図書】 社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 【参考図書】 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル、,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1） 栄養と料理,月刊誌（雑誌）,監修：女子栄養大学出版部 調理のためのベーシックデータ第6版』,女子栄養大学短期大学部調理学研究室女子栄養大学出版部,2022年,ISBN-13978-4789503259	その他・特記事項	CP室：栄養算出ソフトによる食事栄養摂取量の演習をする。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
基礎】臨床栄養学は、単なる病態の栄養管理を学習するのではなく、病院システムに関わる栄養部門の運用と診療報酬に準ずる業務などに管理栄養士が責務を担う役割を総合的に行うことを学習する。 【応用】病院システムの管理栄養士の業務を総合的に理解し、実務に関わることを実習で体験し、学習する。 ①食事栄養基準を策定　②医師の食事オーダ③栄養指導予オーダ④電子カルテ：入院診療計画書　⑤電子カルテ：栄養管理計画書　⑥電子カルテ：栄養記録カルテ　⑦栄養サポートチーム画面　など	1.授業で解説を受けた内容について80％の事項を理解し、回答することができる。 2.病院医療システムIT化が進展し、その電子カルテシステム、栄養部門システムの基本運用を習得し、患者情報、医療スタッフの診療の情報を集約する手段の基礎知識を習得したことを、実際の病院システムに準じた患者情報画面から情報を共有し、栄養管理業務に必要な情報を集約する知識を習得する。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	病院医療システムⅠ　電子カルテシステムと栄養・給食システム用いた栄養部門の標準的な運用	
2	病院医療システムⅡ　電子カルテシステムと栄養・給食システムの入力画面、出力帳票など	
3	基本作業1：調理システム、出食数、作業人員、厨房機器の種類、食器の種類・数量、職員教育システムなど	
4	基本作業2：主食の種類・量・水分量、塩分、飲料の種類、食器種類、料理の種類、食品材料費など	
5	献立作成1：普通食（常食）基本献立作成　栄養素エネルギー比率、栄養素量、栄養補助食品、食材費	
6	献立作成2：常食から各治療食への展開、特別食：栄養成分別管理による各治療食の分類、検査食	
7	献立作成3：全粥、5分粥、3分粥、重湯、嚥下調整食学会分類、胃腸疾患、消化器系術後食、化学療法対応食、口内炎食、対応食などへの検査食（ヨード制限食、注腸食など）	
8	献立作成4：胃腸疾患、消化器系術後食、化学療法対応食、口内炎食、対応食などへの検査食（注腸食など）	
9	献立作成5：エネルギーコントロール食、塩分制限食：糖尿病食、高血圧食、循環器疾患、貧血食などへの展開	
10	献立作成6：エネルギーコントロール食　　糖尿病食品交換表を用いた実習	
11	献立作成7：たんぱく質コントロール食：慢性腎臓病、末期腎不全、肝疾患などへの展開	
12	献立作成8：たんぱく質コントロール食　腎臓病食品交換表、糖尿病腎症交換表を用いた実習	
13	調整粉ミルク、特殊ミルク、離乳食、幼児食、食物アレルギー食などへの展開	
14	栄養管理：栄養投与（静脈、経腸、経口）、栄養剤（食品、薬剤）、輸液製剤	
15	経腸栄養剤　天然濃厚流動食/人工濃厚流動食　①半消化態栄養剤　②消化態栄養剤　③成分栄養剤	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加意欲	10	授業の取り組み、態度、姿勢について評価する	課題の達成度(給食管理)	20	食事摂取基準、治療食指針、献立作成などについて理解できたか総合的に評価する
課題の達成度(栄養管理)	20	栄養評価、栄養記録、栄養管理計画などについて理解できたか総合的に評価する	定期試験	50	期末テストにおける得点に基づいて評価する

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
臨床栄養学、応用栄養学、解剖生理学、食事計画論、調理学実習、給食経営管理論、栄養教育論、臨地実習について学習、復習すること。（60分） 医療施設は医療法に基づき、栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されていることを念頭に置き、実務をイメージし、授業に取り組み、学習すること。（60分）	課題の回答、理解度が低い場合には、講義の冒頭で解説し、または学習用資料を返信する。

受講生に望むこと	法令に準じた医療施設、介護施設の病院管理栄養士の業務をイメージし、ベッドサイドの栄養管理を行うための基本的知識や技術の習得を目指してほしい。 チーム医療のスタッフとして、各疾患の基本的な栄養管理を説明でき、コミニュケーション力と対応力を身につけてほしい。 災害によるライフラインが停止した場合を想定した備蓄食品の確保と栄養部門の危機管理マニュアルの基本を身につけてほしい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学実習実践に役立つ技術と工夫,中村丁次／監，栢下　淳・松下啓子・北岡陸男／編：羊土社,2022年,ISBN9784758113717 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版,日本糖尿病学会編,文光堂,2013年,ISBN978-4830660467 糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例とその実践晉,日本糖尿病学会（編集）：文堂,2015年,ISBN-13978-4830660474 腎臓病食品交換表9版,黒川清監修,医歯薬出版,2016年,ISBN978-4-263-70674-9 カーボカウントの手ひき,日本糖尿病学会(著),文光堂,2017, ISBN-13978-4830660641 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)」,佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524206841 日本人の食事摂取基準〈2025年版〉,厚生労働省：第一出版, 2025.4.1
指定図書／参考書等	【参考書等】 栄養管理プロセス,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版, ISBN978-4-8041-1270-1 栄養と料理,月刊誌（雑誌）,監修：女子栄養大学出版部 調理のためのベーシックデータ第6版,女子栄養大学短期大学部調理学研究室女子栄養大学出版部,2022年,ISBN-13978-4789503259	その他・特記事項	CP室：栄養算出ソフトによる食事栄養摂取量の演習をする。

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療施設は医療法に基づき、栄養部門では栄養管理業務と給食管理業務の相互が運営されている。栄養部門の業務が適正に行われ、業務の結果を帳票で保存され、教科書には記載されていない、実際の厚労省の医療監視における管理栄養士の対応、役割を学習する。

授業科目名	公衆栄養学Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	長井　直子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養学の概念に基づき、地域社会の健康・栄養問題及び関連要因の把握、分析を行い、健康・栄養施策の計画立案、実践、評価、フィードバックまでの一連の公衆栄養マネジメントに必要な理論を学ぶ。 さらに栄養疫学や各種食事調査法を学び、公衆栄養活動として展開されているプログラム事例を理解するとともに、栄養行政での管理栄養士の役割、疫学手法を用いた地域診断と、地域診断に基づく健康づくり計画の概要を通して実際の計画を考察する。	1.生活習慣病などの健康問題と食事、運動等の因果関係を検討する方法などについて理解する。 2.授業内での課題について自主学習を行い、地域診断に基づく模擬的な健康づくり計画の作成を試みる。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養疫学の概要（目的、意義、役割）、栄養疫学の指標、方法（基本的概要、論文の読み方、論文レビューの分類）	
2	疫学研究の分類（観察研究、介入研究など記述疫学、横断研究、生態学的研究、症例対照研究、コホート研究） 暴露情報と食事摂取量	
3	栄養疫学における食事調査法（24時間食事思い出し法、食事記録法、秤量法、食物摂取頻度調査法、陰膳法） 食事摂取量の評価方法（食事調査と食事摂取基準）	
4	食事摂取量の評価方法（データーの処理と解析）	
5	公衆栄養マネジメントの定義、対象、過程（プリシード・プロシードモデルとヘルスプロモーション）	
6	公衆栄養アセスメントの目的と方法（地域診断と食事摂取基準）	
7	公衆栄養プログラムの目標設定（改善課題の抽出）	
8	公衆栄養プログラムの評価の方法と実際（社会資源と住民参加）	
9	地域特性に対応したプログラムの展開①　健康づくり、食育推進	
10	地域特性に対応したプログラムの展開②　地域包括ケアシステム、介護予防	
11	地域特性に対応したプログラムの展開③　健康・食生活の危機管理と食支援	
12	地域特性に対応したプログラムの展開④　食環境づくり、健康な食事、栄養成分表示	
13	地域集団の特性別プログラムの展開①　母子保健、健やか親子21、思春期・青年期、成人期（若年、壮年、中年期）	
14	地域集団の特性別プログラムの展開②　高齢者、障害者、生活習慣病ハイリスク者	
15	栄養疫学、地域診断、特性別公衆栄養プログラム展開のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	栄養疫学の重要性を理解し、様々な公衆栄養活動のプロセス及びプログラムの展開を考察することができる。	課題レポート	30	課題内容を理解し適切にまとめる。提出期限を守る。
授業参加意欲	20	学習への取り組み姿勢			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前予習：教科書予習をして授業に臨む。 ②事後学習：学習内容を確認ながら、資料整理やレポート作成に取り組む。	課題レポートは解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・他科目との関連を意識しながら学ぶ。 ・配付資料やレポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	『基礎から身につく公衆栄養学』逸見幾代編著 同文書院　2024年　ISBN978-4-8103-1525-7
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。

授業科目名	公衆栄養学実習			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	三田　陽子・長井　直子　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では「公衆栄養学Ⅰ」「公衆栄養学Ⅱ」での学習内容を踏まえ、地域や職域等の集団を対象に公衆栄養活動をするための公衆栄養マネジメント法を修得することを目指す。地域社会における健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報収集・分析の方法、ニーズに応じた課題分析・地域診断の方法、課題解決策としての公衆栄養プログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法をグループでの演習や実習を通して学ぶ。	1.公衆栄養マネジメントを行うための知識や手法を理解し、演習課題を通して実践できる。 2.事業計画等について、適切に提示することができる。

教授方法	実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション　公衆栄養学実習の目的と概要、進め方、グループワーク・フィールドワークの心得	全員
2	公衆栄養プログラム実践のための基礎演習　①地域の情報（関連する機関・組織）の収集、グループワーク、調査対象の選定、調査計画	全員
3	公衆栄養プログラム実践のための基礎演習　②地域への直接的支援（健康・栄養相談）、間接的支援（住民参加とネットワーク）の理解、グループワーク、調査票・課題分析の作成	全員
4	公衆栄養プログラム実践のための基礎演習　③地域の食環境整備の取組の調査、グループワーク、調査票・課題分析の作成、災害時に想定される課題の収集、居住地のハザードマップや地域防災計画の調査	全員
5	公衆栄養アセスメントの実際①　地域診断の方法、既存資料の活用、グループワーク、地域の基本データの収集	全員
6	公衆栄養アセスメントの実際②　地域の社会調査（量的調査）の検討、グループワーク、調査の枠組みの作成、調査票（健康・食生活アンケート）の作成	全員
7	公衆栄養アセスメントの実際③　地域の社会調査（質的調査）の検討、グループワーク、インタビューガイド（シナリオ）作成、インタビューの実践（住民役と管理栄養士役）	全員
8	公衆栄養アセスメントの実際④　地域の食事調査（栄養摂取状況調査）の実践、グループワーク、調査データの作成（計算）	全員
9	公衆栄養アセスメントの実際⑤　地域の食事調査の分析、グループワーク、食事摂取基準を用いた結果の評価	全員
10	公衆栄養アセスメントの実際⑥　地域の健康・栄養アセスメントの実際、グループワーク、アセスメント表の作成	全員
11	公衆栄養プログラムの目標設定　目標設定の手順、グループワーク、目標設定表・目標関連図の作成	全員
12	公衆栄養プログラムの計画策定　事業計画の策定方法、各自で集団を対象とした事業（食育、生活習慣病予防、介護予防）計画の作成	全員
13	公衆栄養プログラムの評価　健康増進計画と事業計画の評価、各自の事業計画の評価表作成	全員
14	公衆栄養プログラムの評価　事業計画作成に必要な知識、グループワーク、事業計画の評価と改善の検討	全員
15	公衆栄養活動の実際　計画の立案と取組、多職種連携のマネジメントサイクル	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート（公衆栄養プログラム）	50	公衆栄養活動のための情報収集、課題分析、健康・栄養施策の計画立案ができる。	課題レポート（食事調査）	40	食事調査に関する知識および技能を修得する。
授業参加意欲	10	積極的に課題に取り組む。 グループワークでは発言しやすい雰囲気作りに協力しながら前向きに参加する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①事前予習：教科書予習をして授業に臨む。 ②事後学習：学習内容を確認ながら、資料整理やレポート作成に取り組む。	課題レポートは解答例を添えて随時返却する。

受講生に望むこと	・他科目との関連を意識しながら学ぶ。 ・配付資料やレポートはファイリングして復習に役立てる。 ・日頃から健康・栄養に関する情報に関心を持つ。	教科書・テキスト	『公衆栄養学実習（第三版）』手嶋哲子・田中久子編著 同文書院　2022年　ISBN978-4-8103-1516-5
指定図書／参考書等	なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

長井：自治体勤務管理栄養士として経験した実務内容を各授業の解説に加えて理解を深める。

授業科目名	給食経営管理論Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要

管理栄養士は、保健、医療、介護、福祉、教育など多様な分野で高度な専門知識と技能が求められる。給食運営や関連の資源(食品流通や食品開発の状況、給食にかかわる組織や経費等)を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養うことをねらいとし、経営管理や人事管理、財務会計管理の理論を給食に応用展開しながら学ぶ。
また、災害対策や事故対策、各種給食施設(病院・学校・児童福祉施設・事業所・高齢者・介護施設等)の特徴と経営の実際についても学ぶことで、給食経営をする上で必要とされる専門分野の知識・技能を身に付ける。

※SDGs目標番号4、12関連科目

授業の到達目標

①栄養面からだけでなく経営としての視点で給食管理をとらえ、給食を運営する組織や経営資源を総合的に判断し、給食管理のトータルマネジメントについて説明できる。
②財務諸表についての概要と損益分岐点分析の手法が理解できる。　③マーケティングのプロセスについて理解でき、様々な給食経営の場面でマーケティングミックスを応用できる。
④各種給食施設として、食中毒を含む事故や災害が起こった場合に備え必要な対策が理解できる。
⑤各給食施設の特徴を理解し、給食計画に必要な情報、分析について説明できる。

⑥経営の概略を理解し、社会貢献という側面から管理栄養士として求められる業務について考えることができる。
⑦管理栄養士としての職業倫理を遵守し，対象および多職種とのコミュニケーションの必要性を説明できる。

教授方法	講義
履修条件	「給食経営管理論Ⅰ」を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	給食施設ごとの栄養計画・献立計画の特徴について学ぶ	
2	給食におけるHACCPシステムの重要性ついて学ぶ	
3	危機管理とリスク管理について学ぶ	
4	給食とマーケティングについて学ぶ	
5	給食施設の組織について学ぶ	
6	会計・原価管理について学ぶ	
7	情報管理について学ぶ	
8	各施設における給食経営管理の特徴と要点（1）：児童福祉施設給食について学ぶ	
9	各施設における給食経営管理の特徴と要点（2）：学校給食について学ぶ	
10	各施設における給食経営管理の特徴と要点（3）：事業所給食について学ぶ	
11	各施設における給食経営管理の特徴と要点（4）：医療施設給食(病院給食)について学ぶ	
12	各施設における給食経営管理の特徴と要点（5）：高齢者施設給食、介護保険施設給食について学ぶ	
13	各施設における給食経営管理の特徴と要点（6）：障害者福祉施設給食について学ぶ	
14	各施設における給食経営管理の特徴と要点（7）：その他の給食施設について学ぶ	
15	持続可能な給食経営の組織管理とマネジメントを学ぶ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	60	試験形式で、栄養士・管理栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。	課題	30	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。			

授業外における学習（事前・事後学習等）

①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習すること。［30分］
②課題は、テキスト以外にも資料などを参考にして取組み、知識を定着させる努力をすること。［30分］

課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ

①課題レポートはコメントを入れて返却する。
②授業に関する質問には随時応じる。

受講生に望むこと	臨地実習を意識して、基本的事項を十分に理解し、関連科目とリンクさせ、主体的に学んでほしい。	教科書・テキスト	栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論 第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著,講談社2023年,ISBN978-4-06-14066-6 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』伊藤貞嘉・佐々木敏監修,第一出版,2022年,ISBN978-4-8041-1408-8 『給食経営管理用語辞典 第3版』日本給食経営管理学会監修,第一出版,2020年,ISBN978-4-8041-1420-0 『2024年度版 管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編,第一出版,2022年,ISBN978-4-8041-1471-2
指定図書／参考書等	なし／『給食の運営－栄養管理・経営管理－』逸見幾代,平林眞弓編著,長田早苗他共著,建帛社,ISBN978-4-7679-0663-8	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	給食経営管理実習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「給食経営管理論Ⅰ」を踏まえ、栄養・食事管理、献立作成、食材料管理、生産管理、大量調理の方法、衛生管理、帳票管理など特定給食施設の給食経営管理業務の運営計画から実施・評価までの一連のマネジメントサイクルの流れを学ぶ。本実習では給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことをねらいとし、大量調理の実習を行う。栄養・食事管理、調理作業管理と大量調理施設衛生管理マニュアルに準拠した衛生管理に着目し、内部、外部の評価の実際を体得する。 講義・演習以外はクラスをグループに分けて実習を行う。 ※SDGs目標番号12関連科目	①特定給食施設について説明できる。 ②食事摂取基準を使って給与栄養目標量を設定することができる。 ③食品構成をもとに献立を考えることができる。 ④大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理の重要性が理解できる。 ⑤実習においてコミュニケーションの必要性が理解できる。 ⑥献立管理ソフトを使って献立作成ができる。

教授方法	講義・演習と実習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習オリエンテーションを行う。大量調理における献立計画の基本、献立表の記載方法、栄養計算ソフト（エクセル栄養君）の操作を学ぶ。	
2	大量調理における切り方の練習、機器の取り扱いについて学ぶ。	
3	基本献立実習と献立作成演習A-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
4	基本献立実習と献立作成演習B-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
5	基本献立実習と献立作成演習C-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
6	基本献立実習と献立作成演習D-1（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
7	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。1回目の実習の振り返りをする。献立作成の演習をする。	
8	作業管理、衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP)、諸帳票類（栄養出納表ほか）について再確認する。	
9	基本献立実習と献立作成演習A-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
10	基本献立実習と献立作成演習B-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
11	基本献立実習と献立作成演習C-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
12	基本献立実習と献立作成演習D-2（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。	
13	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。2回目の実習の振り返りをする。	
14	厨房機器（スチームコンベクションの使い方）及び新調理システム、嗜好調査、残量調査について学ぶ。	
15	課題の献立作成の整理。全体の振り返りと発表。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	40	筆記試験の正答率により評価する。	レポート	20	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
課題	30	①献立作成と栄養評価の確認。 ②実習後のレポートの指定期日までの提出。	授業参加態度	10	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。 ③あいさつ、身なりなどの基本的な態度。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①食材の出回り時期や価格について日頃から関心を持つこと。 ②食材を使用する際には、はかりで測ることを心掛け、目安量を把握できるように努力すること。 ③大量調理では、食材を早くていねいに切ることが求められるので、包丁をうまく使えるように繰り返し練習すること。［30分］ ④実習前の準備や持ち物の確認すること、翌日までの課題になります。時間を確保して丁寧に記載すること。［30分］	実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返す。 授業に関する質問には随時応じる。

受講生に望むこと	①グループ作業では役割分担し、常に協力して行う姿勢で取り組むこと。 ②調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行うこと。 ③体調管理し実習に臨むこと。	教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第4版』藤原政嘉編著　（株）みらい　ISBN978-4-86015-343-4 栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社ISBN978-4-065-14066-6 『給食経営管理用語辞典』第3版 日本給食経営管理学会監修　第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携　2023年版』日本栄養士会　第一出版　ISBN978-4-8041-1460-6
指定図書／参考書等	なし／日本人の食事摂取基準[2025年版]　　第一出版	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	給食経営管理実習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「給食経営管理論Ⅰ」「給食経営管理論Ⅱ」「給食経営管理実習Ⅰ」で学んだ知識をもとに計画（plan）、実施（do）、検討（check）、修正のための実行（action）のPDCA サイクルを活用し、給食対象者に適切で、豊かな食事を提供できるように、自主テーマに沿って実習する。 グループ別に計画した給食を学生・教職員等に提供し、栄養教育を実施する。実施後は、個人評価及びグループ評価をすることで管理栄養士として給食経営管理業務全般をマネジメントする実践力を修得する。講義・演習以外は、クラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。 ※SDGs目標番号12関連科目	①給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できる。 ②栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、実践することができる。 ③対象者と環境の条件に応じた給食の食品構成の立案及び期間献立が作成できる。 ④授業で扱った内容について、自主学習によって得た知見や経験を踏まえて考察し、論理的かつ簡潔に自らの所見を表現することができる。

教授方法	講義・演習と実習
履修条件	「給食経営管理実習Ⅰ」を履修済みであること。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	調理作業計画：栄養管理（実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ）を理解する。	
2	調理作業計画：食材管理（食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理）を理解する。	
3	食数管理（発注作業など）、栄養指導媒体作成を行う。	
4	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習A-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
5	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習B-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
6	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習C-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
7	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習D-1（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
8	評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。	
9	食数管理（発注作業など）、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。	
10	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習A-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
11	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習B-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
12	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習C-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
13	自主テーマに基づく大量調理実習、マネジメント演習D-2（検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など）：業務を分担して実習を行う。	
14	評価、振り返り。	
15	グループ発表と相互評価を行う。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	40	試験形式で、管理栄養士として必要な知識が理解できているかを評価する。	レポート	20	①質的量的に適切である。 ②指定期日までの提出。
課題・発表	30	①献立作成と栄養評価の確認。 ②実習後のレポートの指定期日までの提出。 ③発表、相互評価での積極的な姿勢。	授業への参加態度	10	①授業に積極的にかかわる姿勢。 ②授業に向けての準備。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①栄養比率を理解して対象者に合わせた献立作成ができるようにしてください。 ②媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。［30分］ ③実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため丁寧に見やすく書いてください。［30分］ ④実習前の準備や持ち物の確認をしてください。	実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返す。 授業に関する質問には随時応じる。

受講生に望むこと	①グループ作業では役割分担し、常に協力して行う姿勢で取り組むこと。 ②調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行うこと。 ③体調管理し実習に臨むこと。	教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著　（株）みらい　ISBN978-4-86015-343-4 栄養科学シリーズNEXT『給食経営管理論第4版』幸林友男・曽川美佐子他編著　講談社ISBN978-4-065-14066-6 『給食経営管理用語辞典』第3版 日本給食経営管理学会監修　第一出版　ISBN978-4-8041-1420-0 『管理栄養士・栄養士必携　2023年度版』日本栄養士会　第一出版　ISBN978-4-8041-1460-6
指定図書／参考書等	なし／日本人の食事摂取基準[2025年版]　第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献	その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	総合演習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・榎本　俊樹・俵　万里子・中川　明彦・新澤　祥恵　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
本授業では、各臨地実習に向けて、実践活動の場における課題発見(気づき)・問題解決と専門的知識と技術の統合を図るために、これまで学習した専門基礎分野および専門分野の講義内容を応用しながら、実習先に即した研究課題を設定し、課題解決のための方法を習得する。さらに、各臨地実習で得た実践体験を客観的に考察し、自らの学びの課題を明確にし、管理栄養士の役割や栄養管理を行うために必要とされる知識と技術について総合的な理解を深める。	①実習内容や研究課題について適切にまとめることができる。 ②グループで協力して発表準備をし、適切にプレゼンテーションし、相互評価ができる。 ③臨地実習から得た知識やスキルを共有するとともに、専門分野を横断した広い視野で管理栄養士の社会的役割を理解する。

教授方法	演習
履修条件	関連教科の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション：臨地実習及び校外実習の意義と目的、心構え、厨房作業の服装、マナー、事前挨拶など	全員
2	調理学：調理学に関する課題の提示を受け、これまでに学修した内容の確認、知識の整理を行う。	新澤
3	食品衛生学：食品衛生学に関する課題の提示を受け、これまでに学修した内容の確認、知識の整理を行う。	榎本
4	給食経営管理論：給食経営管理論に関する課題の提示を受け、これまでに学修した内容の確認、知識の整理を行う。	田中
5	実習ノートの書き方を学ぶ。	田中・中川
6	事前準備を理解する。挨拶、プロフィール票、礼状の書き方を学ぶ。	田中・中川
7	実習施設の特徴や業務について調べて理解する（1）	田中・中川
8	実習施設の特徴や業務について調べて理解する（2）	田中・中川
9	自主課題の設定と取り組みについて学ぶ。	田中・中川
10	実習期間中に学びたい課題を設定し、実習テーマを決める。	田中・中川
11	実習テーマについて事前学習を行う（1）	田中・中川
12	実習テーマについて事前学習を行う（2）	田中・中川
13	事前あいさつの準備をする。	田中・中川
14	実習施設からの課題に取り組む（1）	田中・中川
15	実習施設からの課題に取り組む（2）	田中・中川
16	実習終了時の対応と実習の自己評価をする	田中・中川
17	実習記録をもとに報告書を作成する	田中・中川
18	報告書をスライドに要約する	田中・中川
19	成果発表の準備・役割分担	田中・中川
20	成果発表の準備（グループ活動）（1）	田中・中川
21	成果発表の準備（グループ活動）（2）	田中・中川
22	成果発表のリハーサル	田中・中川
23	成果発表と評価（1）	田中・中川
24	成果発表と評価（2）	田中・中川
25	成果発表と評価を通して、管理栄養士として求められる資質・能力について理解を深める	田中・中川
26	成果発表と評価を通して、栄養管理の基本と行動変容の理論の実際を学び、考察を深める	田中・中川
27	成果発表と評価を通して、ライフステージ別栄養管理の実際を学び、考察を深める	田中・中川
28	成果発表と評価を通して、病態に応じた栄養管理の実際を学び、考察を深める（1）	田中・中川

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	成果発表と評価を通して、病態に応じた栄養管理の実際を学び、考察を深める（2）	田中・中川
30	成果発表と評価を通して、連携と協働の実際を学び、考察を深める	田中・中川

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習前の提出物	20	①実習施設からの課題及び自主課題を適切にまとめている。 ②指定期日までの提出。	実習後の提出物	50	①実習記録を適切にまとめている。 ②事後レポートを適切にまとめている。 ②指定期日までの提出。
取り組み姿勢	30	①担当教員より出される課題を理解しながら取り組んでいる。 ②自主課題に対して自主的、積極的に取り組んでいる。 ③連絡や報告を適切におこなっている。 ④時間を守って行動できる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①関連科目のテキスト、ノートの内容を確認した上で授業に臨む（60分）。 ②臨地実習の要項を読み、関連法規や実習内容を理解しておく（60分）。 ③実習の目的、課題等をまとめて施設訪問の準備をし、訪問後は内容をまとめておく（60分）。 ④実習報告会の準備や整理をする（60分）。	随時、対応する。

受講生に望むこと	日頃から健康管理を十分行い、体力をつけておくこと。	教科書・テキスト	『六訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・高岸和子編著,建帛社,2025年,ISBN9784767907871 随時、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし／担当教員が必要に応じ指示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

中川：医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療機関における各疾患における各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討する。管理栄養士の業務の基本であり、栄養素の過不足が検査データに反映されるため、栄養算出は大切なであることを理解する。

授業科目名	総合演習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・三田　陽子　（代表教員　田中　弘美）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「総合演習Ⅱ」は、４年次の臨地実習の事前事後指導科目である。臨地実習の教育目標は、実践活動の場における課題発見(気づき)・問題解決と専門的知識と技術の統合を図ることである。総合演習Ⅱでは、専門分野を横断して、栄養評価や様々な管理業務が行える総合的な能力を養う。事前教育では、実習の目的、目標の理解、心構え、準備の徹底、知識の整理、研究課題の設定等を学ぶ。事後教育では、臨地実習終了後、実習内容や研究課題の報告書作成、報告発表会等の実施を通して、学内での学習と実習の成果を結びつけ、栄養管理を行うために必要とされる知識と技術の統合の必要性を理解する。	①臨地実習の意義を理解し、説明できる。 ②履修した学科目を横断的に捉えた上で、実習の目標やねらいを理解する。 ③専門職として職業倫理が説明できる。 ④実習内容や研究課題について適切にまとめることができる。 ⑤グループで協力して発表準備をし、適切にプレゼンテーションし、相互評価ができる。

教授方法	演習
履修条件	「総合演習Ⅰ」の単位を取得している。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	管理栄養士・栄養士の活動状況と役割を学び、臨地実習の目的・意義を理解する。	全員
2	臨地実習施設に関する情報収集を行い、理解を深める。	全員
3	事前あいさつの準備をする。	全員
4	①実習施設からの課題に取り組む。	全員
5	②実習施設からの課題に取り組む。	全員
6	臨地実習施設の対象者に対する知識や技術を理解する。	全員
7	臨地実習施設の対象者に応じた献立作成を行い、応用力を身につける。	全員
8	臨地実習施設の対象者に対して適切なアセスメントができるように確認する。	全員
9	臨地実習施設の給食経営管理について理解する。	全員
10	各自の研究課題についてまとめる。	全員
11	各自の研究課題について、プレゼンテーション手法を検討する。	全員
12	実習終了時の対応と実習の自己評価をする。	全員
13	実習記録をもとに報告書を作成する。	全員
14	報告書をスライドに要約する。	全員
15	成果発表の準備、役割分担	全員
16	成果発表の準備（グループ活動）	全員
17	①成果発表と評価（分野別）	全員
18	②成果発表と評価（テーマ別）	全員
19	臨地実習施設に関する情報収集を行い、理解を深める。	全員
20	事前あいさつの準備をする。	全員
21	事前あいさつの準備をする。	全員
22	臨地実習施設と地域とのかかわりを理解する。	全員
23	臨地実習施設の対象者に対する知識や技術を理解する。	全員
24	各自の研究課題についてまとめる。	全員
25	各自の研究課題について、プレゼンテーション手法を検討する。	全員
26	実習終了時の対応と実習の自己評価をする。	全員
27	実習記録をもとに報告書を作成する。	全員
28	報告書をスライドに要約する。	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	成果発表の準備（グループ活動）	全員
30	③成果発表と評価（総括）	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習前の提出物	30	①実習施設からの課題及び自主課題を適切にまとめている。 ②指定期日までの提出。	実習後の提出物	50	①実習記録を適切にまとめている。 ②事後レポートを適切にまとめている。 ③指定期日までの提出。
取り組み姿勢	20	①課題に対して自主的、積極的に取り組んでいる。 ②チームをリードして進める努力をしている。 ③連絡や報告を適切におこなっている。 ④時間を守って行動できる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①臨地実習の要項を読み、関連法規や実習内容を理解しておく。［60分］ ②実習の目的、課題等をまとめて施設訪問の準備をする。［60分］ ③訪問後は内容をまとめておく。［30分］ ④実習報告会の準備や整理をする。［120分］	随時、対応する。

受講生に望むこと	日頃から健康管理を十分行い、体力をつけておくこと。	教科書・テキスト	『六訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・高岸和子編著,建帛社,2025年,ISBN9784767907871 随時、プリントを配布する。
指定図書／参考書等	なし/なし	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

中川：医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。各献立の栄養算出量において、ビタミン13種類、ミネラル13種類などのが過不足量を評価し、不足する場合、どのような栄養補助食品を利用し、不足量を改善するのかを検討し、食事摂取基準（2025年版 ）と比較し場合、過不足について、統計処理し、その有意差の有無を統計的に評価する作業能力を身に付けることにより、研究、調査が進展する。

授業科目名	臨地実習Ⅰ（給食の運営）			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」は、病院・福祉施設・事業所・学校などの特定給食施設における、給食管理業務に必要な知識及び技能を習得する。また、特定給食施設の実際を通して、栄養面、安全面、経済面全般を配慮した食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識や技術を理解するとともに、給食実務の実際を学ぶ。また、給食現場での課題発見、解決を通して、給食の運営を効率的に行うための生産（調理）管理、それらのシステム構築を実践的、総合的に学ぶ。	①特定給食施設(学校・事業所・福祉施設など)の目的、特性について説明することができる。 ②給食施設においてどのような法律に基づいて給食が提供されているかを説明することができる。 ③献立の作成から栄養・食事管理、給食の提供までの一連の業務の流れを説明することができる。 ④大量調理の特性と留意点が生産(調理)作業にどのように反映されているかを考察することができる。 ⑤衛生管理が給食の現場で具体的にどのように実施されているかを理解することができる。

教授方法	実習
履修条件	関連教科の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先(事前訪問)：実習上の説明および諸注意	実習先管理栄養士
2	実習先：特定給食施設の概要	実習先管理栄養士
3	実習先：特定給食施設における管理栄養士・栄養士業務と役割等	実習先管理栄養士
4	実習先：栄養・食事管理業務	実習先管理栄養士
5	実習先：食材料管理（発注及び検品・検収など）	実習先管理栄養士
6	実習先：生産管理、品質管理（作業管理及び大量調理の特性など）	実習先管理栄養士
7	実習先：施設・設備管理業務	実習先管理栄養士
8	実習先：安全・衛生管理、危機管理等	実習先管理栄養士
9	実習先：事務管理（帳票管理・コンピューターの活用など）	実習先管理栄養士
10	実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計	実習先管理栄養士
11	実習先：栄養教育業務	実習先管理栄養士
12	実習先：栄養アセスメント・ケアプラン等	実習先管理栄養士
13	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
14	実習先：実習課題の発表	実習先管理栄養士
15	実習先：反省会とまとめ	実習先 管理栄養士

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題・実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。給食の運営分野の管理栄養士・栄養士の役割について復習する。［60分］ 栄養士・管理栄養士の役割について復習する。［60分］ 事後学習：栄養士・管理栄養士業務全般を通して課題を発見し、問題の解決策を検討する。［60分］	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習は、栄養士が給食業務を行うのに必要な給食サービスの提供に関する技術を学ぶ実習です。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	『四訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・高岸和子編著,建帛社,2023年,ISBN978-4-7679-0728-4 必要に応じて本学作成資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／給食の運営分野のテキスト	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）			開講学科	栄養	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中　弘美						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）」は、「給食の運営」を基本とし、「給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力」が求められる。マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を経験する場となる。管理栄養士業務全般を通して課題を発見し、問題の解決策を検討することで、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。	①給食経営管理の理論と実践を結びつけて説明できる。 ②給食全般のマネジメントを確認し、説明できる。 ③保健・医療・福祉現場における管理栄養士の主な活動を把握する。 ④専門職としての使命、習得すべき資質・知識・技術を考え、カリキュラムとの関連性を把握する。 ⑤自己の課題を明確にし、目標を設定することができる。

教授方法	実習
履修条件	関連科目の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先：(事前訪問)実習上の説明および諸注意、実習課題・実践テーマへの確認	実習先管理栄養士
2	実習先：特定給食施設における管理栄養士の業務と役割	実習先管理栄養士
3	実習先：栄養部門の給食運営の概要説明	実習先管理栄養士
4	実習先：経営管理に基づいた栄養・食事管理・食材料管理等	実習先管理栄養士
5	実習先：経営管理に基づいた生産管理、品質管理等	実習先管理栄養士
6	実習先：経営管理に基づいた原価管理・人事管理等	実習先管理栄養士
7	実習先：経営管理に基づいた施設・設備管理等	実習先管理栄養士
8	実習先：経営管理に基づいた安全・衛生管理、危機管理等	実習先管理栄養士
9	実習先：給食経営管理システムに関する発表およびディスカッション	実習先管理栄養士
10	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
11	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
12	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
13	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
14	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	実習先管理栄養士
15	実習先：実習課題・実践テーマへの取り組み	田中

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。［60分］給食経営管理論分野の管理栄養士の役割について復習する。［60分］ 事後学習：管理栄養士業務全般を通して課題を発見し、問題の解決策を検討する。［60分］	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習は、医療・福祉・介護システムにおける栄養・給食関連サービスのマネジメントについて学ぶための実習です。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	『四訂 臨地実習ガイドブック』前田佳予子・高岸和子編著,建帛社,2019年,ISBN978-4-7679-0657-7 必要に応じて本学作成資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／給食経営管理論分野のテキスト	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）			開講学科	栄養	必修・選択	選択必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習ⅢA（臨床栄養学分野）」は、臨床栄養分野における管理栄養士の役割および知識と技術について総合的な理解を深める。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能の習得を目的とする。本実習は、学内での授業・実習で学んだ知識技術を再認識し、病院または老人保健施設等の医療提供施設での課題発見、解決の学びを通して、適切な栄養管理を行うために必要とされる知識及び技術の統合を図る。	①病院又は介護老人保健施設における医療倫理を理解し、管理栄養士業務について説明できる。 ②栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、説明できる。 ③入院患者または入居者に対する個別対応や集団での教育を理解し説明できる。 ④各種医療(介護)チームにおける管理栄養士の役割を理解し、説明できる。

教授方法	実習
履修条件	関連科目の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先：(事前訪問)実習上の説明および諸注意、実習課題・実践テーマへの確認	
2	実習先：栄養部門業務の概要、施設見学	
3	実習先：栄養指導やベッドサイド訪問の準備（担当症例の割り振り・把握）	
4	実習先：摂食量調査（担当症例の把握）	
5	実習先：担当症例検討会	
6	実習先：担当症例検討会	
7	実習先：栄養必要量の判定と摂取量調査による栄養評価	
8	実習先：食事オーダーの適正確認	
9	実習先：個人・集団栄養食事指導（指導記録や逐後録の作成実習）	
10	実習先：ベッドサイド訪問（患者とのコミュニケーション実習）	
11	実習先：チーム医療の関わり（NSTや褥瘡対策チーム、病棟カンファレンスの参加など）	
12	実習先：栄養・食事補給、栄養食事指導による評価（カルテによる総合評価の実習）	
13	実習先：摂食量調査のまとめ	
14	実習先：栄養アセスメント報告会（担当症例報告会）	
15	実習先：反省会と実習のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。（60分）臨床栄養学分野の管理栄養士の役割について復習する。（60分）	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習では、チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションの取り方などの実践について学びます。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学実習　実践に役立つ技術と工夫,中村丁次／監，栢下　淳，栢下淳子，北岡陸男／編：羊土社,2022年，ISBN9784758113717 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版)，,佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年，ISBN-13978-4524208841 日本人の食事摂取基準（2025年版），厚生労働省：第一出版，2025.4.1 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版,日本糖尿病学会編,文光堂,2013年,ISBN978-4830660467 糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践,日本糖尿病学会（編集）：文堂,2015年,ISBN-13978-4830660474 腎臓病食品交換表9版,黒川清監修,医歯薬出版,2016年,ISBN978-4-263-70674-9 カーボカウントの手びき,日本糖尿病学会（著）：文光堂,2017，ISBN-13978-4830660641
指定図書／参考書等	【参考書等】 栄養管理プロセス,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）”	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。 全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。

授業科目名	臨地実習ⅢＢ（臨床栄養学分野）			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	中川　明彦						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	管理栄養士・食品衛生管理者・食品衛生監視員				

授業の概要	授業の到達目標
「臨地実習ⅢＢ（臨床栄養学分野）」は、臨床栄養分野における管理栄養士の役割および知識と技術について総合的な理解を深める。実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能の習得を目的とする。本実習は、病院での課題発見、解決の学びを通して、適切な栄養管理を行うために必要とされる知識及び技術の統合を図る。	①病院における医療倫理を理解し、管理栄養士業務について説明できる。 ②栄養アセスメントに基づいた栄養ケアプランの作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解し、説明できる。 ③入院患者に対する個別対応や集団での教育を理解し説明できる。 ④医療チームにおける管理栄養士の役割を理解し、説明できる。

教授方法	実習
履修条件	関連科目の必要単位を履修済みである。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	実習先：(事前訪問)実習上の説明および諸注意、実習課題・実践テーマへの確認	
2	実習先：栄養部門業務の概要、施設見学	
3	実習先：栄養指導やベッドサイド訪問の準備（担当症例の割り振り・把握）	
4	実習先：摂食量調査（担当症例の把握）	
5	実習先：担当症例検討会	
6	実習先：栄養必要量判定と摂取量調査による栄養評価	
7	実習先：食事オーダーの適正確認	
8	実習先：個人・集団栄養食事指導の見学	
9	実習先：個人・集団栄養食事指導（指導記録や逐後録の作成実習）	
10	実習先：ベッドサイド訪問（患者とのコミュニケーション実習）	
11	実習先：チーム医療の関わり（NSTや褥瘡対策チーム、病棟カンファレンスの参加など）	
12	実習先：栄養・食事補給、栄養食事指導による評価（カルテによる総合評価の実習）	
13	実習先：摂食量調査のまとめ	
14	実習先：栄養アセスメント報告会（担当症例報告会）	
15	実習先：反省会と実習のまとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
実習先からの評価	60	実習先担当管理栄養士による評価	事前課題実習記録	30	課題の取り組み状況及び実習記録の内容による評価
基本的マナー	10	服装や言葉遣いなど、実習生としてのマナーが適切であったか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
事前学習：実習先についてホームページ等で調べ、概要や特徴について理解する。（60分）臨床栄養学分野の管理栄養士の役割について復習する。（60分）	提出物は内容を確認し、フィードバックする（必要に応じ再提出を求める）。 実習についての質問には随時対応する。

受講生に望むこと	本実習では、チーム医療の必要性、管理栄養士と他職種との連携、患者とのコミュニケーションの取り方などの実践について学びます。これまでの学習内容をまとめ、実習先で学びたいことを明確にして実習に臨んで下さい。	教科書・テキスト	栄養科学イラストレイテッド　臨床栄養学実習　実践に役立つ技術と工夫,中村丁次／監,栢下　淳,栢下淳子,北岡陸男／編：羊土社,2022年,ISBN9784758113717 メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(改訂第3版),佐々木雅也（編集）：南江堂,2024年,ISBN-13978-4524208841 日本人の食事摂取基準（2025年版）,厚生労働省：第一出版,2025.4.1 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版,日本糖尿病学会編,文光堂,2013年,ISBN978-4830660467 糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編：献立例　とその実践,日本糖尿病学会（編集）：文堂,2015年,ISBN-13978-4830660474 腎臓病食品交換表9版,黒川清監修,医歯薬出版,2016年,ISBN978-4-263-70674-9 カーボカウントの手びき,日本糖尿病学会（著）：文光堂,2017,ISBN-13978-4830660641
指定図書／参考書等	【参考書等】 栄養管理プロセス,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1385-2） 国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル,公益社団法人日本栄養士会編　監修：第一出版（ISBN978-4-8041-1270-1）	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。医療・介護施設の10日間の実習期間において、医療チームの一員である管理栄養士の実務（栄養管理、給食管理、衛生管理など）を確認し、理解することにより、教科書に記載されていない、管理栄養士の集約的な実務と責務を学習する。 全ての患者さんは、両親と想い、心から接することにより手厚い栄養管理ができることを実感することが大切である。

授業科目名	地域の食と健康・環境Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	1年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半：地域の食を加賀と能登という地域性でとらえて理解を深める。まず、特に、歴史的な視点からとらえ、それぞれの地で育まれてきた食文化への理解を深める。次に、各地の特産物を取り上げ、石川県の中での地域による差違と共通性、さらにこれらの健康に与える影響を学びながら、実際の体験による理解に繋げていく。 後半：用意された食育等の体験プログラムより、一つを選んで取り組む。2年生、3年生との協働の取組となる。	①石川県の加賀と能登の食の歴史とその背景を理解する。 ②地域の農畜水産物や様々な加工食品などに理解を深める。 ③上記について説明ができ、体験学習に活かすことができる。 ④体験プログラムへ参加する初心者として、上級生の指導によりプログラム概要を理解しながら活動できる。 ⑤食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う力を養う。

教授方法	演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	新澤
2	加賀と能登の食の歴史1	新澤
3	加賀と能登の食の歴史2	新澤
4	石川の食材に関する講義	新澤
5	石川の食材に関する講義	新澤
6	石川の食材に関する講義	新澤
7	石川の食文化に関する講義	新澤
8	石川の食文化に関する講義	新澤
9	石川の食文化に関する講義	新澤
10	コミュニケーションスキルの関する演習	外部講師
11	コミュニケーションスキルの関する演習	外部講師
12	【体験学習】ガイダンス	全員
13	【体験学習】提示された各プログラム内容の理解と選択を行う	全員
14	【体験学習】コミュニケーションスキルの関する演習	全員
15	【体験学習】選択したテーマについて実施内容を検討する	全員
16	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
17	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
18	【体験学習】予行練習を行う	全員
19	【体験学習】予行練習を行う	全員
20	【体験学習】実施	全員
21	【体験学習】実施	全員
22	【体験学習】実施	全員
23	【体験学習】実施	全員
24	【体験学習】実施	全員
25	【体験学習】実施	全員
26	【体験学習】実施後のまとめと課題の整理	全員
27	【体験学習】発表準備	全員
28	【体験学習】発表準備	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	発表会	全員
30	総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	50	①授業に積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①量的、質的に適切である。 ②提出期限が守られている。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
前半の講義等では、毎回の内容をまとめて理解しておく。(30分) 後半の体験学習では、事前の準備に意欲的に取組む。終了後は発表できるように体験内容をまとめておく。（60分）	記載内容を確認の後、返却する。

受講生に望むこと	体験学習が中心になるので、他者との積極的な関わりに努めること。	教科書・テキスト	特になし。 必要に応じて、手稿の資料を配付。
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて、案内する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域の食と健康・環境Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半：地域の食と健康を理解するため、環境問題との関わりを考える。まず、食品ロスの視点より「エコクッキング」を取り上げ、食料資源や飢餓の問題、格差社会における子どもの貧困についても考えたい。さらに、災害時における対応として、災害食調理を体験し、食料の備蓄についても考えながら、地域から地球規模の問題に展開していきたい。 後半：用意された食育等の体験プログラムより、一つを選んで取組む。1年生、3年生と協働の取り組みとなる。	①食に関わる環境問題として、食品ロスについて問題意識を持ち、自身の生活の中での課題を見いだすことができる。 ②食と貧困の問題に、目を向け、課題解決にあたろうとする。 ③災害時の栄養問題を理解し、対応策を考えることができる。 ④体験プログラムへの参加に際して、上級生として1年次の経験を活かして活動するのみでなく、1年生に対しても適切に指導できる。 ⑤食を通じて地域社会と人々の健康な生活を培う力を養う。

教授方法	演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	全員
2	いしかわの環境問題に関する講義	田中
3	いしかわの環境問題に関する講義	田中
4	体験学習：エコクッキング	田中
5	体験学習：エコクッキング	田中
6	体験学習：エコクッキング	田中
7	体験学習：災害食	外部講師
8	体験学習：災害食	外部講師
9	体験学習：災害食	外部講師
10	コミュニケーションスキルに関する演習	新澤・田中
11	コミュニケーションスキルに関する演習	新澤・田中
12	【体験学習】ガイダンス	全員
13	【体験学習】提示された各プログラム内容の理解と選択を行う	全員
14	【体験学習】選択したテーマについて事前学習、情報交換を行う	全員
15	【体験学習】選択したテーマについて実施内容を検討する	全員
16	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
17	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
18	【体験学習】予行練習を行う	全員
19	【体験学習】予行練習を行う	全員
20	【体験学習】実施	全員
21	【体験学習】実施	全員
22	【体験学習】実施	全員
23	【体験学習】実施	全員
24	【体験学習】実施	全員
25	【体験学習】実施	全員
26	【体験学習】実施後のまとめと課題の整理	全員
27	【体験学習】発表準備	全員
28	【体験学習】発表準備	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	【体験学習】発表会	全員
30	【体験学習】総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	50	①授業に積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前半の講義等では、毎回の内容をまとめて理解しておく（60分）。 ②後半の体験学習では、事前の準備に意欲的に取組む（60分）。 ③終了後は発表できるように体験内容をまとめておく（60分）。	記載内容を確認の後、返却する

受講生に望むこと	体験学習が中心になるので、他者との積極的な関わりに努めること	教科書・テキスト	特になし　必要に応じて、手稿の資料を配付
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて案内する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	地域の食と健康・環境Ⅲ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・田中　弘美・俵　万里子・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
前半：地域の食と健康を理解するため、行政における健康（栄養）施策を学び、地域住民の食に関連する健康問題を様々な視点から取り上げ、地域と人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる高度な専門知識を学び、課題を見いだし、その対策を考える。さらに、各地の特産物を取り上げ、これらの健康に与える影響を学びながら、実際の体験による理解に繋げていく。 後半：用意された食育等の体験プログラムより、一つを選んで取組む。 １年生、２年生と協働の取り組みとなる。	①石川県の健康問題を理解し、地域毎の課題の差違を見つけ出す。 ②地域の農畜水産物や様々な加工食品などに理解を深める。 ③上記について説明ができ、体験学習に活かすことができる。 ④体験学習では、２年間の経験を活かしながら、１・２年生の指導に当たると同時にプログラムの目的に沿った活動ができる。 ⑤地域と人々の健康実現のために積極的に寄与・貢献できる専門知識と実践力を身につける。

教授方法	演習、体験学習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	ガイダンス	全員
2	いしかわの健康推進行政に関する講義１	外部講師
3	いしかわの健康推進行政に関する講義2	外部講師
4	加賀と能登の食品1	全員
5	加賀と能登の食品2	全員
6	加賀と能登の食品3	全員
7	加賀と能登の食品4	全員
8	地域の伝統食に関する実習1	全員
9	地域の伝統食に関する実習2	全員
10	地域の伝統食に関する実習3	全員
11	地域の伝統食に関する実習4	全員
12	【体験学習】ガイダンス	全員
13	【体験学習】提示された各プログラム内容の理解と選択を行う	全員
14	【体験学習】選択したテーマについて事前学習、情報交換を行う	全員
15	【体験学習】選択したテーマについて実施内容を検討する	全員
16	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
17	【体験学習】教材等の準備を行う	全員
18	【体験学習】予行練習を行う	全員
19	【体験学習】予行練習を行う	全員
20	【体験学習】実施	全員
21	【体験学習】実施	全員
22	【体験学習】実施	全員
23	【体験学習】実施	全員
24	【体験学習】実施	全員
25	【体験学習】実施	全員
26	【体験学習】実施後のまとめと課題の整理	全員
27	【体験学習】発表準備	全員
28	【体験学習】発表準備	全員

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
29	【体験学習】発表会	全員
30	【体験学習】総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	50	①授業に積極的に関わる。 ②授業に向けて十分に準備する。	提出課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①前半の講義等では、毎回の内容をまとめて理解しておく。[30分] ②後半の体験学習では、事前の準備に意欲的に取組む。終了後は発表できるように体験内容をまとめておく。	記載内容を確認の後、返却する

受講生に望むこと	体験学習が中心になるので、他者との積極的な関わりに努めること	教科書・テキスト	特になし 必要に応じて、手稿の資料を配付
指定図書／参考書等	なし／必要に応じて案内する	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	健康・栄養総合演習Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・相良　多喜子・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は、栄養と健康に関する専門的知識及び実践力を身につけることを目的としている。これまでの学びと管理栄養士に必要な専門基礎分野と専門分野の内容とも関連させながら、まず、「生命倫理」「健康と栄養」「病気と栄養」「食品と栄養」「調理と栄養」の５分野について、提示された課題に各自取り組む。次に、取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。さらに、グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。これらの取り組みを通して、各分野を関連付けて理解を深める。	管理栄養士課程の専門基礎分野と専門分野等での学びを総体的に理解しながら、自主的に学びを進めることができる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	「生命倫理」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
2	「生命倫理」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
3	「生命倫理」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
4	「健康と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
5	「健康と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
6	「健康と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
7	「病気と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
8	「病気と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
9	「病気と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
10	「食品と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
11	「食品と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
12	「食品と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員
13	「調理と栄養」①各自で提示された課題に取り組む。	全員
14	「調理と栄養」②①で取り組んだ内容をグループ内で評価し合う。	全員
15	「調理と栄養」③グループ内で協議した内容を発表し、相互評価する。	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	30	事前準備を行い、適切にプレゼンテーションできているか	課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている
授業参加状況	20	課題に意欲的に取り組み、積極的に参加しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
紹介されたテキスト等を読む、資料等で調べるなど自主的・積極的に課題を進める。［90分］	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	計画を立て、自身で進捗を確認しながら進めてほしい。	教科書・テキスト	適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／担当者が適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

中川：医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定、国民健康・栄養調査結果により管理栄養士はどのように啓発が必要なのかを理解する。健康になる栄養管理ができる方と栄養教育を受けていない一般の方とは、食習慣や食事バランス（1日に摂取する栄養素）の違いを評価、調査依頼する。　食事調査を行い、摂取するエネルギー量、各栄養素量の過不足を評価する。

授業科目名	健康・栄養総合演習Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	必修
担当教員名	新澤　祥恵・榎本　俊樹・相良　多喜子・田中　弘美・俵　万里子・中川　明彦・中谷　壽男・西　正人・三沢　典彦・三田　陽子　（代表教員　新澤　祥恵）						
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				

授業の概要	授業の到達目標
本科目は栄養と健康に関する専門的知識及び実践力を身につけることを目的としている。「健康・栄養総合演習Ⅰ」での取り組みを活かして、まず自身でテーマを設定し、アセスメントにより課題を抽出し、計画を立てて課題解決に取り組む。次に取り組み内容を発表し、相互評価をする。結果をフィードバックし内容改善に活かし、最終発表につなげ、総括する。これら一連の取り組みを通して、4年間の学びの集大成として知識の統合を図る。	管理栄養士課程の専門基礎分野と専門分野等での学びを総体的に理解しながら、自主的に学びを進めることができる。

教授方法	演習
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	課題設定：提示された資料等を参考に、各自課題を設定する。	全員
2	各自課題に取り組む。	全員
3	各自課題に取り組む。	全員
4	各自課題に取り組む。	全員
5	各自課題に取り組む。	全員
6	中間報告の準備	全員
7	中間報告、相互評価	全員
8	相互評価の内容をフィードバックし、課題を進める。	全員
9	各自課題を進める。	全員
10	各自課題を進める。	全員
11	各自課題を進める。	全員
12	各自課題を進める。	全員
13	最終報告の準備	全員
14	最終報告、相互評価	全員
15	相互評価、双方向評価、総括	全員

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
発表	30	事前準備を行い、適切にプレゼンテーションできているか	課題	50	①量的、質的に適切である ②提出期限が守られている
授業参加状況	20	課題に意欲的に取り組み、積極的に参加しているか			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
紹介されたテキスト等を読む、資料等で調べるなど自主的・積極的に課題を進める。［90分］	質問には適宜対応する。

受講生に望むこと	計画を立て、自身で進捗を確認しながら進めてほしい。	教科書・テキスト	適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし／担当者が適宜紹介する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

中川：医療機関において管理栄養士として勤務した実務経験をもとに授業を行う。厚生労働省の健康日本21・第2次の食事・栄養項目の達成度が低い結果、第3次の目標設定について、国民健康・栄養調査結果、国立がん研究センター、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所による日本の健康・栄養、各学会のガイドラインなどから、日本人に必要な栄養管理と運動指針を集約し、評価することにより、日本人の総合的な健康・栄養指針を検討する。さらに健康度は、個人差があるが、個人の遺伝子検査結果に基づく、疾患のリスク、栄養管理リスクなどを認識　することにできるようになった。　新しい栄養管理については、教科書には反映されていないが、個人レベルの検査として、通販の検査で容易にでき、検査結果は医学的に確立されている。このように常に最先端の栄養管理について、個人へのエイジングケアに移行している背景を学習し、管理栄養士の視野を広げる。

授業科目名	教育学概論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
教育学について基礎的な事柄を理解するため、教育の理念、歴史、思想をテーマとする。そして、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか西洋、中国、日本の教育史を概観し、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて学ぶ。SDGsの観点からは、過去に義務教育の無償制が唱えられ、現在においては公立の高等学校においても無償となっていることを学ぶ。	①教育学とは何か：教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素（子ども・教員・家庭・学校など）とそれらの相互関係を理解している。 ②教育の歴史と制度：学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解している。 ③現代の教育課題：現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 ④教育の思想：家庭や子どもに関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。 ⑤我が国における教育の無償化の歴史的背景を理解し、現代の教育について考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観（教育の意味や歴史を概観するとともに子ども観の類型を知る。）	
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育（人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。）	
3	教育を成り立たせる要素①：発達と教育（ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。）	
4	教育を成り立たせる要素②：社会と人間（教育の場）（子どもの発達に伴う教育の場としての家庭、学校、地域とそれらの関係について理解する。）	
5	教育を成り立たせる要素③：社会と人間に関する思想・理論（教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。）	
6	教育の歴史①：西洋における教育学の歴史（時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）	
7	教育の歴史②：中国における教育学の歴史（古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。）	
8	教育の歴史③：日本における教育学の歴史（時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。）	
9	教育の歴史④：教育を受ける権利の思想（西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。）	
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性（西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。）	
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備（教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。）	
12	教育の理念：人間（個人）の尊厳（日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子どもの成長と教育について考える。）	
13	教育の思想①：市民の育成と平和の創造（世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。）	
14	教育の思想②：代表的な教育家の思想（デューイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。）	
15	学習のまとめ：期末レポート作成（テーマと作成の留意点をもとに作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	教育学の歴史（西洋、中国、日本）に関して理解している。	授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。
定期試験	50	教育学についての知識・理解を有している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業後に指示する「ミニッツコメント」にコメントする。［20分］ ③教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨むようにしてほしい。	教科書・テキスト	『教育学概論 第2版（教師教育テキストシリーズ）』, 三輪定宣著, 学文社, 2019年出版, ISBN978-4-7620-2878-6
指定図書／参考書等	『保育所保育指針』, 厚生労働省, 2017年告示, 『幼稚園教育要領』, 文部科学省, 2017年告示, 『小学校学習指導要領』, 文部科学省, 2017年告示, 『中学校学習指導要領』, 文部科学省, 2017年告示／『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』, 内閣府・文部科学省・厚生労働省, 2017年告示	その他・特記事項	ミニッツコメントはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

”・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、感想を持たせたり全体発表したりしている。
・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それを提示して理解できるようにしている。”

授業科目名	教職論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	中島　賢介・虫明　淑子　（代表教員　中島　賢介）						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭及び栄養教諭の免許状取得に関わる科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日的役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意義を自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本科目では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日的教職観へと変容させることが目指される。教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携のあり方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐことなどについて考える。	1 幼・小・中・高・栄の校種を超えて教職の意義と専門性いついて理解する。 2 教員の職務と服務について理解する。 3 教師をめぐる現状と課題について知る。 4 教師の求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。

教授方法	講義とワークを組み合わせた方法を採用する。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	これからの時代を生きる子どもにとっての教師のあり方についてについて理解する。	虫明
2	子どもの主体的で多様な学びを生み出すための教職者としてあるべき姿について考える。	虫明
3	教育の専門職としての社会的意義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。	虫明
4	教員としての職務の全体像、校務分掌上の職務の全容と各人が分担する分掌を理解する。	中島
5	現代の教育に求められる「資質・能力」とは何かについて幼小接続の観点から理解する。	虫明
6	幼児教育から学校教育へ：幼児教育がなぜ教育の原点であると言われるのか、その理由について考える。	虫明
7	研修の必要性と教員研修制度　研修の意義や重要性等を法規定を通して理解する。	中島
8	教員の義務と身分保障　服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。	中島
9	チーム学校の組織と指導体制　共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。	中島
10	公教育の理念と学習指導要領　公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。	中島
11	教育制度関係法規の理解　教育法規の記載を通して、我が国の教育制度を理解する。	中島
12	我が国の教育制度と課題　現代教育制度が抱える課題を知り、その改善方針を理解する。	中島
13	地域連携と特色ある学校づくり　地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。	中島
14	学校の危機管理と安全教育　安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。	中島
15	これまでの学びを踏まえて、改めて教師の使命について考える。	中島

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度・授業参加状況	50	将来教職に就こうとする者としてふさわしい姿勢で授業に臨んでいる。	課題レポート	50	授業における気付き・発見・学びや討議のまとめと考察（授業内のワーク、自分に対する省察を含む）

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。［30分から60分］ ②園行事や学校公開週間など、保育者・教育者の姿を見ることができる機会を逃さない。［適宜］	当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。

受講生に望むこと	取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境に興味を持つこと。夏休みや春休みの現場体験（幼稚園・放課後等児童クラブその他）を経験していることが望ましい。	教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年　ISBN：9784577814475 『教職論　（ミネルヴァ教職専門シリーズ３）』津田徹・広岡義之　2021年　ISBN：9784623089567
指定図書／参考書等	なし／『小学校学習指導要領解説　総則編』『中学校学習指導要領解説　総則編』『高等学校学習指導要領解説　総則編』	その他・特記事項	各回の授業回に幼児期を中心に虫明、義務教育及び高等学校を中心に石上、中島が担当する。

実務経験を活かした授業の概要

中島：高等学校教諭における教科指導、生徒指導、進路指導に関する経験から教職としての仕事全般を、小学校校長の経験から学校経営全般について、特に安全指導や地域との連携、幼保小中連携接続、教職のキャリア形成などを解説する。
虫明：幼稚園教諭、副園長としての経験等に基づき、実践的な講義を行う。

授業科目名	特別活動の理論と方法			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちにとって楽しい場であることが前提である。この前提となるものの一つが特別活動である。特別活動は学級活動、ホームルーム、児童会活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の領域がある。この領域について学びながら、自己が小中高校生だった頃の活動を思い出し、各領域の活動内容や意義について考える。また、自己が取得を希望している免許種からどのような取組ができるかについても考える。	①教育課程における特別活動の位置づけについて知る。 ②各領域の目標や内容について知る。 ③各領域の活動について自分が児童生徒だった頃のことを思い出しながら、その意義について考えることができる。 ④学校教育における特別活動の意義についてレポートにまとめることができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	教育課程と特別活動：教育課程における特別活動の位置づけ（学習指導要領に見る歴史的変遷を知る。）	
2	特別活動とは何か①：特別活動の今日的意義と目的論（自己実現等について理解する。）	
3	特別活動とは何か②：小中高等学校における特別活動の領域（各活動と内容について理解する。）	
4	学級活動・ホーム：小中学校の学級活動と高校のホームルーム活動（内容と展開の方法について理解する。）	
5	児童会・生徒会活動：小学校の児童会活動と中高校の生徒会活動（内容と展開の方法について理解する。）＋小学校のクラブ活動	
6	小中高等学校における学校行事（行事の種類と内容について理解する。）	
7	体育的行事におけるジェンダー教育：運動会の種目（種目によって男女別になっていたことについて考える。）	
8	学習のまとめとレポート（学習を振る返りながら特別活動の意義について再考し、レポート作成する。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	特別活動の各領域の目標や内容を理解している。	レポート	30	特別活動の意義について自分なりに考えている。
討論	30	グループ討論で考えを述べたり、討論の進行に寄与したりしている。	授業態度	10	積極的に授業に参加している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について資料等を読んで予習する。(30分) 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中学校の頃の学校生活で、なぜ、特別活動が楽しかった思い出として残っているのかを考えながら学んでほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説特別活動編、文部科学省、2017年、ISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。

授業科目名	道徳教育指導論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
道徳教育の重要性が叫ばれている。新学習指導要領において道徳の時間が「特別の教科　道徳」になり、「考え、議論する道徳」の授業が求められている。道徳は人間としてどうよりよく生きるか子どもたち一人一人が考え議論しながらそれぞれに自分らしい生き方を目指していくよう育むことが重要である。そこで本科目では、道徳教育とは何か、道徳性はどのように発達するか、道徳教育がどのように行われてきたか諸外国の例も参考にして考える。また、現在、どのような道徳教育が行われているかについて考え、議論する授業を目指す。そして、終盤では多様な道徳授業についても探究する。	①道徳教育とは何か：道徳教育の今日的意義と重要性について理解している。 ②心の成長と道徳性の発達：心の成長とはどういうことなのか、道徳の意味内容と道徳性の発達とはどういうことなのかについて理解している。 ③道徳教育の歴史：道徳教育はどのように行われてきたか、歴史的な観点から理解している。 ④現在の道徳教育：現在の道徳教育がどのように行われているか様々な観点から考えることができる。 ⑤多様な道徳授業：多様な道徳授業について具体例をもとに自分なりに考えることができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要と評価方法について知る。）／道徳教育とは何か（道徳教育の本質について考える。）	
2	道徳教育の意義（日本社会に求められる人間像と道徳教育の必要性についてテキストをもとに考える。）	
3	道徳性の発達（道徳性はどのように発達するか、ピアジェとコールバーグの理論について知る。）	
4	道徳教育の歴史①（明治時代の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
5	道徳教育の歴史②（大正時代、昭和時代戦前までの道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
6	道徳教育の歴史③（昭和時代戦後の道徳教育についてテキストをもとに考える。）	
7	特別の教科　道徳①（学校における道徳教育の基本的押さえについて知る。）	
8	特別の教科　道徳②（道徳の特質と内容についてテキストをもとに考えながら実際の教材について知る。）	
9	特別の教科　道徳の指導過程（道徳の指導過程について学習指導案をもとに考える。）	
10	特別の教科　道徳の指導方法（道徳指導におけるさまざまな方法にテキストや解説「道徳編」をもとに知る。）	
11	道徳の授業の実際（小学校の道徳の授業でどのように考え議論する道徳が行われているか知る。）	
12	幼・小・中連携による道徳教育（異年齢の子供同士の交流で育まれる道徳性について考える。）	
13	外国の道徳教育（アメリカ、ドイツ、韓国から１つ選んで資料を読み自分なりに考えて議論する）	
14	多様な道徳授業の探究①（対話を促す道徳授業について中学校の授業例をもとに考える。）	
15	多様な道徳授業の探究②（デジタル道徳教材の開発と道徳授業について資料や自身の経験から考える）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
ミニッツコメント	20	道徳教育について自分の考えを持っている。	小テスト	15	道徳教育についての基礎的知識を有している。
授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。	定期試験	50	道徳教育についての知識・理解を有している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②各回の授業で配付するワークシート内のミニッツコメントにコメントする。［20分］ ③「特別の教科　道徳」に関し、インターネット検索して調べる。［20分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②小テストの結果について解説する。 ③第15回授業時に定期試験の観点を示す。

受講生に望むこと	自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『自ら学ぶ道徳教育』〔第1版〕，押谷由夫編著，教育情報出版，2021年12月発行，ISBN978-4-909378-40-8
指定図書／参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-908255-35-9，『中学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編』，文部科学省，2017年告示，ISBN978-4-316-30084-9　※小学校、中学校いずれかで可／なし	その他・特記事項	小レポート課題はClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

小学校や中学校の道徳科の授業を動画記録して視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。

授業科目名	教育課程編成論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫・川真田　早苗　（代表教員　村井　万寿夫）						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
学校（小学校、中学校、高等学校）は子どもたちに何を教え、子どもたちは何を学ぶのか。この「何を」に当たるものが小学校、中学校、高等学校の教育課程（カリキュラム）である。そこで、本科目においては、教育課程の概念と構造、学習指導要領の歴史的変遷と教育課程、教育課程編成の方法、小学校、中学校、高等学校それぞれの教育課程編成の実際、教科と教科外活動の教育課程、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、カリキュラム評価などについて学ぶ。これらを通して小学校、中学校、高等学校の教育課程についての理解を深める。	①教育課程：教育課程の概念と構造や学習指導要領をもとに、小学校、中学校、高等学校の教育課程について理解することができる。 ②学習指導要領の変遷：我が国最初の学習指導要領から最新の学習指導要領の変遷を概観し、現在の「令和の日本型教育」が目指す教育について知る。 ③教育課程の編成：小学校、中学校、高等学校における教育課程編成の方法と実際について理解することができる。 ④教育課程のマネジメント：カリキュラム・マネジメントの理論と実際及びカリキュラム評価について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業計画と評価の方法について知る）／教育課程（教育課程（カリキュラム）について知り、カリキュラムの構造と類型について理解する。）	村井、川真田
2	教育課程行政（教育課程行政の構造や法体系及び教育の目的について理解する。）	川真田
3	学習指導要領の歴史的変遷１（我が国最初の学習指導要領と戦後教育について教科課程と教育課程の面から理解する。）	川真田
4	学習指導要領の歴史的変遷２（学習指導要領の改訂と戦後教育の見直しについて教育内容の現代化から理解する。）	川真田
5	学習指導要領の歴史的変遷３（「新しい学力観」「生きる力」「ゆとり教育」をもとに平成時代の教育課程について理解する。）	川真田
6	学習指導要領の歴史的変遷４（「ゆとり教育」から「確かな学力」へと移った経緯について知り、「令和の日本型教育」を目指していることを理解する。）【レポートA】	川真田
7	教育課程編成の方法（教育課程の意義と教育課程編成の原則及び教育課程編成の手順について理解する。）	川真田
8	学校におけるカリキュラム開発（学校や地域の実態を踏まえたカリキュラム開発の必要性、学習指導要領の記述に見るカリキュラム開発の留意点について理解する。）	村井
9	小学校の教育課程（小学校の教育課程の過去から現在まで通観し、現在の教育課程の内容と特徴について理解する。）	村井
10	中学校・高等学校の教育課程（学校教育法体制下の中学校と高等学校の歩みを通観し、新学習指導要領による中学校と高等学校の教育課程について理解する。）	村井
11	教科と教科外活動の教育課程（教科と教科外の教育課程の特徴をつかみ、教科外の教育課程の内容について理解する。）	村井
12	地域と連携した教育課程編成（従前の学習指導要領をもとに学校と家庭・地域社会の連携による教育課程の重要性について理解する。）【レポートB】	村井
13	カリキュラム・マネジメントの理論（カリキュラム・マネジメントが生まれた背景を知り、カリキュラム・マネジメントの可能性と課題について理解する。）	村井
14	カリキュラム・マネジメントの実際（小学校と中学校における地域連携カリキュラムの取り組みや高等学校における中高一貫教育の取り組みを知る。）	村井
15	カリキュラム評価（カリキュラム評価の意義、対象、方法について理解する。）	村井

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業の到達目標（①～④）を達成している（達成状況：「十分達成している」「概ね達成している」「努力を要する」）。	レポート	30	レポート観点をもとに自己の考えを明解に書いてある。
授業態度	20	積極的に授業に参加している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
次時の授業で取り上げる内容について参考図書等を読んで予習する。(40分) 授業内容の復習をする。（30分）	レポート作成の観点をもとに提出されたレポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校における教科等の学習指導は、各学校において編成する教育課程によって行われていたことについて認識する機会としてほしい。	教科書・テキスト	『教育課程編成論』改訂版、森山賢一編著、学文社、2021年、ISBN978-4-7620-3073-4
指定図書／参考書等	なし／小学校学習指導要領（2017）、中学校学習指導要領（2017）、高等学校学習指導要領（2018）	その他・特記事項	レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

村井：小学校、中学校、高等学校の教育課程に関する資料を収集し、特色ある教育課程やカリキュラム・マネジメントなどを提示して理解を促したり、グループ討論したりしている。
川真田：小学校での研修主任の経験をもとに、教育課程編成の意義や方法及び江戸後期からこれまでの日本の教育及び学習指導要領の変遷について説明し、平成29年学習指導要領のねらいを実現するためにはどのような教育課程を編成するかについてディスカッションを行っている。

授業科目名	教育社会学			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	内田　啓太郎						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
わたしたちの社会において教育は必要なもの、欠かせないものだと思われている。確かに教育のあり方が社会へ大きな影響を与える一方で、社会もまた教育のあり方へ強い影響を与えている。では、教育と社会はお互いどのように結びつき、影響を与える関係であるのか。この授業の目的は、教育にまつわる様々な要素（子ども、教師、制度、集団、労働など）を社会学の考え方を通じて理解することである。	1.教育を構成する諸要素について社会学の考え方から理解する。 2.近代以降の社会において学校教育がどのように制度設計され、実践されてきたのか理解する。 3.わたしたちの社会が抱えている教育問題について社会学の考え方から理解する。 4.わたしたちの社会、特に地域社会のあり方と教育の関わりについて社会学の考え方から理解する。

教授方法	講義
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	イントロダクション：授業の概要と目的、到達目標を理解し、「教育を社会学するとは何か」について学ぶ	
2	学説史①：教育社会学の誕生から「新しい教育社会学」への転換、文化的再生産論の登場まで、主要な学説を学ぶ	
3	学説史②：「新しい教育社会学」以降、現代の社会問題に答える形で登場した主要な学説を学ぶ	
4	階層と教育①：社会における階層の構造と移動について理論・概念と事例から学ぶ	
5	階層と教育②：社会階層の問題を格差問題と捉え、問題発生のプロセスと解決に向けて理論・概念と事例から学ぶ	
6	マイノリティ／ジェンダーと教育：現代社会においてマイノリティが抱える問題、またはジェンダーに起因する問題について理論・概念と事例から学ぶ	
7	教師と子どもの社会学：学校教育または学校現場において教師と子どもの役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
8	ライフコース：ライフコース形成における教育の主要な役割・機能について理論・概念と事例から学ぶ	
9	非行／逸脱と教育問題：教育問題としての非行／逸脱が持つ構造について理論・概念と事例から学ぶ	
10	教育改革：これまで日本社会にて議論され、実施されてきた教育改革について政策と実践の両面よりそのあり方と問題点を学ぶ	
11	学校教育（初等・中等教育）：学校教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
12	高等教育（大学教育）：高等教育の成立と発展の歴史を学び、その構造と問題点についても学ぶ	
13	労働市場へのトランジション：日本社会の雇用慣行・市場に対して教育（特に高等教育）があたえる影響について理論・概念と事例から学ぶ	
14	教育と経済：「社会と経済」の視点から学校教育および高等教育が抱える問題点について理論・概念と事例から学ぶ	
15	全体のまとめ：今学期の授業を振り返り、「教育を社会学するとは何か」について再考する	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	授業の到達目標および内容をふまえつつ、設問に対する自らの考えを論理的な解答としてまとめることができるか評価する。	授業への参加態度	30	毎回の授業で提出するリアクションペーパーの提出状況およびその内容を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
1．教科書の該当する範囲を事前に公開、配布する資料とあわせて読む［45分］ 2．授業中の解説を配布資料や自分で取ったノートとあわせて読む。［45分］	授業に関する質問および期末レポートの講評などを対面またはオンラインで集約したうえで、受講者全体と共有する。

受講生に望むこと	教育は日常生活や人生のさまざまな場面において、わたしたちの誰もが関わりを持ちます。受講生の皆さんへは、自分がこれまで受けたきた、また今受けている教育に関心を持ちつつ、わたしたちの社会が抱えている教育問題に対し、社会学の考え方を学び、その解決に向かおうという積極性を望みます。	教科書・テキスト	酒井朗・中村高康・多賀太編『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房，2012年、ISBN 9784623062935
指定図書／参考書等	（参考書）相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子『これからの教育社会学』有斐閣，2023年、ISBN 9784641200036 （参考書）中村高康・松岡亮二編『現場で使える教育社会学』ミネルヴァ書房，2021年、ISBN 9784623092604	その他・特記事項	毎回の授業資料（スライド／レジュメ）はオンラインで公開します（印刷物を配布しません）。資料の閲覧、ノートテイキングのためChromebookを持参することを推奨します。

実務経験を活かした授業の概要

授業科目名	発達心理学			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	齊藤　英俊						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。	①発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 ②生涯における心身の発達について答えられる。 ③各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 ④発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。

教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。	
2	「発達」を考える①：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。	
3	「発達」を考える②：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。	
4	胎児期～乳児期①：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。	
5	胎児期～乳児期②：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。	
6	胎児期～乳児期③：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着（アタッチメント）」について考える。	
7	幼児期①：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。	
8	幼児期②：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。	
9	幼児期③：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。	
10	児童期①：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。	
11	児童期②：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子どもの「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。	
12	児童期③：子どもはどのように物事を捉え、思考していくのだろうか。児童期の認知発達について考える。	
13	青年期：青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。また、「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性（アイデンティティ）」について考える。	
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。	
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
各回の授業レポート	20	講義内容に対する意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。	ブックレポート	20	発達心理学に関連する文献の概要をまとめ、内容について論理的に考察されているかが評価基準となる。
定期試験	60	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の該当する箇所を読んでおく。[30分] ②授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分] ③発達心理学の下位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。[60分]	①毎回の授業レポートについては、対面授業時に内容に関する振り返りを行う。 ②定期試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応する。

受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望む。	教科書・テキスト	坂上裕子・山口智子・林 創 ・中間玲子（2024）．『問いからはじめる発達心理学　改訂版』 有斐閣　ISBN: 978-4641151291
指定図書／参考書等	なし／本郷一夫・飯島典子編（2019）．『保育の心理学』　建帛社　ISBN：978-4767950914、若尾良徳・岡部康成(2010)．『発達心理学で読み解く保育エピソード』　北樹出版　ISBN：978-4779302510、岡本祐子・深瀬裕子編(2013)．『エピソードでつかむ生涯発達心理学』　ミネルヴァ書房 2013年　ISBN: 978-4623065318、伊藤亜矢子編(2011)．『エピソードでつかむ児童心理学』　ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623058259	その他・特記事項	Google Classroomを通じて課題などを提示する場合がある。

実務経験を活かした授業の概要

スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。

授業科目名	特別支援教育論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	谷　昌代・ポーター　倫子・田中　早苗　（代表教員　谷　昌代）						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
本科目では、個々の成長過程やボランティア活動での体験、またはビデオ映像を通じて、「なぜ？」という問いを積み重ねながら、障害について深く理解することを目指す。特に、異なる人を受け入れる寛容さを養い、子どもたちから学ぼうとする姿勢が、支援方法を見つける手立てとなることを知る。また、保育者や教師が陥りがちな障害に対する誤解や不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性についても学ぶ。「その人理解」を深めるためには、乳幼児期から成人までの長期的な視点と、集団生活や家庭といった環境の総合的な視点が重要であることを理解する。 ※SDGs目標番号3、4関連科目	①通常学級にも在籍している特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。②発達障害者支援法によって国が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐる今日的状況を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。③発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。④合理的配慮の概念について理解し、自閉症スペクトラム障害・注意欠如多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考えることができる。⑤特別な支援を必要とする児・者と共に生活する親や家族、更に保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家庭支援やピアサポートについて理解している。⑥特別支援教育の制度の実際を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えた理解につなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。⑦障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。

教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク
履修条件	なし

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション 視覚障害・聴覚障害・病弱等を含む様々な障害や発達障害等、見えにくい障害に起因する生き辛さ、困難さについて事例から考える。発達障害の特性の一つである感覚過敏を知り、保育、教育現場における実際の支援（「食」に関することを含む生活場面等）の在り方を考える。	谷
2	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校（保育者・教員・栄養教諭・養護教諭等職員）と家庭との連携の意味を考える。	谷
3	特別支援に関する教育課程の枠組みを踏まえ、発達障害児等の事例を分析し、個別指導計画及び支援計画について考える。	谷
4	学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間連携について考える。	谷
5	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。	谷
6	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。	谷
7	自閉症スペクトラム障害①：コミュニケーションの障害とは何か、語用論について考える。	ポーター
8	自閉症スペクトラム障害②：興味の偏りと発達の凸凹がもたらす困難について考える。	ポーター
9	注意欠如多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。	田中
10	「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか、大人にとって「都合がいい」ことを目標にしていないだろうか、考える。	田中
11	学習障害：生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。通級による指導及び自立活動に向けた指導と関連付けて考える。	田中
12	二次障害：過剰適応からのウツと不登校問題を中心に考える。さらに、当事者の自立支援について考えていく。	田中
13	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。	ポーター
14	障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐる現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。	ポーター
15	インクルーシブ教育は、障害をもつ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人々が享受する教育理念であることを理解する。	谷

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	40	①用語・基本的概念の理解 ②事例・エピソードからの読み取り 配慮・支援についての理解	ミニレポート課題	30	①課題レポートは適切な資料によって調べられている。②背景や理由を考え、自分なりに理解につなげている。
授業内ワーク（授業参加態度）	30	応答シートに授業への関心、質問、深まり等、自分なりの考えを記している。			

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①障害、発達、言葉、コミュニケーションに関する用語、基本概念について調べる。［30～60分程度］ ②支援に関わる法律や制度について調べる。［30～40分程度］ ③配布資料から障害をめぐる諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。［30～60分程度］	①課題が提示された場合、適切な参考資料に基づいて作成し、丁寧に仕上げること。 ②返却されたミニレポートは授業で得る理解を受けて適宜補完し、自身の理解の深まりに反映させること。 ミニレポートや授業内ワークに記された関心・質問については、次回以降の授業内容にて対応する。

受講生に望むこと	障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意する。	教科書・テキスト	授業内にて適宜資料を配布する。
指定図書／参考書等	なし　/　『特別支援教育』松浪健四郎　藤田主一　三好仁司　監修 齊藤雅英　宇部弘子　他編集　2021年　中山書店 ISBN978-4-521-74890‐0C3037 『よくわかる障害児保育』尾崎康子・小林真　他編　2010年　ミネルヴァ書房 ISBN978- 4-623-05703-0C3336 他	その他・特記事項	①授業外課題であるミニレポート及び授業内配布資料、ワークシート等は、各自ファイル等に綴り管理すること。欠席時の配布物等を取りに来て、自己学習することを勧める。 ②授業または課題をclassroomに投稿し、参加、提出を求めることがある。

実務経験を活かした授業の概要

谷：保育の現場で関わってきた気になる子どもたちの姿や発達障害児の事例を紹介し、当該児の見え方や感じ方、支援について考え、多様な子どもたちと実践的に関わっていくための理解を深める。

授業科目名	教育の方法・技術（幼栄）			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
「子どもは環境で育つ」と言われます。そして、環境はヒト・モノ・コトに大別することができます。これらは子どもの育てるための方法、すなわち、教育の方法にもなります。そこで、幼児や児童に対する教育方法について、物的環境、人的環境、社会的環境、さらにICT環境から学びます。。履修生は幼稚園教諭、栄養教諭の免許状取得を希望する学生なので、幼稚園や小学校の子どもたちの教育の方法や技術について理論だけでなく、実際に教材を作ってみましょう。とりわけ、幼稚園や小学校ではICTを活用した教育の方法も見られるので、履修生自らがICTを使って教材を作ることにもチャレンジしてみましょう。	①子どもの学びの場の始まりとしての幼稚園の教育方法の基礎理論や歴史について理解している。 ②子どもの育ちにはさまざまな環境が影響することを理解している。 ③「生きる力」「主体的・対話的で深い学び」について理解している。 ④アフォーダンスやシグニファイアの理論を用いて手作り教材を考えることができる。 ⑤ICTを活用した幼児教育、食に関する教育の教材を作成することができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要、到達目標、授業計画、評価計画、使用テキスト）／２つの学科が一緒に学ぶ理由（本科目では、幼児期と児童期の子どもを対象とする。子どもの育ちには「幼児教育」とともに「食に関する教育」も重要である。これらのことを共通理解する。）	
2	幼稚園の目的（現代的な幼児教育を作り出したことで有名なフレーベルの教育思想と教育方法について学び、フレーベルが使った幼稚園の目的について理解する。）	
3	幼稚園教育の方法（日本における幼稚園教育の方法である「環境を通して行う教育」の考え方について理解する。）	
4	子どもとモノとの関係（子どもが周囲のさまざまなモノと適切に関われるよう、子どもとモノlとの関係に焦点化して考える。）	
5	「環境」とは何か（子どもの経験を理解するためのアフォーダンス、環境との関わり方を示すためのシグニファイアについて知り、手作りのアフォーダンス教材、シグニファイア教材を考える。）	
6	手作り教材の作成と紹介（前時で考えたアフォーダンス教材、または、シグニファイア教材を作成し、お互いに見合う。）	
7	子どもの育ちと社会的環境（子どもの周囲にある社会的環境に着目し、地域社会を中心とした子どもの育ちについて考える。）	
8	「生きる力」とカリキュラム・マネジメント（幼稚園教育と「生きる力」、食に関する指導と「生きる力」について考え、そのための方法としてのカリキュラム・マネジメントについて知る。）	
9	「主体的・対話的で深い学び」（幼稚園教育における「主体的・対話的で深い学び」、食に関する指導における「主体的・対話的で深い学び」について考える。）	
10	ICTの活用（幼稚園や小学校におけるICT活用の意義について考える。）	
11	情報活用能力の必要性（情報社会の進展に主体的に対応できる子どもを育むためのあり方について考える。）	
12	教材の計画（ICTを活用した幼児教育、食に関する授業のための教材をフラッシュ型教材の観点から計画する。）	
13	教材の作成（計画に基づきフラッシュ型教材を作成し、完成させる。）	
14	教材発表会（フラッシュ型教材を完成させ、お互いに見合う。）	
15	学習のまとめとレポート（これまで学んだ内容の要点を整理し、レポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	教育の方法や技術について理解している。	教材作成A	20	フラッシュ型教材の要件に合う教材を作成している。
教材作成B	30	教育の方法や技術についての知識を有し、自分なりの考えを持っている。	授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。［30分］ ②幼稚園や小学校の教育方法に関しインターネット等で調べる。［30分］	①小レポートについての質問に応じる。 ②作成した教材について講評する。

受講生に望むこと	幼稚園、小学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	『幼児教育・保育のための教育方法論』，垂見直樹・池田竜介編著，ミネルヴァ書房，2021年出版，ISBN978-4-623-09091-4
指定図書／参考書等	なし／『幼稚園教育要領解説』文部科学省2018年，ISBN978-4-577-81447-5、『小学校学習指導要領』文部科学省2017年,ISBN978-4-491-03460-7	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材（写真、動画、資料収集）して提示し、各校種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。

授業科目名	総合的な学習の時間の指導法			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	村井　万寿夫						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
総合的な学習の時間の時間の創設の経緯を知り、目標について考えながら、実践例によって総合的な学習の時間の意義について考える。その過程で自己の経験を思い出しながら意見交換し、現在における総合的な学習の時間の課題について考える。このような授業を総合的な学習の時間の目標に照らし、自己の学びの目標を設定したり、事例を調べて考えたことをグループで話し合ったりレポートしたりすることで、総合的な学習の時間の目標や意義を体得する。	①この授業における自己の学びの目標を設定し、見通しを持って、調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。 ②「総合的な学習（探究）の時間」の全体計画や年間指導計画の例を総合的な学習の時間の目標に照らして考え、議論することができる。 ③自己の学びの過程を振り返り、レポートにまとめることができる。

教授方法	講義・演習
履修条件	栄養教諭一種免許状取得を希望する者に限る。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業の概要・目標・授業計画・評価方法）／総合的な学習の時間の創設（総合的な学習の時間が創設された経緯について知る。）	
2	総合的な学習の時間の変遷（創設後の総合的な学習の時間の取り組みと当時の課題を知り、第１次改訂、第２次改訂の趣旨をもとに総合的な学習（探究）の時間の意義について考える。）	
3	総合的な学習の時間の学習経験（自己が小中高等学校のときの総合的な学習の時間の学習経験を思い出し、グループで各々の経験を紹介し合う。）	
4	総合的な学習の時間の計画（現在の小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間の全体計画や年間指導計画の考え方を理解する。）	
5	総合的な学習の時間の実践例１（小学校の総合的な学習の時間の実践例を共通資料として読み調べ、感想等について話し合う。）	
6	総合的な学習の時間の実践例２（小中高等学校の総合的な学習（探究）の時間のいくつかの実践例から選択して読み調べ、自分なりに考える。）	
7	グループ討論（調べて考えたことをグループで紹介し合い、話し合う。）	
8	学習のまとめとレポート（学習のまとめを行い、その内容をレポートする。）	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
学習目標設定	15	自己の学びの設定を具体的にしてある。	小レポート	45	授業の過程でグループで話し合ったことをもとに書いてある。
期末レポート	30	自己の学びの過程を振り返って書いてある。	授業態度	10	積極的に授業に臨んでいる。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業で終末に、次時までに考えたり調べてきてほしいことの指示に対して事前学習する。［30分］ ③何回の授業の終末に、本時の感想（小レポート）を求めるので解決してclassroomに提出する。［30分］	①提出された小レポートについて講評する。 ②提出された期末レポートについて講評する。

受講生に望むこと	小中高等学校において「どのような総合的な学習の時間の学習が行われていたか」の意識で受講してほしい。	教科書・テキスト	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、文部科学省、ISBN978-4-491-03469-0
指定図書／参考書等	なし／なし	その他・特記事項	小レポートはClassroomに投稿して提出する。

実務経験を活かした授業の概要

総合的な学習の時間の指導経験があり、その取り組みがいくつかの書籍に事例として掲載されていることから、書籍内容を通して本来求められている総合的な学習の時間の学習を紹介し、深い理解に繋げる。

授業科目名	生徒指導論			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	石上　佐知子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動であり、学校種に応じた生徒指導を教師間で進めていくことが求められている。また、生徒指導は学校の教育目標を達成する上で重要な機能を果たすものであり、学習指導と並んで学校教育において重要な意義を持つ。これらのことを理解したのちに、生徒指導上の課題を「いじめ問題」「不登校」「SNS利用」の観点から現状を把握するとともに児童生徒にとってどのような対応がよいかについて主体的に考える。さらに、生徒指導における法とその扱いの難しさについて理解する。以上のことを通して、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の重要性について学ぶ。	①生徒指導の意義と役割：生徒指導の意義や役割、目的を理解するとともに、生徒指導の３機能及び生徒指導と教育相談の関係について理解している。 ②教育課程と生徒指導：各教科、教科外活動における生徒指導の意義について理解している。 ③生徒指導の方法：集団指導と個別指導の方法原理について理解し、学級担任や教科担任の役割や連携について考えることができる。 ④いじめ問題と生徒指導：いじめの定義や認知件数と課題及び対応の在り方について考えることができる。 ⑤不登校と生徒指導：不登校の変遷をもとに児童生徒の心理を考えたり、どのような支援や対応が必要か考えたりすることができる。 ⑥インターネット社会における生徒指導：児童生徒のスマートフォンの所持率をもとにSNS利用の実態や性被害について理解することができる。 ⑦生徒指導と法：学校の規則である校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒（停学・退学）などの内容について理解することができる。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状の取得を希望する者。

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を通観し評価方法について理解する）／生徒指導の意義と役割（生徒指導の意義や役割、目的、生徒指導の３機能について知り、教育相談との関係を理解する。）	
2	教育課程と生徒指導（生徒指導は各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、高校においては総合的な探究の時間、特別活動、すべての教育課程において機能することが求められることを理解する。）	
3	生徒指導の方法（集団指導と個別指導の方法原理について「成長を促す指導」「予防的な指導」「課題解決的な指導」から理解し、学級担任・教科担任の役割や教師間の連携について考える。）	
4	いじめ問題と生徒指導（いじめ問題と生徒指導：いじめの定義と認知件数について知り、社会に影響を与えたいくつかのいじめ事件をもとにケース分類し、ケースごとの対応について考える。）	
5	不登校問題と生徒指導（登校問題と生徒指導：不登校の概念とその変遷について知り、不登校になるきっかけをいくつかに分類し、きっかけの種類ごとの対応について考える。）	
6	インターネット社会における生徒指導（インターネット普及に伴う小中高校生のスマートフォン所持率及びSNS利用の実態や性被害について知るとともに、よりよい対応について考える。）	
7	生徒指導と法および「連携」の重要性（校則について考え、学校教育法における体罰や懲戒、高等学校においては停学・退学などの内容について理解するとともに、チームで取り組む生徒指導の重要性について考える。）	
8	（前半45分間）第１回～７回の学修を振り返り、生徒指導に対する考えをまとめる。	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
グループ討論	15	積極的に参加したり、議論の深まりに寄与したりしている。	小レポート	20	観点に基づき自己の考えを明解に書き表している。
授業態度	15	授業に積極的に参加している。振り返りシートに考えを書いている。	テスト	50	生徒指導についての知識・理解を有し、生徒指導に対する考えを表現している。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] ②授業の「振り返り」を記入し提出する。[10分] ③学修のPDCAサイクルを踏まえたノートテイクや記録作成[20分] ④「生徒指導提要」を読む。[30分]	①レポートの観点や質問に応じる。 ②グループワークを行う際にはテーマや観点を示す。 ③テスト（第8回）の観点について事前に示す。

受講生に望むこと	①毎回の授業における学びの記録を、自分なりのノートテイク等を通して主体的に作成する。 ②毎回の授業で学ぶ内容について、自分が教師だったらの視点で考える。	教科書・テキスト	『生徒指導・進路指導の理論と方法』、会沢信彦・渡部昌平編著、北樹出版、2021年、ISBN978-4-7793-0648-8
指定図書／参考書等	なし/「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）※授業内でQRコードを提示する。	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

公立小中学校において教諭及び管理職の立場から、「チーム学校」として生徒指導・支援に取り組んだ経験を生かし、学校現場における課題や実践事例を交えて授業を行う

授業科目名	学校栄養指導論Ⅰ			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	三田　陽子・畑山　千春　（代表教員　三田　陽子）						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教諭は管理栄養士・栄養士免許を持ち、教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ職員として、学校で食育推進の中核的な役割を担うことを期待されている。本授業では、食に関する指導と学校給食の管理を一体的に展開し、学校給食を「生きた教材」として活用した効果的な指導を行うために必要な知識や技術を学ぶ。特に食に関する指導の方法については、指導案作成の手順に基づき教材作成も含め演習を通して学ぶ。発表と相互評価も行い、作成から実施、評価の方法への考察を深める。	①栄養教諭制度の概要と関連法規を理解している。 ②栄養教諭の職務内容を説明できる。 ③（学校給食の管理）栄養管理、衛生管理、物品管理を理解している。 ④（食に関する指導）給食の時間をはじめ、体育科、家庭科及び特別活動の時間、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な時間と指導内容との関わりを理解している。 ⑤食に関する指導の全体計画作成とその展開の学びを通して「生きた教材」としての給食の意義を理解している。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許状取得を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	栄養教諭誕生の背景と意義	三田
2	児童・生徒への食に関する指導の現状と課題	三田
3	日本及び世界の食文化と歴史、学校給食の歴史と意義	三田
4	学校組織と栄養教諭の位置づけ及び役割	畑山
5	食に関する指導の全体計画（作成の必要性、作成の手順、評価）	畑山
6	給食の時間における食に関する指導	畑山
7	教科における食に関する指導（生活科、家庭科、技術・家庭科（家庭分野））	畑山
8	教科における食に関する指導（体育科、保健体育科、保健）	畑山
9	教科における食に関する指導（総合的な学習の時間、特別活動、社会科、理科、道徳）	畑山
10	学校・家庭または学校・地域と連携した食に関する指導（食物アレルギーや肥満傾向などの個別指導を含む）	畑山
11	食に関する指導とその方法　演習①指導案作成	畑山・三田
12	食に関する指導とその方法　演習②指導案完成	畑山・三田
13	食に関する指導とその方法　演習③教材作成	畑山・三田
14	食に関する指導とその方法　演習④教材完成	畑山・三田
15	食に関する指導とその方法　演習⑤指導案発表、相互評価、まとめ	畑山・三田

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているかを評価する。	演習課題	30	発表の内容と相互評価への参加態度を評価する。
レポート課題	30	①質的量的に適切であるかを評価する。 ②指定期日までの提出について評価する。	授業参加意欲	10	指導案作成・教材作成への意欲を評価する。

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
①講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[20分] ②指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[60分～]	指導案作成や教材作成のサポートをします。 授業に関する質問には随時応じます。

受講生に望むこと	栄養教諭の役割を理解し、学校の場で授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。	教科書・テキスト	『四訂 栄養教諭論 第2版 -理論と実際-』金田雅代著,建帛社,2022年 ,ISBN978-4-7679-2119-8 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東洋館出版社,2018年 ,ISBN978-4491034607 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東山書房,2020年 ,ISBN978-4827815795 『食に関する指導の手引―第二次改訂版―』著作権所有　文部科学省，発行所(株)東山書房，ISBN978-4-8278-1575-7
指定図書／参考書等	なし／『食に関する指導の手引き―第二次改訂版―』文部科学省『栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～』文部科学省	その他・特記事項	なし

実務経験を活かした授業の概要

畑山：教育委員会指導主事の経験から、栄養教諭の職務内容について伝える。また、教科における栄養教諭の関わりについて事例を紹介し、栄養教諭としての在り方や課題についてディスカッションさせる。

授業科目名	学校栄養指導論Ⅱ			開講学科	栄養	必修・選択	自由
担当教員名	相良　多喜子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭一種				

授業の概要	授業の到達目標
栄養教諭一種免許取得のための科目である。「学校教育指導論Ⅰ」の内容を踏まえ、食を通じて健康教育を行う重要性を理解し、食に関する指導（食育）の実践をめざし、その考え方、手法を検討する。学習指導要領や食に関する指導の手引きを踏まえ、栄養教諭が実際に食に関する指導を行う意義、機会、方法を探る。栄養教諭としての役割、専門性を活かし、より望ましい食生活をめざすための指導を企画し、その配慮、技法も追及していく。最終的には模擬授業を実施する。	1．学校における栄養教諭の役割および職務、その専門性を理解する。 2．栄養教諭として、自らの「食に関する指導」が立案できる。 3．模擬授業を通して指導力を身に付ける。

教授方法	講義
履修条件	栄養教諭一種免許を希望する者

授　業　計　画

実施回	授業内容・目標	担当教員
1	食に関する指導の展開・食の指導に関する指導の手引き	
2	学習指導要領・学習指導案	
3	給食の時間における食に関する指導	
4	「家庭科」「生活科」における食に関する指導	
5	「体育科・保健体育科」「総合的な学習の時間」における食に関する指導	
6	「道徳」「特別活動」における食に関する指導	
7	「理科」「社会」における食に関する指導	
8	発達に応じた食に関する指導と食育教材および食生活学習教材	
9	学習指導計画の検討　①学習指導計画（模擬授業の内容）の発表	
10	学習指導計画の検討　②模擬授業の「学習指導案」の作成と修正	
11	模擬授業（1）小学校低学年を対象に指導力を身に付ける	
12	模擬授業（2）小学校高学年を対象に指導力を身に付ける	
13	模擬授業（3）中学生を対象に指導力を身に付ける	
14	模擬授業の評価、振り返り	
15	食に関する指導における個別指導・まとめ	

成績評価方法と基準

評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	発表や模擬授業の取り組み	試験	60	総合評価

授業外における学習（事前・事後学習等）	課題（試験やﾚﾎﾟｰﾄ等）に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ
授業終了後、その単元全体を復習する。［60分］	授業内で適宜フィードバックする。

受講生に望むこと	栄養教諭の実習（栄養教育実習）にも活かせるよう，積極的に取り組んでください。	教科書・テキスト	『四訂 栄養教諭論　第2版-理論と実際-』金田雅代編著,建帛社,2024年,ISBN978-4-7679-2119-8 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東洋館出版社,2018年,ISBN978-4491034607 『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省,東山書房,2020年,ISBN978-4827815795 『食に関する指導の手引-第二次改訂版-』著作権所有　文部科学省,発行所（株）東山書房,ISBN978-4-8278-1575-7
指定図書／参考書等	食に関する指導の手引きー第二次改訂版ー平成31年　文部科学省 健学社版,ISBN978-4-7797-0496-3 『栄養教諭論Ⅱ～実践研究～』金田雅代編著　（建帛社）	その他・特記事項	なし

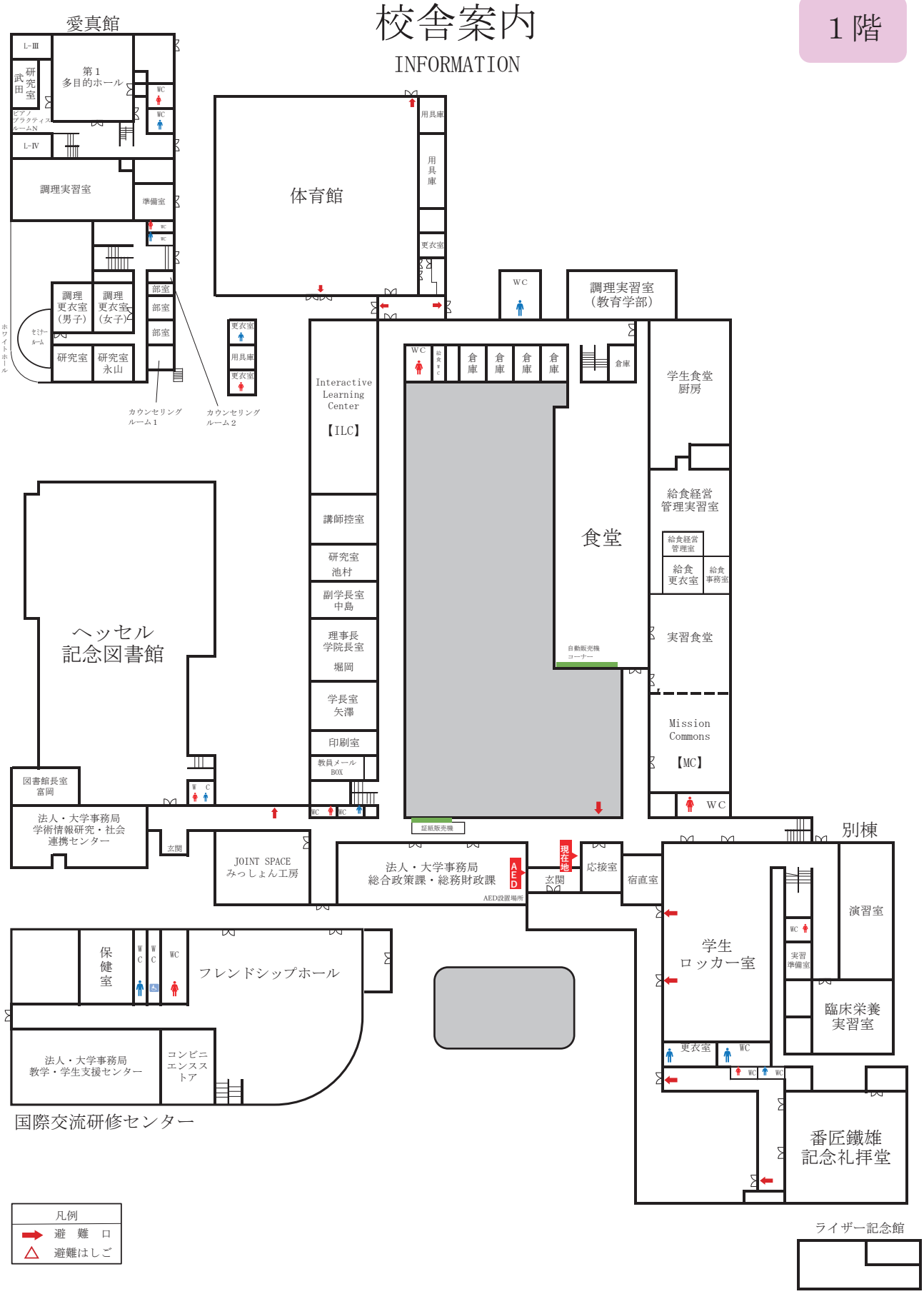
実務経験を活かした授業の概要

なし

校舎案内

INFORMATION

1階



校舎案内
INFORMATION

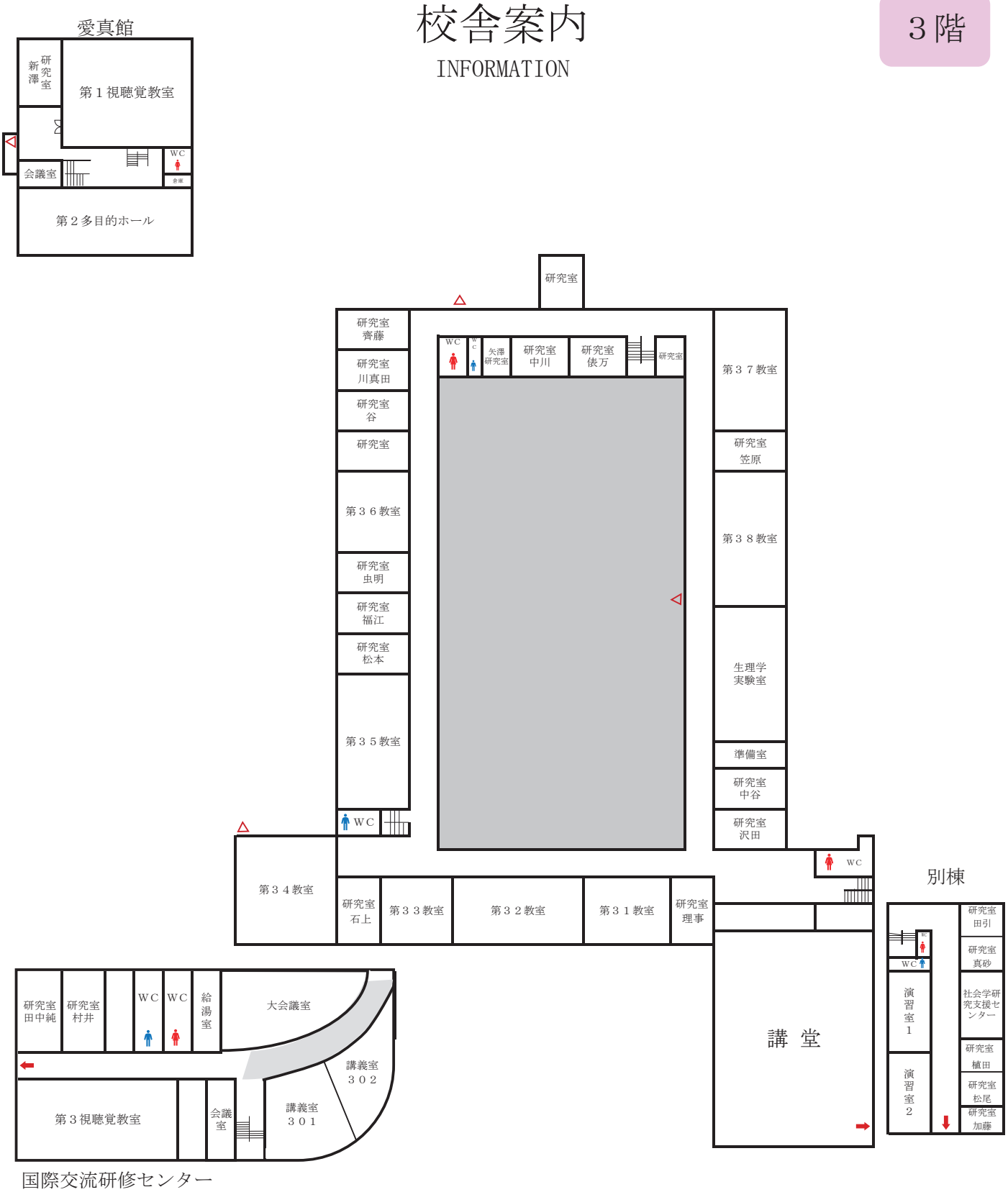
２階

凡例	
➡	避　難　口
△	避難はしご

校舎案内

INFORMATION

３階



凡例

避　難　口

避難はしご

HOKURIKU GAKUIN Univ.
hgu
KANAZAWA JAPAN